

たき さと
滝里遺跡群Ⅷ

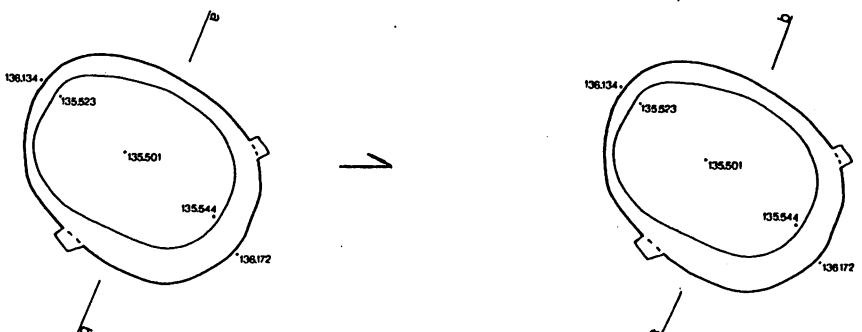
芦別市滝里安井遺跡・滝里4遺跡(3)

——石狩川水系滝里ダム建設事業用地内埋蔵文化財発掘調査——

平成8・9年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

『滝里遺跡群Ⅶ』 正誤表

頁	誤	正
39頁 8行目	北西-南東の	北西-南東
52頁 図IV-27のキャプション	<u>第群</u> 土壌の分布	<u>第Ⅱ群</u> 土壌の分布
<p>54頁 P-10</p> 		
93頁 19行目	調査区 <u>査区</u>	調査区
118頁 8行目	(1~28)	(8~28)

たぎ さと
滝里遺跡群Ⅷ

芦別市滝里安井遺跡・滝里4遺跡(3)

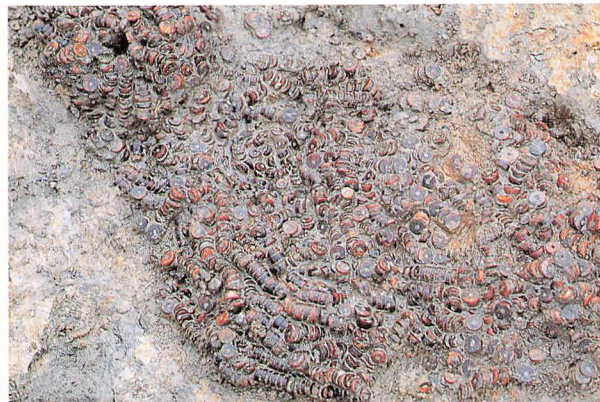
——石狩川水系滝里ダム建設事業用地内埋蔵文化財発掘調査——

平成8・9年度

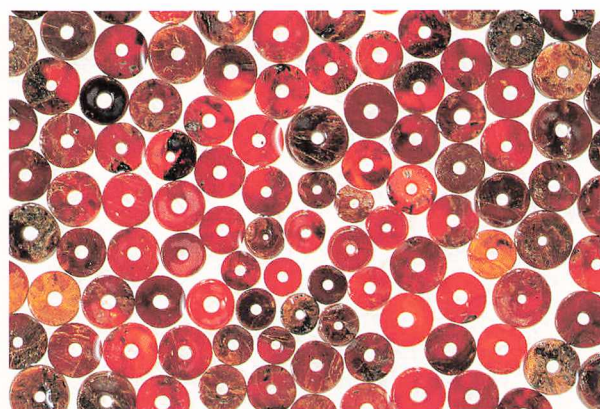
財団法人 北海道埋蔵文化財センター



1. 滝里安井遺跡 P-22遺物出土状況 (E-W)



2. 琥珀玉出土状況 (E-W)



3. 出土した琥珀玉 (水洗後水浸け)



4. P-22の出土遺物



1. 滝里安井遺跡東西セクション (S-N)



2. P-10遺物出土状況 (NW-SE)



3. P-15遺物出土状況 (SW-NE)



4. P-25遺物出土状況 (NW-SE)



5. P-25出土のカンラン岩製玉

6. P-25出土の琥珀玉

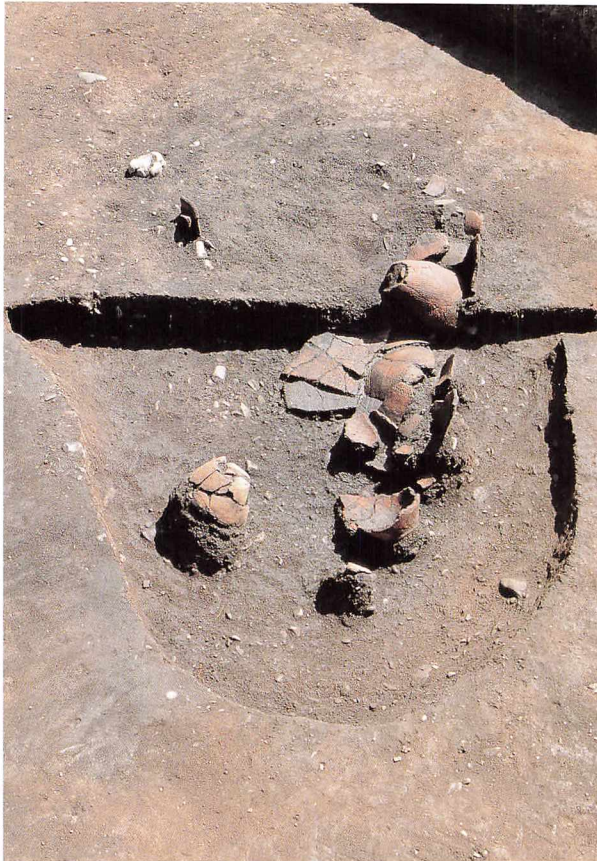


1. 滝里4遺跡遠景 (NW-SE)



2. 滝里4遺跡P-5出土の土器

カラー図版 4



1. 滝里 4 遺跡 P-5 の遺物出土状況 (NW-S E)



2. 南東側琥珀玉出土状況 (W-E)



3. 石器出土状況 (N-S)



4. 北西側琥珀玉



5. 南東側琥珀玉



6. P-7 の遺物出土状況 (W-E)



7. P-9 出土の琥珀玉

例 言

1. 本書は、北海道開発局石狩川開発建設部が行う石狩川水系滝里ダム建設工事に伴い財団法人 北海道埋蔵文化財センターが平成8年度と同9年度に実施した芦別市滝里安井遺跡・滝里4遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査は平成8年度は第1調査部第2調査課が、平成9年度は第1調査部第4調査課が担当した。
3. 本書の執筆は遠藤香澄、村田大、愛場和人、影浦覚、酒井秀治が、全体の編集は遠藤香澄が行った。文責は文末に記載してある。
4. 整理作業の担当は各遺跡、各調査年度ごとに下記のとおりである。

滝里安井遺跡

平成8年度調査地区の土器；遠藤、村田 平成8年度調査地区の石器等；影浦
平成9年度調査地区の土器；遠藤、愛場 平成9年度調査地区の石器等；酒井
遺構；各調査員

滝里4遺跡

土器・石器等；影浦 遺構；影浦、愛場、酒井

5. 現場の写真撮影は各遺跡の担当者が、遺物の撮影は第1調査部第4調査課の職員と第2調査部第1調査課中山昭大が行った。
6. 滝里安井遺跡の残存脂肪酸分析については株式会社ズコーシャに委託した。
7. 滝里安井遺跡の測量、地形図作成、トータルステーションによる遺物の取り上げ、遺物分布図作成、P-22の琥珀玉出土状況の写真測量、また滝里4遺跡の測量、地形図作成は(株)シン技術コンサルに委託した。
8. 動物遺存体の鑑定は早稲田大学の金子浩昌氏に依頼した。
9. 木製品の樹種同定は農林水産省森林総合研究所平川康彦氏の指導のもとで岡本育子が行った。
10. 石質の肉眼鑑定は資料調査課の花岡正光が行った。
11. 土器、石器の実測・トレースは小林晴美、三浦千春、山陰真美、大森佐智子、岡田千秋、三国谷環が行った。また遺構出土の石器の実測・トレースの一部はエーティック環境文化研究所に委託した。
11. 出土資料は調査終了後芦別市教育委員会で保管する。
12. 調査にあたっては下記の諸機関および人々のご協力、ご助言をいただいた。

芦別市教育委員会、芦別市星の降る里百年記念館 長谷山隆博・今 貞子、富良野市郷土館 杉浦重信・澤田 健、帯広百年記念館 北沢 実・山原敏朗、斜里町立知床博物館 松田 功、常呂町教育委員会 武田 修、池田町教育委員会 中村泰広、北海道開拓の村 野村 崇、北海道立文書館 青柳文吉、久慈琥珀博物館 佐々木和久、(財)福島県文化センター 芳賀英一、藤岡市教育委員会 軽部達也、盛岡市教育委員会 神原雄一郎、東京大学 熊木俊朗、芦別滝里会、芦別市 安井幸雄・中村栄治・小西忠夫・合田正義、青木・岩田・中山特定建設工事共同企業体

凡 例

1. 遺構については本文中および図、表中では、次の略号を使用した。

P：土壙・土壙墓 TP：Tピット F：焼土 S：集石 sp：小ピット

2. 遺構図中の○は土器、▲は剥片石器、△は礫石器、●はフレイク、□は礫・礫片、をそれぞれ示している。

3. 掲載した実測図の縮尺は原則として以下のとおりである。

遺 構 1：40 遺物出土状況図 1：20

復元土器および器形を復元した土器拓本 1：3

土器拓本 1：2 土・石製品 1：2

剥片石器 1：2 石斧とその関連の石器 1：2

台石・石皿以外の礫石器 1：3 台石・石皿 1：4

琥珀・カンラン岩製玉 1：1

4. 遺物写真は原則として1：2、任意の縮尺のものは必要に応じてスケールを入れてある。

5. 遺構の規模については次の要領で示した。一部破壊されているものは現存の長さを()で、不明のものは—で示した。

土壙・Tピット

確認面での長軸の長さ×短軸の長さ／底面での長軸の長さ×短軸の長さ／最大の深さ（単位m）

石囲い炉・集石・焼土

確認面での長軸の長さ×短軸の長さ／最大の深さ（単位m）

柱穴状小ピット

確認面での直径×最大の深さ（単位mm）

5. 遺構図中の方位は真北を、細数字は標高（単位m）を示している。

目 次

口絵カラー

例言・凡例・目次

挿図目次

表目次

写真図版目次

I 調査の概要

1. 調査要項…………… 1
2. 調査体制…………… 1
3. 調査に至る経緯…………… 1
4. 調査の概要…………… 2

II 遺跡の位置と環境

1. 位置と環境…………… 7

III 調査の方法

1. 発掘区の設定…………… 9
2. 発掘調査の方法…………… 10
3. 整理の方法…………… 11
 - (1)土器…………… 11
 - (2)石器等…………… 11
4. 遺物の分類…………… 12
 - (1)土器…………… 12
 - (2)石器等…………… 13

IV 滝里安井遺跡の調査

1. 調査の概要…………… 17
2. 基本土層…………… 23
3. 遺構と遺構出土の遺物…………… 27
 - (1)II-B層の遺構と遺物…………… 27
 - 1) 集石…………… 27
 - 2) 焼土…………… 27
 - (2)II-A層の遺構と遺物…………… 32
 - 1) 焼土等…………… 32
 - 2) 集石…………… 33
 - 3) 小柱穴群…………… 33
 - (3)II-1層の遺構と遺物…………… 39
 - 1) 土壌…………… 43
 - i) 単独の土壌…………… 43
 - ii) 第I群土壌群…………… 46

iii) 第Ⅱ群土壙群	51
iv) 第Ⅲ群土壙群	73
2) 石囲い炉	82
3) 集石	84
4) 焼土	84
4. 包含層の遺物	93
(1)平成8年度調査地区の遺物	103
1) 土器	103
i) Ⅱ-B層出土の土器	103
ii) Ⅱ-A層出土の土器	105
iii) Ⅰ・Ⅱ層出土の土器	106
2) 石器等	143
(2)平成9年度調査地区の遺物	157
1) 土器	157
i) Ⅱ-B層出土の土器	157
ii) Ⅱ-A層出土の土器	157
iii) Ⅱ-1層出土の土器	163
2) 石器等	217
i) Ⅱ-B層出土の石器	217
ii) Ⅱ-A層出土の石器	218
iii) Ⅱ-1層出土の石器	219
遺構一覧表・遺物一覧表	235
写真図版	259
V 滝里4遺跡の調査	
1. 調査の概要	371
2. 基本土層	375
3. 遺構と遺構出土の遺物	381
(1)土壙	381
(2)Tピット	394
(3)集石	399
(4)焼土	399
4. 包含層出土の遺物	401
(1)土器	401
1) V層出土の土器	401
2) Ⅰ・Ⅱ層出土の土器	414
(2)石器等	422
遺構一覧表・遺物一覧表	439
写真図版	447
VI 自然科学的分析	
1. 滝里安井遺跡から出土した土壙に残存する脂肪の分析	487

2. II-A層出土の木製品等の樹種同定について	495
Ⅶ まとめ	501
1. 滝里安井遺跡P-22出土の琥珀玉について	501
2. 滝里安井遺跡の土壌と遺物について	505
引用・参考文献	507
報告書抄録	509

挿 図 目 次

Ⅱ 位置と環境			
図Ⅱ-1 滝里遺跡群の位置	8	図Ⅳ-20 P-1出土遺物(2)	42
Ⅲ 調査の方法		図Ⅳ-21 P-22と出土遺物(1)	44
図Ⅲ-1 発掘区設定図	9	図Ⅳ-22 P-22出土遺物(2)	45
Ⅳ 滝里安井遺跡の調査		図Ⅳ-23 第Ⅰ群土壌の分布	46
図Ⅳ-1 遺跡の位置図	19	図Ⅳ-24 P-3・4・5・6と出土遺物	48
図Ⅳ-2 発掘区設定図および旧土地利用図	20	図Ⅳ-25 P-7・8と出土遺物	49
図Ⅳ-3 調査の方法・年度別調査区	21	図Ⅳ-26 P-12・26	50
図Ⅳ-4 遺構位置図と最終地形面	22	図Ⅳ-27 第Ⅱ群土壌の分布	52
図Ⅳ-5 基本土層概念図	23	図Ⅳ-28 P-2・9と出土遺物	52
図Ⅳ-6 土層断面図(1)	24	図Ⅳ-29 P-10と出土遺物(1)	54
図Ⅳ-7 土層断面図(2)	25	図Ⅳ-30 P-10出土遺物(2)	55
図Ⅳ-8 土層断面図(3)	26	図Ⅳ-31 P-11・13・14	56
図Ⅳ-9 II-B層の遺構位置図	28	図Ⅳ-32 P-15	57
図Ⅳ-10 S-3	28	図Ⅳ-33 P-15出土遺物(1)	58
図Ⅳ-11 S-3出土遺物	29	図Ⅳ-34 P-15出土遺物(2)	59
図Ⅳ-12 F-1~10、13~15と出土遺物	31	図Ⅳ-35 P-15出土遺物(3)	60
図Ⅳ-13 II-A層の遺構位置図	34	図Ⅳ-36 P-15出土遺物(4)	61
図Ⅳ-14 F-12、灰集中、S-1・2・4	35	図Ⅳ-37 P-15出土遺物(5)	62
図Ⅳ-15 小柱穴群位置図	36	図Ⅳ-38 P-15出土遺物(6)	63
図Ⅳ-16 小柱穴のセクション	37	図Ⅳ-39 P-16・17・18と出土遺物	65
図Ⅳ-17 旧河道跡出土の木製品と炭化材出土状況	38	図Ⅳ-40 P-19と出土遺物	66
図Ⅳ-18 II-1層の遺構位置図	40	図Ⅳ-41 P-20と出土遺物	67
図Ⅳ-19 P-1と出土遺物(1)	41	図Ⅳ-42 P-21と出土遺物	68
		図Ⅳ-43 P-23・24と出土遺物	70
		図Ⅳ-44 P-24出土遺物(2)	71
		図Ⅳ-45 P-25と出土遺物(1)	72
		図Ⅳ-46 P-25出土遺物(2)	73
		図Ⅳ-47 第Ⅲ群土壌の分布	74
		図Ⅳ-48 P-27と出土遺物	75

図Ⅳ-49	P-28・29と出土遺物	76	図Ⅳ-82	I・II層出土のV群土器(3)	124
図Ⅳ-50	P-30・31・32・33と出土遺物	78	図Ⅳ-83	I・II層出土のV群土器(4)	125
図Ⅳ-51	P-34・35と出土遺物	80	図Ⅳ-84	I・II層出土のV群土器(5)	126
図Ⅳ-52	P-36・37と出土遺物	81	図Ⅳ-85	I・II層出土のV群土器(6)	127
図Ⅳ-53	石囲い炉-1・2・3・4・5・6・7と 出土遺物	83	図Ⅳ-86	I・II層出土のV群土器(7)	128
図Ⅳ-54	S-5・6	84	図Ⅳ-87	I・II層出土のV群土器(8)	129
図Ⅳ-55	焼土の分布	84	図Ⅳ-88	I・II層出土のV群土器(9)	130
図Ⅳ-56	F-18と出土遺物	85	図Ⅳ-89	VI群土器発掘区別口縁部個体数	133
図Ⅳ-57	F-16・17、19~24、37、41、43~ 47	86	図Ⅳ-90	VI群土器の分布(1)	134
図Ⅳ-58	F-25~35・42	88	図Ⅳ-91	VI群土器の分布(2)	135
図Ⅳ-59	F-11、36、38~40、48~50	89	図Ⅳ-92	I・II層出土のVI群土器(1)	136
図Ⅳ-60	包含層出土遺物総数(平成8・9年 年度合計)	94	図Ⅳ-93	I・II層出土のVI群土器(2)	137
図Ⅳ-61	層別遺物平面分布	95	図Ⅳ-94	I・II層出土のVI群土器(3)	138
図Ⅳ-62	層位的遺物垂直分布	97	図Ⅳ-95	I・II層出土のVI群土器(4)	139
図Ⅳ-63	II-B層・II-A層の遺物分布	98	図Ⅳ-96	I・II層出土のVI群土器(5)	140
図Ⅳ-64	II-1層・II層の遺物分布	99	図Ⅳ-97	I・II層出土のVI群土器(6)	141
図Ⅳ-65	包含層出土の土器分布	100	図Ⅳ-98	I・II層出土のVI群土器(7)	142
図Ⅳ-66	II群・III群土器分布	101	図Ⅳ-99	包含層出土の石器(1)	146
図Ⅳ-67	IV群・V群・VI群土器分布	102	図Ⅳ-100	包含層出土の石器(2)	147
図Ⅳ-68	II-B層出土の土器分布	104	図Ⅳ-101	包含層出土の石器(3)	148
図Ⅳ-69	II層出土の土器分布	109	図Ⅳ-102	包含層出土の石器等(4)	149
図Ⅳ-70	II-B層出土のII群土器	110	図Ⅳ-103	包含層出土の石器(5)	150
図Ⅳ-71	II-B層出土のII群・III群土器	111	図Ⅳ-104	包含層出土の石器(6)	151
図Ⅳ-72	II-B層・II-A層出土のII群・III 群土器	112	図Ⅳ-105	包含層出土の石器(7)	152
図Ⅳ-73	II-A層出土のIII群・IV群土器	113	図Ⅳ-106	包含層出土の石器(8)	153
図Ⅳ-74	I・II層出土のII群土器(1)	114	図Ⅳ-107	包含層出土の石器(9)	154
図Ⅳ-75	I・II層出土のII群土器(2)	115	図Ⅳ-108	包含層出土の石器等(10)	155
図Ⅳ-76	I・II層出土のII・III・IV群土器	116	図Ⅳ-109	II層の石器集中と出土遺物	156
図Ⅳ-77	I・II層出土のIV群土器	117	図Ⅳ-110	II-B層出土のI群・II群土器	165
図Ⅳ-78	V群土器発掘区別口縁部個体数	120	図Ⅳ-111	II-A層出土のIII群・IV群土器(1)	166
図Ⅳ-79	V群土器の分布	121	図Ⅳ-112	II-A層出土のIII群・IV群土器(2)	167
図Ⅳ-80	I・II層出土のV群土器(1)	122	図Ⅳ-113	II-A層出土のIV群土器(3)	168
図Ⅳ-81	I・II層出土のV群土器(2)	123	図Ⅳ-114	IV群c類土器出土位置図	169
			図Ⅳ-115	II-A層出土のIV群c類土器(1)	170

図Ⅳ-116 Ⅱ-A層出土のⅣ群c類土器(2)	171	図Ⅳ-146 Ⅱ-1層出土のⅤ群土器(17)	207
図Ⅳ-117 Ⅱ-A層出土のⅣ群c類土器(3)	172	図Ⅳ-147 Ⅱ-1層出土のⅤ群土器(18)	208
図Ⅳ-118 Ⅱ-A層出土のⅣ群c類土器(4)	173	図Ⅳ-148 Ⅱ-1層出土のⅤ群土器(19)	209
図Ⅳ-119 Ⅱ-A層出土のⅣ群b類・c類土 器(5)	174	図Ⅳ-149 Ⅱ-1層出土のⅤ群土器(20)	210
図Ⅳ-120 Ⅱ-A層出土のⅣ群c類土器(6)	175	図Ⅳ-150 Ⅱ-1層出土のⅥ群土器(1)	211
図Ⅳ-121 Ⅱ-A層出土のⅣ群c類土器(7)	176	図Ⅳ-151 Ⅱ-1層出土のⅥ群土器(2)	212
図Ⅳ-122 Ⅱ-A層出土のⅣ群c類土器(8)	177	図Ⅳ-152 Ⅱ-1層出土のⅥ群土器(3)	213
図Ⅳ-123 Ⅱ-A層出土のⅣ群c類土器(9)	178	図Ⅳ-153 Ⅱ-1層出土のⅥ群土器(4)	214
図Ⅳ-124 Ⅱ-1層出土のⅣ群a類土器	179	図Ⅳ-154 Ⅱ-1層出土のⅥ群土器(5)	215
図Ⅳ-125 調査区東端Ⅱ-1層出土の 土器分布.....	180	図Ⅳ-155 Ⅱ-1層出土のⅥ群土器(6)	216
図Ⅳ-126 Ⅱ-1層出土のⅢ群・Ⅳ群土器	181	図Ⅳ-156 包含層の石器分布(1)	222
図Ⅳ-127 Ⅱ-1層出土のⅣ群土器	182	図Ⅳ-157 包含層の石器分布(2)	223
図Ⅳ-128 Ⅴ群土器分布	189	図Ⅳ-158 包含層の石器分布(3)	224
図Ⅳ-129 Ⅵ群土器分布	190	図Ⅳ-159 包含層の石器分布(4)	225
図Ⅳ-130 Ⅱ-1層出土のⅤ群土器(1)	191	図Ⅳ-160 Ⅱ-B層出土の石器(1)	226
図Ⅳ-131 Ⅱ-1層出土のⅤ群土器(2)	192	図Ⅳ-161 Ⅱ-B層出土の石器(2)	227
図Ⅳ-132 Ⅱ-1層出土のⅤ群土器(3)	193	図Ⅳ-162 Ⅱ-A層出土の石器(1)	228
図Ⅳ-133 Ⅱ-1層出土のⅤ群土器(4)	194	図Ⅳ-163 Ⅱ-A層出土の石器等(2)	229
図Ⅳ-134 Ⅱ-1層出土のⅤ群土器(5)	195	図Ⅳ-164 Ⅱ-1層出土の石器(1)	230
図Ⅳ-135 Ⅱ-1層出土のⅤ群土器(6)	196	図Ⅳ-165 Ⅱ-1層出土の石器(2)	231
図Ⅳ-136 Ⅱ-1層出土のⅤ群土器(7)	197	図Ⅳ-166 Ⅱ-1層出土の石器(3)	232
図Ⅳ-137 Ⅱ-1層出土のⅤ群土器(8)	198	図Ⅳ-167 Ⅱ-1層の石斧類集中と出土遺物(1)	233
図Ⅳ-138 Ⅱ-1層出土のⅤ群土器(9)	199	図Ⅳ-168 Ⅱ-1層の石斧類集中出土遺物(2)	234
図Ⅳ-139 Ⅱ-1層出土のⅤ群土器(10)	200		
図Ⅳ-140 Ⅱ-1層出土のⅤ群土器(11)	201	Ⅴ 滝里4遺跡の調査	
図Ⅳ-141 Ⅱ-1層出土のⅤ群土器(12)	203	図Ⅴ-1 遺跡の位置図	372
図Ⅳ-142 Ⅱ-1層出土のⅤ群土器(13)	203	図Ⅴ-2 発掘区設定図	372
図Ⅳ-143 Ⅱ-1層出土のⅤ群土器(14)	204	図Ⅴ-3 調査の方法	373
図Ⅳ-144 Ⅱ-1層出土のⅤ群土器(15)	205	図Ⅴ-4 遺構位置図	374
図Ⅳ-145 Ⅱ-1層出土のⅤ群土器(16)	206	図Ⅴ-5 最終地形面	374
		図Ⅴ-6 基本土層(1)	376
		図Ⅴ-7 基本土層(2)	377
		図Ⅴ-8 基本土層(3)	378
		図Ⅴ-9 遺跡周辺の旧地形	379
		図Ⅴ-10 P-5	382
		図Ⅴ-11 P-5出土遺物(1)	384
		図Ⅴ-12 P-5出土遺物(2)	385
		図Ⅴ-13 P-5出土遺物(3)	386

図V-14	P-5 出土遺物(4) ……………	387	図V-44	包含層出土の石器分布(3) ……………	425
図V-15	P-5 琥珀玉の計測分布(1) ……………	388	図V-45	包含層出土の石器分布(4) ……………	426
図V-16	P-5 琥珀玉の計測分布(2) ……………	389	図V-46	包含層出土の石器(1) ……………	429
図V-17	P-6・P-7と出土遺物 ……………	391	図V-47	包含層出土の石器(2) ……………	430
図V-18	P-8・P-9と出土遺物 ……………	392	図V-48	包含層出土の石器等(3) ……………	431
図V-19	P-10・P-11と出土遺物 ……………	393	図V-49	包含層出土の石器(4) ……………	432
図V-20	Tピット列 ……………	394	図V-50	包含層出土の石器(5) ……………	433
図V-21	TP-6・TP-7 ……………	396	図V-51	包含層出土の石器(6) ……………	434
図V-22	TP-8・TP-9 ……………	397	図V-52	包含層出土の石器(7) ……………	435
図V-23	TP-10・TP-11 ……………	398	図V-53	包含層出土の石器(8) ……………	436
図V-24	S-1 ……………	399	図V-54	包含層出土の石器等(9) ……………	437
図V-25	F-1・2・3 ……………	400			
図V-26	包含層出土の遺物分布 ……………	402	VI章 自然科学的分析		
図V-27	包含層出土の土器の分布(1) ……………	403	VI章-1		
図V-28	包含層出土の土器の分布(2) ……………	404	図1	土壌内外での土壌試料採取地点 ……………	488
図V-29	包含層出土の土器の分布(3) ……………	405	図2	試料中に残存する脂肪の 脂肪酸組成 ……………	489
図V-30	V層出土のI群a類土器(1) ……………	407	図3	試料中に残存する脂肪の ステロール組成 ……………	489
図V-31	V層出土のI群a類土器(2) ……………	408	図4	試料中に残存する脂肪の 脂肪酸組成樹状構造図 ……………	492
図V-32	V層出土のI群a類土器(3) ……………	409	図5	試料中に残存する脂肪の 脂肪酸組成による種特異性相関 ……………	493
図V-33	V層出土のI群a類土器(4) ……………	410	VI章-2		
図V-34	V層出土のI群a類土器(5) ……………	411	図1	試料採取地点と試料 ……………	498
図V-35	V層出土のI群a類土器(6) ……………	412			
図V-36	V層出土のI群a類土器(7) ……………	413	VII章 まとめ		
図V-37	Ⅲ層出土のI群b類・Ⅲ群土器(1) ……………	417	図VII-1	琥珀製平玉の 計測分布(直径、厚さ) ……………	504
図V-38	Ⅲ層出土のⅢ群土器(2) ……………	418	図VII-2	琥珀製平玉の 計測分布(直径、個数) ……………	504
図V-39	Ⅲ層出土のV群・VI群土器(1) ……………	419			
図V-40	Ⅲ層出土のVI群土器(2) ……………	420			
図V-41	Ⅲ層出土のVI群土器(3) ……………	421			
図V-42	包含層出土の石器分布(1) ……………	423			
図V-43	包含層出土の石器分布(2) ……………	424			

表 目 次

I 調査の概要

表I-1	滝里ダム建設工事にかかる埋蔵文化財発掘調査遺跡と年次別調査面積一覧……………	2
表I-2	滝里安井遺跡出土の遺物……………	6
表I-3	滝里4遺跡出土の遺物……………	6

IV 滝里安井遺跡の調査

表Ⅳ-1	出土遺物一覧	17
表Ⅳ-2	Ⅱ-B層の遺構規模一覧	235
表Ⅳ-3	Ⅱ-A層の遺構規模一覧(1)焼土・集石	235
表Ⅳ-4	Ⅱ-A層の遺構規模一覧(2)小柱穴	235
表Ⅳ-5	Ⅱ-1層の遺構規模一覧(1)土壙	235
表Ⅳ-6	Ⅱ-1層の遺構規模一覧(2)石囲い炉・集石・焼土	236
表Ⅳ-7	Ⅱ-B層の遺構出土遺物一覧	237
表Ⅳ-8	Ⅱ-A層の遺構出土遺物一覧	237
表Ⅳ-9	Ⅱ-1層の遺構出土遺物一覧	237
表Ⅳ-10	Ⅱ-B層の遺構出土掲載石器一覧	238
表Ⅳ-11	Ⅱ-A層の遺構出土掲載石器一覧	239
表Ⅳ-12	Ⅱ-1層の遺構出土掲載土器一覧	239
表Ⅳ-13	Ⅱ-1層の遺構出土掲載石器等一覧	239
表Ⅳ-14	包含層出土の土器一覧	244
表Ⅳ-15	包含層出土の石器等一覧	245
表Ⅳ-16	平成8年度調査地区Ⅱ-B層出土の掲載土器一覧	245
表Ⅳ-17	平成8年度調査地区Ⅱ-A層出土の掲載土器一覧	245
表Ⅳ-18	平成8年度調査地区Ⅰ・Ⅱ層出土の掲載土器一覧(1)Ⅱ群・Ⅲ群・Ⅳ群	246
表Ⅳ-19	平成8年度調査地区Ⅰ・Ⅱ層出土の掲載土器一覧(2)Ⅴ群・Ⅵ群	247
表Ⅳ-20	平成8年度調査地区出土の掲載石器等一覧	249
表Ⅳ-21	平成9年度調査地区Ⅱ-B層出土の掲載土器一覧	251
表Ⅳ-22	平成9年度調査地区Ⅱ-A層出土の掲載土器一覧	252
表Ⅳ-23	平成9年度調査地区Ⅱ-1層出土の掲載土器一覧(1)Ⅲ群・Ⅳ群	253
表Ⅳ-24	平成9年度調査地区Ⅱ-1層出土の掲載土器一覧(2)Ⅴ群・Ⅵ群	254
表Ⅳ-25	平成9年度調査地区Ⅱ-B層出土の掲載石器一覧	256
表Ⅳ-26	平成9年度調査地区Ⅱ-A層出土の掲載石器等一覧	257
表Ⅳ-27	平成9年度調査地区Ⅱ-1層出土の掲載石器等一覧	257

V 滝里4遺跡の調査

表Ⅴ-1	出土遺物一覧	371
表Ⅴ-2	遺構規模一覧	439
表Ⅴ-3	遺構出土遺物一覧	439
表Ⅴ-4	遺構出土掲載土器一覧	439
表Ⅴ-5	遺構出土掲載石器等一覧	439
表Ⅴ-6	包含層出土土器一覧	441
表Ⅴ-7	包含層出土石器等一覧	442
表Ⅴ-8	V層出土掲載土器一覧	442
表Ⅴ-9	Ⅰ・Ⅲ層出土掲載土器一覧	443
表Ⅴ-10	包含層出土掲載石器等一覧	444

VI 自然科学的分析

表1 土壌試料の残存脂肪抽出量	488
表2 試料中に分布するコレステロールとシトステロールの割合	489

図 版 目 次

カラー図版1	1. 平成8年度調査区 (N-S)
1. 滝里安井遺跡P-22遺物出土状況 (E-W)	2. 平成9年度調査区 (NE-SW)
2. 琥珀玉出土状況 (E-W)	図版IV-3 基本土層
3. 出土した琥珀玉 (水洗後水浸け)	1. 南北セクション (S-N)
4. P-22の出土遺物	2. 東西セクション (SW-NE)
カラー図版2	図版IV-4 東地区調査状況
1. 滝里安井遺跡東西セクション (S-N)	1. 完掘状況 (N-S)
2. P-10遺物出土状況 (NW-SE)	2. 基本土層 (SE-NW)
3. P-15遺物出土状況 (SW-NE)	図版IV-5 調査状況
4. P-25遺物出土状況 (NW-SE)	1. 調査風景 (SW-NE)
5. P-25出土のカンラン岩製玉	2. 調査風景 (NW-SE)
6. P-25出土の琥珀玉	図版IV-6 P-1の調査
カラー図版3	1. P-1の遺物出土状況 (S-N)
1. 滝里4遺跡遠景 (NW-SE)	2. P-1の完掘 (S-N)
2. 滝里4遺跡P-5出土の土器 (NW-SE)	3. P-1の遺物
カラー図版4	図版IV-7 P-22の調査
1. 滝里4遺跡P-5の遺物出土状況 (NW-SE)	1. P-22の遺物出土状況 (E-W)
2. 南東側琥珀玉出土状況 (W-E)	2. P-22の琥珀玉出土状況
3. 石器出土状況 (N-S)	3. P-22の琥珀製平玉
4. 北西側琥珀玉	4. P-22の遺物
5. 南東側琥珀玉	図版IV-8 I群土壌群の調査(1)
6. P-7の遺物出土状況 (W-E)	1. I群土壌群 (E-W)
7. P-9出土の琥珀玉	2. P-3の完掘 (S-N)
[滝里安井遺跡の調査]	3. P-5の完掘 (W-E)
図版I-1 滝里ダム本体工事遠景.....3	4. P-8の完掘 (S-N)
図版IV-1 遺跡遠景	5. P-12の完掘 (S-N)
1. 遺跡遠景 (N-S)	図版IV-9 I群土壌群の調査(2)
2. 遺跡遠景 (W-E)	1. P-4の完掘 (S-N)
図版IV-2 完掘状況	2. P-6の遺物出土状況 (S-N)
262	3. P-7の遺物出土状況 (E-W)
	4. P-26の遺物出土状況 (SE-NW)
	5. P-3・5・6・8の遺物

図版Ⅳ-10 Ⅱ群土壙群の調査(1) ……………270	5. P-19の石器(台石)
1. P-2の遺物出土状況(S-N)	6. P-19の石器(台石)
2. P-2の遺物	図版Ⅳ-18 Ⅱ群土壙群の調査(9) ……………278
3. P-9の完掘(N-S)	1. P-20の検出状況(E-W)
4. P-11の完掘(E-W)	2. P-20の完掘(S-N)
5. P-13の完掘(W-E)	3. P-20の石器(台石)
6. P-14の完掘(S-N)	4. P-20の土器
図版Ⅳ-11 Ⅱ群土壙群の調査(2) ……………271	5. P-21の遺物出土状況(E-W)
1. P-10の遺物出土状況(NW-SE)	6. P-21の遺物
2. P-10の土器出土状況(N-S)	図版Ⅳ-19 Ⅱ群土壙群の調査(10) ……………279
3. P-10の黒曜石フレイク集中出土状況(W-E)	1. P-23の完掘(S-N)
4. P-10の復元土器(図Ⅳ-29-1)	2. P-23の遺物
5. P-10の石器	3. P-24の遺物出土状況(SE-NW)
図版Ⅳ-12 Ⅱ群土壙群の調査(3) ……………272	4. P-24の完掘(SE-NW)
1. P-10の黒曜石フレイク	5. P-24の石器
図版Ⅳ-13 Ⅱ群土壙群の調査(4) ……………273	6. P-24の土器
1. P-15の検出状況(S-N)	図版Ⅳ-20 Ⅱ群土壙群の調査(11) ……………280
2. P-15の検出面遺物出土状況(S-N)	1. P-25の検出状況(NW-SE)
3. P-15のセクション(S-N)	2. P-25の遺物出土状況(NW-SE)
4. P-15の壁面遺物出土状況(SE-NW)	3. P-25の遺物出土状況(S-N)
5. P-15の壁面遺物出土状況(SE-NW)	4. P-25の土器
6. P-15の完掘(S-N)	5. P-25のカンラン岩製玉
図版Ⅳ-14 Ⅱ群土壙群の調査(5) ……………274	6. P-25の琥珀製玉
1. P-15の遺物(1)	図版Ⅳ-21 Ⅲ群土壙群の調査(1) ……………281
図版Ⅳ-15 Ⅱ群土壙群の調査(6) ……………275	1. P-27の完掘(S-N)
1. P-15の遺物(2)	2. P-27の遺物
図版Ⅳ-16 Ⅱ群土壙群の調査(7) ……………276	3. P-28の遺物出土状況(S-N)
1. P-17の遺物出土状況(N-S)	4. P-28の完掘(S-N)
2. P-17の完掘(S-N)	5. P-29の遺物出土状況(S-N)
3. P-17の遺物	6. P-29の完掘(S-N)
4. P-16の完掘(S-N)	7. P-29の遺物
5. P-18の完掘(SE-NW)	図版Ⅳ-22 Ⅲ群土壙群の調査(2) ……………282
図版Ⅳ-17 Ⅱ群土壙群の調査(8) ……………277	1. P-30の完掘(W-E)
1. P-19の検出状況(E-W)	2. P-30の遺物
2. P-19の完掘(W-E)	3. P-31の検出状況(E-W)
3. P-19の土器・石器(石鏃)	4. P-31の完掘(E-W)
4. P-19の石器(台石)	5. P-31の遺物
	6. P-32の完掘(S-N)
	図版Ⅳ-23 Ⅲ群土壙群の調査(3) ……………283
	1. P-31~33の位置関係(NE-SW)

2. P-33の完掘 (E-W)	
3. P-33の遺物	
4. P-34の完掘 (S-N)	
5. P-34の遺物	
図版IV-24 Ⅲ群土壌群の調査(4) ……………	284
1. P-35と出土遺物 (W-E)	
2. P-36の検出状況 (W-E)	
3. P-36の完掘 (W-E)	
4. P-36の遺物	
図版IV-25 Ⅲ群土壌群の調査(5)と 集石の調査(1) ……………	285
1. P-37の完掘 (S-N)	
2. P-37の遺物	
3. S-1の検出状況 (W-E)	
4. S-1の検出状況 (W-E)	
5. S-2の検出状況 (SW-NE)	
6. S-4の検出状況 (S-N)	
図版IV-26 集石の調査(2) ……………	286
1. S-3の検出状況 (S-N)	
2. S-3の遺物	
図版IV-27 集石の調査(2)と灰集中 ……………	287
1. S-5の検出状況 (S-N)	
2. S-6の検出状況 (W-E)	
3. 灰集中の検出状況 (W-E)	
4. 灰集中のセクション (W-E)	
5. 炭化材の出土状況 (NE-SW)	
6. F-15の遺物	
図版IV-28 石囲い炉の調査(1) ……………	288
1. 石囲い炉1・6・4の位置関係 (W-E)	
2. 石囲い炉1の検出状況 (E-W)	
3. 石囲い炉1の遺物	
4. 石囲い炉4の検出状況 (SW-NE)	
5. 石囲い炉6の検出状況 (S-N)	
図版IV-29 石囲い炉の調査(2) ……………	289
1. 石囲い炉3・2・5の位置関係 (W-E)	
2. 石囲い炉2の検出状況 (N-S)	
3. 石囲い炉3の検出状況 (S-N)	
4. 石囲い炉5の検出状況 (S-N)	
5. 石囲い炉3の遺物	
図版IV-30 石囲い炉の調査(2)と焼土の調査 ……………	290
1. 石囲い炉7の検出状況 (S-N)	
2. F-11の検出状況 (S-N)	
3. F-18のセクション (S-N)	
4. F-18の遺物出土状況 (S-N)	
5. F-18の遺物	
図版IV-31 小柱穴群の調査 ……………	291
1. 小柱穴群 (NW-SE)	
2. HP-32のセクション (S-N)	
3. HP-34のセクション (S-N)	
4. HP-62のセクション (S-N)	
5. HP-79のセクション (S-N)	
図版IV-32 遺物出土状況(1) ……………	292
1. ナイフ類等集中の出土状況 (N-S)	
2. ナイフ類等集中の遺物	
図版IV-33 遺物出土状況(2) ……………	293
1. 土器の出土状況 (S-N)	
2. 石斧類集中の出土状況 (W-E)	
図版IV-34 遺物出土状況(3) ……………	294
1. 石斧類集中の遺物	
図版IV-35 遺物出土状況(4) ……………	295
1. 舟形土器の出土状況 (SW-NE)	
2. 舟形土器の復元 (図IV-80-1)	
3. 耳栓出土状況 (SW-NE)	
4. 耳栓 (図IV-108-138)	
図版IV-36 木製品出土状況 ……………	296
1. 木製品出土状況 (W-E)	
2. 自然木(木根)の検出状況 (SW-NE)	
図版IV-37 平成8年度Ⅱ-B・Ⅱ-A層 出土のⅡ群・Ⅲ群土器 ……………	297
1. 図IV-70-1	
2. 図IV-71-12	
3. 図IV-74-1	
4. Ⅱ-B層出土のⅡ群土器	
図版IV-38 平成8年度Ⅱ-B層出土の Ⅱ群・Ⅲ群土器 ……………	298
1. Ⅱ-B層出土のⅡ群・Ⅲ群土器	

図版Ⅳ-39 平成8年度Ⅱ-B層・Ⅱ-A層 出土のⅡ群・Ⅲ群土器 ……………299	図版Ⅳ-50 平成8年度Ⅰ・Ⅱ層出土の Ⅴ群土器(7) ……………310
1. Ⅱ-B層・Ⅱ-A層出土のⅡ群・Ⅲ群土 器	1. Ⅰ・Ⅱ層出土のⅤ群土器(7)
図版Ⅳ-40 平成8年度Ⅱ-A層出土の Ⅲ群・Ⅳ群土器 ……………300	図版Ⅳ-51 平成8年度Ⅰ・Ⅱ層出土の Ⅴ群土器(8) ……………311
1. Ⅱ-B・Ⅱ-A層出土のⅢ群・Ⅳ群土器	1. Ⅰ・Ⅱ層出土のⅤ群土器(8)
図版Ⅳ-41 平成8年度Ⅰ・Ⅱ層出土の Ⅱ群土器(1) ……………301	図版Ⅳ-52 平成8年度Ⅰ・Ⅱ層出土の Ⅴ群土器(9) ……………312
1. Ⅰ・Ⅱ層出土のⅡ群土器(1)	1. Ⅰ・Ⅱ層出土のⅤ群土器(9)
図版Ⅳ-42 平成8年度Ⅰ・Ⅱ層出土の Ⅱ群土器(2) ……………302	図版Ⅳ-53 平成8年度Ⅰ・Ⅱ層出土の Ⅵ群土器(1) ……………313
1. Ⅰ・Ⅱ層出土のⅡ群土器(2)	1. 図Ⅳ-92-1
図版Ⅳ-43 平成8年度Ⅰ・Ⅱ層出土のⅢ群・ Ⅳ群土器 ……………303	2. 図Ⅳ-92-2
1. Ⅰ・Ⅱ層出土のⅢ群・Ⅳ群土器	3. 図Ⅳ-92-3
図版Ⅳ-44 平成8年度Ⅰ・Ⅱ層出土の Ⅴ群土器(1) ……………304	4. 図Ⅳ-92-4
1. 図Ⅳ-80-1	5. 図Ⅳ-93-5
2. 図Ⅳ-80-2	6. 図Ⅳ-93-6
3. 図Ⅳ-80-3	7. 図Ⅳ-93-7
4. 図Ⅳ-80-4	図版Ⅳ-54 平成8年度Ⅰ・Ⅱ層出土の Ⅵ群土器(2) ……………314
5. 図Ⅳ-80-5	1. 図Ⅳ-93-8
6. 図Ⅳ-80-6	2. 図Ⅳ-93-9
7. 図Ⅳ-80-7	3. Ⅰ・Ⅱ層出土のⅥ群土器
図版Ⅳ-45 平成8年度Ⅰ・Ⅱ層出土の Ⅴ群土器(2) ……………305	図版Ⅳ-55 平成8年度Ⅰ・Ⅱ層出土の Ⅵ群土器(3) ……………315
1. Ⅰ・Ⅱ層出土のⅤ群土器(2)	1. Ⅰ・Ⅱ層出土のⅥ群土器(3)
図版Ⅳ-46 平成8年度Ⅰ・Ⅱ層出土の Ⅴ群土器(3) ……………306	図版Ⅳ-56 平成8年度Ⅰ・Ⅱ層出土の Ⅵ群土器(4) ……………316
1. Ⅰ・Ⅱ層出土のⅤ群土器(3)	1. Ⅰ・Ⅱ層出土のⅥ群土器(4)
図版Ⅳ-47 平成8年度Ⅰ・Ⅱ層出土の Ⅴ群土器(4) ……………307	図版Ⅳ-57 平成8年度Ⅰ・Ⅱ層出土の Ⅵ群土器(5) ……………317
1. Ⅰ・Ⅱ層出土のⅤ群土器(4)	1. Ⅰ・Ⅱ層出土のⅥ群土器(5)
図版Ⅳ-48 平成8年度Ⅰ・Ⅱ層出土の Ⅴ群土器(5) ……………308	図版Ⅳ-58 平成8年度Ⅰ・Ⅱ層出土の Ⅵ群土器(6) ……………318
1. Ⅰ・Ⅱ層出土のⅤ群土器(5)	1. Ⅰ・Ⅱ層出土のⅥ群土器(6)
図版Ⅳ-49 平成8年度Ⅰ・Ⅱ層出土の Ⅴ群土器(6) ……………309	図版Ⅳ-59 平成8年度Ⅰ・Ⅱ層出土の Ⅵ群土器(7) ……………319
1. Ⅰ・Ⅱ層出土のⅤ群土器(6)	1. Ⅰ・Ⅱ層出土のⅥ群土器(7)
	図版Ⅳ-60 平成8年度包含層出土の石器(1) ……………320

1. 包含層出土の石器(石鏃・石槍・つまみ付きナイフ・ナイフ)	8. 図IV-115-38
図版IV-61 平成8年度包含層出土の石器等(2)	9. 図IV-115-39
.....321	図版IV-70 平成9年度II-A層出土のIV群土器(2)330
1. 包含層出土の石器等(スクレイパー・石製品・石斧)	1. 図IV-115-40
図版IV-62 平成8年度包含層出土の石器(3)	2. 図IV-116-41
.....322	3. 図IV-116-42
1. 包含層出土の石器(石斧)	4. 図IV-116-43
図版IV-63 平成8年度包含層出土の石器(4)	5. 図IV-116-44
.....323	6. 図IV-117-45
1. 包含層出土の石器(たたき石・すり石)	7. 図IV-117-46
図版IV-64 平成8年度包含層出土の石器(5)	8. 図IV-117-47
.....324	図版IV-71 平成9年度II-A層・II-1層出土のIV群土器(3)331
1. 包含層出土の石器(すり石)	1. 図IV-118-48
図版IV-65 平成8年度包含層出土の石器(6)	2. 図IV-124-1
.....325	3. II-A層出土のIV群土器
1. 包含層出土の石器(すり石・砥石)	図版IV-72 平成9年度II-B層出土のI群・II群土器332
図版IV-66 平成8年度包含層出土の石器(7)	1. II-B層出土のI群・II群土器
.....326	図版IV-73 平成9年度II-A層出土のIII群(2)・IV群土器(4)333
1. 包含層出土の石器(砥石・加工痕のある礫)	1. II-A層出土のIII群・IV群土器(4)
図版IV-67 平成8年度包含層出土の石器(8)	図版IV-74 平成9年度II-A層出土のIV群土器(5)334
.....327	1. II-A層出土のIV群土器(5)
1. 包含層出土の石器(石皿)	図版IV-75 平成9年度II-A層出土のIV群土器(6)335
2. 包含層出土の石器(石皿)	1. II-A層出土のIV群土器(6)
図版IV-68 平成8年度包含層出土の石器等(9)328	図版IV-76 平成9年度II-A層出土のIV群土器(7)336
1. 包含層出土の石器(石皿)	1. II-A層出土のIV群土器(7)
2. 包含層出土の石器等(棒状原石・土製品・石製品)	図版IV-77 平成9年度II-A層出土のIV群土器(8)337
図版IV-69 平成9年度II-A層出土のIII群(1)・IV群土器(1)329	1. II-A層出土のIV群土器(8)
1. 図IV-111-1 a	図版IV-78 平成9年度II-A層出土のIV群土器(9)338
2. 図IV-111-1 b	1. II-A層出土のIV群土器(9)
3. 図IV-111-2	図版IV-79 平成9年度II-A層出土のIV群土器(10)339
4. 図IV-111-3	
5. 図IV-111-4	
6. 図IV-115-36	
7. 図IV-115-37	

1. II-A層出土のIV群土器(10)	
図版IV-80 平成9年度II-1層出土の III群・IV群土器 ……………	340
1. II-1層出土のIII群・IV群土器	
図版IV-81 平成9年度II-1層出土の IV群土器 ……………	341
1. II-1層出土のIV群土器	
図版IV-82 平成9年度II-1層出土の V群土器(1) ……………	342
1. 図IV-130-1	
2. 図IV-130-2	
3. 図IV-131-4	
4. 図IV-131-3	
5. 図IV-132-5	
6. 図IV-132-6	
図版IV-83 平成9年度II-1層出土の V群土器(2) ……………	343
1. 図IV-133-7	
2. 図IV-133-9	
3. 図IV-133-8	
4. 図IV-134-10	
5. 図IV-134-11	
6. 図IV-134-12	
7. 図IV-134-13	
8. 図IV-135	
図版IV-84 平成9年度II-1層出土の V群土器(3) ……………	344
1. II-1層出土のV群土器(3)	
図版IV-85 平成9年度II-1層出土の V群土器(4) ……………	345
1. II-1層出土のV群土器(4)	
図版IV-86 平成9年度II-1層出土の V群土器(5) ……………	346
1. II-1層出土のV群土器(5)	
図版IV-87 平成9年度II-1層出土の V群土器(6) ……………	347
1. II-1層出土のV群土器(6)	
図版IV-88 平成9年度II-1層出土の V群土器(7) ……………	348
1. II-1層出土のV群土器(7)	
図版IV-89 平成9年度II-1層出土の V群土器(8) ……………	349
1. II-1層出土のV群土器(8)	
図版IV-90 平成9年度II-1層出土の V群土器(9) ……………	350
1. II-1層出土のV群土器(9)	
図版IV-91 平成9年度II-1層出土の V群土器(10) ……………	351
1. II-1層出土のV群土器(10)	
図版IV-92 平成9年度II-1層出土の V群土器(11) ……………	352
1. II-1層出土のV群土器(11)	
図版IV-93 平成9年度II-1層出土の V群土器(12) ……………	353
1. II-1層出土のV群土器(12)	
図版IV-94 平成9年度II-1層出土の V群土器(13) ……………	354
1. II-1層出土のV群土器(13)	
図版IV-95 平成9年度II-1層出土の V群土器(14) ……………	355
1. II-1層出土のV群土器(14)	
図版IV-96 平成9年度II-1層出土の V群土器(15) ……………	356
1. II-1層出土のV群土器(15)	
図版IV-97 平成9年度II-1層出土の V群土器(16) ……………	357
1. II-1層出土のV群土器(16)	
図版IV-98 平成9年度II-1層出土の VI群土器(1) ……………	358
1. 図IV-150-1	
2. 図IV-150-2	
3. 図IV-150-3	
4. 図IV-150-4	
5. 図IV-150-5 a	
6. 図IV-150-5 b	
図版IV-99 平成9年度II-1層出土の VI群土器(2) ……………	359
1. II-1層出土のVI群土器(2)	
図版IV-100 平成9年度II-1層出土の VI群土器(3) ……………	360

1. II-1層出土のVI群土器(3)	[滝里4遺跡の調査]
図版IV-101 平成9年度II-1層出土のVI群土器(4) ……………361	図版V-1 遺跡遠景 ……………449
1. II-1層出土のVI群土器(4)	1. 遺跡遠景 (SE-NW)
図版IV-102 平成9年度II-1層出土のVI群土器(5) ……………362	2. 調査開始前状況 (NW-SE)
1. II-1層出土のVI群土器(5)	図版V-2 調査完了状況 ……………450
図版IV-103 平成9年度II-B層出土の石器(1) ……………363	1. 調査完了状況 (NW-SE)
1. II-B層出土の石器 (石鏃・石槍・つまみ付きナイフ・スクレイパー・石斧・たたき石・すり石・砥石)	2. 沢地形の調査完了状況 (S-N)
図版IV-104 平成9年度II-B層出土の石器(2) ……………364	図版V-3 土層堆積状況 ……………451
1. II-B層出土の石器 (石皿)	1. 南北562ラインの土層堆積状況 (SE-NW)
2. II-B層出土の石器 (石皿)	2. 南北572ラインの土層堆積状況 (NE-SW)
図版IV-105 平成9年度II-A層出土の石器等(1) ……………365	3. 東地区沢地形の土層堆積状況 (NE-SW)
1. II-A層出土の石器 (石鏃・石槍・石錐・つまみ付きナイフ・スクレイパー・石斧)	図版V-4 I層・III層の調査状況 ……………452
2. II-A層出土の石器等 (たたき石・すり石・砥石・オロシガネ状石製品)	1. 重機による攪乱層除去
図版IV-106 平成9年度II-A層出土の石器(2) ……………366	2. III層における遺物出土状況
1. II-A層出土の石器 (台石)	3. 調査状況 (NW-SE)
図版IV-107 平成9年度II-1層出土の石器(1) ……………367	4. III層調査終了後の地形測量
1. II-1層出土の石器 (石鏃・石槍・石錐・つまみ付きナイフ・ナイフ・スクレイパー)	図版V-5 V層の調査状況 ……………453
図版IV-108 平成9年度II-1層出土の石器(2) ……………368	1. 遺物出土状況 (基盤礫直上, S-N)
1. II-1層出土の石器 (石斧・たたき石・すり石・砥石)	2. 遺物出土状況 (J ₂ -574-12)
図版IV-109 平成9年度II-1層出土の石器(3) ……………369	3. 沢地形の調査状況 (NE-SW)
1. II-1層出土の石器 (石皿)	4. 沢地形の調査状況 (NE-SW)
2. II-1層出土の石器 (石皿)	5. 遺物出土状況 (J ₂ -572-12)
	6. 沢地形の調査状況 (NW-SE)
	図版V-6 P-5の調査(1) ……………454
	1. 検出面遺物出土状況 (NW-SE)
	2. 南東側琥珀玉出土状況 (W-E)
	図版V-7 P-5の調査(2) ……………455
	1. 検出状況 (NW-SE)
	2. セクション (NW-SE)
	3. 石器出土状況 (N-S)
	4. 石鏃出土状況 (N-S)
	5. 北西側琥珀玉出土状況 (NW-SE)
	6. 完掘状況 (手前) (NW-SE)
	図版V-8 P-5の出土遺物(1) ……………456
	1. 図V-11-1
	2. 図V-11-2
	3. 図V-11-2口縁部

4. 図V-11-3	2. TP-10杭穴断面 (S-N)
5. 図V-11-4	3. TP-11完掘状況 (S-N)
6. 図V-11-5	図版V-17 S-1の調査 ……………465
7. 図V-11-5口縁部	1. S-1の調査 (1, E-W)
図版V-9 P-5の出土遺物(2) ……………457	2. S-1の調査 (2, E-W)
1. 図V-12-6	図版V-18 V層出土のI群a類土器(1) ……466
2. 図V-13-7	1. 図V-30-1
3. 図V-13-7口縁部	2. 図V-30-2
4. 図V-13-8	3. 図V-30-3
5. 図V-13-9	4. 図V-30-4
6. 図V-13-10・11	5. 図V-30-5
図版V-10 P-5の出土遺物(3) ……………458	6. 図V-30-6
1. P-5の土器	図版V-19 V層出土のI群a類土器(2) ……467
2. 北西側出土琥珀製平玉	1. V層出土のI群a類土器(2)
3. 南東側出土琥珀製平玉	図版V-20 V層出土のI群a類土器(3) ……468
図版V-11 P-5の出土遺物(4) ……………459	1. V層出土のI群a類土器(3)
1. P-5出土の石器	図版V-21 V層出土のI群a類土器(4) ……469
図版V-12 P-6・7・8の調査 ……………460	1. V層出土のI群a類土器(4)
1. P-6完掘状況 (SW-NE)	図版V-22 V層出土のI群a類土器(5) ……470
2. P-8完掘状況 (SW-NE)	1. V層出土のI群a類土器(5)
3. P-7完掘状況 (W-E)	図版V-23 V層出土のI群a類土器(6) ……471
4. P-7遺物出土状況 (W-E)	1. V層出土のI群a類土器(6)
5. P-7出土遺物	図版V-24 V層出土のI群a類土器(7) ……472
図版V-13 P-9・10・11の調査 ……………461	1. V層出土のI群a類土器(7)
1. P-9琥珀玉出土状況 (E-W)	図版V-25 I・Ⅲ層出土のI群b類・ Ⅲ群土器(1) ……………473
2. P-9出土琥珀玉	1. I・Ⅲ層出土のI群b類・Ⅲ群土器(1)
3. P-10完掘状況 (E-W)	図版V-26 I・Ⅲ層出土のⅢ群土器(2) ……474
4. P-11完掘状況 (SE-NW)	1. I・Ⅲ層出土のⅢ群土器(2)
5. P-11出土遺物 (スクレイパー)	図版V-27 I・Ⅲ層出土のV群・VI群土器(1) ……………475
図版V-14 TP-6・7の調査 ……………462	1. I・Ⅲ層出土のV群・VI群土器(1)
1. TP-6完掘状況 (S-N)	図版V-28 I・Ⅲ層出土のVI群土器(2) ……476
2. TP-7完掘状況 (S-N)	1. I・Ⅲ層出土のVI群土器(2)
3. TP-7杭穴断面 (S-N)	図版V-29 I・Ⅲ層出土のV群・VI群土器(3) ……………477
図版V-15 TP-8・9の調査 ……………463	1. 図V-39-33
1. TP-8完掘状況 (SE-NW)	2. 図V-39-45
2. TP-8杭穴断面 (E-W)	3. 図V-40-46
3. TP-9完掘状況 (S-N)	4. 図V-40-47
4. TP-9杭穴断面 (E-W)	
図版V-16 TP-10・11の調査 ……………464	
1. TP-10完掘状況 (S-N)	

5. 図V-40-48	
図版V-30 包含層出土の石器(1) ……………478	
1. 包含層出土の石器 (石鏃・石槍・石錐・ つまみ付ナイフ)	
図版V-31 包含層出土の石器(2) ……………479	
1. 包含層出土の石器 (つまみ付ナイフ・ナイフ・スクレイパー)	
図版V-32 包含層出土の石器等(3) ……………480	
1. 包含層出土の石器等 (スクレイパー・R フレイク・石核・石製品・土製品・石斧)	
図版V-33 包含層出土の石器(4) ……………481	
1. 包含層出土の石器 (石斧)	
図版V-34 包含層出土の石器(5) ……………482	
1. 包含層出土の石器 (石斧・石のみ・研磨 石材・石斧原材)	
図版V-35 包含層出土の石器(6) ……………483	
1. 包含層出土の石器 (すり切り残片・たた き石・すり石)	
図版V-36 包含層出土の石器(7) ……………484	
1. 包含層出土の石器(すり石・石鋸・砥石)	
図版V-37 包含層出土の石器等(8) ……………485	
1. 包含層出土の石器等 (砥石・石錘・加工 痕のある礫・石製品?)	
図版V-38 包含層出土の石器(9) ……………486	
1. 包含層出土の石器 (石皿)	
2. 包含層出土の石器 (石皿)	
[自然科学的分析]	
図版VI-1 木製品の樹種 顕微鏡写真(1) ……………499	
図版VI-2 木製品の樹種 顕微鏡写真(2) ……………500	
[まとめ]	
図版VII-1 琥珀製平玉の顕微鏡写真 ……503	

I 調査の概要

1 調査要項

事業名：石狩川水系滝里ダム建設事業用地内埋蔵文化財発掘調査

事業委託者：北海道開発局石狩川開発建設部

事業受託者：財団法人北海道埋蔵文化財センター

遺跡名	道教委遺跡登録番号	所在地	調査面積	調査期間（現地調査期間）
たきさとやすい 滝里安井遺跡	E-04-11	あしべつしたきさと 芦別市滝里町301-1ほか	4,820m ²	平成8年4月17日～平成9年3月25日 (5月6日～10月26日)
			8,330m ²	平成9年4月11日～平成10年3月25日 (5月6日～10月27日)
たきさと 滝里4遺跡	E-04-6	あしべつしたきさと 芦別市滝里町337-1	6,768m ²	平成9年4月11日～平成10年3月25日 (5月6日～10月27日)

2 調査体制

財団法人北海道埋蔵文化財センター

平成8年度		平成9年度	
理事長	伊藤一夫	理事長	伊藤一夫
専務理事	佐藤哲人	専務理事	佐藤哲人
常務理事	柴田忠昭	常務理事	柴田忠昭
常務理事	木村尚俊	常務理事	木村尚俊
業務部長	山内清志	業務部長	山内清志（5月31日退任）
第1調査部長	畑 宏明	業務部長	北條雅洋（6月1日着任）
第2調査課長	佐藤和雄	第1調査部長	畑 宏明
主 査	遠藤香澄（発掘担当者）	第4調査課長	遠藤香澄（発掘担当者）
文化財保護主事	村田 大（発掘担当者）	文化財保護主事	村田 大
〃	愛場和人	〃	愛場和人（発掘担当者）
〃	影浦 覚	〃	影浦 覚
〃	酒井秀治	〃	酒井秀治

3 調査にいたる経緯

滝里ダムは石狩川総合開発の一環として、石狩川水系空知川の芦別市滝里町地先に建設中の建設省直轄の多目的ダムである。昭和47年度の予備調査、昭和54年度の実施計画調査を経て、昭和58年度から建設工事が開始されている。工事はJR根室本線（野花南～島の下間）および一般国道38号線の付替補償工事から始まり、JR付替線は平成3年度に開通し滝里駅は廃止された。また国道の工事は昭和60年より着手され、平成7年には一部供用を開始した。ダム本体工事は平成2年10月から着手され、平成10年度の試験湛水に向け工事が進められている。

ダム工事に関連する埋蔵文化財包蔵地については昭和53年、「滝里ダム環境影響調査」の一環とし

4 調査の概要

て埋蔵文化財包蔵地調査が行われ、滝里地区に26ヶ所、泉地区に2ヶ所、富間地区に3ヶ所、合計31ヶ所の遺跡が確認された。また昭和61年からは北海道教育委員会により所在確認調査及び範囲確認調査が実施され、この結果ダム建設用地内には芦別市域24ヶ所、富良野市域6ヶ所、計50ヶ所の包蔵地が確認された。芦別市内の遺跡のうち発掘調査、遺構確認調査を必要とする遺跡は22ヶ所(表I-1)、工事立会が必要な遺跡は6ヶ所である。滝里ダム建設工事に関わり埋蔵文化財調査の対象となった遺跡について「滝里遺跡群」と呼称し、平成元年度から(財)北海道埋蔵文化財センターが調査を担当し平成9年度までに16遺跡、158,902m²について調査が終了している。

図版I-1は平成9年秋、新しく付替られた国道から撮影したものである。手前に見える直線の道路は旧国道38号線、その向う側がすでに調査が終了している滝里11遺跡で、この国道下も包蔵地である。このほか旧国道下には未調査の包蔵地が4ヶ所(合計10,650m²)あり来年度調査する予定である。

4 調査の概要

今年度調査を行ったのは6ヶ所の遺跡である(図II-1)。5月から10月まで調査第4課が滝里安井、滝里4、滝里12遺跡の3ヶ所を、8月からは調査第2課が滝里18、滝里20、滝里29遺跡の3ヶ所遺跡の調査を行った。このうち滝里安井遺跡、滝里18遺跡の調査は昨年度に続くものである。今回報告するのは平成8年度、同9年度調査した滝里安井遺跡と滝里4遺跡の2遺跡である。滝里18、滝里20、滝里29遺跡は整理作業の工程上上年度以降に、また滝里12遺跡については上層の調査は終了したが、下層に縄文時代早期の包含層があることが判り来年度この部分、4,500m²について調査予定のため、これが完了次第あわせ報告する。

滝里安井遺跡

空知川の支流ポルベシュベ川右岸の標高135~140mの緩やかな斜面に位置し、遺跡は周辺の山から押し出された土砂に覆われて沖積錐が発達している。ダム建設用地になる以前は宅地、水田、畑作

表I-1 滝里ダム建設工事にかかる埋蔵文化財発掘遺跡と年次別調査面積一覧

登載 番号	遺 跡 名	当初面積 (m ²)	変更面積 (m ²)	調 査 年 度 (m ²)									備 考	
				平成元年度	平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度		
2	滝里2遺跡	2,300	2,300											
3	滝里3遺跡	2,600	2,600											
6	滝里4遺跡	29,500	33,043						16,575	9,700			6,768	
9	滝里7遺跡	3,700	3,700		3,700									
11	滝里安井遺跡	12,600	15,650									4,820	8,330	旧国道下未了
12	滝里9遺跡	11,950	14,350									11,950		旧国道下未了
13	滝里10遺跡	9,200	9,920					9,920						
14	滝里11遺跡	7,000	11,000				1,300	6,700						旧国道下未了
60	滝里12遺跡(上層)	12,000	12,550										12,550	
	(下層)	0	4,500											
64	滝里16遺跡	4,100	4,100											
65	滝里17遺跡	3,000	3,000											
66	滝里18遺跡	14,500	14,530								5,900	8,630		
67	滝里19遺跡	2,700	2,250								2,250			
68	滝里20遺跡	3,400	3,400									3,400		
74	滝里26遺跡	4,400	4,400											
77	滝里29遺跡	6,600	7,224										7,224	
79	滝里31遺跡	9,740	7,496					7,496						
80	滝里32遺跡	14,850	16,739			9,929	4,060							旧国道下未了
81	滝里33遺跡	7,400	7,400				7,400							
86	滝里23遺跡	1,400	1,400	1,400										
87	滝里38遺跡	4,500	4,500	900	3,600									
89	滝里39遺跡	3,600	3,600	3,600										
	合 計	171,040	189,652	5,900	7,300	9,929	12,760	24,116	16,575	9,700	24,720	46,902		



図版 I - 1 滝里ダム本体工事遠景

地であった。図IV-2でわかるように、旧宅地から北東方向の延びる道路を挟んで西側が7段の水田、東側が3段の水田と畑作地として利用されていた（図IV-2）。

平成8年度は530ラインより西側の部分、下から3段目の水田の部分までの4,820㎡を調査した。当初予定面積は3,000㎡であったが、西側の水田跡の包含層の削平が著しく、また宅地跡は大きく攪乱されていた。このため重機を併用しながら調査範囲を順次上段の水田部分へと拡大した結果、最終的に1,820㎡の面積増となった。

平成9年度は8,330㎡について調査を行なった。当初予定範囲は前年度の残り部分、7,780㎡であった。調査区南東側の部分は重機によるトレンチ調査の結果ポルベシュベ川に落ち込む沢地形が形成されていることがわかり、3層確認された包含層が1層に収束し、遺物はほとんど検出されない状態であった。また調査区北側の部分では、最上位の包含層（Ⅱ-1層）から遺物がまとまって出土し、遺物が発掘計画の範囲外に広がることが予想された。このような状況を北海道教育委員会文化課と協議した結果、調査区南東側の1,780㎡を調査を必要としない範囲とし、調査区北側は2,810㎡が新たに調査範囲に組み入れられることとなった。ただし拡張部分では、調査の対象は3層ある包含層のうちⅡ-1層のみである。この結果550㎡の面積増となった。最終的には平成8年度、9年度あわせて13,150㎡について調査を終了した。旧国道下の2,500㎡が調査未了である（図IV-3）。

遺物包含層は上述のとおり3層確認された。すなわち上層からⅡ-1層、Ⅱ-A層、Ⅱ-B層で、それぞれ間層として砂礫層が厚く堆積する。主にⅡ-1層は縄文時代晩期から続縄文時代初頭、Ⅱ-A層は縄文時代前期から後期、Ⅱ-B層は縄文時代前期、中期の包含層である。このように層位的に包含層が確認されたのは空知地方では初めてのこととみられる。

平成8年度の調査開始当初は、トレンチ調査の結果から、包含層が2層（Ⅱ-A、Ⅱ-B層）あることは判っていたが、北側の斜面上位に向かって調査を進めていくうちに、Ⅱ-A層の上位にさらに包含層（Ⅱ-1層）があることが判った。また2層の包含層は斜面の裾部であるE₄ラインよりも南側一体では1層に収束していた。このため平成8年度の調査では1、2段目より南側の地区の遺物、とくにⅡ-1層、Ⅱ-A層のものは分層できず“Ⅱ層”として取り上げ報告している。

次に2か年の調査の概要を各層ごとに述べることにする。

Ⅱ-1 層の遺構

土壙37基、石囲い炉7基、集石2ヶ所、焼土36ヶ所が検出された。土壙は縄文時代晩期末から縄文時代初頭に属するもので、主にその立地から第Ⅰ群～第Ⅲ群の3グループに分けた。

第Ⅰ群土壙（P-3、4～8、12、26）は調査区西南側のE₅-524区周辺の狭い範囲に集中する一群で、いずれもほぼ円形で長径が1mを越えない小型の比較的浅い土壙である。P-7では壙底から焼けた台石、礫・礫片が20個ほど出土している。

第Ⅱ群土壙（P-2、9～11、13～21、23～25）は古い河川跡が検出されたその縁辺部から検出された一群である。全体の平面形がわかるものでは、円形で長径が1m内外の浅い土壙（P-2、9、11、13、14、16、17、19、20、23）のほかに、楕円形で長径が1mを越える大型で深いもの（P-10、15、25）がある。後者の土壙は豊富な出土遺物から墓壙と考えられるものである。P-10では土壙上面から一個体の土器が、また覆土中100点以上もの黒曜石の大型剥片が、袋状のものに入れ埋納されたような状態で出土した。P-15からは石鏃が130点とナイフ、石斧、黒曜石の棒状原石が、P-25からは琥珀製の玉とカンラン岩製の玉が出土している。

第Ⅲ群土壙（P-27～37）は晩期、続縄文時代の遺物が多量に出土した調査区北東側の調査拡張範囲周辺から検出された一群である。楕円形、円形で深さ50cm満たない小型の浅い土壙（P-28、30～33、36、37）が多い。P-34からは大きな台石、礫が出土している。

P-1、P-22はこれらの土壙群から離れた位置から検出されたもので、いずれも墓壙と考えられる。P-22の壙底からは完形のもの3,235点と破片約1,000点を数えるおびただしい量の琥珀製の平玉が何連にも数珠つなぎの状態出土した。この時期のものとして一つの土壙から得られた数量として管見では類例を知らない。このほか第Ⅲ群土壙の分布する調査区北東側から石囲い炉が7基検出された。このうち3基ずつが、2mほどの間隔で列をなす傾向が見られた。

Ⅱ-A層の遺構

焼土1ヶ所、灰集中1ヶ所、集石3ヶ所、柱穴状小ピット69基が検出された。柱穴状小ピットは旧河道跡付近から検出されたもので、周辺の包含層からは縄文時代後期後葉の三ツ谷式に相当する土器が多数出土している。また旧河道跡からは人為的加工が施された可能性のあるオニグルミ製の“材”が出土している。樹種同定の結果はⅥ章-2に報告してある。

Ⅲ-B層の遺構

集石1ヶ所、焼土13ヶ所が検出された。焼土の分布はⅡ-B層の前期、中期の遺物の分布域と重なる。

遺物

包含層からは土器が103,159点、石器等が71,106点、遺構からは土器664点、石器等が4,689点出土した。包含層では全遺物の90%以上がⅡ-1層から出土し、とくに平成9年度拡張した調査区北東側の範囲に集中している。包含層の土器の層位別出土点数は表Ⅳ-14に掲載してある。

土器についてみると、滝里遺跡群のこれまでの調査では得られなかった前期、後期後葉、続縄文初頭の資料が充実した。Ⅱ-1層出土の多くは晩期末の緑ヶ岡式相当のものと続縄文時代初頭のフシココタン下層式、宇津内Ⅱ群a類など道東、道北地方の影響を受けた資料で、少量ながら道西南部の上ノ国式に類似の爪形文の施された資料、後北A式に類するものがある。Ⅱ-A層からは後期後葉の三ツ谷式に相当する土器がほかの時期の土器をほとんど混えず集中して出土している。ほかに余市式、北筒式（トコロ6類）、中期の円筒土器上層式、底部内面に突起のあるモコト式土器が出土している。Ⅱ-A層の下部からは円筒土器上層b式頃と見られる大型のほぼ完形に近いものが出土している。

Ⅱ－B層からの出土量は少ないが前期末から中期初頭に位置付けられる刺突文、押し引き文、押型文の施された資料がややまとまっている。また胎土に繊維が混入されたもので口縁部に縄線文があるもの、内面に条痕文や縄文の施されたもの等、大麻V式に類似の平底土器が得られている。

石器等では黒曜石のフレイクが94%ほどを占め、定形的石器は少ない。剥片石器ではスクレイパー、石鏃が多い。礫石器では石斧とそれに関連するものが多い。Ⅱ－1層からは10数本もの石斧類がまとまって出土している。またトロニエム岩を利用した台石、石皿が特徴的で、Ⅱ－A層から大型の礫そのものも多数出土しているのが目立つ。土壌から出土した琥珀製の平玉、カンラン岩製の玉を合わせた完全な形の玉類は3,272点にのぼる。また晩期の土器片を利用した滑車形の耳栓がある。

滝里4遺跡

空知川右岸の標高135m～140mの自然堤防上に位置する。当初面積は4,800m²であったが、河川の侵食による包含層の流失等の面積減を含め実測の結果、最終的な調査面積は6,748m²となった。調査区は平成6・7年度調査地区に続く旧国道下と畑作地として利用されていた所であり、空知川の流れに添って北西から南東に長さ250m、幅35mほどの細長い範囲である。旧国道は自然堤防の高みの部分を走っていたもので、盛り土除去後の地形をみると566～572ライン間の調査区中央部が最も高く、この部分には基盤礫層が露出し、ここから上流と下流側に向って傾斜していることがわかった(図V-3)。空知川の何度も氾濫の結果、砂層と砂礫層が川の流れと平行に交互に堆積した様相を見ている。またこの礫層は先の調査で確認された[礫層1]に連続するものである(北埋調報98)。

平成6・7年度の調査では縄文時代早期中葉の貝殻文、沈線文、条痕文平底土器を多量に伴った住居跡が19軒検出され、今回もこの時期の遺構、遺物が予想された。トレンチ調査および25%調査の結果遺物包含層は、上位の黒色土層(Ⅲ層)と下位のV層であることがわかった。

Ⅲ層からは縄文中期、晩期の遺物と、続縄文時代初頭の遺物、遺構が検出されている。上述のように調査区中央部は本来最も高みがあった部分と見られるが、道路工事等により削平され、この部分にはⅢ層はほとんど存在していなかった。このため人力による調査範囲を564ライン西側と570ライン東側の一部とし、ほかは重機併用調査区とした(図V-3)。

V層は砂、シルトが混じる河川の氾濫堆積層のため連続して捉えられないもので、調査区東側では部分的に径10～30cmの礫が広がる層であるが、562ラインよりも西側では確認できなかった。縄文時代早期中葉の沈線文、条痕文平底土器等の遺物が出土する。Ⅲ層調査後の25%調査、重機による深掘りトレンチの結果、遺物の出土する範囲がごく限られることから、人力による調査範囲を1,900m²ほどとし、残りの部分は人力と重機併用の調査範囲とした(図V-3)。

次に遺構、遺物の概要を述べることとする。

遺構

すべてⅢ層調査中に検出された。土壌7基、Tピット6基、焼土3ヶ所、集石1ヶ所である。土壌のうち3基(P-5、7、9)は、墓墳の可能性のあるもので、このうちP-5、7は伴出する遺物から続縄文時代初頭のものともみられる。P-5は長径2mほどの楕円形を呈し、墳口部から10個体ほどの、宇津内Ⅱ群a類、興津式に類する土器が主に倒立の状態出土した。覆土中からは石鏃、石斧、ナイフ、スクレイパー、矢柄研磨器がまた墳底部の南東と北西の2ヶ所から琥珀製の平玉が幾重にも数珠つなぎの状態出土した。近接した位置にあるP-7からは石斧、石鏃、ナイフ等が出土している。またP-9はこれら2基から120mほど離れた位置から検出され、墳底面のみ確認された遺構であるが、琥珀製の平玉が散在した状態で検出された。Tピットは平面形が楕円形で、4基の底面から

4 調査の概要

は逆茂木跡と見られる小ピットが数個検出された。過年度調査したものと一部列をなす傾向が認められた。Tピット、焼土、集石は縄文時代中期以降のものである。

遺物

包含層から土器が17,659点、石器等が10,315点、遺構からは土器370点、石器等が3,669点出土した。

Ⅲ層からは縄文時代晩期の資料がもっとも多く、ほかに続縄文、晩期、中期のものが含まれる。山形の押型文と微隆起線文が施された円筒土器上層b式頃と見られる破片がある。

V層からは縄文時代早期中葉の沈線文、条痕文平底土器が多数出土している。貝殻文の土器は出土していないが、平成6・7年度の調査で得られた資料と同様の特色を持つものである。調査区南東側、空知川に注ぐ古い沢跡の底から多数出土している。また少量コッタロ式、中茶路式、東釧路Ⅳ式の破片が出土している。

石器等は黒曜石のフレイクが90%以上を占め、定形的石器は滝里安井遺跡同様非常に少ない。Ⅲ層からは中期に属すると見られる北海道式石冠が、V層からは片面加工のつまみ付きナイフ、蛇紋岩製の擦切り磨製石斧、断面三角形のすり石、石錘等、土器との対応が想定される資料が多い。また土壌から出土した琥珀製の玉類をあわせて3,438点である。ほかに早期、晩期の土器片を利用した円盤状土製品が出土している。
(遠藤 香澄)

表Ⅰ-2 滝里安井遺跡出土の遺物

時期	分類	点数		分類	点数		分類	点数	
		遺構	包含層		遺構	包含層		遺構	包含層
縄文早期	I群		2	石 鏃	139	784	砥石・石鋸	18	38
縄文前期	II群	1	1,663	石 槍		162	石 核	2	63
縄文中期	III群		2,855	石 錐	1	33	原 石		28
縄文後期	IV群	15	7,662	つまみ付ナイフ		109			
縄文晩期・続縄文	V・VI群	648	90,866	ナイフ・ナイフ類	9	313	剥片・R剥片	651	66,188
不 明			111	スクレイパー	25	1,111	磔・加工痕ある磔	481	1,234
				石斧・石のみ等	6	624	土・石製品		30
				たたき石	19	166		3,262	
				すり石	11	77	琥珀製平玉		10
				台石・石皿	55	146	カンラン岩製玉		
合 計		664	103,159	合 計				4,689	71,106
			103,823						75,795

表Ⅰ-3 滝里4遺跡出土の遺物

時期	分類	点数		分類	点数		分類	点数	
		遺構	包含層		遺構	包含層		遺構	包含層
縄文早期	I群a類		5,014	石 鏃	32	241	砥石・石鋸	3	15
	I群b類		238	石 槍		23	石 錘		17
縄文中期	III群		593	石 錐		15	石 核		3
縄文後期	IV群		59	つまみ付ナイフ		25	原 石		38
縄文晩期	V群	57	11,468	ナイフ類	1	95	剥片・R剥片	53	9,295
続縄文	VI群	313	286	スクレイパー	3	210	磔・加工痕ある磔	122	102
不 明			1	石斧・石のみ等	6	97	土 製 品		2
				たたき石	2	66	石 製 品	3,438	2
				すり石		37			
				台石・石皿	7	32			
合 計		370	17,659	合 計				3,669	10,315
			18,029						13,984

II 遺跡の位置と環境

1 位置と環境

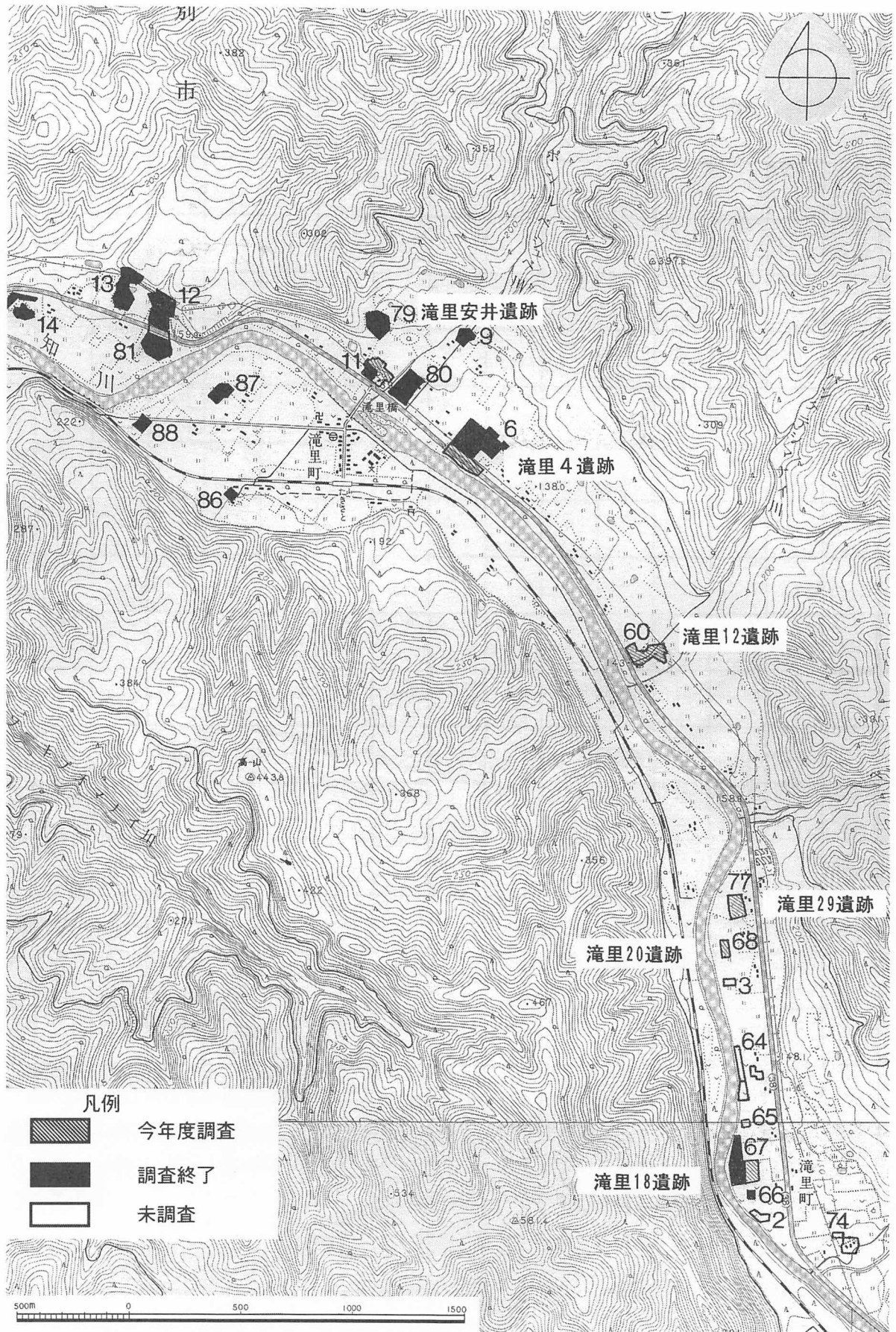
芦別市は北海道の中央部空知管内の東部に位置する。市域は東西27.60km、南北50.45km、約865km²の面積を有する。土地の利用区分ではその約89%を森林が占める。また全面積の約84%が標高700m～1,700mの山岳地帯である。この間を空知川が東南から北西に流れている。空知川は日高山脈の狩振岳（高さ1,323m）にその源を発し西流し、南富良野町の幾寅から流れを北に変える。富良野盆地を貫流してから夕張山地の北西部で横谷を形成し、芦別市域で数段の河岸段丘を、赤平付近では沖積平野を形成しながら滝川近郊の空知太で石狩川に合流する。流路延長172.7km、流域面積2,573km²の石狩川水系最大の支流である。

滝里町は空知川の両岸に開けた山峡に位置する。芦別市の南東部、芦別市街地から15kmほど内陸寄りの位置にある。空知川は滝里付近を東南から北西にゆったりと蛇行して流れ、建設中の滝里ダムサイト付近からは急激な流れとなり「空知大滝」の雄大な景観を作っている。右岸は沢地帯で平坦な地形が続くが、左岸は急峻な山が迫っている。東北部是那英山（819m）、中山（679m）、高峰（626m）が連なり分水嶺によって中富良野町の吉井・奈江と境を接し、南東部は野花南岳（905m）、尻岸馬内山（772m）を挟んで富良野市と境を接している。周囲はそのほとんどが国有林である。滝里町は昭和62年、ダム建設に伴う移転のため閉町している。

「滝里遺跡群」は芦別、富良野両市にまたがり、遺跡は主に空知川及びその支流によって形成された河岸段丘面や自然堤防上と山地斜面に立地する。滝里地区に限ってみると最も上流部にはトプトエウシュナイ川下流部左岸の平坦面に滝里1遺跡が、下流部には空地大滝から250mほど北よりの右岸平坦面に滝里40遺跡がある。この間約6kmの流域に43ヶ所の遺跡が点在している。緩斜面と段丘面が続く右岸に多く37ヶ所を数える。とくに支流である奈江川とパンケテシマナイ川の間およびボンルベシュベ川の両岸に集中する。

空知川右岸の遺跡周辺では滝里安井、滝里4、滝里12遺跡に見られるように、支流河川によって形成された沖積錐が発達し、遺跡が沖積錐に埋もれていることが多い。『滝里遺跡群I』（北埋調報71）の「2. 遺跡周辺の地形・地質」の項で述べられているように、とくにパンケテシマナイ川下流では大きな沖積錐が発達していることが知られている。今年度調査した滝里12遺跡では縄文時代中期から続縄文初頭の包含層の下位に、厚さ2mもの土砂が堆積していた。縄文時代早期の包含層はこの多量の土砂に埋没していたのである。

また遺跡群のある一帯はダム工事が始まる以前は図IV-2の旧土地利用図でもわかるように水田・畑作地であり、とくに昭和30年代から40年代の農業基盤整備により地形が改変され、遺物包含層が攪乱されている遺跡が多い。反面、沖積錐に覆われていた遺跡、たとえば滝里4遺跡では厚い土砂に保護されているかのように良好な状態で残っていた。（遠藤香澄）



図Ⅱ-1 滝里遺跡群の位置

(この図は、国土地理院発行2.5万分の1地形図「野花南」「島ノ下」を複製したものである)

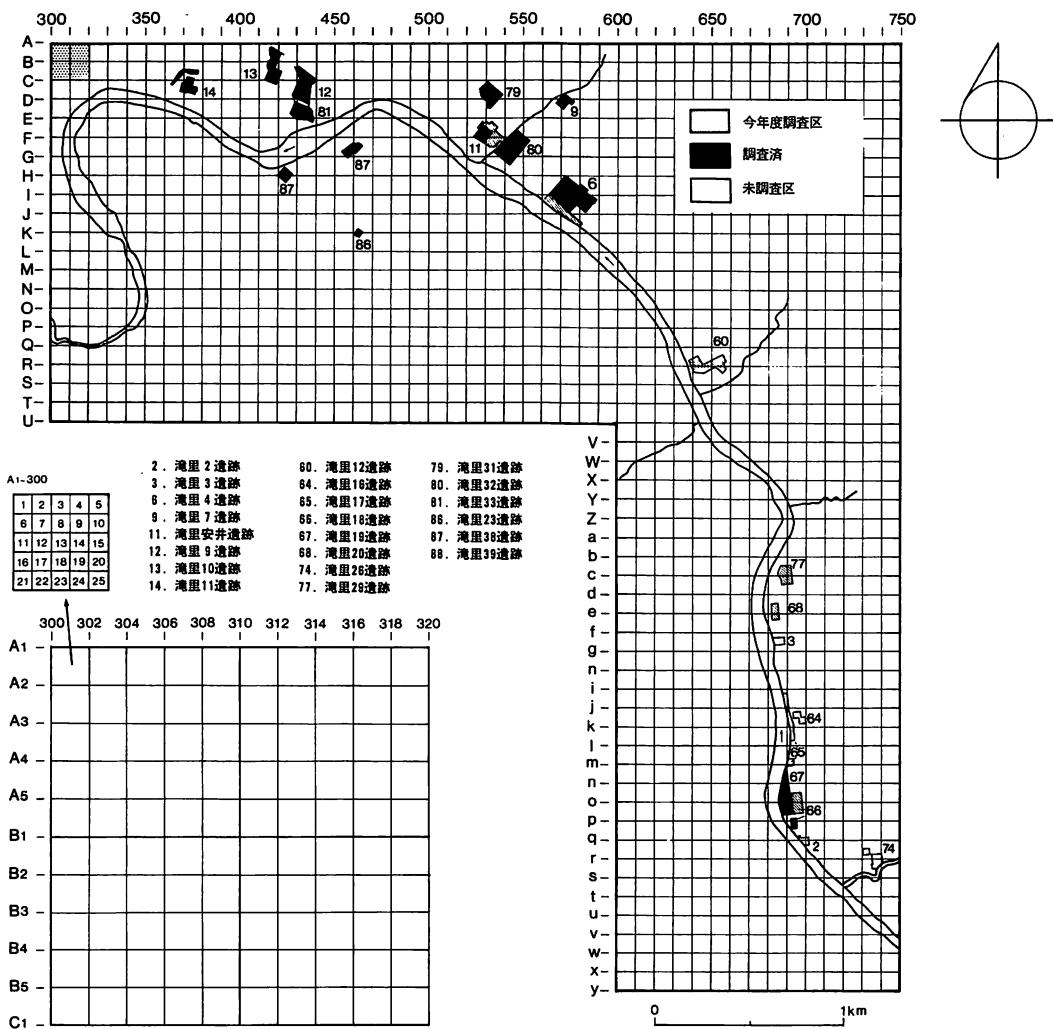
Ⅲ 調査の方法

1 発掘区の設定

滝里ダムの建設にかかる埋蔵文化財の発掘調査が必要な遺跡は芦別市内で22ヶ所あり、空知川とその支流域に分布する。最も上流にある遺跡は富良野市との境界から1.5kmほど手前、奈江川が空知川と合流する地点に位置する滝里26遺跡（登録番号E-04-74）である。下流側は滝里橋から1.5kmほど芦別市よりに位置する滝里11遺跡（登録番号E-04-14）で、その間延長約7kmにおよんでいる。

発掘区の設定にあたっては、上記遺跡群の範囲をカバーする平面直角座標第Ⅱ系を使用した。その範囲はX=-61000~66000、Y=+3000~8000である。基線は東西軸をX=-61000、南北軸をY=+3000とした。

発掘区は大グリッド（20m×20m）と小グリッド（4m×4m）からなる。大グリッドは東西軸をアラビア数字（1~5）を付したアルファベット（A₁、a₁など）、南北軸は座標値の上3桁の数字で表示した（例えば、A₁-300など）。すなわち東西軸は基線（X=-61000）をA₁とし、南へ向か



図Ⅲ-1 発掘区設定図

2 発掘調査の方法

って20mごとにA₂、A₃……とした。アルファベットの大文字が一巡したX=-63500からはアルファベットの小文字でa₁、a₂、a₃……とした。南北軸は基線（Y=+3000）を300として、東へ向かって20mごとに302、304、306とした。

大グリッドは25個の小グリッドに分け、北西隅の小グリッドから東へ順にアラビア数字で1～25の番号を付した。グリッドの呼称は北西の交点とした（A₁-300-7など）。（遠藤香澄）

2 発掘調査の方法

滝里安井遺跡

平成8年度は発掘調査に先行し対象地区の柳などの雑木の伐開を行い、その後重機により水田の客土、畑の耕作土および攪乱層の除去作業を行った。明らかに遺物包含層が削平されている範囲を除き、大グリッドの交点に基準杭を打設した。

発掘調査は調査区全体の包含層の状態を把握するため水田の段に平行する方向に2本、直行する方向に3本ほどトレンチを設け土層堆積状態を確認することから開始した。この時点で、包含層が2層（Ⅱ-A層、Ⅱ-B層）あることが確認された。また530ラインよりも西側の1～2段目の水田跡では造田で一部削平され、同様にF₁ラインより南側も宅地造成で攪乱されており包含層の残りがよくないことがわかった。南東側はポンルベシュベ川に注ぐ沢地形となっており常時冠水する状態であった。

このようなことから水田部分と宅地跡の攪乱部分は人力と重機併用の調査範囲、南東側は次年度調査する範囲とした。引き続き25%程度の調査で遺物、遺構の濃淡を確認し、順次調査を行っていった。また包含層の間には間層として砂礫層が厚く堆積しており、重機により除去した。

また水田の上段（北側）へと順次調査を進めていくうち、Ⅱ-A層の上位にさらに包含層が（Ⅱ-1層）あることがわかり、それまでⅡ層（Ⅱ-A層）、Ⅱ-B層の2層と認識していた層位を修正し、3層（Ⅱ-1層、Ⅱ-A層、Ⅱ-B層）であることを確認、慎重に調査を進めた。

平成9年度の調査は前年度の調査結果を踏まえ、層位ごとの発掘に努めた。前年度の調査では530ラインより東側の部分の土層堆積状況を十分把握できていなかったため、530～536ライン間に水田の段に平行に2本、トレンチを設定し調査した結果、534ラインより南東側では黒色土が落ち込んで、砂利層、青粘土層が確認され、ポンルベシュベ川に落ち込む沢地形となっていることがわかった。また直交する方向には重機による深掘りトレンチを入れ、確認できた黒色土を部分的に人力で調査した。その結果現地表面下2mほどで確認された層からは遺物がほとんど検出されず、常時冠水する地区でもあった。以上のトレンチ調査の結果から図Ⅳ-3に示した部分を遺構確認調査を含め発掘調査を必要としない範囲とした。また調査区北東側ではⅡ-1層の遺物が多く出土し、遺物の拡がり十分予想されたため、関係機関と協議の上、調査範囲を拡張した。

Ⅱ-1層、Ⅱ-A層、Ⅱ-B層の遺物については、業者に委託し、全点トータルステーションにより位置と標高を計測して取り上げを行った。現地発掘作業終了後、これらのデータをもとに層位別遺物分布図、層位別遺物集計の作成を委託した。

滝里4遺跡

調査範囲は旧国道38線下と畑作地として利用されていた部分で、道路は工事用として使用されているため、道路の付替が終了後、敷設されていたアスファルトとその下の盛土の除去、併行して周辺の立ち木の伐採を人力および重機で行った。さらに縄文時代の包含層に相当すると見られる面まで旧表

土層を除去した。その後調査区境界杭の設定、大グリッドの交点に基準杭を打設した。

発掘調査は平成6・7年度調査した地区との関連で、土層堆積状況の把握と早期の包含層の有無を確認する目的で、大グリッドのラインに沿って直交する10数本のトレンチを設定し調査を開始した。この結果、続縄文、縄文晩期、中期の遺物包含層(Ⅲ層)が確認され、その下位に早期の遺物を包含する河川堆積物層(V層)が確認できたが、平成6・7年度の調査で確認された2層ないし3層の黒色土層と連続する層は認められなかった。

旧表土層の除去後の地形をみると566～572ラインにかけての部分は径50cm前後の礫を主とする基盤層が露出しⅢ層は存在しなかった。25%調査を行い遺物、遺構の濃淡を把握し、遺物の出現頻度の高い部分と見られる564ラインよりも西側部分と続縄文時代の遺構が検出されたJ₂-574区を中心とした範囲を人力による調査、そのほかは重機併用による遺構確認調査範囲とした。

Ⅲ層調査後、人力で調査した範囲を測量し、引き続きV層の調査を行った。先行するトレンチ調査で566ラインより東側ではV層が検出されず、早期の遺物が出土する範囲に限られることがわかっていたので、I₄ラインより南側の基盤礫層を挟む両側の564～574ラインの間を主に人力による調査範囲とし、残りの部分は重機併用による調査範囲とした。調査区東側では早期の遺物が基盤礫層直上から出土する状況であったため、再確認として重機による深掘りトレンチを566ラインおよび562ラインに平行に入れ礫層を掘り込んだが遺物は検出されなかった。(遠藤香澄)

3 整理の方法

現地では遺物取上げ後、水洗、大分類を行ない、遺物台帳、遺物カードを作成した。トータルステーションにより取り上げを行ったことから、遺物名、大分類、出土点数を遺物台帳に記入後、パソコンに入力する方法で整理を進めた。位置の計測されないI層の遺物は分類と遺物番号、点数を付した後同様にパソコンに入力した。

(1) 土器

土器片は器面が磨滅して胎土の砂粒が浮きでているもの、表面が剥離する状態のものが多く、そのため充分乾燥させた後パラロイドB72の50%水溶液を塗布し表面を養生した。その後台帳整理が終了したものから注記を行なった。現地での整理と平行して札幌の事務所では、平成8年度出土遺物の復元、拓本また一部搬送した資料の復元作業を行った。

札幌での二次整理ではそれぞれ各調査区の担当者が層位ごとに細分類を行い接合作業を進めた。接合資料については報告書に掲載しない遺物も含め、グリッド毎に接合関係カードを作成した。接合作業の段階では同一個体の破片を把握することに努めた。実測図では文様の復元可能なものについては細い線で表現した。断面は最も器形の特徴を表している部分を表現するために、90度あるいは180度回転させた位置で実測したものもある。

接合、復元、拓本作業が終わった資料については、報告書掲載資料とその他の資料にわけた。その他の資料は遺構別、大グリッド別に分け収納した。また包含層の資料については口縁部、底部、それ以外の部位に分け収納したほか同一個体と見られるものは一つにまとめた。(遠藤香澄)

(2) 石器等

石器類は取り上げ後、水洗と注記を随時行いながら大分類した。また、並行して遺物台帳と遺物カードを作成した。注記は黒曜石製の遺物を除く全点を対象としたが、石製品や頁岩製の遺物の一部などには注記しなかったものもある。調査終了後、全点を札幌の整理場に搬入し、分類の再検討を行った。滝里4遺跡の石器類はこの再分類と並行して実測に取りかかったが、滝里安井遺跡の石器類で平

4 遺物の分類

成8年度調査分のものについては、調査中から札幌で実測図の作成に入っていた。遺構出土の石器については、ほぼ全点を実測、掲載している。包含層出土の石器等については完形品ないしそれに近いものの中から、器種や形態等の特徴に偏りがないよう選び出して実測、掲載している。包含層出土の掲載石器等は、滝里安井遺跡の平成8年度調査分が139点、平成9年度調査分が116点、滝里4遺跡が125点である。なお、滝里安井遺跡の平成9年度調査分については層位的に上からⅡ-1層、Ⅱ-A層、Ⅱ-B層と分けて出土石器を掲載している。黒曜石製の石器・剥片の一部については、産地同定および水和層年代測定の実測、遺構から出土した琥珀玉についても産地同定の分析を依頼した。これらの分析結果については次年度の報告書に掲載する予定である。計測は掲載石器に限り、最大長、最大幅、最大厚、重量について行った。出土量の比較的多かった器種に関しては、分布図を作成した。また、今回は遺構から琥珀製の平玉が多量に出土した。琥珀玉については取り上げ後、水洗を行い、水浸保存をした。その後、現場で計測、接合作業を行い、風化の度合いを見ながら自然乾燥させ、パラロイドB72の10%培養液に数秒間浸して保存処理を行った。

分類整理後の石器等収納は報告書掲載のものと、それ以外のものに分けて行った。報告書に掲載したものについては、図版ごとに対応するよう1点ずつ収納し、それ以外のものについては、細分した器種ごとに出土グリッド別で分けて収納した。(影浦 覚)

4 遺物の分類

(1) 土器

縄文時代の土器は、早期から晩期までをそれぞれⅠ群からⅤ群とし、続縄文時代の土器はⅥ群、擦文時代の土器はⅦ群とした。この各群にアルファベットの小文字を組み合わせ、前半(a類)、後半(b類)あるいは前葉(a類)、中葉(b類)、後葉(c類)に分類した。また必要に応じて本文中に細分類を設けたものもある。文様の磨滅した破片、大きさの1cmにも満たないような小破片が多く、各群までの細分が困難なものも多くあった。出土遺物数の集計はできるかぎり各群までとした。各群までの記載は文様等の明らかな資料に限ってそのつど述べることにした。

ただしⅤ群土器とⅥ群土器では胴部の破片のみでは判別がつき難いため、集計はⅤ群、Ⅵ群をあわせたものとした。それに代わり滝里安井遺跡では各発掘区ごとの口縁部の破片を抽出し、個体数の把握に努めた。

Ⅰ群 縄文時代早期の土器群

a類：貝殻腹縁圧痕文、無文、条痕文、沈線文、貼付帯のある平底土器群

b類：東釧路Ⅱ式、同Ⅲ式、コッタロ式、中茶路式、東釧路Ⅳ式に相当する縄文、撚糸文、絡糸体圧痕文等の施された土器群

Ⅱ群 縄文時代前期の土器群

a類：縄文の施された円底、尖底を特色とする土器群

b類：円筒土器下層式、大麻Ⅴ式、植苗式に相当する土器群。またこの頃に相当するとみられる胎土に滑石が混入する無文あるいは縄文の施された土器、刺突文の施された土器、押型文土器、押し引き文の施された平底土器

Ⅲ群 縄文時代中期の土器群

a類：円筒土器上層式に相当する土器群と上層a、b式に併行すると見られる押形文の施された平底土器

b類：萩ヶ岡4式、柏木川式、モコト式、北筒式（トコロ6類）に相当する土器

Ⅳ群 縄文時代後期の土器群

a類：余市式、北筒（Ⅳ式、Ⅴ式）式、入江式、白坂3式に相当する土器

b類：ウサクマイC式、船泊上層式、手稲式、鯉潤式、エリモB式に相当する土器

c類：堂林式、三ツ谷式、御殿山式に相当する土器

Ⅴ群 縄文時代晩期の土器

a類：ママチ1類以前の土器、上ノ国式に類似の爪形文の施された土器

b類：ママチ1類、2類に相当する土器

c類：ママチ3類以降の土器、幣舞式、緑ヶ岡式に相当する土器

Ⅵ群 続縄文時代の土器

フシココタン下層式、興津式、宇津内Ⅱ群 a類に相当する前半期の土器と後北A式、後北C₂-D式に相当する後半期の土器

Ⅶ群 擦文時代の土器

(遠藤香澄)

(2) 石器等

石器の分類は、基本的に従来からの滝里遺跡群の分類を踏襲した。定型的な石器をⅠ～Ⅷ群に、石核・剥片をⅨ群とし、加工痕のある剥片や礫などをⅩ群としている。土製品や石製品については分類記号を用いなかった。未成品や破損品などについては全て「破片など」の中で数えている。また、たたき石と砥石については使用面が何カ所にも及ぶなど、従来の分類枠に収まりきれない資料もいくつか見られたため、「今後分類を必要とするもの」という分類枠を新たに加えた。

Ⅰ群 石鏃・石槍

- A類：石鏃
1. 石刃鏃
 2. 長身鏃
 3. 薄身鏃 a：柳葉形 b：五角形
 4. 三角鏃 a：平基 b：凹基
 5. 有茎鏃 a：平基 b：凹基 c：凸基
 6. 菱形鏃 a：正菱 b：偏菱
 7. 木葉鏃 a：尖基 b：円基
 8. 破片など

B類：石槍または両面加工のナイフ

1. 有茎
2. 菱形
3. 木葉形
8. 破片など

Ⅱ群 石錐

- A類：石錐
1. 棒状のもの
 2. 全体に二次加工が施されたもの
 3. 剥片の一部に機能部を作出したもの
 8. 破片など

4 遺物の分類

Ⅲ群 ナイフ・スクレイパー類

- A類：つまみ付きナイフ
1. 縦形で片面加工のもの
 2. 縦形で両面加工のもの
 3. 横形のもの
 8. 破片など
- B類：ナイフ類
1. ナイフ（柄部を持つもの）
 2. ナイフ類（両面調整加工により刃部を作出し、柄部を持たないもの）
 8. 破片など
- C類：スクレイパー
1. 石ベラと称されるもの
 2. 円形を呈し、周縁に刃部が設けられるもの
 3. 主に縦長で、下端部に刃部が設けられるもの
 4. 剥片の一側縁もしくは両側縁に刃部が設けられるもの
 5. 下端に尖る部分を持つもの
 6. えぐり込みを持つもの
 7. 素材の形状を大きく変えていないもの
 8. 破片など

Ⅳ群 石斧

- A類：磨製石斧
1. 撥形のもの
 2. 短冊形のもの
 3. 乳棒状のもの
 8. 破片など
- B類：石のみ
- C類：石斧製作に関わるもの
1. 研磨石材
 2. 石斧原材
 3. 擦り切り残片
 8. 剥片（蛇紋岩、片岩、泥岩など）

Ⅴ群 たたき石・台石類

- A類：たたき石
1. 棒状礫の一端、もしくは両端にたたき痕があるもの
 2. 扁平礫の周縁にたたき痕があるもの
 3. 扁平礫の腹・背面にたたき痕があるもの
 4. 亜円礫を素材とするもの
 5. 今後分類を必要とするもの
 8. 破片など
- B類：台石
1. 礫の平坦面に使用痕があるもの
 8. 破片など

Ⅵ群 すり石・石皿

- A類：すり石
1. 断面が隅丸三角形の礫の稜をすったもの
 2. 扁平礫の側縁をすったもの
 3. 扁平礫を半円状に粗く打ち欠き、弦をすったもの
 4. 北海道式石冠と称されているもの

- 5. 皿円礫を素材とするもの
- 8. 破片など
- B類：石皿
 - 1. 使用面が明瞭に凹んでいるもの
 - 2. 使用面が平坦なもの
 - 8. 破片など
- Ⅶ群 石鋸・砥石
 - A類：石鋸
 - 1. 石鋸
 - 8. 破片など
 - B類：砥石
 - 1. 研磨面に溝があるもの（矢柄研磨器など）
 - 2. 板状のもの
 - 3. 角柱状のもの
 - 4. 今後分類を必要とするもの
 - 8. 破片など
- Ⅷ群 石錘
 - A類：石錘
 - 1. 打ち欠きが2カ所のもの
 - 8. 破片など
- Ⅸ群 石核・剥片
 - A類：石核・原石
 - 1. 石核
 - 2. 石器原石と考えられるもの
 - B類：剥片・碎片
- Ⅹ群 加工痕のある剥片や礫など
 - A類：加工痕のある剥片（Rフレイク）
 - B類：意図の不明な加工痕のある礫

(影浦 覚)

IV 滝里安井遺跡の調査

1 調査の概要

滝里安井遺跡は空知川の右岸に位置し、支流であるポシルベシュベ川によって形成された沖積錐の末端部に位置する。標高は135～140mである。ダム建設工事以前は遺跡の南側は宅地や畑、北側は水田として利用されていた。このため地形が改変され、上位の包含層では削平されている部分もあるが、沖積錐の厚い土砂によって包含層が保護されており、遺跡の保存状態は比較的良好であった。

平成8・9年度の2か年にわたって調査を行い、平成8年度は遺跡の南西側、平成9年度は北東側の調査を行った。トレンチ調査等の結果、最終的に3層の包含層が確認された。各包含層の間には厚い河川堆積の砂礫層があり、これを重機によって取り除いた。また、南西側の水田および宅地の部分は削平されていたため、重機を併用して調査を行った。遺跡の南東側はトレンチ調査の結果、ポシルベシュベ川に落ち込む沢地形となっており、包含層がこの沢地形に落ち込んでいることが確認された。遺物がほとんど出土せず、常時冠水することから調査対象外とした。また、遺跡の北東側ではⅡ-1層で遺物が多く出土し、遺物の拡がり予想されたためⅡ-1層の調査範囲を拡張した。

遺物包含層は上位からⅡ-1層（縄文晩期から続縄文）、Ⅱ-A層（縄文中期から後期）、Ⅱ-B層（前期から中期）である。標高136～137mの間でⅡ-1層とⅡ-A層が収束しているため1つの層となっている。水田として利用されていた部分ではⅡ-1層は水田の造成によって斜面の上位が削平を受けている。Ⅱ-1層の遺物分布図（Ⅳ-64）にもその傾向が表れ、遺物分布が帯状になっている。

2か年で検出された遺構は、土壙37基、集石6カ所、石囲い炉7カ所、焼土50カ所、灰集中1カ所、小柱穴69カ所である。以下各層の遺構および遺物の特徴を述べる。

Ⅱ-B層からは集石1カ所、焼土13カ所の遺構が検出された。遺構は調査区中央部分の平坦面にまとまって確認されている。S-3では板状礫を使用した石皿や断面三角形のすり石、北海道式石冠などが出土している。Ⅱ-B層の遺物出土範囲は9年度調査区の3段目水田跡よりも南側である。土器は押型文の施されたものが出土している。石器では両頭石器や石槍の柄の先端部の両側縁にえぐり

表Ⅳ-1 出土遺物一覧

名 称	点 数		名 称	点 数		名 称	点 数		名 称	点 数	
	遺構	包含層		遺構	包含層		遺構	包含層		遺構	包含層
I群土器		2	石 鍬	139	784	石線製作に関するもの		213	原 石		28
Ⅱ群土器	1	1,663	石 槍		162	たたき石	19	166	剥 片	642	65,911
Ⅲ群土器		2,855	石 錐	1	33	台 石	30	93	Rフレイク	9	277
Ⅳ群土器	15	7,662	つまみ付ナイフ		109	すり 石	11	77	加工痕のある礫		240
V群土器	552	90,866	ナイフ・ナイフ類	9	313	石 皿	25	53	土・石製品		30
Ⅵ群土器	96		スクレイパー	25	1,111	石 鋸	1	1	礫・礫片	481	994
不明土器		111	石 斧	6	395	砥 石	17	37	琥珀製平玉	3,262	
			石 の み		16	石 核	2	63	玉(カンラン岩)	10	
合 計	664	103,159	合 計							4,689	71,106

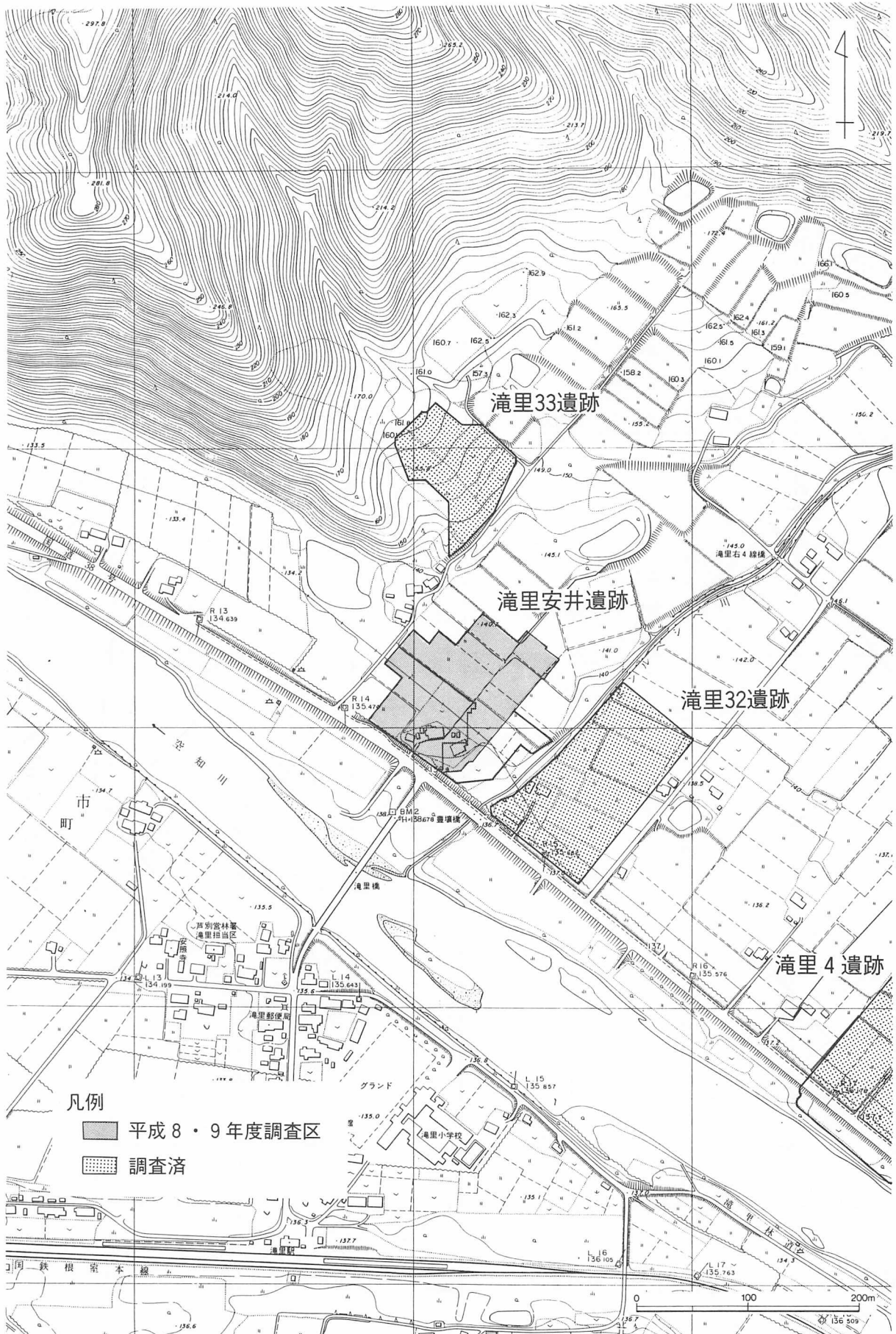
1 調査の概要

のあるものが出土している。8年度に1・2段目水田跡でⅡ層出土として取り上げたものはこの時期のものと考えられる。Ⅱ-A層からは集石3カ所、小柱穴69カ所、焼土1カ所、灰集中1カ所の遺構が検出した。小柱穴群はⅡ-A層調査後に精査したところ、直径18cmほどの黒色粘土の落ち込みが多数検出されたもので、調査区東側の旧河川跡には含まれる位置であった。小柱穴の一つからは柱痕が出土し、材質はカエデであった。小柱穴は規則的配列などは認められなかったが、河川に関係する遺構と思われる。また、旧河川跡からは2本の加工痕の見られる材が並んで出土している。Ⅱ-A層の遺物は調査区の中央部付近に集中する傾向がある。土器はⅢ群（円筒上層式）やⅣ群（余市式・堂林式・三ッ谷式）が出土している。石器は、石皿・台石が多い。トロニウム岩を主に使用するもので、周縁部を打ち欠いて楕円形に整形をするものが多く出土している。石皿では使用面に深い溝状の刻みをつけることも特徴の一つである。オロシガネ状石製品が滝里遺跡群の調査で初めて出土している。長さ18cmでかなり大きいものである。

Ⅱ-1層には土壙37カ所、集石2カ所、石囲い炉7カ所、焼土36カ所が検出された。土壙はⅡ層検出のものがほとんどであるが、出土遺物などの状況から縄文時代晩期から続縄文時代のものと考えられる。土壙は主に立地から3カ所ほどのまとまりがみられ、これを第Ⅰ群～第Ⅲ群とした。第Ⅰ群土壙群は調査区南西側の平坦部に位置し、8基の円形の土壙で構成される。第Ⅱ群土壙は調査区中央の南側の旧河川跡縁辺に位置する。16基で構成され、小型の円形のもの、長径1mを越える楕円形のものがあり多くの遺物が出土するものがある。P-10からは鉢形土器や壙底部の壁際から100点を越える黒曜石製の大型フレイクがまとまって出土し、P-15からは100点を越える石鏃やナイフ、石斧、黒曜石の原石が出土し、P-25からは琥珀やカンラン岩の玉が出土した。出土する遺物は多種にわたり、豊富であるという特徴がある。第Ⅲ群土壙は調査区北東側の緩やかな斜面に位置する。11基で構成され、円形や楕円形のものである。また、P-1、P-22は単独で検出された楕円形の土壙である。P-1からは黒曜石製石器類とともに壙底からベンガラが検出されている。P-22からは壙底部に3,200点を越える琥珀製平玉がまとまって出土している。石囲い炉、集石、焼土は調査区北東側の緩やかな斜面に集中して検出された。石囲い炉は3基が1列となっているものが2列と単独のものが1基検出されている。この付近は包含層の遺物の出土量も多く、このような生活遺構も多いことから当時の生活面であったと考えられる。Ⅱ-1・Ⅱ層の遺物出土範囲は削平された部分を除く調査区全域である。土器はⅤ・Ⅵ群の土器が出土し、全体の9割を占める。平成10年度に調査予定の旧国道の道路際の包含層からは後北式土器が出土している。石器は9割以上がこの層からの出土である。

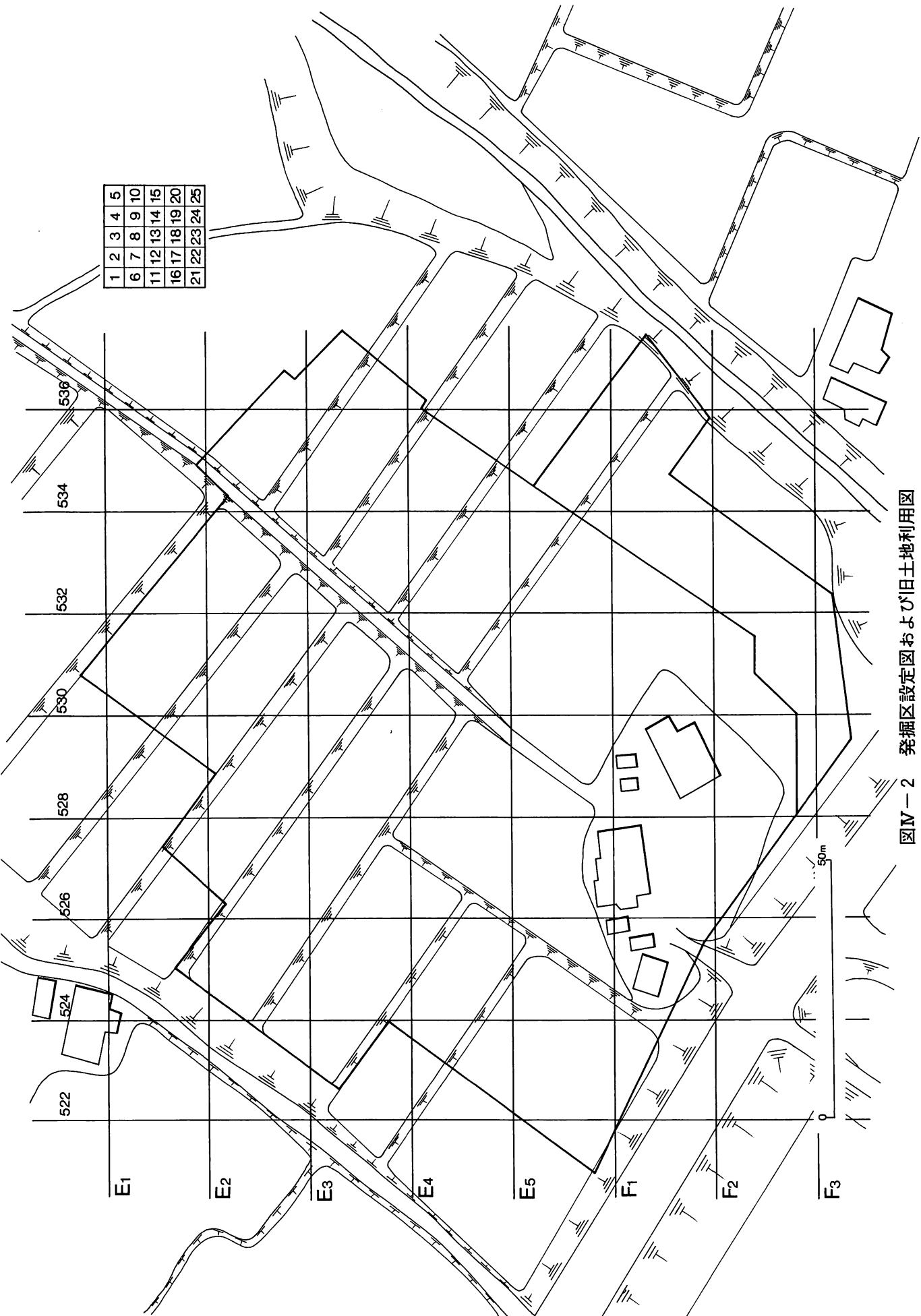
出土遺物の総点数は174,265点である。内訳は土器103,159点、石器71,106点となる。遺物の大半はⅡ-1層からの出土である。細かな分類に関しては表Ⅳ-1のとおりである。土器は大半が縄文時代晩期から続縄文時代のものである。石器は黒曜石のフレイクが95%を占める。剥片石器では有茎鏃、三角鏃、不定形のスクレイパーが多い。石材はほとんどが黒曜石であるが、つまみ付きナイフや石錐などは例外的に頁岩の割合が高かった。礫石器では石斧とその未製品が多く出土している。

(酒井秀治)

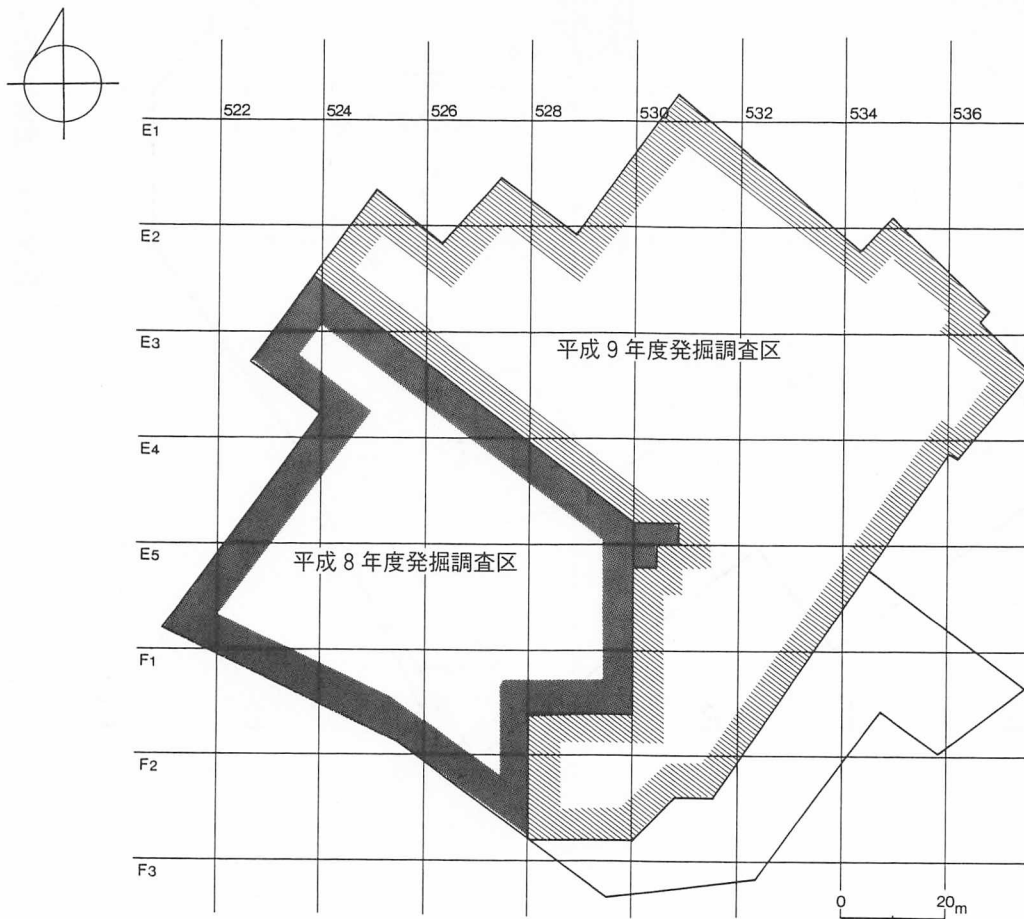
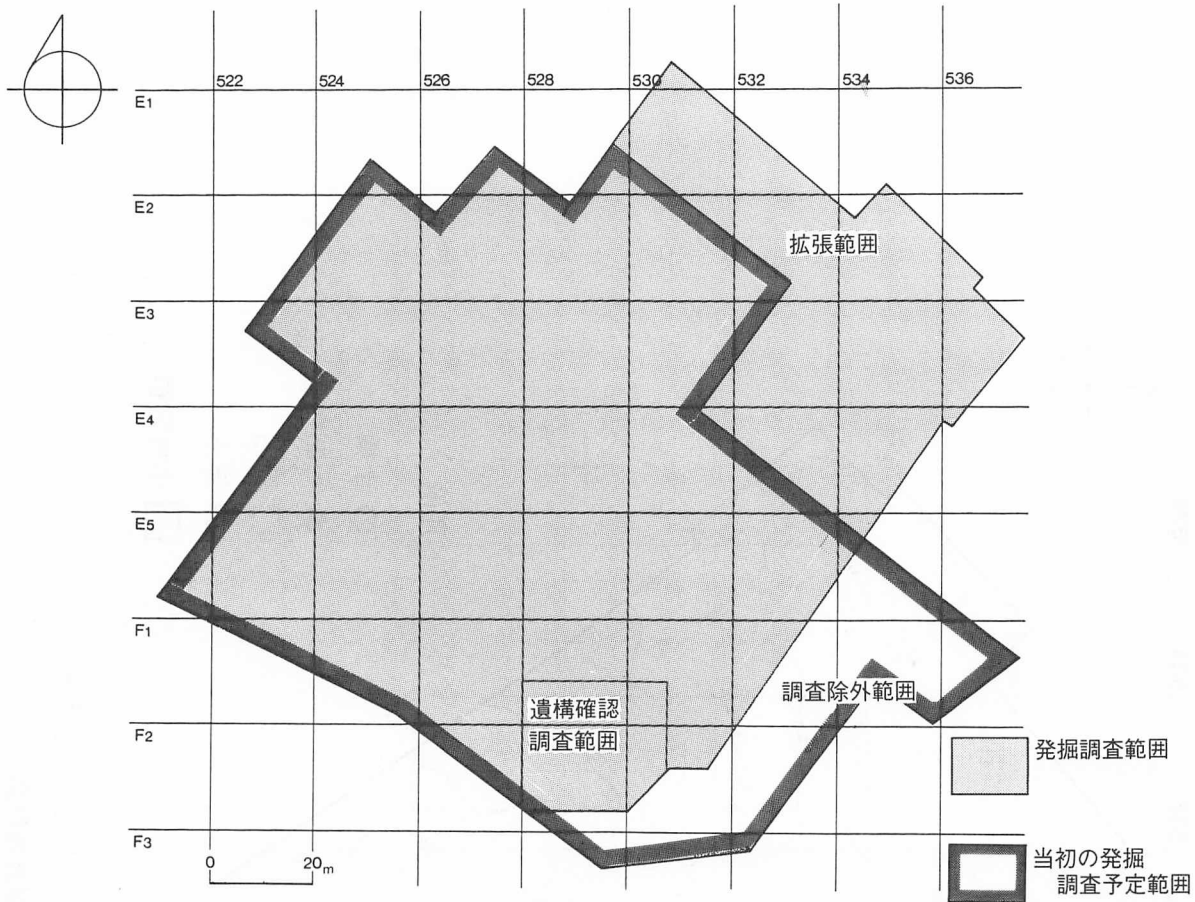


図Ⅳ-1 遺跡の位置図

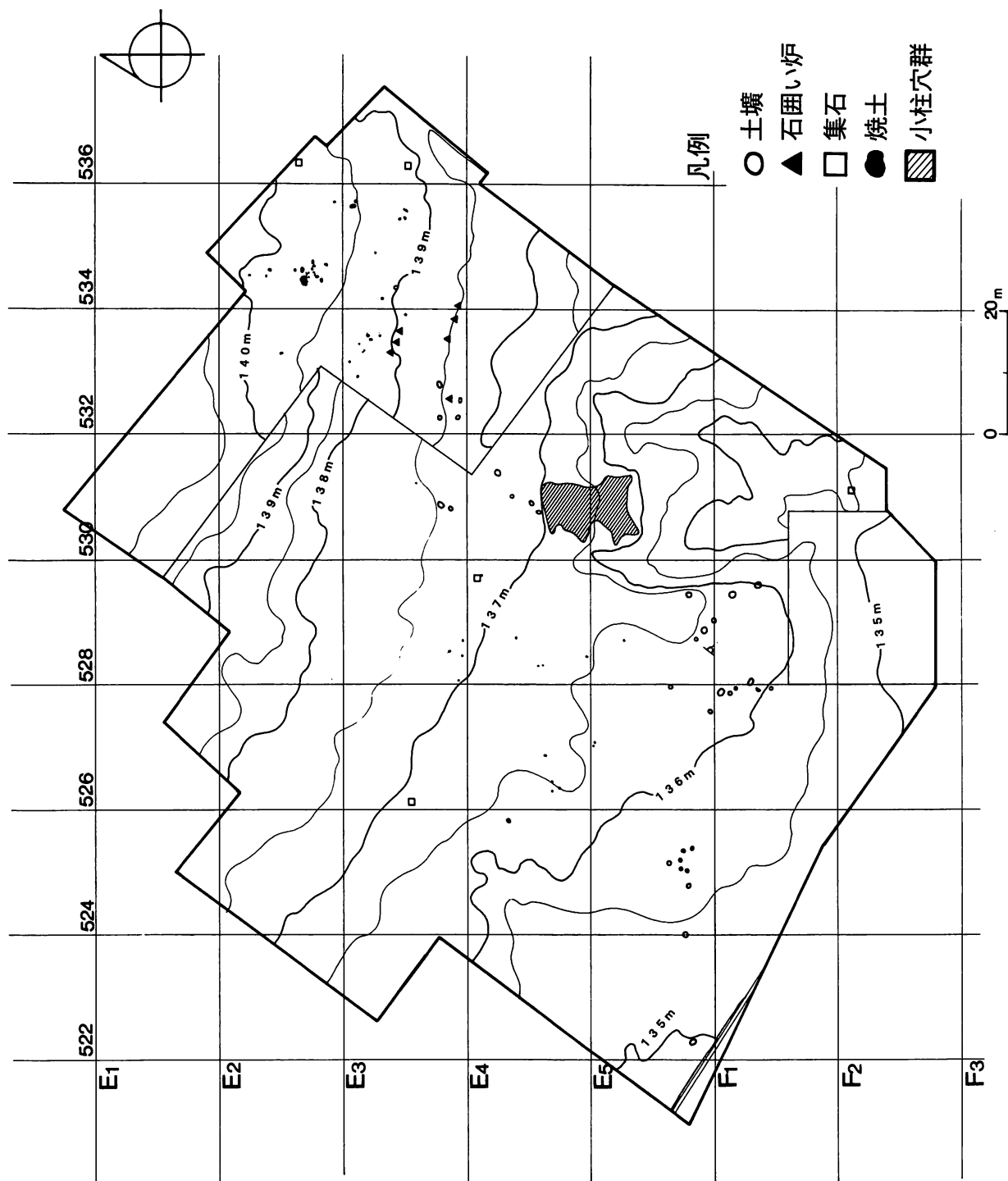
1 調査の概要



図IV-2 発掘区設定図および旧土地利用図



図IV-3 調査の方法・年度別調査区



図IV-4 遺構位置図と最終地形面

2 基本土層

滝里安井遺跡における基本的な層序は以下の通りである。

I 層： 耕作土、盛土。

砂礫層： 黄褐色砂礫層。河川堆積物。調査区北側でみられる。

II-1層： 黒色土層。ポロポロしている。調査区南側ではII-A、II-B層と1層となる。
縄文時代晩期から続縄文時代の遺物包含層である。

砂礫層： 黄褐色砂礫層。調査区北側でみられる。最大厚は80cmほどで粘土層もみられる。頁岩起原の2～4cmの小礫が主体で、河川の影響により後背の山から押し出されたものと考えられる。

II-A層： 黒色土、黒褐色土。粘質。縄文時代中期から後期末の遺物包含層である。

砂層： 黄褐色粘土層。河川堆積物。南東部の旧河川部近くで消滅する以外は調査区全体にみられる。

II-B層： 黒褐色土、褐色土層。粘質。縄文時代前期から中期の遺物包含層である。

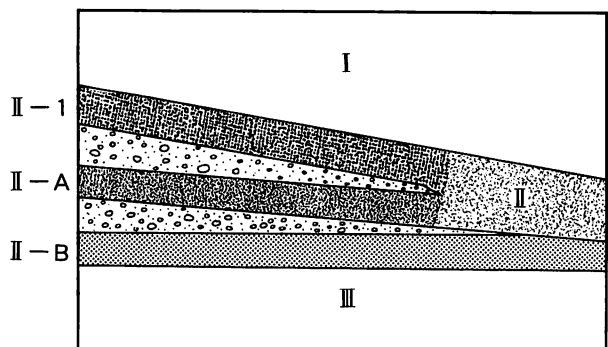
III層： 黄褐色粘土層。粘質。

トレンチ調査においてI層下の黒色土をII層として扱った。その後調査区南西部の調査でII層下に褐色土層を確認したため、2層に分かれる部分はII-A層、II-B層と呼称した。さらに調査区北側においてII層が砂層により、分層されることが確認されたため上部層をII-1層と呼称した。II層は基本的にはII-1層とII-A層の合わさった層である。

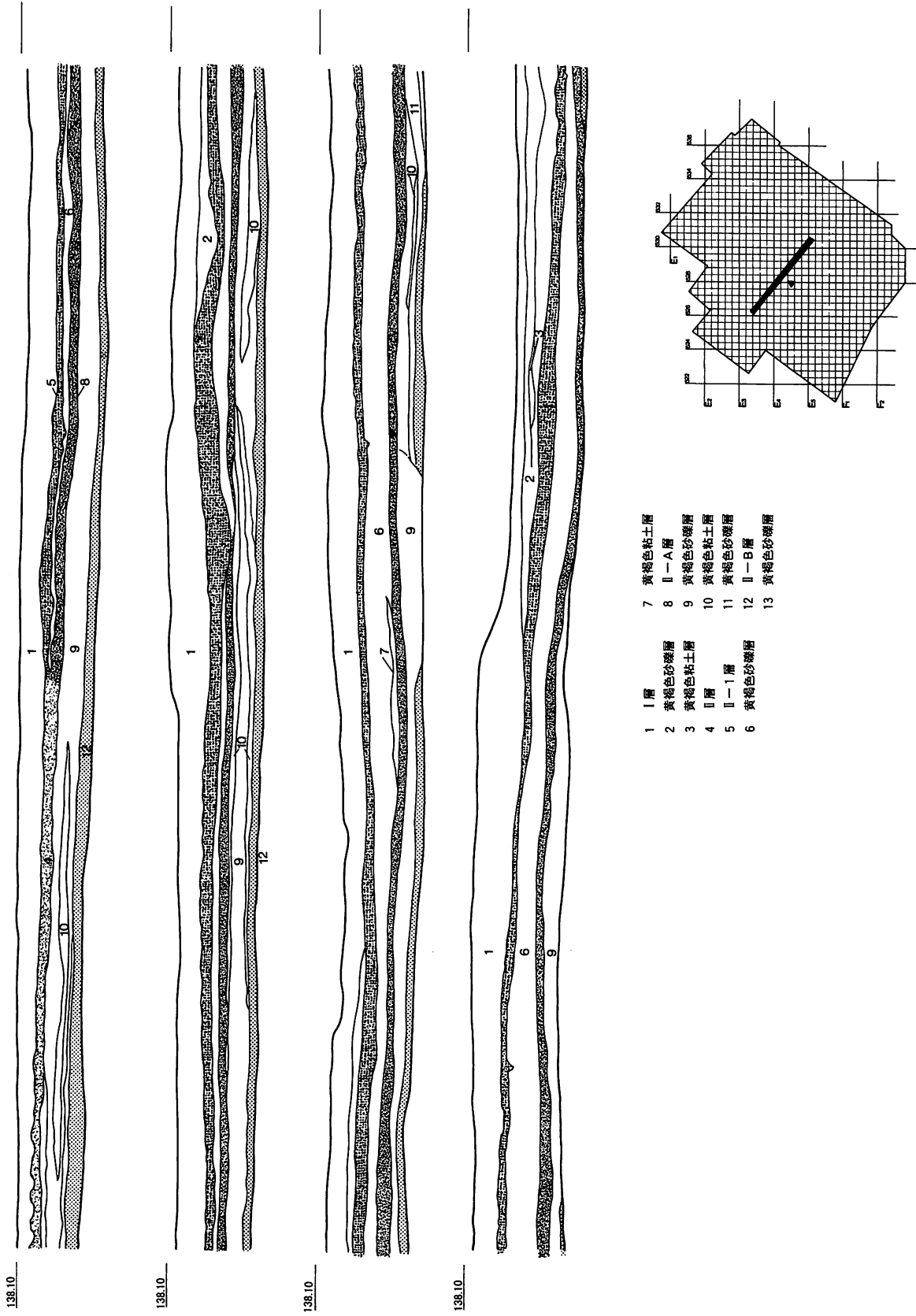
調査区南端で重機によりIII層上面から2m程、土層確認のため掘り下げた。黄褐色土の粘土層と砂層との互層に堆積しており、遺物包含層は確認されなかった。(愛場和人)

東地区沢地形

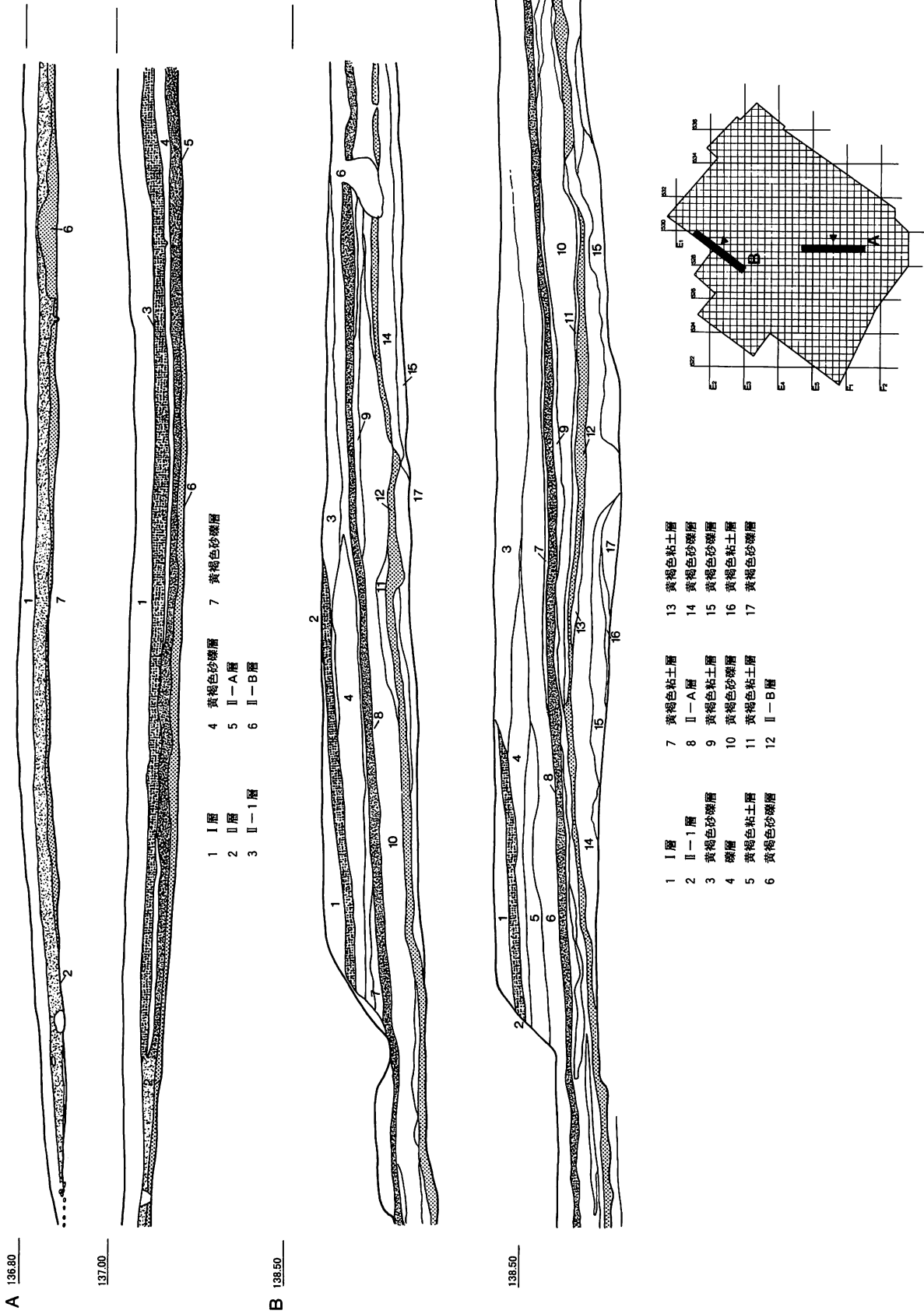
E₅-530区から534区にかけての東地区において、トレンチ調査を行ったところ、II-A層の急激な落ち込みがみられ、沢地形として確認された。落ち込みの深さは約1m。沢底の幅は4m以上に及ぶ。II-A層は沢の西側縁辺において、一部連続しないところがあるが、これは水流の影響によって削られたと考えられる。沢地形の堆積状況はグライ化したII-A層を緑灰色の砂利層が挟み、その上を灰色粘土層が覆っている。緑灰色の砂利層中からは、腐食しきっていない状態で樹木片が多く検出された。上位の遺物包含層であるII-1層がほぼ水平に堆積していることから、この沢地形はII-1層形成までの期間に、湿地化し埋没したものと推測される。なお、このトレンチ調査の結果を元に、重機と人力を併用して調査を進めたところ、沢は532ラインと534ラインの間を緩やかに蛇行しながら、空知川の方へ下っていくことが明らかになった。また、沢地形にかかるII-A層は流れ込みの遺物を包含している可能性があった。これによりII-A層の精査を集中的に行ったところ、沢の西側縁辺から木製品と思われる杭状の遺物が3本検出した。(影浦 覚)



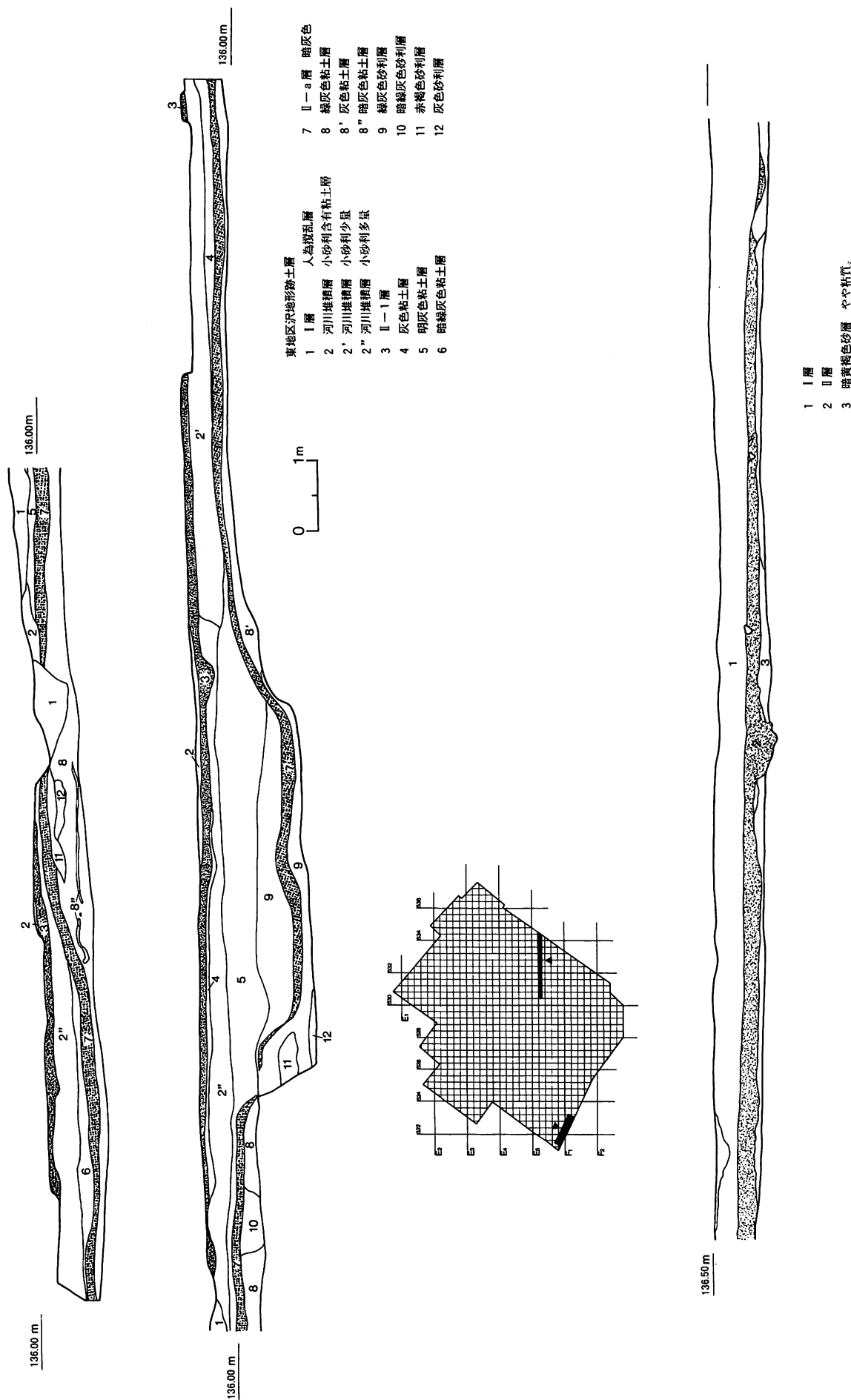
図IV-5 基本土層概念図



圖IV-6 土層断面图(1)



図IV-7 土層断面図(2)



図IV-8 土層断面図(3)

3 遺構と遺構出土の遺物

平成8、9年度の滝里安井遺跡の調査で検出された遺構は、土壙37基、集石6カ所、石囲い炉7カ所、焼土50カ所、灰集中1カ所、小柱穴69カ所である。各層の遺構は以下のとおりである。

II-B層 集石1カ所、焼土13カ所

II-A層 集石3カ所、小柱穴69カ所、焼土1カ所、灰集中1カ所

II-1層 土壙37カ所、集石2カ所、石囲い炉7カ所、焼土36カ所

II-B層・II-A層の遺構は時期を推定できる遺物が少なく、時期の特定は困難である。II-1層の遺構については、遺物などから縄文時代晩期から続縄文時代の時期と推定している。(愛場和人)

(1) II-B層の遺構と遺物

II-B層の遺構は標高136~138m、調査区中央の平坦面にまとまっている。このまとまりの北側には旧河道跡がある。遺構はS-3以外はすべて焼土である。焼土は小さく、石皿、砥石などの礫石器や礫を伴うものが多い。出土遺物から時期を推定できるものは少ない。

S-3からは礫石器、礫片が集中して検出された。板状礫を利用した石皿、断面三角形のすり石や、北海道式石冠などが出土している。

1) 集石

S-3 (図IV-10、図版-26)

位置：E₄-528-4・5・9・10 規模：4.52×2.54m

出土遺物：たたき石16点、台石11点、すり石6点、石皿19点、石鋸1点、砥石1点、
礫・礫片166点

調査区中央部に位置する。II-A層調査中に大形の板状礫片が集中して検出されたため土層確認用のトレンチを設定し、調査を進めた。土層を確認したところ、礫片はII-A層直下のII-B層上にあることがわかった。礫片は4×2.5m程の範囲にわたってひろがっており、多くは石皿、台石で構成されている。またすり石、たたき石、砥石、石斧、多量のフレイクなどがこの範囲に散布し、焼土も確認されている(F-13)。

1・2は断面三角形のすり石。2は被熱している。3はいわゆる北海道式石冠。4~8はたたき石。4・5は1側縁に敲き痕があるもの。すり石として使用される前段階のものかもしれない。6は側縁に敲き痕がある。平滑面中央のくぼみは回転痕と考えられる。7の石材は緑色泥岩。両端と1側縁が調整され、2側縁に敲き痕がある。8は割れ面の角を調整しているが、敲き痕は側縁のみにみられる。9は砥石。被熱している。10は石鋸。1面が擦られている。11は石皿。石材は砂岩である。大型の板状の素材を打ち割って使用している。(愛場和人)

2) 焼土

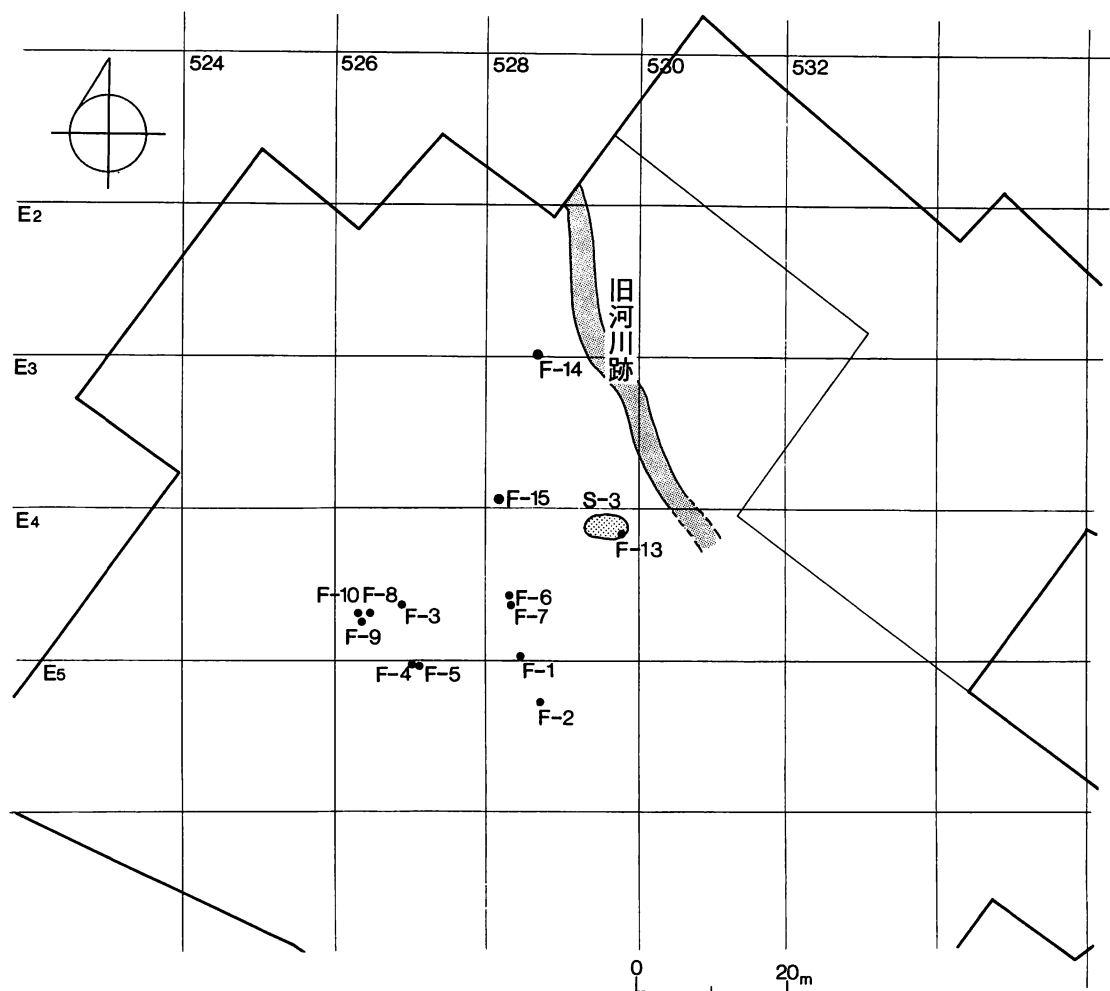
F-1 (図IV-12)

位置：E₄-528-22 規模：0.47×0.38/0.04m

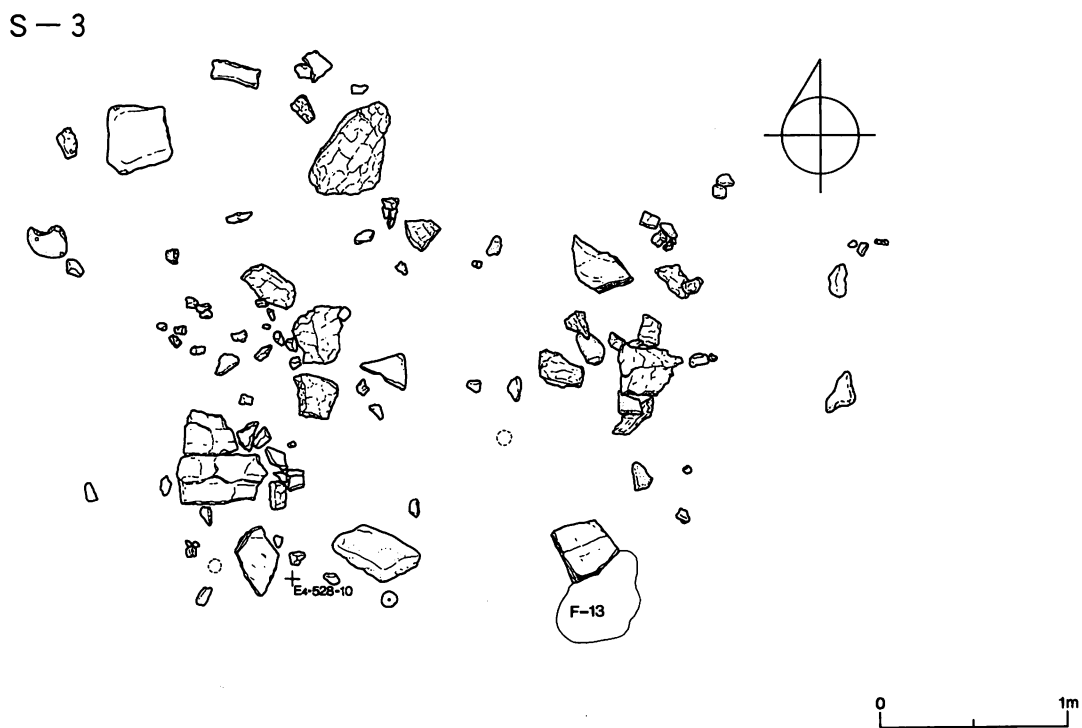
出土遺物：なし

F-8・9と近接している。傍らに礫を伴う。

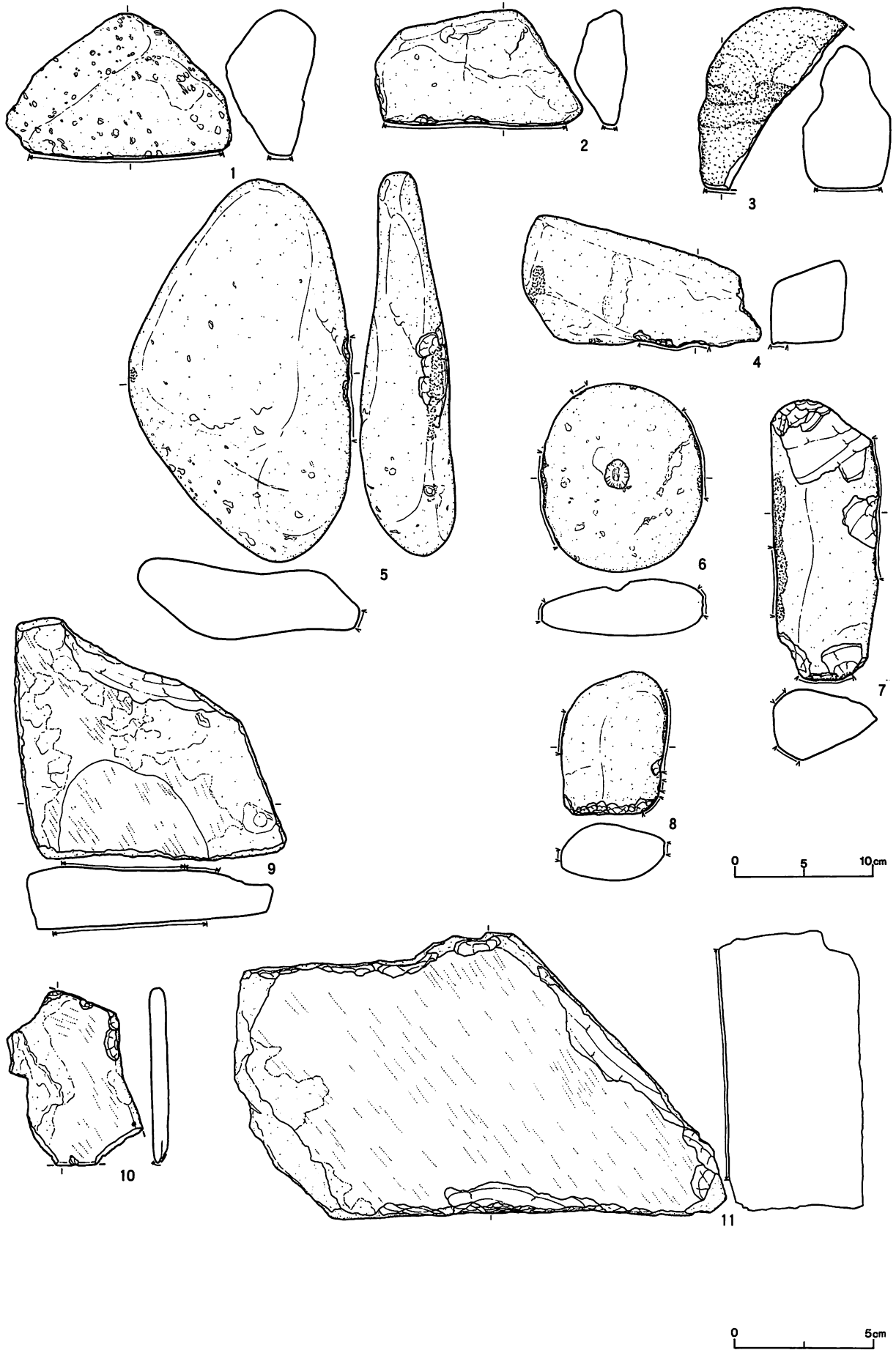
3 遺構と遺構出土の遺物



図Ⅳ-9 II-B層の遺構位置図



図Ⅳ-10 S-3



図IV-11 S-3出土遺物

3 遺構と遺構出土の遺物

F-2 (図IV-12)

位置：E₅-528-8 規模：0.41×0.28/0.03m

出土遺物：なし

焼土のまとまりの中でもっとも南側に位置する。層厚は非常に薄い。

F-3 (図IV-12)

位置：E₄-526-18 規模：0.48×0.35/0.06m

出土遺物：なし

F-4 (図IV-12)

位置：E₅-526-3 規模：0.19×0.15/0.04m

出土遺物：なし

F-5と並んで検出された。

F-5 (図IV-12)

位置：E₅-526-3 規模：0.26×0.19/0.05m

出土遺物：なし (図IV-12)

F-4と並んで検出された。

F-6 (図IV-12)

位置：E₄-528-11 規模：0.27×0.25/0.05m

出土遺物：なし (図IV-12)

F-7のすぐ近くで検出された。周囲には大型の板状礫がある。

F-7 (図IV-12)

位置：E₄-528-16 規模：0.39×0.30/0.07m

出土遺物：大型礫

F-6のすぐ近くで検出された。周囲には大型の板状礫がある。

F-8 (図IV-12)

位置：E₄-526-17 規模：0.46×0.33/0.01m

出土遺物：礫

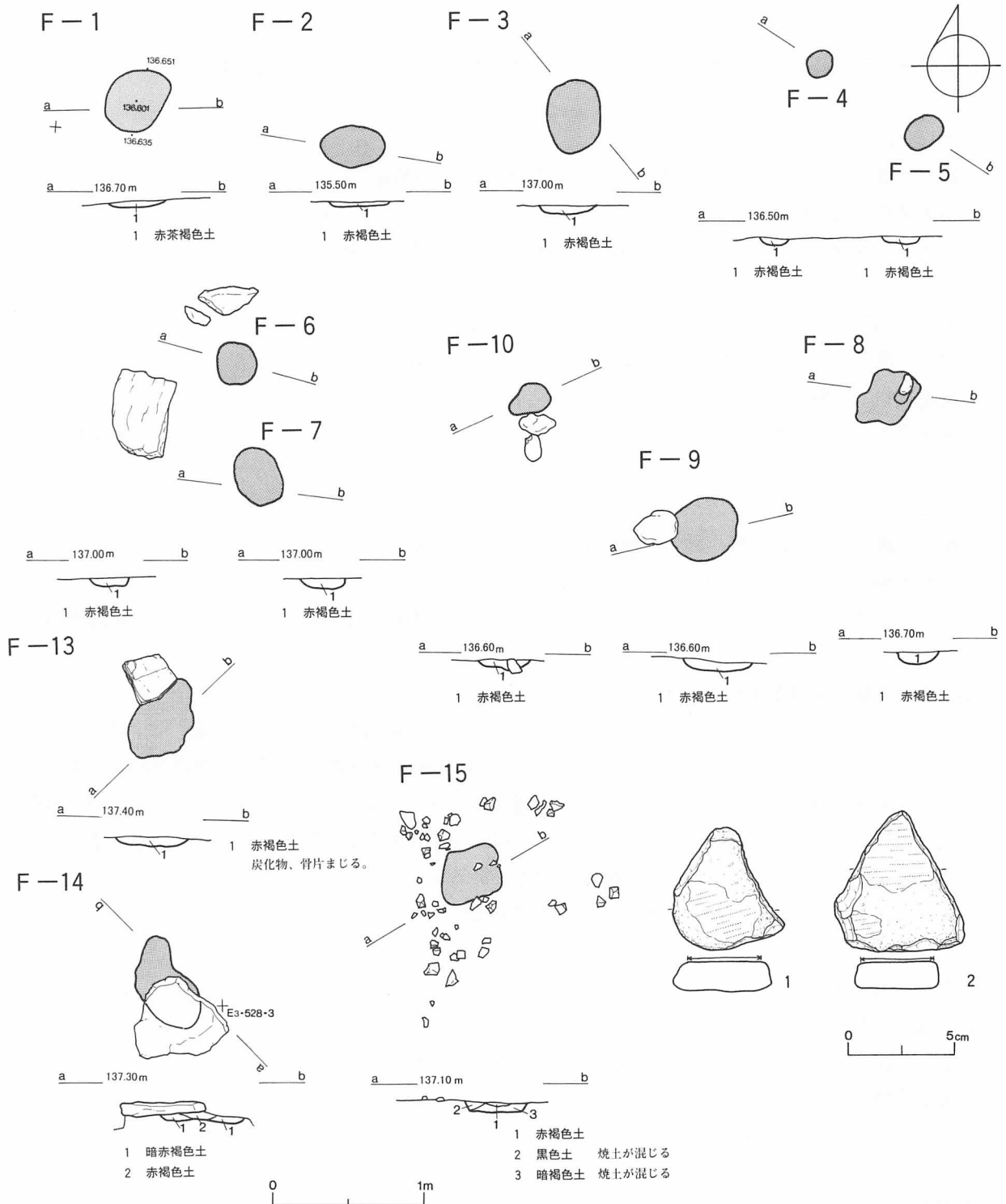
F-9・10と近接している。焼土中に礫がある。

F-9 (図IV-12)

位置：E₄-526-16 規模：0.46×0.39/0.08m

出土遺物：礫

F-8・10と近接している。礫を伴う。



図IV-12 F-1~10、13~15と出土遺物

3 遺構と遺構出土の遺物

F-10 (図IV-12)

位置：E₄-526-16 規模：0.27×0.19/0.07m

出土遺物：礫

F-8・9と近接している。傍らに礫を伴う。

Ⅱ層調査中に確認した。焼土からはずれた位置に礫がまとまってある状況であった。

F-13 (図IV-12)

位置：E₄-528-5・10 規模：0.59×0.35/0.06m

出土遺物：大型礫

S-3の範囲内で検出された。大型の板状礫が焼土直上から出土している。

F-14 (図IV-12)

位置：E₂-528-22 規模：0.64×0.33/0.13m

出土遺物：石皿

焼土直上から石皿が出土している。

(愛場和人)

F-15 (図IV-12、図IV-27-6)

位置：E₃-528-21 規模：0.42×0.40/0.03m

出土遺物：すり石3、砥石11、フレイク4、礫

周囲に多数の礫が散在している。1・2は砂岩製の板状の砥石である。

(酒井秀治)

(2) Ⅱ-A層の遺構と遺物

集石3カ所、小柱穴69カ所、焼土1カ所、灰集中1カ所の遺構が検出されている。遺構はS-2を除き標高137m付近から検出されている。S-2は旧河川跡南側の標高134.5mで検出されている。付近からは遺構・遺物は検出されなかった。出土遺物から時期を特定できるものはすくない。小柱穴群は旧河川部に挟まれた標高136~137m付近から直径18cmほどの円形の黒色粘土の落ち込みがまとまって確認された。小柱穴の1つからは柱痕が出土している。

また板状を呈する炭化材が数カ所で検出されている。

1) 焼土等

F-12 (図IV-14)

位置：E₃-528-22 規模：0.56×0.48/0.07m

出土遺物：なし

Ⅱ-A層上面から検出された。

灰集中 (図IV-14、図IV-27-3・4)

位置：E₃-528-18 規模：0.48×0.38/0.09m

出土遺物：なし

Ⅱ-A層上面から検出された。灰と思われる乳白色の粒子がかたまって検出された。周囲には焼成粘土塊が数カ所見られる。

(酒井秀治)

2) 集石

S-1 (図IV-14、図IV-25-3・4)

位置：E₃-526-11 規模：0.80×0.48m

平面形：長方形 出土遺物：なし

調査区西側に位置する。10cmほどの円礫が長方形に置かれている。周辺には礫が広い範囲で分布している。 (愛場和人)

S-2 (図IV-14、図IV-25-5)

位置：F₂-530-3 規模：0.71×0.64m

出土遺物：礫・礫片86

旧河川部南側を確認するためにF₂ラインに重機で入れたトレンチのII-A層調査中に握りこぼし大の礫が円形に集まっているのが検出された。礫は河原石で砂岩が大半を占める。標高は134.5mである。

S-4 (図IV-14、図IV-25-6)

位置：E₃-526-4 規模：0.97×0.54m

出土遺物：すり石2、加工痕のある礫1、Rフレイク1、片岩フレイク1、礫・礫片33

調査区西側に位置する。握りこぼしほどの大きさの角礫が楕円形状に集中している。1は、敲打痕のみられる礫である。 (酒井秀治)

3) 小柱穴群 (図IV-15・16、図版IV-31)

位置：E₄-530-17・18・19・21・22・23、E₅-530-2・3・7・8・9・12

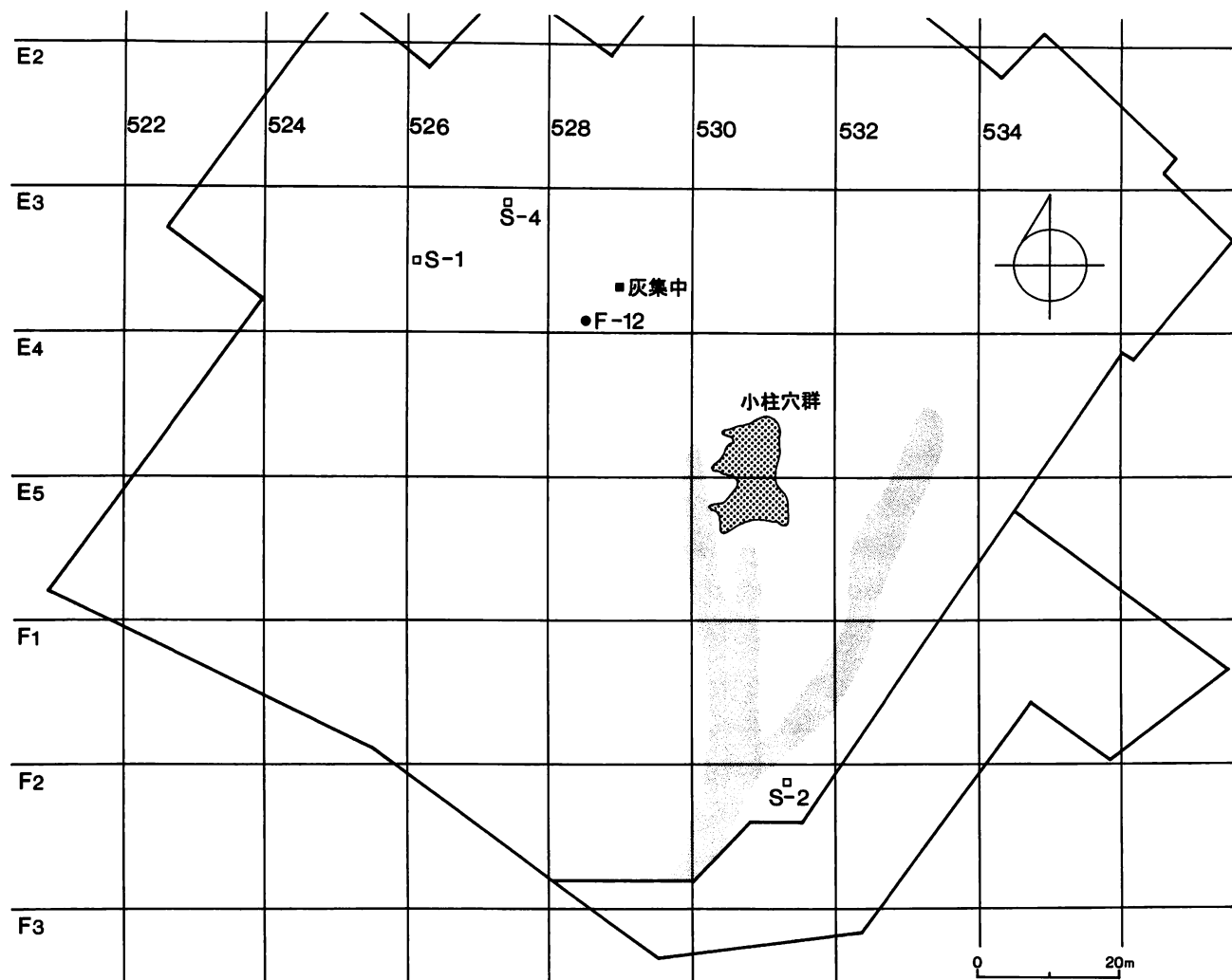
遺物：柱痕1 (HP-34)

調査区東側、標高136~137mの旧河川跡に挟まれた位置で、II-A層を調査後に精査したところ直径18cmほどの円形をした黑色粘土の落ち込みを多数検出した。調査の結果そのうちの69カ所が柱穴様のピットである確認した。小柱穴はII-A層直下の砂礫層を掘り抜いて構築されており、数カ所ではその下のII-B層に届いているものもあった。覆土はII-A層の黑色土とほとんど変わらず、褐色の粒子を含むものであった。HP-34では柱痕が残存しており、材質はカエデである。この柱痕は¹⁴C年代測定を依頼した。1,940±120年前という結果が出ている。その他からは遺物は検出されなかった。

柱穴群を検出した位置は調査区東側の旧河川跡に挟まれる位置であり、河川に関係する遺構と思われるが、規則的な配列などは認められなかった。この付近からは加工痕の確認できる材が2本出土しており、小柱穴群とのなんらかの関係がある可能性もある。 (酒井秀治)

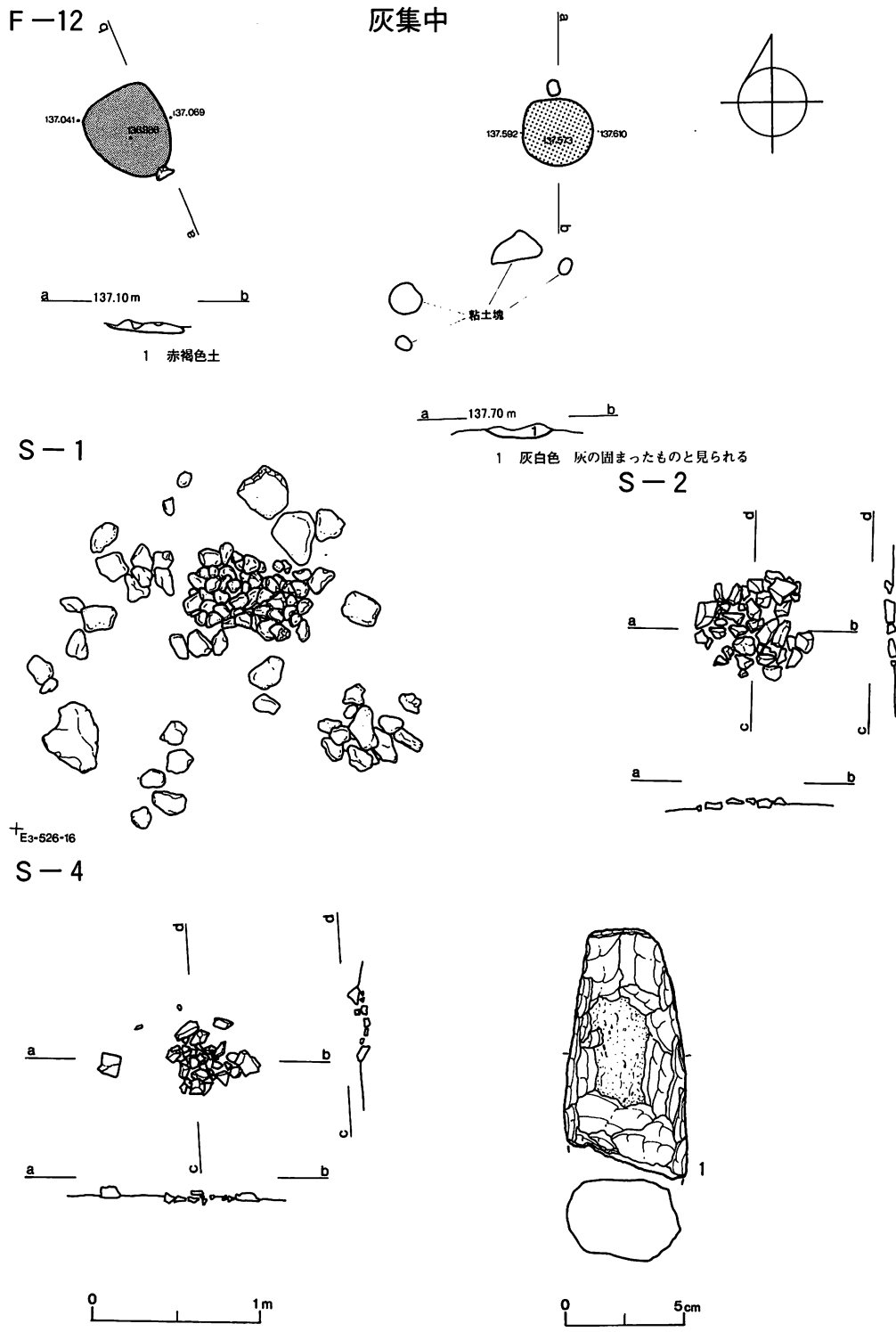
木製品について (図IV-17、図版IV-36)

木製品はII-A層調査中に、旧河川跡の河縁斜面の青粘土層より2本隣接して出土した。はじめは周囲ですでにみられた立木の木根や倒木などの自然木と考えて調査を進めていた。しかし、木根や枝がみられず、比較的まっすぐであることから、木製品の可能性を考え、慎重に輪郭を出していった。他にも同様のものがないか周辺を精査したが確認されなかった。2本とも腐朽や摩耗が著しいため全体の観察が難しかった。木製品の大きさは1が長さ173cm、径13cm。2が長さ210cm、径20cmである。1は表皮側から横木取りされており、年輪が切断されている。その断面形状から梁や桁等の構築材と

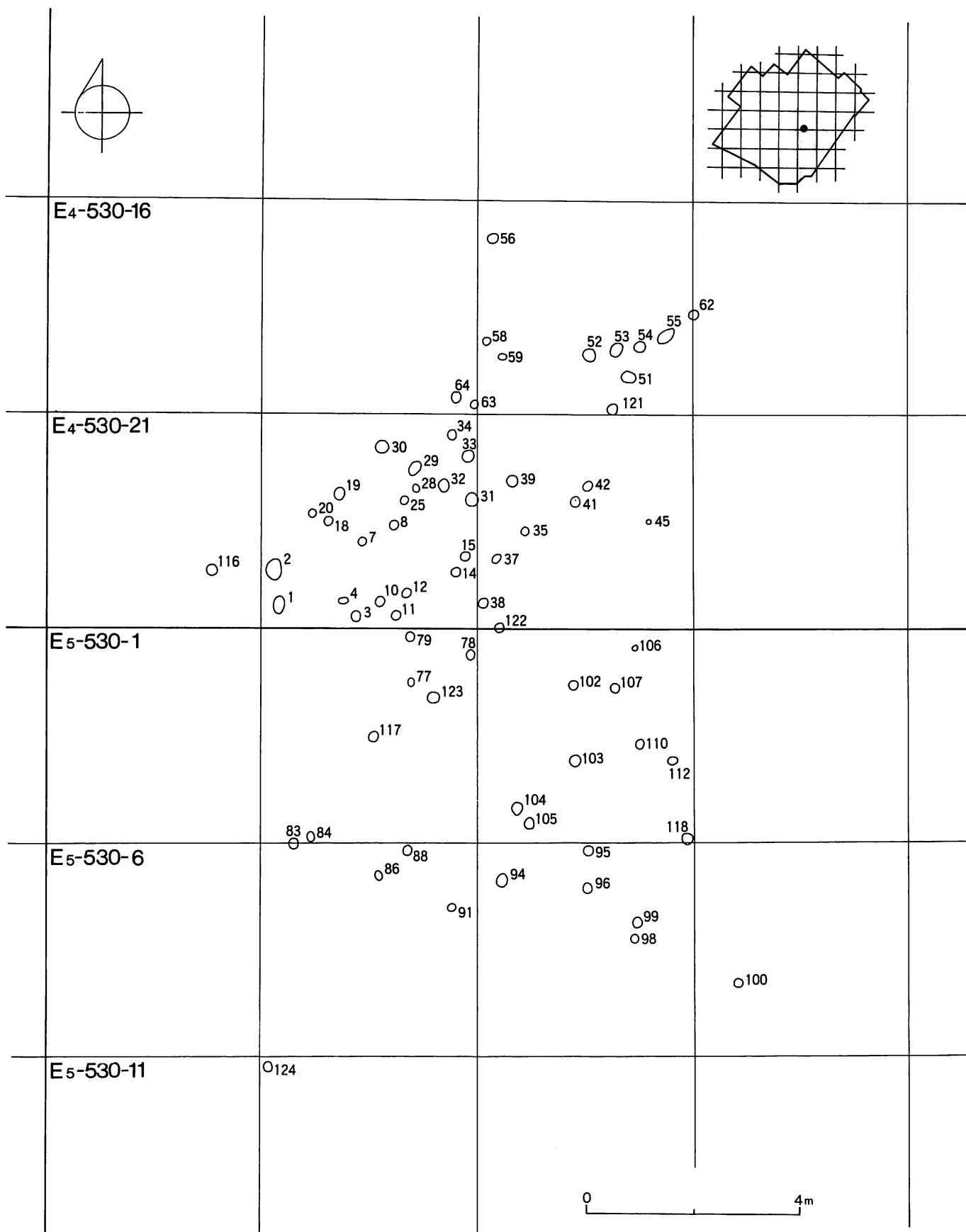


図IV-13 II-A層の遺構位置図

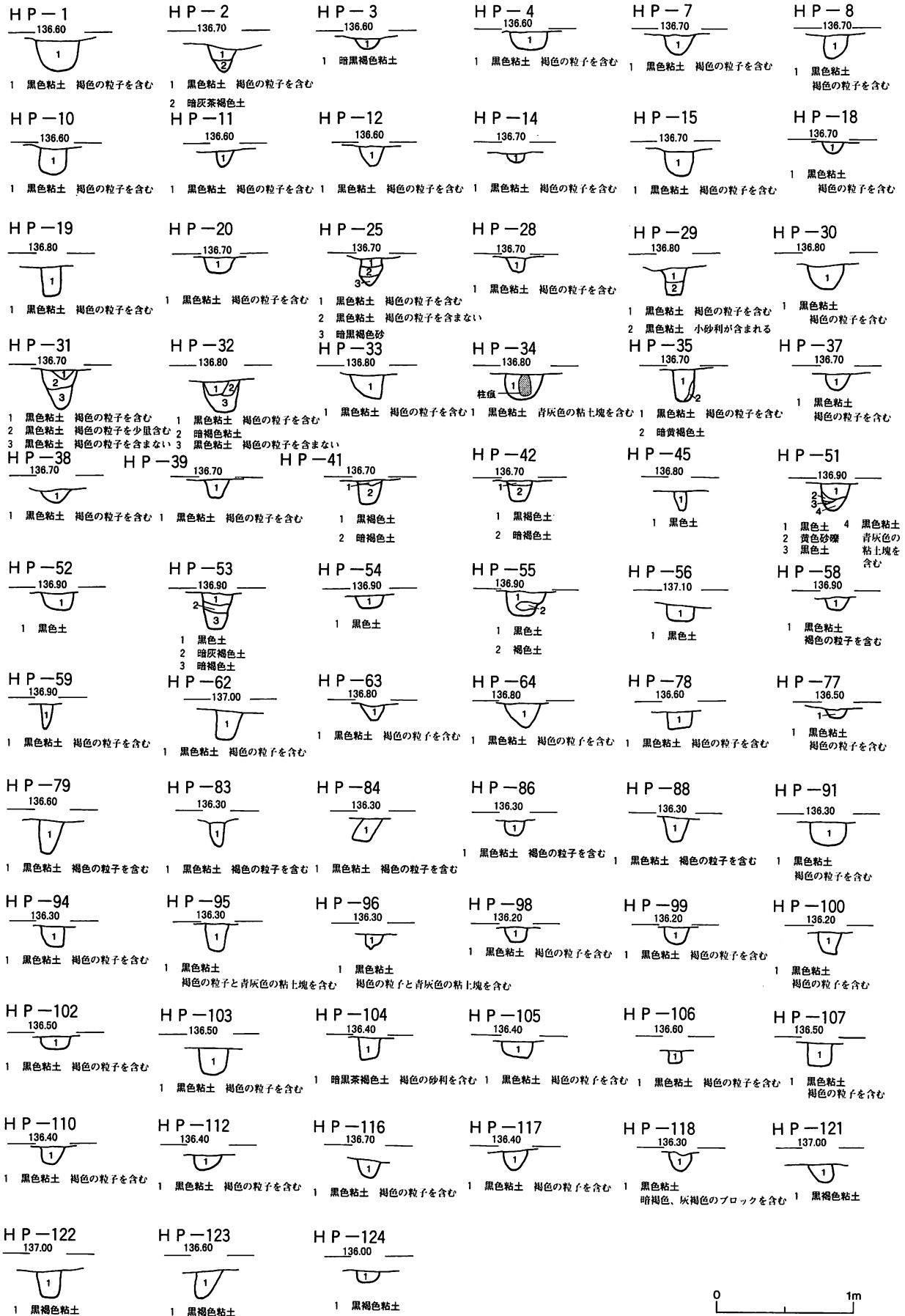
考えられる。2は模式図のとおり端部が“うけ”状に加工されており、梁や桁等の柱材の可能性が
ある。取り上げ時に分断、粉砕してしまったため保存処理は行わず、周辺の自然木とともに樹種同定
のみを行っている。樹種名は2本ともオニグルミであり、狂いが少なく、靱生に富み、加工が容易であ
ることから、他遺跡においても建築・土木材などとして使用されている。(VI章-2) (愛場和人)



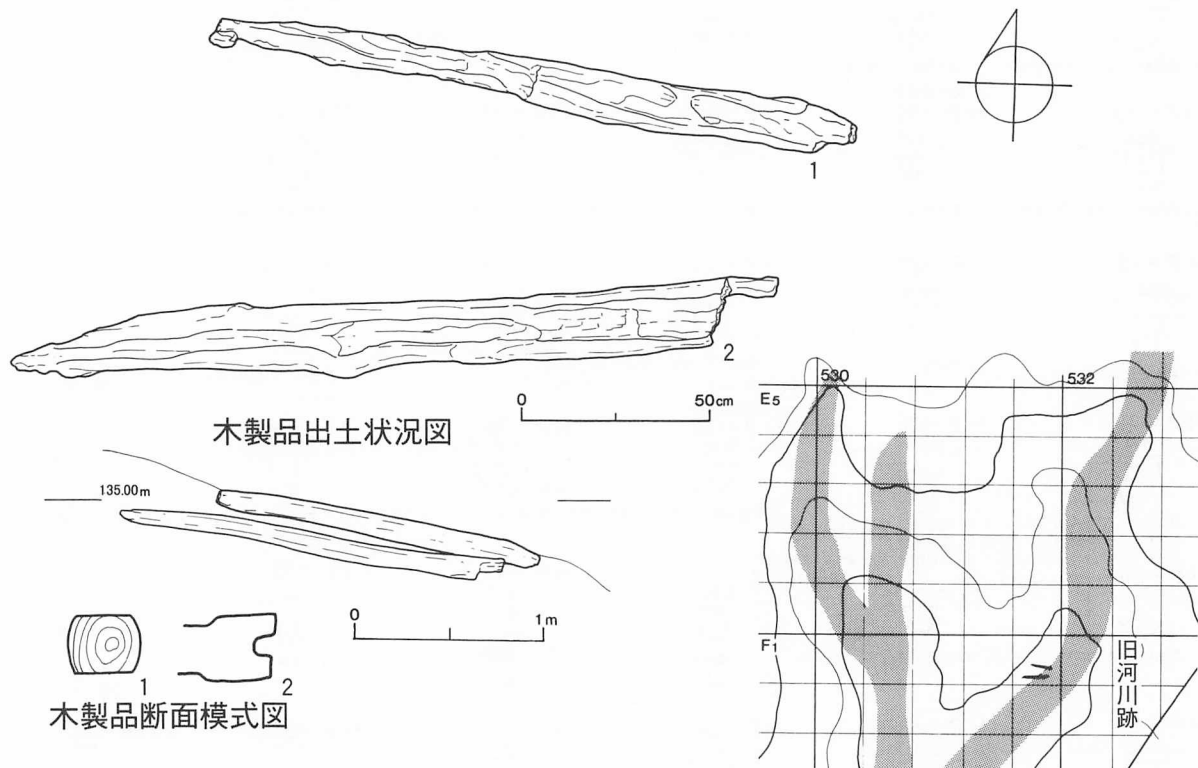
図IV-14 F-12、灰集中、S-1・2・4



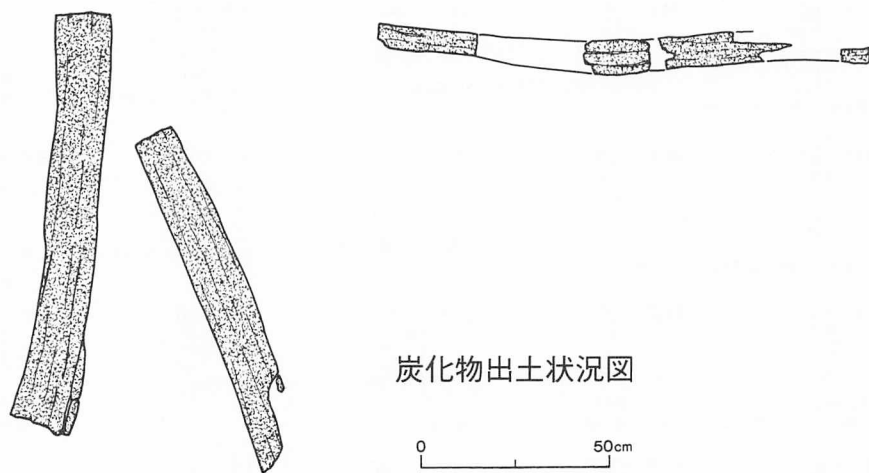
図IV-15 小柱穴群位置図



図IV-16 小柱穴のセクション



†E3-528-4



図IV-17 旧河道跡出土の木製品と炭化材出土状況

(3) II-1層の遺構と遺物

II-1層から検出された遺構は土壙37基、石囲い炉7カ所、集石2カ所、焼土36カ所である。

土壙はその立地からI群・II群・III群土壙群の3つのグループに分けた。

第I群土壙群は標高135~136m、調査区の南西部の平坦部に位置する。土壙の平面形はすべて円形で、壙口の直径は65~70cm程である。遺物は礫を主体として土器片、フレイクなどが出土しており、多くは被熱する。

第II群土壙群は標高136m付近、調査区中央南側の旧河川跡縁辺に位置する。土壙は円形で小型のものや楕円形で長径1mを越えるものがある。楕円形の土壙はP-21を除き長軸方向は北西-南東のである。遺物は、鉢形土器や100点を越えるフレイク(P-10)、130点の石鏃、ナイフ、石斧(P-15)、柄付きのナイフ(P-17)、琥珀製平玉やカンラン岩製の玉(P-25)など多種にわたり、豊富である。

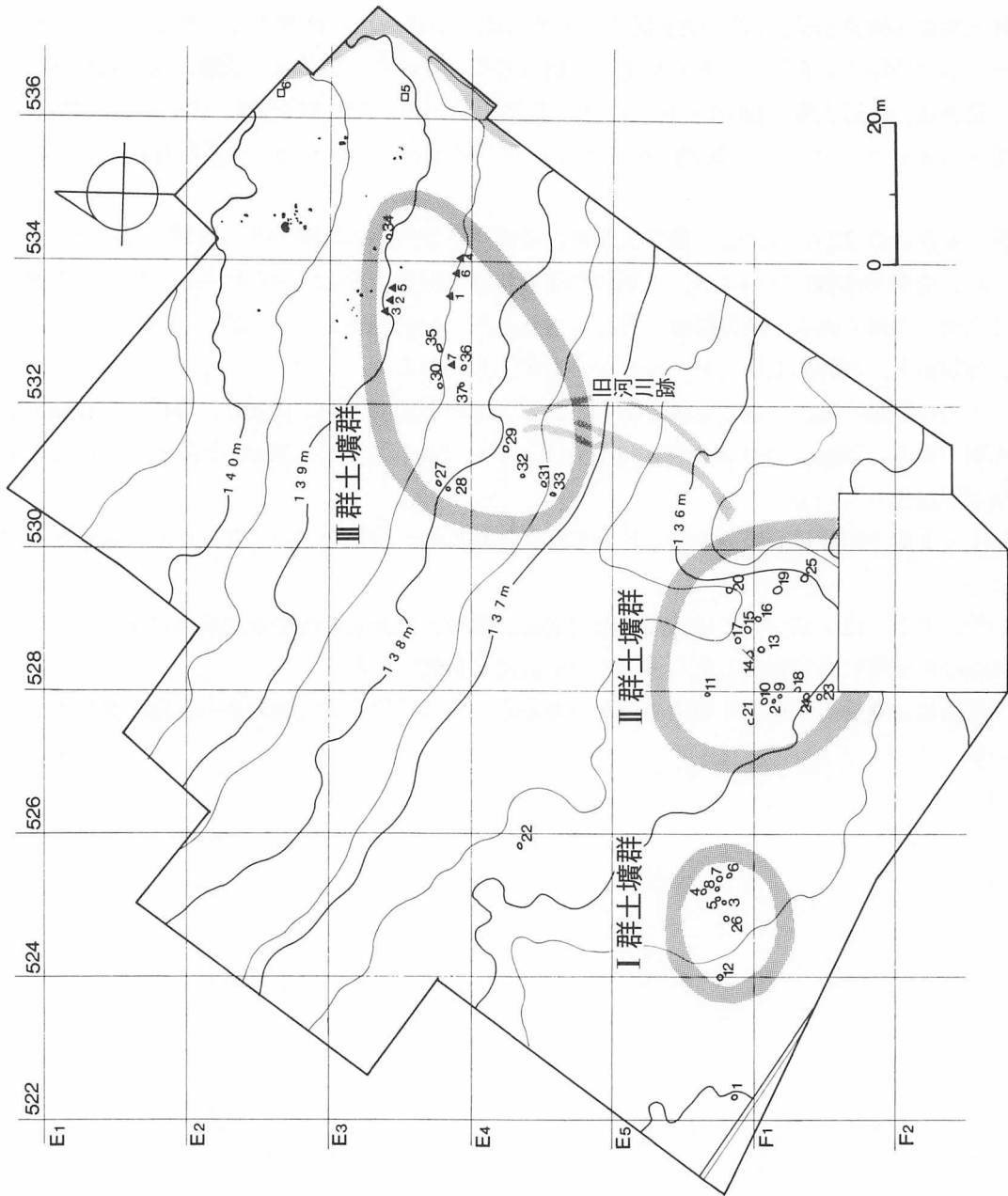
第III群土壙群は標高137~139m、調査区北東部の緩やかな斜面に位置する。周囲には石囲い炉や焼土がみられ、遺物が濃密に分布する。土壙の平面形状は楕円形と円形に分かれる。楕円形の土壙の長軸方向は北東-南西である。遺物は礫が多くみられるが、矢柄研磨器(P-27)、土器、砥石(P-29・35)、棒状原石、浅鉢形土器(P-36)なども出土している。

P-1・22は単独で検出された土壙である。P-1は調査区南西端に位置し、楕円形で長軸方向は北西-南東である。壙底にはベンガラがみられる。P-22は壙底から3,200点を越える琥珀製の平玉と石斧などが出土している。

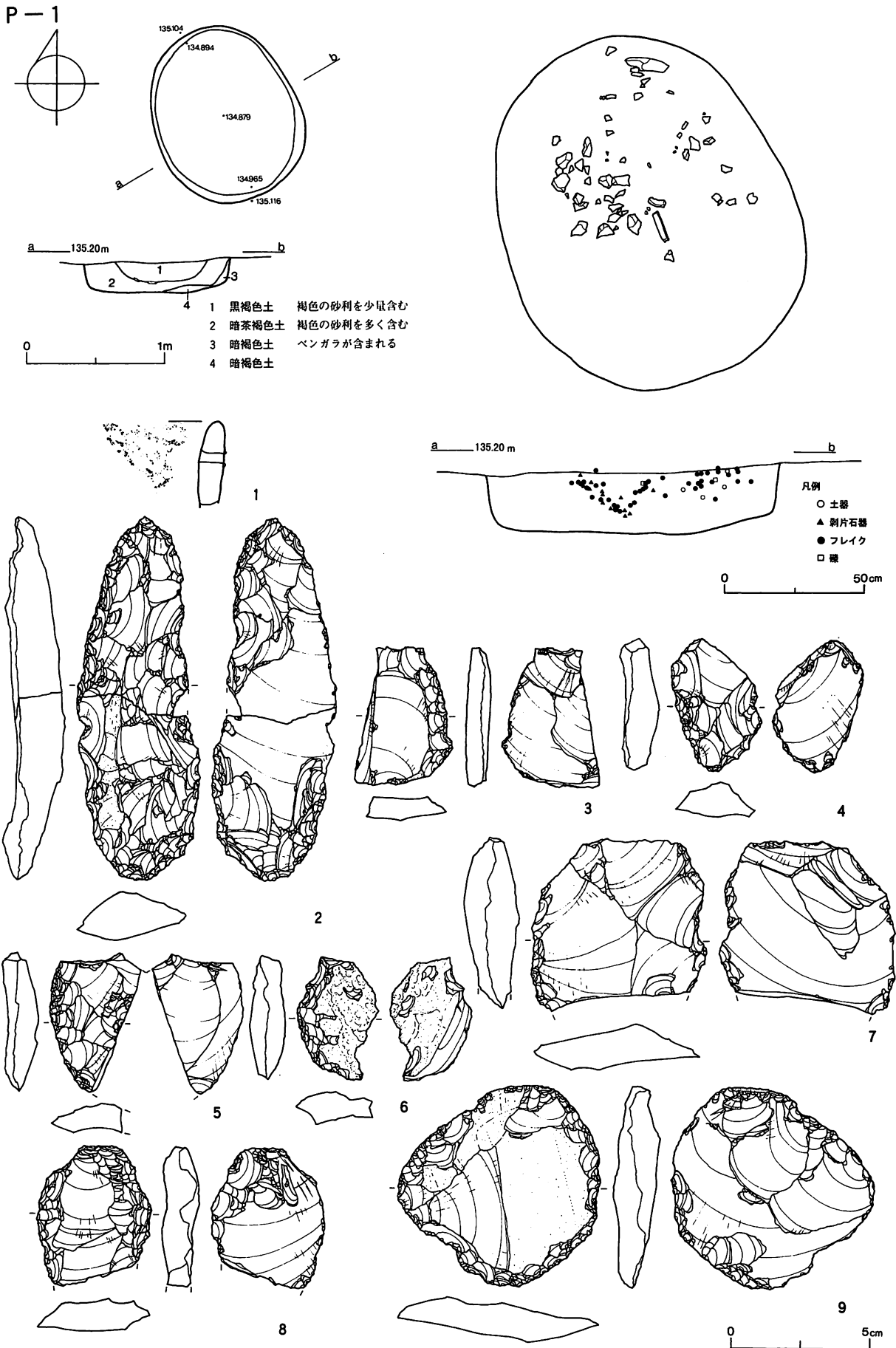
なお第I・II群土壙群はII層調査時において確認されたが、遺物などからII-1層の遺構として取り扱った。

石囲い炉、集石、焼土については標高138~140m、調査区北東部の緩やかな斜面に集中する。この地区は包含層の遺物の分布密度も高く、当時の生活面と想像できる。

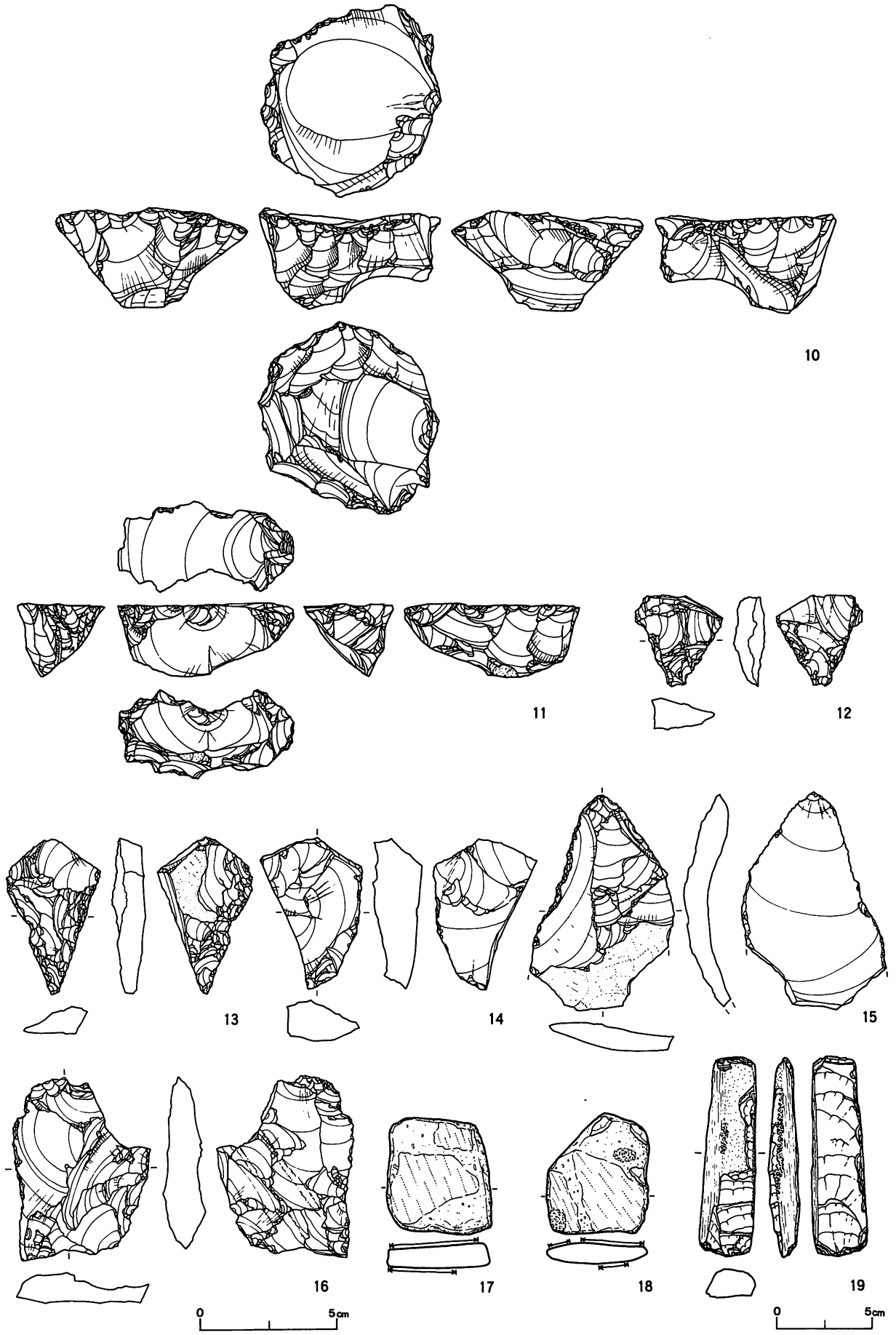
以上の遺構は、遺構出土遺物や周辺の遺物分布から、すべて縄文時代晩期から続縄文時代のものと考えている。
(愛場和人)



図IV-18 II-1層の遺構位置図



図IV-19 P-1と出土遺物(1)



図IV-20 P-1 出土遺物(2)

1) 土壌

i) 単独の土壌

P-1 (図IV-19・20、図版IV-6)

位置：E₅-522-21 規模：1.26×1.04/1.21×0.97/0.24m

平面形：楕円形 長軸方向：N-19° -W

出土遺物：V群土器5、ナイフ1、スクレイパー7、砥石3、石核2、Rフレイク2、加工痕のある礫1、黒曜石フレイク60、礫・礫片1

調査区南西の旧国道際のⅡ層調査中に黒褐色土の落ち込みとして確認された。覆土は4層に分けられ、暗茶褐色から黒褐色土である。壙底部は平坦でⅡ層中に作られる。壁は緩やかに立ち上がる。

遺物の出土状況は、土壌の北東側の覆土2層上面に沿って、集中して出土した。覆土2層上面と壙底面の北東側にはベンガラが検出された。覆土2層までを埋めた後、この上にベンガラとともに遺物を同時にまき入れたものと考えられる。

出土遺物のうち土器片は小片で不明な点が多いがV群土器である。1は口縁部である。口唇断面は丸くなる。焼成前に穿孔された跡が観察される。口縁部にはLR原体による縄線文が施されている。2は柄のない黒曜石製のナイフである。両面調整によって刃部を作り出しているが表面に原石面が残るなどかなり粗雑な作りである。3~9は素材の形状をあまり変えないスクレイパーである。黒曜石製である。フレイクの縁辺を利用して刃部を作り出している。10・11は石核である。石材は黒曜石である。12・13はRフレイクである。14~16は黒曜石のフレイクである。17・18は砂岩製の砥石である。もとは同一のものであった可能性があるが、接合はしない。両方共に使用面がわずかに観察される程度である。19は加工痕のある礫である。両側縁に研磨痕があり、稜線には敲打痕がある。石のみの原材となる可能性がある。石材は片岩である。

黒曜石には茶褐色の縞模様が入っているものが多い。接合などはしなかったが、同一の母岩から作られた可能性がある。

遺物の出土状況やベンガラの出土、覆土の堆積状況から土壌墓と考えられる。また、脂肪酸分析の結果ヒトに類するものを埋めた可能性が高いということであった。(VI章-1) (酒井秀治)

P-22 (図IV-21・22、図VII-1・2 カラー図版1 図版IV-7 図版VII-1)

位置：E₄-524-10 規模：1.03×0.75/0.83×0.58/0.16m

平面形：楕円形 長軸方向：N-73° -W

出土遺物：土器片2、石斧1、黒曜石フレイク2、琥珀製平玉3,235(完形のみ)

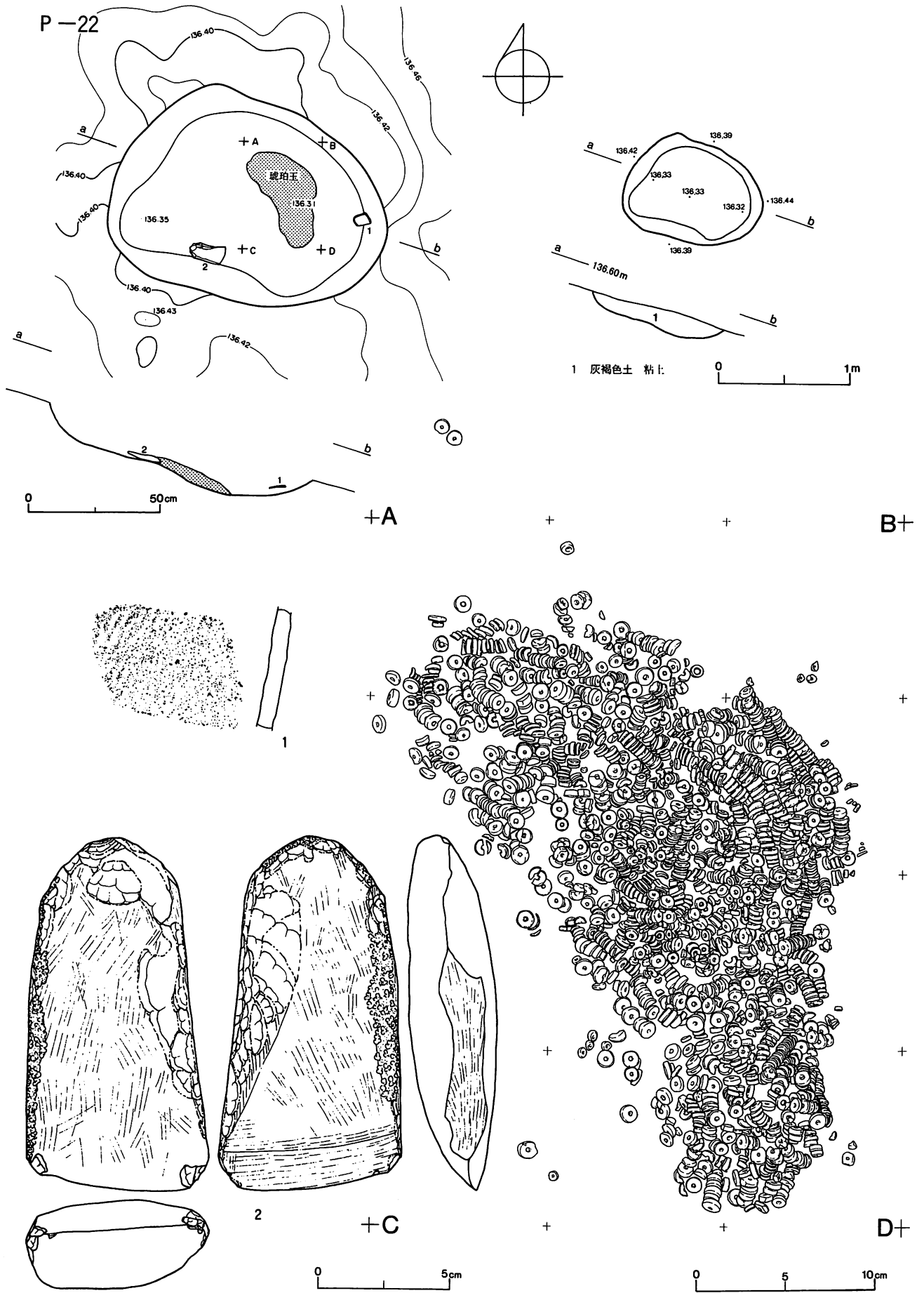
調査区西側、標高約136mの平坦部で、Ⅱ-B層調査中に琥珀製の平玉が出土したことにより確認した土壌である。水田造成で遺構上部は削平されており、壙底まで10cm程度を残すのみであるが、掘り込み面はⅡ-1層中と思われる。

覆土は灰褐色粘質土で非常に粘性が強い。

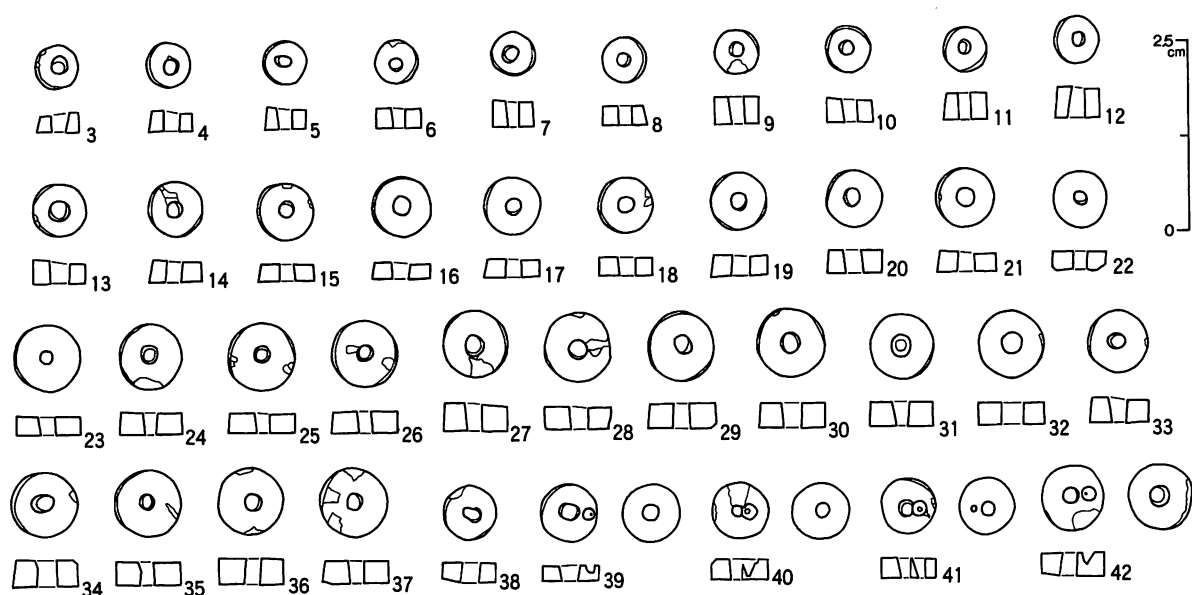
平面形は楕円形で、壙底はほぼ平坦であるが、東側がややくぼんでいる。壁は全体にゆるやかに立ち上がるが、北側はやや急である。

遺物は、摩滅しているがV群かVI群土器と思われる胴部破片(図IV-21-1)が2点覆土から出土している。壙底南側の壁付近では、片岩製の石斧(図IV-21-2)が1点出土した。周縁に敲打と剥離加工が施されており、刃部はやや右上がりの直刃である。壙底のやや東よりから琥珀製の平玉がままとって出土した。ほとんどが数珠状に連なっている。

3 遺構と遺構出土の遺物



図IV-21 P-22と出土遺物(1)



図IV-22 P-22出土遺物(2)

琥珀製平玉は完形のもものが3,235点、孔の部分から半分に割れたものが319点、破片が770点で合計4,324点が出土した。完形品のうち風化が著しいものを除き2,934点について直径、厚さ、重量の計測を行った。大きさは、直径5.4mm～9.4mmまでのものがあり、5.8mm前後のもの（図IV-22-3～12）、7.3mm前後のもの（図IV-22-13～22）、8.0mm前後のもの（図IV-22-23～37）の3種類に分かれそうである。平均で直径7.7mm、厚さ2.4mm、重量0.13gである。ただし、重量は水洗後の水浸け状態で行ったもので、参考数値である。色調は状態の良いものは暗赤褐色を呈する。琥珀玉については、第七章にまとめてある。

出土遺物の内容から土壙墓と考えられる。時期は、出土した土器が摩滅した小破片2点のみであるが、本遺跡のⅡ-1層から出土した土器の主体が縄文時代晩期末から続縄文時代初頭頃のものであること、琥珀玉を伴う土壙は縄文時代晩期末から続縄文時代初頭頃に類例が多いことなどから、このころのものと思われる。

(村田 大)

ii) 第I群土壌群

P-3 (図IV-24、図版IV-8)

位置: E_s-524-18 規模: 0.65×0.64/0.60×0.60/0.08m

平面形: 円形

出土遺物: V群土器6点、石鏃1点、フレイク64点

II層調査中に黒褐色土の落ち込みを確認し、半割して調査をすすめた。覆土は1層で小砂利がまじる。掘り込みは浅く、皿状を呈する。遺物は石鏃が壙底直上で出土している。また細かなフレイク、土器片が覆土全体に混じる。土器は摩耗がはげしいが、胎土からV群土器とした。

1は石鏃。被熱し、光沢がない。

(愛場和人)

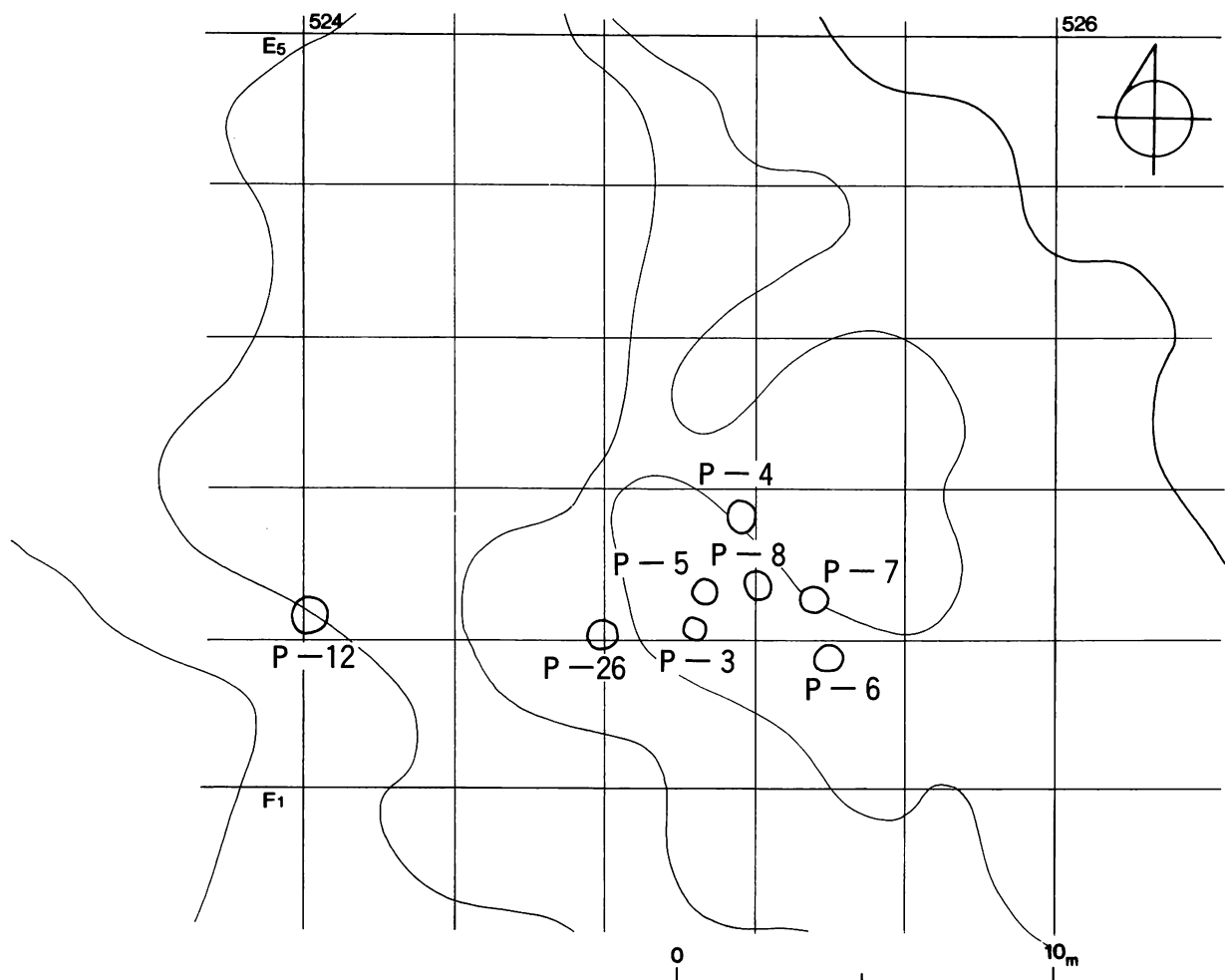
P-4 (図IV-24、図版IV-9)

位置: E_s-524-18 規模: 0.80×0.74/0.68×0.64/0.23m

平面形: 円形

出土遺物: V群土器11、VI群土器8、黒曜石フレイク30、礫・礫片1

P-3を確認した後、周辺を精査したところ黒色土の落ち込みを確認した。覆土は2層に分かれる。壙底面は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。覆土全体に遺物が混入する。土器は小片で摩耗が激し



図IV-23 第I群土壌の分布

いが、胎土によって分類した。

(酒井秀治)

P-5 (図IV-24、図版IV-8)

位置：E₅-524-18 規模：0.67×0.65/0.61×0.62/0.30m

平面形：円形

出土遺物：V群土器15点、スクレイパー4点、Rフレイク2点、フレイク108点、礫・礫片4点

P-3を確認した後、周辺を精査したところ黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土は2層に分かれる。上部の覆土は固くしまり、小砂利を含まないが、下部の覆土には小砂利が含まれる。底面は平らで、壁は垂直に立ち上がる。細かな土器片、フレイク、礫片が覆土全体に混じる。フレイク、礫片は被熱したものが多し。

1を含め土器の多くは磨滅する。胎土などからV群土器とした。2・3はスクレイパー。2は被熱する。

P-6 (図IV-24、図版IV-9)

位置：E₅-524-24 規模：0.70×0.70/0.51×0.51/0.26m

平面形：円形

出土遺物：V群土器11点、VI群土器1点、フレイク4点、礫片6点

P-3を確認した後、周辺を精査したところ黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土には小砂利が混じる。底面は平らで、壁は垂直に立ち上がる。底面北側からは大型の礫が出土している。石質はトロニウム岩で、側縁の一部が打ち欠かされている。礫の直下にはやや粘質の層がある。

1は摩耗がはげしい。縦位にRL縄文が施される。2は張り出しがある底部。

P-7 (図IV-25、図版IV-9)

位置：E₅-524-19 規模：0.71×0.69/0.66×0.64/0.38m

平面形：円形

出土遺物：V群土器8点、台石4点、フレイク16点、礫・礫片17点

P-3を確認した後、周辺を精査したところ黒褐色土の落ち込みを確認した。半割して調査したところ、大形の比較的偏平な礫が充填されているのが確認された。覆土は礫の上面とそれ以下の2層に分かれる。上部は黒褐色土、下部は褐色土とともに小砂利を含む。底面は平らで、壁は垂直に立ち上がる。礫はトロニウム岩、安山岩など周辺の河川でよくみられるもので、被熱し、割れているものがある。礫には敲き痕があるものが4点含まれていた。これ以外の遺物は細かな土器片とフレイクが充填礫の上面から出土している。

1は台石。石材はトロニウム岩。周縁に調整がなされ、擦り面中央には深さ2cm程の溝状の穴があいている。

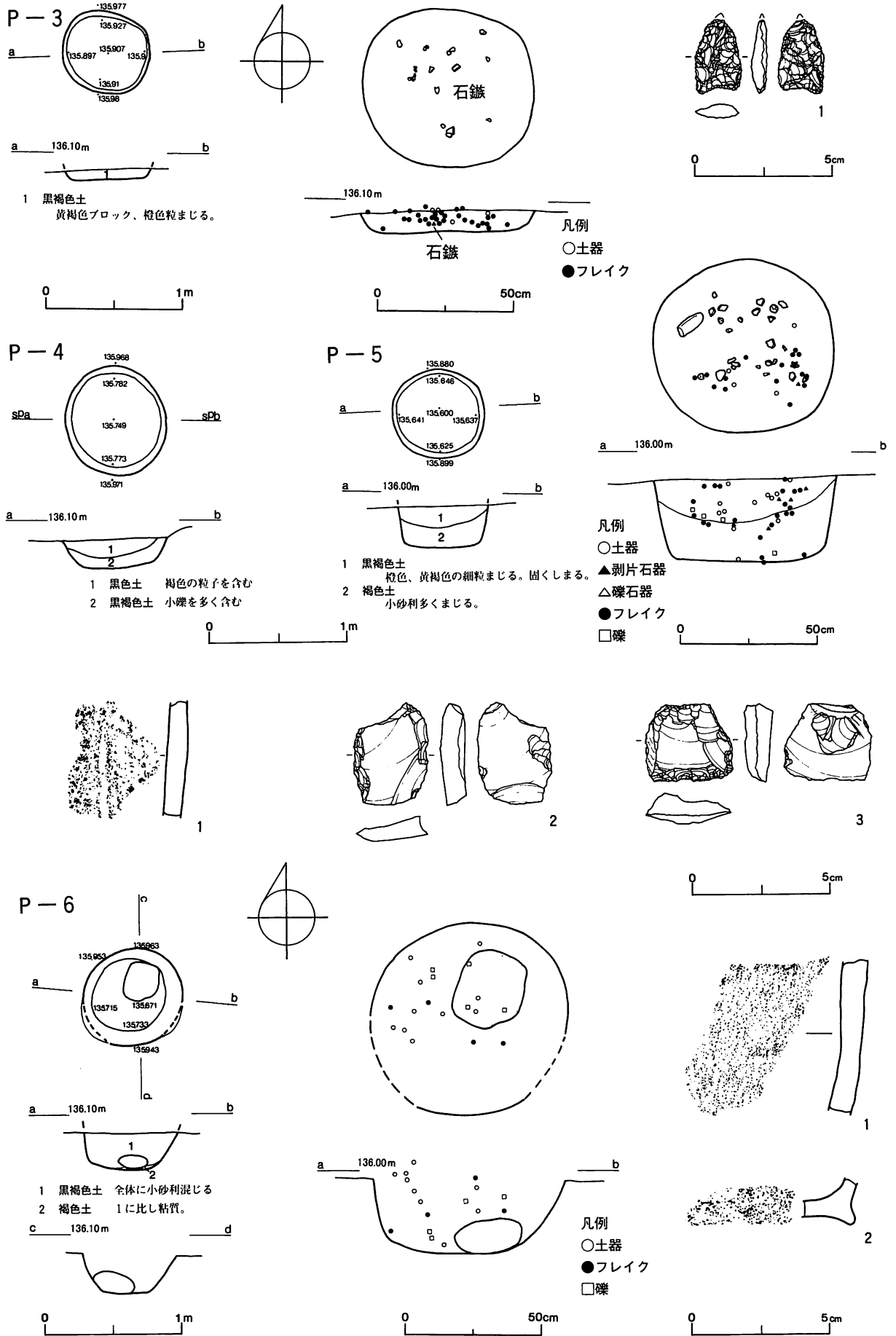
P-8 (図IV-25、図版IV-8)

位置：E₅-524-18 規模：0.75×0.67/0.53×0.49/0.43m

平面形：円形

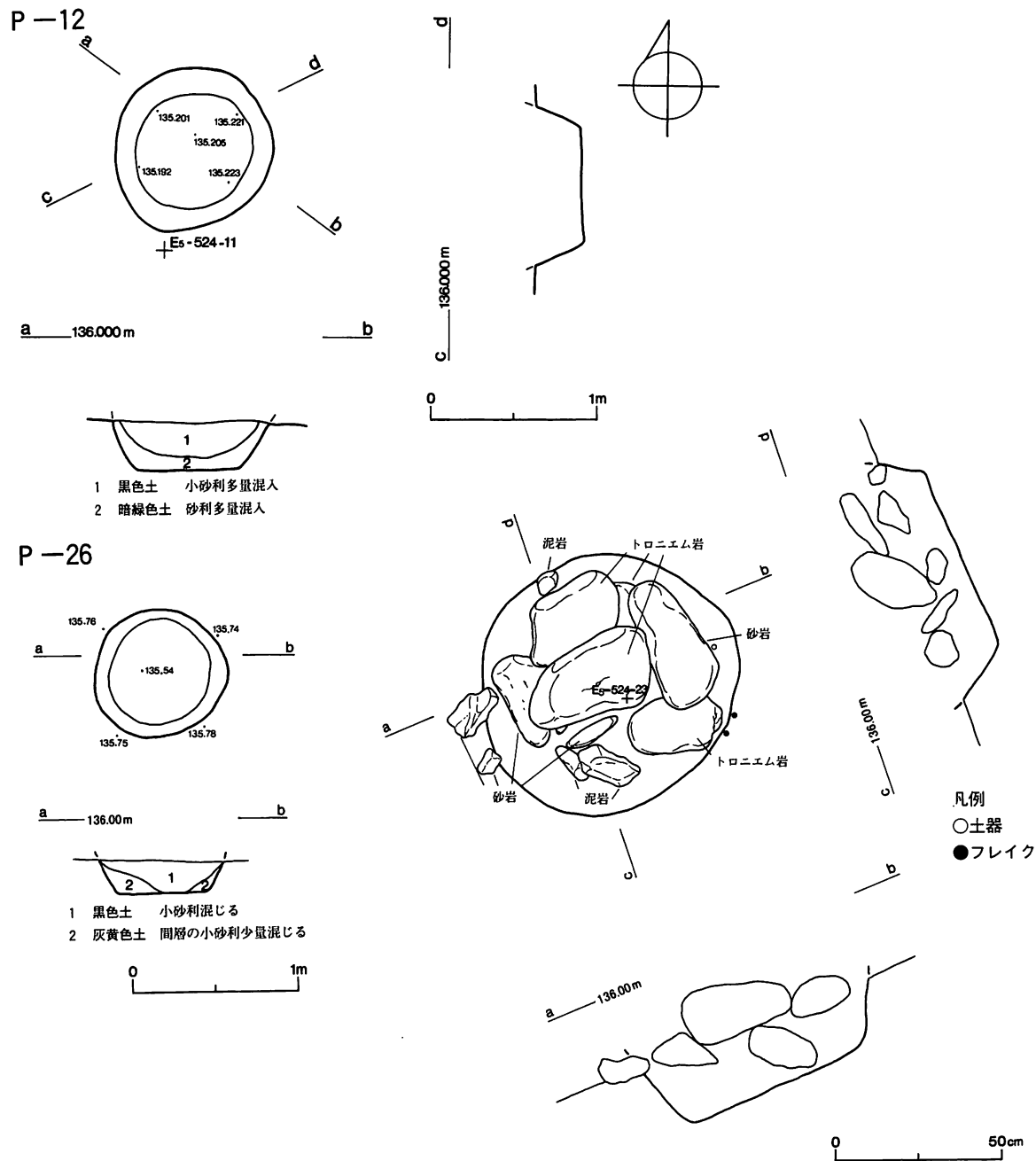
出土遺物：IV群土器2点、V群土器19点、台石1点、Rフレイク1点、フレイク24点、礫・礫片18点

3 遺構と遺構出土の遺物



図IV-24 P-3・4・5・6と出土遺物

3 遺構と遺構出土の遺物



図IV-26 P-12・26

Ⅱ層上面に大型のトロニエム岩があったことから確認された土壙である。トロニエム岩は土壙南側の壁面近くに直立しており、側縁の一部に敲き痕がみられる。全体にススが附着する。覆土は大きく黒色土層と、黄褐色土を含む層で、これが互層に堆積する。底面は皿状で、壁は斜めに立ち上がる。遺物の出土状況は覆土上部に土器片、フレイクなどがまとまってあり、覆土下部や底面には礫・礫片が埋められる傾向にあった。礫片は5～7cm程で、被熱しているものが多い。土壙底面中央には被熱した偏平な礫片がみられた。土器は摩耗がはげしい。1は口唇部が角形で、口唇に縄文が施文される。胎土には砂粒が混じる。2・3は胴部破片。2は節が偏平で、条間があく。3は無文である。

(愛場和人)

P-12 (図IV-26、図版IV-8-5)

位置：E_s-524-11 規模：0.94×0.94/0.71×0.65/0.28m

平面形：ほぼ円形 出土遺物：なし

E_s-524区ではⅡ層精査中に黒い落ち込みが何か所かあり、そのうちの1つとして確認した。覆土は壙底部と壁に暗緑色土、その上に小砂利を含む黒色土が堆積していた。河川堆積層を掘り込んでおり、壁面は緻密で堅い。壙底部は平坦で皿状を呈する。壁は緩やかな立ち上がりである。

時期：不明。 (影浦 覚)

P-26 (図IV-26、図版IV-20)

位置：E_s-523-17・18・22・23 規模：0.80×0.74/0.61×0.59/0.21m

平面形：円形

出土遺物：土器片2、台石3、黒曜石フレイク3、礫11

調査終了近くになり、E_s-523-23区のグリッド杭を除去する際、大型礫が出土したことにより確認した土壙である。住宅跡のため土壙上部は攪乱を受けている。

覆土は1層が間層の小砂利の混じった黒色土で、2層はⅢ層に由来すると思われる暗黄褐色粘質土と小砂利の混じった灰褐色土である。

平面形はほぼ円形で、壙底は暗黄褐色土層(Ⅲ層)中に作られ、ほぼ平坦である。

土壙に充填されていた礫11点と台石3点の石質は、トロニエム岩、砂岩、泥岩などで、周辺の沢で良くみられるものである。土壙墓の可能性はある。 (村田 大)

iii) 第Ⅱ群土壙群

P-2 (図IV-28、図版IV-10-1・2)

位置：F₁-526-5 規模：0.84×0.68/0.48×0.48/0.15m

平面形：円形

出土遺物：黒曜石フレイク44

石鏃が散らばった状態で検出される場所にトレンチを入れたところ黒色土の落ち込みが検出された。この石鏃の出土する範囲からはP-2・9・10が検出されており、どの遺構に伴うかは不明であるため、石鏃は包含層の遺物とした。18点の三角鏃が出土している。土壙はⅡ層下の砂礫層を掘り込んで構築されている。皿状である。覆土は褐色の粒子を含む黒色土と黒褐色土である。北壁に黒曜石のフレイクがばらまかれたような状況で出土している。

P-9 (図IV-28、図版IV-10-3)

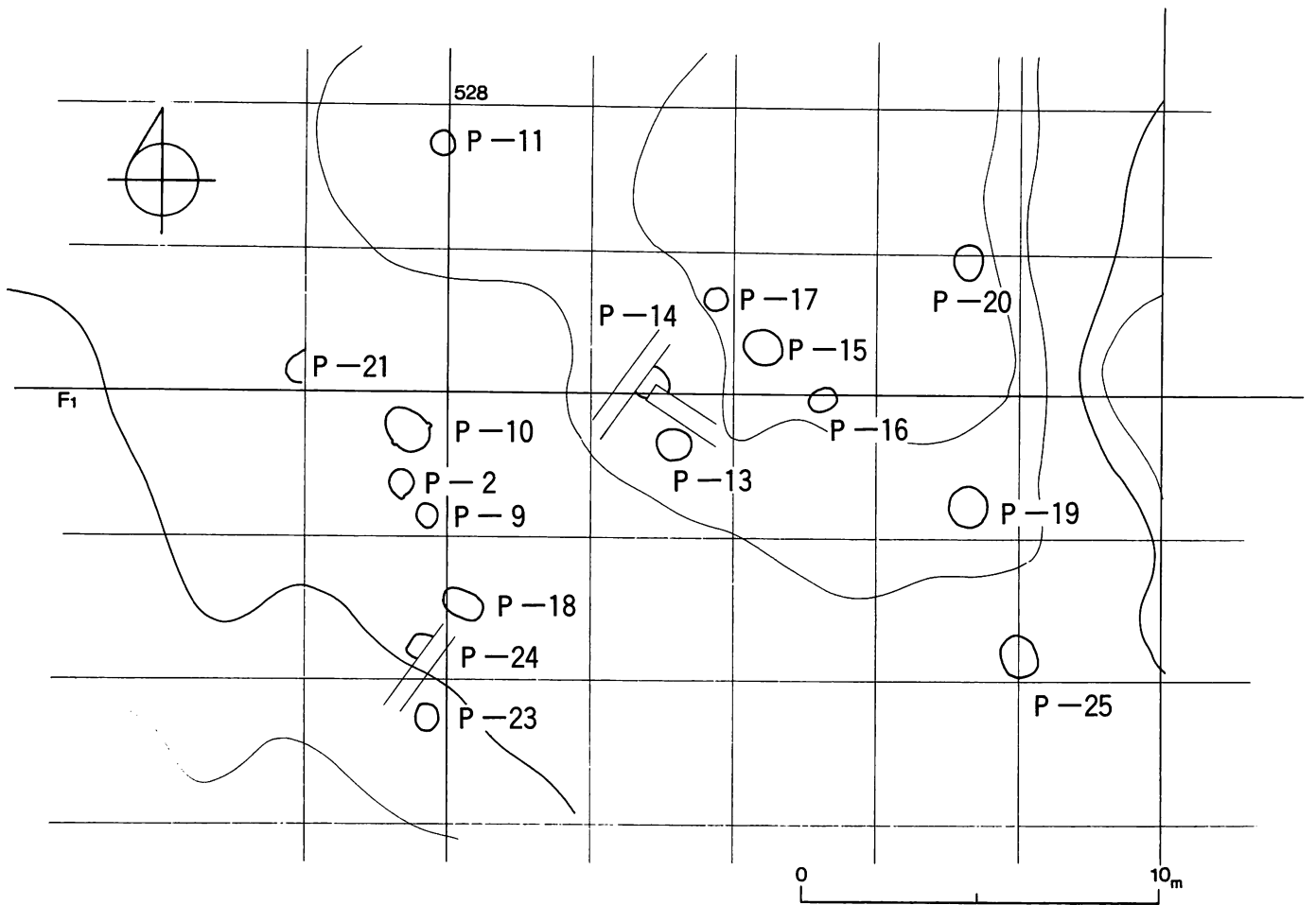
位置：F₁-526-10 規模：0.62×0.57/0.48×0.40/0.11m

平面形：円形

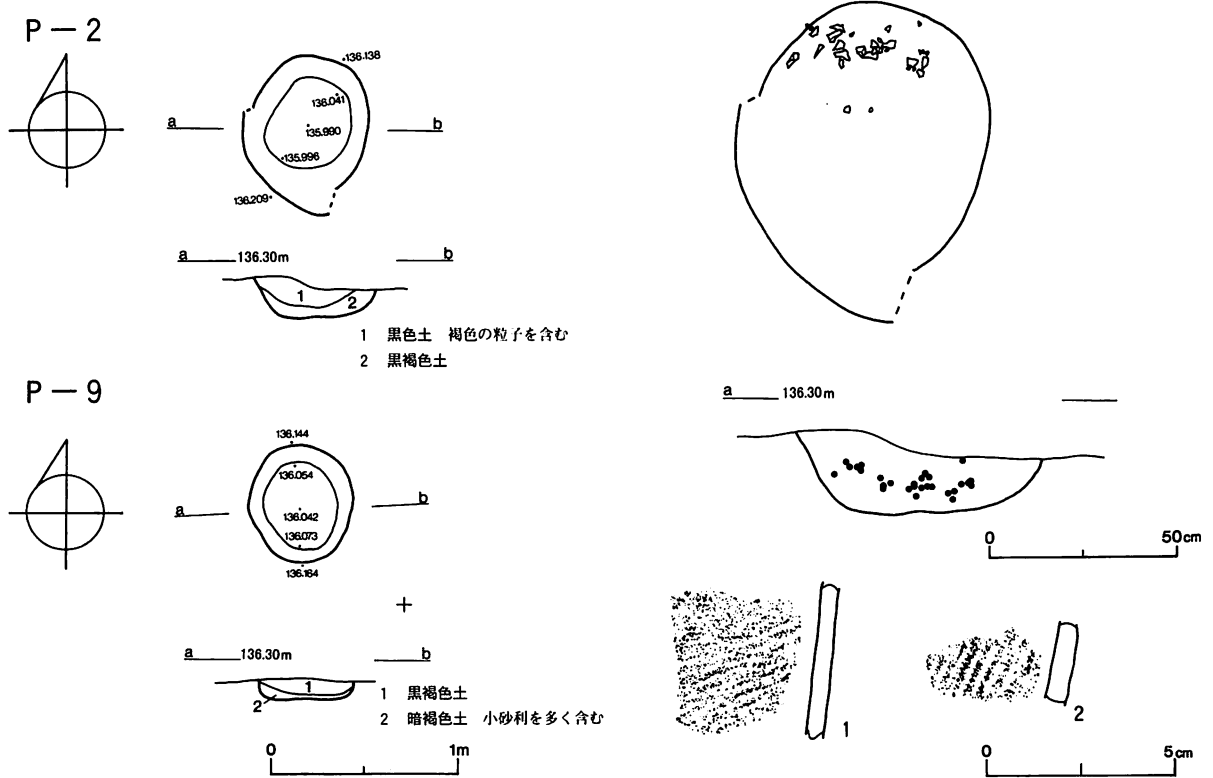
出土遺物：V群土器5

P-2確認後に周辺を精査したところ黒褐色土の落ち込みとして確認された。Ⅱ層下の砂礫層を掘り込んで浅く構築されている。壙底は平坦である。覆土は黒褐色土と小砂利を含む暗褐色土である。遺物は覆土中からの出土である。1・2はV群土器の胴部破片である。1の胎土は砂粒を多く含む。2は褐色の砂粒を含み灰白色の胎土をしている。LR原体の縄文を施している。

性格などは不明である。



図IV-27 第群土壌の分布



図IV-28 P-2・9と出土遺物

P-10 (図IV-29・30、図版IV-11・12)

位置：F₁-526-5 規模：1.32×1.02/1.04×0.78/0.65m

平面形：楕円形 長軸方向：N-53.5°-W

出土遺物：V群土器58、石鏃3、スクレイパー3、Rフレイク1、加工痕ある礫1、黒曜石フレイク127

P-2 確認後に周辺を精査したところ黒褐色土と暗褐色土の落ち込みとして、II層下の茶褐色砂礫層の上面で確認された。茶褐色砂礫層を掘り込んで構築されている。

覆土は埋め戻しによるものである。壙底付近は黒色土でこれを覆うように茶褐色土が壙口部付近まで充填されている。その上には暗褐色土と黒褐色土がある。各層には少量であるがベンガラが検出されている。

壙底は平坦で、壁面は急激に立上り、壙口に向かって徐々に広がっていく。

遺物の出土状況は壙口部北東壁付近から鉢形土器(1)が倒立の状態出土した。壙口部からは石鏃(2~4)が3点出土している。包含層出土とした石鏃はこの土壌に伴うものである可能性が高い。壙口部にまかれた石鏃が遺構外へ流れたのかもしれない。壙底部北東側の壁際では、黒曜石の大型フレイク(10~18)が126点まとまって出土した。皮袋か何かに入れられていたものと考えられる。このまとまりの脇の壙底部分にはベンガラが薄くしかれていた。フレイクの南西側の壙底部にはナイフを模したと思われる長さ12.4cmのRフレイク(8)が出土し、北側には石斧を模したと思われる加工痕のある礫(9)がある。

出土遺物のうち土器はV群である。1は丸底で胴部に張り出しのある鉢形土器である。口唇の上面観は楕円形をしており、長軸の両端には貼り付けによって低い山形の突起を作り出し、その口唇には縄圧痕を施す。口唇直下には焼成前に穿孔が施されている。胎土は砂粒を含み、摩耗している。口唇断面は丸い。胴部の文様はLR原体の斜行縄文のみである。2~4は三角鏃である。2・3は剥離面を残している。黒曜石製である。5~7は素材の形状を変えないスクレイパーである。フレイクの縁辺を利用して刃部を作り出している。黒曜石製である。8はRフレイクである。ナイフを模しているものと考えられる。黒曜石製である。9は加工痕のある礫である。石斧を模しているものと考えられる。片岩製である。

北東壁際出土の黒曜石フレイクは総点数126点、総重量2,666.5gである。1点は30~50gのものが大半を占める。礫表面を残すものは55点で約44%であった。礫表面を残すものは大型のものに多い。接合するものもあるが、全体を復元することはできなかった。原産地分析、黒曜石水和層年代測定を依頼し、産地は赤石山産で、約2,100年程前の年代という結果が得られた。

遺物の出土状況などから土壙墓であろうと考えられる。また、脂肪酸分析の結果、ヒトに類するものを埋めた可能性があるということである。(VI章-1) (酒井秀治)

P-11 (図IV-31、図版IV-10-4)

位置：E₅-528-16 規模：0.69×0.69/0.62×0.60/0.16m

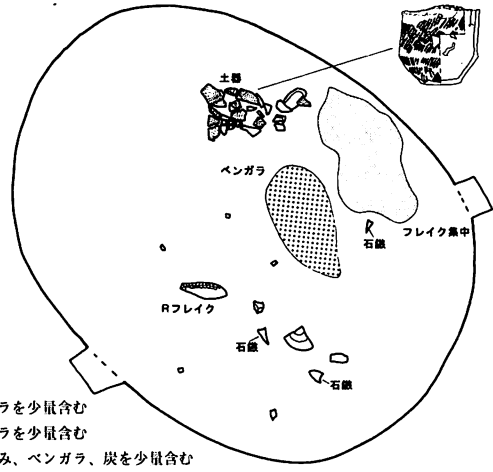
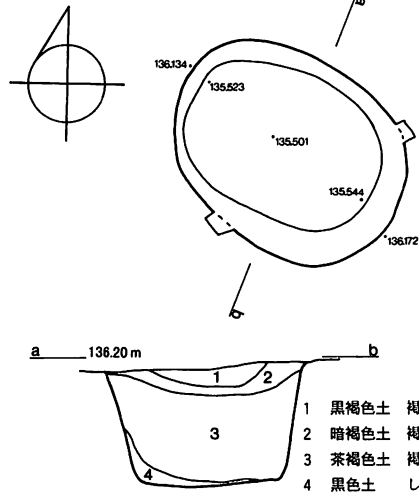
平面形：円形

出土遺物：IV群土器2点、V群土器2点、フレイク1点

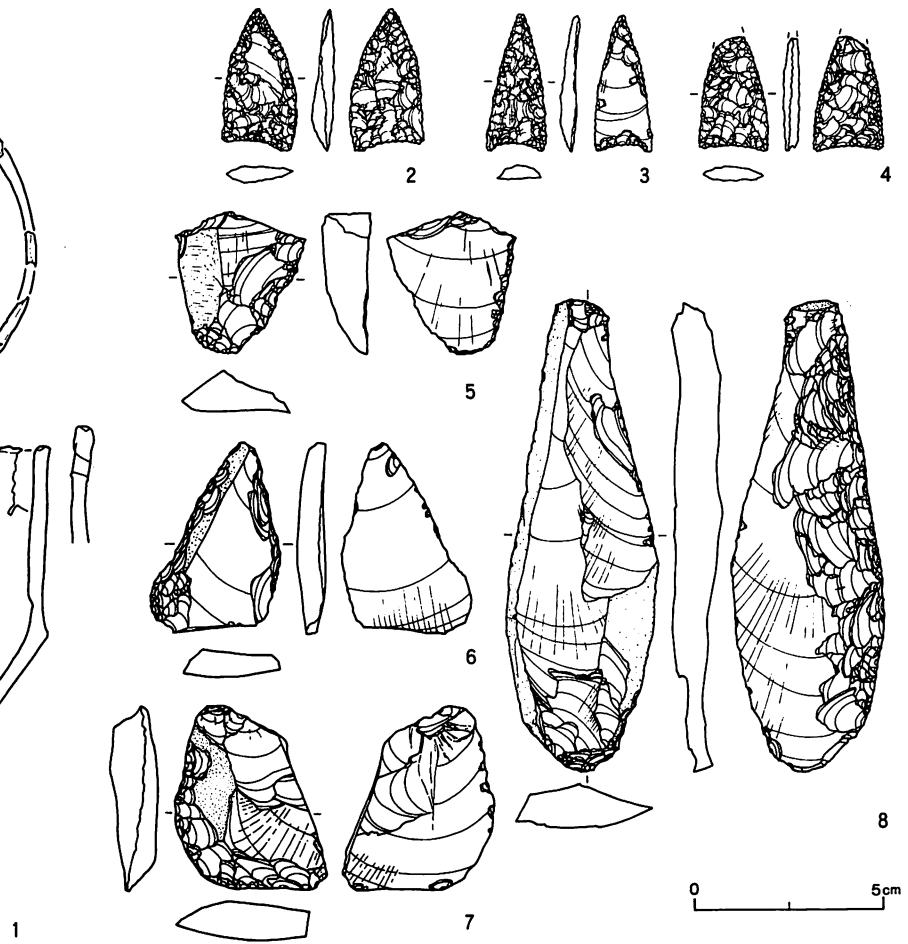
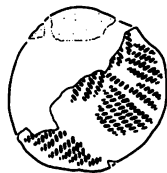
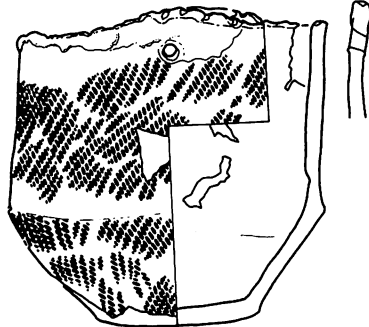
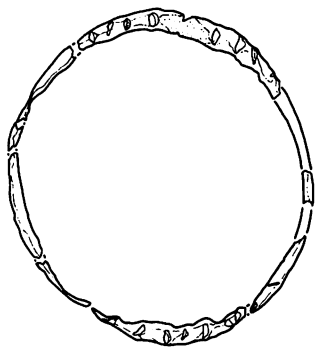
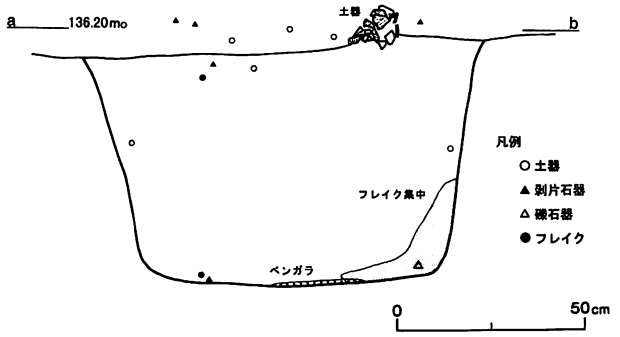
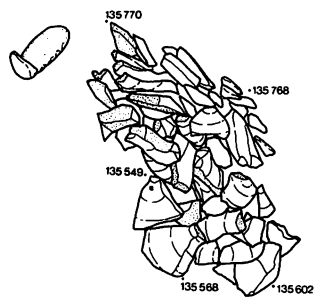
II群土壙群内の北西に位置する。II層調査中に黒褐色土の落ち込みを確認し、半割し調査をすすめた。覆土は全体に小砂利が混じる。底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がる。遺物は土器片とフレイクが覆土中から出土した。土器は摩耗しているが、焼成や胎土などからIV・V群土器と思われる。

3 遺構と遺構出土の遺物

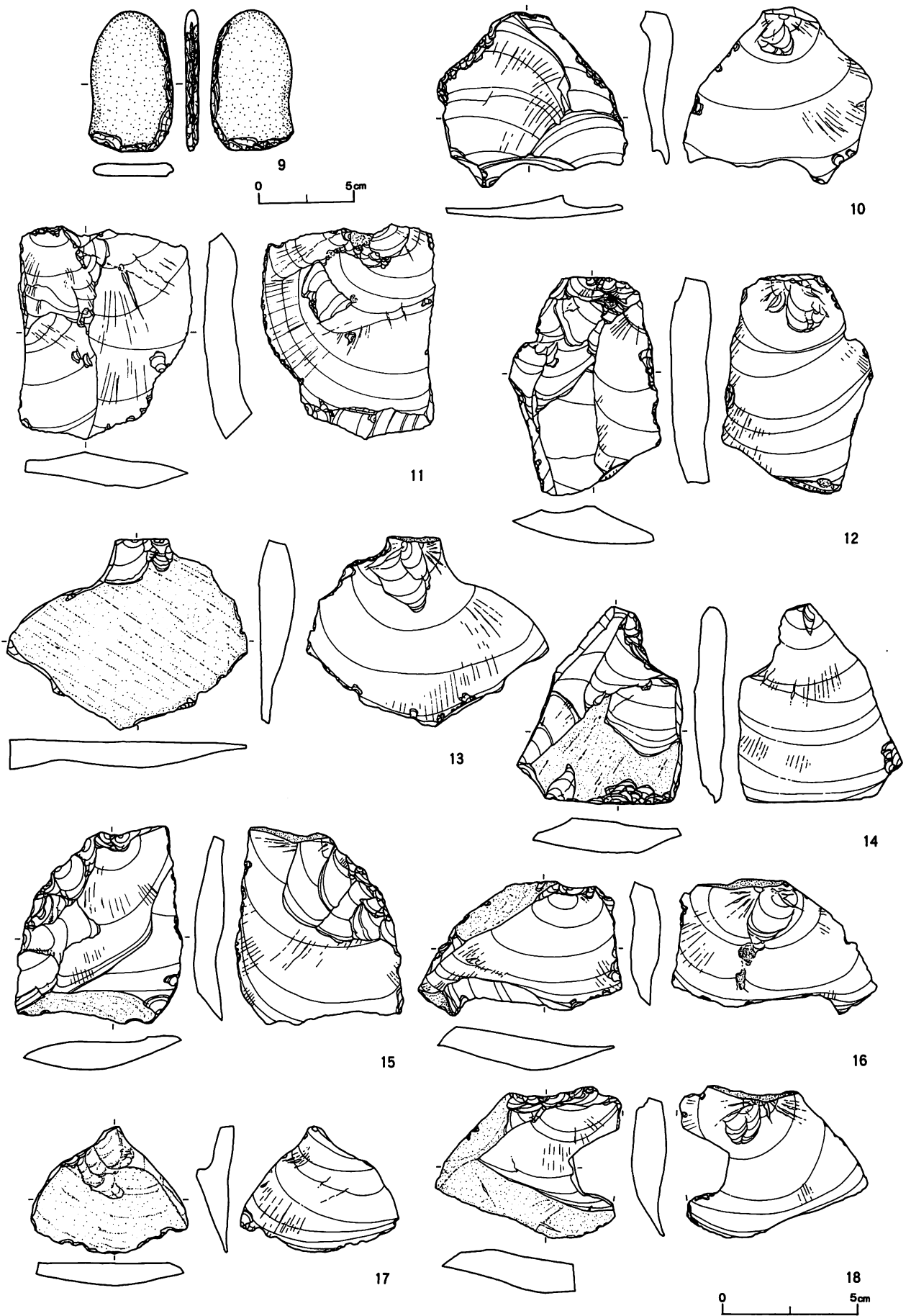
P-10



【フレイク出土状況図】

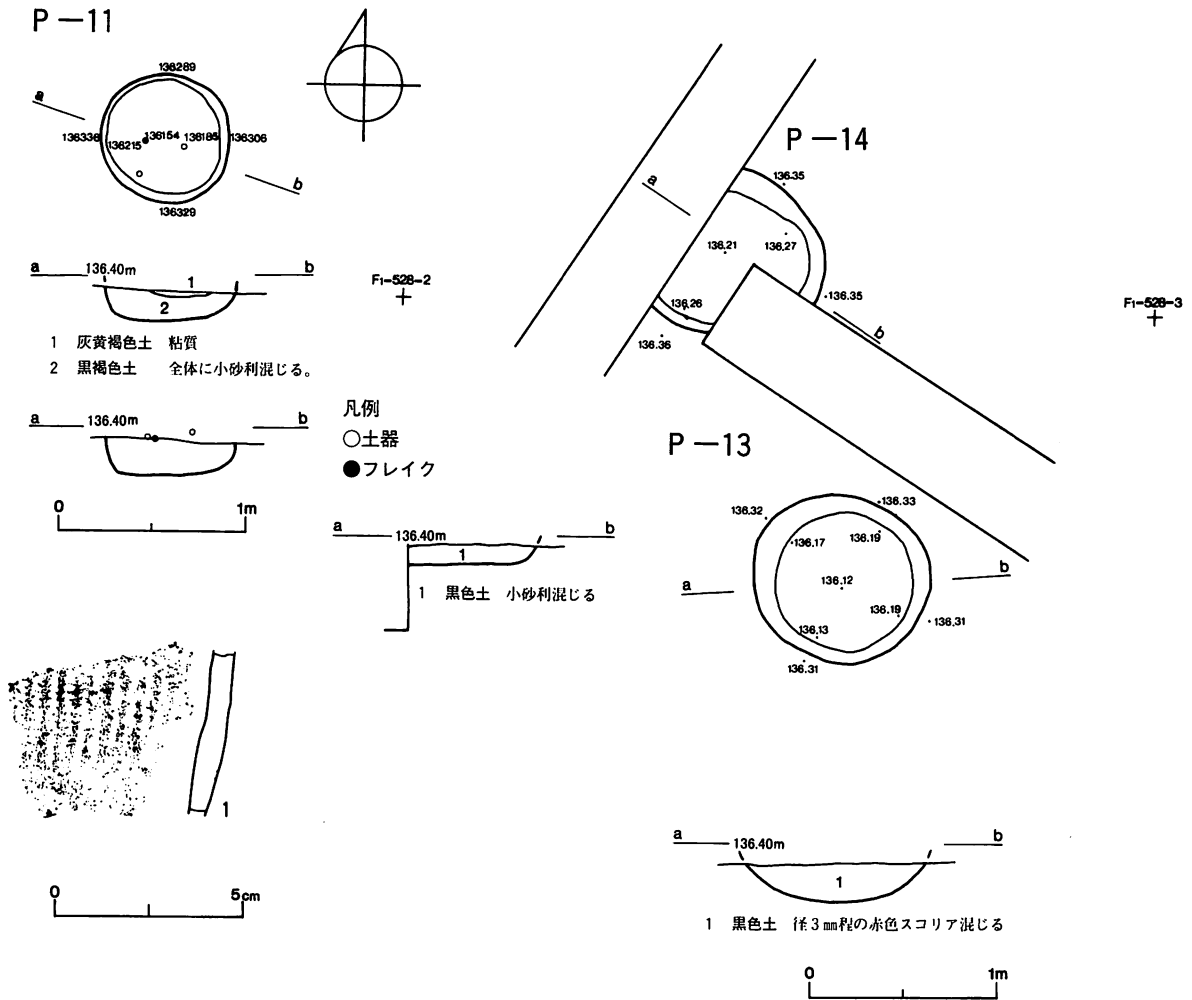


図IV-29 P-10と出土遺物(1)



図IV-30 P-10出土遺物(2)

3 遺構と遺構出土の遺物



図IV-31 P-11・13・14

P-13 (図IV-31 図版IV-8)

位置: F₁-528-2 規模: 0.94×0.73/0.87×0.72/0.22m

平面形: 円形

出土遺物: 礫1

Ⅲ層上面で確認された。水田造成で土壌上部は削平されている。

覆土は黒色土が主体で、赤色のスコリアが少量混じる。壙底は皿状を呈す。

P-14 (図IV-31 図版IV-8)

位置: E₅-528-22 規模: -×0.91/-×0.73/0.11m

平面形: (楕円形)

出土遺物: なし

E₅-528-22区に土層確認のため幅50cmでトレンチを掘削したところ、東南壁断面で確認された土壙である。

覆土は小砂利が混じる黒色土で、壙底は平坦である。

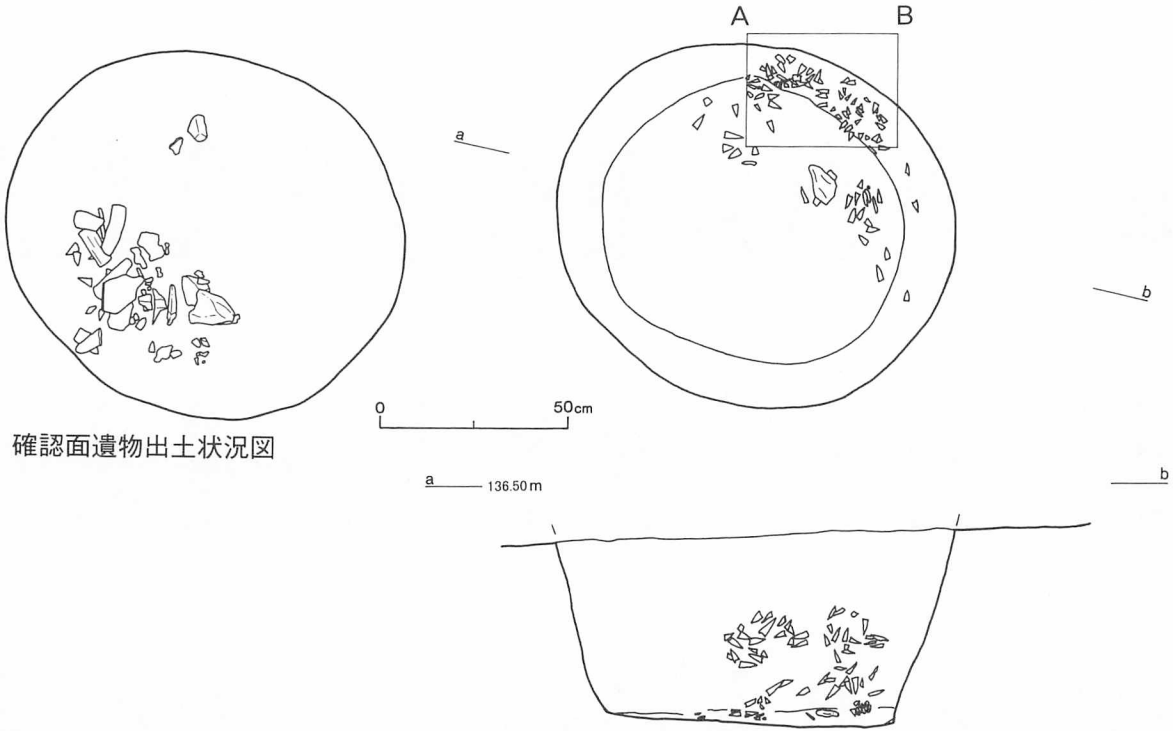
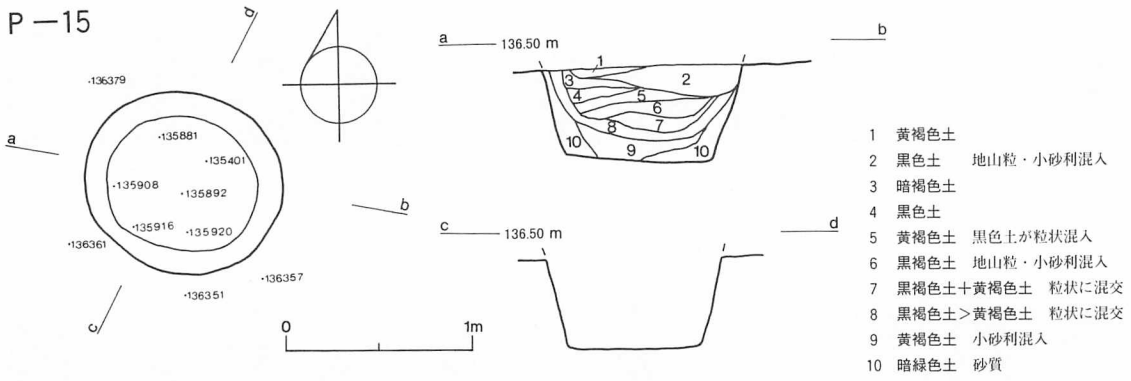
P-13・14ともに性格は不明。

(村田 大)

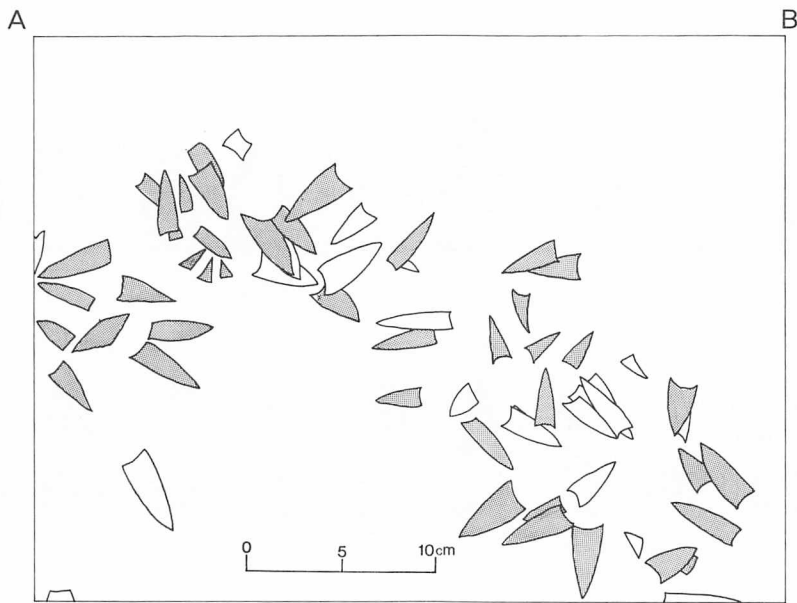
P-15 (図IV-32~38、図版IV-13~15)

位置: E₅-528-23 規模: 1.07×0.94/0.80×0.71/0.51m

P-15

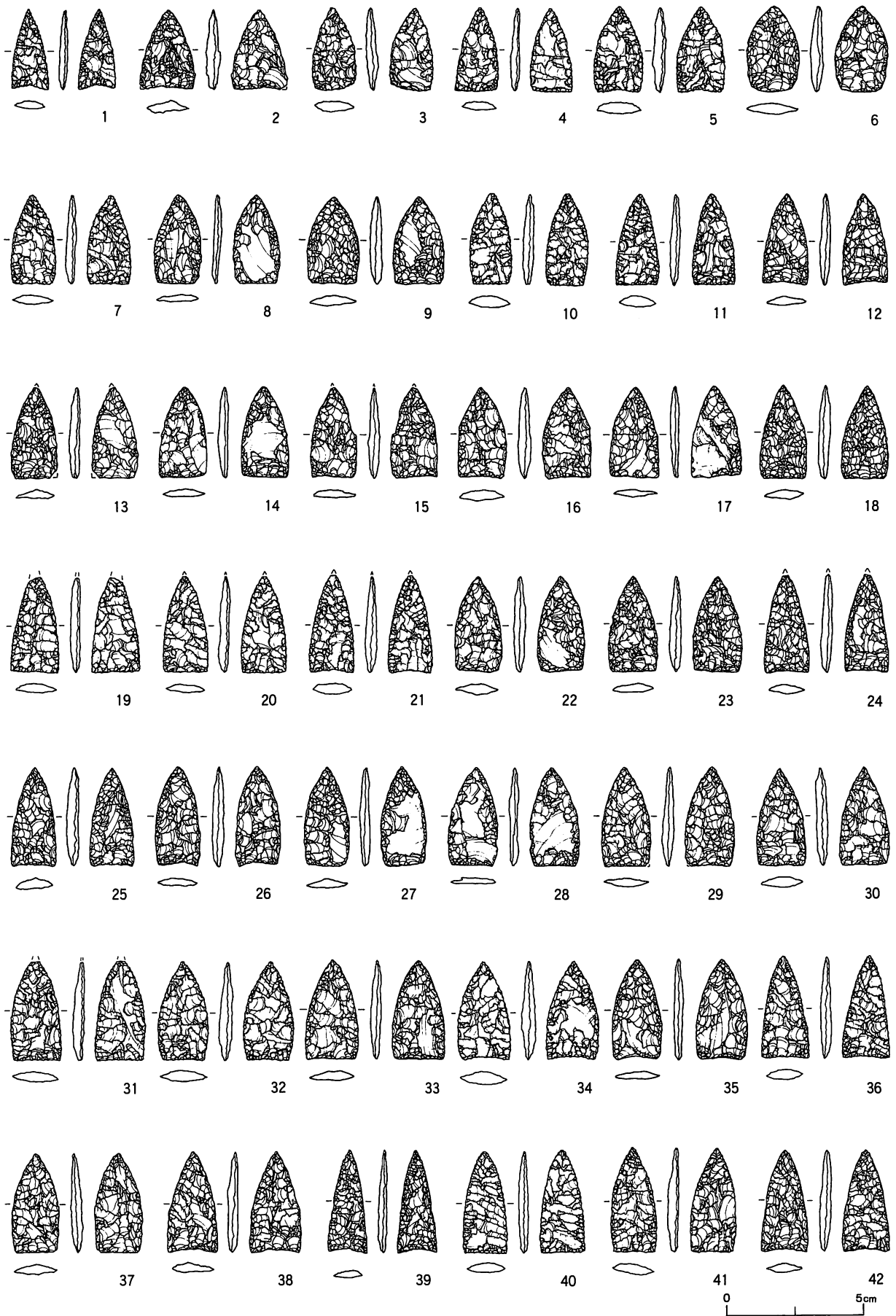


確認面遺物出土状況図

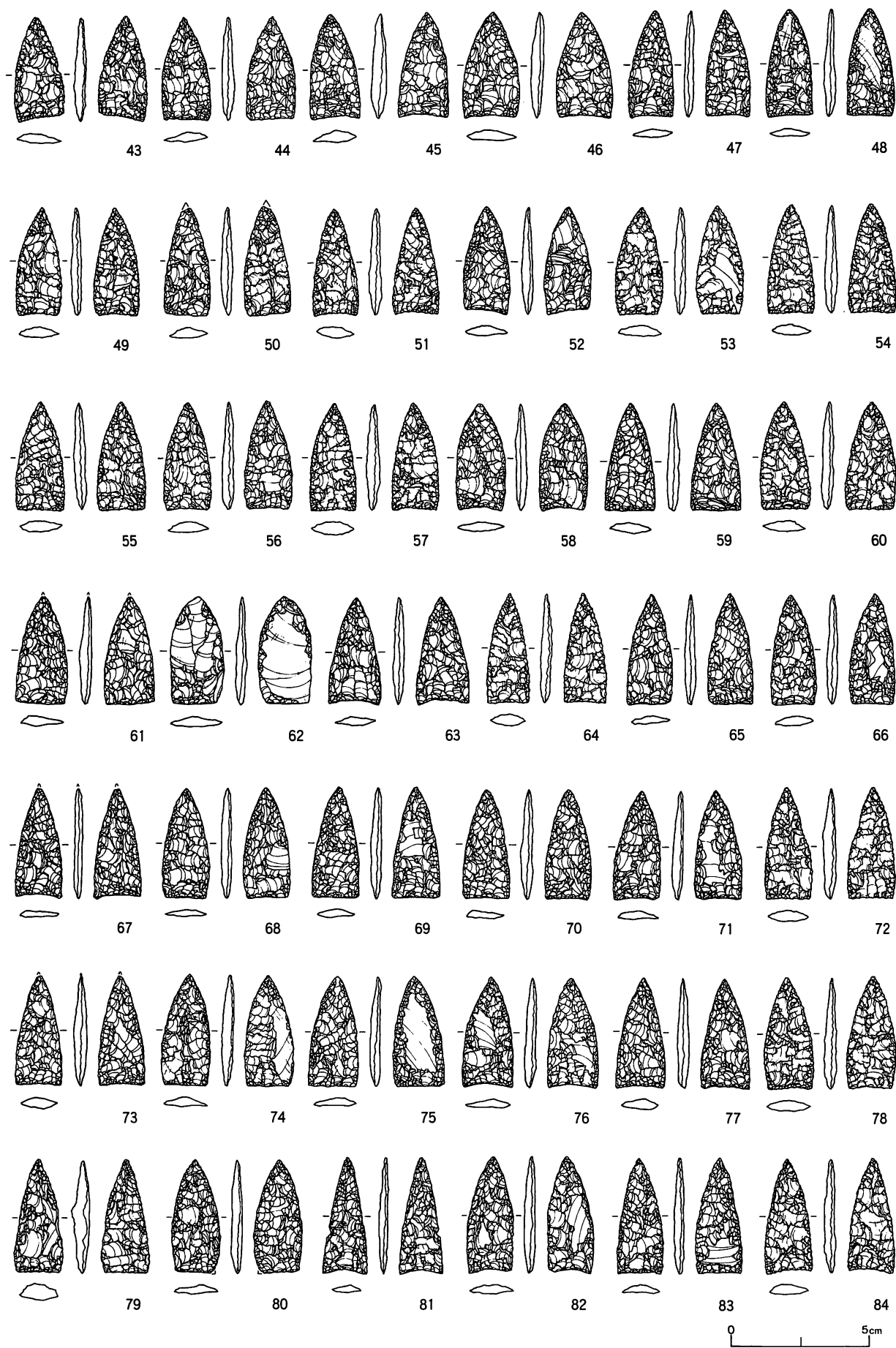


図IV-32 P-15

3 遺構と遺構出土の遺物

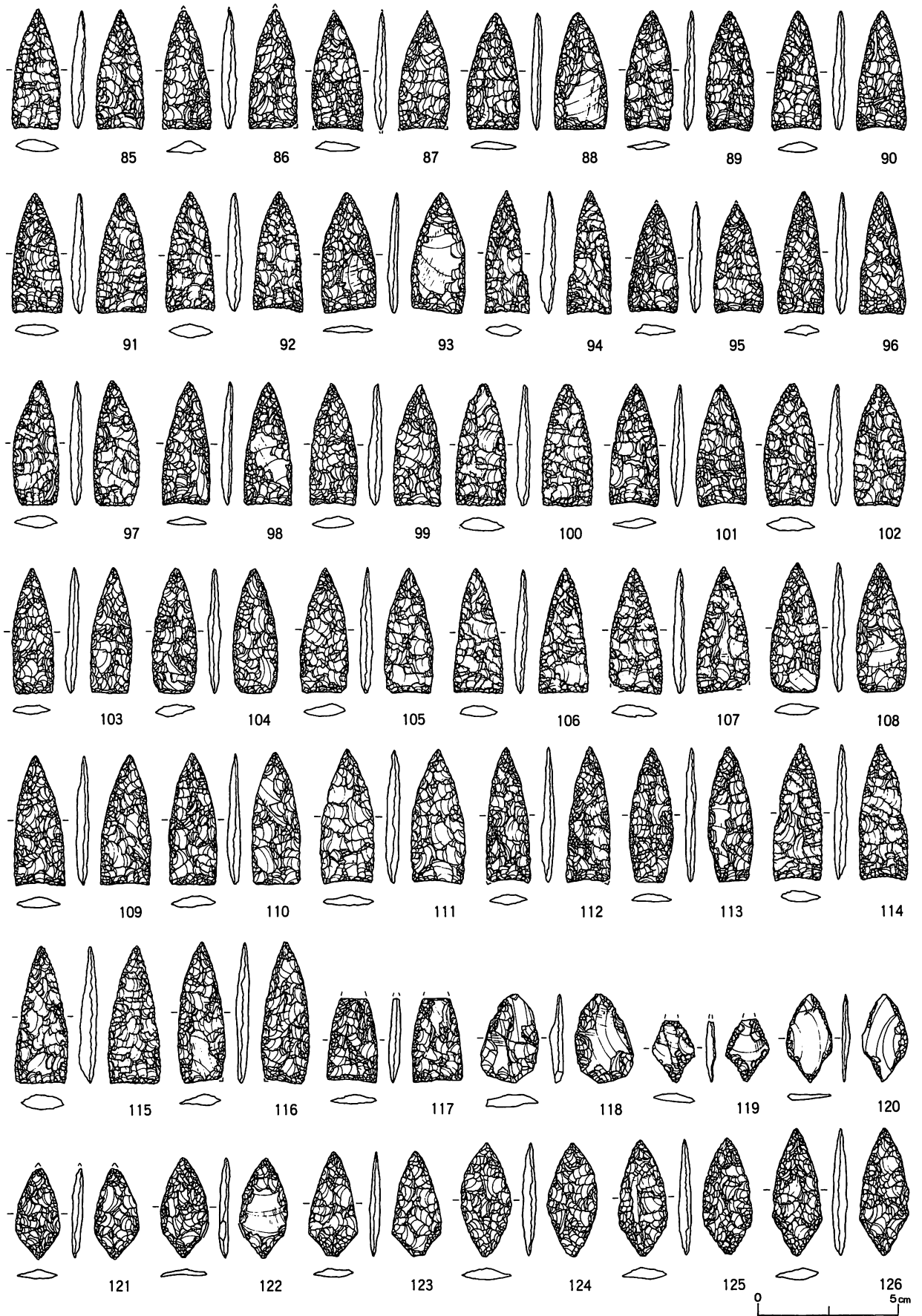


図IV-33 P-15出土遺物(1)

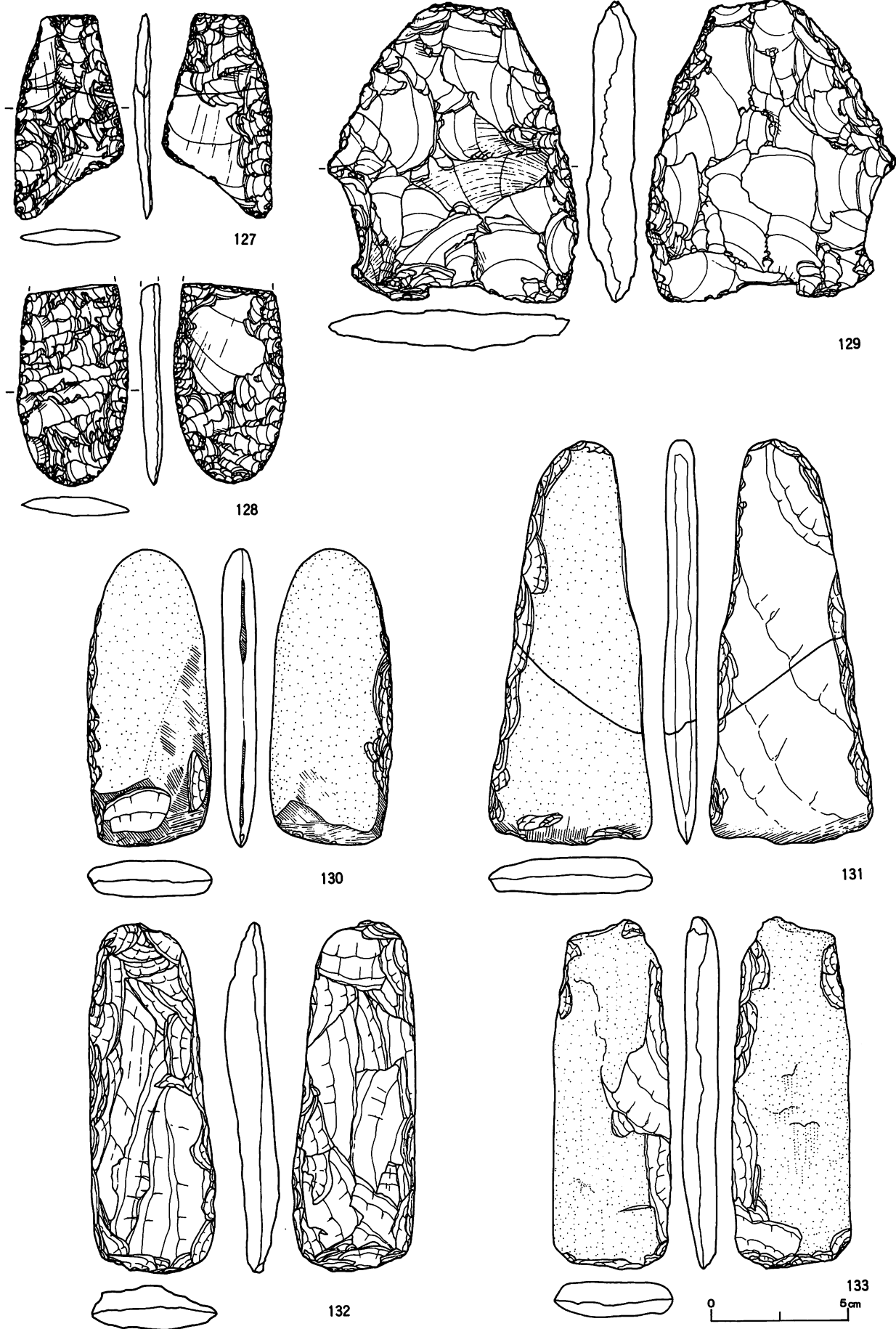


図IV-34 P-15出土遺物(2)

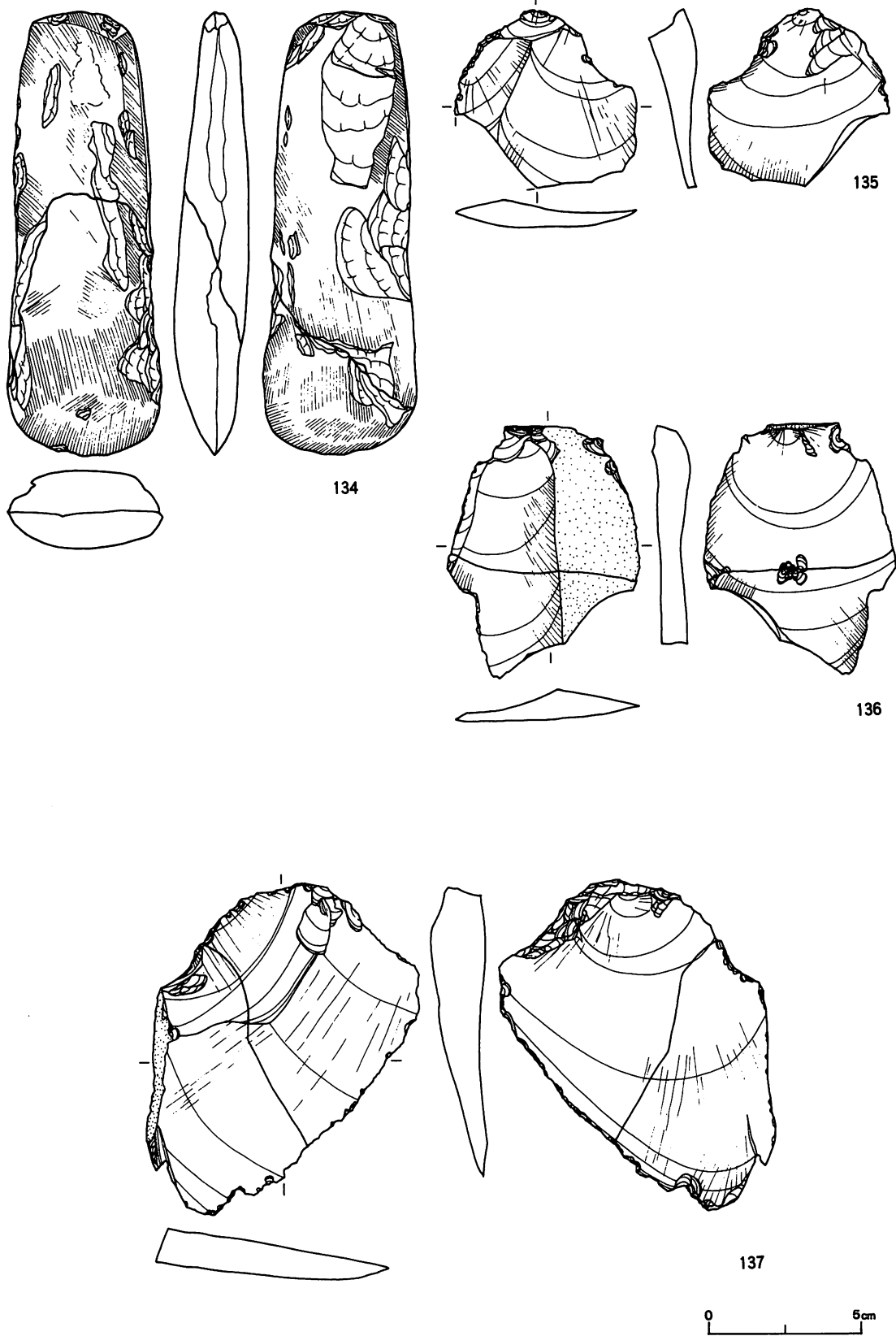
3 遺構と遺構出土の遺物



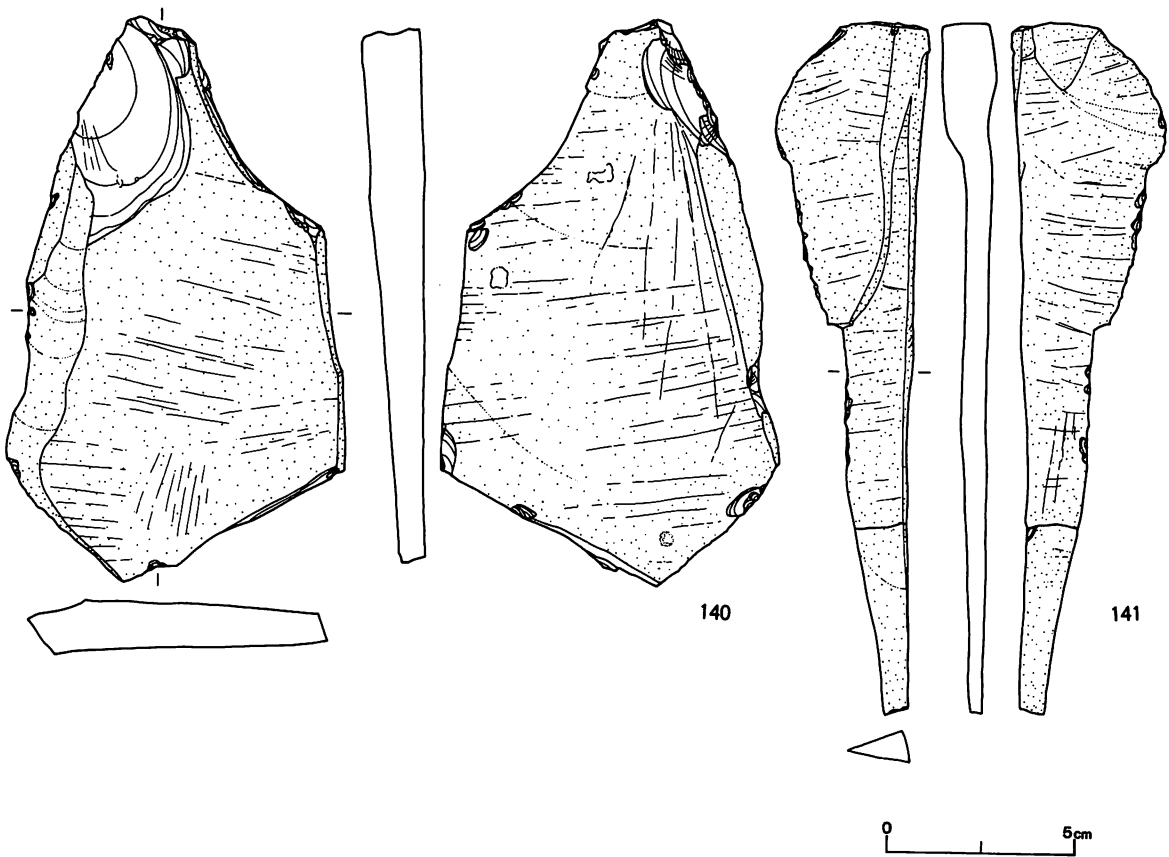
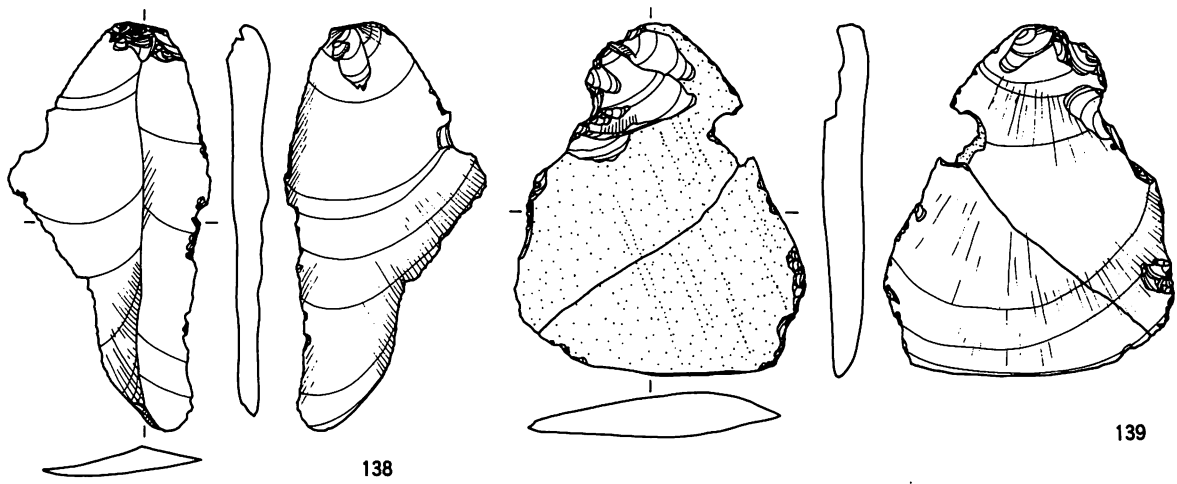
図IV-35 P-15出土遺物(3)



図IV-36 P-15出土遺物(4)



図IV-37 P-15出土遺物(5)



図IV-38 P-15出土遺物(6)

3 遺構と遺構出土の遺物

平面形：楕円形 長軸方向：N-78° - W

出土遺物：V群土器1、石鏃130、ナイフ類4、石斧5、原石4、フレイク16、礫9

Ⅱ層調査中に1カ所から石鏃、石斧等がまとまって出土し、周囲を精査したところ、暗灰色の落ち込みが現れた。遺物を実測して取り上げた後、南側を半截した。覆土は黄褐色土と黒色土が交互に堆積した状態であった。明らかに人為的な埋め戻し土である。壙底部は平坦で、壁の立ち上がりは急である。北側半分を掘り下げた際、北東壁の黄色粘質土中に、相当数の石鏃が出土したため、作業は竹篋などを用い慎重に行った。確認面の遺物は土器片1（V群）、三角形石鏃（IA4）10、石鏃未成品1、両面調整のナイフ1（図IV-36-129）、石斧5、フレイク3、棒状原石3、礫5の計29点。北東壁からは石鏃118点。床直上からはナイフ3、原石1、フレイク8、計12点が出土した。北東壁から検出された石鏃の内訳は三角形石鏃（IA4）111点、木葉形石鏃（IA7a）の8点である。また、図IV-32の北東壁石鏃出土状況図の中の網かけの石鏃は、一般に『花十勝』と称される赤褐色の黒曜石である。『花十勝』製の石鏃が全体の6割を占め、表面の半分以上が赤褐色をした石鏃はIA4の71点、IA7aの4点。計75点であった。

1～117は三角形石鏃である。平基と弱凹基のものが混在しているが、斉一性のあるものなので特に細分せず、大きさ順で配列した。1・2は長さが2.9cmで最小、116は長さが5.0cmで最大である。117は先端を欠損している。118は石鏃未成品。119～126は木葉形石鏃の尖基である。119・121は先端を欠き、123は基部末端を欠く。119・120は一次剥離面を大きく残し、周縁加工だけで形状を整えている。全て黒曜石製。

127～129はナイフ類（ⅢB2）。127・128はともに薄い剥片に両面調整を加えて刃部を作出したもので、裏面に一次剥離痕を残している。128は上部を欠損している。本遺構の北西に隣接するP-17で出土したナイフと極めて類似する。129は厚みのある剥片の両面に調整剥離を加えたもの。剥離は全面に施され、他のナイフ同様に縁辺に微細な二次調整が加えられているが、側縁線が著しく錯交しているため、ナイフとしての実用性は疑問である。全て黒曜石製。

130～134は石斧である。131のみ撥形（ⅣA1）で、他は短冊形（ⅣA2）である。130～133の4本はいずれも作りが粗雑である。研磨によって刃部を作出しているもの（130・131）と、周辺を荒く打ち欠いて形状を整えただけのもの（132・133）に分けられる。が、実用的なものはない。5本中、134のみ実用品であった可能性がある。131・134については基部と刃部が折れて出土したものを接合復元した。130のみ泥岩製、他は全て片岩製。

135～138は黒曜石のフレイクである。138を除き、全て確認面で出土したもの。135・136は原石面を残す。いずれも剥離面が少ないものであるが、接合しなかった。139～141は黒曜石の原石である。いずれも確認面において重なりあって検出された。140は板状。141は棒状である。出土遺物と他の副葬墓の類例から考え、縄文晩期末～続縄文時代初頭のものと思われる。

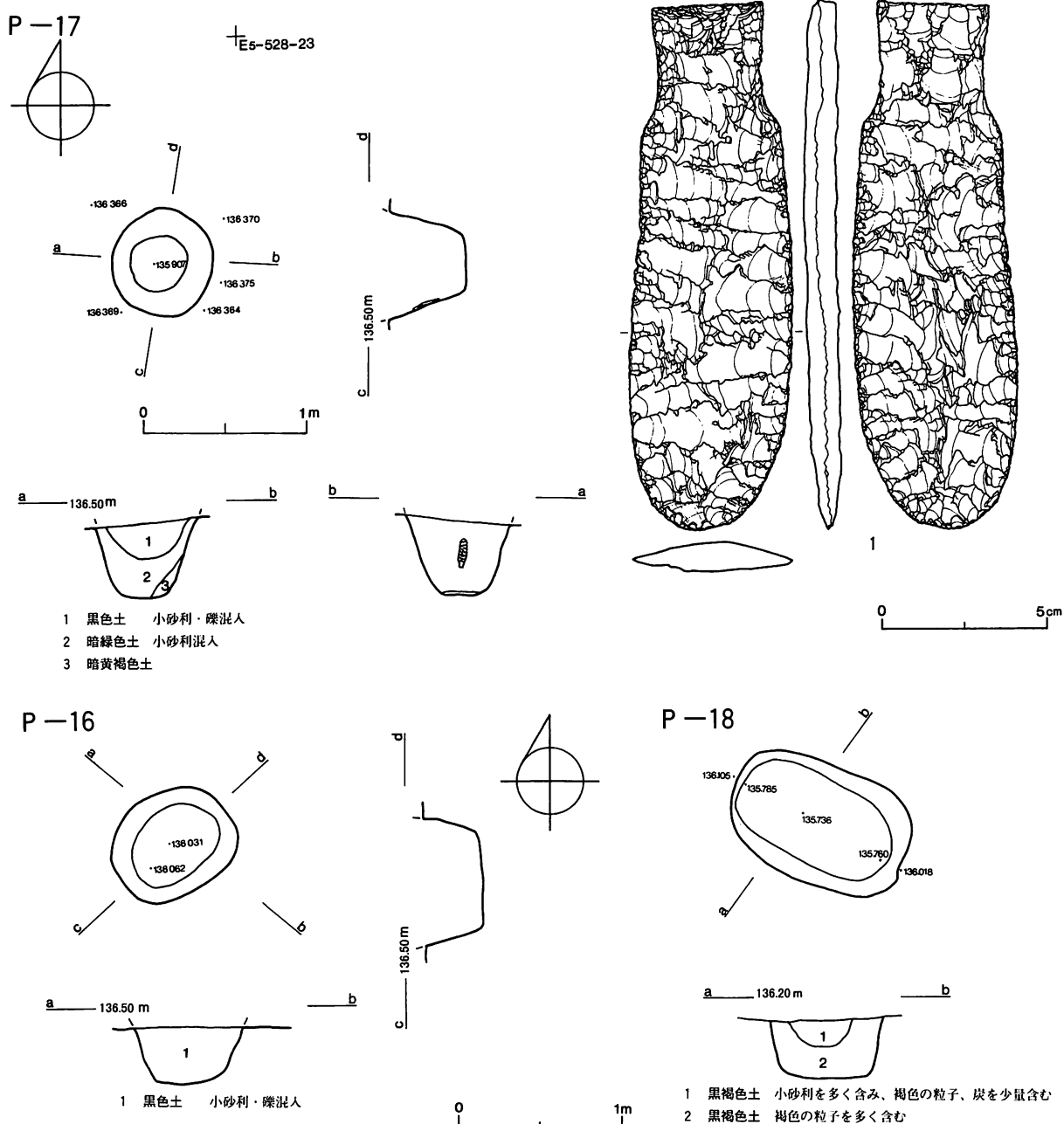
P-16（図IV-39、図版IV-16-4）

位置：F₁-528-3 規模：0.76×0.62/0.57×0.42/0.34m

平面形：楕円形 長軸方向：N-63° - E

出土遺物：なし

Ⅱ層精査中、北側に隣接するP-15と並んで、検出された。覆土は砂利と亜角礫の混じった黒色土層である。壙底は丸みを持ち、壁はそのまま緩やかな立ち上がりを呈している。確認面周辺においてV群の土器片が多量に出土したことから、縄文晩期のものと思われる。



図IV-39 P-16・17・18と出土遺物

P-17 (図IV-39, 図版IV-16-1~3)

位置: $E_5-528-22$ 規模: $0.65 \times 0.62 / 0.34 \times 0.35 / 0.45$ m

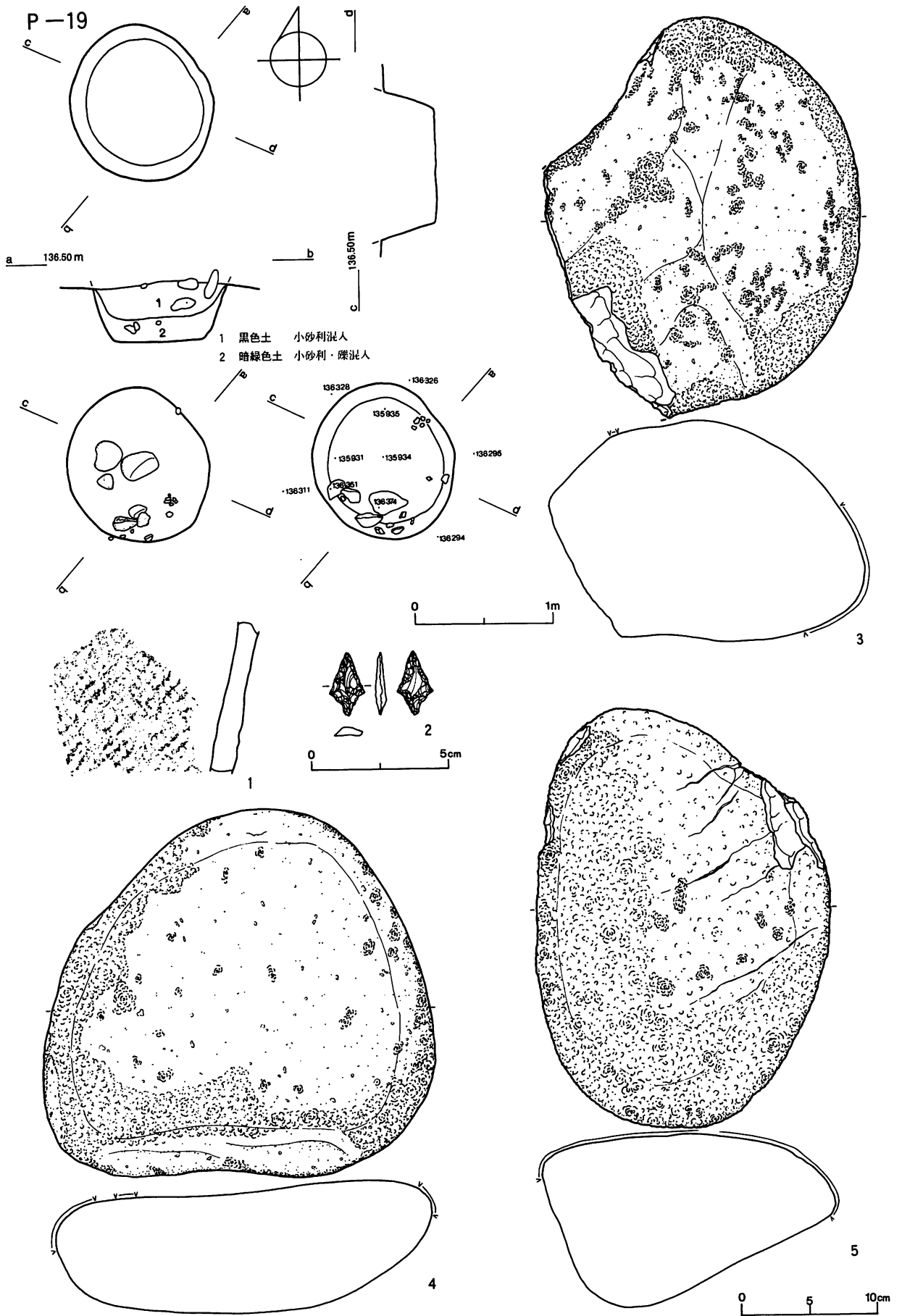
平面形: ほぼ円形 出土遺物: ナイフ状石器 1

II層精査中、P-15の北西に隣接して確認された。南側を半截したところ、約45cmの掘り込みを検出。覆土は3層に分層することができたが、いずれにも小砂利が多量に混入していた。墳底は墳口の径に比べて狭く、壁の立ち上がりも墳底から急角度である。1は長さ17cmのナイフ状石器。南壁際より縦に貼りついて出土したものである。調整剥離を連続的に加えて、幅広の柄と薄手の刃部を作出している。黒曜石製。

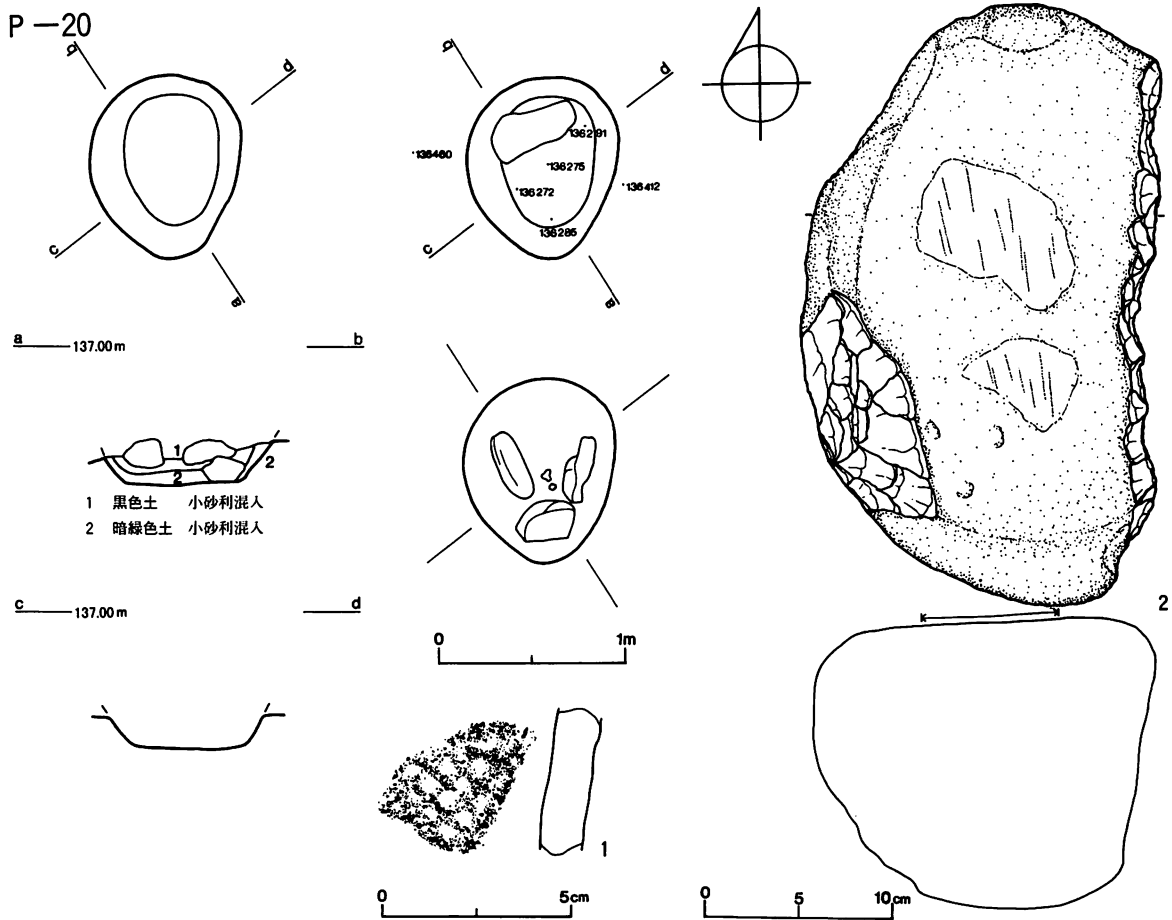
出土したナイフ状石器の形状により、縄文晩期末～続縄文時代初頭のものと思われる。

(影浦 覚)

3 遺構と遺構出土の遺物



図IV-40 P-19と出土遺物



図IV-41 P-20と出土遺物

P-18 (図IV-39、図版IV-16-5)

位置：F₁-528-6 規模：1.12×0.74/0.99×0.53/0.34m

平面形：楕円形 長軸方向：N-64°-W

出土遺物：黒曜石フレイク1

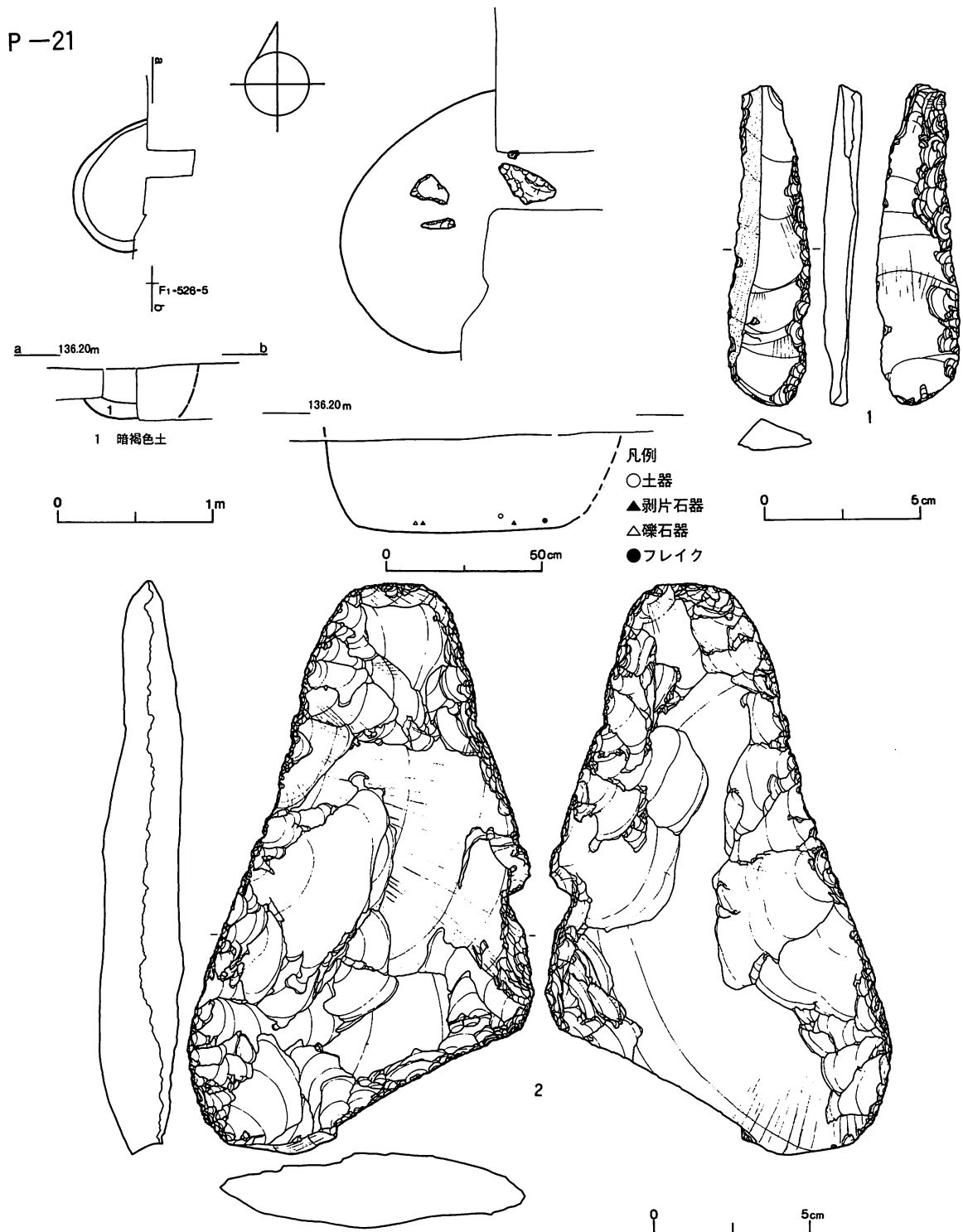
土層確認トレンチにかかって確認された。覆土は小砂利を多く含む黒褐色土である。坑底は平坦で壁は坑底から急激に立ち上がる。遺物は覆土中より出土した黒曜石のフレイク・チップが1点である。(酒井秀治)

P-19 (図IV-40、図版IV-17)

位置：F₁-528-4 規模：1.14×1.04/0.91×0.82/0.40m

平面形：ほぼ円形 出土遺物：V群土器24、石鏃1、台石3、礫14

II層精査中、黒い落ち込みを確認した。北西部を半割したところ約10cmの掘り込みを確認した。坑底部から壁沿いの暗緑色土と上の黒色土とに分層することができたが、小砂利が多量に混入しているため覆土全体が緻密で堅い。1はV群の土器片である。LR原体による縄文のもの。焼成はよく、胎土に石英砂を含む。2は小型の有茎石鏃(IA5c)。周縁調整のみで形状を整えたもので、表裏面に一次剥離痕を残す。黒曜石製。土器片と石鏃に関しては、全て壁際からの出土であるため、流れ込んだ遺物である可能性が高い。3～5は台石である。3・4は周縁部に敲打痕が顕著である。5も敲打痕は周縁部に顕著で、あまり中心を使用していない。また、3～5は全て覆土1の出土である。い



図IV-42 P-21と出土遺物

ずれも10kg強の扁平なトロニウム岩を素材としている。

確認面周辺および覆土からV群の土器片が出土したことから、縄文晩期のものと思われる。

P-20 (図IV-41、図版IV-18-1~3)

位置：E₅-528-24 規模：0.97×0.81/0.69×0.50/0.12m

平面形：楕円形 長軸方向：N-2°-W

出土遺物：II群土器片1、台石1、礫3

II層精査中、人頭大の礫集中を検出した。精査の結果、黒い落ち込みを確認した。北東部を半割したところ約10cmの掘り込みを確認した。壁は緩やかに立ち上がる。覆土は壙底部から壁にかけての暗緑色土と、その上の小砂利を含む黒色土とに分層できた。1は覆土1から出土した土器片。押型文のもの。2は台石である。厚みのある礫を素材とし、周縁を打ち欠きで整形し、表面全体を敲打している。一部表面にはすり面もある。安山岩製。 (影浦 覚)

P-21 (図IV-42、図版IV-18)

位置：F₁-526-4 規模：(0.85)×(0.73)/(0.75)×(0.60)/0.30m

平面形：不整楕円形 長軸方向：N-43°-W

出土遺物：V群土器1点、ナイフ類1点、スクレイパー1点、石皿1点、フレイク29点

住宅跡周辺の攪乱された地区で、暗褐色の落ち込みを確認した。土壌の半分は攪乱を受けており、平面形ははっきりしない。底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がる。壙底直上からは土器片、スクレイパー、大型のナイフ、被熱したトロニウム岩製の石皿片などが出土している。土器は摩耗がはげしいが、胎土、縄文からV群のものと考えられる。

1はスクレイパー。両側縁に粗い加工がなされる。2は大型の両面調整のナイフ。全体に粗い調整が施される。主面右下のノッチは新しいものである。

土壌は形状や出土遺物からみて土壙墓の可能性はある。

(愛場和人)

P-23 (図IV-43、図版IV-19-1・2)

位置：F₁-526-15 規模：0.69×0.58/0.60×0.55/0.30m

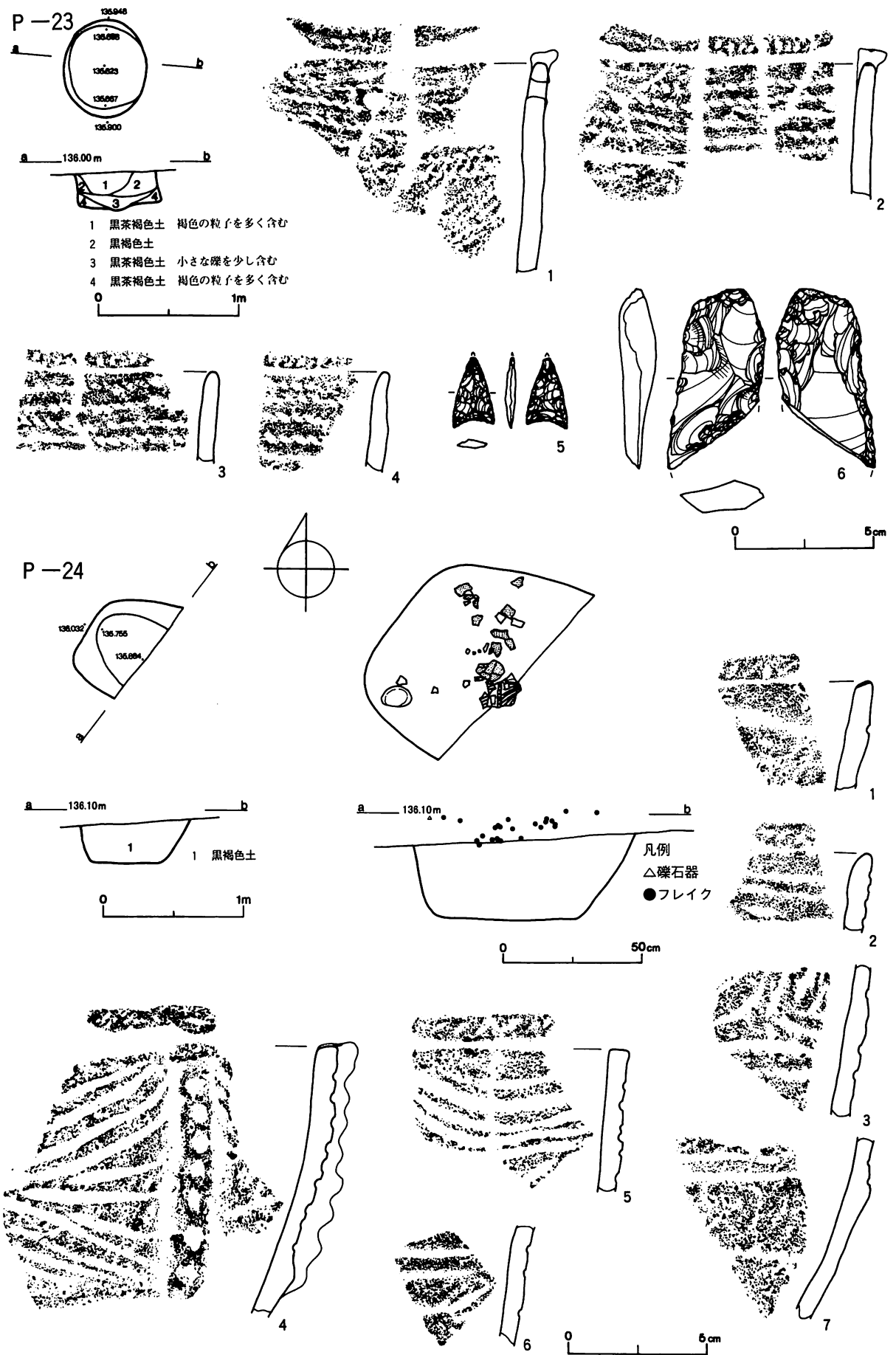
平面形：円形

出土遺物：VI群土器79、石鏃1、スクレイパー1、加工痕ある礫2、黒曜石フレイク30、礫・礫片1

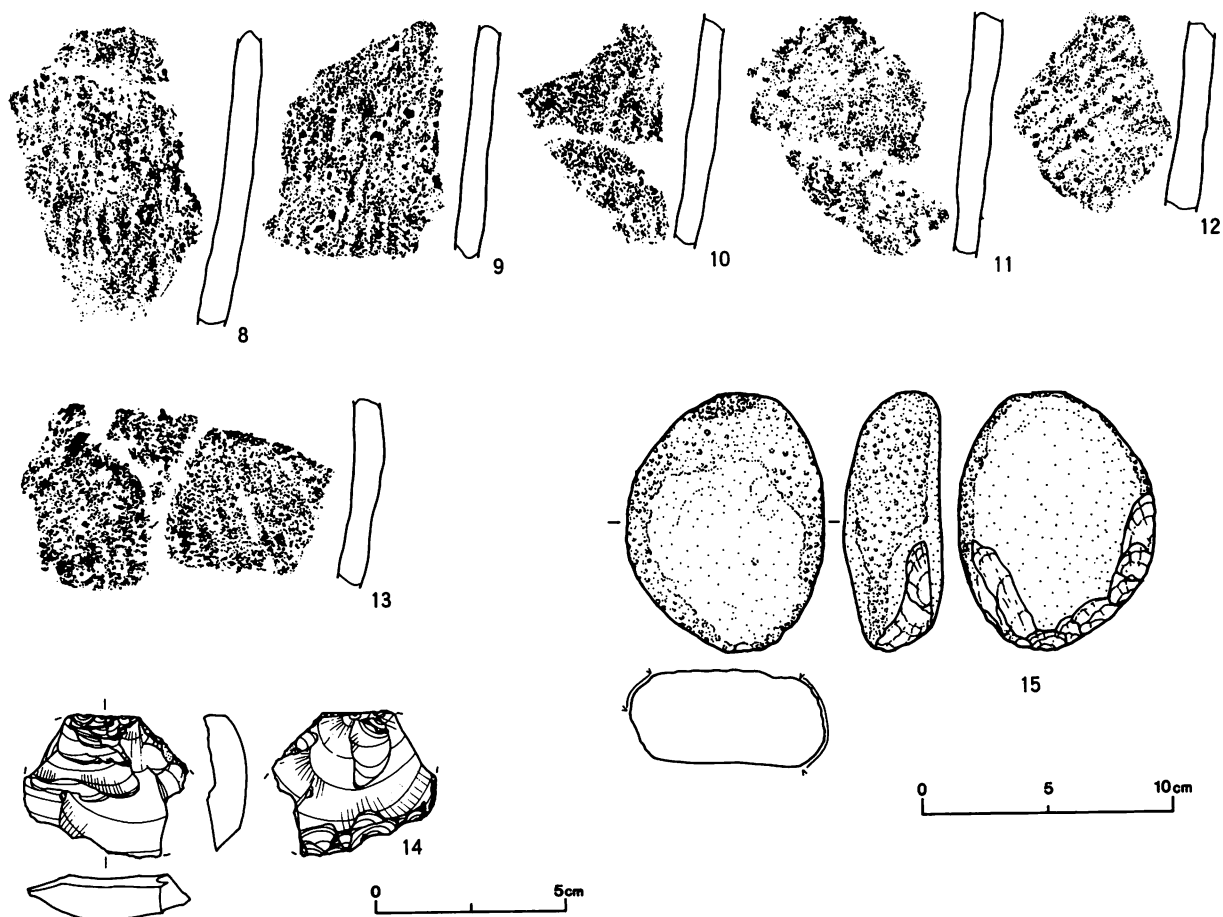
II層下の茶褐色砂礫層の上面で黒茶褐色土の落ち込みとして確認された。茶褐色砂礫層を掘り込んで構築されている。壙底面は平坦で壁は急激に立ち上がる。覆土は4層に分層したが、ほぼ単一の層である。遺物は覆土1層に含まれる。

出土遺物のうち出土土器はすべてVI群土器である。LR原体による斜行縄文が施されている。同一個体と思われるが復元はできなかった。1~4はすべて鉢形土器の口縁部である。1・2には口唇部に貼り付けがされ外反し、口唇に縄圧痕が施される。口唇直下には焼成前に穿孔された穴があいている。口縁部にはLR原体による横位の縄線文が4条巡る。1・2は前後に対になり、3・4は側面に当たる部分である。5は三角鏃で6はスクレイパーの破片である。黒曜石製である。

3 遺構と遺構出土の遺物



図IV-43 P-23・24と出土遺物



図IV-44 P-24出土遺物(2)

P-24

位置：F₁-526-15 規模：(-) / (-) / 0.35m

平面形：不明

出土遺物：V群土器86、スクレイパー1、たたき石1、黒曜石フレイク1

P-18に隣接して、土層確認トレンチにかかって確認された。トレンチによって半分を削平され、半分を検出したのみである。覆土は黒褐色土である。壙底は平坦で壁は急激に立ち上がる。

遺物の出土状況は壙口部上面に集中して出土している。覆土中からは出土していない。

出土遺物のうち土器はすべてV群である。1~13は同一個体で胴部の張り出す鉢形土器である。LR原体による縄文が張り出し下部に施されている。1・2・4・5は口縁部、3・6・7~13は胴部破片である。胎土は砂粒・石英を多く含む。口唇は軽く外反し、断面は角形である。口縁部は弧状の沈線文が施されている。4は口唇部から張り出し部分まで縦の貼り付けがなされ、上から棒状の工具によって刺突がなされている。裏にはすすが付着している。7は張り出し部分である。14は黒曜石製のスクレイパーの破片である。15は砂岩製の背の部分にたたき痕のあるたたき石である。

P-25

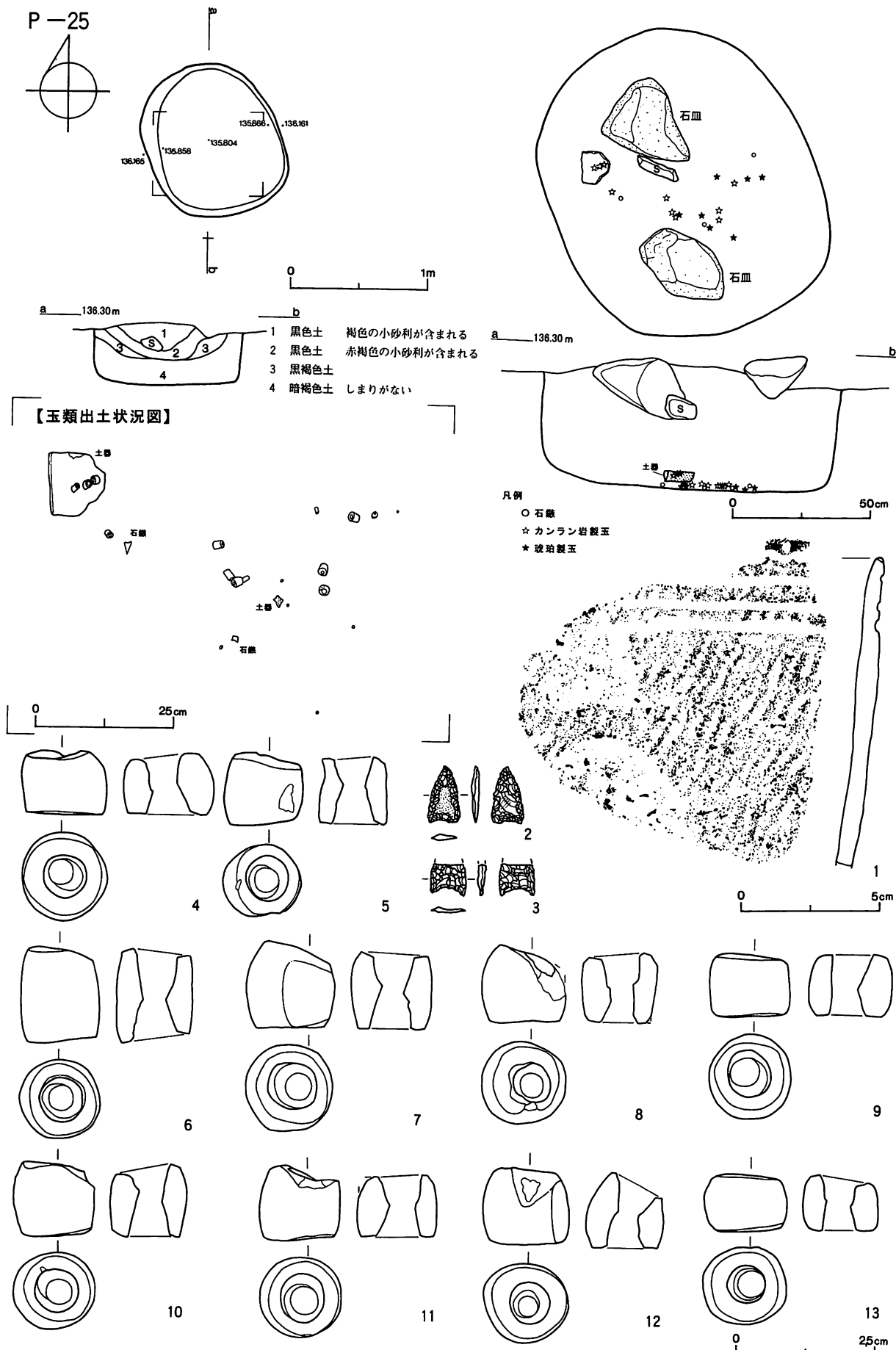
位置：F₁-528-9・10 規模：1.12×1.02 / 0.95×0.89 / 0.43m

平面形：楕円形

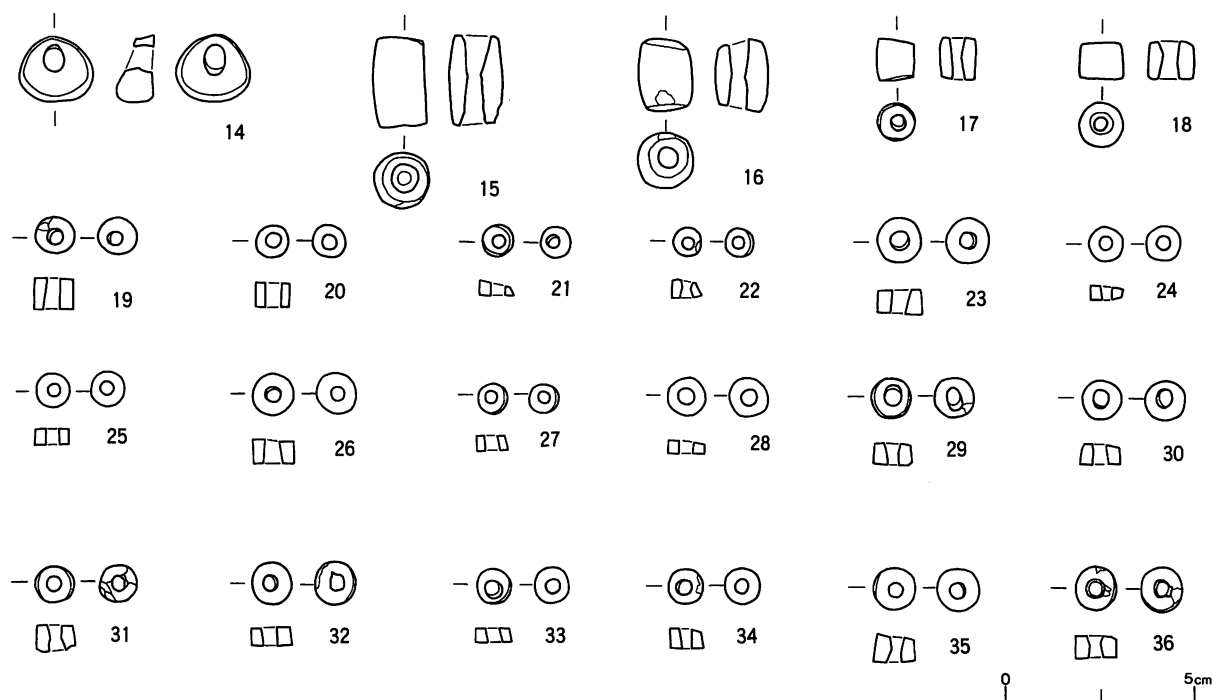
長軸方向：N-24° -W

出土遺物：V群土器10、VI群土器5、石鏃2、石皿2、琥珀玉70（完形27、破片43）、

3 遺構と遺構出土の遺物



図IV-45 P-25と出土遺物(1)



図IV-46 P-25出土遺物(2)

カンラン岩製玉10、黒曜石フレイク 8、礫・礫片 1

Ⅱ層調査中にⅡ層下の茶褐色砂礫層の上面で黒色土の落ち込みと石皿が確認された。土壌は茶褐色砂礫層を掘り込んで構築されている。墳底面は砂礫層中に作られ、平坦である。壁は急激に立ち上がり、ほぼ垂直である。覆土は暗褐色土が墳底部に充填され、その上を覆うように黒褐色土、黒色土がある。覆土2層の黒色土には赤褐色の小砂利が含まれる。赤色顔料の代替物かと考えられる。

遺物の出土状況は墳口部において石皿2点と礫が出土した。石皿は使用面のあまりはっきりとしないトロニウム岩製のものであった。墳底部の北東壁際には土器片(1)が裏向きになって出土し、その上にはカンラン岩製の玉が3点乗っていた。墳底部の中央部付近にはばらまかれたような状況で石鏃(2・3)やカンラン岩製の玉(4~13)、琥珀玉(14~36)が出土している。

出土した遺物のうち土器はV群10点、VI群5点である。1は深鉢形土器の口縁部である。胎土は径2mmほどの砂粒を多く含む。口唇部がわずかに外反し、口唇には棒状工具による刻みが施される。L R原体の斜行縄文が施され、口縁部には3条の横走る沈線が施されている。2・3は三角鏃である。2は周縁のみを加工したものである。4~13はカンラン岩製の玉である。外面は面取りを行っている。断面が台形状になるものが多く、特徴的である。穿孔方法はすべて両方向から行っている。14~36は琥珀製の玉である。14は隅丸三角形状で頂点よりに穿孔されている。15・16は棗玉状のものである。16は面取りがされている。穿孔方法は両面から行うもの(14~18・31・35・36)、片面からだけのもの(19~30・32~34)の2とおりに分けられる。

遺構の性格としては遺物の出土状況などから土墳墓と考えられる。

(酒井秀治)

iv) 第Ⅲ群土壌群

P-27 (図IV-48、図版-21)

位置：E₃-530-18 規模：1.03×0.73/0.92×0.61/0.20m

平面形：楕円形 長軸方向：N-51° - E

3 遺構と遺構出土の遺物

出土遺物：V群土器8点、台石1点、砥石（矢柄研磨器）1点

Ⅱ-1層調査中、矢柄研磨器の出土により確認された土壌である。隣接してP-28がある。覆土は1層で小砂利を含む。底面は平らで、壁は斜めに立ち上がる。遺物は土壌中央にまとまる傾向にある。土器はV群a類、V群c類土器が出土している。

1・2は爪形文が施された土器。3はスコリア製の矢柄研磨器。覆土上面からの出土である。一面には幅1cm程の溝が1条があり、裏面にはV字状の断面をもつ細い溝が4条みられる。

土壌は形状、出土遺物から墓塚の可能性はある。

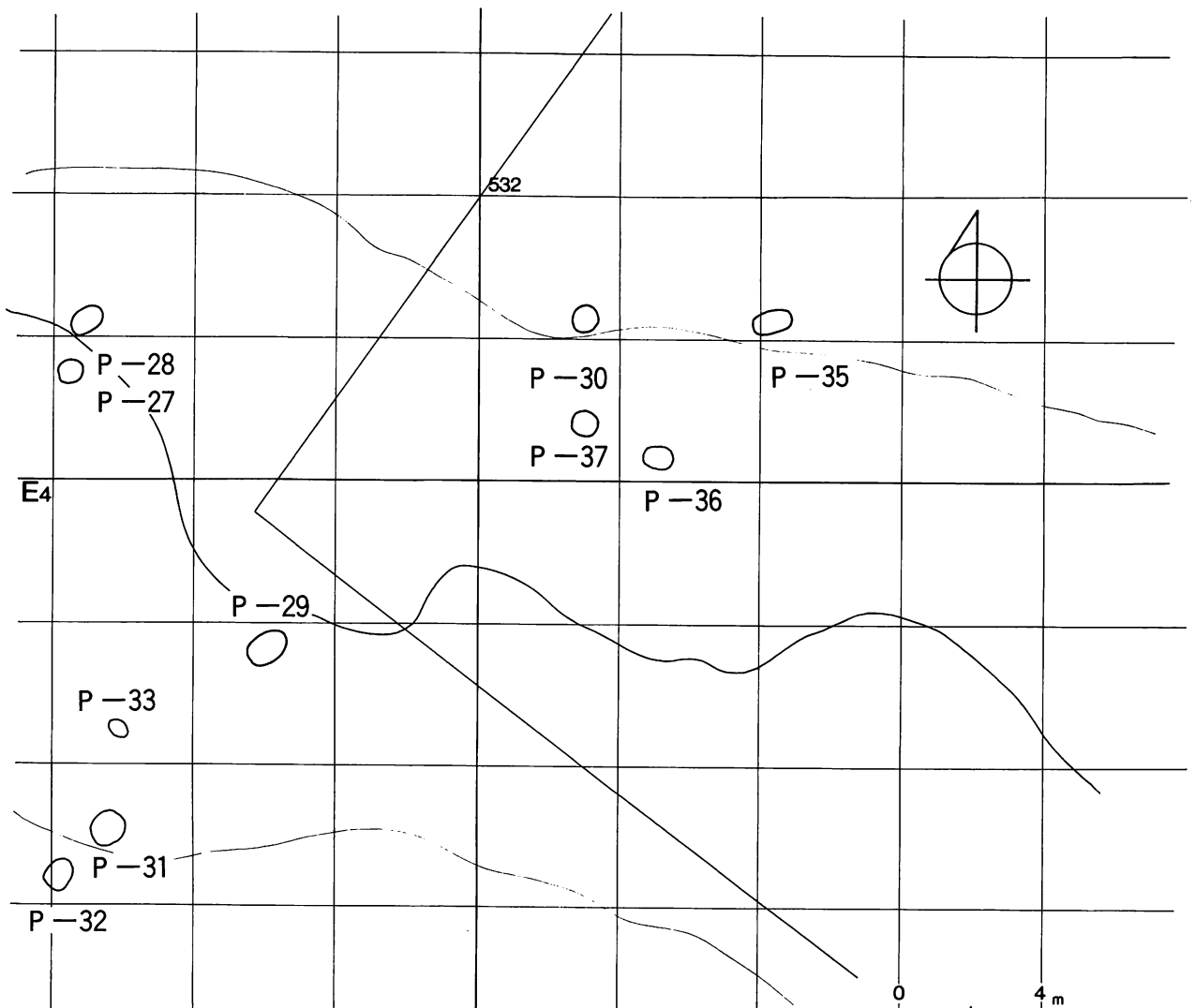
P-28 (図IV-49、図版IV-21)

位置：E₃-530-23 規模：0.75×0.70/0.67×0.60/0.14m

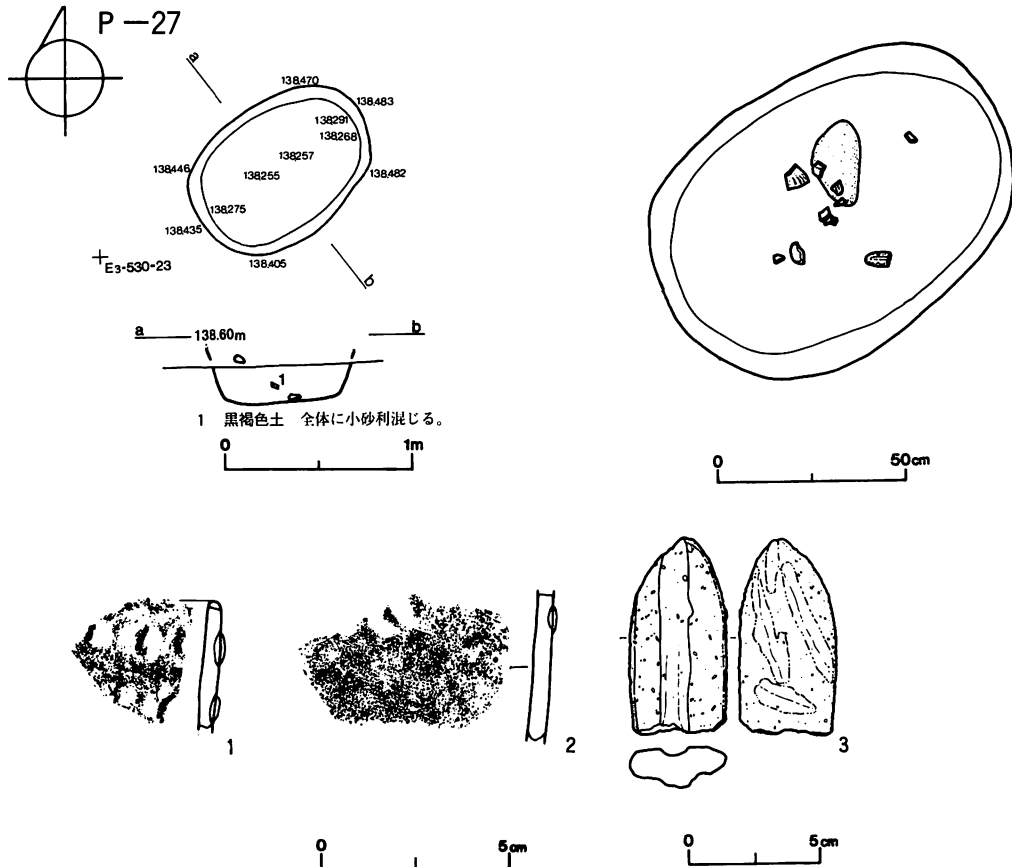
平面形：円形

出土遺物：礫2点

P-27と隣接する。Ⅱ-1層調査中に、V群土器がまとまって出土した(図IV-133-7)。周辺を精査したところ、土器のまとまりから2m程東にトロニウム岩が中央にある円形の落ち込みを確認し



図IV-47 第Ⅲ群土壌の分布



図IV-48 P-27と出土遺物

た。トロニウム岩は土壌中央に2つ重なって出土した。遺物はこれのみである。

P-29 (図IV-49、図版IV-21)

位置：E₄-530-10 規模：1.10×0.85/0.98×0.75/0.24 m

平面形：不整楕円形 長軸方向：N-48°-E

出土遺物：V群土器35点、台石1点、石皿1点、フレイク2点、砥石1点、礫・礫片10点

礫のまとまりがみられたため確認された土壌である。覆土は黒色土で粘質である。底面は平らで、北西側の壁は垂直に立ち上がる。礫・礫片はすべて砂岩で、被熱している。土器は細かく割れ、摩耗がはげしい。

1はV群a類土器。2～5はV群c類土器である。胎土にはガラスを含む。6は砥石。両面にすり面をもつ。ススが付着する。

土壌は形状、出土遺物から墓墳の可能性はある。

P-30 (図IV-50、図版IV-22)

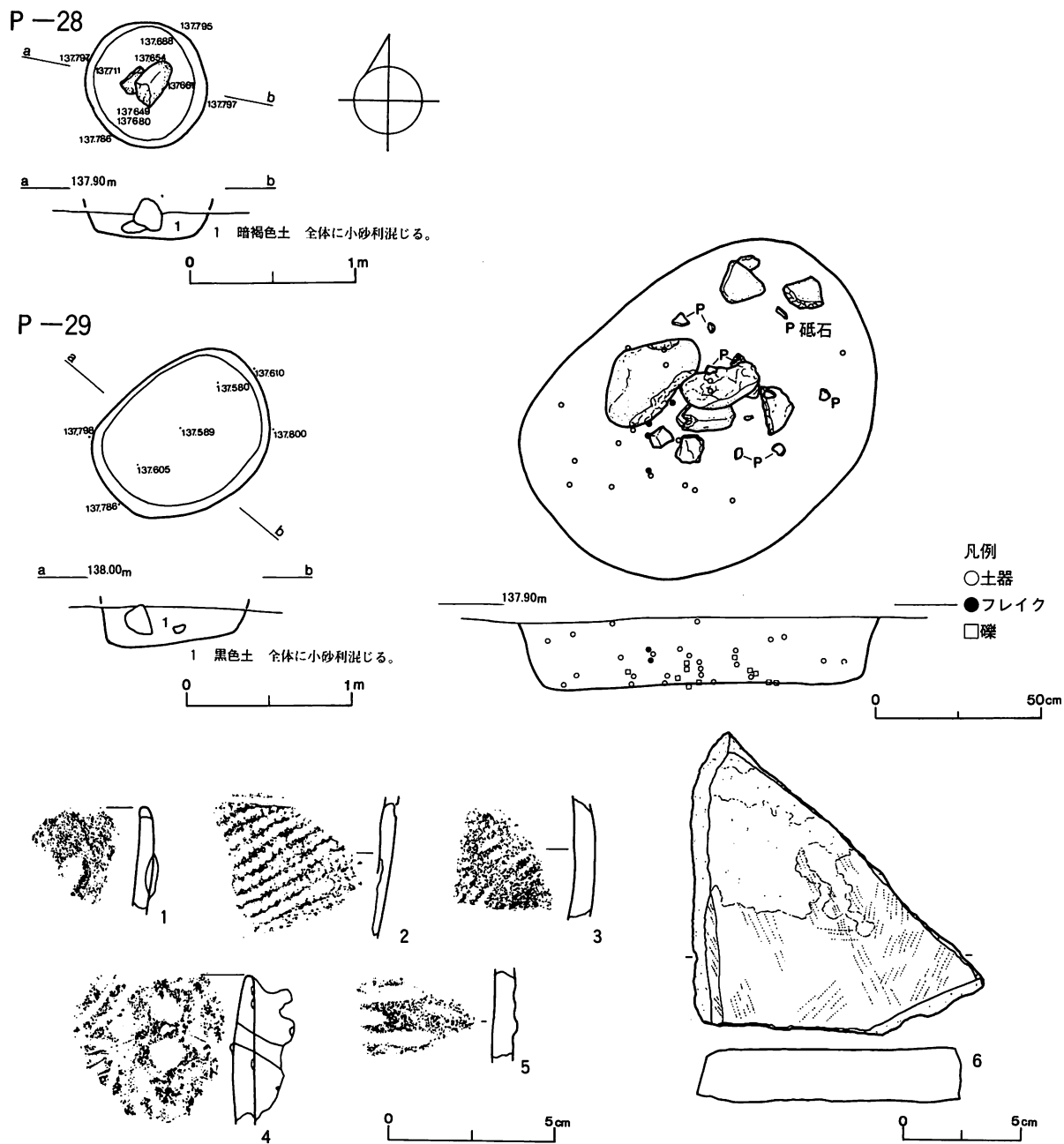
位置：E₃-532-16 規模：0.73×0.73/0.62×0.62/0.11 m

平面形：円形

出土遺物：V群土器12点、石鏃1点、ナイフ類1点、スクレイパー3点、フレイク2点、礫・礫片3点

II-1層調査中に黒色土の落ち込みを確認し、半割して調査をすすめた。覆土は1層で、小砂利を

3 遺構と遺構出土の遺物



図IV-49 P-28・29と出土遺物

多く含み、赤化した小砂利も混じる。底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がる。掘り込みは浅い。覆土中には全体に土器片、剥片石器、フレイク、礫、焼成粘土塊などが混じる。礫は被熱している。

1は胴部に張り出しをもつ鉢形土器。一部に赤色顔料が残る。2は有茎の石鏃。基部は折れている。3は両面調整のナイフの基部。4・5はスクレイパー。(愛場和人)

P-31 (図IV-50、図版IV-22-3~5)

位置：E₄-530-13 規模：1.04×0.90/0.94×0.80/0.19m

平面形：楕円形 長軸方向：N-47° - E

出土遺物：V群土器1、スクレイパー1、黒曜石フレイク4、礫・礫片4

II-1層調査中に礫の出土と黒褐色土の落ち込みからII-1層直下の茶褐色砂礫層上面で確認された。P-32・33と隣接する。茶褐色砂礫層を掘りぬき、II-A層で底面を作っている。皿状である。覆土は黒褐色土が主体で、黄褐色の粒子が混じる。土器はV群である。1は口縁部付近の土器である。胎土は砂粒を多く含む。LR原体による2条の横走る縄線文が施されている。2は黒曜石製の素材の形状を変えないスクレイパーである。壙底面北側から出土した。

P-32 (図IV-50、図版IV-22-6)

位置：E₄-530-8 規模：0.62×0.44/0.44×0.34/0.17m

平面形：楕円形 長軸方向：N-56° - W

出土遺物：黒曜石フレイク1

II-1層調査中に黒褐色土の落ち込みとしてII-1層直下の茶褐色砂礫層上面で確認された。P-31と隣接する。茶褐色砂礫層を掘り込んでいる。底面は平坦であり、壙口部へ開き気味に壁が立ち上がっていく。覆土は黒褐色土が主体で、黄褐色の粒子が混じる。

P-33 (図IV-50、図版IV-23-3・5)

位置：E₄-530-13 規模：0.90×0.80/0.68×0.53/0.23m

平面形：楕円形 長軸方向：N-10° - E

出土遺物：V群土器15、黒曜石フレイク27、礫・礫片1

II-1層調査中に黒褐色土の落ち込みとしてII-1層直下の茶褐色砂礫層上面で確認された。P-31と隣接する。茶褐色砂礫層を掘りぬき、II-A層で底面を作っている。皿状である。覆土は黒褐色土が主体で、黄褐色の粒子が混じる。出土した遺物のうち土器はV群である。1は口縁部の土器である。胎土は砂粒を多く含む。LR原体による縄線文が施される。口唇断面がとがる。

P-34 (図IV-51、図版IV-23-4・5)

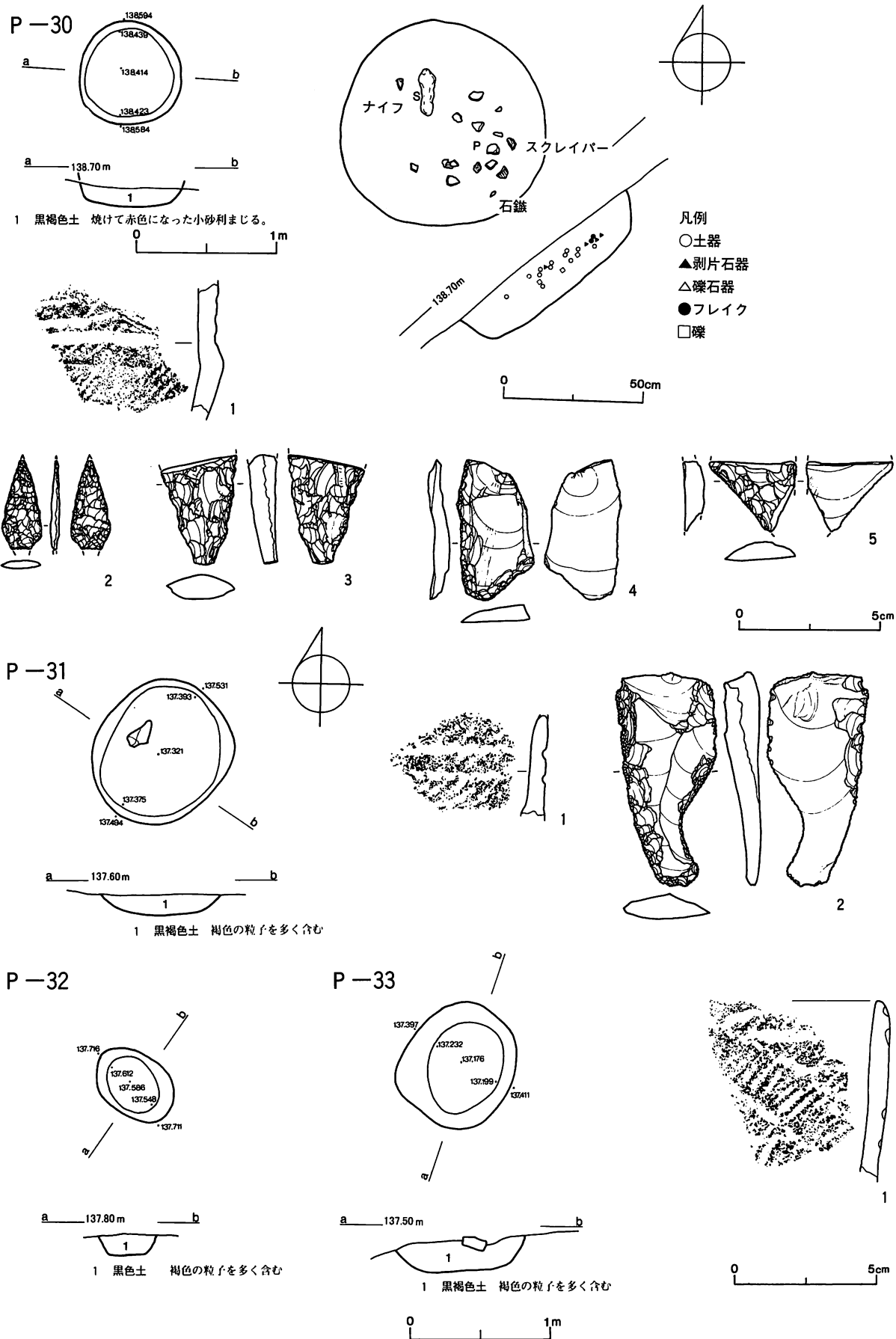
位置：E₃-534-12 規模：0.68×0.68/-×-/0.16m

平面形：円形

出土遺物：V群土器4、台石片1、礫・礫片1

II-1層調査中に黒褐色土の落ち込みと礫の出土から、II-1層直下の茶褐色砂礫層上面で確認された。茶褐色砂礫層を掘り込んでいる。皿状である。覆土は黒褐色土と暗褐色土が主体で、黄褐色の粒子が混じる。(酒井秀治)

3 遺構と遺構出土の遺物



図IV-50 P-30・31・32・33と出土遺物

P-35 (図IV-51、図版-24)

位置：E₄-532-17・18 規模：1.03×0.60/0.92×0.48/0.28m

平面形：隅丸方形 長軸方向：N-77°-E

出土遺物：V群土器19点、スクレイパー1点、砥石1点、フレイク5点、礫2点

II-1層調査中にV群土器がまとまって出土した(図IV-51-3)。周囲を精査したがこの段階で遺構は確認できず、壙底近くの礫や土器の集中まで掘り進めて、はじめて遺構と認識した。覆土は茶褐色土で、一部に焼土、ベンガラ粒がみられた。底面は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。遺物は土器片やスクレイパー、砥石などで、壙底に置かれた礫の周りにまとまって出土した。また炭化したクルミの堅果が出土している。

1は縄線が施されるもの。2は胴部に段をもつ鉢形土器。赤色顔料が残る。口唇部には縄が押されている。上面観は楕円になるようである。3は土壙の上面にまとまって出土したもの。浅鉢形土器である。口唇部はとがり、口唇内側には棒状の工具で縦に短い沈線が施文される。土器は土圧による割れかたをしていない。4は頁岩製のスクレイパー。周縁に細かな調整がはいる。5は砥石。一面にのみすり面をもつ。全体にススが付着する。

土壙は形状、出土遺物からみて墓壙の可能性がある。

(愛場和人)

P-36 (図IV-52、図版IV-24-2~4)

位置：E₃-532-22 規模：0.88×0.66/0.72×0.48/0.14m

平面形：楕円形 長軸方向：N-79°-W

出土遺物：V群土器24、スクレイパー3、たたき石1、黒曜石棒状原石3、黒曜石フレイク3、礫・礫片1

II-1層調査中に遺物の集中出土と黒褐色土の落ち込みから、II-1層直下の茶褐色砂礫層上面で確認された。茶褐色砂礫層を掘り込んで、皿状である。覆土は黒褐色土が主体である。

遺物の出土状況はすべての遺物が壙口部にまとまって出土した。

遺物のうち土器はすべてV群である。1・2は浅鉢形土器の同一個体の口縁部である。胎土は砂粒が多く含まれ摩耗が激しい。口唇断面はとがっており、口唇には縄圧痕が施される。3は浅鉢形土器である。胎土は砂粒を多く含み、摩耗が激しい。口唇がわずかに外反し、断面は尖っている。丸底である。4~6は黒曜石製のスクレイパーである。4・5は下端部に刃部があるもの、6は側縁に刃部があるものである。7~9は黒曜石の棒状原石である。10は安山岩製の側縁にたたき痕のあるたたき石である。

(酒井秀治)

P-37 (図IV-52、図版IV-25)

位置：E₅-532-21 規模：0.80×0.69/0.70×0.60/0.14m

平面形：円形

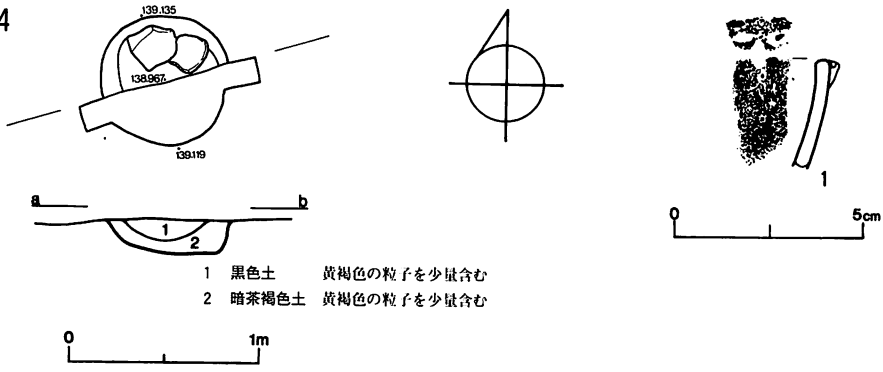
出土遺物：V群土器3点、礫1点

II-1層調査中、黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土は4層に分かれる。底面は皿状で、掘り込みは浅い。覆土中からは土器片、礫とともに炭化したクルミの堅果が出土している。

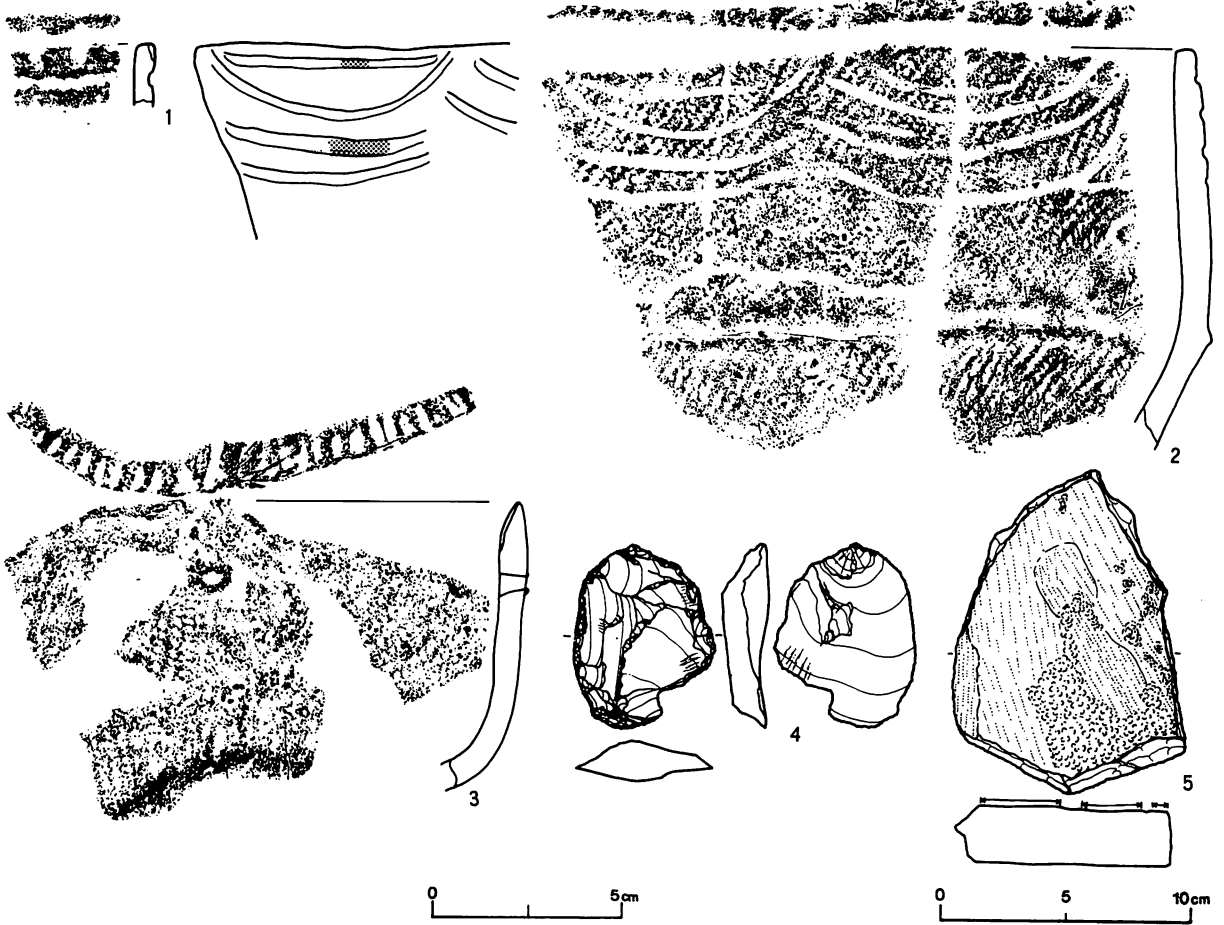
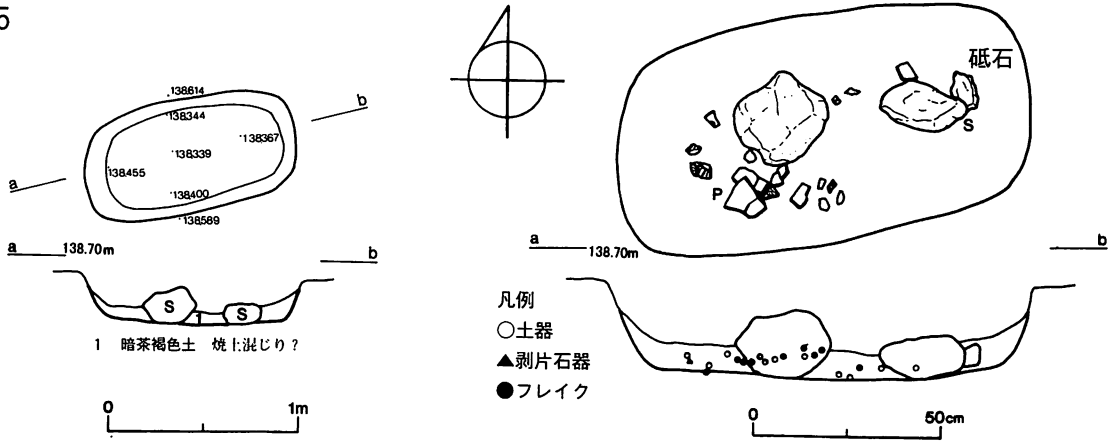
1はV群c類土器。摩耗がはげしい。

3 遺構と遺構出土の遺物

P-34

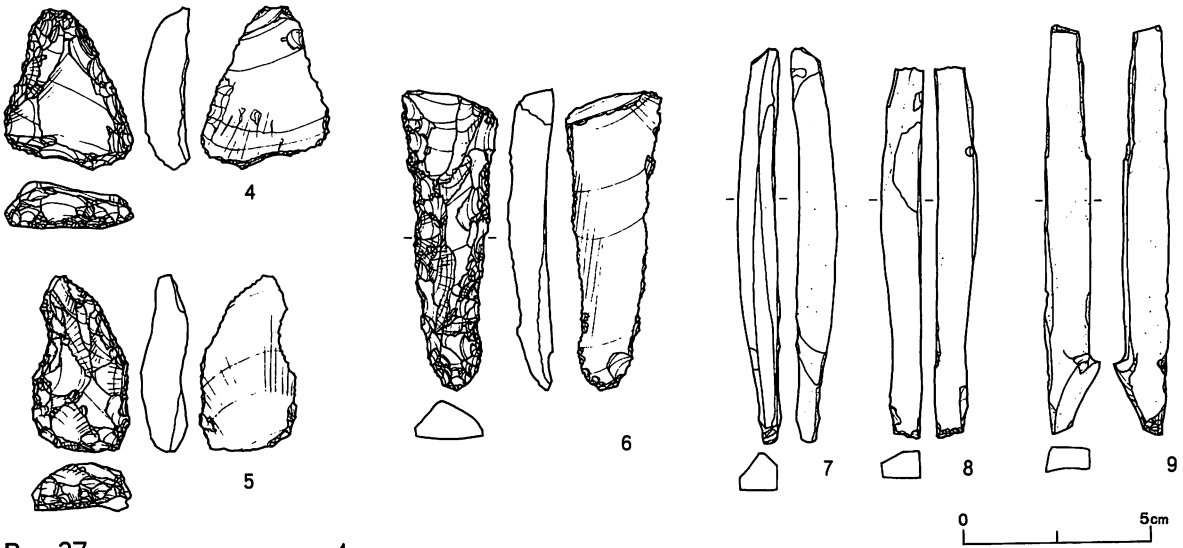
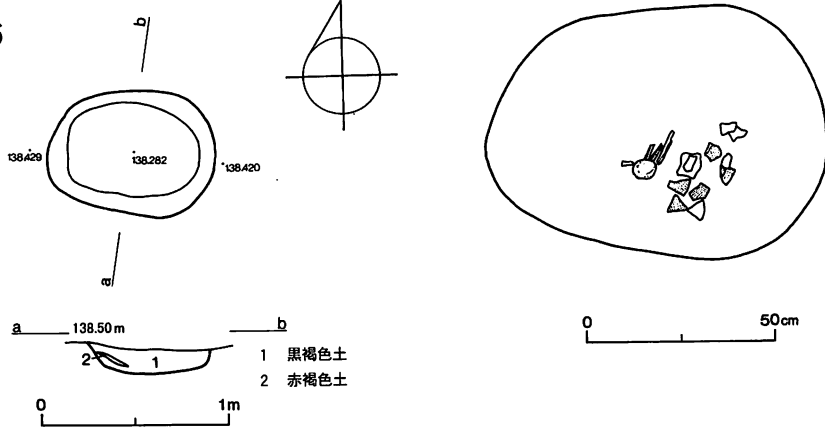


P-35

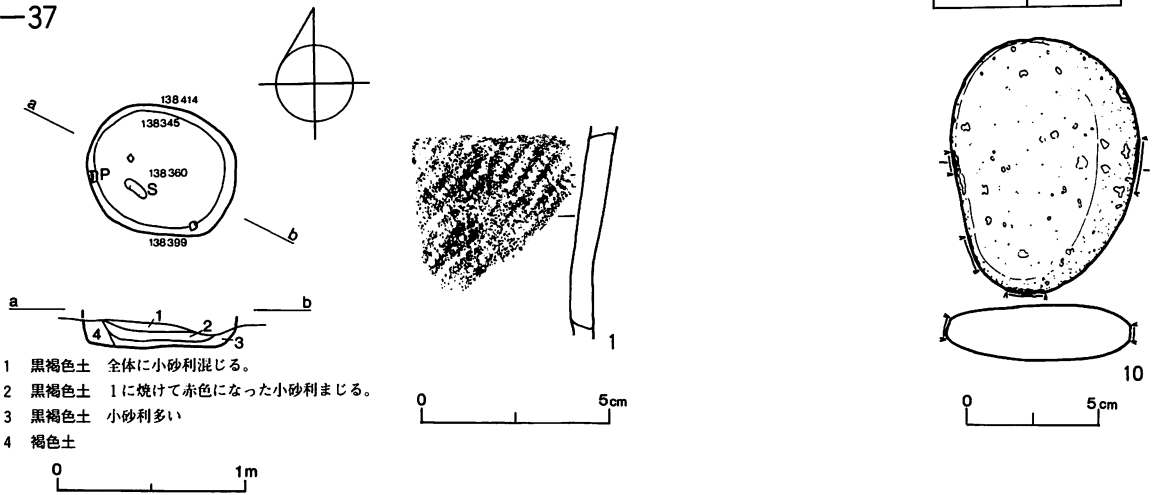


図IV-51 P-34・35と出土遺物

P-36



P-37



- 1 黒褐色土 全体に小砂利混じる。
- 2 黒褐色土 1に焼けて赤色になった小砂利まじる。
- 3 黒褐色土 小砂利多い
- 4 褐色土

図IV-52 P-36・37と出土遺物

3 遺構と遺構出土の遺物

2) 石囲い炉

石囲い炉は1・6・4と3・2・5が列をなして検出された。石囲い炉の間隔は2 m程である。焼土部分の規模は50~60cmである。

石囲い炉1 (図IV-53、図版IV-28-2・3)

位置：E₃-532-24 規模：0.50×0.37/0.11m

出土遺物：石錐1点、石皿1点、フレイク1点、礫13点

II-1層調査中に確認された。焼土は炉石面からやや掘り窪められた面にある。炉石は一部に平滑な面をもつものが多く、石皿が1点使用されている。1は頁岩製の石錐。(愛場和人)

石囲い炉6 (図IV-53、図版IV-28-5)

位置：E₃-536-24 規模：0.47×0.44/0.75m

出土遺物：たたき石1・礫・礫片4

II-1層調査中に確認された。焼土は炉石面と同じ面にある。炉石は角礫を使われている。(酒井秀治)

石囲い炉4 (図IV-53、図版IV-28-4)

位置：E₃-534-21 規模：0.59×0.51/0.12m

出土遺物：礫5点

II-1層調査中に確認された。焼土は炉石面より掘り窪められた面にある。炉石の一部は焼土を覆う黒色土上にあることから動いている可能性がある。

石囲い炉3 (図IV-53、図版IV-29-3・5)

位置：E₃-532-14 規模：0.59×0.49/0.12m

出土遺物：V群土器9点、スクレイパー1点、石皿1点、フレイク1点、礫6点

II-1層調査中に確認された。焼土は炉石面より掘り窪められた面にある。焼土を覆う黒色土上に炉石が3点あることから動いている可能性がある。焼土中にはベンガラが少量混じっていた。

1は胴部がやや膨らみ、口縁にむけて外反、口縁部付近で直立する器形。口唇部は指頭により調整され小波状となる。2は胴部が膨らみ、口縁部で外反する。口唇部内面には横位に沈線が施される。胎土に砂粒が混じる。3は片面加工のスクレイパー。

石囲い炉2 (図IV-53、図版IV-29-2)

位置：E₃-532-14 規模：0.64×0.53/0.13m

出土遺物：台石1点、フレイク4点、礫7点

II-1層調査中に確認された。焼土は炉石面より掘り窪められた面にある。焼土中には細かな骨片やベンガラ粒が混じる。炉石は比較的細長いものが選ばれているようである。敲き痕がみられるものが1点ある。

石囲い炉5 (図IV-53、図版IV-29-4)

位置：E₃-532-15 規模：0.57×0.49/0.08m

出土遺物：V群土器4点、台石1点、フレイク3点、礫3点

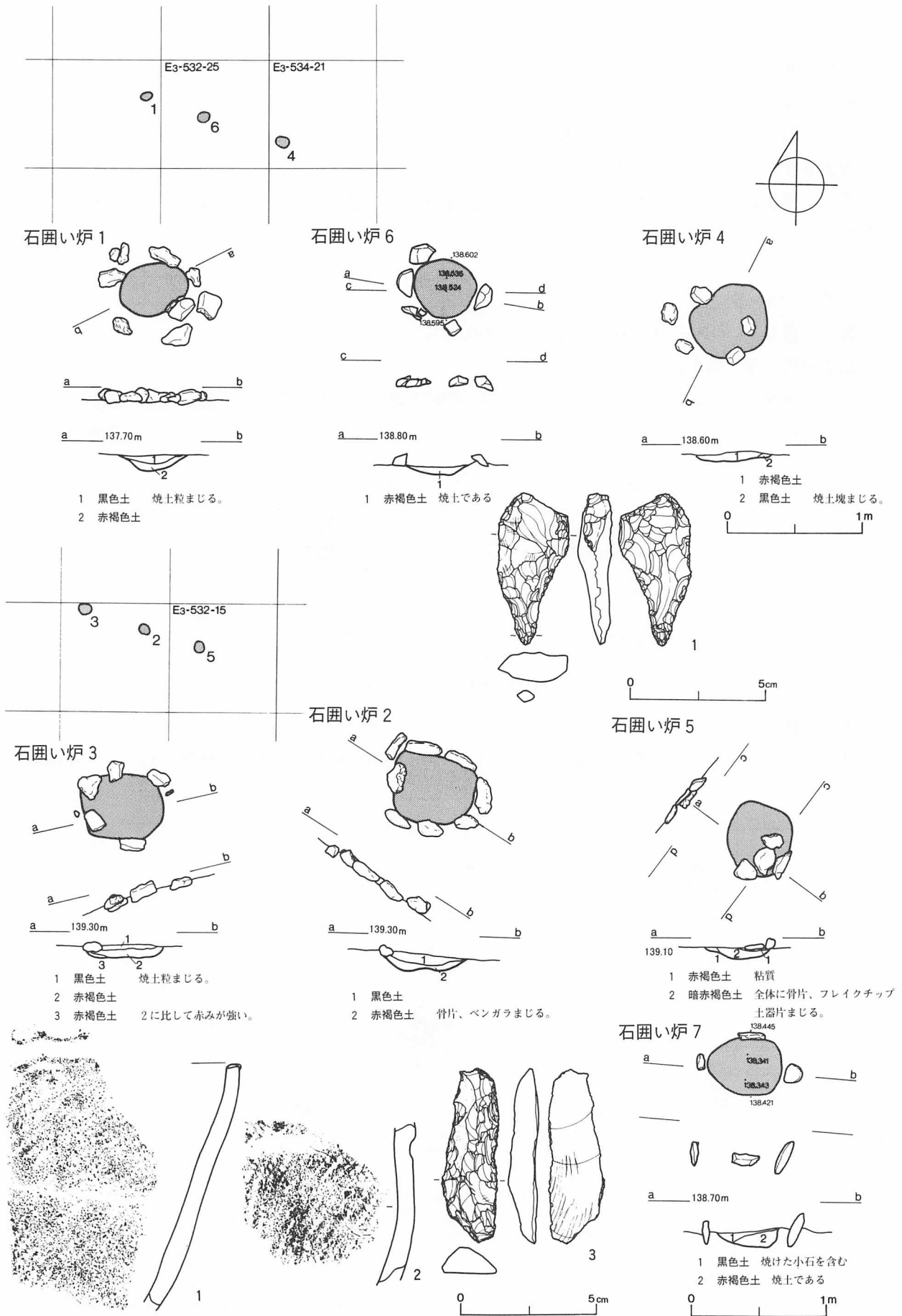
II-1層調査中に確認された。炉石3点が焼土上にある。これらはすべて偏平礫である。焼土中には細かな骨片、フレイクが混じる。(愛場和人)

石囲い炉7 (図IV-53、図版IV-30-1)

位置：E₃-536-22 規模：0.53×0.42/0.10m

出土遺物：礫・礫片3

II-1層調査中に確認された。焼土は炉石の面よりも掘りくぼめられた面にある。炉石は細長い偏平礫が使われている。(酒井秀治)



図IV-53 石囲い炉1・2・3・4・5・6・7と出土遺物

3 遺構と遺構出土の遺物

3) 集石

S-5 (図IV-54、図版IV-27)

位置：E₃-536-11 規模：1.03×0.64m

出土遺物：台石1点、礫・礫片16点

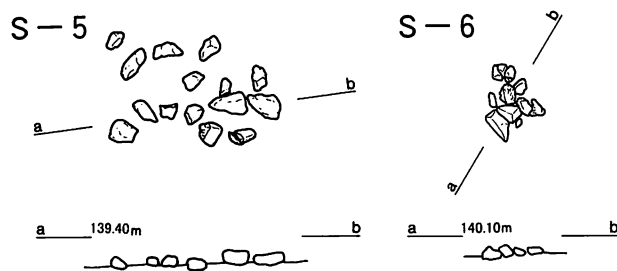
Ⅱ-1層調査中に確認された。調査区北東端、旧河川跡の近くに位置する。礫はすべて被熱し、赤色化している。

S-6 (図IV-54、図版IV-27)

位置：E₂-536-16 規模：0.43×0.32m

出土遺物：礫・礫片13点

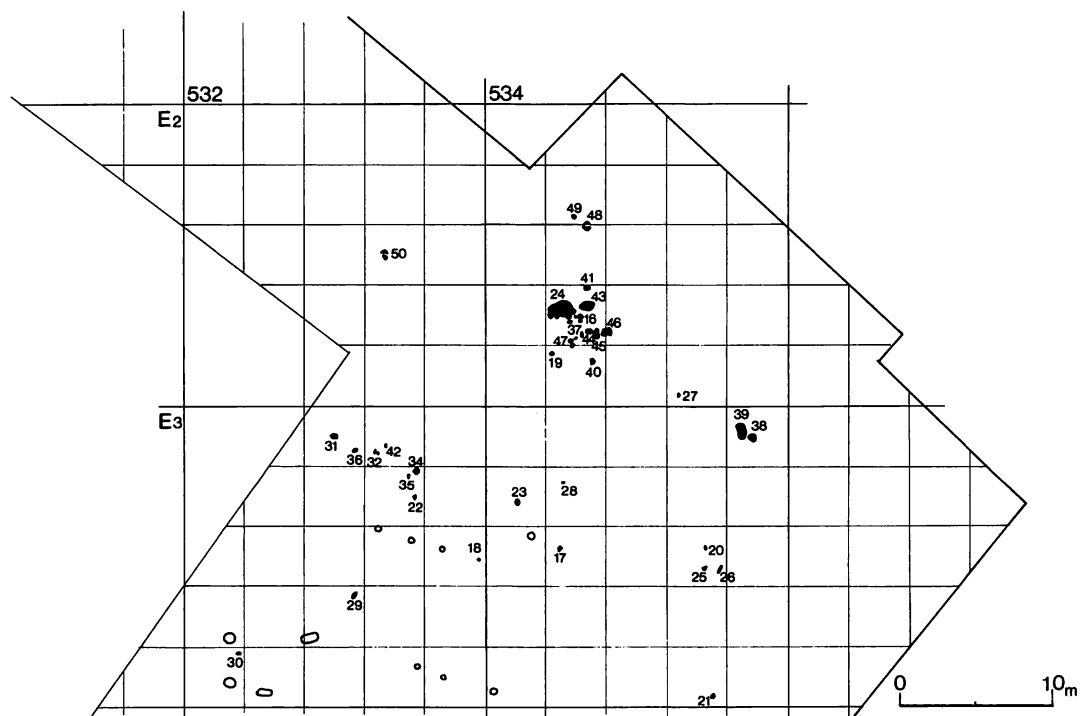
Ⅱ-1層調査中に確認された。調査区北東端、旧河川跡の近くに位置する。礫はすべて被熱し、赤色化している。
(愛場和人)



図IV-54 S-5・6

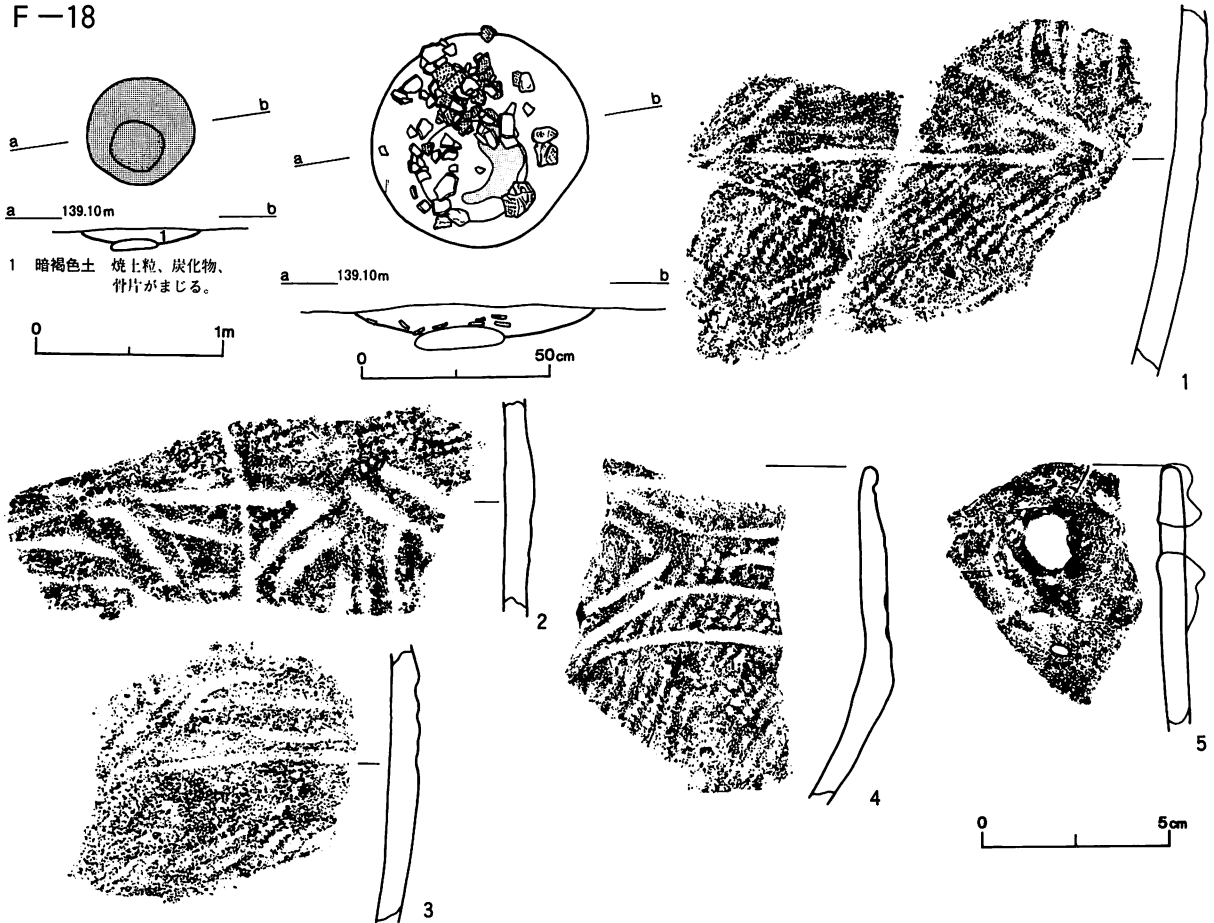
4) 焼土

Ⅱ-1層検出の焼土は調査区北東部、標高139~140mの緩斜面から集中して検出された。この地域



図IV-55 焼土の分布

F-18



図IV-56 F-18と出土遺物

には遺物が多量に分布している。II-1層直下の砂礫層上面にみられるものが多く、V群土器の時期か、やや古い時期の可能性はある。

F-18 (図IV-56、図版IV-30)

位置：E₃-532-10・15 規模：0.57×0.51/0.11m

出土遺物：V群土器99点、台石1点、礫3点

石囲い炉3・2・5の東側に位置する。II-1層調査中に焼土粒、骨片が混る範囲を確認した。半割したところ、10cm程下から土器片と偏平なトロニエム岩が出土した。土器片は2個体分で、トロニエム岩上とその周辺に、割られて敷き詰められたように出土した。トロニエム岩の周辺にあるものは一部直立していた。トロニエム岩は平滑な面中央に敲き痕がみられ、ススが付着していた。

1～3は同一個体。被熱して、表面は摩耗している。胎土には石英を含む。4・5は同一個体。胴部に段がある鉢形土器である。内面は指頭による調整で凹凸がある。胎土は砂粒がまじる。

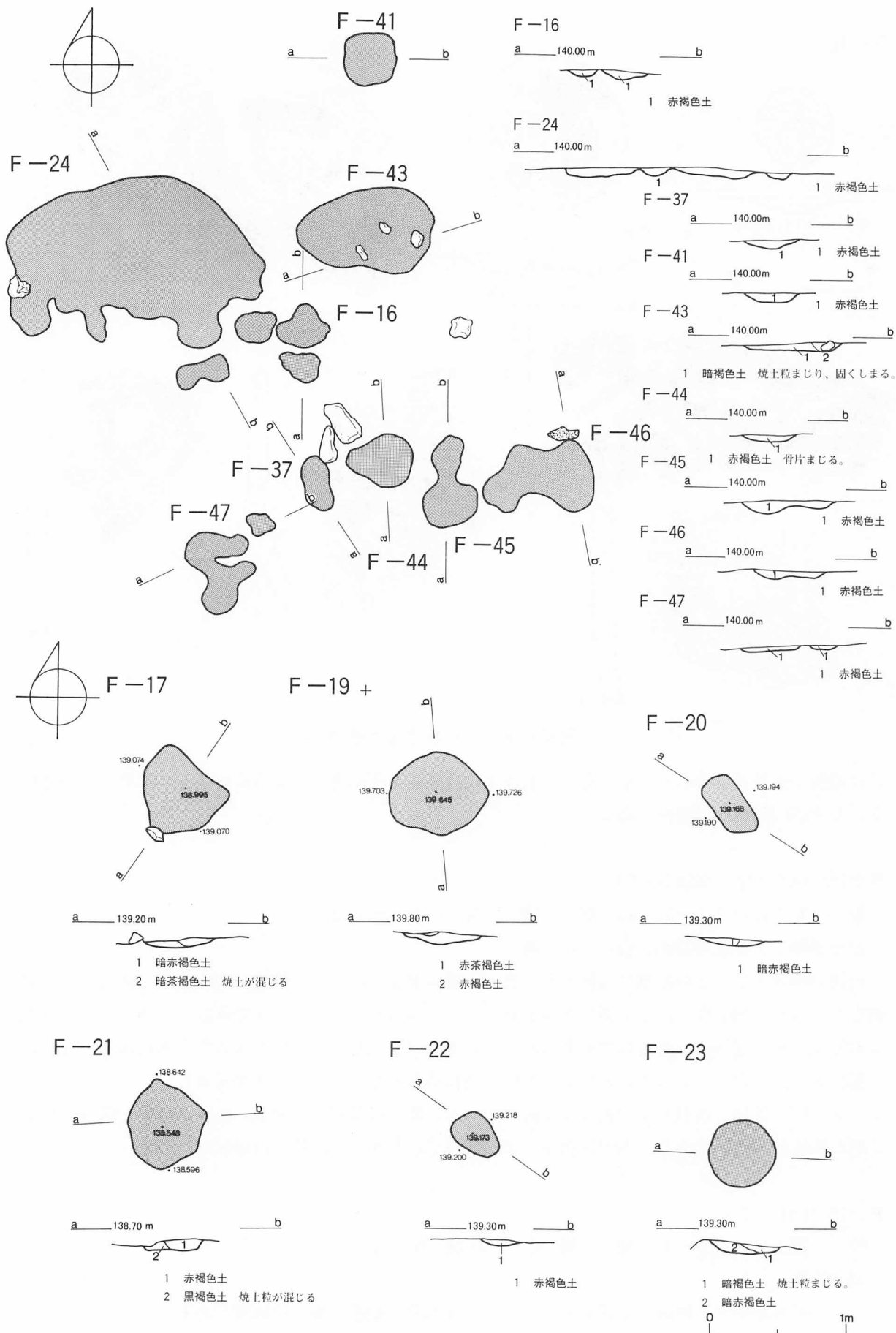
F-16 (図IV-57)

位置：E₂-534-17 規模：0.70×0.56/0.06m

出土遺物：なし

焼土が最も集中する地域に位置する。II-1層直下の砂礫層上面での確認である。今回の調査での最大のものである。層厚は薄い。

3 遺構と遺構出土の遺物



図IV-57 F-16・17、19~24、37、41、43~47

F-24 (図IV-57)

位 置：E₂-534-17 規 模：1.88×1.11/0.07m

出土遺物：V群土器7点、フレイク2点、礫1点

焼土が最も集中する地域に位置する。II-1層直下の砂礫層上面で確認した。

F-41 (図IV-57)

位 置：E₂-534-17 規 模：0.43×0.40/0.07m

出土遺物：

焼土がもっとも集中する地域に位置する。II-1層直下の砂礫層上面で確認した。

F-43 (図IV-57)

位 置：E₂-534-17 規 模：0.49×0.61/0.06m

出土遺物：礫1点

焼土がもっとも集中する地域に位置する。II-1層直下の砂礫層上面で確認した。焼土中に礫が混じる。

F-44 (図IV-57)

位 置：E₂-534-17 規 模：0.47×0.38/0.05m

出土遺物：V群土器5点

焼土がもっとも集中する地域に位置する。II-1層直下の砂礫層上面で確認した。

F-45 (図IV-57)

位 置：E₂-534-17 規 模：0.65×0.4/0.08m

出土遺物：

焼土がもっとも集中する地域に位置する。II-1層直下の砂礫層上面で確認した。

F-46 (図IV-57)

位 置：E₂-534-17 規 模：0.69×0.51/0.06m

出土遺物：

焼土がもっとも集中する地域に位置する。II-1層直下の砂礫層上面で確認した。傍らには炭化物が分布する。

F-47 (図IV-57)

位 置：E₂-534-17 規 模：0.80×0.50/0.03m

出土遺物：V群土器1点、フレイク1点

焼土がもっとも集中する地域に位置する。II-1層直下の砂礫層上面で確認した。(愛場和人)

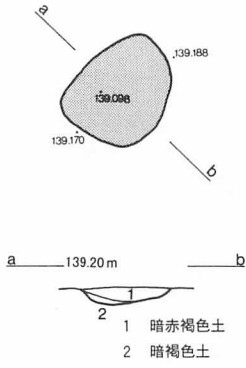
F-17 (図IV-57)

位 置：E₃-534-12 規 模：0.65×0.62/0.08m

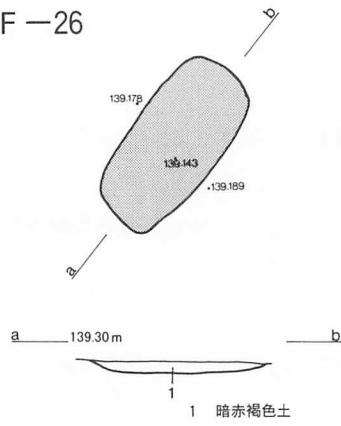
出土遺物：礫1

3 遺構と遺構出土の遺物

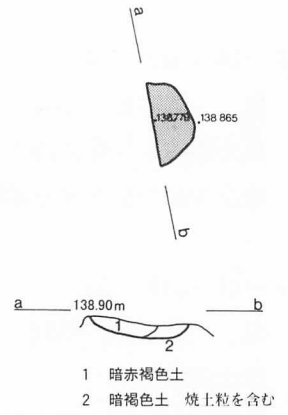
F-25



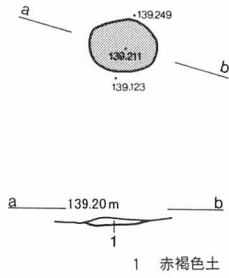
F-26



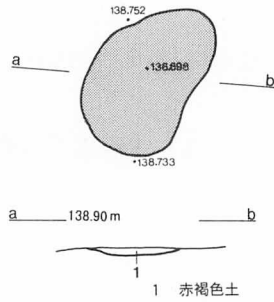
F-27



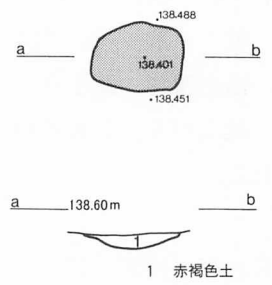
F-28



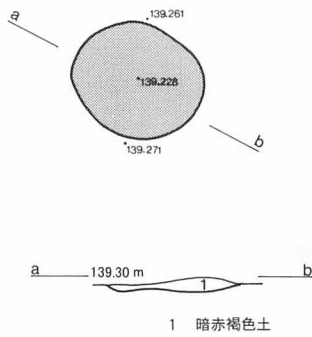
F-29



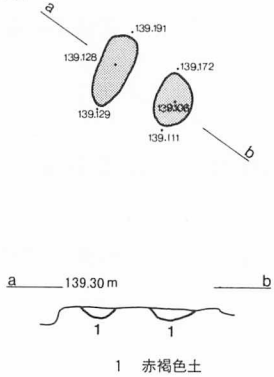
F-30



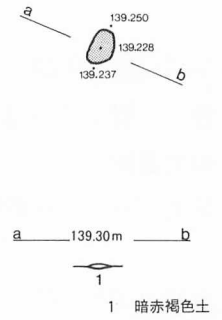
F-31



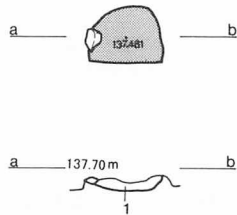
F-32



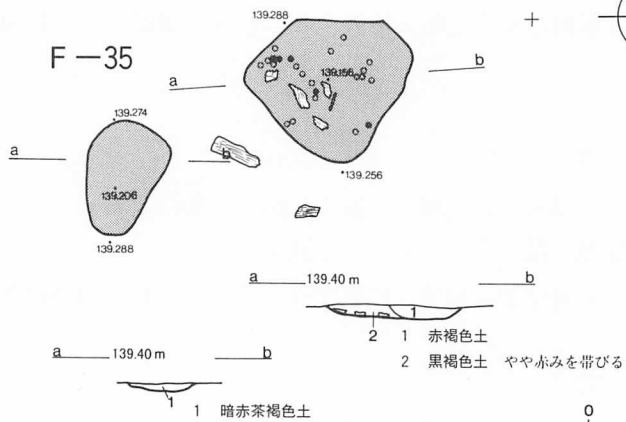
F-42



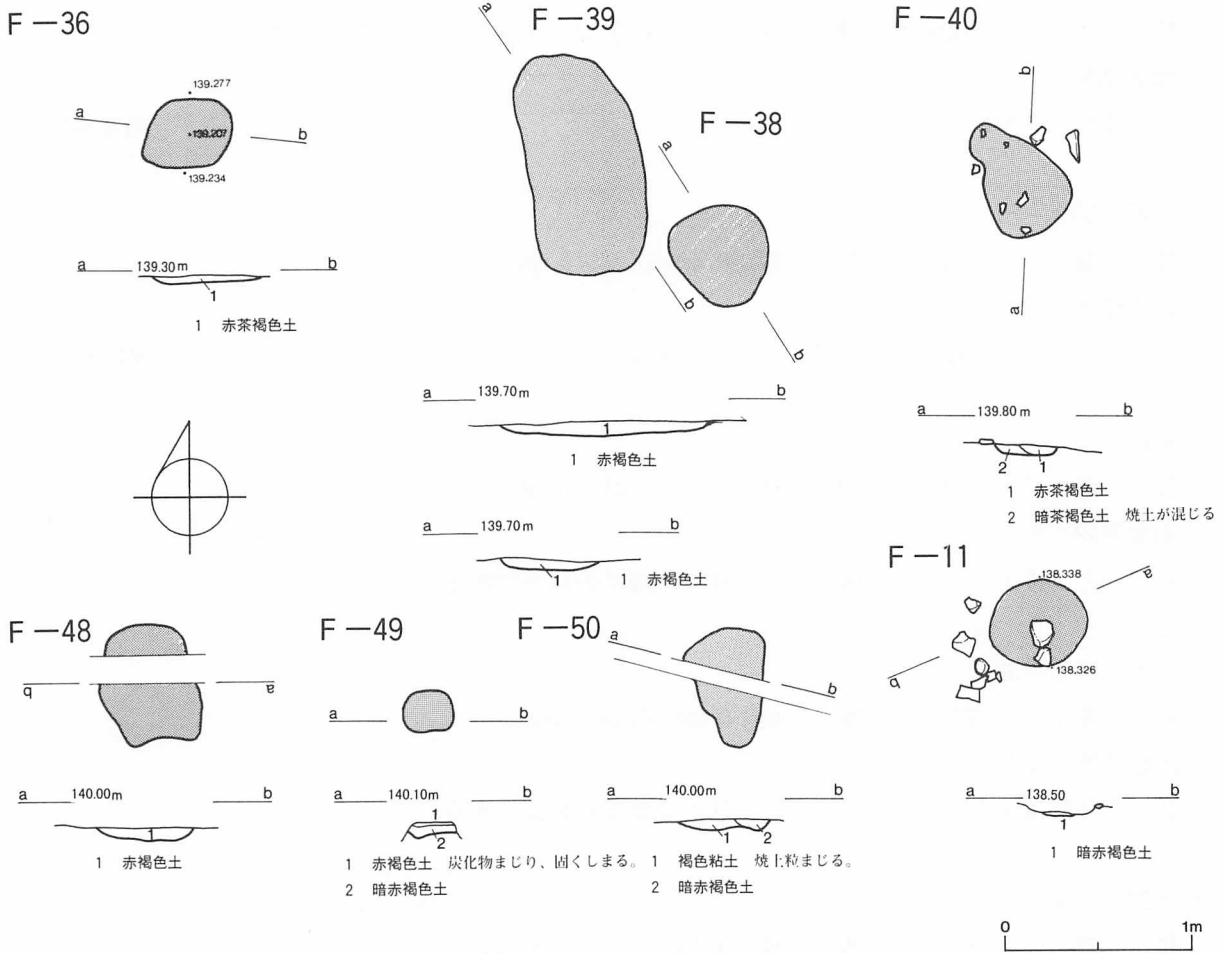
F-33



F-34



図IV-58 F-25~35・42



図IV-59 F-11、36、38~40、48~50

P-34と近接する。II-1層直下の砂礫層上面での確認である。

F-19 (図IV-57)

位置：E₂-534-22 規模：0.72×0.60/0.09m

出土遺物：なし

焼土のもっとも集中する地域に位置する。II-1層直下の砂礫層上面での確認である。

F-20 (図IV-57)

位置：E₃-534-14 規模：0.49×0.25/0.04m

出土遺物：なし

II-1層直下の砂礫層上面での確認である。

F-21 (図IV-57)

位置：E₃-534-24 規模：0.65×0.57/0.08m

出土遺物：V群土器7

II-1層直下の砂礫層上面での確認である。

3 遺構と遺構出土の遺物

F-22 (図IV-57)

位 置：E₃-532-9 規 模：0.40×0.27/0.04m

出土遺物：なし

II-1層調査中に確認した。

(酒井秀治)

F-23 (図IV-57)

位 置：E₃-534-6 規 模：0.48×0.46/0.08m

出土遺物：なし

II-1層調査中に確認した。独立して存在する。

(愛場和人)

F-25 (図IV-58)

位 置：E₃-534-14 規 模：0.61×0.49/0.08m

出土遺物：なし

F-26と隣接する。II-1層直下の砂礫層上面での確認である。

F-26 (図IV-58)

位 置：E₃-534-14 規 模：0.99×0.48/0.06m

出土遺物：なし

F-25と隣接する。II-1層直下の砂礫層上面での確認である。

F-27 (図IV-58)

位 置：E₃-534-24 規 模：0.45×(0.22)/0.09m

出土遺物：なし

II-1層直下の砂礫層上面での確認である。

F-28 (図IV-58)

位 置：E₃-534-7 規 模：0.36×0.29/0.02m

出土遺物：なし

II-1層直下の砂礫層上面での確認である。

F-29 (図IV-58)

位 置：E₃-532-18 規 模：0.86×0.56/0.05m

出土遺物：なし

II-1層直下の砂礫層上面での確認である。

F-30 (図IV-58)

位 置：E₃-532-21 規 模：0.53×0.40/0.07m

出土遺物：なし

II-1層直下の砂礫層上面での確認である。

F-31 (図IV-58)

位置：E₃-532-3 規模：0.72×0.61/0.04m

出土遺物：なし

II-1層直下の砂礫層上面での確認である。

F-32 (図IV-58)

位置：E₃-532-4 規模：0.56×0.40/0.05m

出土遺物：なし

II-1層直下の砂礫層上面での確認である。

F-33 (図IV-58)

位置：E₄-528-12 規模：0.40×(0.30)/0.08m

出土遺物：なし

II-1層直下の砂礫層上面での確認である。

F-34 (図IV-58)

位置：E₃-532-9 規模：0.92×(0.78)/0.12m

出土遺物：V群土器21・フレイク8・礫・礫片1

F-35と近接する。II-1層直下の砂礫層上面での確認である。

F-35 (図IV-58)

位置：E₃-532-9 規模：0.62×0.43/0.08m

出土遺物：V群土器4

F-34と近接する。II-1層直下の砂礫層上面での確認である。

F-36 (図IV-59)

位置：E₃-532-3 規模：0.52×0.39/0.05m

出土遺物：なし

II-1層直下の砂礫層上面での確認である。

(酒井秀治)

F-37 (図IV-57)

位置：E₂-534-17 規模：0.32×0.21/0.06m

出土遺物：なし

焼土がもっとも集中する地域に位置する。II-1層直下の砂礫層上面で確認した。

F-38 (図IV-59)

位置：E₃-534-5 規模：0.53×0.48/0.08m

出土遺物：なし

F-39と並んで位置する。II-1層直下の砂礫層上面で確認した。

3 遺構と遺構出土の遺物

F-39 (図IV-59)

位 置：E₃-534-5 規 模：1.16×0.55/0.07m

出土遺物：なし

F-38と並んで位置する。II-1層直下の砂礫層上面で確認した。

(愛場和人)

F-40 (図IV-59)

位 置：E₃-534-22 規 模：0.64×0.46/0.06m

出土遺物：V群土器20・フレイク2・礫・礫片2

II-1層直下の砂礫層上面での確認である。

F-42 (図IV-58)

位 置：E₃-532-4 規 模：0.20×0.14/0.02m

出土遺物：なし

II-1層直下の砂礫層上面での確認である。

(酒井秀治)

F-48 (図IV-59)

位 置：E₂-534-12 規 模：0.63×0.52/0.07m

出土遺物：なし

II-1層直下の砂礫層上面での確認である。

F-49 (図IV-59)

位 置：E₂-534-7 規 模：0.25×0.22/0.08m

出土遺物：なし

II-1層直下の砂礫層上面で確認した。焼土中には炭化物が混じる。

F-50 (図IV-59)

位 置：E₂-532-14 規 模：0.51×0.44/0.06m

出土遺物：なし

II-1層直下の砂礫層上面で確認した。

(愛場和人)

F-11 (図IV-59、図版IV-30-2)

位 置：E₃-532-24 規 模：0.52×0.43/0.05m

出土遺物：礫

II層調査中に確認した。焼土からはずれた位置に礫がまとまってある状況であった。

(酒井秀治)

4 包含層の遺物

2か年の調査で土器が103,159点、石器等が71,106点出土した。

遺物包含層は上位からⅡ-1層、Ⅱ-A層、Ⅱ-B層である。主にⅡ-1層は縄文時代晩期から続縄文時代、Ⅱ-A層は縄文時代前期から後期後葉、Ⅱ-B層は前期、中期の遺物包含層である。全遺物の9割以上がⅡ-1層から出土した。I章、II章でも再三述べたように調査区南西側の緩斜面、ほぼE₃ラインよりも南側では、包含層が1層に収束していた。このため平成8年度発掘当初は分層できず、単にⅡ層として取り上げてある。従ってⅡ層の遺物には前期から続縄文時代までのものを含んでいる。

土器ついてみるとⅡ-1層から63,747点、Ⅱ-A層から9,658点、Ⅱ-B層から1,730点、Ⅱ層として取り上げたものは7,718点である。Ⅱ-1層からは縄文晩期・続縄文(V・VI群)に属する土器が99%と圧倒的に多く63,066点あり、後期(IV群、588点)、中期(Ⅲ群、74点)が若干含まれる。Ⅱ-1層の遺物は遺跡の全域に分布し、とくに530ラインから西側に濃密に分布している。ここは平成9年度に調査を拡張した範囲で、第Ⅲ群土壌、多量の焼土、石囲い炉が分布していた地区である。Ⅱ-A層からはIV群が6,596点、ほかにⅢ群1,516点、V群・VI群が1,506点、Ⅱ群が40点出土した。IV群土器はc類の三ツ谷式に相当するものが大部分を占め、調査区の中央部付近E₃ラインとE₅ラインの間とその周辺部に集中していた。IV群c類土器は平成8年度調査区からは極わずかししか出土していない。調査年度の境界であたかも線を引いたかのように斜面下側では検出されない。また集中地区よりも斜面の上に向うに従い出土量は激減する。Ⅱ-B層からはⅡ群が894点、Ⅲ群が710点、IV群が50点出土している。またI群、早期に属すると見られるものも2点出土している。調査区査区北側の1、2段目の水田跡部分に集中し、Ⅱ-A層同様に斜面の上側では遺物は出土していない。

石器は層位毎の大まかな集計の結果、土器と同様に92%ほどがⅡ-1層から得られている。石器はそれぞれ各群の土器に伴うものとみられるが、伴出状況を特定できるものは少ない。

図IV-61は層位別の平面分布、図IV-62は垂直分布である。垂直分布はやや縮尺を大きくしてあるので、斜面裾部で包含層が収束することが読み取れる。また遺物の平面分布をみると水田の段に並行に帯状に分布している。これは水田面を平坦にする際に削平された部分とその盛り土で覆われ包含層が攪乱されていない部分とが帯状に表れているもので、とくに深度の浅いⅡ-1層では顕著である(図IV-64)。

またごく限られた範囲であるが、Ⅱ-B層の下位に砂が堆積していたところがあり、その砂層を掘り下げた位置からも遺物が出土した。前期(Ⅱ群)、中期(Ⅲ群)の土器片あわせて73点と石器等が少量得られたのみであるが、間層を挟んでいる点からⅡ-B層とは区別しⅡ-B-1層として取りあげた。平成8年度Ⅱ-B層の遺物として扱い報告してある。

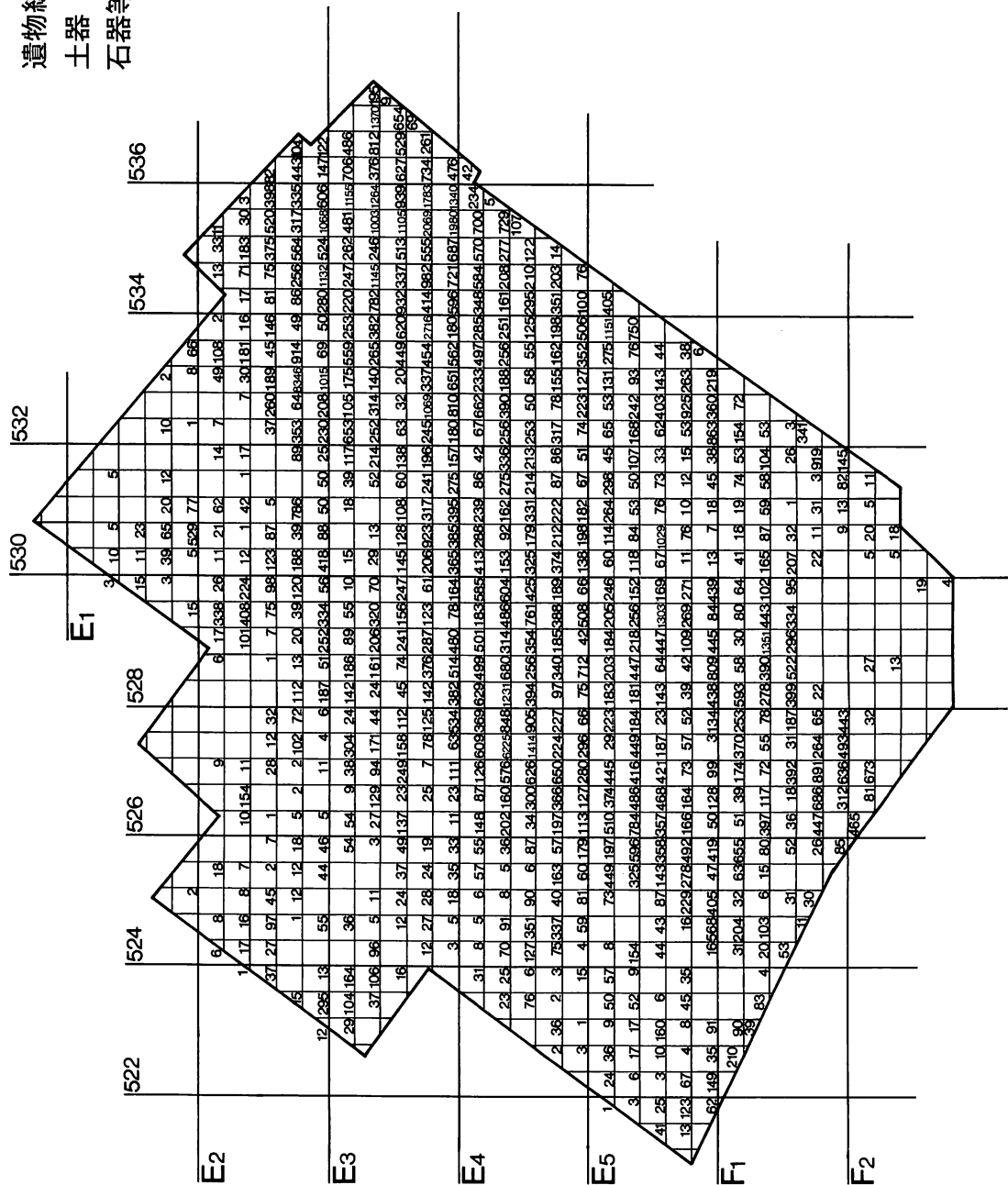
さらに平成9年度の調査区ではⅡ-1層とⅡ-A層の間に堆積する砂礫層から土器が515点、石器等が38点出土している。Ⅲ群、IV群、V群、VI群の土器が455点出土しており、これらは便宜的に平成9年度Ⅱ-A層の遺物と一緒に報告してある。

整理作業の工程上と整理担当者が複数であることから、煩雑ではあるが平成8年度地区の遺物と平成9年度調査地区の遺物を分けて層位毎に報告することとした。ただし遺物の集計、土器の時期別・石器の器種別分布図は2か年を合計したものである。

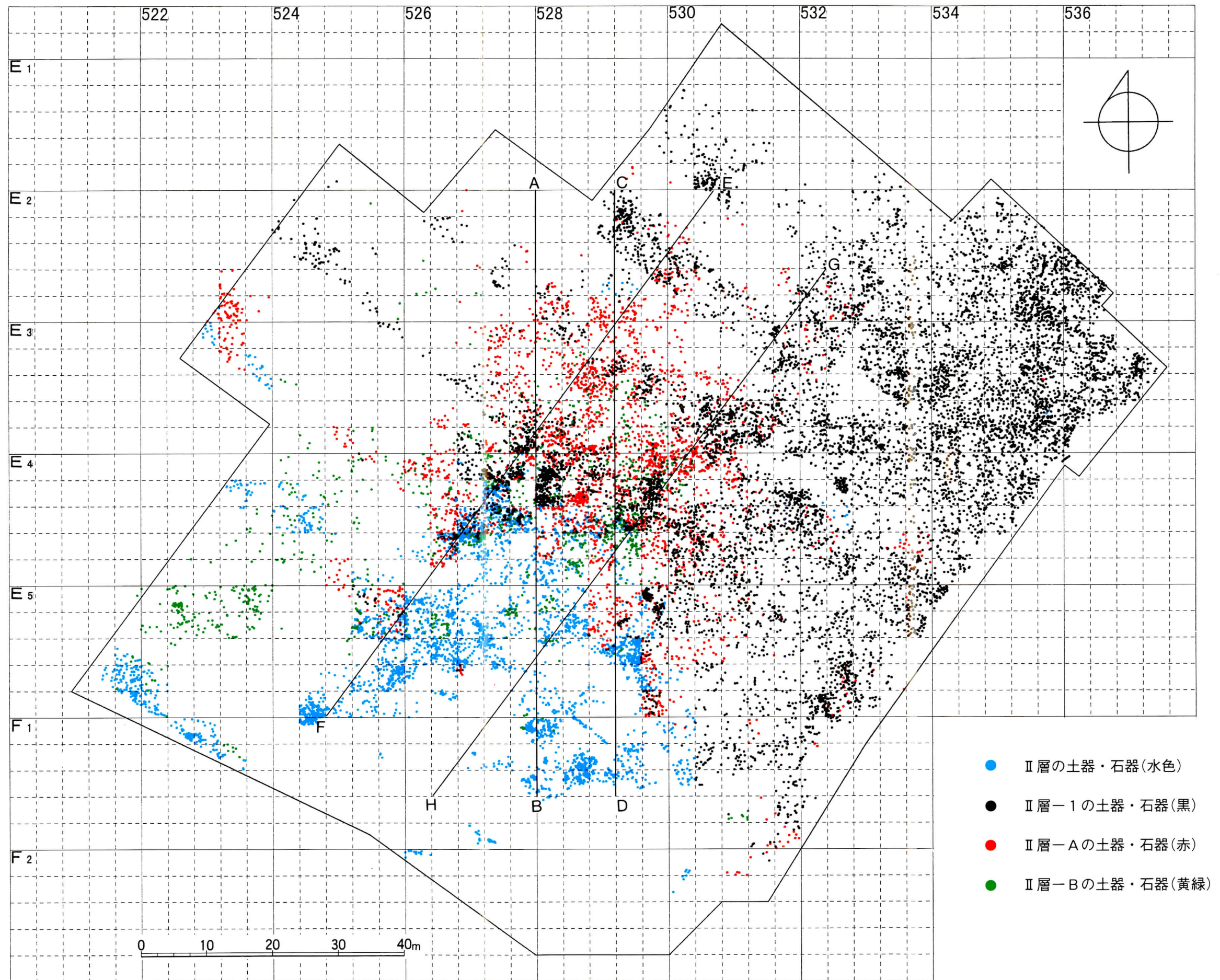
土器、石器ともに各年度ごと、Ⅱ-B層から順に記載する。

(遠藤香澄)

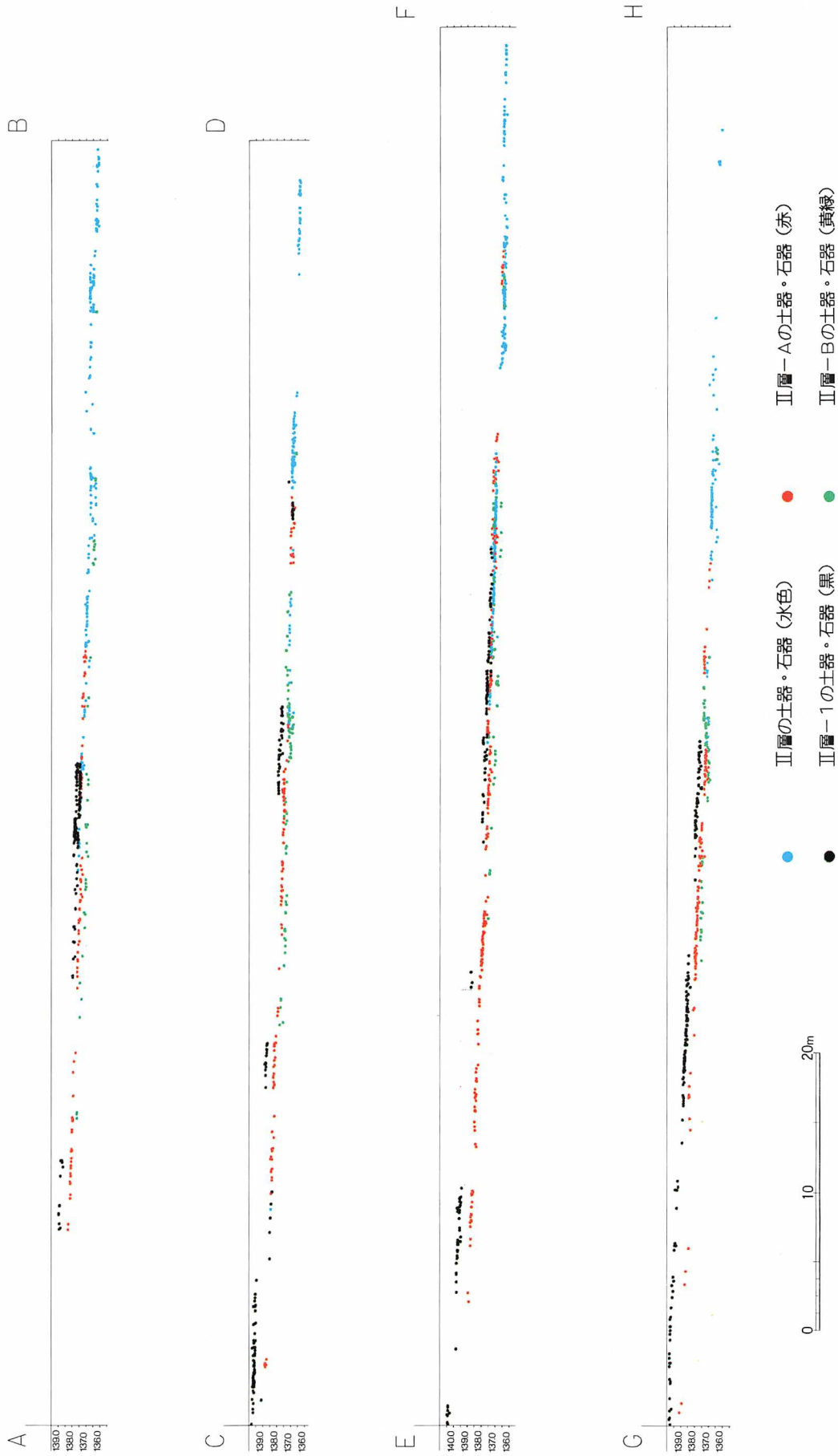
遺物総数 174, 265点
 土器 103, 159点
 石器等 71, 106点



図IV-60 包含層出土遺物総数 (平成8・9年度合計)

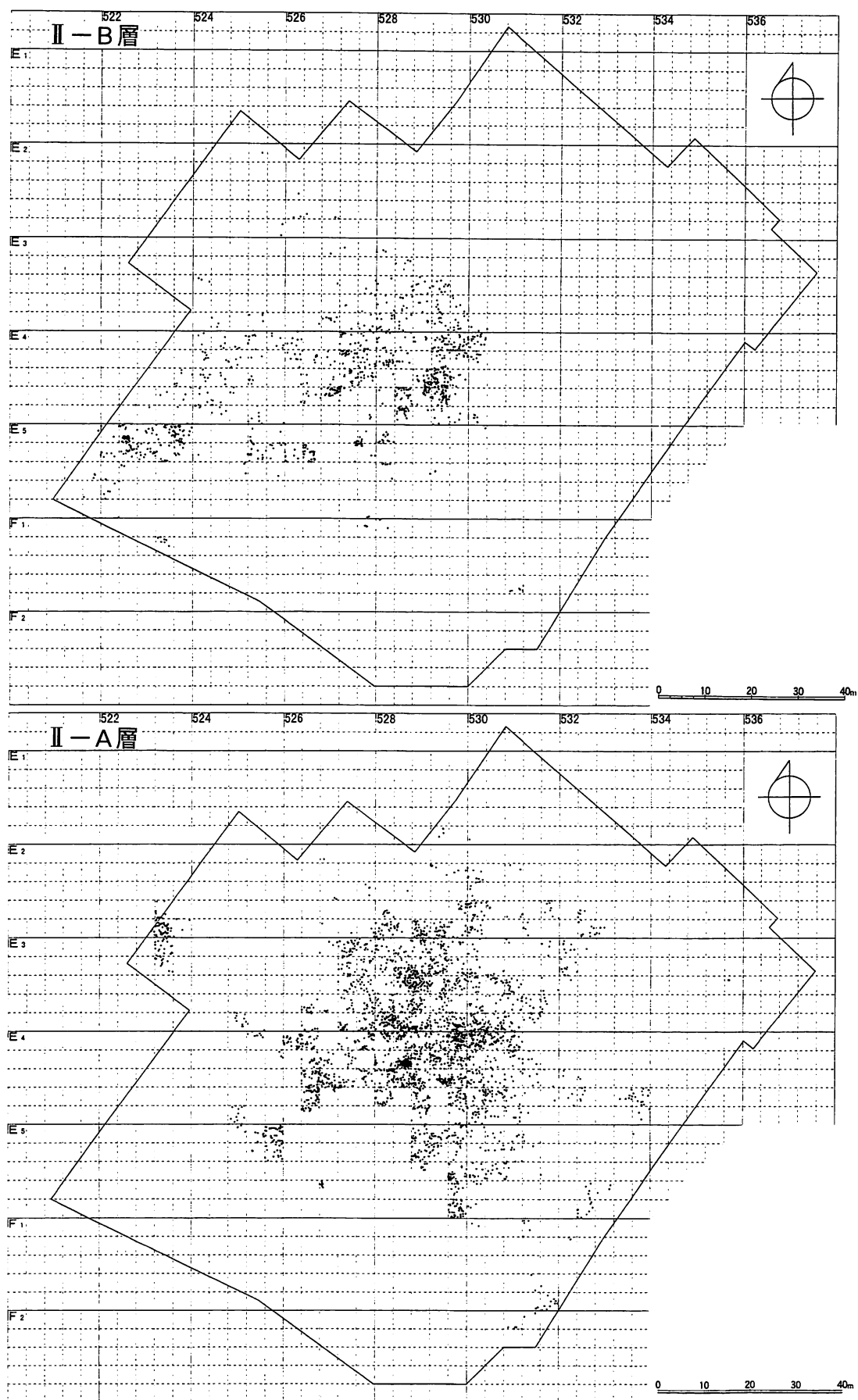


図IV-61 層別遺物平面分布

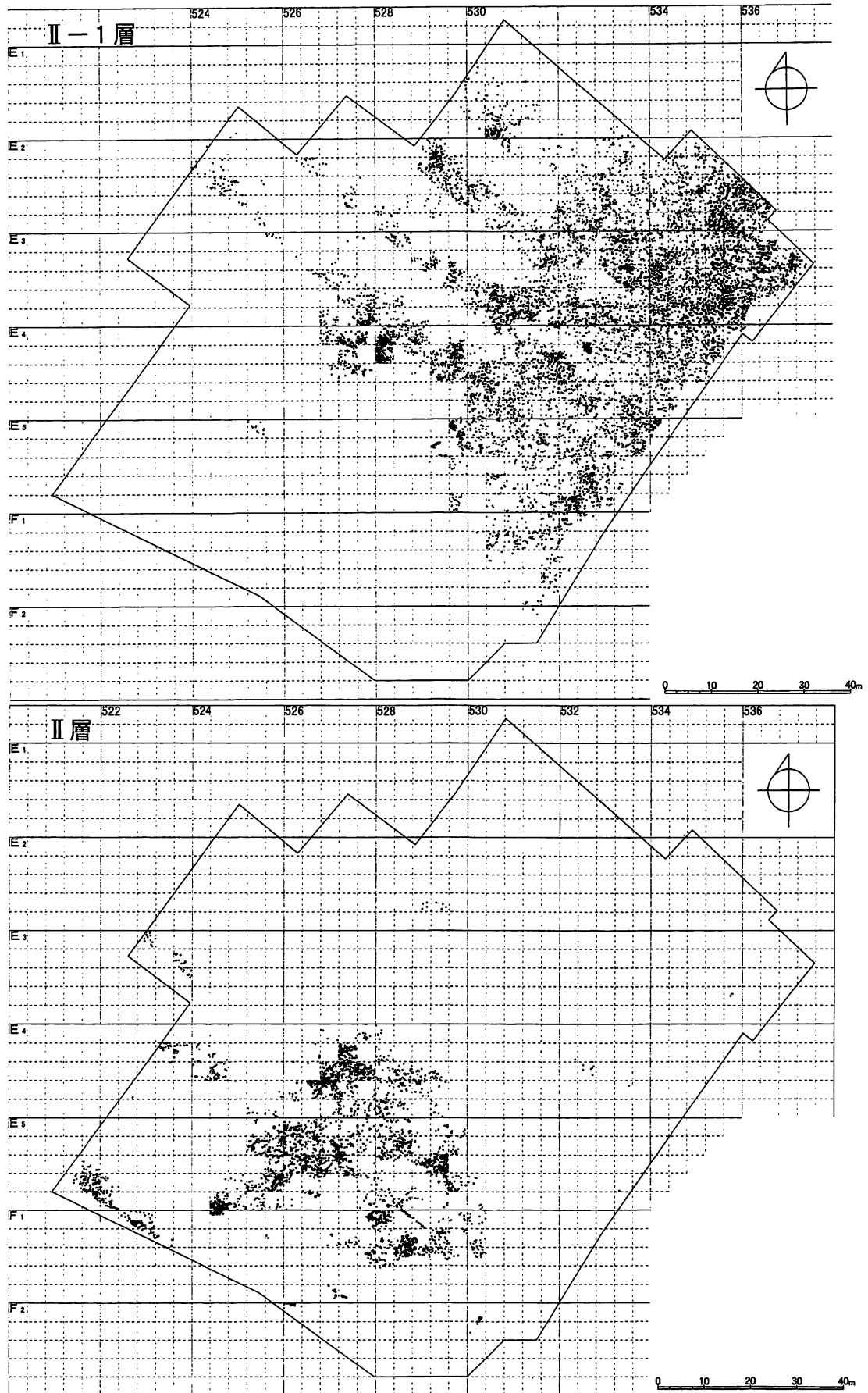


図IV-62 層位的遺物垂直分布

4 包含層の遺物

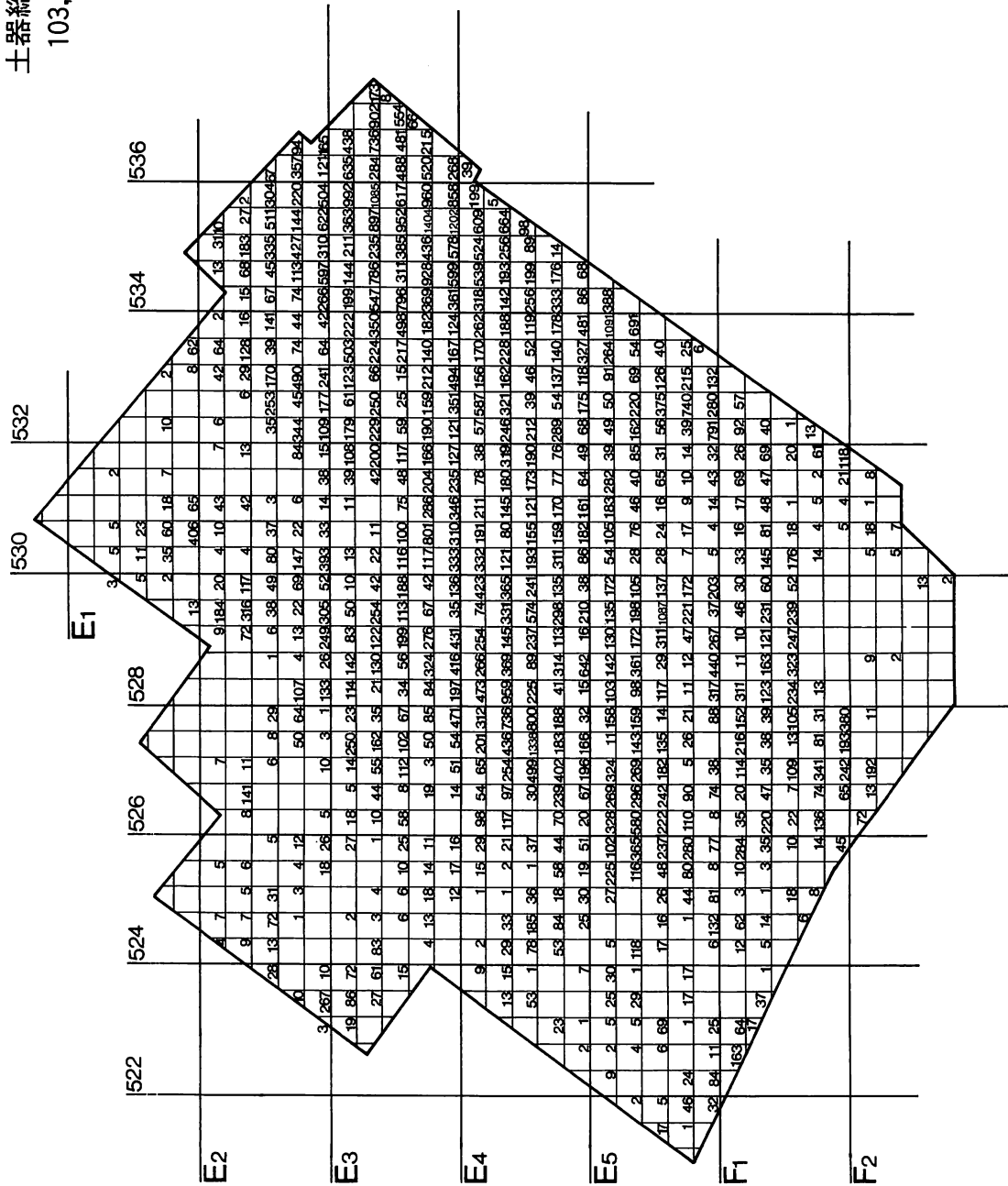


図IV-63 II-B層・II-A層の遺物分布

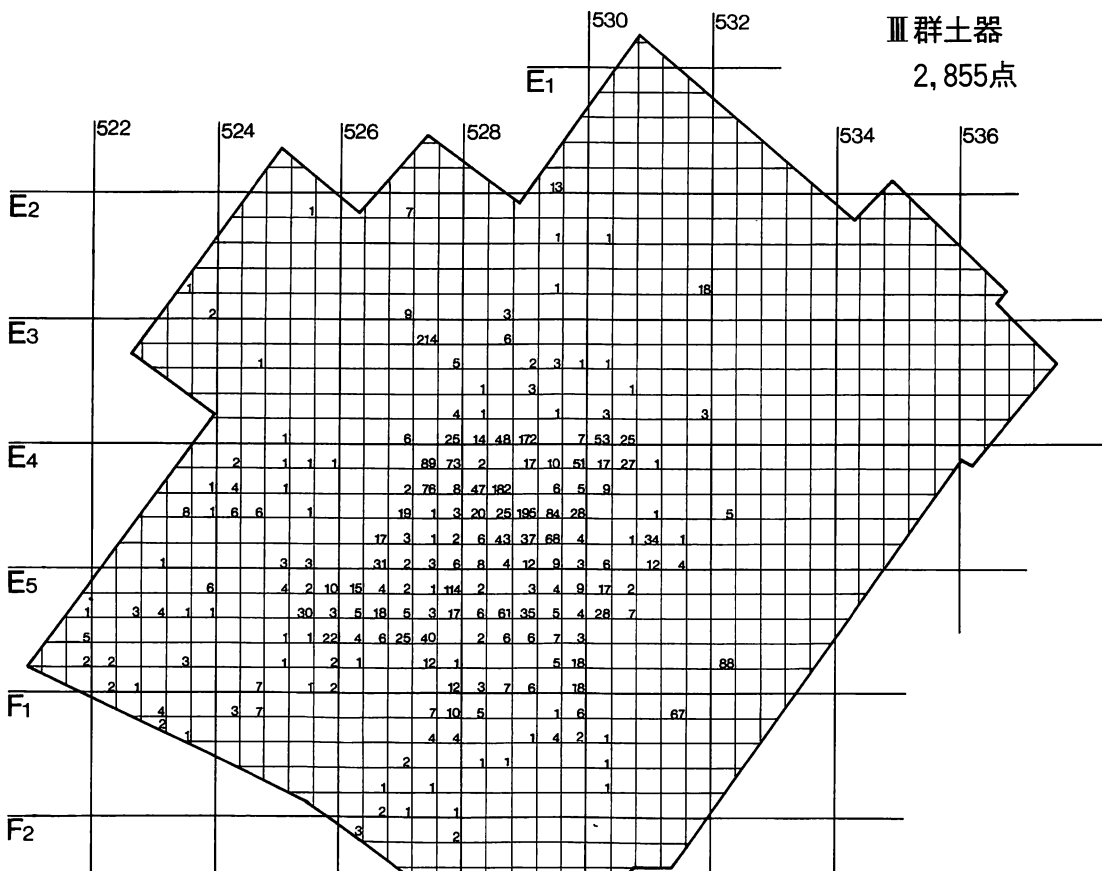
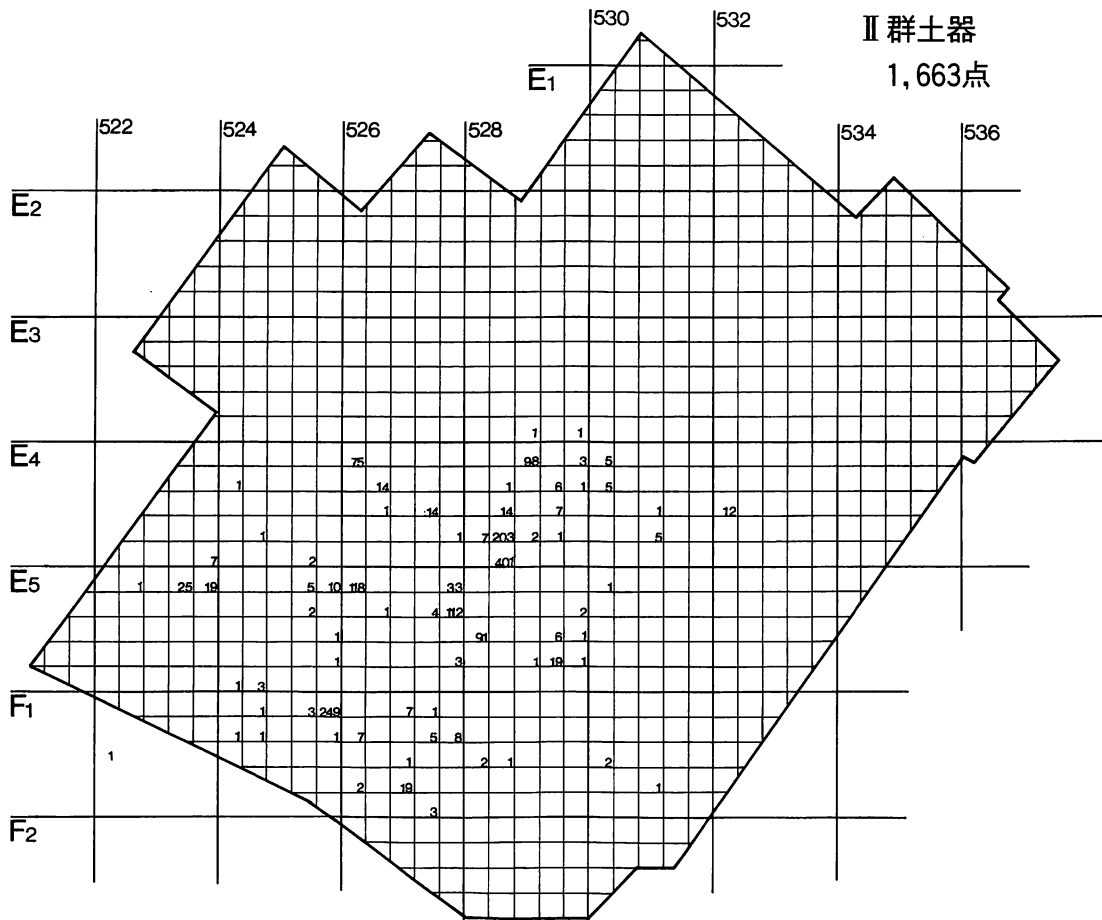


図IV-64 II-1層・II層の遺物分布

土器総数
103,159点

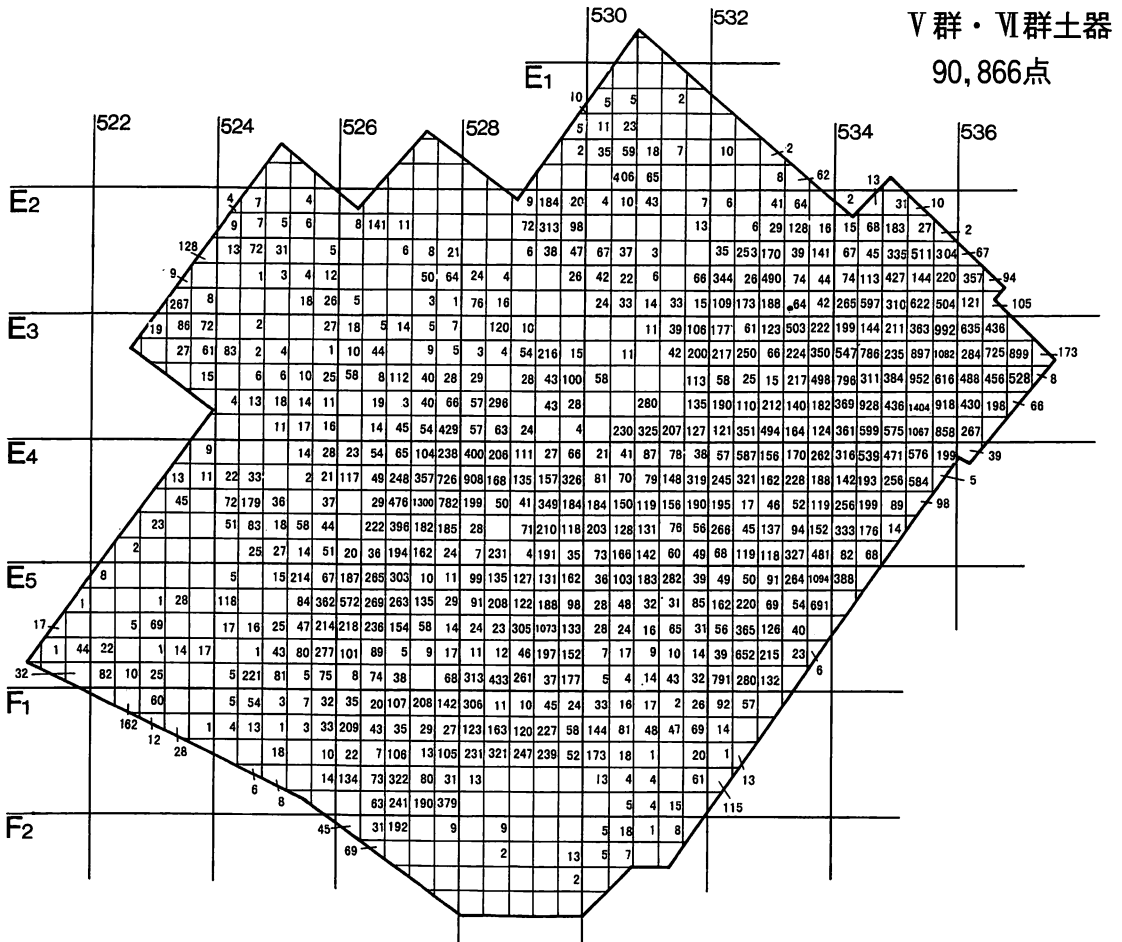
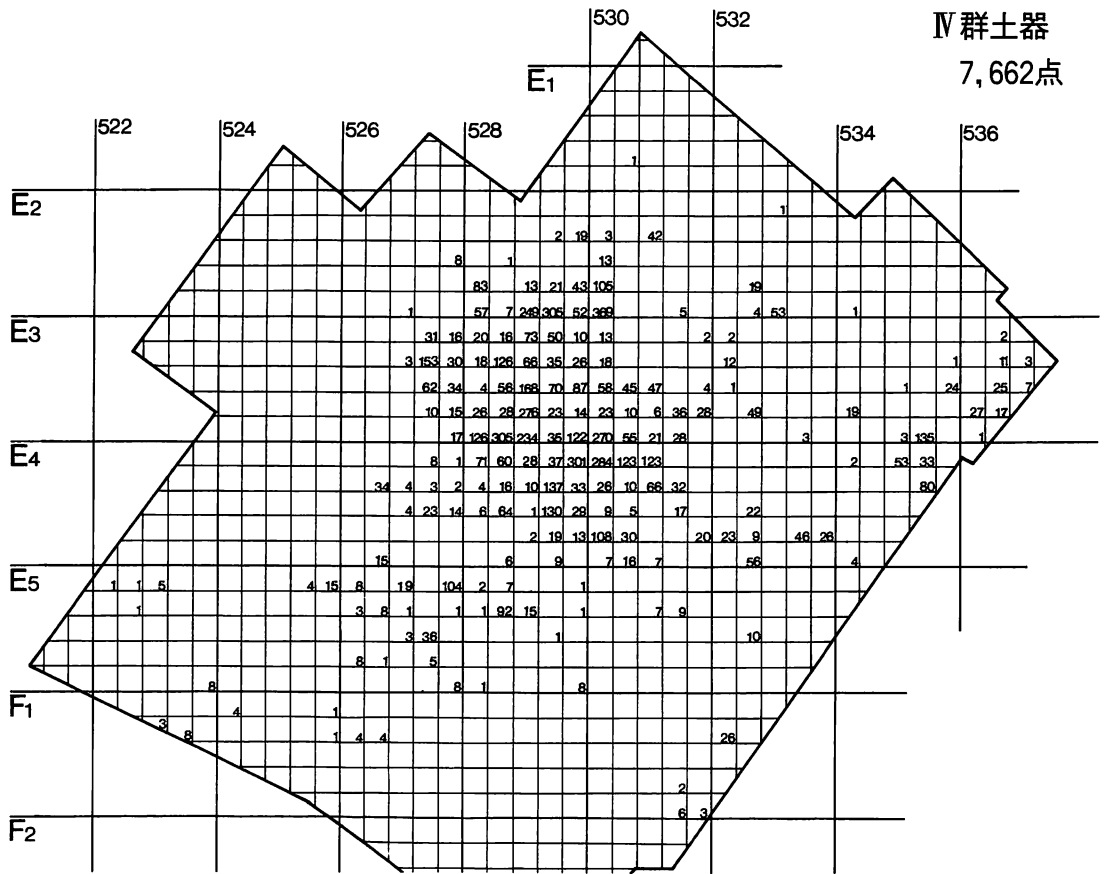


図IV-65 包含層出土の土器分布



図IV-66 II 群・III 群土器分布

4 包含層の遺物



図IV-67 IV群、V群・VI群土器分布

(1) 平成8年度調査地区の遺物 (図IV-60~109 図版IV-37~109)

1) 土器 (図IV-65~77 図版IV-37~43)

i) II-B層出土の土器 (図IV-68、70~72図版IV-37~39)

2か年の調査で1,728点の遺物が得られている。II群、III群、IV群に属するものがある。II-B層の土器の分布は図IV-68に示した。E₄ラインよりも南側の1、2段目水田跡に分布する。

II群土器 (1~11、15~18)

II群b類に属するものが出土している。これらはII-A層、I・II層出土の資料を含め概観すると文様、胎土から1類~5類に分けられる。4類は押し引文のものでI・II層から出土している。

1類: (1~9) 大麻V式に相当するとみられる胎土に繊維が含まれる縄文の施文された平底土器

全体の器形のわかるものはないが、口縁部、底部の破片からその特徴の一部がうかがえる。胎土に含まれる繊維は比較的多く、細かい繊維のほかに植物の茎葉状のものがそのまま混入されているものもある。胎土についてみると滝里遺跡群のほかの時期の土器に特徴的な、肉眼で観察できるような大粒の石英の混入するものは少ない。割れ口の断面をみると中心が黒味を帯び表裏面が明るい色を呈する。

大麻V式前後の土器は植苗式の相当するものが滝里33遺跡と滝里11遺跡からそれぞれ若干得られている (北埋調報80・同85)。

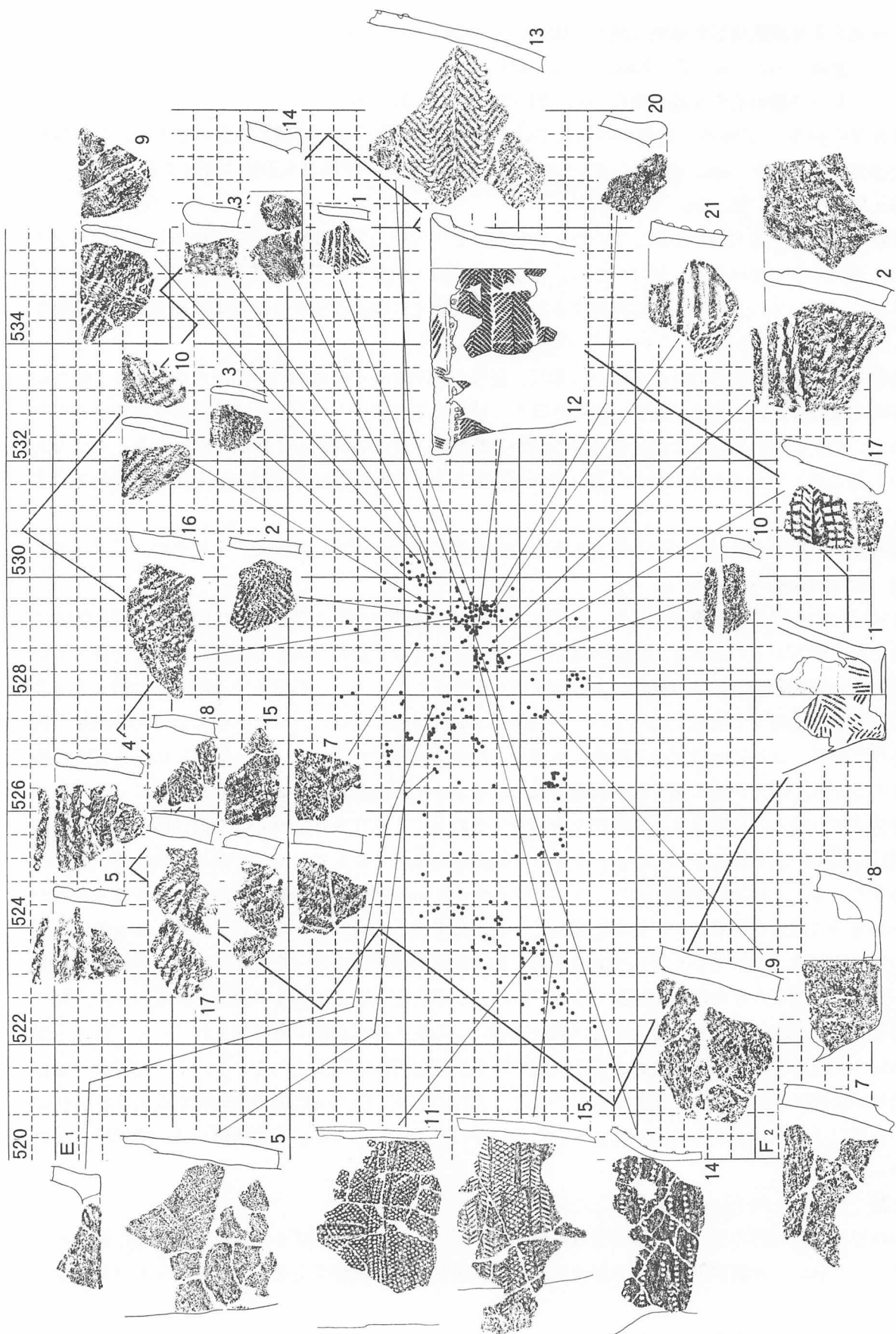
1は底部の一部のみが復元できた。底面は上げ底で、底部でややくびれ胴部に向かって開き気味に立ち上がる器形のものである。繊維のほかに、径3mm前後の小砂利がまじる。器面全体が磨滅しているが、条の細いRLとLRの原体による羽状縄文が施されている。底部付近では縦方向に施文することで、羽状を構成する文様となっている。内面には底部付近に縦位に、また部分的に横位の縄文が施文されている。2は13mmほどある厚手の土器で、口縁部は薄身となっている。器面には縦行気味の縄文と右下がりの縄文が浅く施され羽状縄文風となっている。口縁に並行に太いLR原体による縄線が2条施文されている。口唇は丸みを帯びた角形で、その上にも施文されている。内面は凹凸が著しく器面同様の縄文が浅く施文されている。3~5は明黄褐色を呈するもので全体の厚み、砂の多い胎土が類似する。4、5は同じ発掘区から、3はこれらから30mほど離れた位置から出土したものであるが同一個体の可能性がある。いずれも磨滅しているため文様の有無はわからない。3は丸みを帯びた厚手の口縁部破片。4はややくびれのある底部。5は胴部の径が12cmほどを計る。内外面の凹凸が著しい。かすかに右下がりの縄文が観察できる。6はほかのII群土器とは異なり焼成が非常によい。幅2mmほどの茎状の繊維が多量に混入する。細い原体による羽状縄文が浅く密に施されている。破片上部に横位の縄線文と見られる圧痕がある。内面では不規則な方向に施文されている。7~9は同一個体の破片。破片は多数あたって接合できなかった。大粒の石英、径5mm前後の小砂利が混入する。9は細い原体による右下がりの縄文が見える。この部分の厚さは17mmある。底部は軽いあげ底で径9cmを計る。

2類: (10) 胎土に滑石の混入したもの

10は無文の口縁部の小片。口唇断面は角形で口縁部にある。灰色がかった黒色を呈する。滑石のほか径2、3mmの小砂利が混じる。昨年度調査した滝里9遺跡の調査で出土した資料よりも滑石の混入の度合いが少ない。

3類: (11) 刺突文が施されたもの

11は調査区南西側一番低い水田面であるE₅-522-4区のII-B-1層から出土した。砂層はこの



図IV-68 II-B層出土の土器分布

周辺の狭い範囲にのみ堆積していた。同じ層から北海道式石冠、石斧が出土している。胎土に径1、2mmの小砂利が多く混じるもので、胴部の推定径は27cmほどある。大型の筒形になるとみられる。大ききの割には比較的薄手である。幅15mmの偏平な貼付帯が縦位に施されている。ちょうど土器の色調が黒色から黄褐色に変化するあたり、胴部半ばまでとみられる。器面には円形刺突文が施されているが、2個一対の刺突であることから判断し施文原体は幅10mmほどのものであろう。先が丸みのある棒状のものを2本固く結んだようなものであろうか。貼付帯下では2列横還させ、貼付帯上と器面では左下から右上に向けて斜めに施文している。

4類：(15～18) 押型文の施されたもの

15と18は同一個体とみられるもので、ほぼ一か所にまとまって200点以上の破片が出土していたが接合できなかった。この土器の破片の一部はⅡ-A層からも出土し接合している。内面の凹凸が著しく石英と共に、胎土に小砂利が多い。胴部のみ破片で推定径は23cmの厚みがある円筒形のもの。幅約20mmの原体による大柄な斜格子目と矢羽根状の文様が交互に施文されているが、横位では段違いに施されている。16は17これらと近接する発掘区から出土した同一個体の底部の破片。一見矢羽根状に見えるが、格子目と右下がりの短冊文、格子目と左下がりの短冊文の2種類の原体を組み合わせたとみられる。

Ⅲ群土器(12～14、19～21)

主にa類に属するものが出土している。b類のものは少ない。

a類：(12～14、19～21) 円筒土器上層式に相当するもの

いずれも胎土は精製されたもので焼成が良い。12は口縁部と胴上半部の破片を図上で器形を想定し復元したものである。推定口径17cm、平縁で口唇を肥厚させるもので、口縁が外側に開く器形である。器面には0段多条の原体による結束羽状縄文が施され、口唇上にも施文されている。肥厚した口唇直下には中空の棒状工具による円形刺突文が当間隔に施されている。14は口縁が大きく朝顔型に開き胴部がやや張り出す器形になるとみられる。器面は無文で一か所を除きすべての貼付帯が剥げ落ちているが、その痕跡がある。文様は2本組の縦位の線と弧線とで構成され、ドーナツ状の貼り付けの跡もある。弧線の間を埋めるように先が角形の棒状施文具による刺突文が施されている。13は0段多条の原体による結束羽状縄文が施されている胴部の破片で、貼付帯がある。14と同一個体の可能性がある。19、20は底部の破片。21は同一のものが隣接する包含層のⅡ-A層(図Ⅳ-73-4・5)から出土している。高さのあまりない台形の突起部。貼付帯状には部分的に縄文が施文されている。これらは円筒土器上層b式頃に相当するかとみられる。

ii) Ⅱ-A層出土の土器(図Ⅳ-72・73 図版Ⅳ-37・39・40)

2か年の調査で9,667点の遺物が得られている。Ⅱ群、Ⅲ群、Ⅳ群、Ⅴ・Ⅵ群に属するものがあり、Ⅳ群のものが最も多い。

Ⅱ群土器(1～3)

Ⅱ群b類のものが出土している。

4類：(1～3) 押型文の施されたもの

1、2は口唇部を肥厚させその部分に矢羽根状の文様が施されている。胎土はほかのⅡ群b類と共通するが、口唇の特徴、縄文を思わせる押型文の施文は、円筒土器上層式に類似する。Ⅲ群a類に並行するかもしれない。3は細い矢羽根文のもの。

Ⅲ群土器（4～7）

口縁部、底部の破片が少なく胴部の破片が多い。胎土、焼成、縄文の特徴から判断し a 類に属するものが多く、b 類のものは少ない。

a 類：（4～7） 円筒土器上層式に相当するもの

4、5はⅡ-B層出土のもの（図Ⅳ-72-21）と同一個体。5では貼付帯が口唇に波状につけられている。6、7は結束羽状縄文が施されている。円筒土器上層 b 式頃のものであろう。

Ⅳ群土器（8～21）

平成8年度の調査地区ではそのほとんどが a 類に属するもので、c 類のものが極わずかにある。

a 類：（8～19）余市式に相当するもの

断片的な資料多いため、全体の器形が判るものはなく、また文様要素の組み合わせが判るもの少ない。文様などから1類から4類に分けられる。4類はⅡ層から出土している。一般的に胎土は粗く石英、小砂利が多く混入する。また滑石の混入するものもある。色調はほとんどのものが暗赤褐色を呈する。

a-1類：（8～14） 口縁部に円形刺突文のあるもの

8は口径が20cmを越えるとみられる大型のもの。口唇の内面はなで調整され丸みを帯びている。器面には比較的太い0段多条のRL原体による斜行縄文が施されている。口唇直下を指で撫でることにより幅の狭い無文帯を形成している。粘土が盛り上がり貼付帯を施したような効果となっており、その直下に径5mmほどの円形刺突文を4cmほどの間隔で巡らせている。9はRL原体による斜行縄文のあるもので径が10mmほど刺突文が深く施文されている。10は8と同一個体の可能性がある。11は口縁部に並列して2条の幅の狭い貼付帯があるもので、その間を指頭でなで無文帯を形成している。口唇直下のは口縁部を折り返したものであろう。下位の貼付帯直下も無文となっておりこの部分に刺突文が巡らされている。貼付帯上および体部にはRL原体による斜行縄文が施される。12は無文のもので、8、11に類似のやや幅のある無文帯と折り返し帯があるものである。口唇直下が極端に薄くなっている。刺突文は持たないが便宜的にここに含めた。

a-2類：（15、16） 縄文のみのもの

15、16は同一個体のもので、Ⅱ-A層からも出土している（図Ⅳ-77-53）。口唇断面は角形、折り返し帯により口唇直下を幅1cmほどの角形に肥厚させそれぞれに撚りの異なる縄文を施している。その下位は無文となっている。

a-3類：（17、18） 貼付帯を持つもの

いずれも胴部の破片で幅の狭い扁平な貼付帯がつけられている。器面と貼付帯上には撚りの異なる2つの原体による縄文が施されている。胎土に細かい白色の砂粒が混じる。滑石の可能性がある。

19は底部の破片。太いLR原体による斜行縄文が施されている。

c-2類：（20・21） 三ツ谷式に相当するもの

20は浅鉢あるいは注口土器かと思われる薄手の小型土器。口唇断面は尖り気味で、平行沈線文が3条引かれる。21には縦に刻み目が入られた貼り瘤があり、貼り瘤を巻き込むように沈線が三叉文風となっている。

iii) I・Ⅱ層出土の土器（図Ⅳ-69、74～77 図版Ⅳ-41～43）

2か年の調査でⅠ層から19,728点、Ⅱ層から7,718点出土している。Ⅱ群、Ⅲ群、Ⅳ群、Ⅴ・Ⅵ群各時期のものがあり、大部分がⅤ・Ⅵ群のものである。

II 群土器 (1~38)

b類に属するものが出土している。1~4類の細分類はII-B層に準ずる。

1類：(1~19) 大麻V式に相当するもの

1は底径が約11cmあるもので、底部から胴部下部にかけてほぼ全周が復元できた。胎土に大きいものでは径7cmほどの小砂利が混入する。器面は磨滅が著しく文様は明瞭ではないが、細い撚り紐のRL原体を横位と縦位に回転施文した羽状縄文のある部分と撚りの異なる2つ原体による羽状縄文が施されている部分とがある。内面には幅4、5mmほどの先がササラ状に細かく割れた施文具による条痕文が横方向にみられる。2、3は1と同一個体とみられる破片である。細い原体によるやや粗い縄文が施されており羽状縄文を構成している部分がある。3には内面に1と同様の条痕文が観察できる。4~7は口縁部に縄線文が施されたものである。4は口唇がややで尖り気味で、器面には細いLR原体による整った斜行縄文が施され、部分的に施文方向を縦位に変えることで羽状縄文が構成されるところがある。縄線文は器面に使用された原体と同じもので、2条浅く施文されている。下位の線にはごく浅い円形の刺突文が1個ある。文様として捉えた方がよいか、あるいは偶発的なものであろうか。内面は凹凸が著しく、斜位、縦位、横位の方向が一定しない縄文が施文されている。5はRL原体による縄文と縄線文のもの。6はLR原体による縄線文がある。口唇は角形に調整されその上に斜めに縄の圧痕がつけられている。7は胎土が砂が多いもので、ほかの土器とはやや異なる。太いRL原体による縄線文が3条ある。

8~19は縄文のみが施された口縁部、胴部の破片。8は口唇断面が角形のもので、RL原体による縄文が浅く施文されている。9~12は菱形、羽状縄文を構成する比較的整った文様があるもの。9は焼成の良いもので、色調は明るい橙色を呈する。0段多条の撚りの異なる2つの原体により菱形を構成する文様が描かれている。内面には幅7、8mmほどの先が複数に割れたササラ状の施文具による条痕文が横位につけられている。10~12は同一個体とみられる。磨滅してははっきりとはしないが、原体を縦、横方向を違えて施文したとみられる羽状縄文がある。胎土に含まれる茎葉の痕跡が器面の内外面に顕著に観察できる。

13~19はあまり整わない縄文の施されたものである。13は斜行縄文のもので内面に粗い条痕文がある。14は節の傾きから一見撚糸文に見えるもので、細いRL原体による横走気味の縄文の施されたものである。15は内面にも横走気味の縄文がある。16は太いRL原体による斜行縄文が浅く施文され、内面には横位、縦位に疎らに施文されている。17は厚手のもの。磨滅が著しく文様がほとんど見えないが、左下がりの縄文がかすかにみえる。19は胎土に小砂利が多量に混じるものである。

2類：(20、21) 滑石が混入されているもの

20には長さが2、3mmの角張った滑石が混入されている。21は破片の部位はわからないが太い沈線が1条引かれている。

3類：(22~29) 刺突文が施されたもの

22は2個一対の刺突文が横位に巡り、その下位では左下から右上に向け斜めに施文されている。II-B層出土の資料(図IV-71-11)と同一個体であろう。23は小片のためはっきりとは判らないが、2ないし3個で一対の刺突が斜めに施文され、下位に沈線が1条引かれている。25は1つずつ施文したかとみられる。27は観察できる範囲では、大きさの様々な5個一対の刺突文があるもので、歯状施文具を横方向にやや押し引きながら施文したとみられる。28は口縁部の破片。口唇部の断面は角形で斜めに刻み目を入れている。口唇直下には竹管状工具によるやや長めの短刻線にも似た刺突文が、右下から斜めに、その下位では左下からの斜めに施されている。口縁に平行に複数施文されているとみられる。29は28に類似の刺突文がある底部付近の破片。

4 類：(34～38) 押型文のもの

同一個体の破片は相当数あったが接合できなかった。胎土に石英、小砂利が多量に混じり、内外面共に器面は粗い。5点ある底部の破片から底径を推定すると17cmほどあり、直線的に立ち上がる筒形に近い器形とみられる(38)。37、38にみられるように幅約3cmの左下がりと右下がり2つの斜行格子目の原体を交互に多段に施文しその間は幅の狭い無文帯となっている。

5 類：(30～33) 押し引文の施されたもの

調査区南側の風倒木痕跡から、同一個体の破片が300点近くの破片が出土した。破片のほとんどに逆「3」の字状の押し引文が施されていた。32、33は底部近くの破片で、やや開き気味に立ち上がる器形のものともみられる。31、33では逆「3」の字の文様が縦に2つ並んでいる。これらは同時に施文されているように見えることから、原体は文様2つ分の幅、2cm位のものであろう。

Ⅲ群土器(39～47)

a類とb類に属するものがあり、掲載した以外はそのほとんどが縄文の施された体部の破片である。焼成、胎土、縄文の特徴から判断しa類に属するものが主体を占める。

a類：(39、41) 円筒土器上層式に相当するもの

39は口唇に斜めに貼付帯がつけられその上に縄の圧痕がある。上層b式とみられる破片である。41は胎土に石英が多く混じるもので、0段多条のLR原体による斜行縄文地に半截竹管状施文具の内側を使用した沈線文で文様が描かれている。

b類：(40、42～47) モコト式、北筒式に相当するもの

40はモコト式土器にしばしばみられる底部内面の突起部分である。42は黒褐色を呈するもので、口縁に平行に2条、棒状施文具による押し引文風の刺突文が施されている。43は口縁部がやや外反する器形のもので、口唇部には半截竹管状施文具によるとみられる押し引文が施され、その直下には中空の棒状施文具による円形刺突文がある。44は口縁部の一部分しか知られないが厚手のものである。口唇断面は角形で、器面にはRL原体による斜行縄文が浅く施文されている。厚みと幅のある貼付帯を横位に施しそれに繋げて縦に短い粘土紐を貼付している。口唇上と縦の貼付帯には断面が角形の施文具による刺突文風の押し引文が施されている。45～47は同一個体の破片。いずれも内側部分の剥落が著しい。胎土には径2、3mmの小砂利が多量に混入されている。口縁部には貼付帯が施され、断面が三角形となっている。直下の無文部分には指頭でなされたとみられる断面が丸みのある円形刺突文が施されている。貼付帯上と器面には太いLR原体による斜行縄文が施されている。

Ⅳ群土器(48～62)

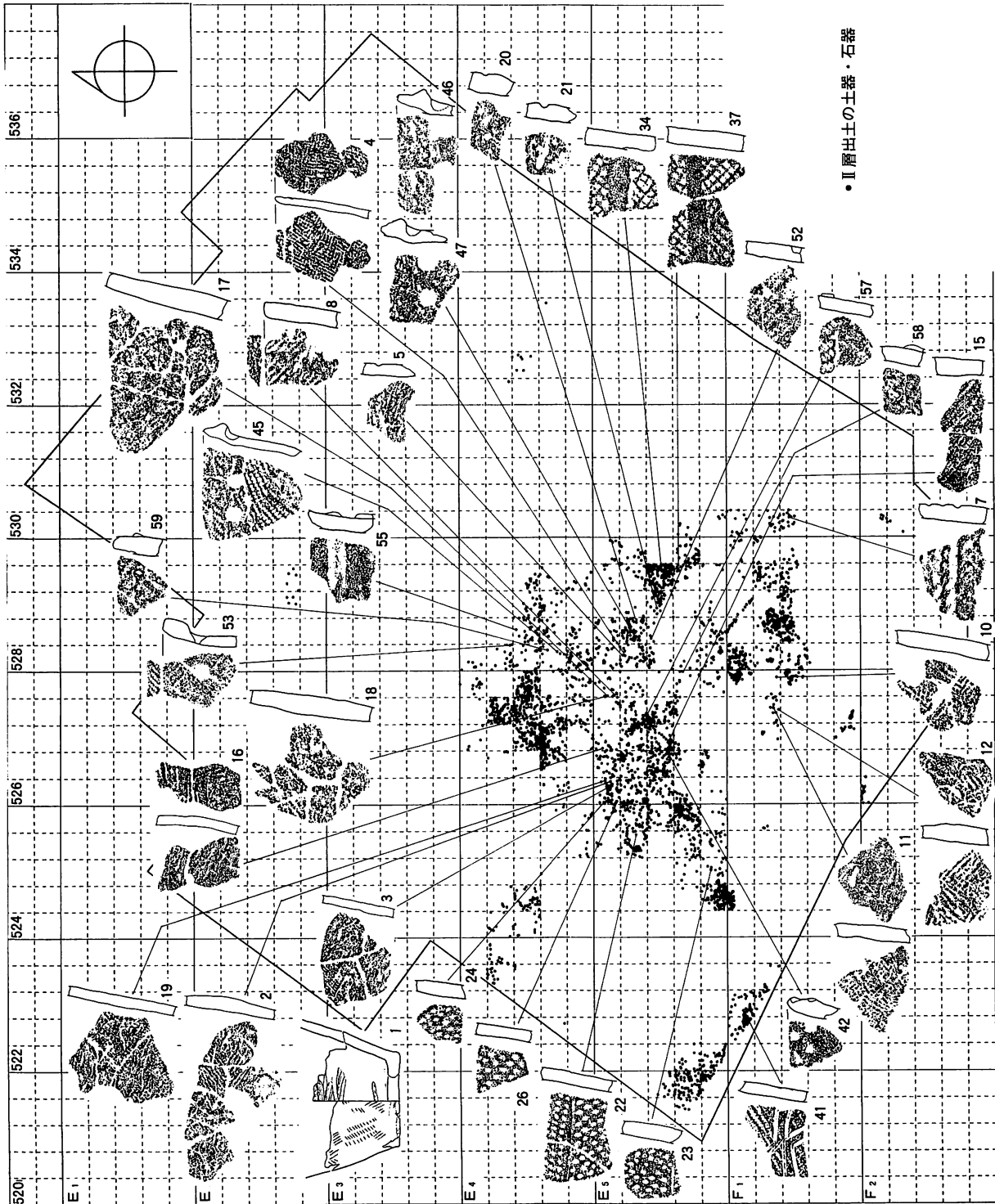
a類の余市式に相当するものがある。細分類はⅡ-A層に準じる。

a-1類：(48～52) 円形刺突文が施されたもの

口縁部のものはいずれも断面が角形である。破片は刺突文の位置で割れている。刺突文は径5mm前後のものである。48は口縁部の狭い範囲をわずかに厚みを持たせ無文帯とし、直下に円形刺突文を施している。器面にはRL原体による斜行縄文がある。49はRL原体による斜行縄文を施した後、口縁部の狭い範囲を指頭で撫でることにより無文帯を形成している。50は口唇直下が無文帯となっている。51の刺突文は縄端の圧痕によるものとみられる。

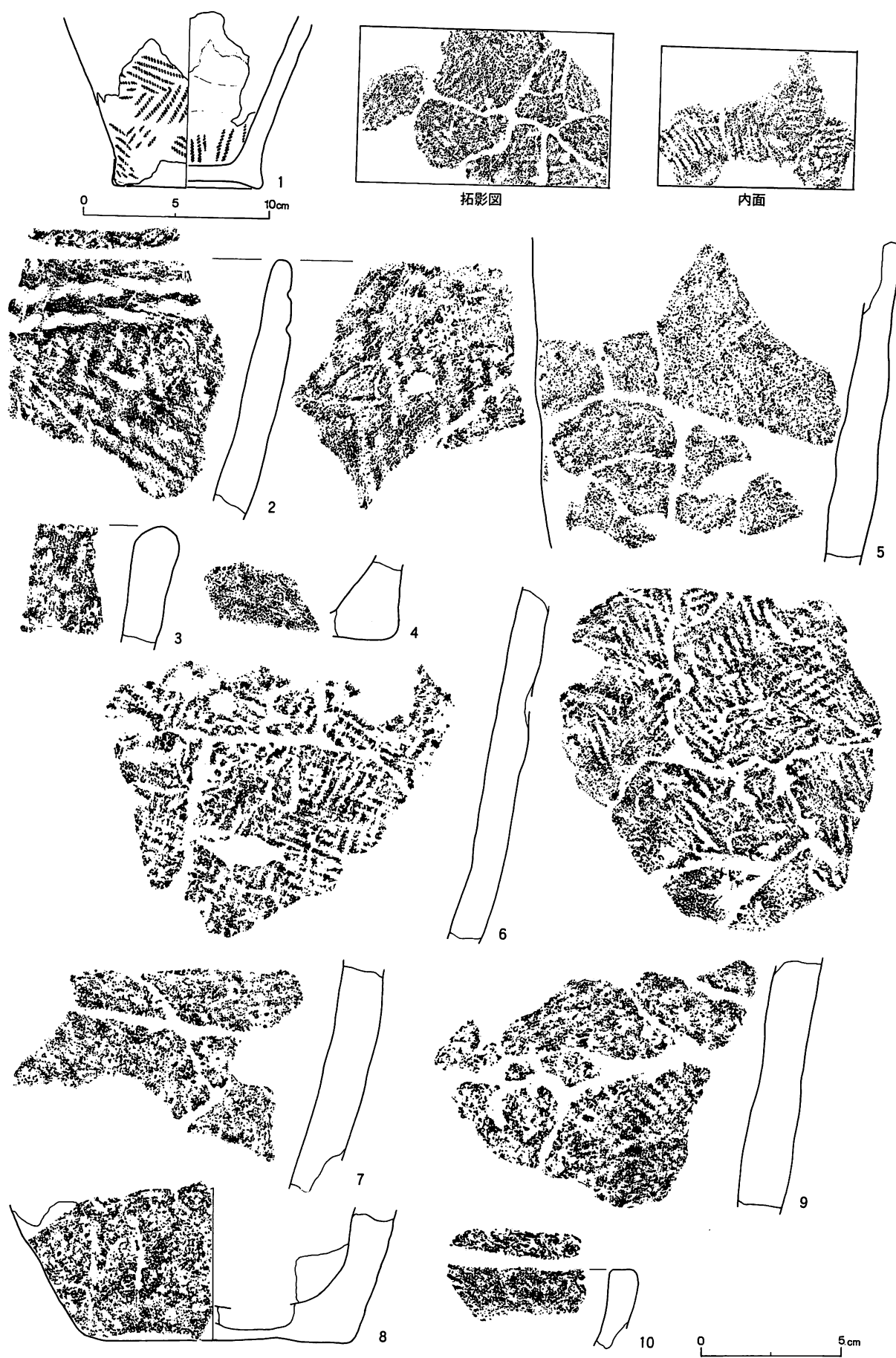
a-2類：(53) 縄文のみのもの

折り返し帯により口唇直下を幅1cmほど角形に肥厚させ、その部分と口唇上に縄文を施文している。

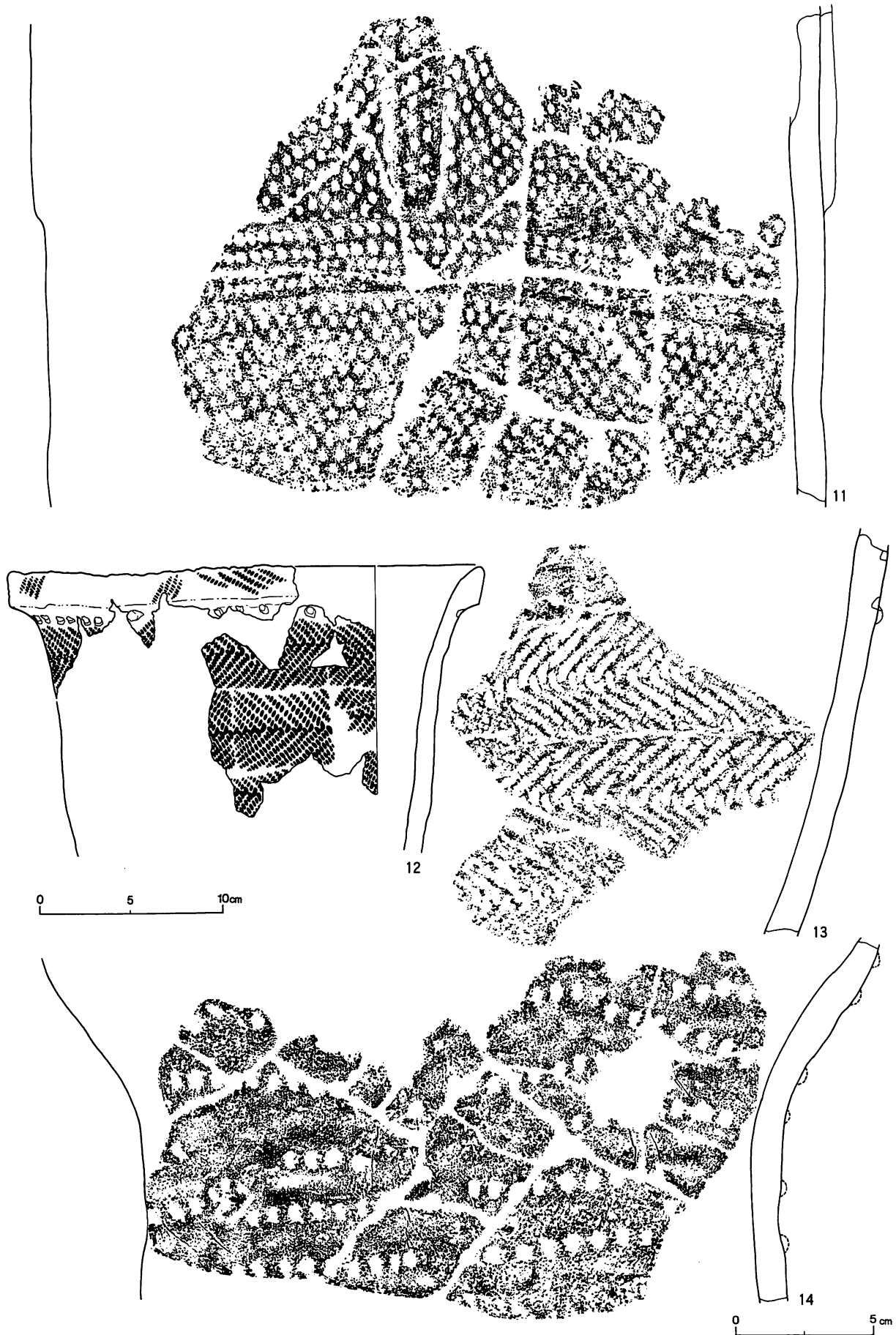


図IV-69 II層出土の土器分布

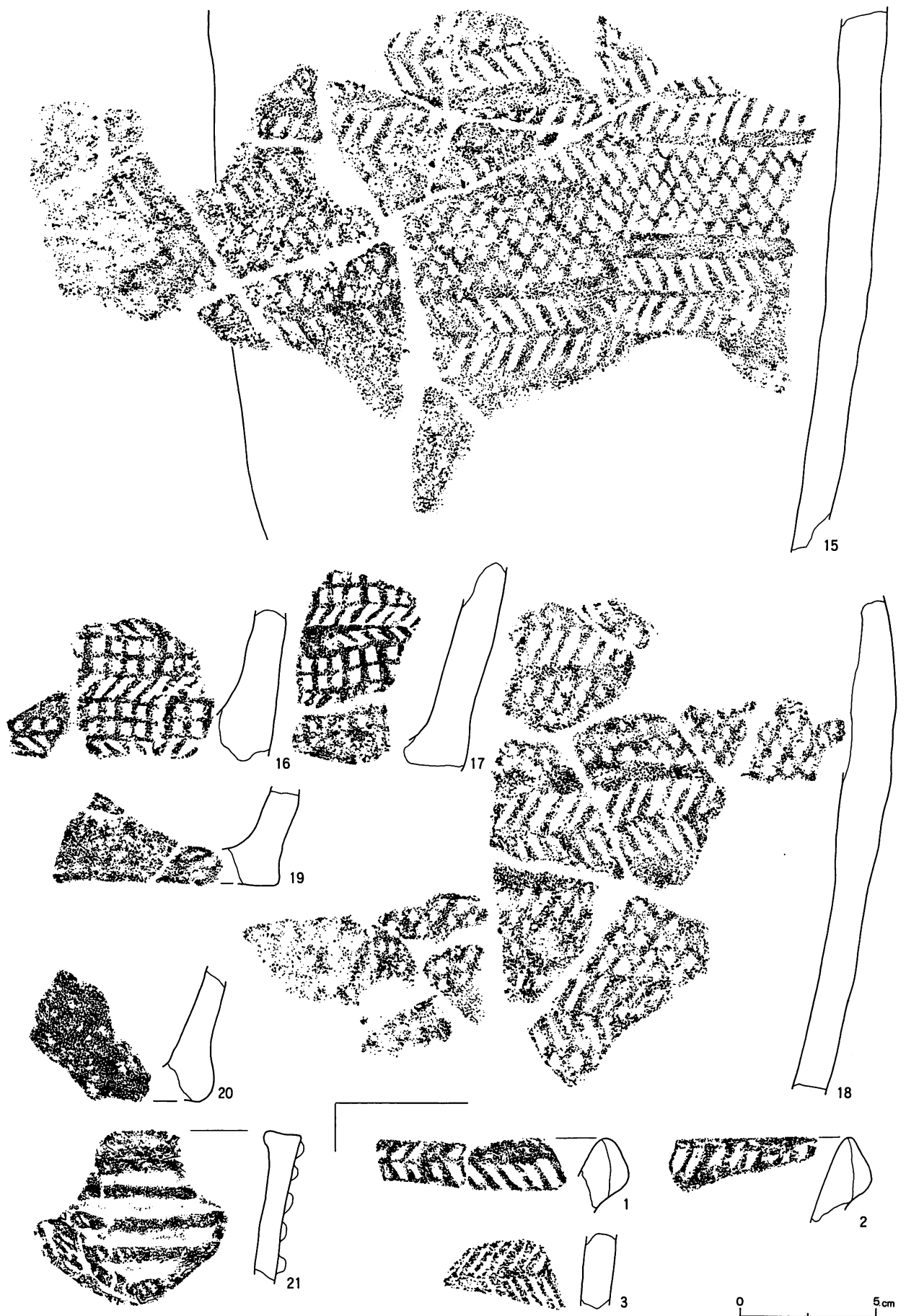
4 包含層の遺物



図IV-70 II-B層出土のII群土器



図IV-71 II-B層出土のII群・III群土器

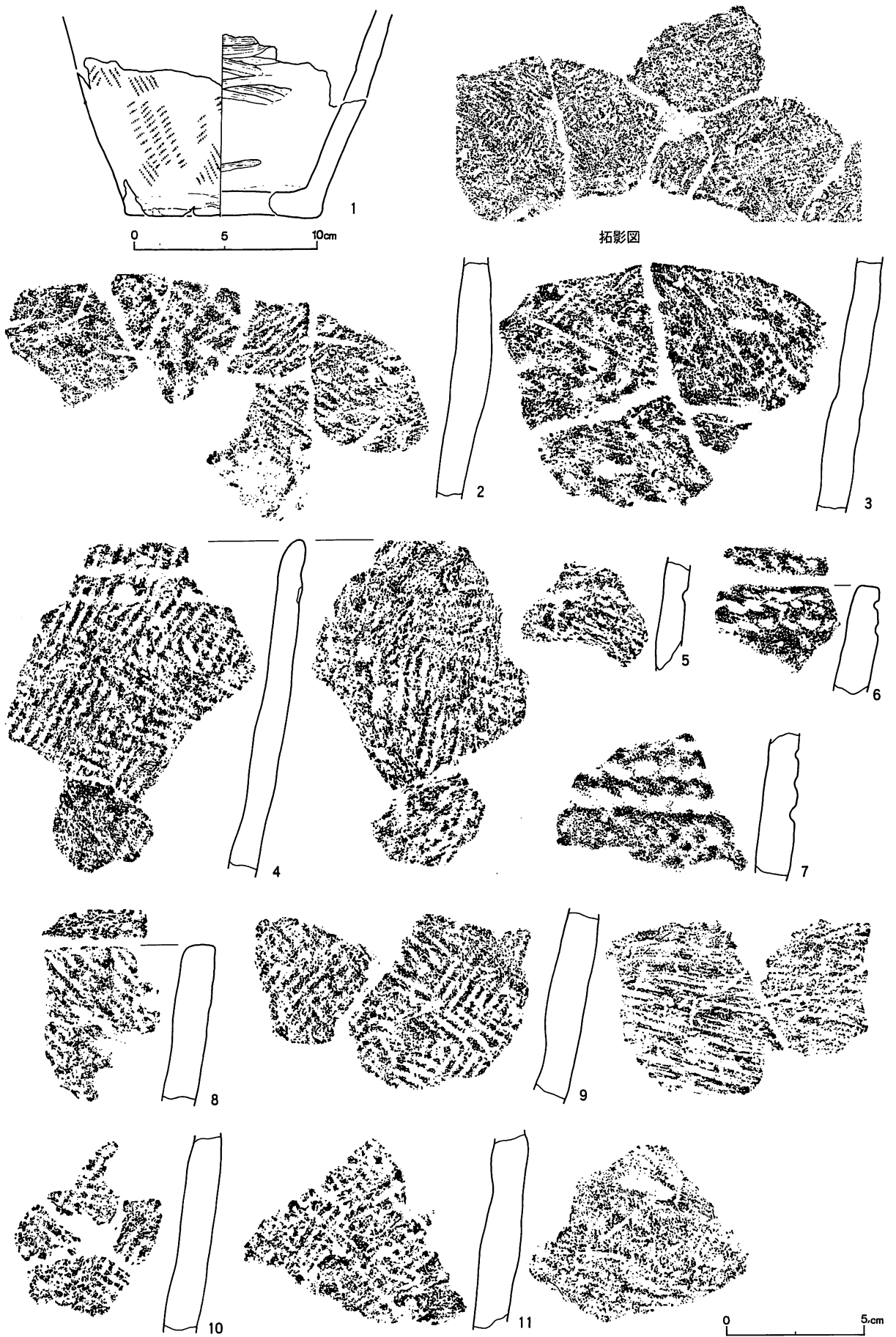


図IV-72 II-B層・II-A層出土のII群・III群土器

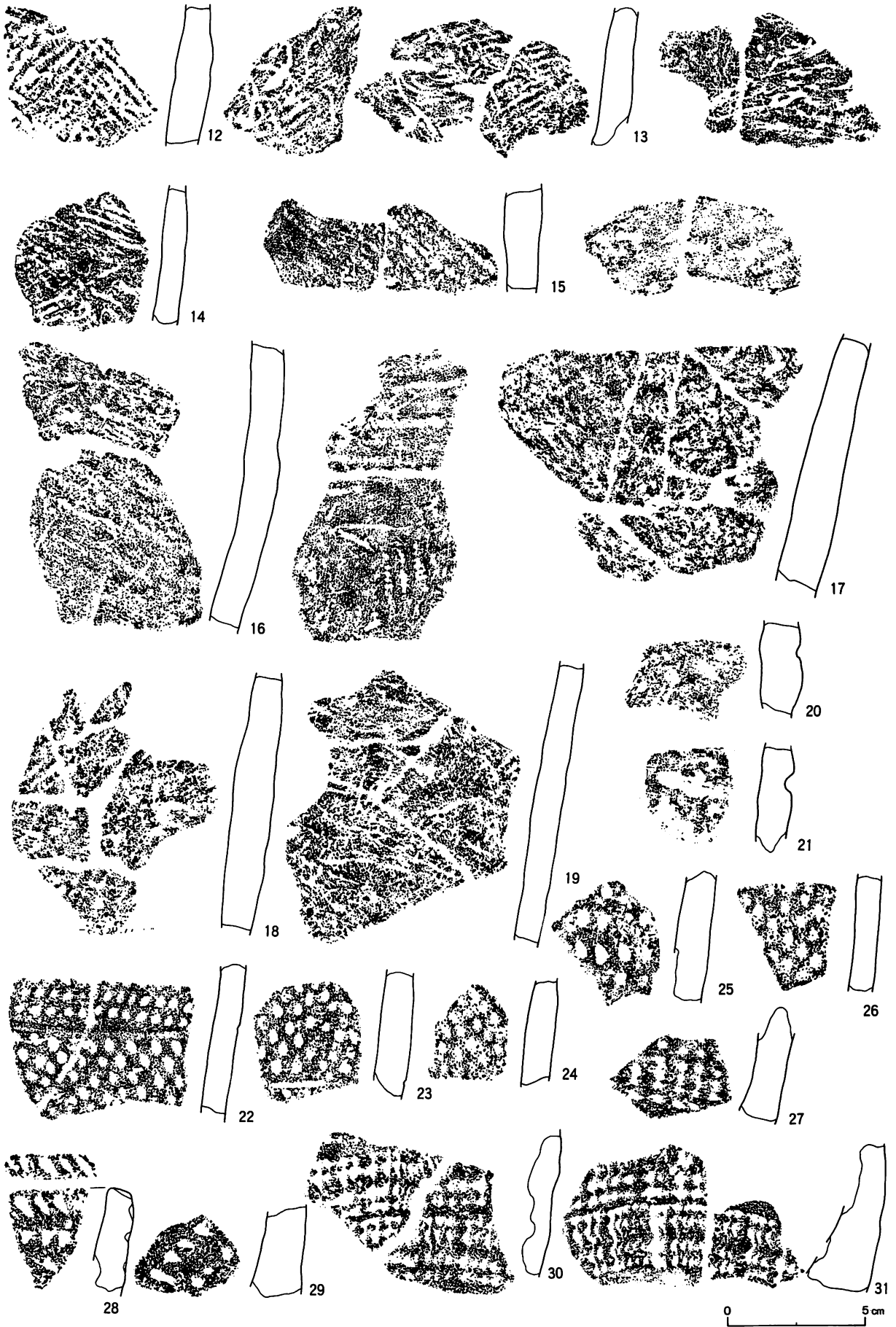


図IV-73 II-A層出土のⅢ群・Ⅳ群土器

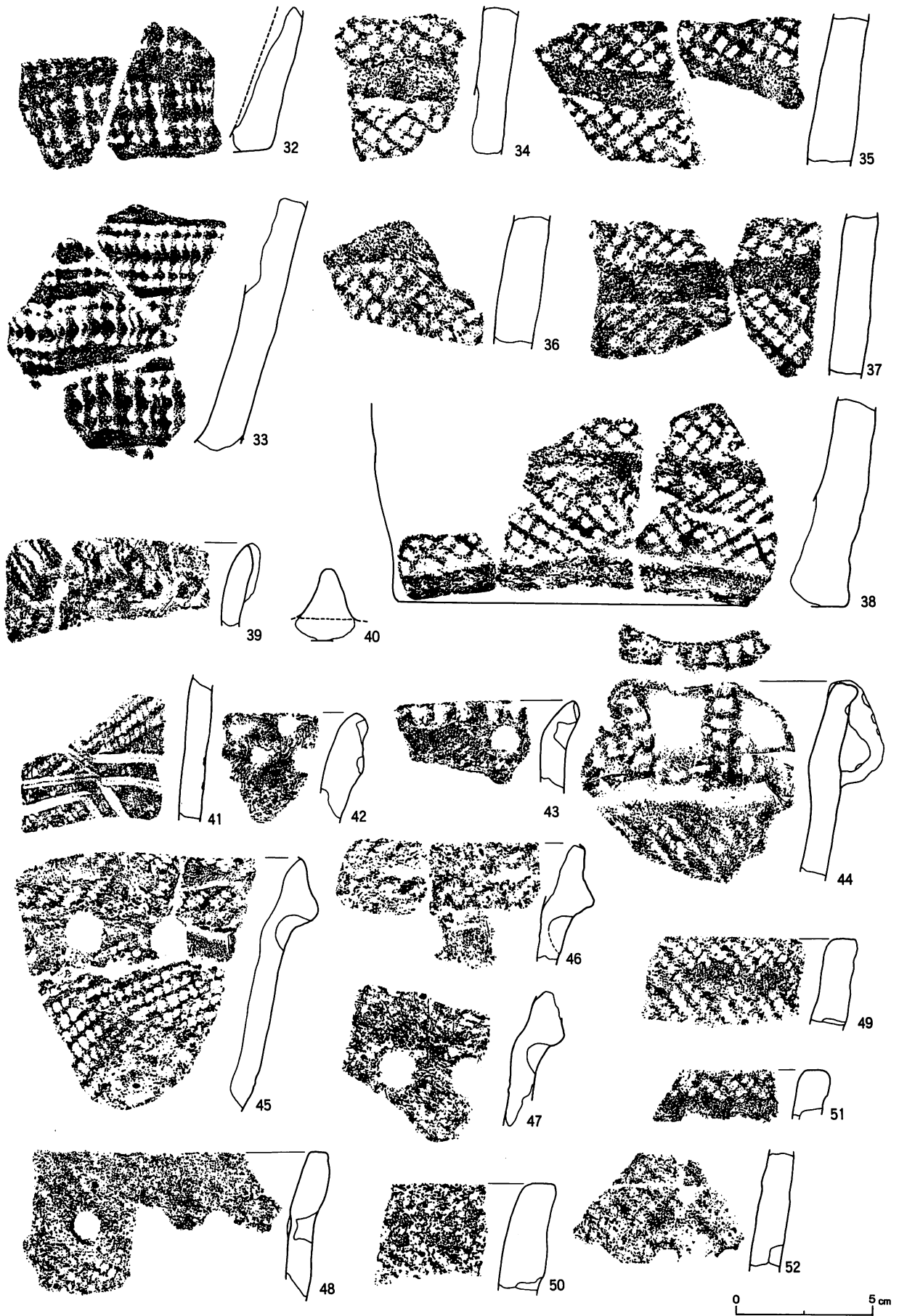
4 包含層の遺物



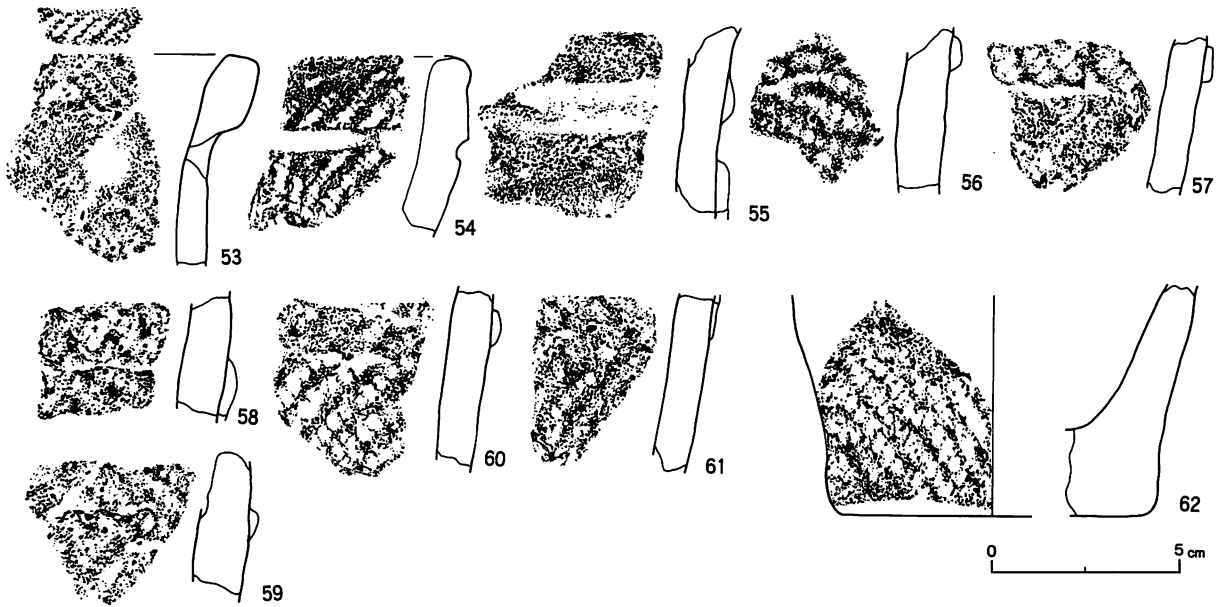
図IV-74 I・II層出土のII群土器(1)



図IV-75 I・II層出土のII群土器(2)



図IV-76 I・II層出土のII・III・IV群土器



図IV-77 I・II層出土のIV群土器

a-3類：(55~61) 貼付帯をもつもの

55には指でなでて形成した無文帯と貼付帯がある。上位のものは、折り返し帯のようである。II-A層出土のもの(図IV-73-12)と同一個体の可能性がある。56~61はいずれも偏平で幅の狭い貼付帯があり、縄文が重ねられている。60の胎土には滑石が混じる。

a-4類：(54) 沈線文の施されたもの

ほかのIV群a類土器とは異なり、胎土に石英がほとんど混入されていない。径5mm以上もある小砂利が混じる。色調も明るい灰褐色を呈し対照的である。口唇断面は丸みを帯びた角形で、0段多条のLR原体による斜行縄文を施文後、竹管状工具の丸みのある面で太い沈線を1条引いている。口唇直下のごく狭い範囲が無文となっている。

62は底部。比較的太い原体による斜行縄文が施されている。

(遠藤香澄)

V群土器 (図IV-78~88 図版IV-44~52)

2カ年の調査で出土したV群・VI群土器の点数は90,866点である。摩滅しているものや小破片が多く、文様の判別できたものは少ない。縄文のみが施文された胴部破片については、V群とVI群の区別が困難なため、便宜的にすべてV群土器として集計した。V群・VI群の分類は口縁部破片および底部破片とそれに接合した胴部破片のみ行った。個体数の集計(図IV-78・89)は口縁部破片によって行い、接合片と同一個体としたものは1点として数えた。

分布は、爪形文のものが8年度調査区の北東側にやや多く見られるほかは、目立った傾向は無い。

a類：(1~28) 爪形文が施されたもので、上ノ国式に相当するものである。

8~11は平縁のものである。口唇部断面は先細りで角形を呈する。10には突起がつく。12~18は小波状口縁のものである。12・13は無文地に爪形文が施される。15は3段の爪形文が施文されているが、口縁部直下の1段は摘み上げによる爪形文である。16~20に施文された爪形文はいずれも摘み上げによるものである。16・18は内面からの突き瘤が加えられている。18の内面には条痕が見られる。19・20は口縁部の沈線文で区画された文様帯内に爪形文が施文される。また、口唇上面に棒状工具で刻みが加えられている。21~25は半裁竹管状工具による刺突文が施されているものである。21は口唇部直下に1段の刺突列が器面を巡る。円形刺突が加えられた小突起が2個付く。23の口唇上面には刻みが加えられる。25の口唇部は外にややめくれぎみになる。

26~28は爪形文が施された底部破片である。やや上げ底ぎみになる。28は底面に爪形文が施されている。

b類：(107) 1点のみ出土した。107は大洞C₂式に相当するもの。沈線部分に赤色顔料の付着が見られる。

c類：(1~7、29~106、108~118) 幣舞式、緑ケ岡式に相当するもの。

復元土器(1~7)

1は舟形土器である。E₅-528-13・22区のII層からまとまって出土した(図版IV-35-1・2)。胎土は粒子が細かく、焼成は良い。上面観は紡錘形を呈する。胴部に無文のくびれた部分があり、口頸部は外に開き気味である。長軸の両端ははねあがり、縦の突起が貼り付けられている。突起の真下から刺突が1カ所加えられ、貫通孔が穿たれている。側面の小さな貼り付けにも穿孔が見られる。器面には1~3本一組の縄線文が間隔をおき4段加えられ、縄線文間に幅広の途切れた沈線文が施されている。胴部の無文帯より下半は斜縄文となる。底部付近には赤色顔料が付着している。2は胴部に張り出しのある鉢形土器で、縦の突起が4カ所貼り付けられているが、いずれも一部剥落している。対になる2カ所の突起に穿孔が見られる。斜行縄文が施された後、方形に括られた沈線文が施文される。1・2ともに平底ぎみの底部である。3は上面観が“おむすび形”をした浅鉢で、5条の平行沈線が見られる。口唇部の一部にきざみと縄線文が施される。4は縄文のみが施された浅鉢で、上面観は楕円形を呈する。5は無文土器。6は袖珍土器。7はミニチュア土器。体部に斜行縄文が施される。

拓本土器(29~106、108~118)

深鉢あるいは鉢(29~92)

29~38は縄線文の見られるものである。29・30は口唇断面が丸形、31は角形を呈する。32・33は口唇上面に刺突が加えられる。34~36は口唇部に棒状工具による刻みが見られる。34は器面に炭化物が多く付着している。35は2条の縄線文が施され、口唇部直下のものは緩い波状を呈する。37・38は同一個体で、口唇部を指で押して小波状口縁になるものである。体部の縄文は縦位の縄文である。

39～69は沈線文の見られるものである。39～51は数条の平行沈線文が施されるもの。39には内面に縄文がある。40は口唇が少しめくれ、上面に縄文が施される。42・43・50は口唇に刺突が加えられ、小波状口縁になるもの。41・44・45・49・51は口唇内面に縄圧痕が見られる。46は口唇内面に棒状工具で刻みが加えられる。44は縦に3条の沈線が見られ、括弧文になる可能性がある。48には蛇行沈線文が見られる。52～55は弧状の沈線文が施されるもの。52・53は地文の斜行縄文に弧状の沈線文が施されたもの。53は弧状の沈線文の間の菱形になる部分に、縦の短い沈線が加えられている。54・55は無文地に沈線文が施されたもので、胴部は斜行縄文となる。56～67は崩れた弧状の沈線文が施されるものである。58には補修孔がある。60は円形の貼り付けがある。67は摩滅してわかりにくい、縄線文が1条斜めに施文されている。68・69は方形に括られた沈線文が見られるもの。

70～87は縄文のみのものである。70は大型で器厚は厚い。口唇断面は丸形を呈する。74は緩い波状の口縁になると思われる。78は突起の片側にのみ口唇部に縄圧痕があり、もう一方には見られない。79は口縁部が磨り消され無文帯となっているもので、VI群に分類される可能性がある。81は小型の鉢形土器で緩い波頂部の3カ所に指頭圧痕が見られる。82・83は同一個体で口唇端部に棒状工具による刻みが加えられ、口唇上面には沈線文が1条加えられている。85は小形の鉢形土器で、楕円形の穿孔を境に内面に縄線文と沈線文が施される部分と沈線文のみが施される部分があり、口縁の高さが違っている。86は一部剥落しているが、縦の突起が貼り付けられている。突起の片側にのみ口唇部に縄圧痕による刻みが見られる。87には内面縄文がある。

88～92は刺突文の見られるものである。89には小さなボタン状の貼り付けがある。90は斜めに突く刺突文である。91は竹管状工具による刺突文が施されている。

浅鉢 (93～100)

93～98は浅鉢の突起部分である。93は渦巻き状の縄線文が施された後、棒状工具により中央に刺突が施され、十文字の文様が描かれる。94は刺突が施されるもの。95～98は縄線文もしくは縄圧痕が突起に加えられるものである。95・96は渦巻き状の縄線文が施される。99・100は内面に縄線文、蛇行沈線文、刺突文が組み合わされて施されるもの。

異形土器 (101～106)

上記いずれの器種にも含まれないものである。101～103は胴部に張り出しのある鉢形土器と思われる。101は内面に沈線文が見られる。102は口縁部に数条の沈線文が横走り、胴部の張り出し部分に縄端圧痕が加えられたもの。口唇部は角形で、縄圧痕が見られる。103は斜行縄文の地文に、弧状の沈線文が施されたものである。104～106は貼り付けを持つものである。104は弧状の沈線文が施されたもので、貼り付け上には指先による刺突が加えられる。105は円形の貼り付け部分に楕円形の穿孔が施されている。106は縦の貼り付けに指による凸凹と円形の穿孔が加えられている。

底部 (108～118)

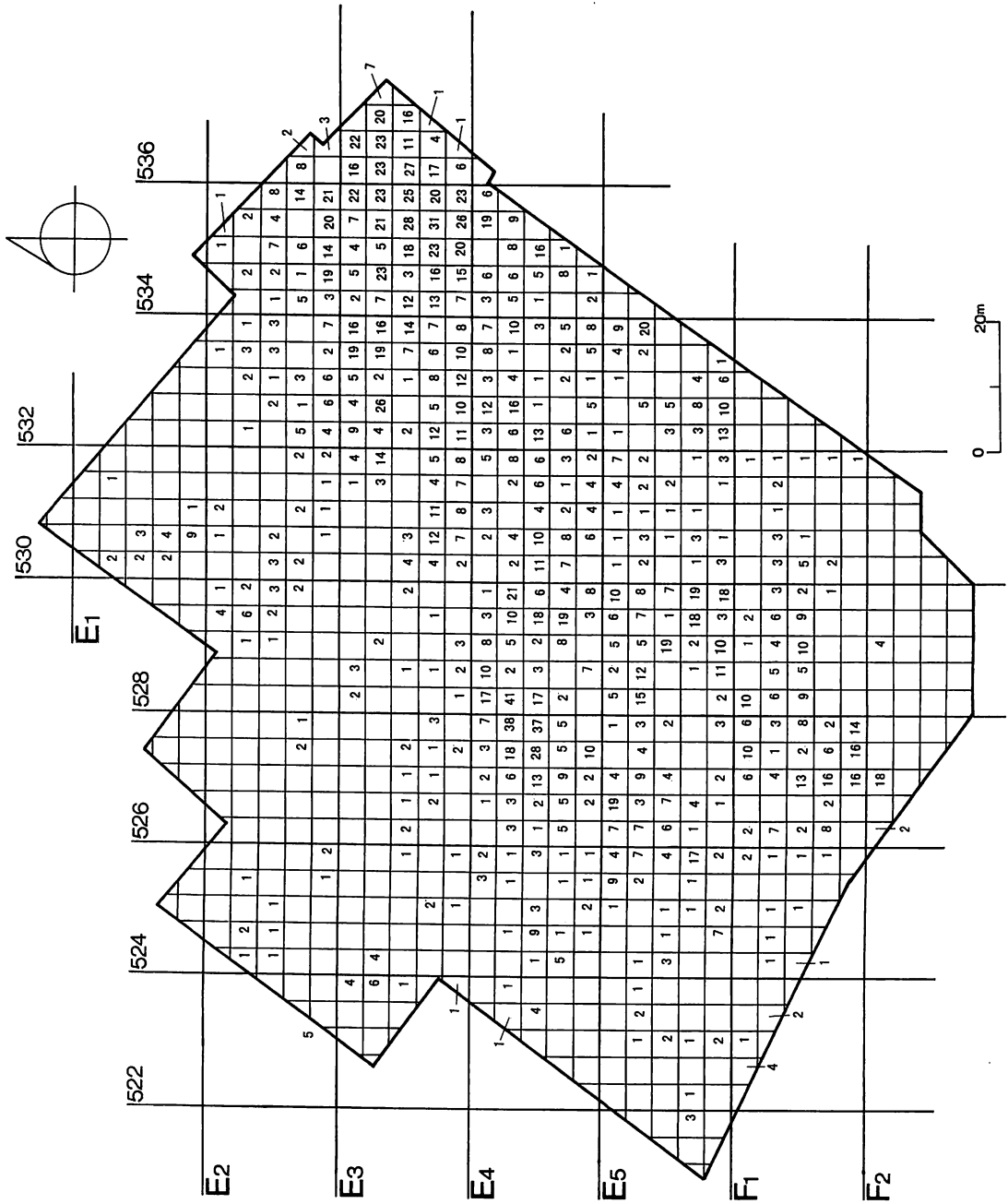
丸底のものから丸底ぎみの平底のものがあり、平底になるにつれて底部の角が張り出すようである。ほとんどが底面にも縄文が施文されているが、109・110は無文になる。

VI群土器 (図VI-89～98 図版IV-53～59)

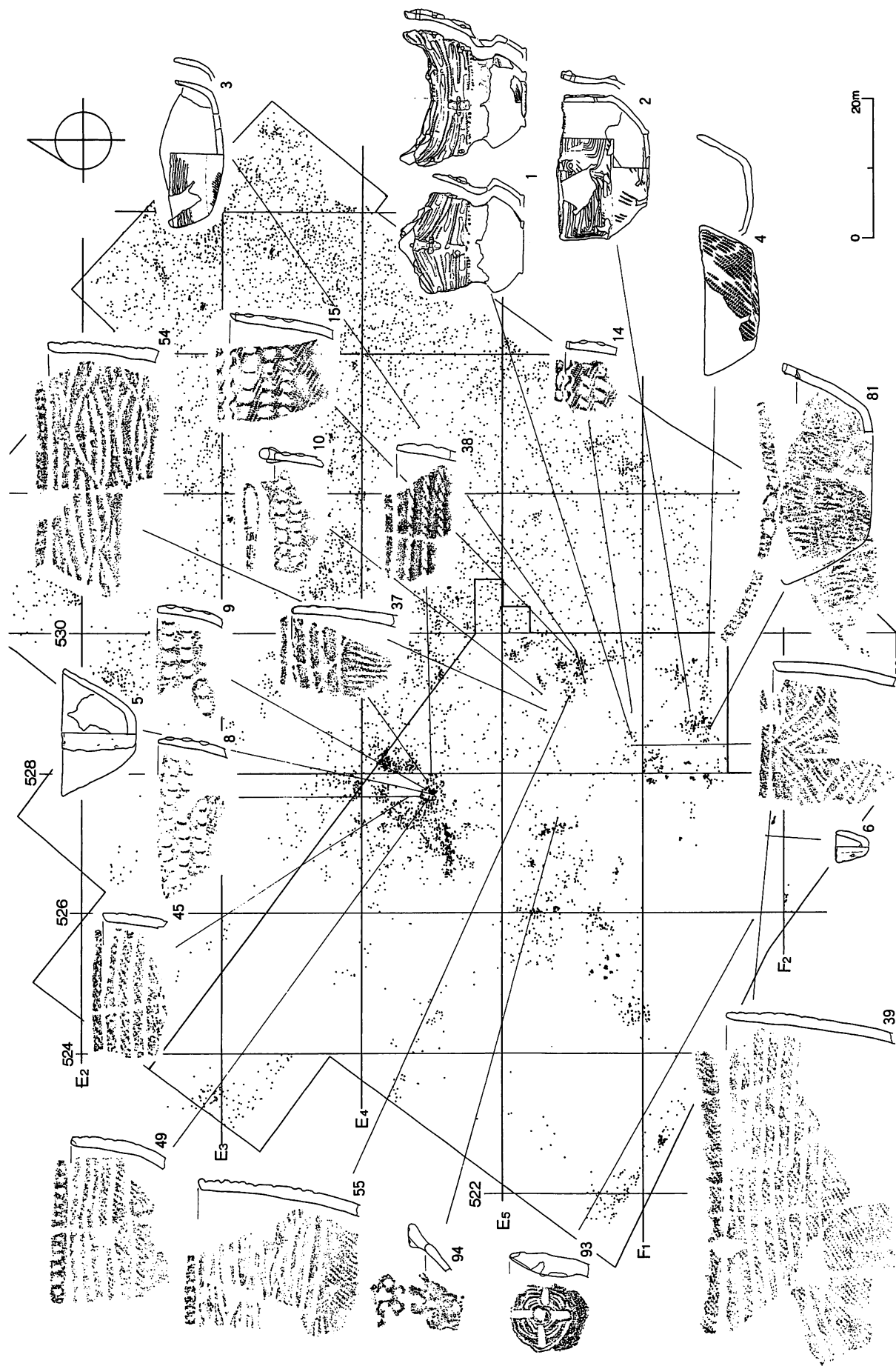
前半期のもの(a類)と後半期のもの(b類)に分けられる。

a類は、続縄文時代初頭に位置づけられる土器群で、中にはV群c類と分別が難しいものもあるが、続縄文的要素の強いものを本類とした。

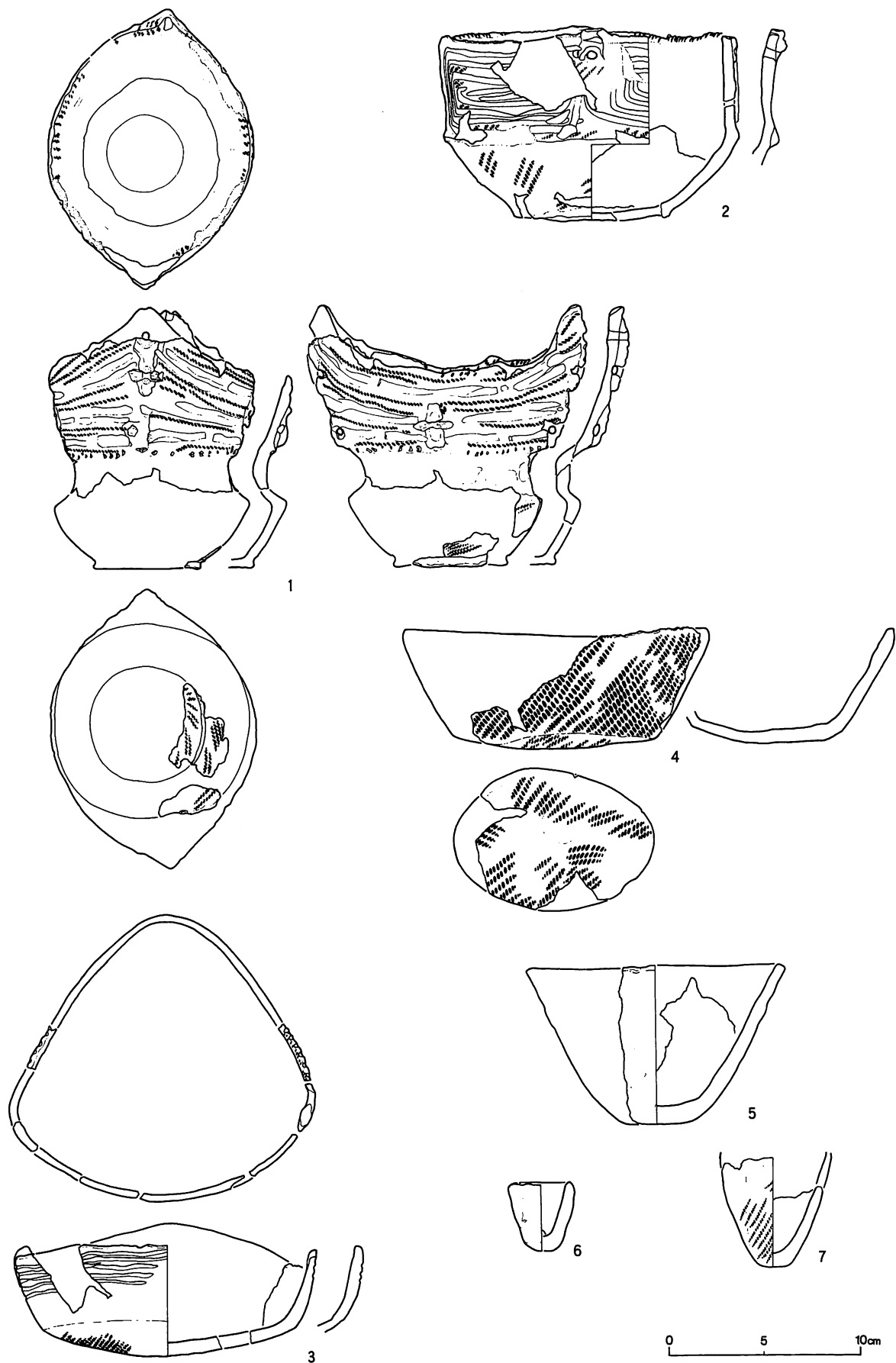
b類は、後北A式に相当するものと後北C₂-D式の破片が1点出土している。



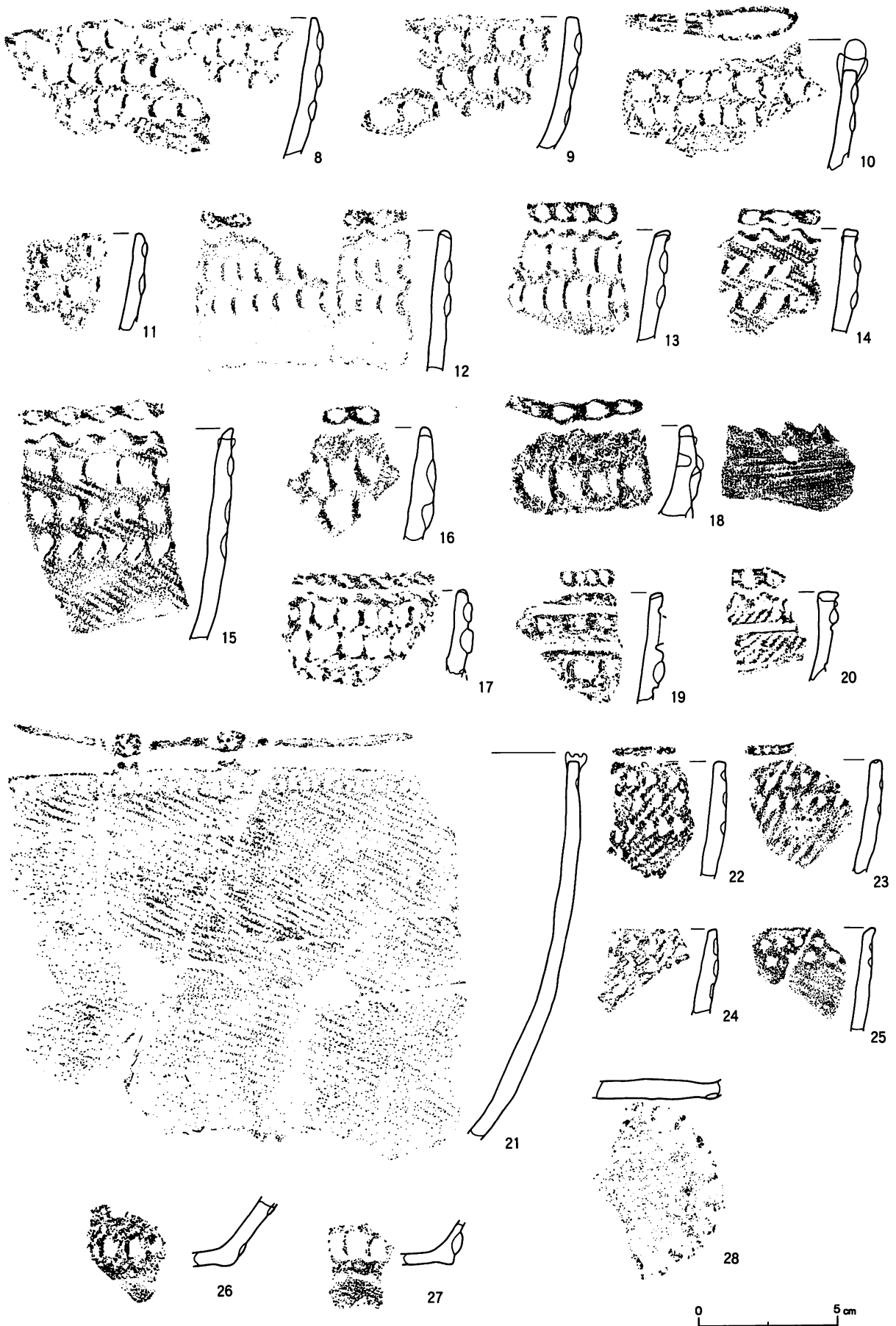
図IV-78 V群土器発掘区別口縁部個体数



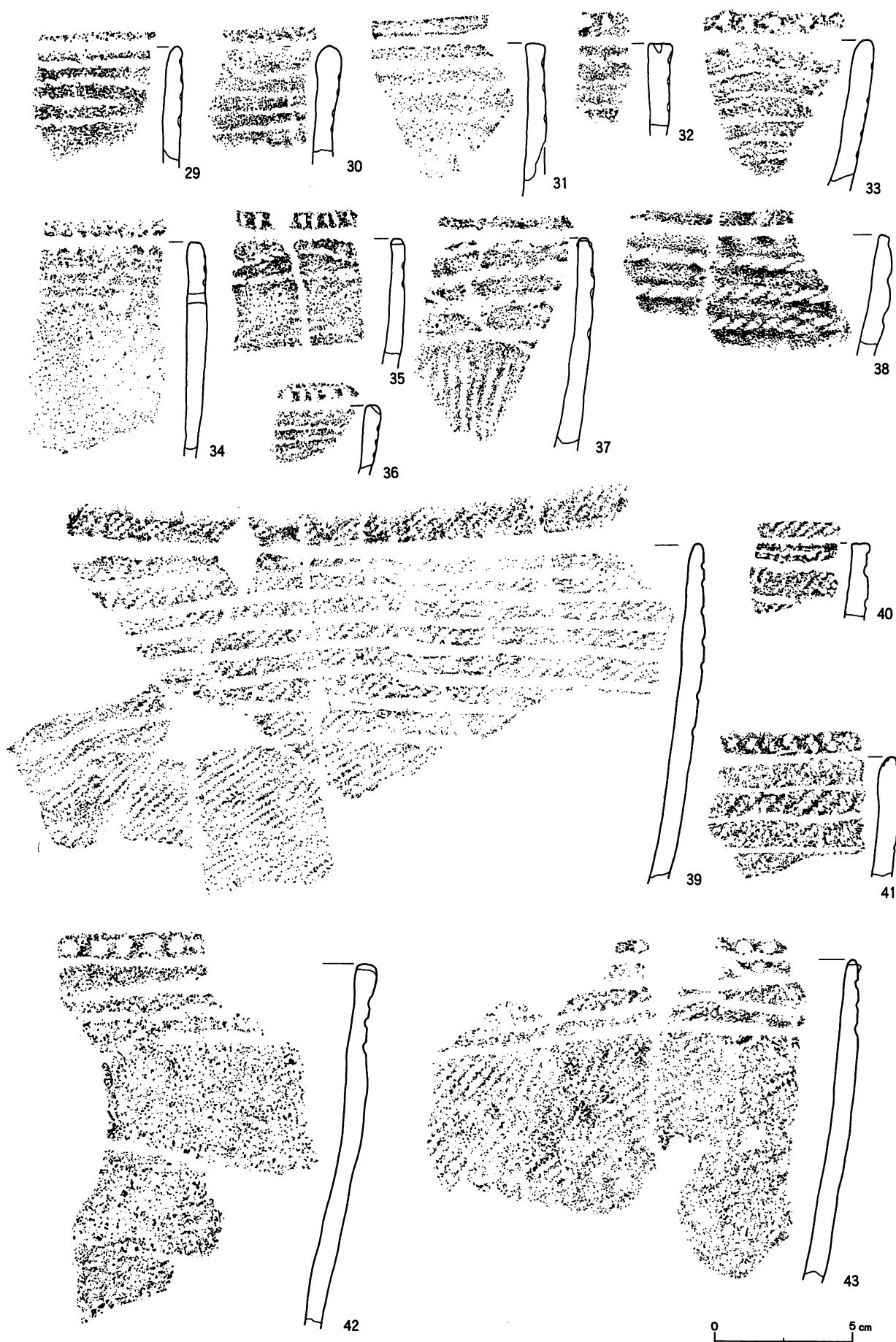
図IV-79 V群土器の分布



図IV-80 I・II層出土のV群土器(1)



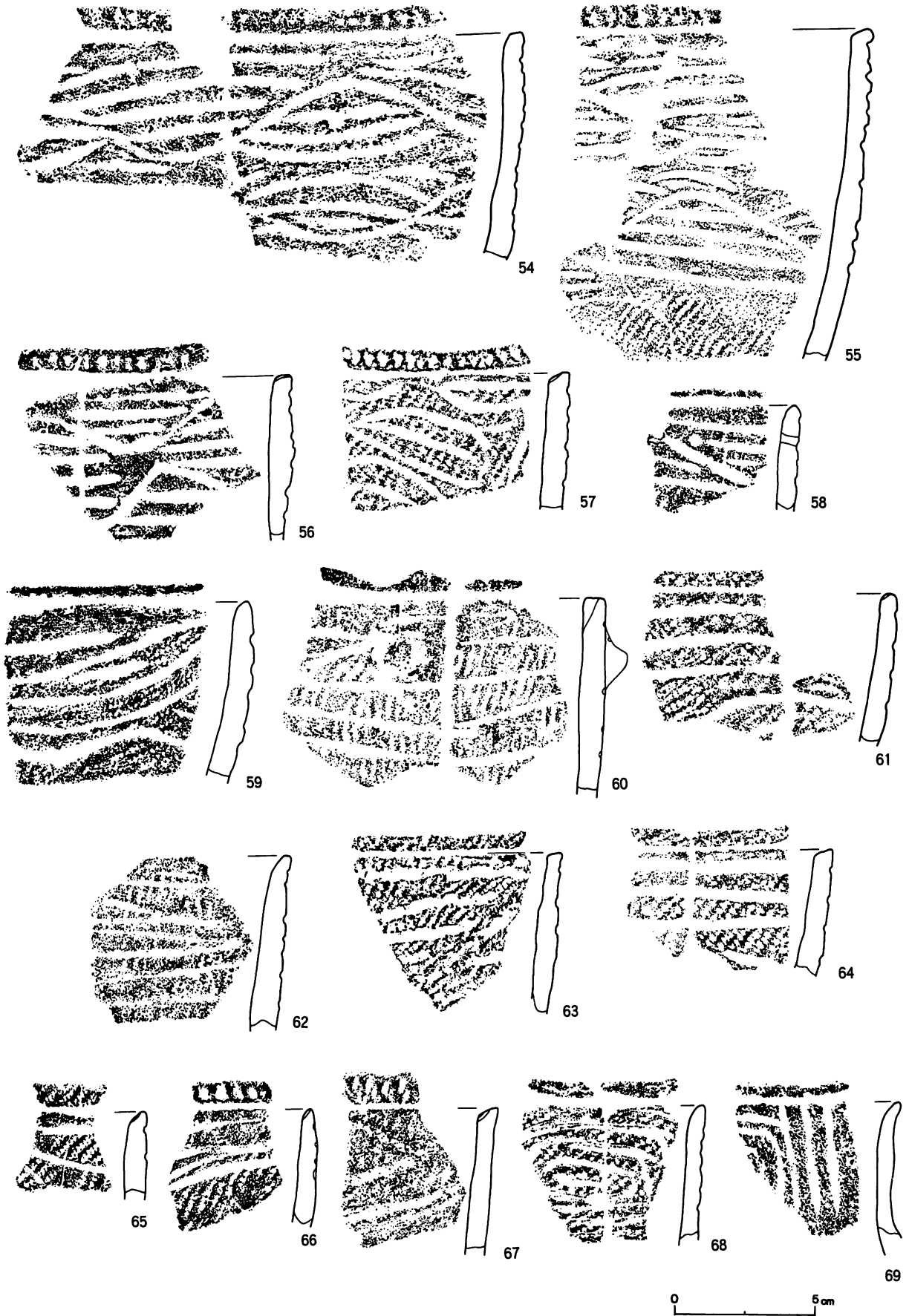
図IV-81 I・II層出土のV群土器(2)



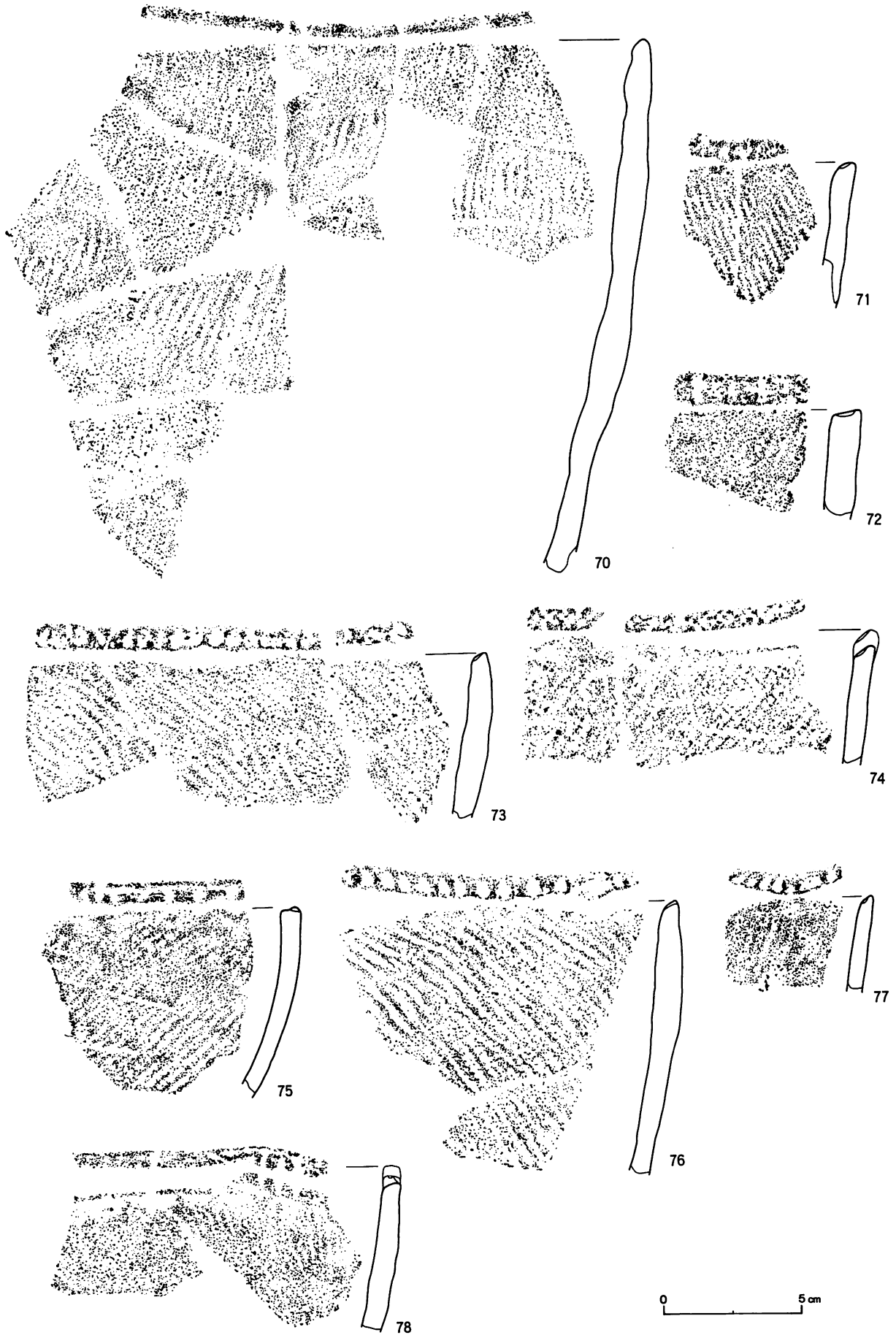
図IV-82 I・II層出土のV群土器(3)



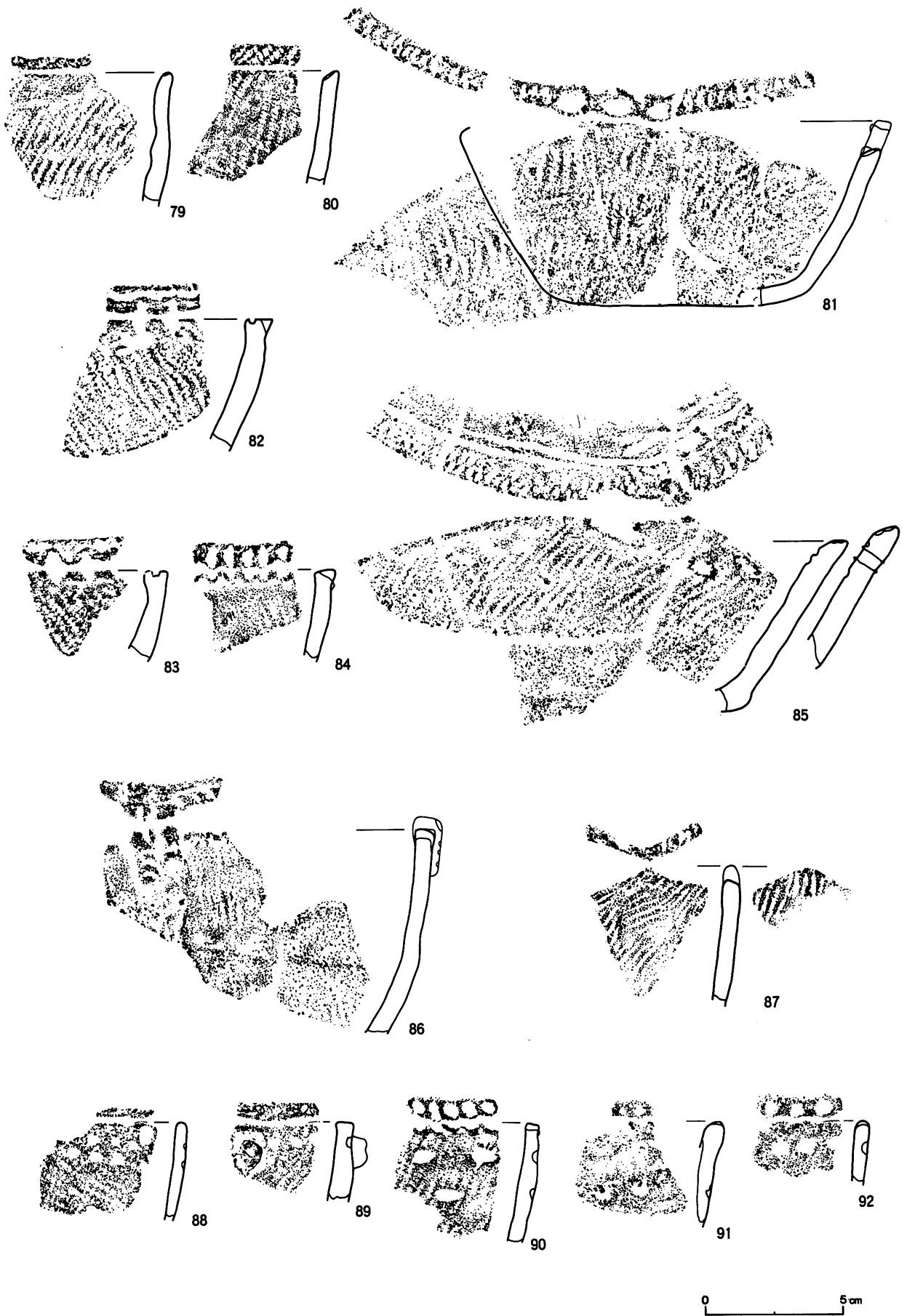
図IV-83 I・II層出土のV群土器(4)



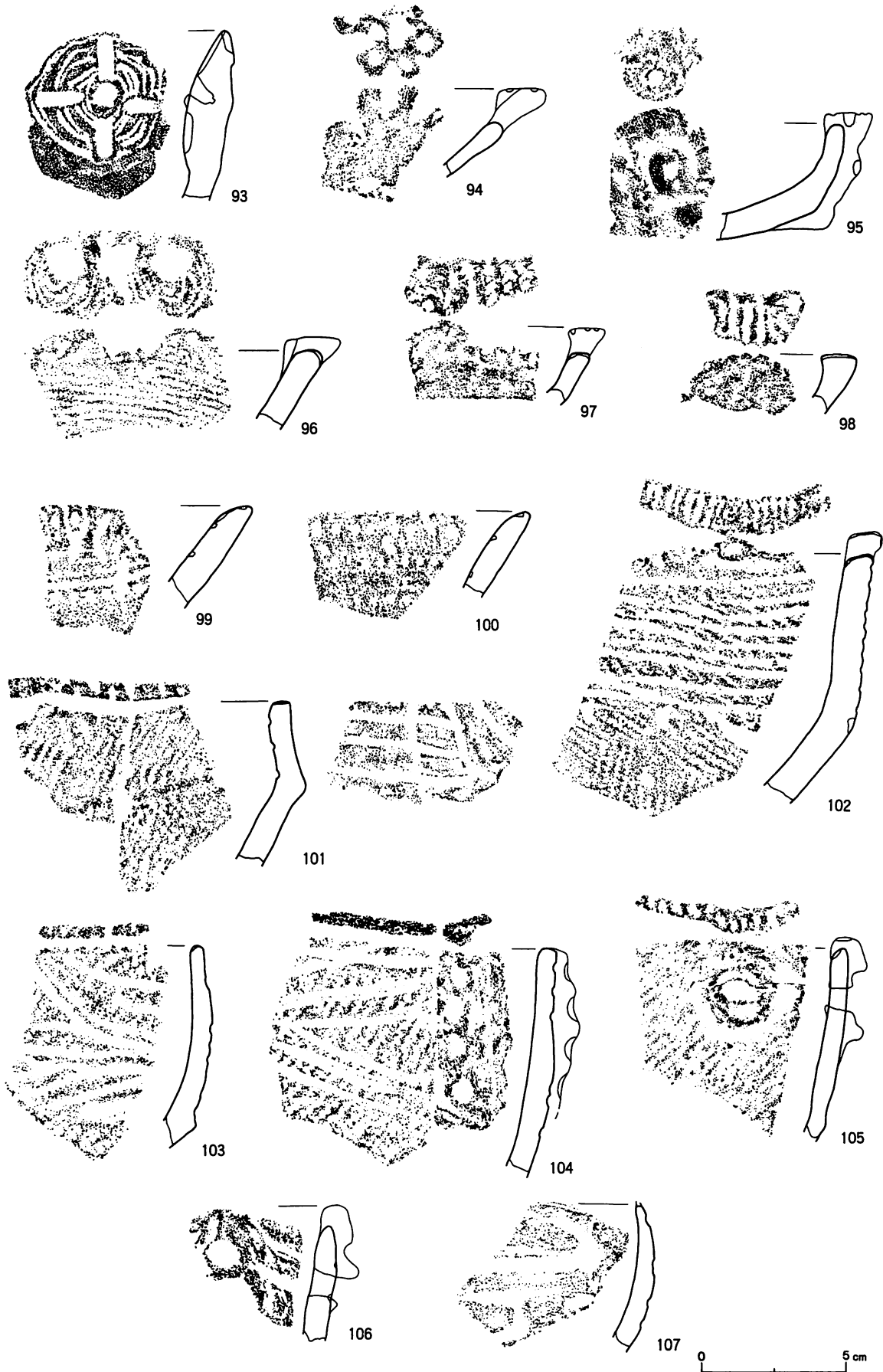
図IV-84 I・II層出土のV群土器(5)



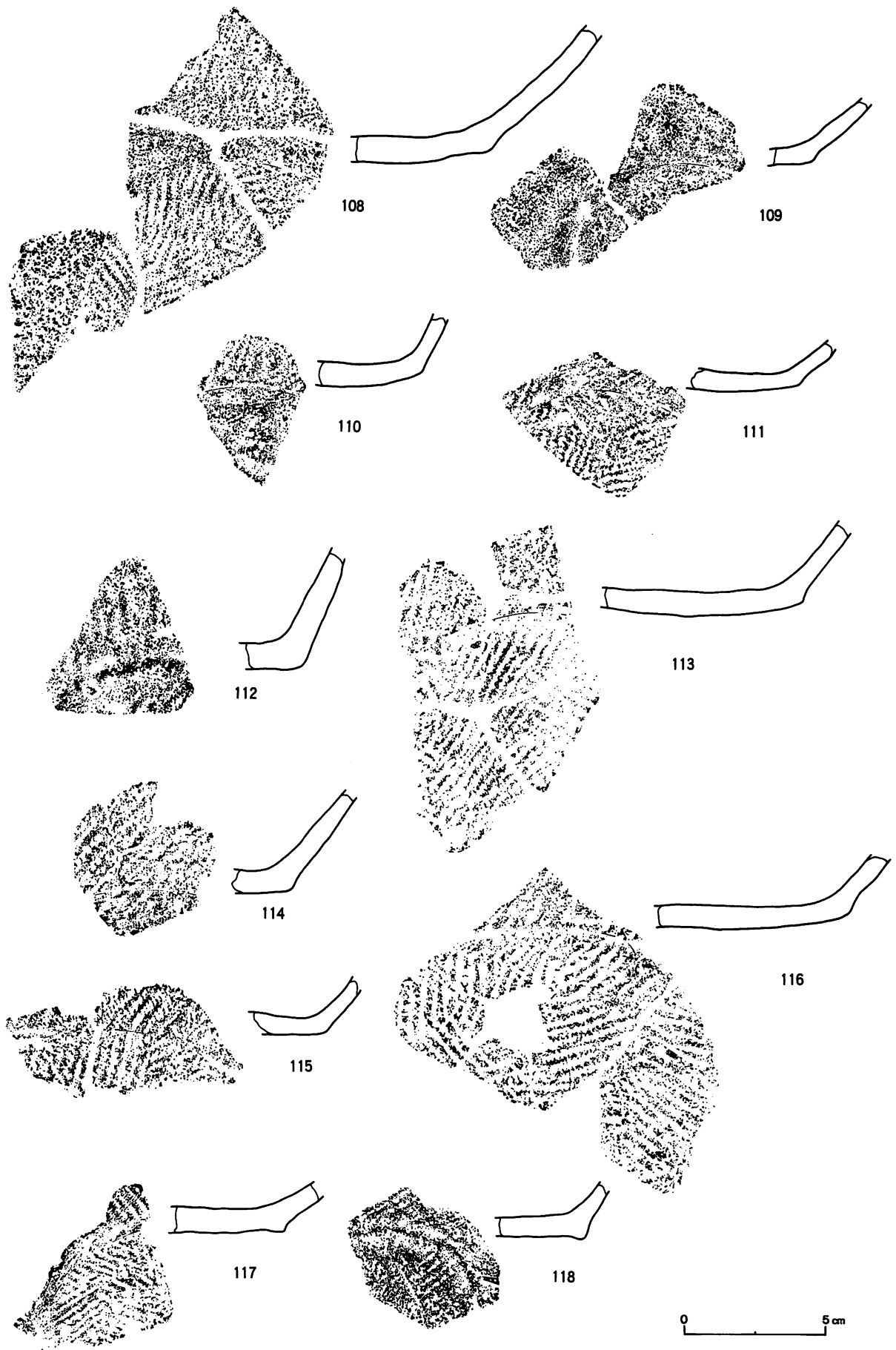
図IV-85 I・II層出土のV群土器(6)



図IV-86 I・II層出土のV群土器(7)



図IV-87 I・II層出土のV群土器(8)



図IV-88 I・II層出土のV群土器(9)

分布は、a類で沈線文を主体とするものが調査区東側に多く、縄線文を主体とするものが調査区北東側に多く見られた。b類の後北A式に相当するものは調査区南側から多く出土している。

a類（1～7、10～48、50～68）

a類は、これまでの滝里遺跡群の調査では、V群土器として報告されていたが、今回の調査で良好な資料が得られたので、VI群土器として分離した。

a類土器としたもののおもな特徴を簡単に述べる。器形は胴部がやや膨らむ深鉢形で口縁部に向かって直線的に開くものが多い。いずれも口唇部は外側に開くものである。器種は深鉢もしくは鉢である。底部は上げ底になる。口唇部の内側には縄圧痕が見られるものが多いが、刺突や縄文が施されるものもある。断面三角形の縦の貼り付けをもつものは、貼り付けの上端に数条の縄圧痕が加えられる。頂部にくぼみをもつ小さな突起を持つものがある。文様は縄線文のものと沈線文のものがみられる。縄線文は横位、斜位、縦位、弧状のものがみられ、組み合わせられることが多い。沈線文は平行沈線文が多いが、三角形や菱形を描くものもある。口縁部文様帯の直下は縄端圧痕が施されるものが多い。口縁部文様帯および口唇部直下は無文地になるものもある。体部の縄文は大半が縦位のものである。

これらの特徴を持つ土器の一部が、平成9年度の滝里4遺跡の調査で、土墳墓と考えられる「P-5」から興津式土器を伴って、一括で出土している。

復元土器（1～7）

1は上半部3分の1が残存している深鉢である。緩い波状の縄線文が施されている。頂部がくぼんだ突起が2個対になる。表面は剥落が激しい。2は大型の深鉢で、胴部がやや張り出し、口縁部が開く器形である。無文地に数条の平行沈線と縦位の沈線が施され、縦の短沈線も見られる。口唇部外側に刻みが加えられる。3は縄文のみのもの。胴部が膨らみ口縁が外反する。4は3～4単位の緩い波状口縁になると思われる。5は2個対になる突起を持ち、頂部には刻みが加えられている。口唇部断面は角形で、口唇上面の一部に刻みと縄文が加えられる。内面の一部に刺突列が見られる。6・7は上げ底の底部。6は底面にループ状の縄圧痕が施される。

拓本土器（10～48、50～68）

10～27は縄線文の見られるもの。10・11は同一個体で緩い山形の突起が付く。器形は胴部がやや張り出す深鉢形。口縁部には7条の縄線が横走り、施文単位は約6cmである。口唇上面には角柱状の棒状工具で刺突が加えられる。12は摩滅して良く分からないが、地文は撚糸文風である。胎土には砂粒を多く含む。13は2条の縄線が施され、口縁部文様帯は無文地である。15は1条の縄線が施され、胴部は縦位の縄文となる。16～24は横位と斜位の縄線文が組み合わせられるもの。16・17は同一個体で、地文は縦位の縄文であるが、口唇部直下は無文地である。18・19も同一個体で、胎土の粒子は細かく、焼成は非常に良い。一部剥落しているが、縦の貼り付けがあり、穿孔されている。内面の一部に縄文が見られる。20は1カ所に刺突が見られるが、これは器面を巡ると思われる。21は口唇内面に爪形文による刻みが加えられている。22は縄端圧痕で区画された文様帯内に斜位の1条の縄線文が施されている。23の断面は角形を呈し、口唇上面には縄文が見られ、口唇部外側端部の一部に爪形文と縄圧痕が加えられている。24・25は口縁部文様帯の直下に縄端圧痕が器面を巡る。25は小型の深鉢になると思われる。26・27は刺突文が見られるもので、26は口縁部に4条の縄線文が施され、その直下に2列の円形刺突が巡る。口唇上面にも円形刺突が加えられている。27は2条の縄線文の直下に半截竹管状工具で1列の刺突が施されている。

28～49は沈線文の見られるもの。28は摩滅してはっきりしないが、縦の貼り付けの上に縄圧痕が加えられており、突起の頂部には縄圧痕が加えられている。29は沈線で菱形を描くと思われ、口唇部直

下に縄線が1条加えられる。30～32は2と同一個体と思われる。33・34は同一個体である。緩い波状の口縁になり、口唇内面には縄文が見られる。最も高い波頂部には3条の縄圧痕が加えられている。口縁部は無文地に5条の沈線が横走し、文様帯の直下に縄端圧痕が器面を巡る。35は胴部がやや張り出す器形で、平行沈線文と鋸歯状沈線文が組み合わされる。体部の縄文は縦位である。36・37は波頂部にくぼみのある突起をもつものである。38は小型の深鉢になるとと思われる。口唇部直下に縄端圧痕が施される。39・40は口縁部に横位の貼付帯があるもの。39は貼付帯上に棒状工具で刺突が加えられ、貼付帯直上に縄端圧痕が見られる。40は貼付帯上に短い縦の沈線が刻まれる。

41～46は縄文のみのもの。41は大型の深鉢で胴部がやや張り出す器形である。口唇内面には縄圧痕が加えられている。44は口唇端部が外に折り返されている。45は波頂部にくぼみのある突起をもつもの。46は小型のもので、底部は上げ底である。47の口唇上面の縄圧痕の一部が強く押され深い刻みになっている。48は宇津内Ⅱa式に相当するもの。頂部にくぼみのある小さな突起が付く。

50～68は底部破片で上げ底である。50には縞縄文風の文様が見られる。51は無文のもの。52は底面に縄端圧痕が見られる。62は内面に細い沈線が見られる。63は刺突文が施される。64は底面が楕円形を呈しており、縄線文が施されている。65は縄端圧痕が巡る。66は方形もしくは菱形の底部になると思われる。底面には縄端圧痕と縄線文が施されている。67は底面全面に刺突文が見られる。68は底の厚い底部である。体部には縦位の縄文が見られる。

b類(8・9、49) 後北A式に相当するものと後北C₂-D式に相当するものがある。

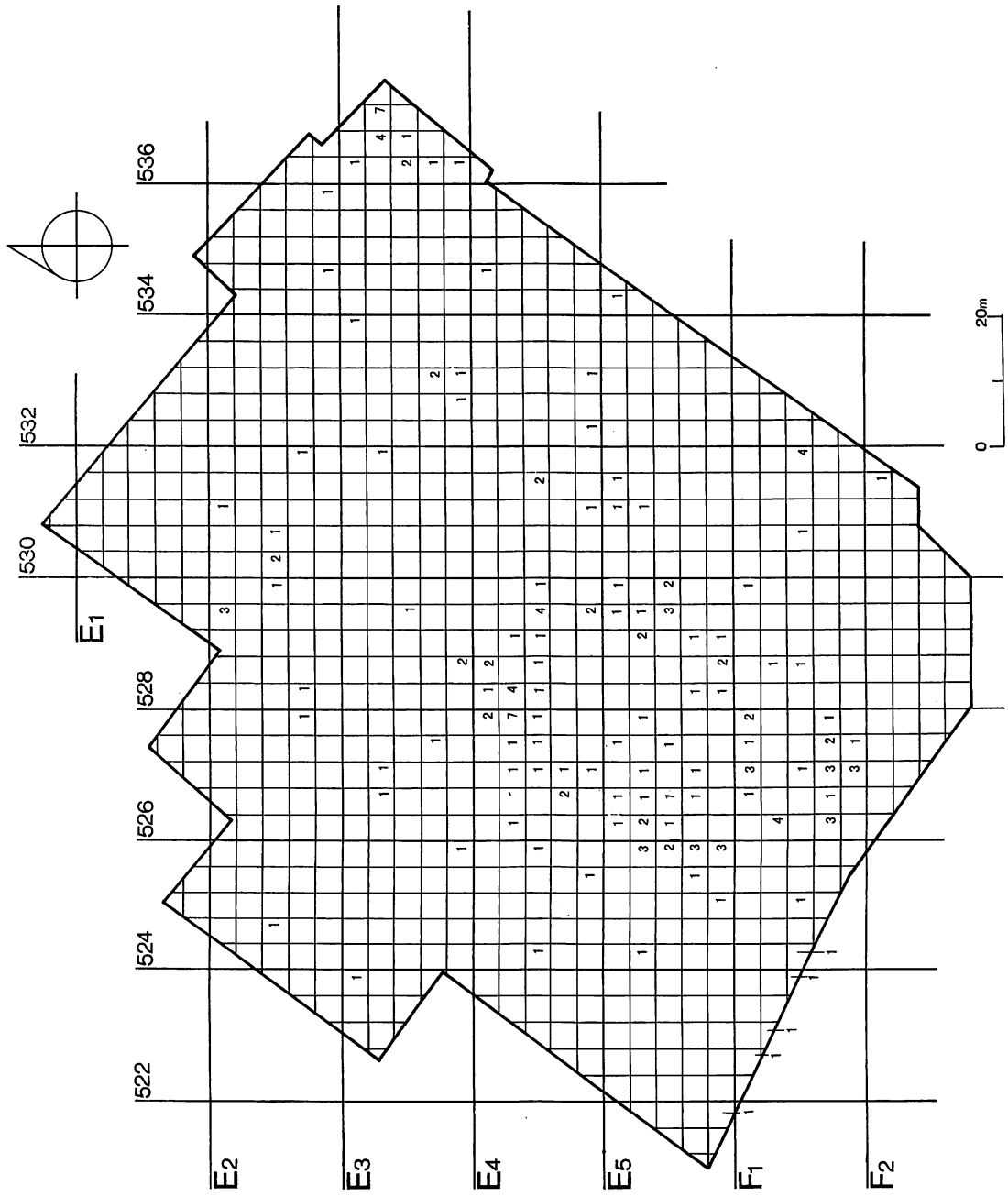
復元土器(8・9)

8・9は後北A式に相当するもの。8は胴部が膨らみ、口縁部が外反する器形で、口唇部に刻みが加えられる。三角形の列点文が3列器面を一周する。胴部上半は横位の縞縄文、胴部下半は縦位の縞縄文が施される。9は底部を欠損している。器表面の剥落が激しい。文様は胴部上半に横位の、下半に縦位の縞縄文が施されているのみである。

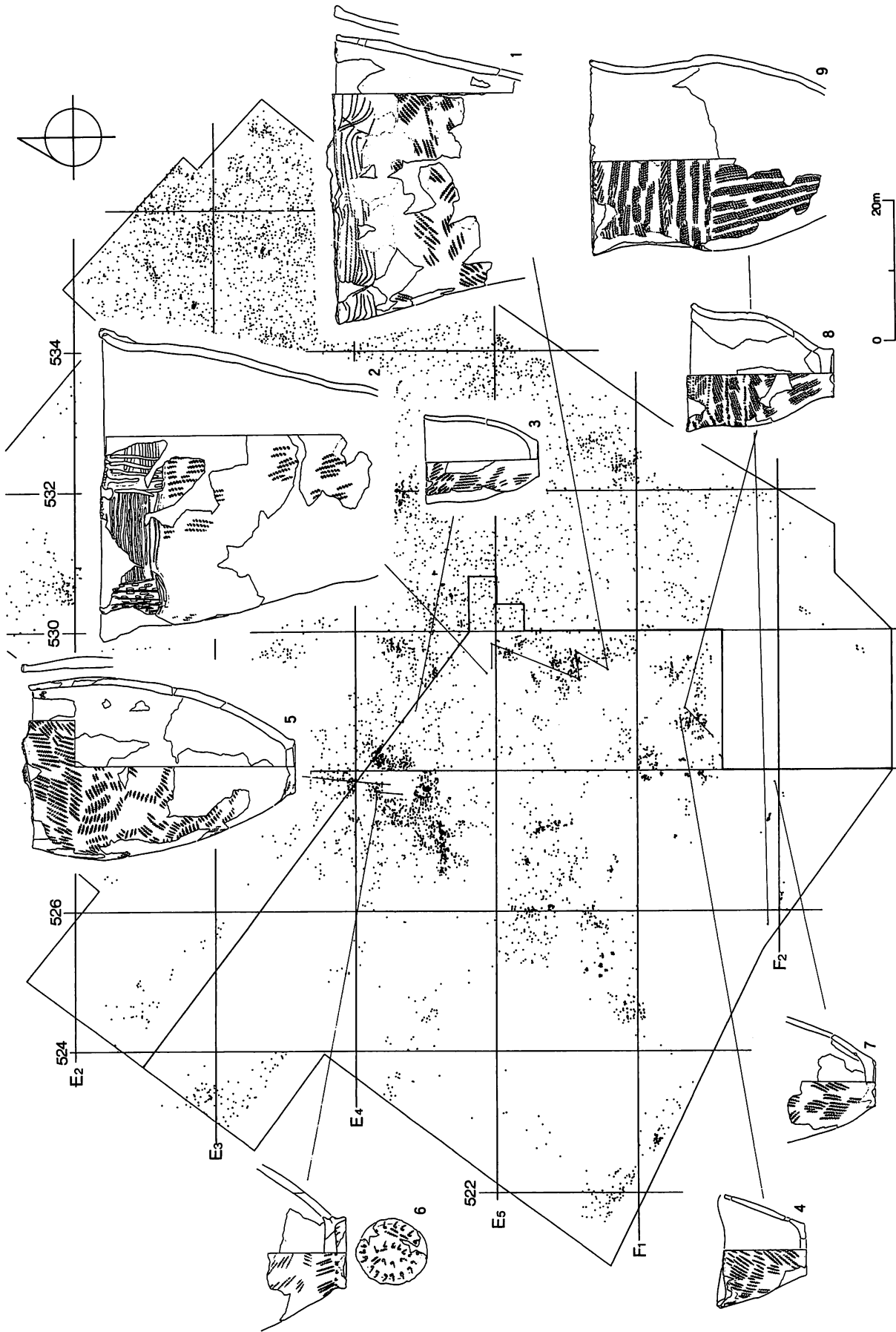
拓本土器(49)

49は後北C₂-D式に相当するもの。

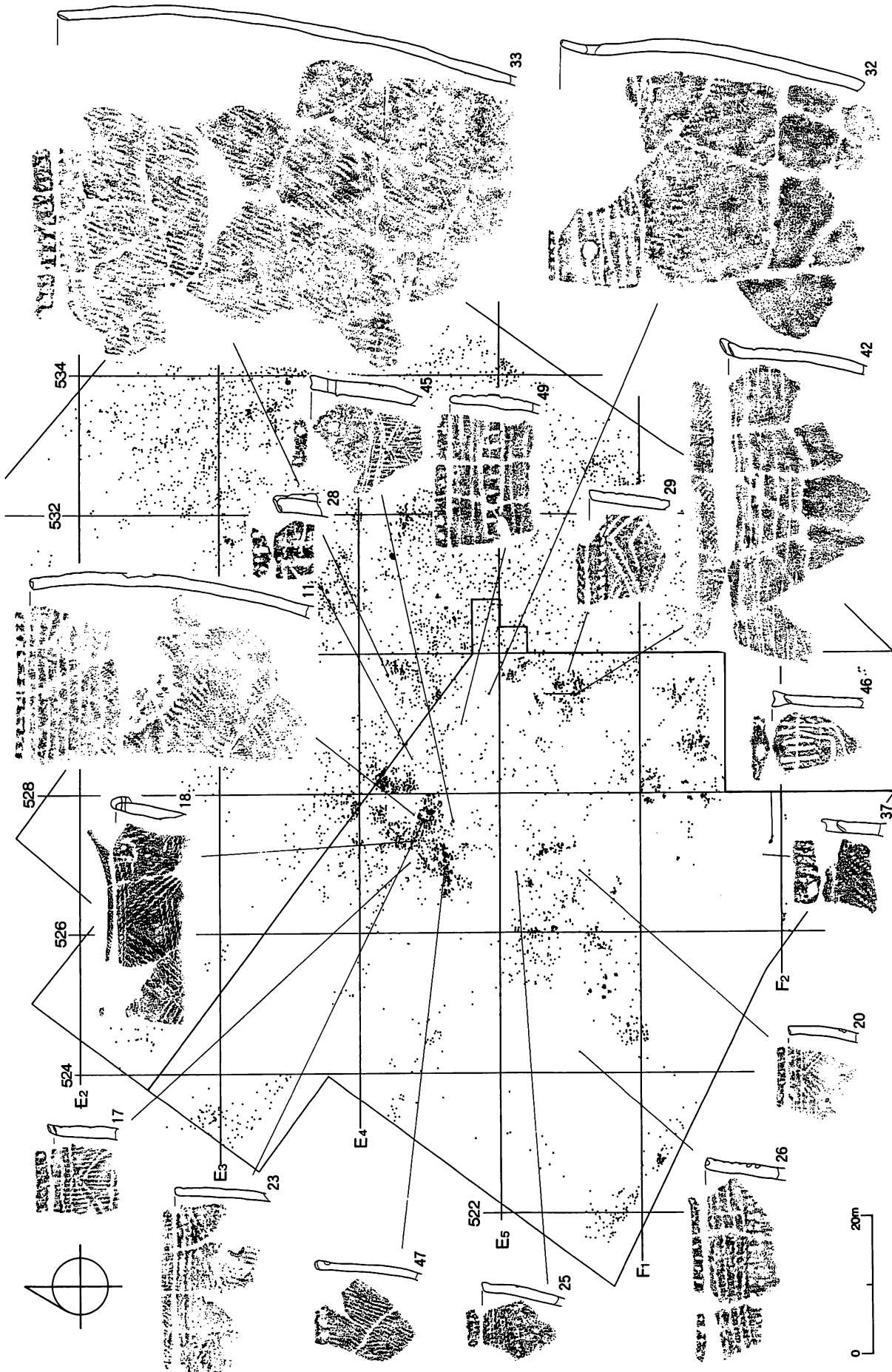
(村田 大)



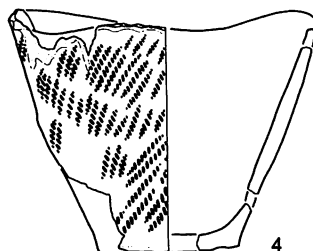
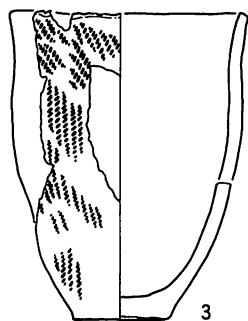
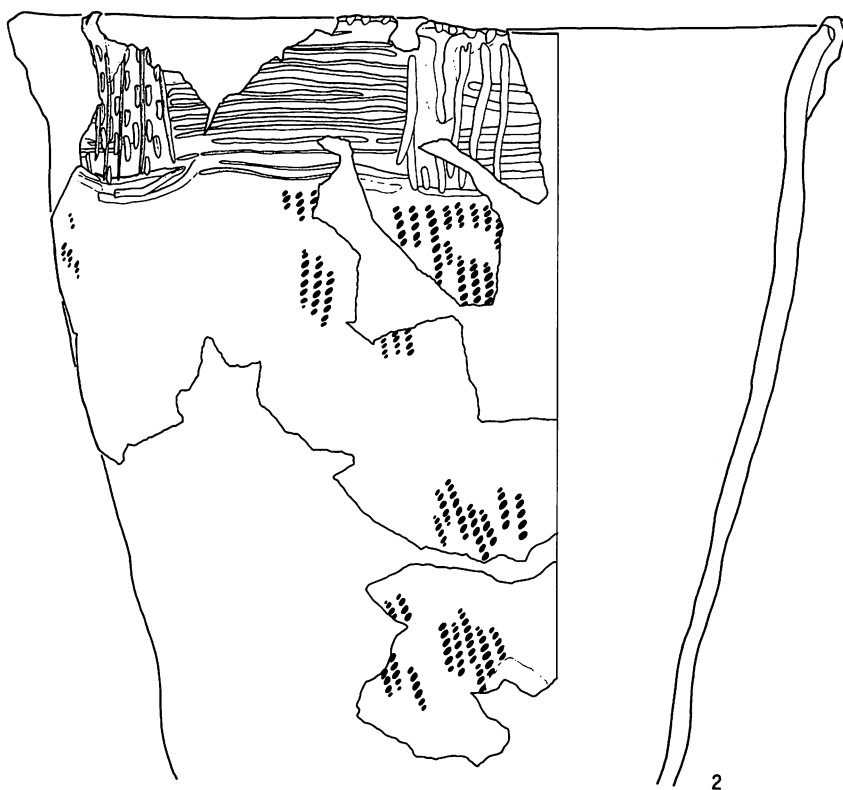
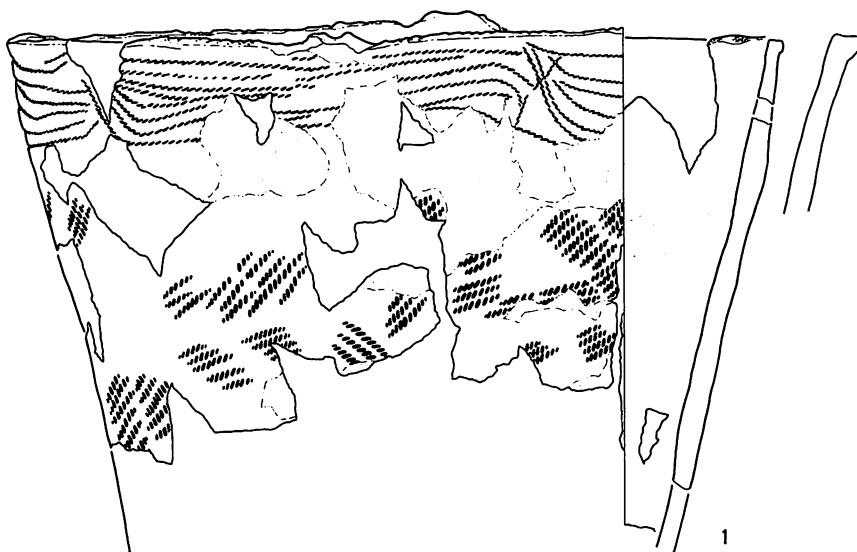
図IV-89 VI群土器発掘区別口縁部個体数



図IV—90 VI群土器の分布(1)

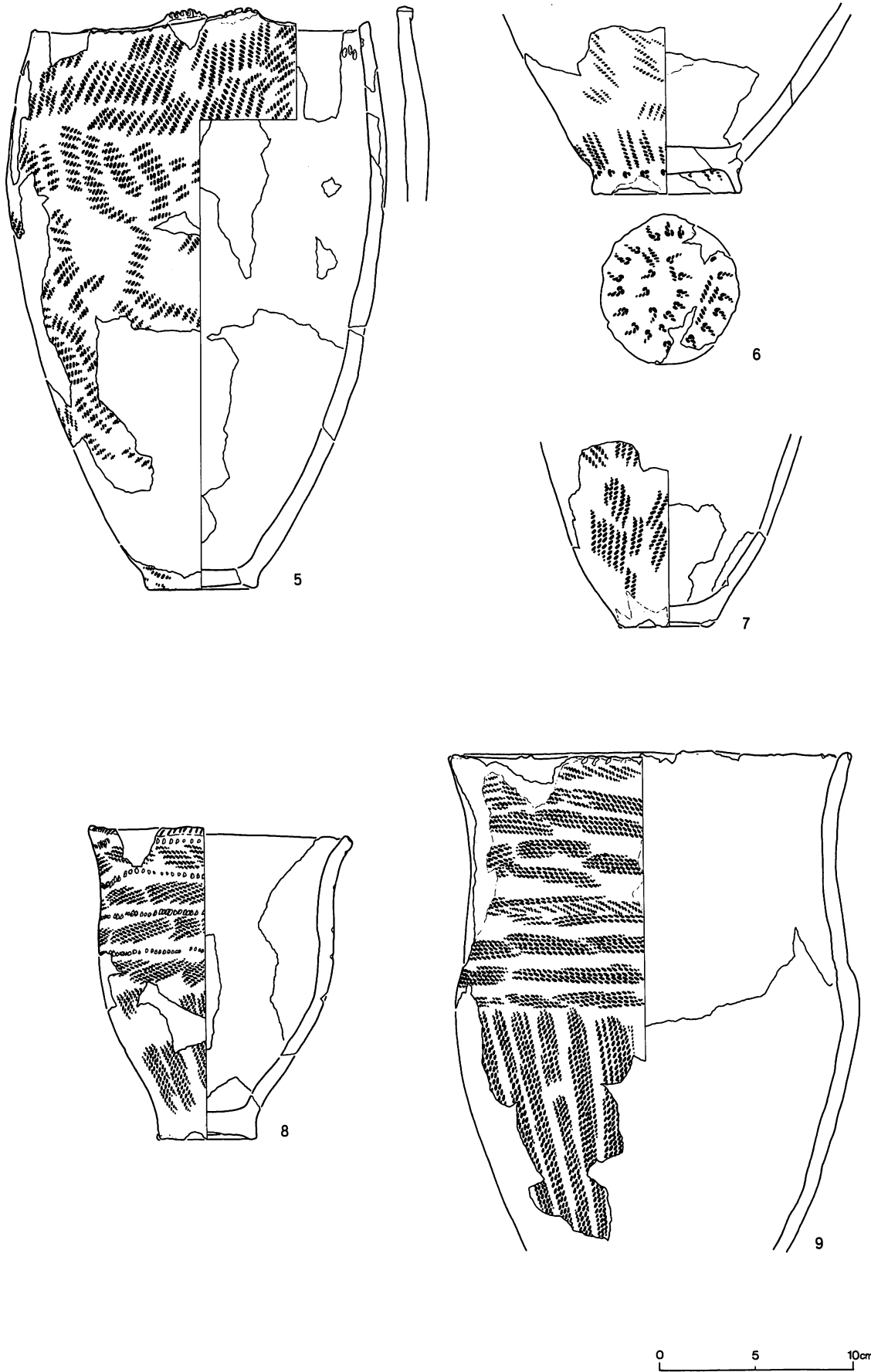


図IV-91 VI群土器の分布(2)

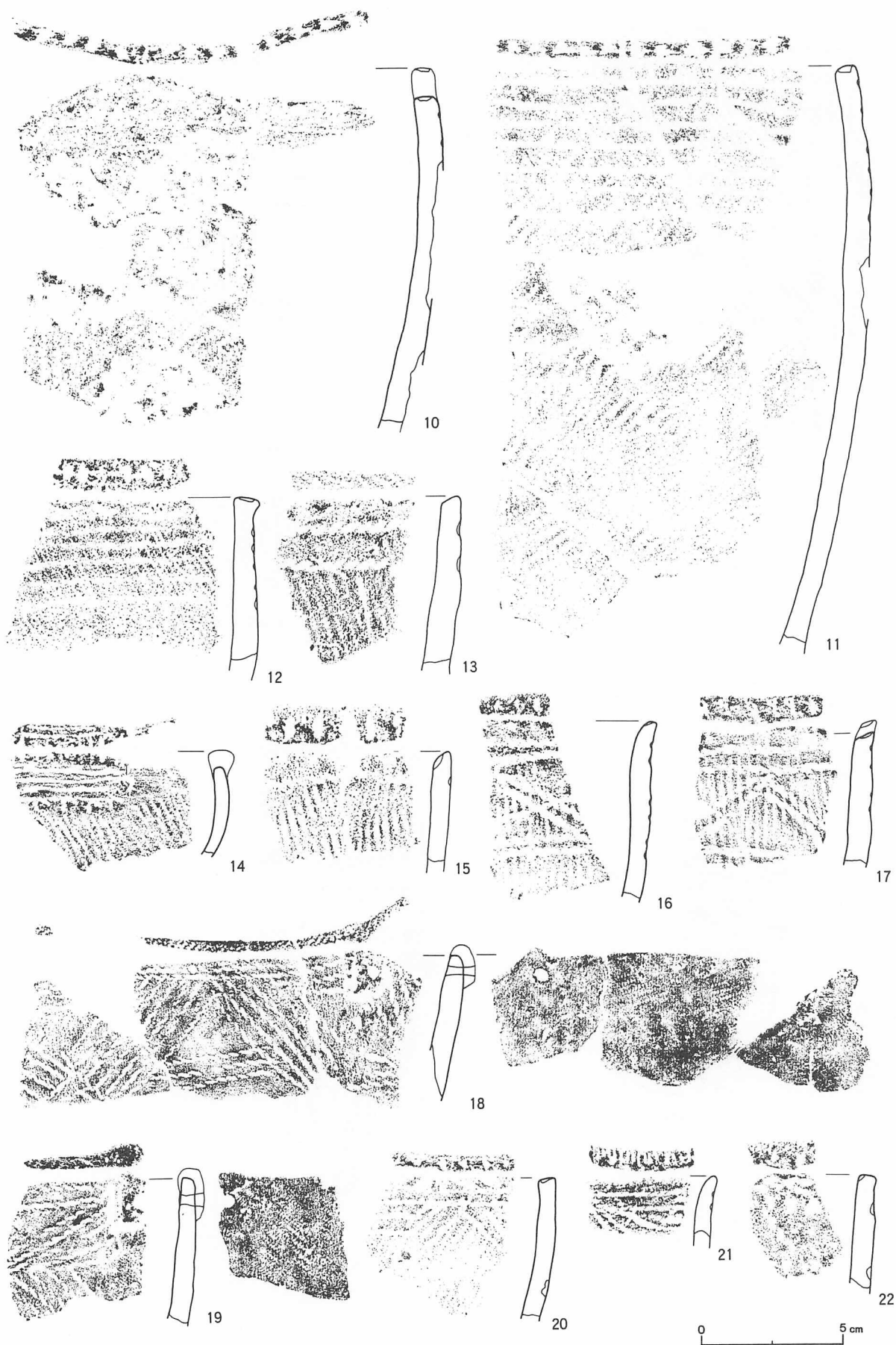


0 5 10cm

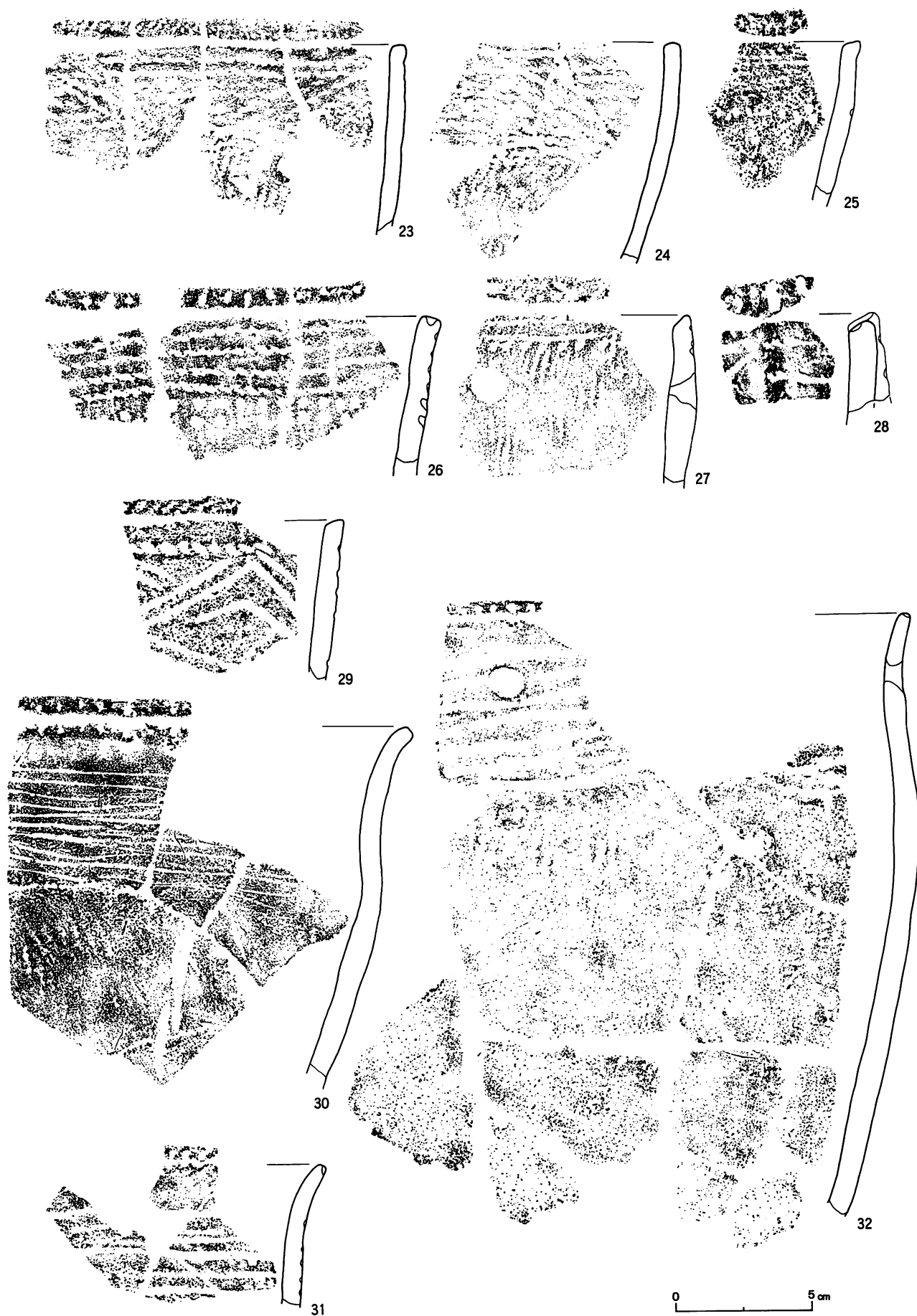
図IV-92 I・II層出土のVI群土器(1)



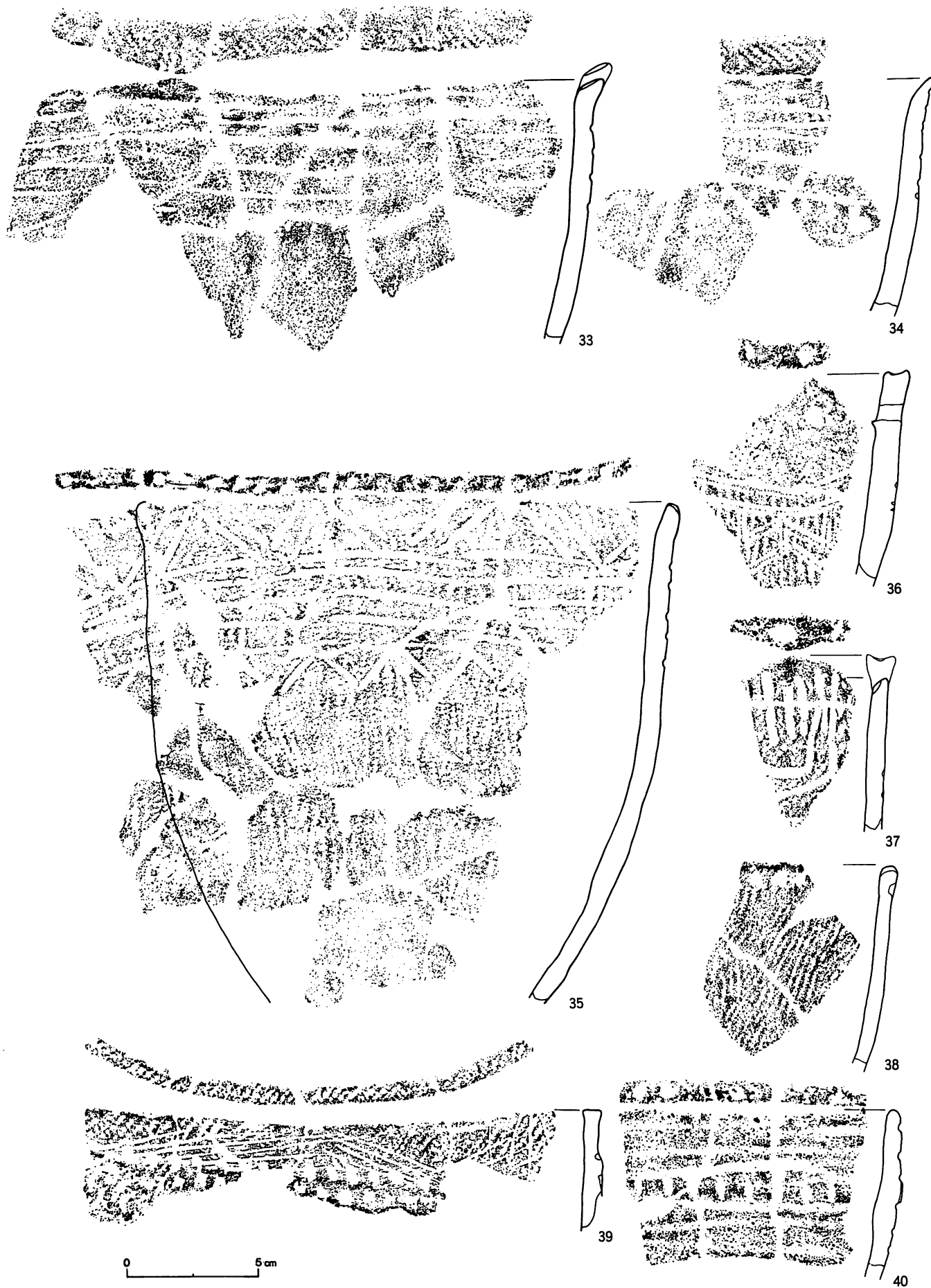
図IV-93 I・II層出土のVI群土器(2)



図IV-94 I・II層出土のVI群土器(3)



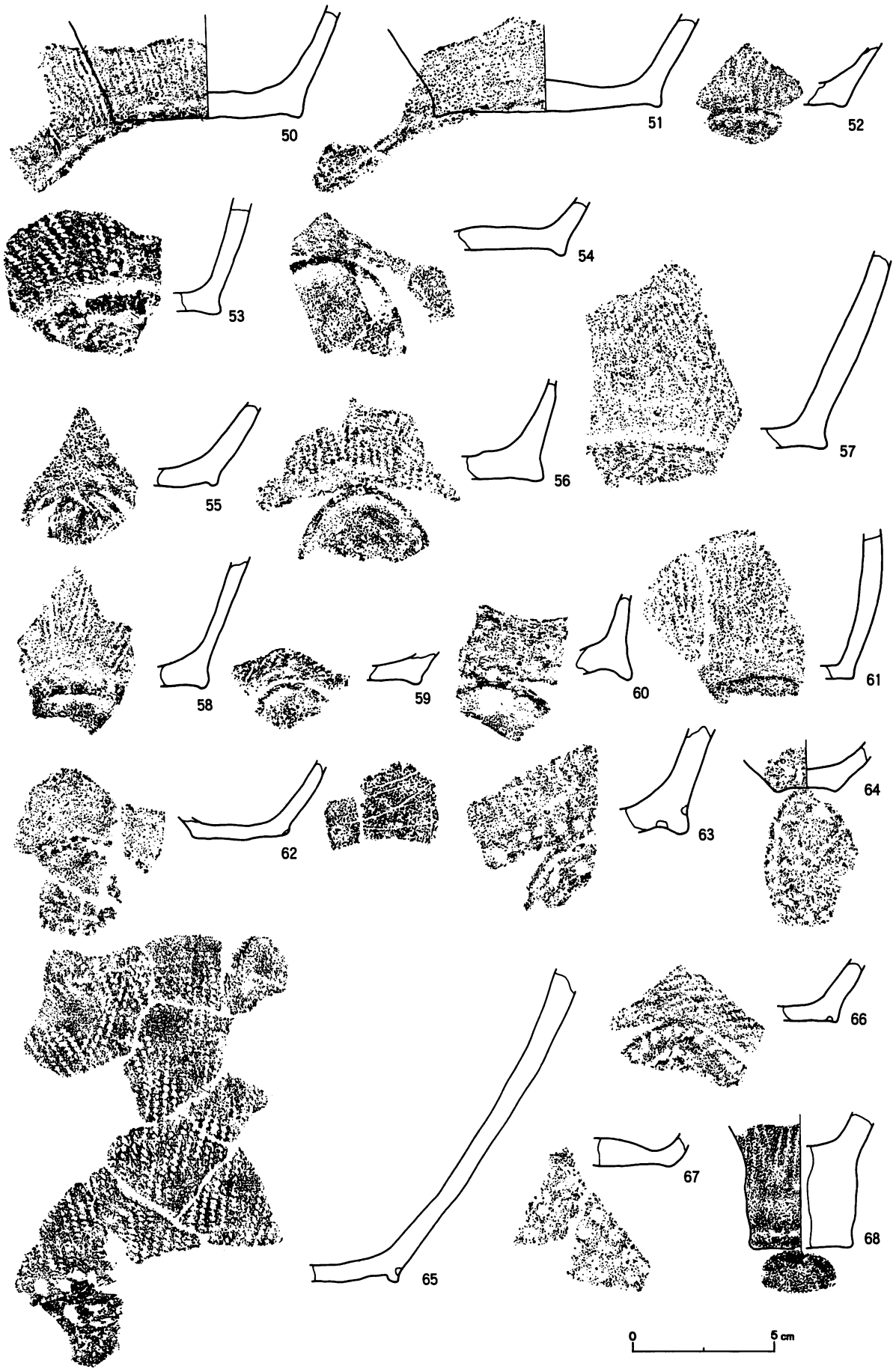
図IV-95 I・II層出土のVI群土器(4)



図IV-96 I・II層出土のVI群土器(5)



図IV-97 I・II層出土のVI群土器(6)



図IV-98 I・II層出土のVI群土器(7)

2) 石器等 (図IV-60・99~108・156~159、図版IV-60~68)

全部で33,787が出土した。内訳は剥片石器類1,453点、石斧関連370点、礫石器類349点、土・石製品18点、原石・石核等42点、剥片31,042点、礫・礫片523点である。しかし、各器種ともI層(攪乱層)出土の破損品が多かった。ここでは形態的な分類に即して、説明する。

石鏃(1~26)

402点出土した。1は柳葉形(IA3a)。主軸がねじれ、ややいびつである。最大幅を中央に持つ。2~14は三角形鏃で、2・3は平基(IA4a)、4~14は凹基(IA4b)。4と5は小型でII-B層の出土である。他は二等辺三角形の大型である。9と13は素材の厚みが不均一で、周縁に微細な剥離を加えただけの粗雑な調整加工である。15~20は平基の有茎石鏃(IA5a)である。15~18は茎部が逆三角形である。16は表面の光沢が鈍い。19・20は茎部が棒状であり、かえしが中心近くに位置する。21は木葉形の尖基(IA7a)、22~26は円基(IA7b)。全て黒曜石製。

石槍または両面加工のナイフ(27~41)

96点出土した。27~35は有茎(IB1)。27~31は茎部が幅広のため、かえしが不明瞭になっているものである。茎部下端がつまみ状に作出されている等、定型的な特徴を持つ。32~34は茎部が棒状でかえしが明瞭なものである。35は茎部が棒状でかえしが明瞭であるが、茎部下端はつまみ状に作出されている。27~31、35についてはナイフとして使用された可能性がある。36~39は菱形(IB2)。36は裏面に一次剥離痕を残す。38は先端が鋭利でない。またわずかではあるが、下端をつまみ状に作り出している。39は厚みのある剥片を素材にして両面調整を行ったものである。上端と下端を欠く。40は木葉形(IB3)。41は上下ほぼ対称に2カ所かえしがある。両頭石器と称されるもの。縄文前期~中期の包含層であるII-B層より出土した。40が頁岩製、他は全て黒曜石製。

石錐(42~44)

19点出土した。42・43は全体に二次加工が施されたもの(IIA2)。中心が肉厚であり形態が類似する。44は剥片の一部に機能部を作出したもの(IIA3)。43が頁岩製、他は黒曜石製である。

つまみ付ナイフ(44~49)

76点出土した。44~48は縦形で片面加工のもの(IIIA1)。いずれも表面に最初の剥離面を残しており、周縁に調整剥離を施したものである。48は大型で長さが9.5cmある。全て頁岩製。49は縦形で両面加工のもの(IIIA2)。小型で長さは5.5cm。黒曜石製である。

ナイフ類(50~59)

202点出土した。50~52は幅広で両側縁が並行な柄を持つもの(IIIB1)。50はやや厚みのある素材の全体に調整剥離が施されたもの。51は薄い剥片の縁辺に調整剥離を施し刃部を作出したもの。52は丁寧な調整剥離で全体が作出されている。刃部幅が狭いため、刃部の再調整が繰り返し行われた可能性がある。53~59は柄を持たないもの(IIIB2)。53~56は素材の形状を生かしながら、そのまま両面加工で刃部を作出したもの。56はややねじれている。57・58はいずれも最大幅をほぼ中央に持つ定型的な木葉形である。特に57はE₅-526-13のII層より出土したが、隣接する調査区E₅-526-8のII層より、類似の形態のナイフが7点集中して出土(図IV-109)しているため、元々それらのナイフと一組であった可能性がある。59は上端を欠損する。50~58は黒曜石製。59は玄武岩製。

スクレイパー(60~82)

457点出土した。60~63は円形(IIIC2)である。60・62は打面を上端に残し、それ以外の縁辺を比較的急角度の刃部が巡るものである。61・63は薄い刃部が全周する。62と63は表面に原石面を残している。64は下端に急角度の刃部を作出したもの(IIIC3)。片面加工であるが、素材打ち欠き時に

生じた打瘤は除去されている。65～70は剥片の側縁に刃部を持つもの(ⅢC4)。このうち65～68は両側縁に刃部がある。66～68については側縁が内湾気味であるが、これは刃部の再調整が繰り返された結果と思われる。70は棒状原石を素材としたもの。右側縁に刃部が作出されている。71～74は下端が尖るもの(ⅢC5)。72・73は素材打ち剥ぎ時の打面を残している。73は下端が鋭利である。75～81は素材の形状をそのまま利用したもの(ⅢC7)。77～79は原石面を大きく残していることから、小さな素材に加工を加えたものとみられる。69は玄武岩、80は頁岩、81は珪質頁岩、他は黒曜石製。

石製品 (83～86)

83は中心に左右対照のえぐりを持つ。下端は欠損したと思われるが、破損面は微細な調整剥離で再加工されている。84は縦方向に破損した凹基三角形石鏃の破損面を、微細な調整剥離で再加工したものであると思われる。いずれも用途は不明である。黒曜石製。85と86は玉類である。86は表裏面を磨いて、両側から穿孔した片岩製の玉。87は勾玉様の形をした玉。側縁に2条の刻みがある。表裏面にも何条かの浅い刻みがみられる。途中で中断したものであろう。孔は楕円形をなす。その内面には穿孔時の痕跡が観察できるが、少なくとも4回、円形工具による穿孔を繰り返したものとみられる。楕円形に仕上げた作業過程が判別できる。カンラン岩製。

石斧 (87～100)

145点出土した。87～94は撥形(ⅣA1)。いずれも全面に研磨が施されている。87・88は小型、89～93は中型、94は大型である。87・88は長径に対して刃部幅が広い。94は刃部の大半を欠損する。87～89・93は片刃。他は両刃であるが、片刃気味のものが多し。95～100は短冊形(ⅣA2)。95は刃部を両端に持つ。上の刃部幅は狭い。下の刃部周辺は剥離・摩滅が顕著である。全面には研磨による擦痕が見られる。96は板状に剥離した片岩を研磨整形したもので、表裏ともに面が平坦。97は左側縁に割れ面を残す。全面に研磨が施され、特に縦方向に入念な研磨が加えられた刃部は、鋭い縁辺に仕上がっている。98は両側縁に打ち欠き調整痕がみられる。99は側面観が反り身である。全体に研磨が施されているが、側縁には敲打整形痕が残っている。100は主軸に対し、刃部が右にそれている。側縁に打ち欠き整形の痕が残っている。87・95・99が泥岩製、他は全て片岩製である。

石のみ (101・102)

12点出土した。101は薄身。102は棒状で厚みがあるもので、全面に研磨調整が施される。刃部は両刃の円刃。縦方向の研磨によって縁辺が鋭利に仕上げられている。ともに片岩製。

たたき石 (103～111)

84点出土した。103は長軸の両端に使用痕があるもの(ⅤA1)。一部の側縁にも微弱な敲打痕が観察されるが、これは転石作用によって生じた可能性もある。104は扁平礫の周縁部を敲打したもの(ⅤA2)。一部を欠損している。105・106は扁平礫の両面に敲打痕がみられるもの(ⅤA3)。105は角礫を素材として、表面の1カ所に敲打による明瞭な凹みが観察されるもの。106は両面に敲打による凹みが観察されるもの。敲打による凹みは表面に1カ所、裏面に2カ所、計3カ所ある。107・108は亜円礫を素材としたもの(ⅤA4)。いずれも使用痕が礫表面に不規則にみられるものである。109～111は今後の分類を必要とするもの(ⅤA5)。109は棒状礫の両端と表裏面に敲打痕がみられるもの。被熱による変色が器表面上端に生じている。110は礫の表裏面に敲打使用による凹みが観察されるもの。側縁の一部と下端にも微弱な敲打痕がある。また、右側縁には打ち欠きによる両面調整の剥離痕がある。打ち欠きの縁辺は敲打で潰されているが、意図は定かでない。これについてはすり石の未成品をたたき石に転用した可能性がある。111は表裏面と側縁の一部に浅い敲打痕があるもの。104はトロニウム岩製、107は安山岩製、他は全て砂岩製。

すり石 (112~123)

50点出土した。112・113は断面三角形の礫を素材としたもの(VIA 1)で、すり面は一縁辺のみである。112は打ち欠き調整による刃縁の剥離痕が、ほとんど残っていないため、相当使用したことが推測される。113はすり面の幅がほぼ2.0cmで一定している。両端に敲打痕がある。また、裏面が平滑であるため、素材の形状を調整するために裏面全体が研磨された可能性がある。114は扁平礫に打ち欠き調整を施し、一側縁をすり面としたもの(VIA 2)。器表面に被熱による変色がみられる。115~123は北海道式石冠(VIA 4)。いずれも打ち欠きと敲打によって全体を整形している。116・117・120・121は握部以外の部位に研磨調整を加え、器面を平滑に仕上げている。119は使用面が平滑になっていないもの。120は調整敲打と打ち欠き痕が使用面に残っているもの。ともに使用しない段階で廃棄された可能性がある。121は使用面の中央に敲打調整痕が残り、すり面は両縁辺で角度が異なる。122は一部を欠損する。123は扁平である。119がトロニウム岩製、他は全て砂岩製。

砥石 (124~129)

16点出土した。124~126は板状礫を素材とし(VII B 2)、その両面を使用した砥石である。使用面の重複によって凹みが形成され、その凹みには細かい擦痕が残っている。124・126は使用面を平坦に調整した際の敲打痕が一部に残る。126は側縁の一部も使用している。127~129は今後の分類を必要とするもの(VII B 4)。127は大きな砥石の一部破片ではないかと思われる。表裏ともに使用によって凹みを形成、部分的に被熱による変色もある。128は使用面が皿状の凹みを呈する。裏側が剥離によって安定性を欠く船底状になっているため、下部を地面に埋め込み、固定的に使用した可能性がある。129は大型。打ち欠きにより全体を整形し、敲打で使用面を調整している。表裏両面を使用。使用面には細かい溝と無数の擦痕がある。全て砂岩製。特に124は粒子の細かい砂岩である。

加工のある礫 (130) (X B)

扁平礫の周縁を両面調整で打ち欠き、全面を敲打したものである。用途は不明。石質はカンラン岩と思われるが、風化が著しく定かではない。

石皿 (131~133) (VI B 2)

12点が出土。いずれも重さ15kg以上の大きな礫を素材とし、敲打によって使用面を平坦に調整したもの。131は側縁を使用面にしている。下部に安定性がないため、地面に埋め込み、固定的に使用したと思われる。使用面に楔を打ち込んだような刻み穴がいくつかある。132は使用面が円形に浅く凹んだもの。周縁を打ち欠きで調整している。136は表面に2つの使用面を持つ。どちらにも楔を打ち込んだような刻み穴がいくつかある。一部に被熱による変色が見られる。全てトロニウム岩製。

原石 (134~136) (IX A 2)

棒状原石である。136は調整剥離が施されており、スクレイパーの未成品であるかもしれない。

土製品 (137・138)

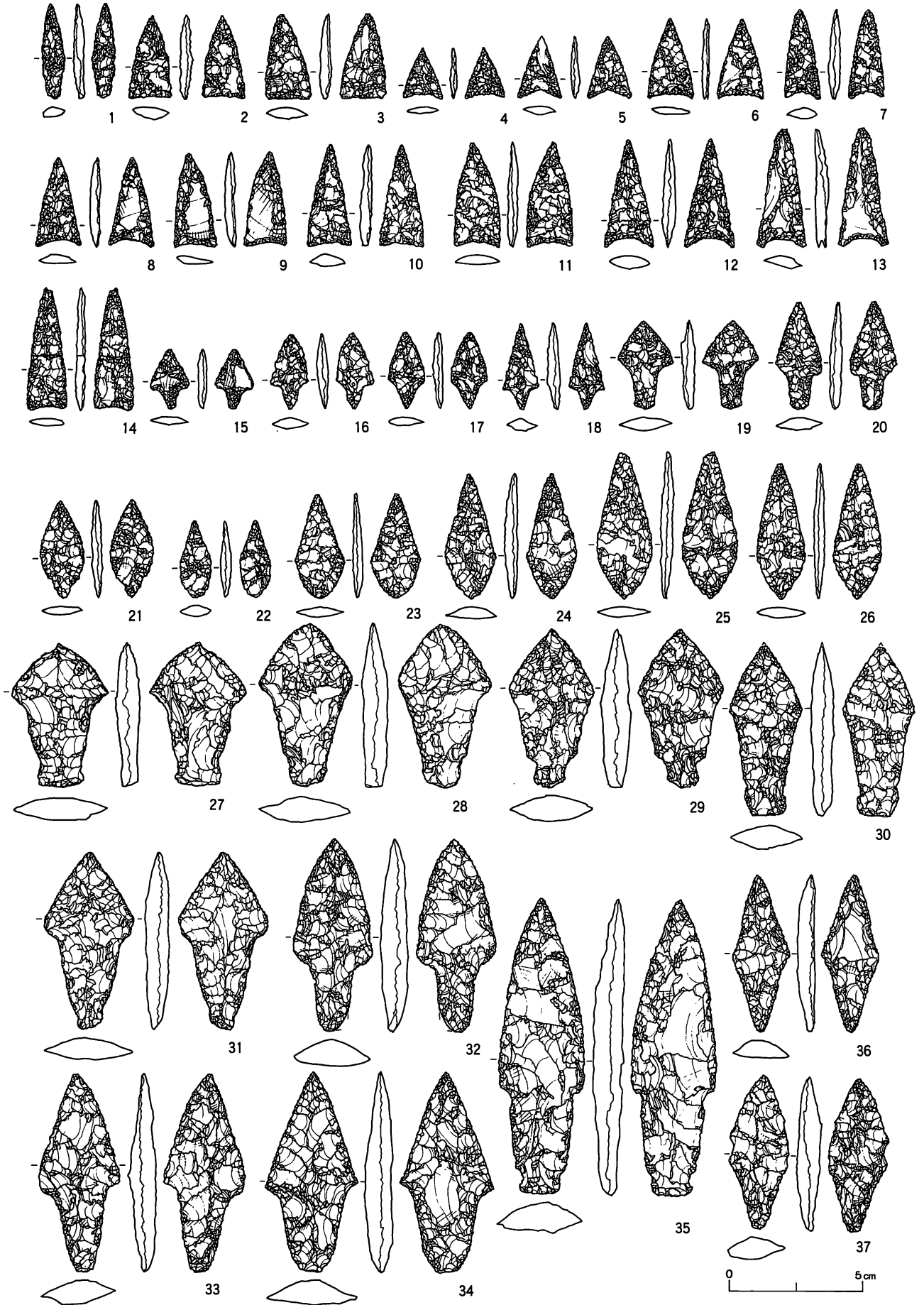
137は土玉の一部かと思われる。欠損しているが、径2mmほどの穿孔がなされ、内部が空洞になっていたことが推測される。138は滑車形の耳栓である。両面とも上げ底状に作出され、沈線と刺突で施文されている。半分近くを欠損し、裏面のほとんどが剥離している。

原石 (139) (IX A 2)

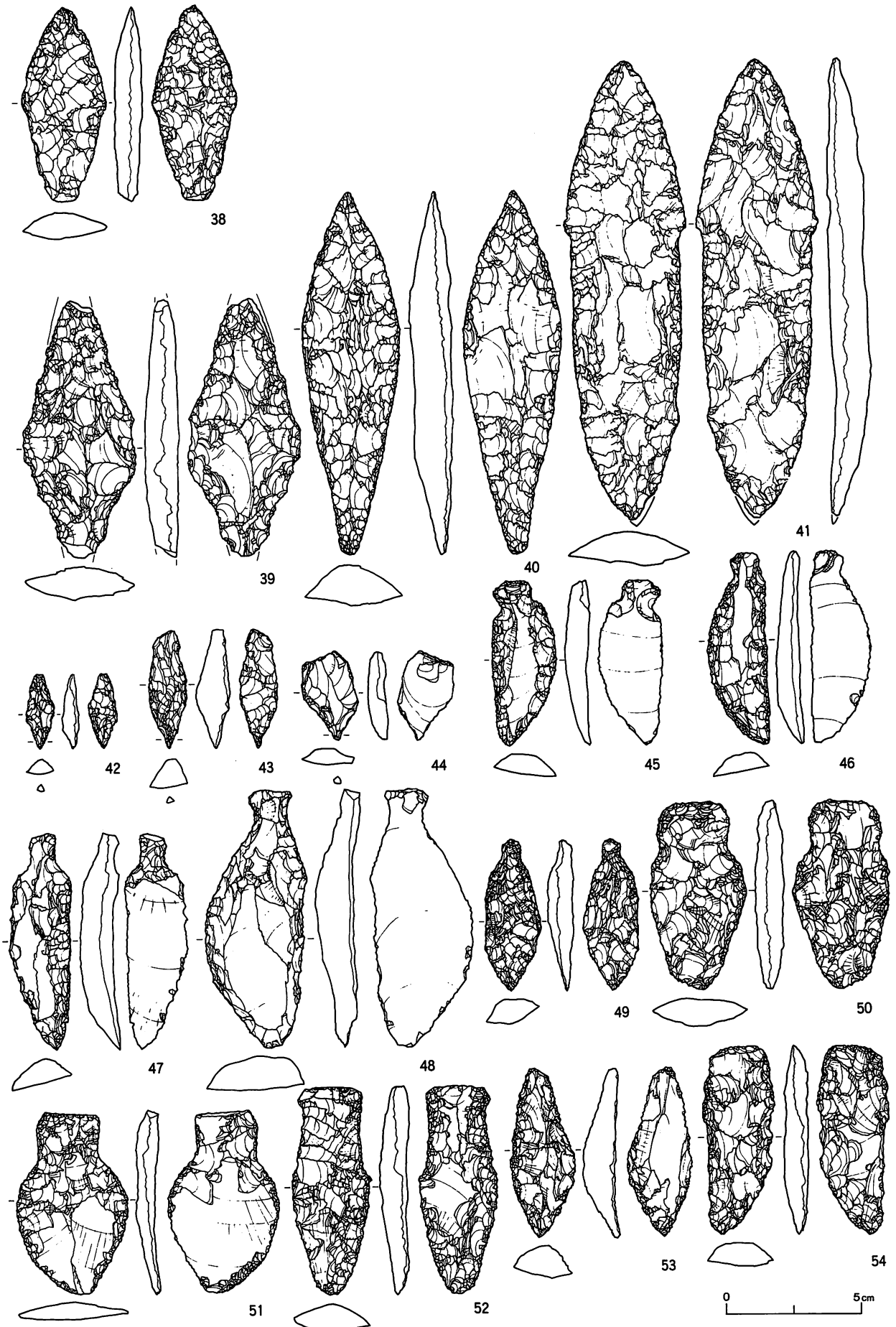
メノウの原石である。径2mmの人為的な穿孔痕が6カ所あり、うち1カ所には穿孔具と思われるものが、鋌を打ち込んだような状態で挟まってある。おそらく穿孔を試みた際に欠損したものであろう。ピンセット等で取り出しを試みたが、不可能であった。また、他には原石を貫通した孔も1カ所ある。

(影浦 覚)

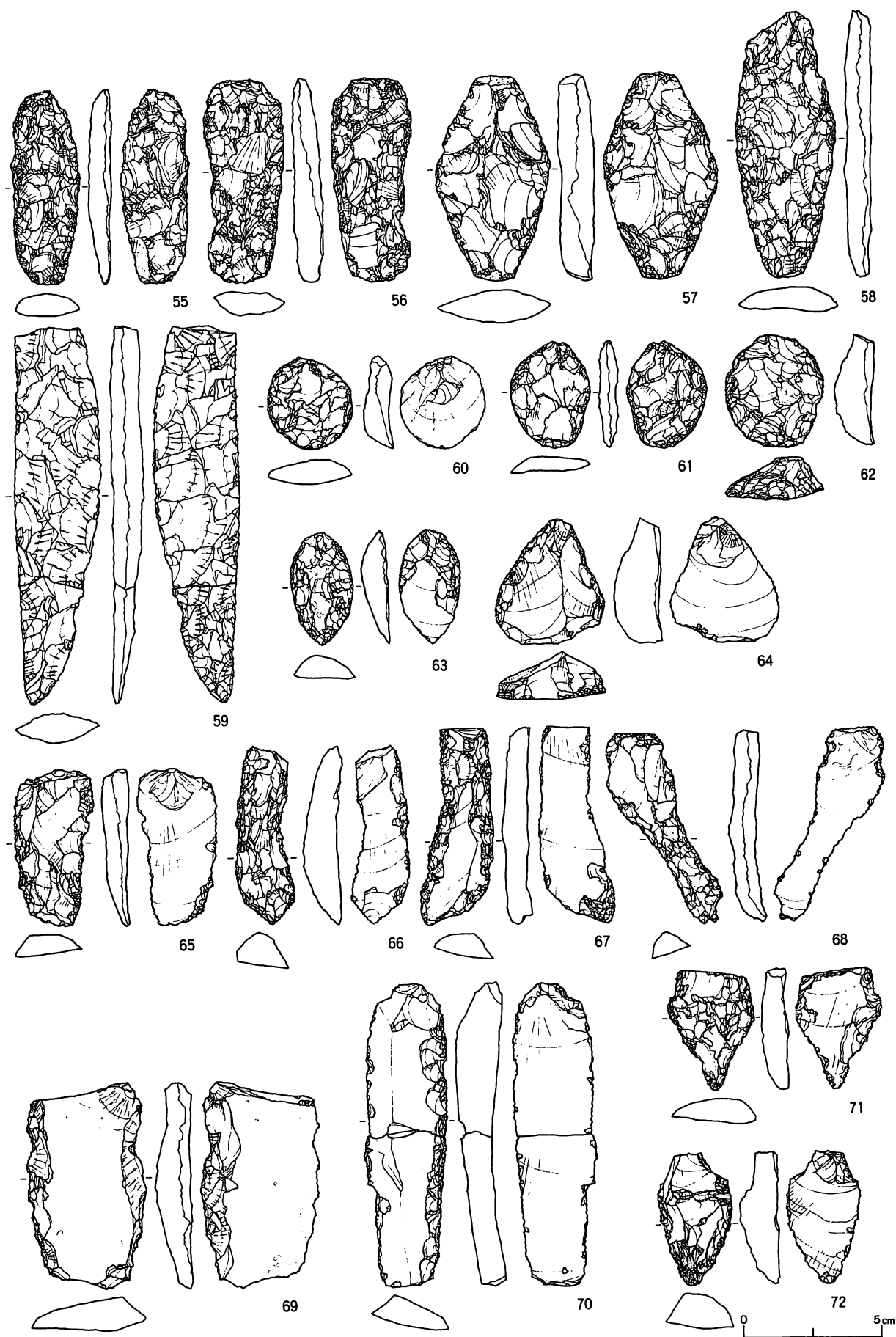
4 包含層の遺物



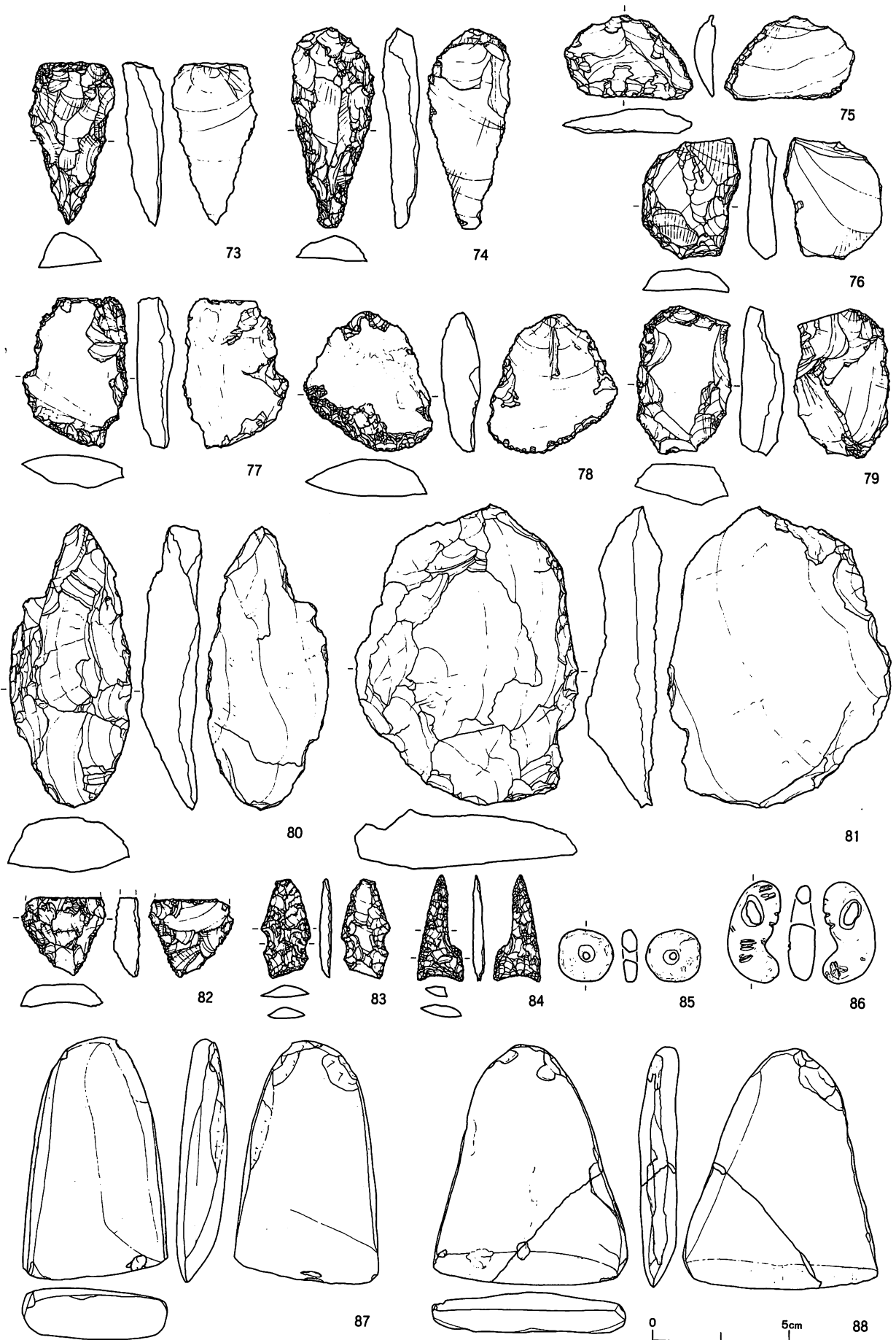
図IV-99 包含層出土の石器(1)



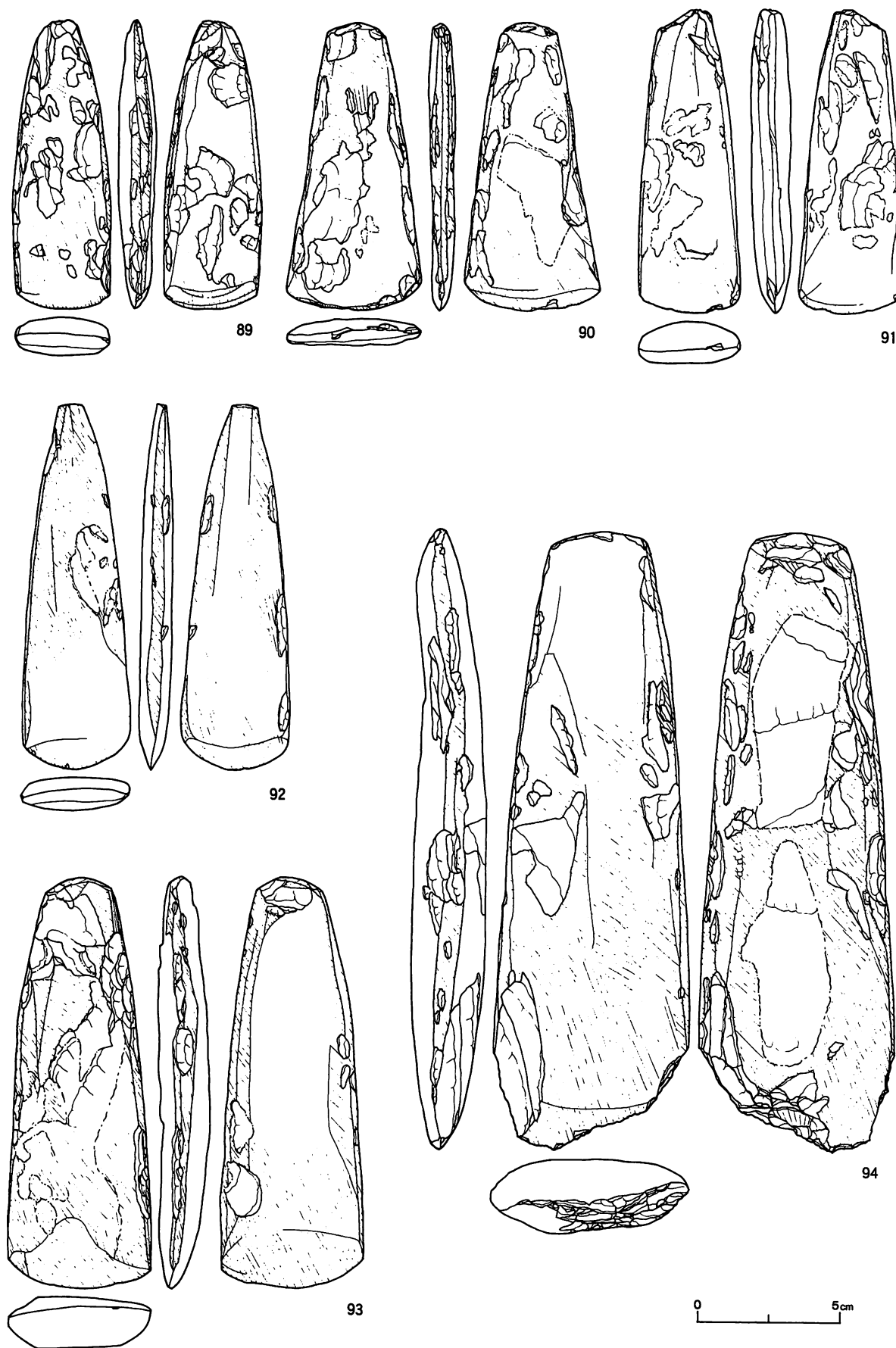
図IV-100 包含層出土の石器(2)



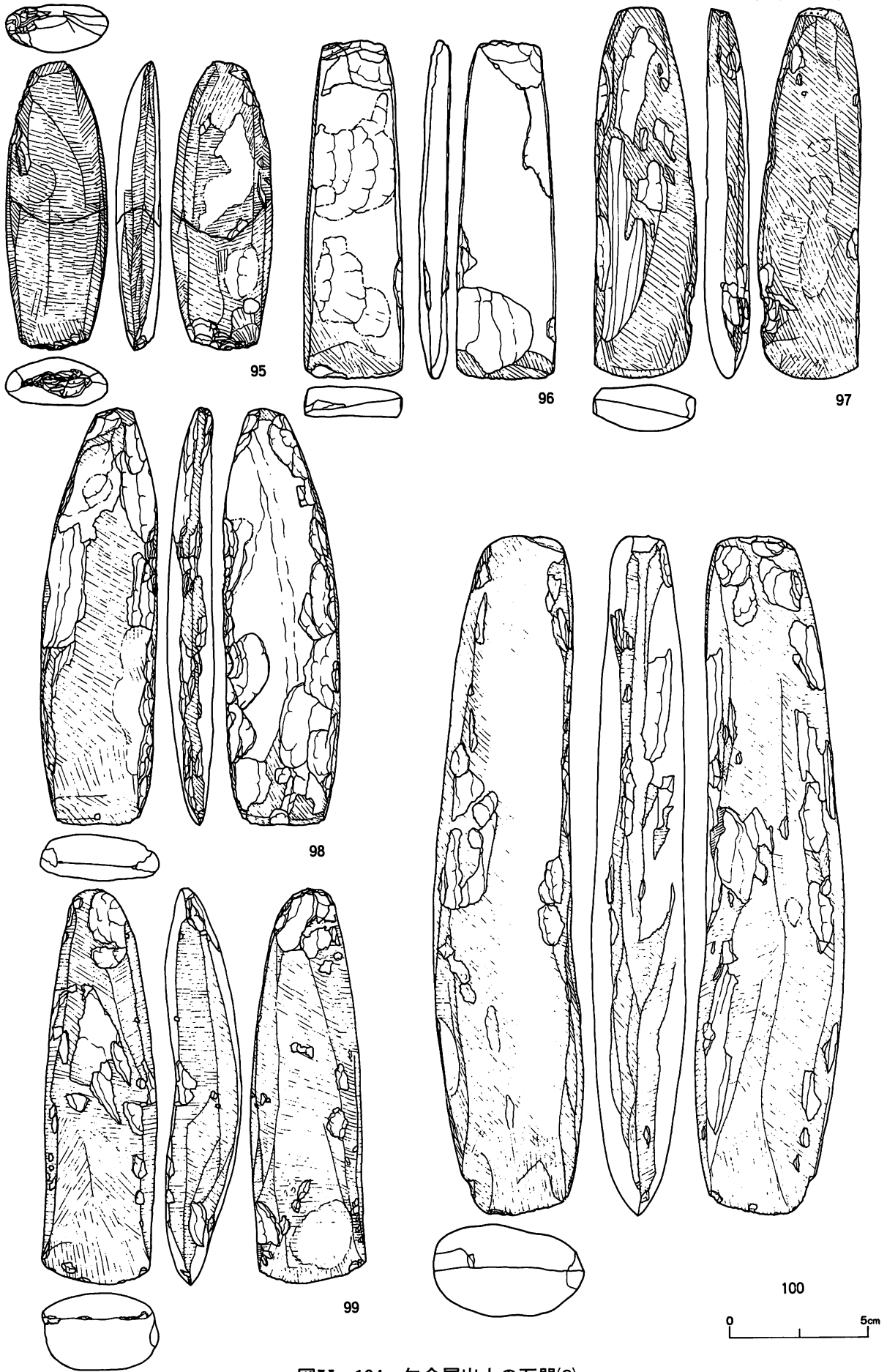
図IV-101 包含層出土の石器(3)



図IV-102 包含層出土の石器等(4)

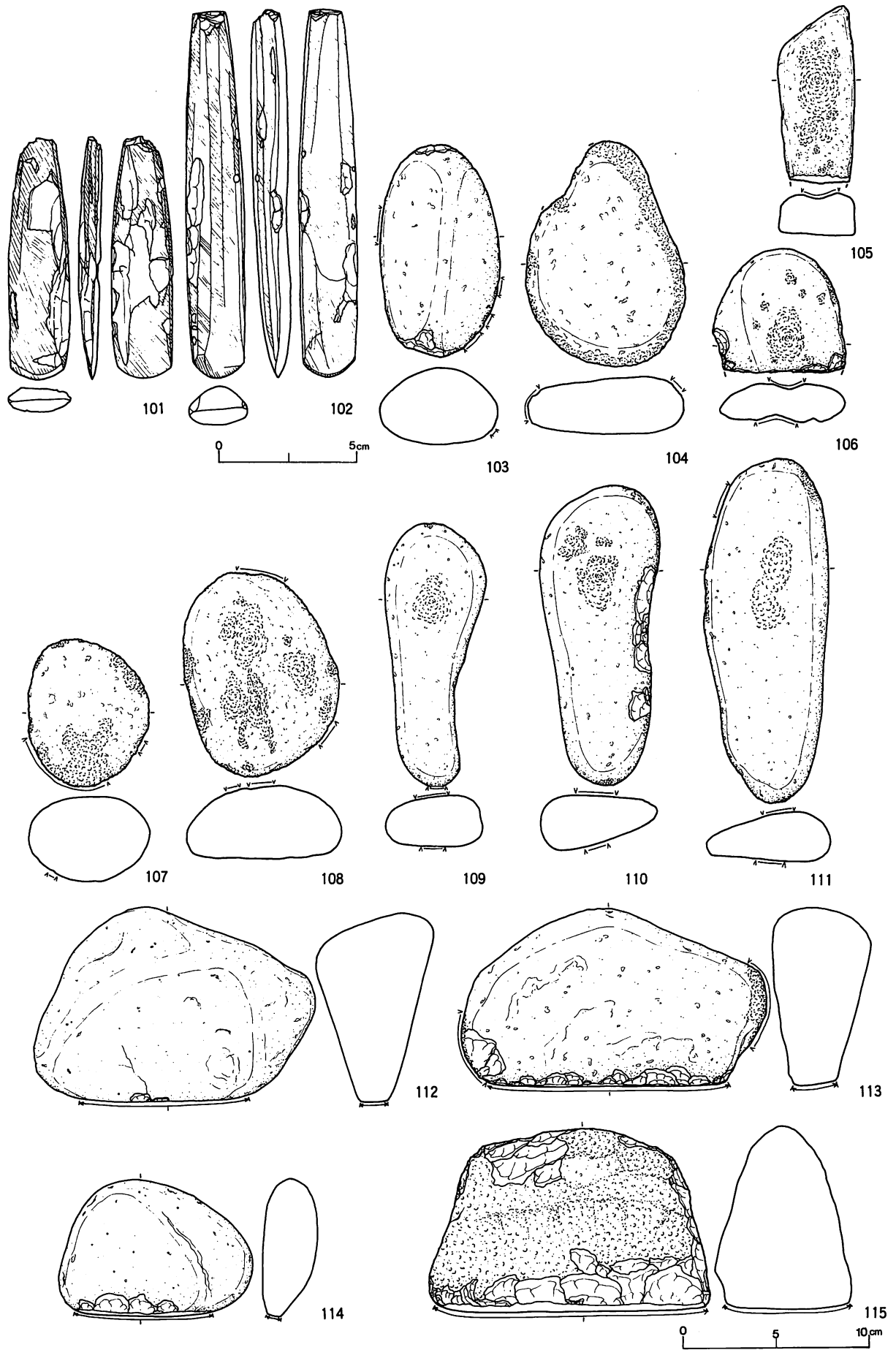


図IV-103 包含層出土の石器(5)

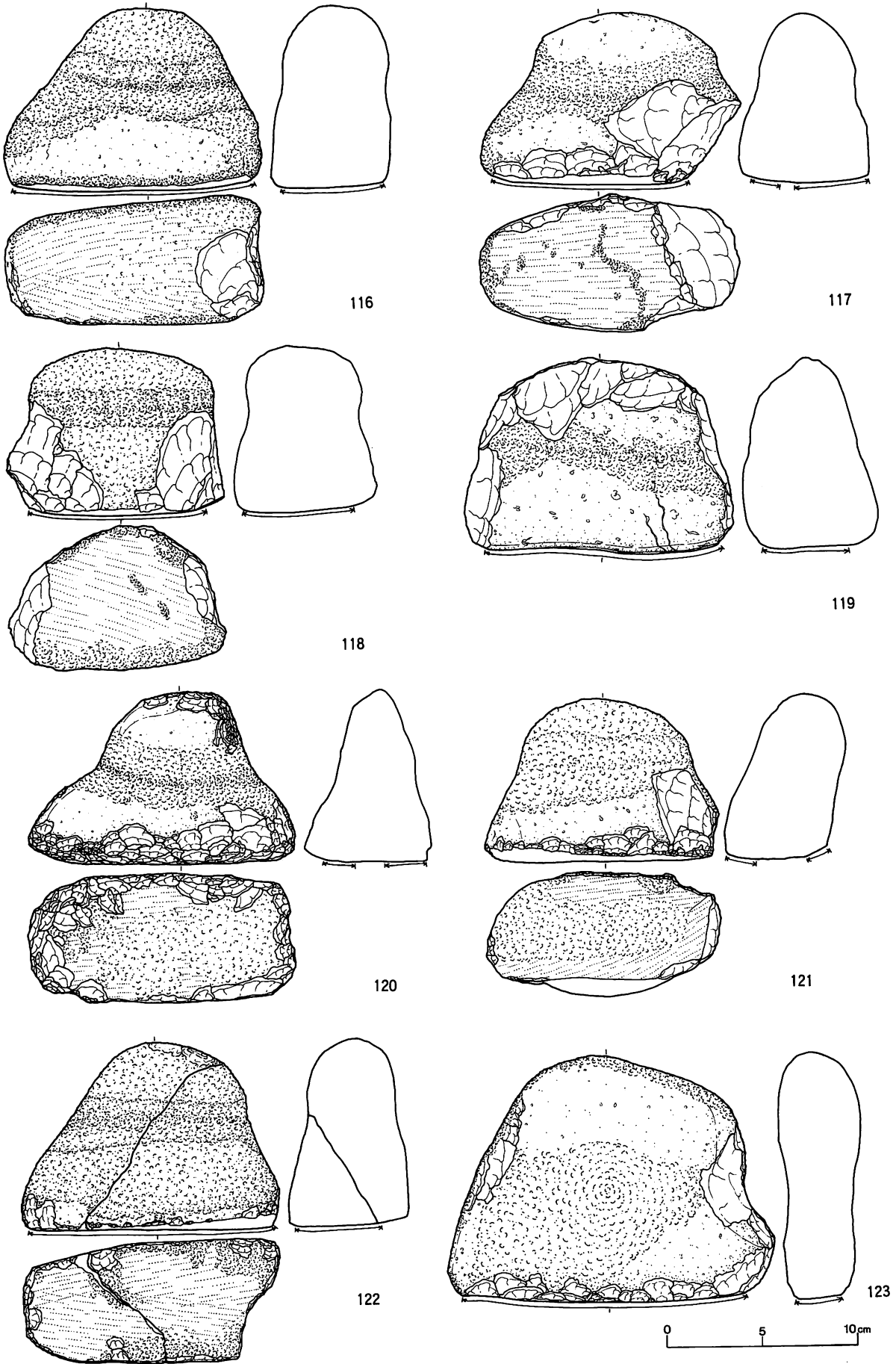


図IV-104 包含層出土の石器(6)

4 包含層の遺物

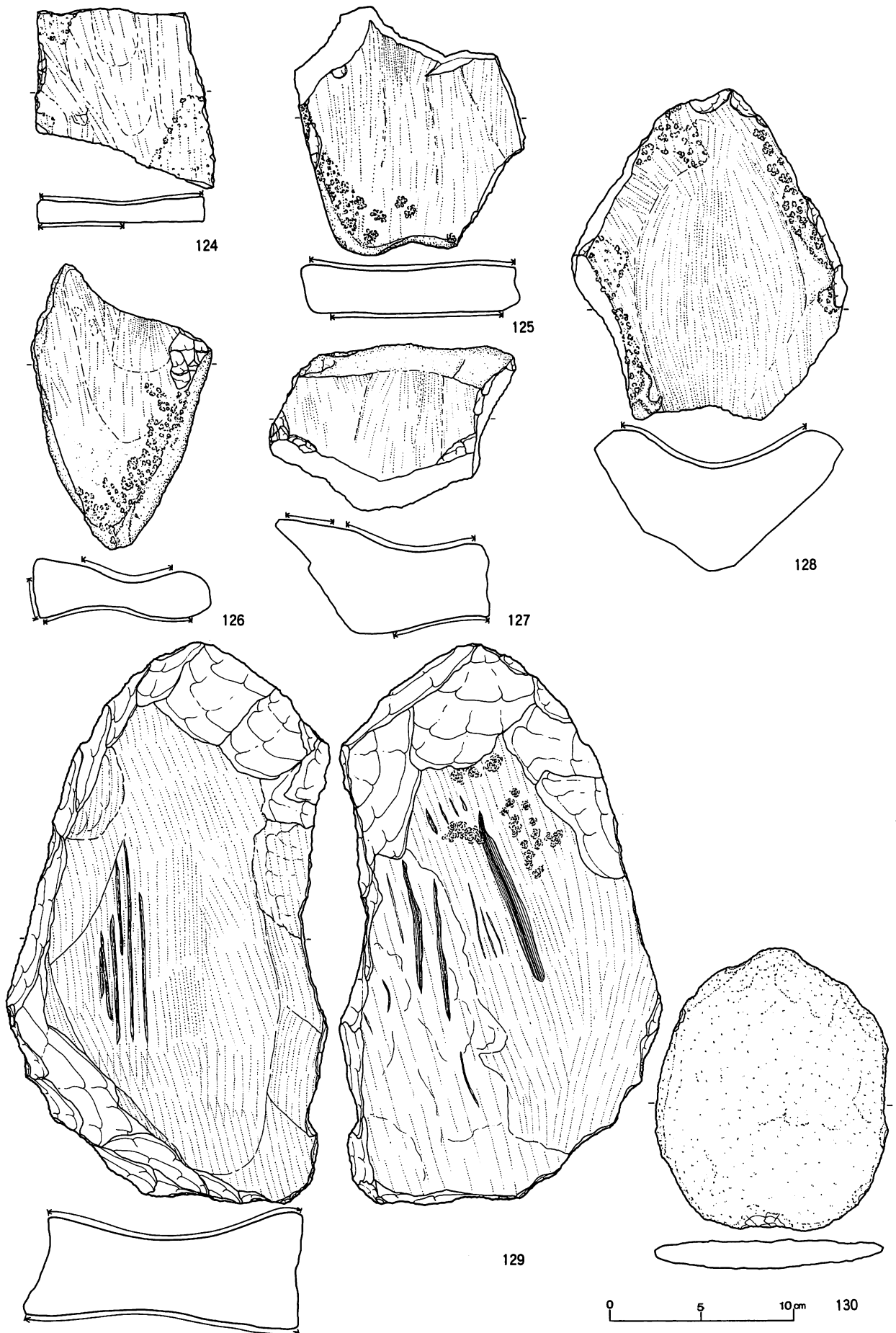


図IV-105 包含層出土の石器(7)

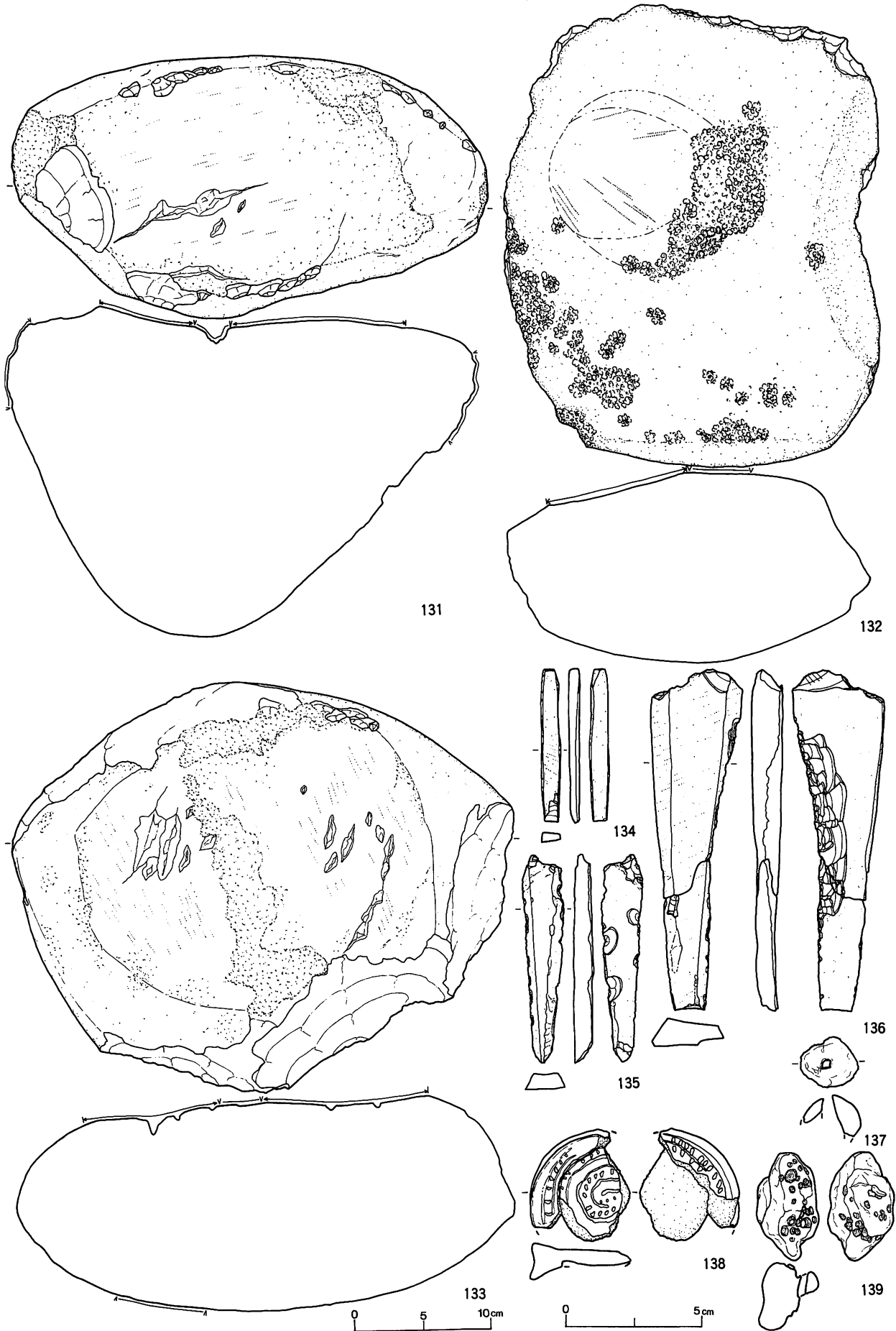


図IV-106 包含層出土の石器(8)

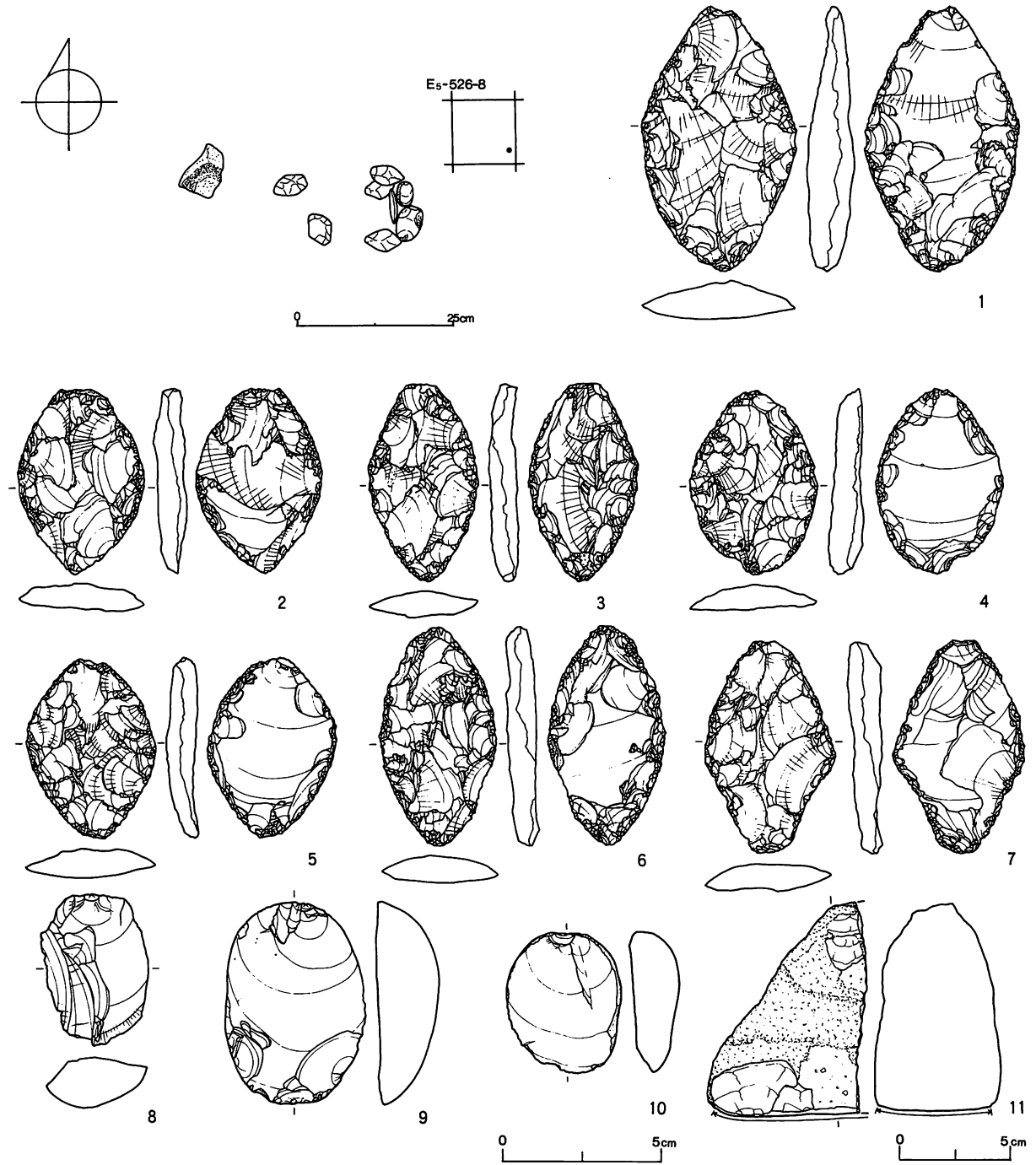
4 包含層の遺物



図Ⅳ-107 包含層出土の石器(9)



図IV-108 包含層出土の石器等(10)



図IV-109 II層の石器集中と出土遺物

(2) 平成9年度調査地区の遺物 (図IV-110~168 図版IV-69~109)

1) 土器 (図IV-110~127 図版IV-69~102)

各群の細分類は平成8年度調査地区の分類に準ずる。

i) II-B層出土の土器 (図IV-110 図版IV-72)

I群に属するものとII群b類に属するものがある。概要のところでも述べたように、II-B層の遺物は斜面の上側に向かうに従い出土量が減少し、平成9年度調査区の4段目の水田跡よりも北側ではほとんど出土していない。

I群：(1~3) b類に相当するものが出土している

1は薄手の焼成の良い土器である。条の細いLR原体による斜行縄文が施され、それに重ねて1段rの原体による縄線文が4条ある。東釧路IV式とみられる。2は胎土に径2、3mmの小砂利が混じる。非常に細い原体による整った結束羽状縄文が施されている。縄文の特徴から判断すると1よりも古手のコッタロ式の可能性があるものである。3は小型のもので口唇断面はやや尖り気味で体部は無文である。口唇直下に幅3mmほどの先端が2つに割れているヘラ状工具による押し引文風の刺突文が施されている。一見、絡条体圧痕文の様に見えるものである。時期不明の遺物としてとりあげたが、1、2に近接した地点のII-B層から出土した点と胎土、焼成がこれらに類似することから、類例は知らないが早期の可能性があるものとしておきたい。

II群b類：(4~17)

1類：(4~17) 大麻V式に相当するもの

4~6は口縁部に縄線文があるものである。4、5は同一個体の破片。器面の凹凸が著しく、厚さが一定していない。口唇断面は角形で縄文が施文されている。口唇直下には太いRL原体による縄線文が2条が施されているが、部分的に途切れているところがあり、また下位のもの4、5いずれも明瞭ではない。器面は磨滅してははっきりとはしないが無文の可能性がある。6~8は同一個体とみられる。6は4、5よりもやや厚みのあるもので、口唇断面は丸みを帯びた角形である。LR原体による縄線文が2条深く施文されている器面にはかすかに縄文が観察できる。7では器面に縦行気味の縄文が、内面には羽状に縄文が施されている。莖葉の痕跡が明瞭に観察できる。9~13は色調が灰白色を呈し、細い繊維に加え砂が多い。口縁の形態、厚みなどが不均一であるが、ほぼ4、5mほどの範囲から出土したもの。同一個体のものであろう。9、10は口縁部。内面の凹凸が著しいもので、口唇断面は丸みを帯びるが、部分的に尖り気味となる(9)。口径が10cmに満たない小型のもの。0段多条の原体による斜行縄文が施され内面にも施文されるが、10では原体を縦に転がすことで羽状縄文となっている。13は底径約8cm、底部がややくびれるもので器面に縄文は観察されないが、内面には縦行する縄文がある。14はこれらの土器と40mほど離れた地点から出土したものである。13に比べ底部のくびれの度合いがやや強いものである。胎土、色調が類似することから同一個体の可能性もある。15は内外面に右下がりの縄文が浅く施されている。16は色調が暗褐色を呈するもので、RL原体による斜行縄文が浅く粗く施されている。拓本は示さなかったが内面には縦行する縄文がかすかにみられる。胎土に多量の莖葉が混入しているのが、割れ口で観察できる。17は太い原体による縄文のもの。

ii) II-A層出土の土器 (図IV-111~123、図版IV-69~71、73~79)

III群、IV群、V群、VI群に属するものがある。平成9年度調査地区ではIV群に属するものが9割以上を占め、そのほとんどがIV群c類土器である。

Ⅲ群土器（1、5～8）：a類のものとb類のものがある。

a類：（1、5～7） 円筒土器上層式に相当するもの

1 a・bは後期のⅣ群c類土器が集中して検出された範囲から西側にやや離れた地点の包含層を掘り下げ中に、Ⅳ群c類土器が出土する層よりも下の位置から検出されたもので、Ⅱ-A層下として取り上げたもの。大きく割れた破片214点がほぼ1カ所にまとまっていた。口縁から胴上半部のほぼ全体と、底部から胴下半部の2分の1ほどが復元できたが、これらは直接接合されなかった。復元残の破片から推定すると、胴部のほとんどは失われているようである。表面は磨滅が著しく、胎土には径3、4mmの滑石が多量に混じりそれが器面に浮き出ている。反面焼成は非常に良く、内面が平滑に調整された丁寧な作りの土器である。上下2つの部位を図上で復元したものであるが、口径36cm、底径17.5cm、少なくとも高さは50cmを下回らないとみられる大型土器である。土器の厚さは底部から口縁部までほぼ均一で7、8mmと薄手である。口縁が外反し、底部がわずかにくびれ直線的に立ち上がる器形のもので、胴部はあまり張り出さないとみられる。胴部上半の文様のある部分までが黒褐色、その下位赤褐色を呈する。器面にはあらかじめ0段多条の結束羽状縄文が施されている。口縁部の4カ所に2個一対の小さな突起部があり、この部分に対応させて二又に分かれた橋状把手がつけられている。残存していたのは1カ所の破片のみであるが、器面に剥落した跡がある。文様は胴部上半までに限られ、細い貼付帯を多用しレンズ状の弧線とそれを繋ぐ短い弧線により複雑な文様が構成されている。文様帯の下端部では2条巡らされ、口縁部の突起と対応される位置にボタン状の貼り付けがある。やや肥厚させた口唇部にも施文される。貼付帯上には縄文が施文されている。円筒土器上層b式に相当するものとみられる。

5 a～5 cは同一個体。破片のうち1点のみが同じ発掘区のⅡ-1層から検出された。図上で復元したもので、口径15cm、底径8cm、推定の高さは17cmほどの小型のもの。精製された胎土のもので焼成が良い。底部がくびれ胴部がやや張り出し口縁部がわずかに外反する、平縁かとみられる器形のもの。胴部には比較的太いR L原体による斜行縄文があるが、文様のある口縁部と底部付近では無文となっている。文様は貼付帯と刺突文で構成される。口唇直下に細い貼付帯をつけ、偏平な貼付帯で胴部のボタン状の貼り付けとV字形に繋げている。胴部の貼付帯上には部分的に縄文が施文されている。円形刺突文が多用され、中空の棒状工具で、口縁部に3条、胴部に2条巡らせ、斜めの貼付帯に添わせるようにも施文される。6 a・bは図上で器形を復元したもので口縁部はない。5に比べるとやや小型のもので、色調が暗赤褐色の特徴のある土器である。1段ℓの原体による無節の斜行縄文が浅くまばらに施されている。7 a～7 cは破片が多数あったが接合できなかった。胎土に砂粒が多く混じるもので、0段多条の原体による結束羽状縄文が施されている。

b類：（8 a・b）

同一個体の破片である。1～7とは胎土、色調がまったく異なるもので、非常に精製された胎土の焼成の良い黄褐色を呈するものである。口唇断面は丸みを帯びた角形で、中空の棒状工具による刺突文が深く施文されている。器面には細いr原体による無節の斜行縄文が浅く施文されている。柏木川式頃かとみられる。

Ⅳ群土器（2～4、9～120）

a類、b類、c類に属するものがある。c類が95%以上を占め、調査区中央部のごく限られた範囲に集中していた。a類はⅡ-A層の遺物が検出されたほぼ全域で散点的に出土している。b類は数点が出土しているに過ぎない。

a類：（2～4、9～35） 余市式に相当するもの

胴部の破片が多く全体の器形が知られるものはない。いずれも胎土に石英、小砂利が多く混じり器面に浮き出ている。色調は暗赤褐色を呈するもので、滑石の混入するものもある。

a-1類：(9~18、23~26) 円形刺突文が施されたもの

刺突文は指頭でなで調整されて形成されたと見られる幅の狭い無文帯に施されるものが多い。9は口径が20cmほどになるとみられるもので、厚手で口唇断面は角形。器面にはR L原体による斜行縄文が浅く施され、径12mmの大きな刺突文がつけられている。10は口唇内側の断面が丸みを帯びるもので、口唇直下に縄文が施されるもので、粘土を盛り上げわずかに肥厚させその下位に刺突文を施している。11は黒褐色を呈するもので、口唇直下を指頭で調整し無文としその後縄文を施文、刺突文はその部分につけられる。12は比較的太い縄文が深く施文されている。13、14は口唇上にも施文される。14は10に似た粘土の盛り上がりがある。15は口縁部の2.5cmほどの幅を折り返し厚みを持たせ、その部分に縄文を施文している。18は角形の口唇上と口縁の無文部分に断面が四角の棒状工具により刺突文が深く施されているものである。縦行縄文が施されその部分に中空の棒状施文具による刺突文がある。

23~26は同一個体とみられるもの。厚手のもので口縁部がやや薄くなっている。口唇断面は角形で、口唇上にも施文されている。0段多条のR L原体による斜行縄文が施され、ごく軽く撫でて無文とした部分に縄端を円形刺突文風に深く押圧した刺突文がある。25、26は胴部破片であるが、幅広で偏平な貼付帯が器面の縄文施文後に施されている。

a-2類：(19~22) 縄文の施されたもの

19、20は同一個体。口縁部の幅4cmほどにR L原体による縄文が施されその下位は無文である。この部分に刺突文がつけられている可能性もある。21、22は平成8年度調査地区II-A層、II層から出土した遺物(図IV-73-15・16、-75-5)と同一個体である。

a-3類：(27、28) 貼付帯をもつもの

いずれも偏平で幅の狭い貼付帯がある。27は0段多条の縄文が施されている。28は2条並列してつけられている。

2~4、29~35は斜行縄文が施されている底部、胴部の破片。0段多条の原体のものが多い。2は底部が張り出さないもので直線的に立ち上がる器形のもの。R L原体を横位と縦位に回転施文した縄文が段状につけられている。内面に指頭による調整痕が残る。3は底部がやや張り出すもの。4は底部の張り出しが強いもので、30の胴部破片と同一個体。ほかに10点ほどあったが接合しなかった。34は太い原体のもの。32、33、35の底部はわずかに張り出すものである。

b類：(49~53) 手稻式に相当するもの(49~50)と鯤潤式(52、53)に相当するもの

これらは小砂利が混じる特徴的な胎土と焼成から、a類、c類とは明らかに区別できる。49、51はE₃-530、E₄-530区周辺のII-A層の上部に堆積していた砂層から出土したものである。49は波状口縁の無文部。50は口縁は無文でその下位には段状に沈線が施文されている。51は波状口縁のもの。やや尖り気味の口唇で、細い0段多条の原体による斜行縄文地に平行沈線が施されている。52、53は頸部のくびれ部分に刻み目列がある。

c類：(36~48、54~120) 堂林式、三ツ谷式に相当するもの。

c類土器は調査区の中央部、E₃ラインとE₄ラインの間とその周辺部に集中している。平成9年度調査区のII-A層からは6,000点ほどが出土した。これらは突瘤文を特徴とする土器であるが、口唇断面の特徴、胎土、焼成、地文として施される縄文の特徴から、堂林式と三ツ谷式の区分が可能なことから前者をc-1類、後者をc-2類とした。

c-1類：(54~86) 堂林式に相当するもの。

胎土には径2mm前後の小砂利が混じるものが多く見られる。器面に施されている縄文は0段多条の原体による羽状縄文のものが多く、ほかに斜行縄文のものもある。口唇の断面は切り出し形のものと同厚みのある角形ものがあり、口唇内面に縄文が施文されるものがあり、この点からもc-2類と区別できる。ほとんどの資料が破片であるため全体の器形はわからないが、深鉢形のものが多いとみられる。器面に施された文様を中心にその特徴をみることにする。

① 縄文のみ施されたもの(54~64)

54~61は口唇断面が切り出し形のもので、54~60は平縁のもの。いずれも羽状縄文の施されたものであるが、59は斜行縄文とみられる。内面に明瞭な稜をもつもの(54~56・58)と稜が明瞭ではなく尖り気味(57・59)となるものがある。56、57では口唇部内面に縄文が施文されている。60a、60bは同一個体のもので口縁部に2個一対の小さな突起をもつものである。突起は粘土帯中央に指頭を押しあて作られたものと見られる。61a、61bは大型の深鉢形土器。同一個体の破片は多数あったが接合されなかった。丁寧に作られた小さな山形の小波状口縁のものである。

62~64は口唇断面が角形のもの。62は台形の突起部があり、突起部上を指頭で押圧し僅かに凹ませている。

② 沈線文による文様のあるもの(65~85)

65~73、75、79は平行沈線文による文様のもの。複数施文されることが多く、突瘤文上とその下位に施されるものがみられ、突瘤文を挟みその上下に施文されるものもある。口唇断面は切り出し形のものほとんどである。65、71は口唇直下に1条施文されるもので口唇内面に縄文が施文されている。66は推定口径が25cmほどのもので、突瘤文の位置とその上下にやや太めの浅い沈線が施されている。72も同様な沈線文が配されている。口唇内面に縄文が施文される。67は突瘤の下位に2条浅く施文されている。73はやや間隔のある小波状口縁のもの。口縁部に4条施文されその下位は無文帯となっている。75は薄手で胎土が精製されており、小砂利が混入しないもの。口縁部には2個一対になると見られる小さな突起がある。突起の内側には縦に短い刻み目がある。非常に細い原体による縄文のもので、口縁に3条細い沈線文が施されているが、上位の2条は突起下から配されている。c-1類の中でも新しい段階の可能性もある。79は胴部の破片のみで器形を復元した、鉢型土器。全体の文様は知られないが胴部下半に平行沈線が3条引かれその下は無文となっている。

74、76、77、大柄な鋸歯状の文様のあるもの。74a、74bは突瘤文の直下に1条ひかれ、2本一組の沈線で施文されるもの。76は沈線が弧線状となっている。口唇内側に縄文が施文されている。

78a~78fは平行沈線文と波状の沈線文により文様が構成されるもの。破片は多数あったが接合されなかった。山形の波頂部のある波状口縁で、胴部上半部がごく僅かにくびれる大型の深鉢形土器。比較的薄手のもの。文様はやや幅のある無文帯を挟んでその上下に同じ構成のものがみられる。口縁部には2条、波状の沈線文が施されている。3条の平行沈線文を施し、その間に上下で位置を変えた3本一組の短い沈線が施されている。80、82は磨滅しているが波状の沈線文が見える。

81、83~85は突瘤文をもたないものである。81、83はいずれも径7、8cmにも満たない小型のものである。81は口縁に2条平行沈線が引かれ縦に蛇行する曲線文がある。83は口唇断面は尖り気味であるが、内面にわずかに稜がみとめられる。小波状口縁をなし、その1カ所に貼り瘤がつけられている。貼り瘤を挟んで上下に沈線文が引かれ、2本組の沈線で鋸歯状の文様とその間に弧線文がある。沈線で区画した中には円形刺突文、やや押し引いて施文された刻み目状の刺突文が1条ないしは2条並列して施されている。84、85は弧線文のもの。84a、84bは背の低い台形状の突起部を持つものである。口唇部には棒状工具による深い刻み目がつけられている。口唇直下に1条沈線が施され、突起部を中

心に複数の弧線文による文様がある。85 a、85 bは浅鉢形になると見られる。色調は鮮やかな赤褐色を呈するもので、胎土に白色の砂粒が多く混入する。突起部と見られる口唇の一部を指頭で押圧している。細い複数の沈線文で、横位の弧線を入り組み文的に施文している。

③ 摩り消し縄文による文様のあるもの (86)

86では突瘤が小さく、粘土の盛り上りがあまりないものである。胴部の径が25cmほどある大型の深鉢。小波状口縁をなし、口縁部から胴部には大柄な入り組文が描かれている。摩り消し縄文のものはこの個体の破片以外にはわずかしか出土していない。

c-2類：(36~48、87~112) 三ツ谷式に相当するもの。

器形がわかるものでは深鉢、鉢形土器があり、ほかに壺形、注口土器がある。器形を復元できた13個体のうち10個体が深鉢である。深鉢はいずれも底部からやや膨らみをもって直線的に立ち上がる器形のもので、全体の大きさに比べ底部が小さいものである。底径と口径の比率をみると1:3~1:6の中におさまる。器厚は4、5mmほどで口縁部から底部までほぼ均一であるが、口縁部付近を薄くする特徴があり、この点でc-1類とは区別できる。口唇の断面は角形で口唇上は丁寧に調整されている。平縁のものと小波状口縁のものがあり、底面はわずかに凹む上げ底である。器面の縄文は0段多条の原体による斜行縄文のもので羽状縄文のものはほとんどない。報告した資料についてみると、LR原体による縄文の割合が多い。文様は大きく突瘤文のあるものと突瘤文のないものとに分けられる。胎土は比較的精製されたもので、滝里遺跡群出土の土器の多くに特徴的な石英が多量に混入するものはみられない。文様を中心その特徴をみることにする。なおc-2類土器の接合関係、出土状況を図IV-114に示した。

① 突瘤文のあるもので縄文のみ施されたもの (36~42、87~89)

36~38、87、88は平縁のものである。36は口縁部付近の2分の1が残存する。口縁部を薄くする特徴を持たないもので、ほかの土器に比べ厚みがある。c-2類の口縁部に類似する。37は破片が20m四方ほどの範囲に散在していたものである。口縁部から底部までの3分の2ほどが残存する。口径24cm、底径7cm、高さ25cmのもの。底面は軽い上げ底であるが、中央部分が丸底気味となり安定が悪い。38は胴下半部から底部にかけては欠損するが、3分の2ほどが残存する。口径20cm、残存する高さは20cmある。口縁部がやや内傾する器形のもの。87は器面の2か所に赤色顔料が付着している。88は径10cm内外の小型のものとみられ、横走気味の縄文が浅く施文されている。

39~42、89は小波状口縁のものである。39は破片がほぼ一か所にまとまっていた。ほかの土器に比べしっかりとした上げ底のもの。口縁部と底部の一部を除きほぼ全体が残存する。口径25cm、底径6cm、高さ26cmあるもので、胴部が膨らみをもたずに、底部から直線的に開く器形のもの。突瘤文は意識して貫通させているものが多い。小波状は指でつまむようにして形成されたもので頂部が尖り気味である。40、41は口縁部がやや内傾するもので、いずれも小波状縁は指頭で斜めに刻むようにしてなされている。40は口径21cmほど、比較的厚みがあり、胎土にはほかのものに比べ顕著に1、2mm程の小砂利が混じる。胴部上半部の2分1が残存する。41は口径23cmを計り、厚さが3、4mmと非常に薄いもの。42は底部は欠損しているが胴下半部までの2分の1ほどが残存する。口径25cm、推定の高さは27、28cm、器面の凹凸が著しいもの。RL原体による斜行縄文が施されているが、胴下半部では横走気味となる部分もある。また底部付近では施文方向を変え左下がりの縄文となっている。89の口縁は棒状工具で刻んだとみられるものである。

② 突瘤文と爪形文が施されたもの (48、90~94)

いずれも小波状口縁をなすものである。48は破片が広い範囲に散在していた。胴下半部から底部に

かけては欠損しているが、全体の4分の3ほどが残存する。口径30.5cm、現存する高さは30cmあり復元された中では最も大型の深鉢形土器。底部からほぼまっすぐ直線的に立ち上がるもので、胴部は膨らまない器形とみられる。突瘤文のみが施されたものと比べると寸胴である。また胎土に径3mm、大きいものでは5mmほどもある小砂利が多く混入する。器面の縄文は0段2条のLR原体を用いている。口唇部はやや厚みがあり、断面は丸みを帯びている。小波状縁は指頭を押圧して形成されている。口唇直下は無文でこの部分に突瘤文が施されている。その下位に爪形文が2列施されている。粘土のめくれから、親指と人さし指で粘土を摘み上げて形成されたものとわかる。形の異なる2個一対の爪形が不揃いに並んでいる。91~93は同一個体とみられるもの。爪形文のうちの上位の1列が突瘤文と重ねられている。また口縁部の文様帯を区切るように沈線文が1条引かれ、91、93では爪形文が施されていない部分がみられるほか、口唇直下に1条と斜めの沈線文が施文されているようである。91は貫通孔となっているもので、口縁の無文部分に粘土のめくれの著しい、間隔のあいた爪形文を施文している。90は94に類似の爪形文のもの。小片のため突瘤文の有無はわからないが便宜的にここにしておく。

④ 突瘤文のないもので沈線により文様が描かれているもの(45~47、100~104)

器形のわかるものでは深鉢形(45、46、104)と鉢形(47、100a、100b)がある。

45は底部が欠損しているが全体の5分の4ほどが残存する。口径23.5cm、推定の高さは25、26cmになるとみられる。口縁部の4カ所に3個一対の突起がある。粘土帯を指で摘みあげて厚みを持たせたもので、突起上は指頭を押しあてたためか凹んでいる。器面の縄文は丁寧に施文され、口縁部に4条沈線を巡らせ、突起部に対応する位置に二重の円を描いている。上下の沈線間と円の中心の縄文はすり消されている。46は破片が広範囲に散在していたもので、20m以上離れた位置から出土した破片が接合している。口径33cm、底形5.2cm、高さ34.5cmの大型のもの。全体の5分の4ほどが残存する。口縁部の4カ所に左右に小さな副突起を持った幅8cmほどの背の低い突起があり、この部分の口唇上には沈線が引かれている。副突起にはそれぞれ小さな孔が穿たれている。文様は口唇直下に1条と文様帯の下端に2条沈線が施文された狭い範囲に限られるが、拓影図でもわかるように文様の割付けが不均一である。渦巻き文と横に連なる複数の弧線、同心円状の縦の弧線を組み合わせ文様を描くもので、突起部下では円形の文様もある。また突起部の中央からも横の弧線を配している。104は口径8cmの小型のもの。45と同様な上下の沈線で区画された中に楕円形状の文様が描かれ、この部分に短い刻み目列を横位に施している。

47は唯一復元できた鉢型土器。Ⅱ-A層のほか、Ⅱ-B層(7点)、Ⅱ層(5点)、Ⅰ層(14点)から出土したものが接合された。全体の5分の4程が残存する。口径19cm、底径6.8cm、高さ15cmである。胴部が張り出し、頸部でわずかにくびれ口縁が外反する器形のもの。頸部には幅15mm、厚さ3mmほどの貼付帯が全周に施されていたとみられるが、部分的にしか残っていない。貼付帯上には竹管状施文具の円い面を使用したとみられる太い沈線とその上下には細い沈線が施文され、1カ所だけであるが刻み目のつけられた張り瘤が上下2個一対で付けられ、張り瘤の側面は斜めに刻み目が入れている。貼付帯が剥落している部分では、下位に1個付けられているところもある。文様は胴部の張り出し部分に2条の沈線が引かれるほかは、口唇直下に1条施文された沈線と貼付帯の間に限られる。4カ所あるいは5カ所に渦巻き状、同心円状に弧線を組み合わせる文様が配され、文様間は4条の線で繋がれている。100aは斜めに刻み目の付けられた突起部のあるもので、二重の円形文、縦位の弧線文、横の弧線等を組み合わせ、46に類似の文様がある。100bには張り瘤がある。

101~103はいずれも小型のもので焼成が良い。101は口縁部に小さな山形の突起部がある。非常に

細い原体による斜行縄文が施されている。口縁部の平行沈線間には小さな円を抱く左右対称の三叉文が上下に配されている。102は細い2条ずつ引かれた平行沈線間に曲線と小さな刻みが疎らにある。103は小さな突起部のあるもので、棒状工具による深い刻み目がある。口唇直下に沈線が浅く1条施文されている。

⑤ 爪形文のみが施されたもの (95、96)

95は口唇断面はやや丸みを帯び、口唇直下に1条と体部では斜めに2個並んだ爪形文が施文されている。前者は竹管状施文具の丸い面を使用し、後者は指で摘み上げて形成されたものである。96は口縁部の狭い範囲に縄文が施されその下位は無文と見られる。口唇直下と縄文帯の下位に1条ずつ施文されている。

⑥ 縄文のみもの (43、44、97、98)

43は体部の文様は判らないが便宜的にここに置いておく。やや厚みのある底部である。羽状縄文が施されている。焼成、縄文の特徴はc-1類に類似する。44は小型の鉢型土器。97は浅鉢形になるとみられる。98は色調が灰白色を呈する。口縁部がやや内傾する。口唇の一部に指頭を押しあて、小波状口縁となるところがある

⑦ 無文のもの (99)

99は口唇内側が斜めに削ぎ落とされたような形となっている。

105、107～111は主にc-2類に属すると見られる壺形、注口土器の破片。105 a・bは壺形とみられる。107、108、110、111は注口土器。107 aは羽状縄文が施され、沈線で文様が描かれている。波状の文様の間に張り瘤が付けられている。107 cには注口部の剥落したあとがある。108 a・b、110は無文のもの。108は底部と胴部を図上で復元したもので、底部には高台がつけられている。110は注口部が剥落している。111は注口の上部に複数の刻みがつけられた円形の貼り付けが、基部にはやや形の崩れた張り瘤があり周囲に刻み目列が巡っている。

106、112～120は底部。いずれも上げ底で、斜行縄文が施されているもので、底部付近では横走気味となる。106はやや丸底気味になると見られるもので、底面に101に類似の三叉文がある。112 a・bは羽状縄文があるもので、底面に添って2条沈線を巡らせ、刻み目列が施文されている。

iii) II-1層出土の土器 (図IV-124～155 図版IV-80～102)

V群、VI群に属するものものが99%を占め、III群、IV群に属するものが若干ある。

III群、IV群土器は一部を除き、そのほとんどが調査区東端、532ラインよりも東側の限られた範囲から出土している (図IV-125)。II-1層が薄く掘り下げると砂礫が混じる層が拡がり、遺物はこの層中から出土した。この周辺は調査区境界線を境に急激に落ち込む地形で、旧河川跡であることが知られた (図IV-18参照)。遺物は旧河川の縁辺に添って分布していることがわかる。

III群土器 (図IV-126 図版IV-80)

2は接合破片のうち1点がII-A層から出土したもので、0段多条の斜行縄文で、偏平な貼付帯が2条付けられ、貼付帯に添って押し引文が施されている。内面の調整はa類、円筒土器上層式に似るものであるが、b類の要素も合わせ持つものである。

IV群土器 (図IV-124・126・127 図版IV-71・80・81)

a類：入江式に相当するもの(1)と余市式(3～35)に相当するものがある。

1は旧河川の流路に添うように広範囲に破片が散在し、50m程も離れた位置から出土した破片が接合している。口径36cm、現存する高さが42.5cmある大型の深鉢形土器。底部は欠損しているが2分の

1程が残存する。胎土に石英、小砂利などが多く混じるもので、ほかのIV群a類土器と共通する。底部から直線的に立ちあがる器形のもので、頸部がくびれ口縁部が外反する。緩やかに波打つ波状口縁のもの。口唇断面は角形で縄文が施文されている。器面にはL R原体による縄文が施されている。頸部に1条、体部に5、6条沈線文を施し区画し、口縁部と無文帯を挟んだ上下に文様を施している。文様帯の縄文は部分的に施文されていないか、あるいは摩り消されている。口縁部では波形に沿って4条沈線文が巡っている。沈線による逆「乙」字文を横位に連続させる文様を意図したと見られるが、胴部の文様帯ではほとんど崩れて鋸歯状となっている。入江式の中でも新しい段階のものである。

入江式土器は滝里33遺跡（北埋調報80）、滝里9遺跡（北埋調報110）に次いで3例目である。

3～35についてはⅡ-A層の細分に準じるが、あらたにa-5類を加えた。

a-1類：（3～5） 口縁部に円形刺突文のあるもの

3、5はヘラ状施文具による角形の刺突文のものであるが、便宜的にここに含めた。3は口唇上にも施文される。4は無文部に施文されている。

a-3類：（6～19） 貼付帯を持つもの

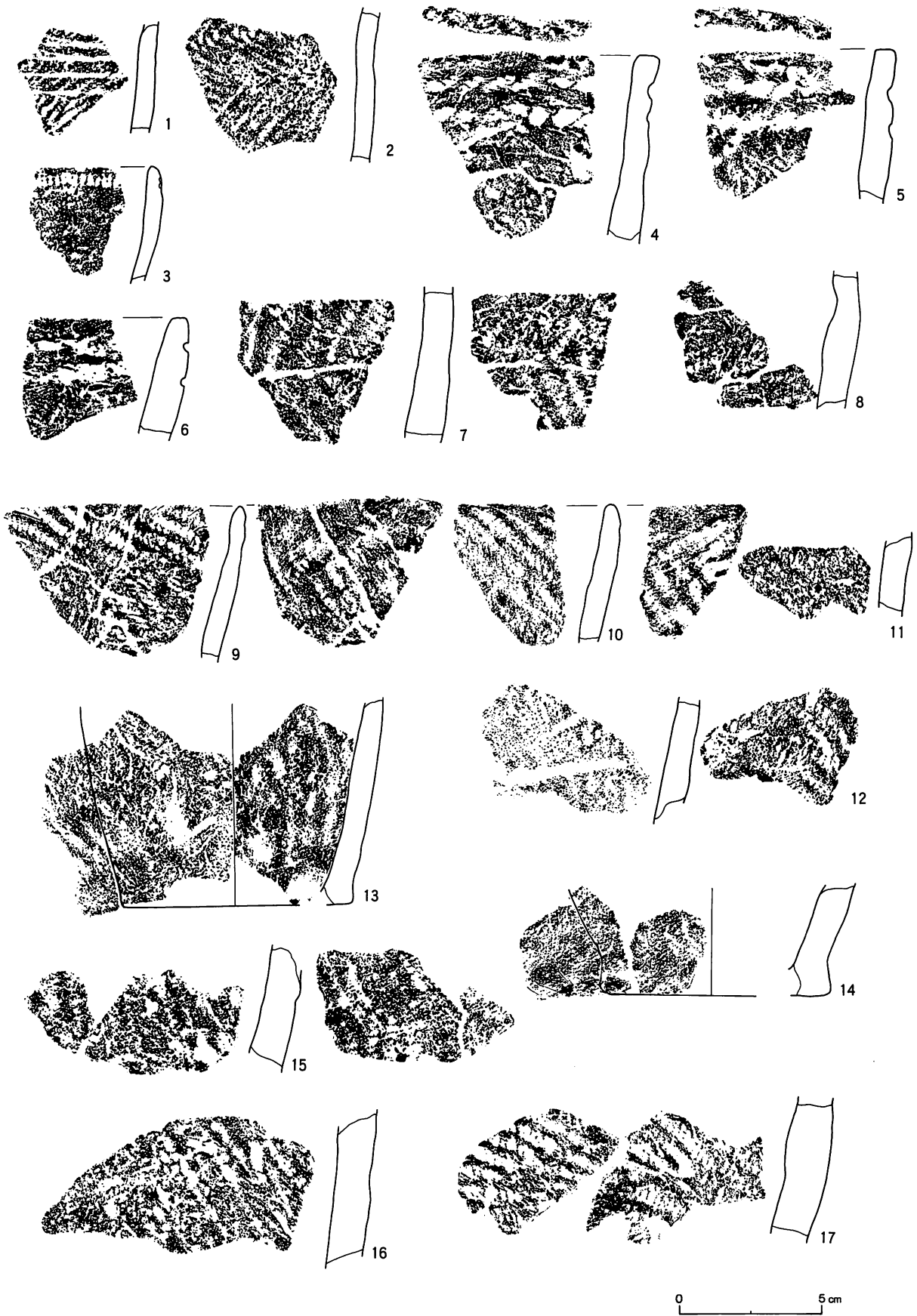
6、11が厚手であるほかは、比較的薄手で幅の狭い偏平な貼付帯がある。6～9は2条並列して施文されている。6、10は羽状縄文のもの。

a-5類：（27～35） 下から突き上げる手法による刺突文のあるものとこれに類するもの

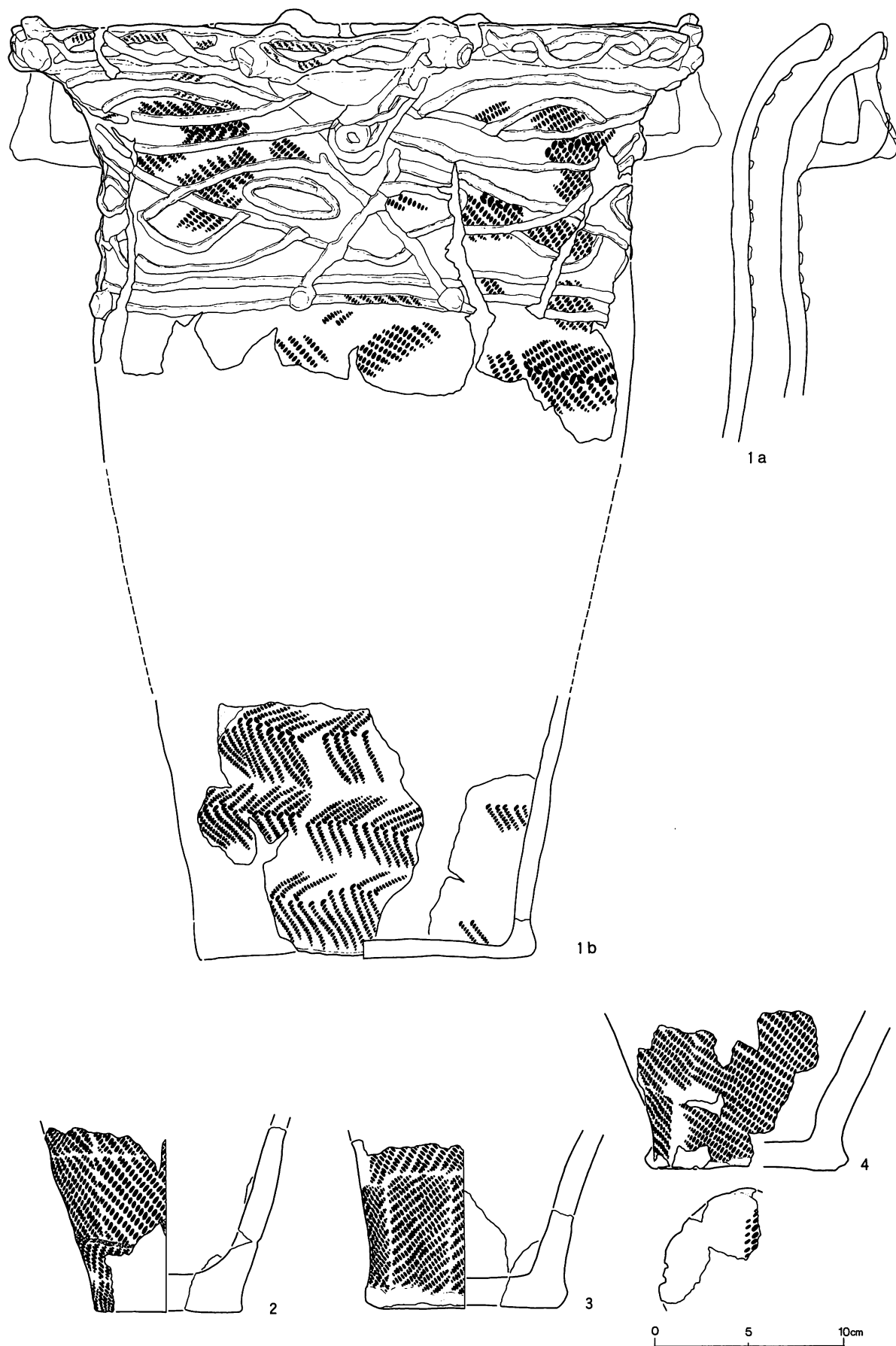
胎土が特徴的で、砂が多く、小砂利が混入する反面石英は認められない。胴部破片では個体を識別するのが困難なものもあるが、少なくとも3個体が確認できた。このうち2個体に刺突文がある。31を除きいずれも複節の縄文の施されたものである。27～29は同一個体と見られる。色調は黄褐色を呈する。28の裏面に観察されるように、内面は小石が抜け落ちたかのような凹みが多くあり凹凸が著しい。27bは器形を復元したものである。口唇断面は円みを帯びた角形、緩やかな波状口縁になるとみられる。口径13cmほどの小型の筒形。R L R原体による斜行縄文が施される。31は暗褐色を呈するもので、小砂利は混入しない。口唇内側に円みがあり、口縁部の幅3cm程をやや肥厚させ右下がりの縄文を施文していると見られるが磨滅してははっきりとはしない。肥厚帯下に小さな刺突文がある。32は31に類似するが小砂利が混じる。内面の凹凸が著しい。口縁部を肥厚させその下位の無文部分に円形の刺突文がある。器面にはR L R原体を横位、縦位に施している。30、33～35は暗赤褐色を呈するもので、32と同様の施文による縄文がある。35aは体部、35bは底面が上げ底となっている。これらは32と同一個体であろう。

20～26はいずれも旧河川跡周辺から出土した胴部の破片。20～22は胎土に多量の滑石が混入するもので、同一個体の破片は120点ほどあったが接合されなかった。拓本にみえる白い部分は滑石の粒が浮き出ているところである。大きいものでは4、5mmの長さの角形のもものが混入する。磨滅が著しいが、20にかろうじて羽状縄文が、23に左下がりの縄文が観察できる。25、26は同一個体で、ごく少量の滑石が混入する。25は左下がりの縄文が施文されている。これらは、余市式に相当するものかとみられる。

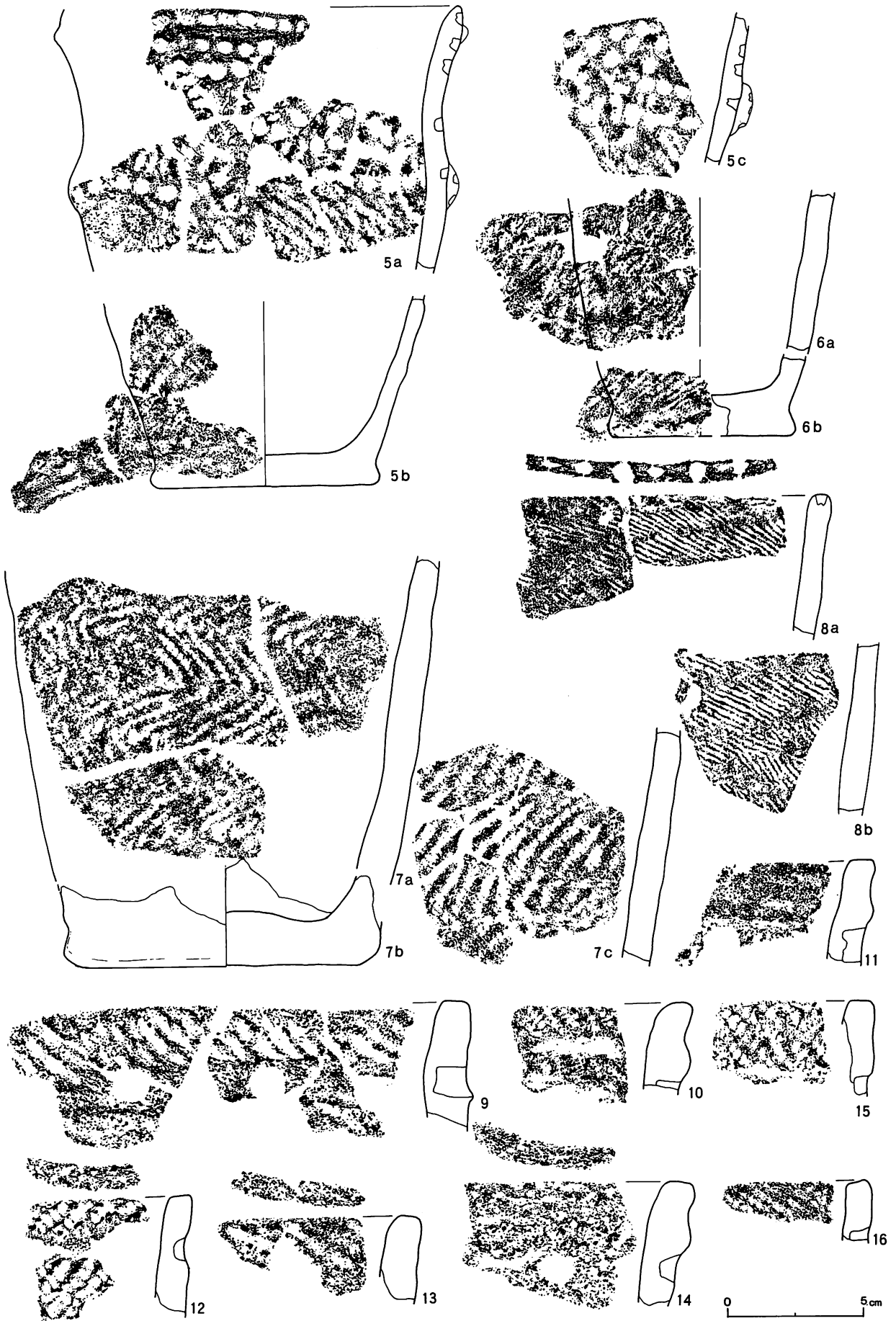
（遠藤香澄）



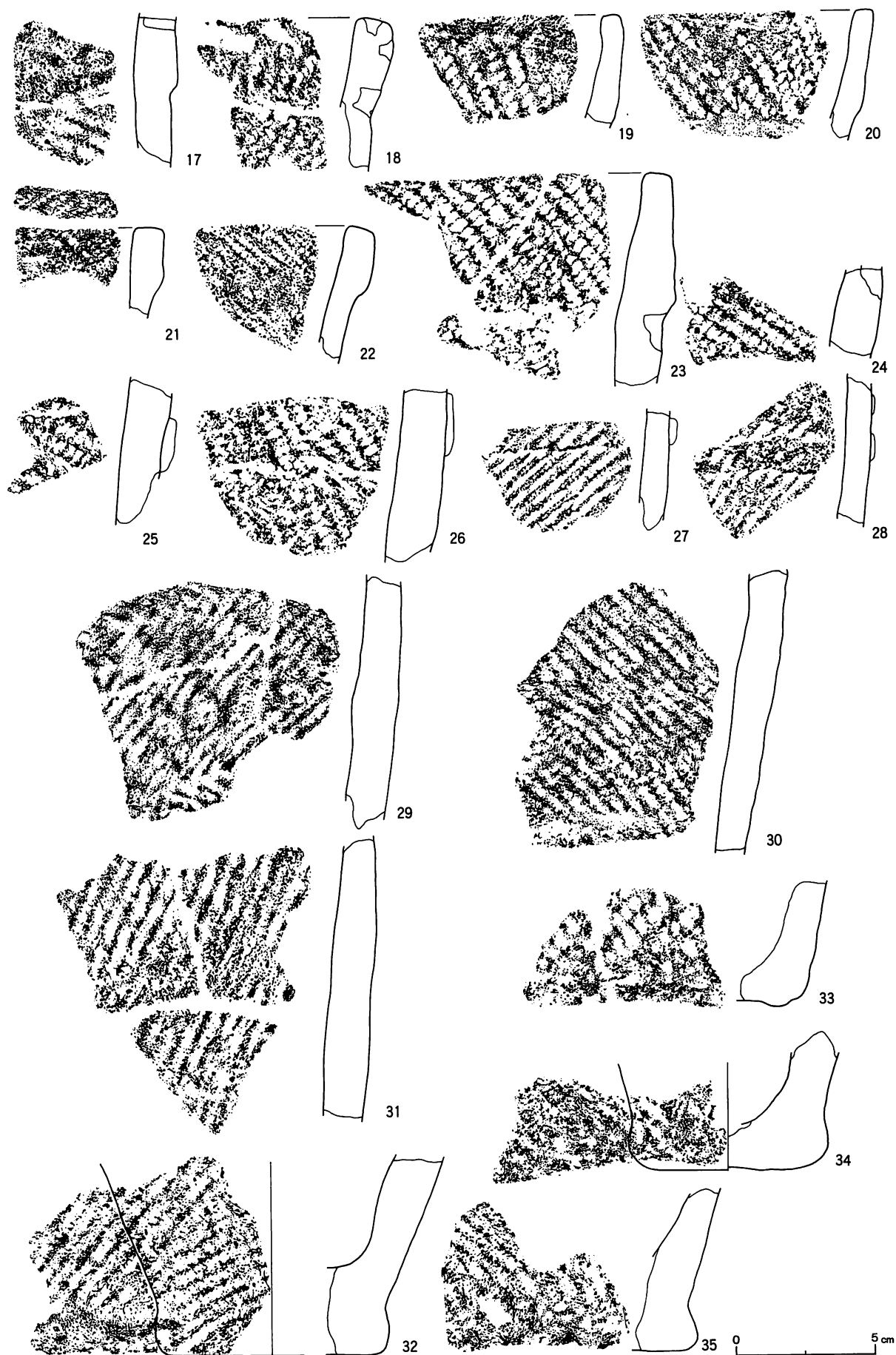
図IV-110 II-B層出土のI群・II群土器



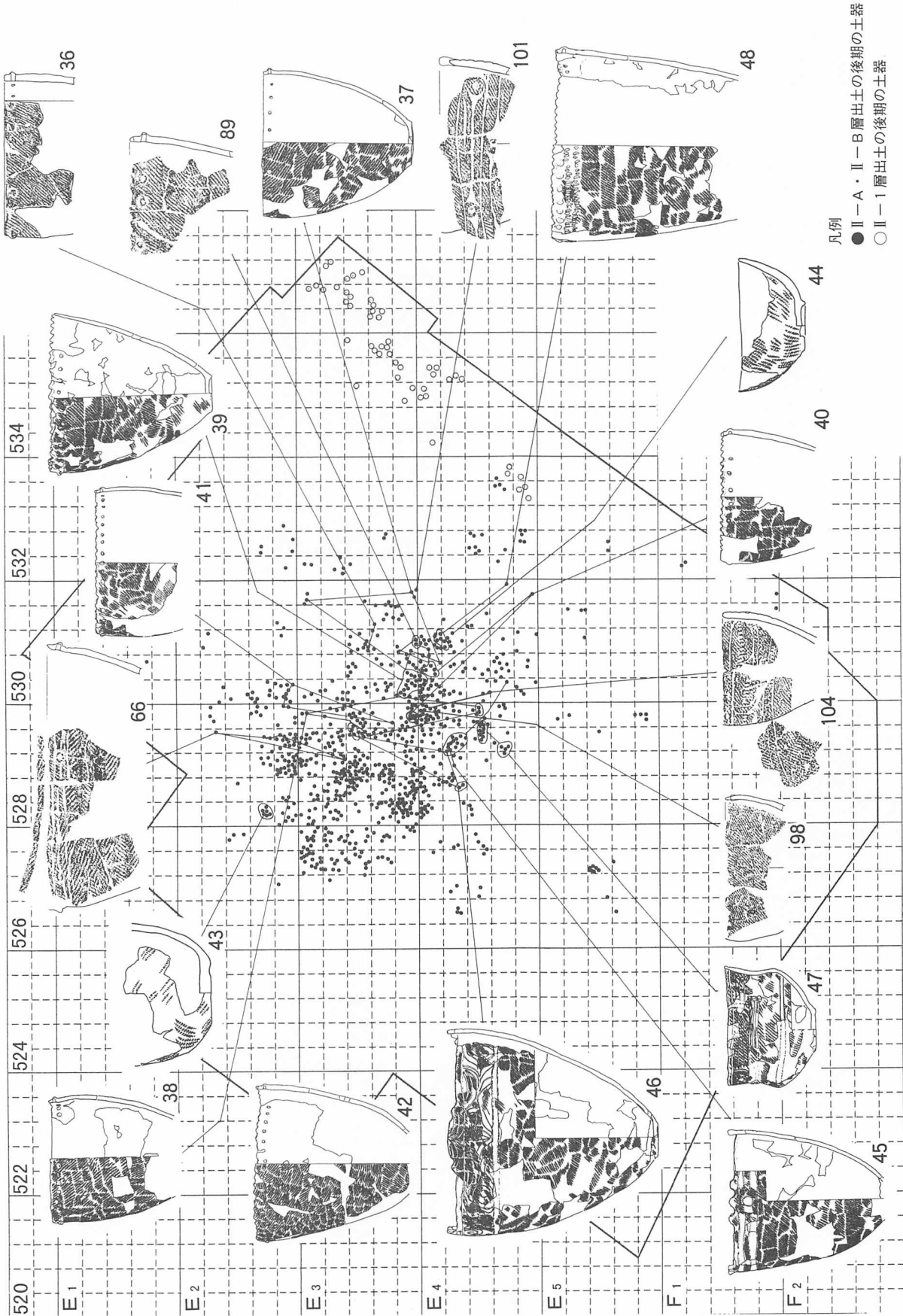
図IV-111 II-A層出土のⅢ群・Ⅳ群土器(1)



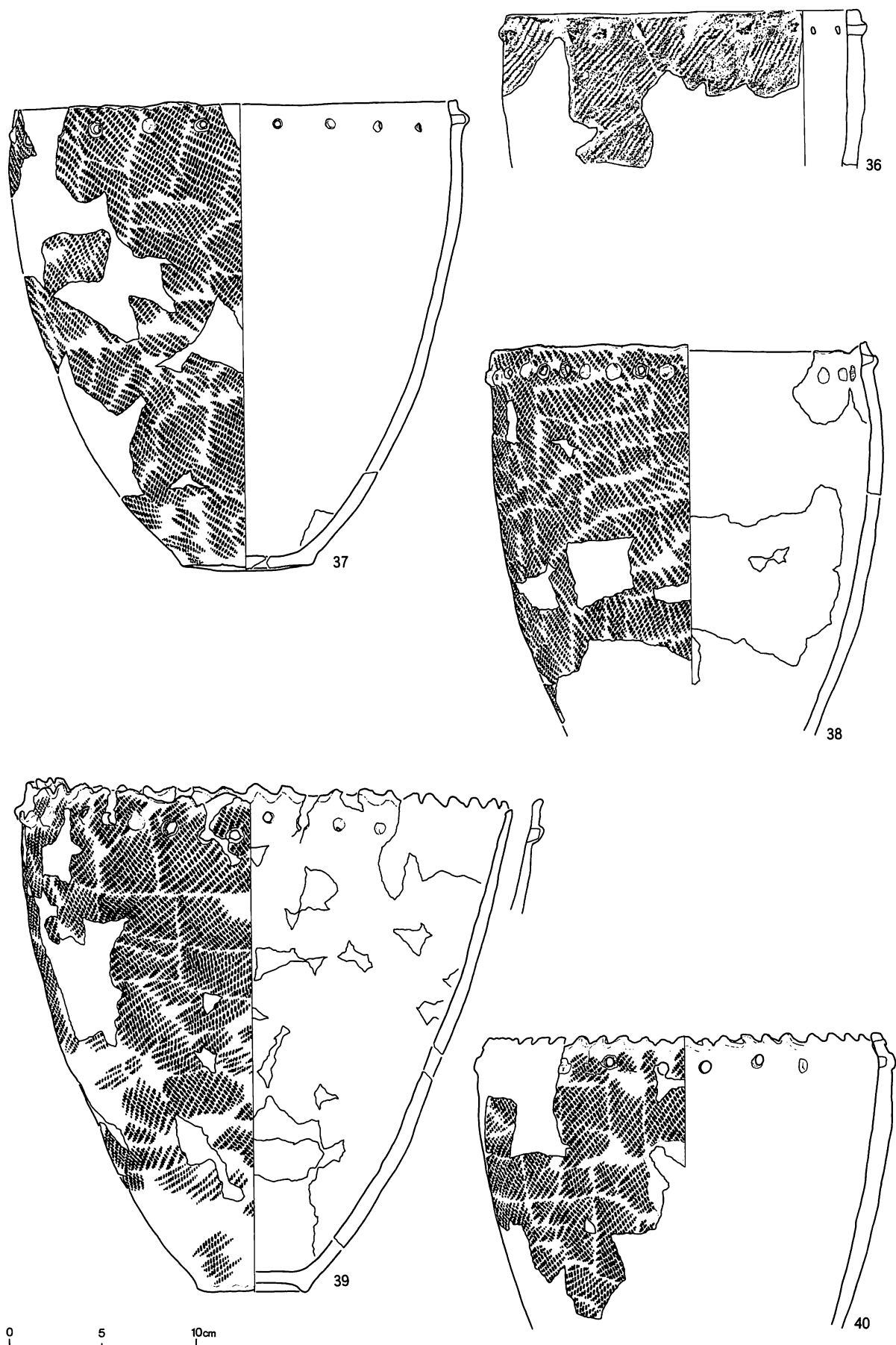
図IV-112 II-A層出土のⅢ群・Ⅳ群土器(2)



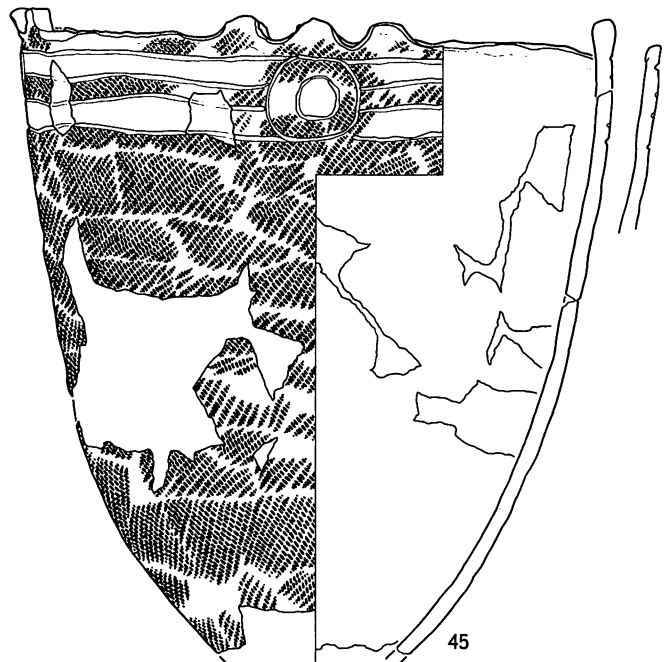
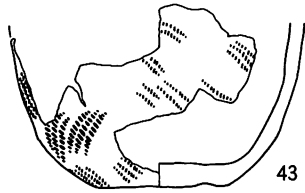
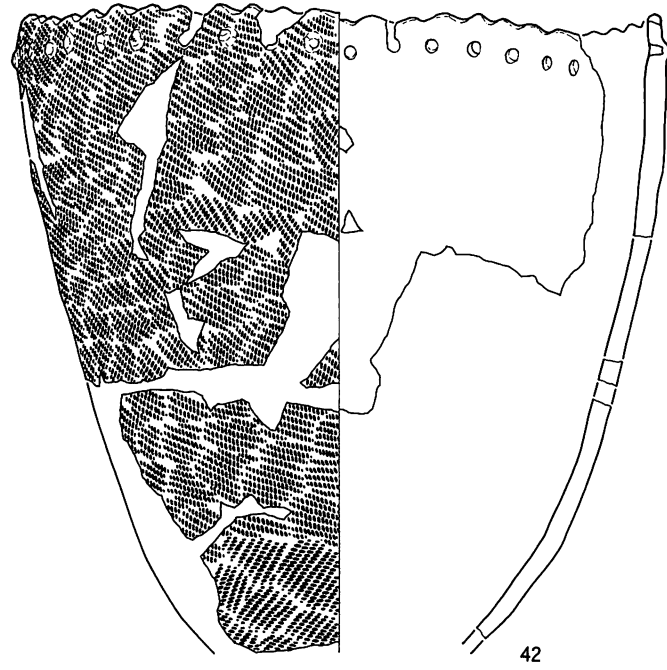
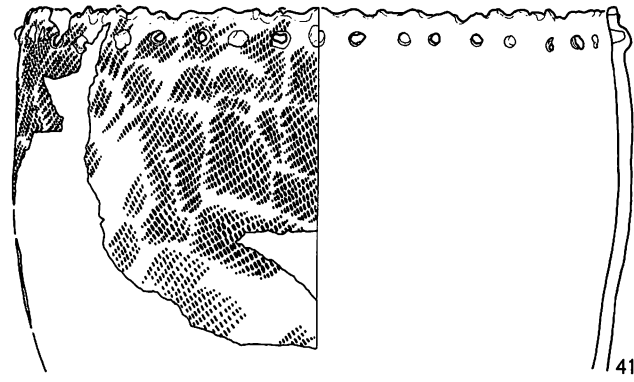
図IV-113 II-A層出土のIV群土器(3)



図IV-114 V群c類土器出土位置図



図IV-115 II-A層出土のIV群c類土器(1)



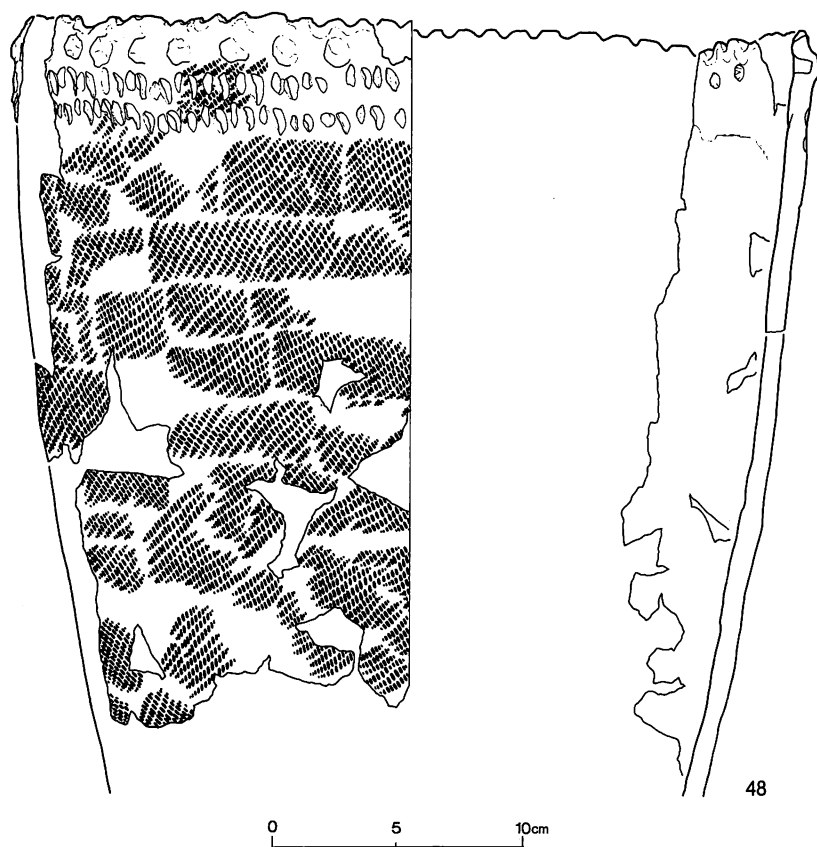
0 5 10cm

図IV-116 II-A層出土のIV群c類土器(2)

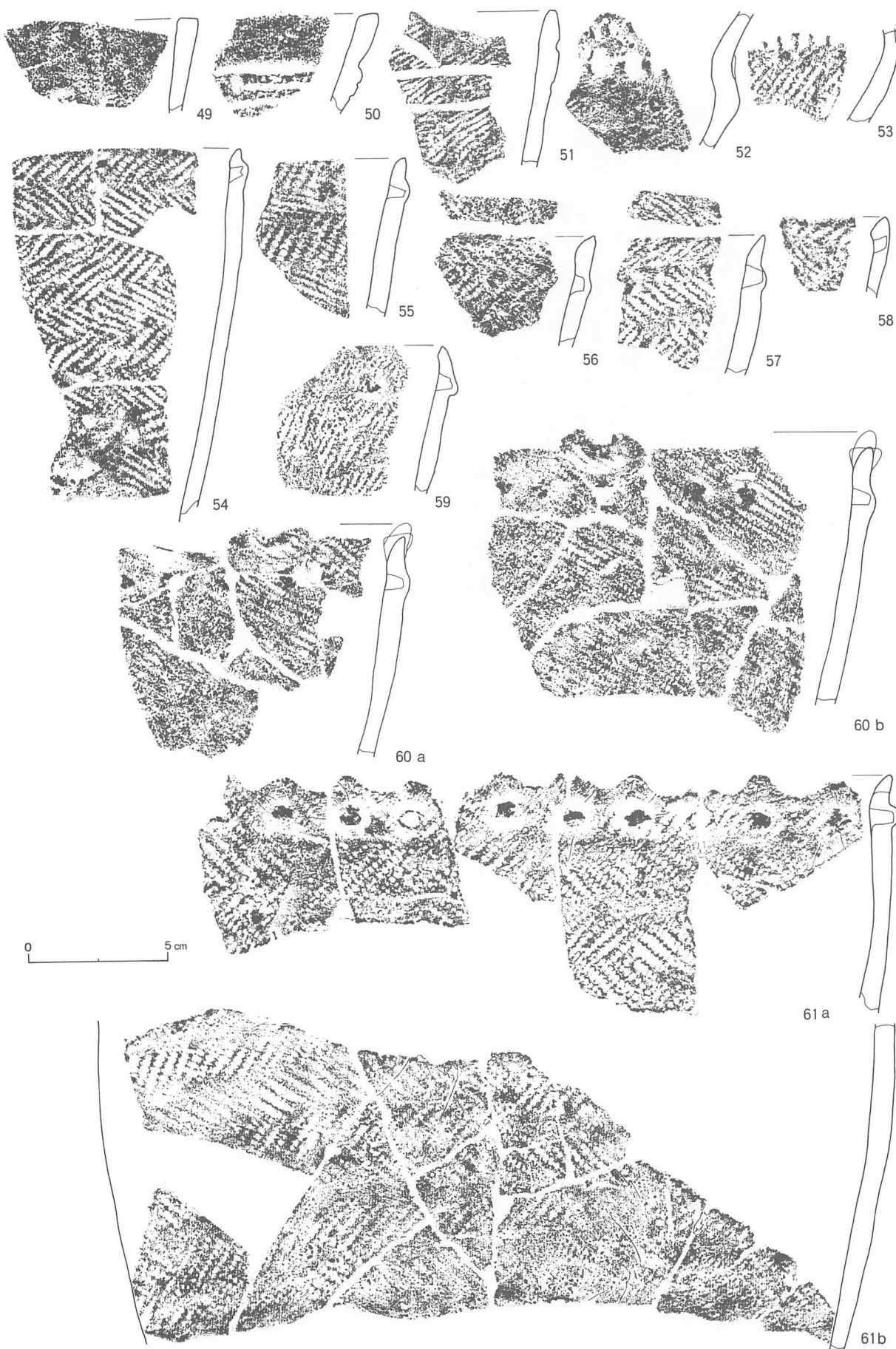


46の文様展開図

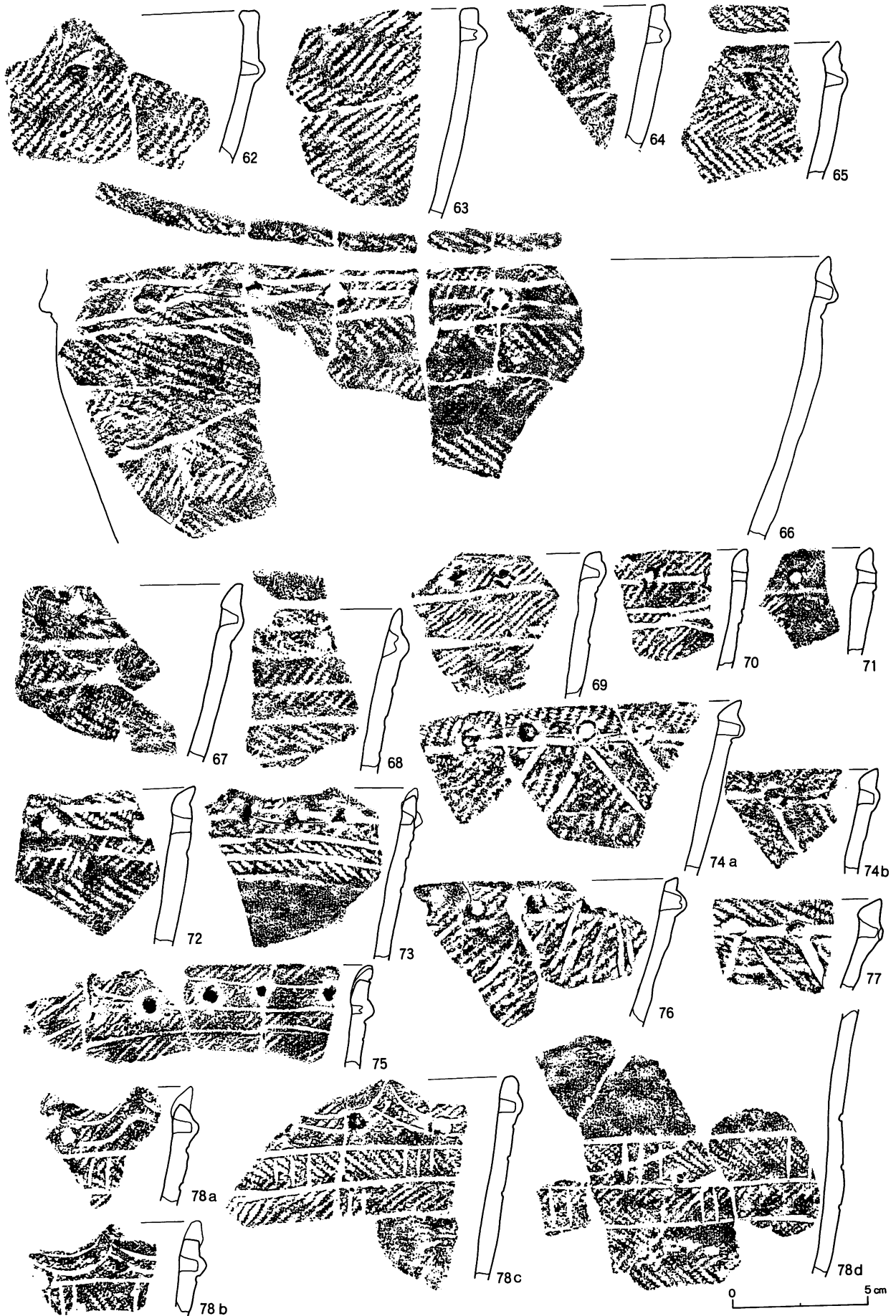
図IV-117 II-A層出土のⅣ群c類土器(3)



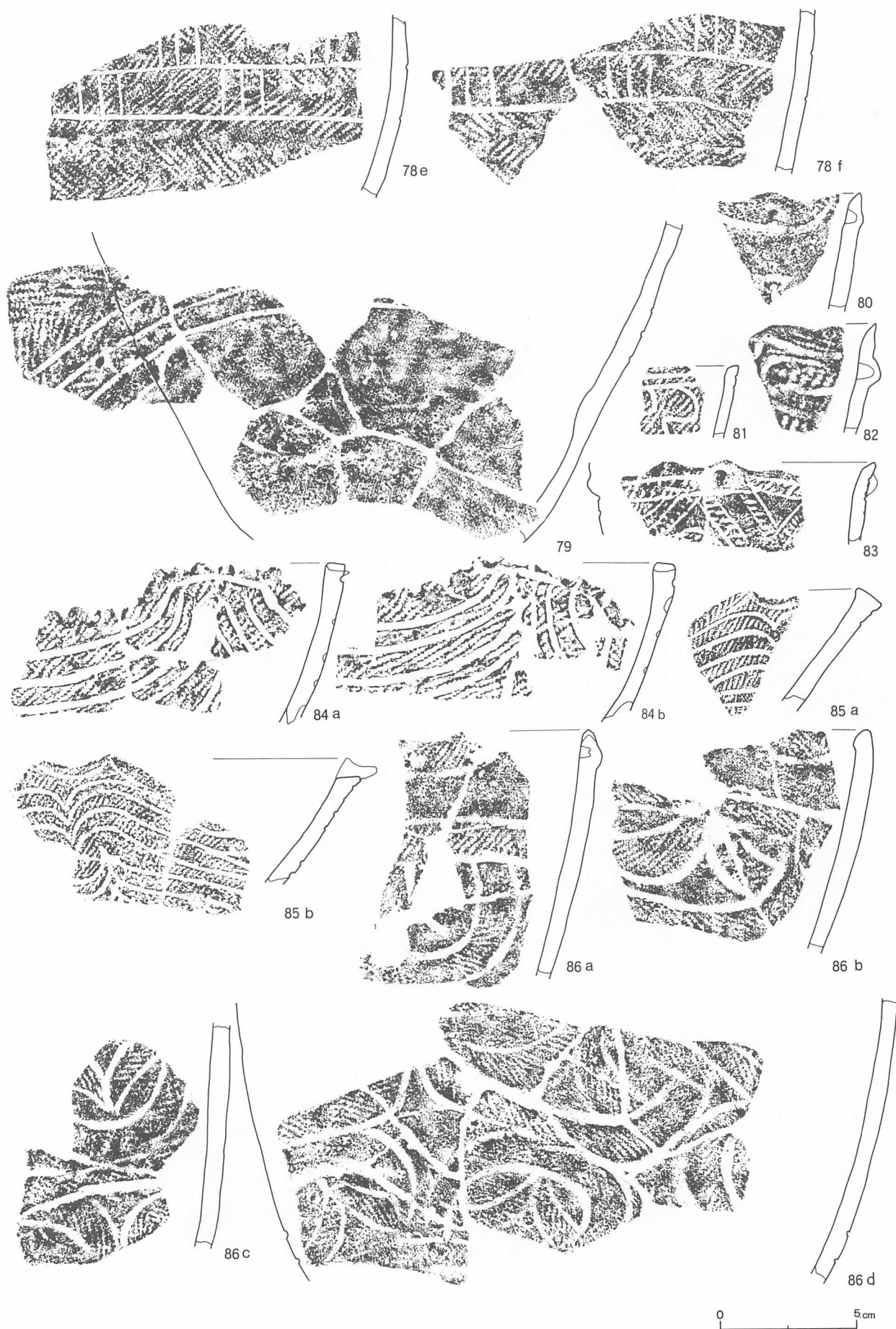
図IV-118 II-A層出土のIV群c類土器(4)



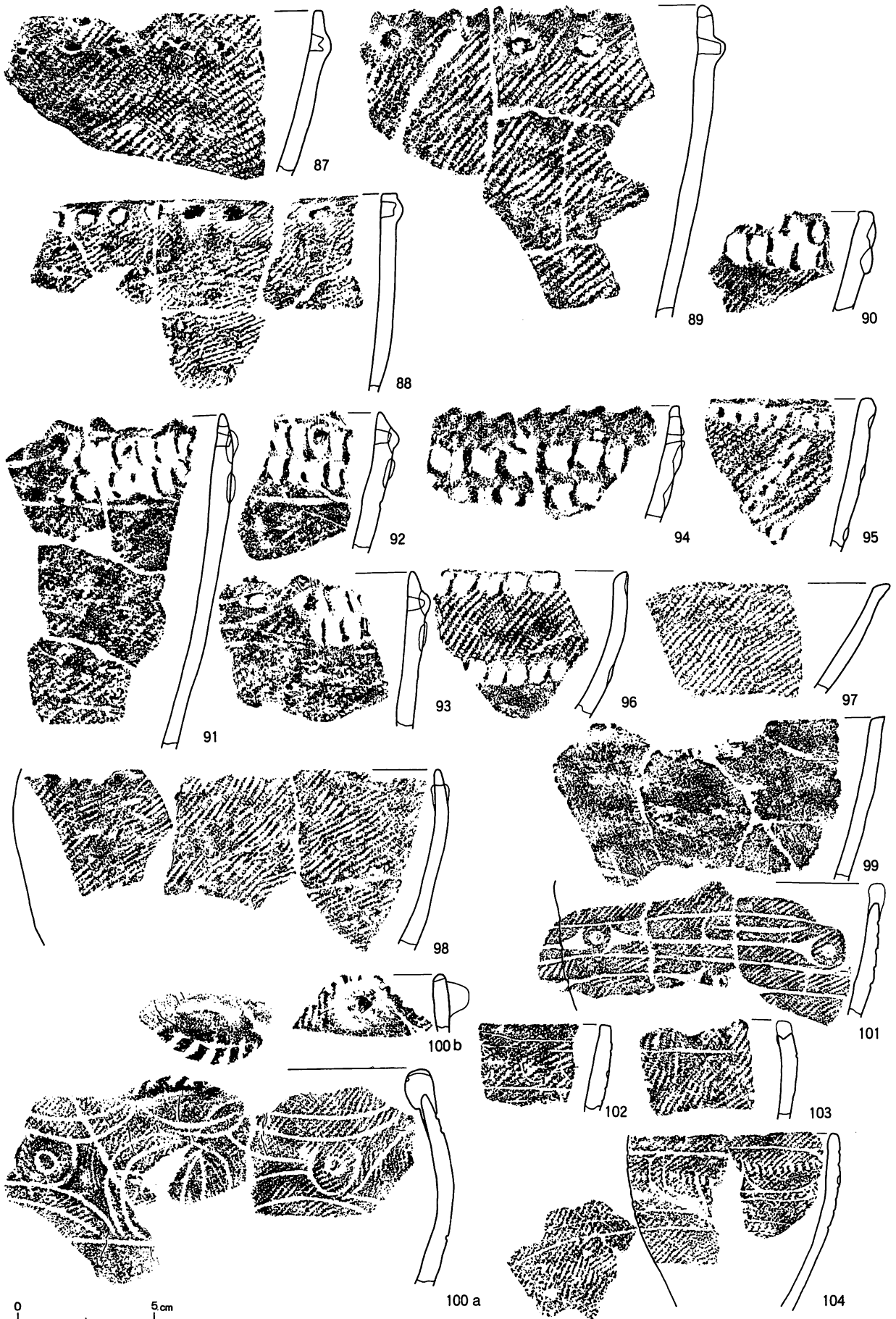
図IV-119 II-A層出土のIV群b類・c類土器(5)



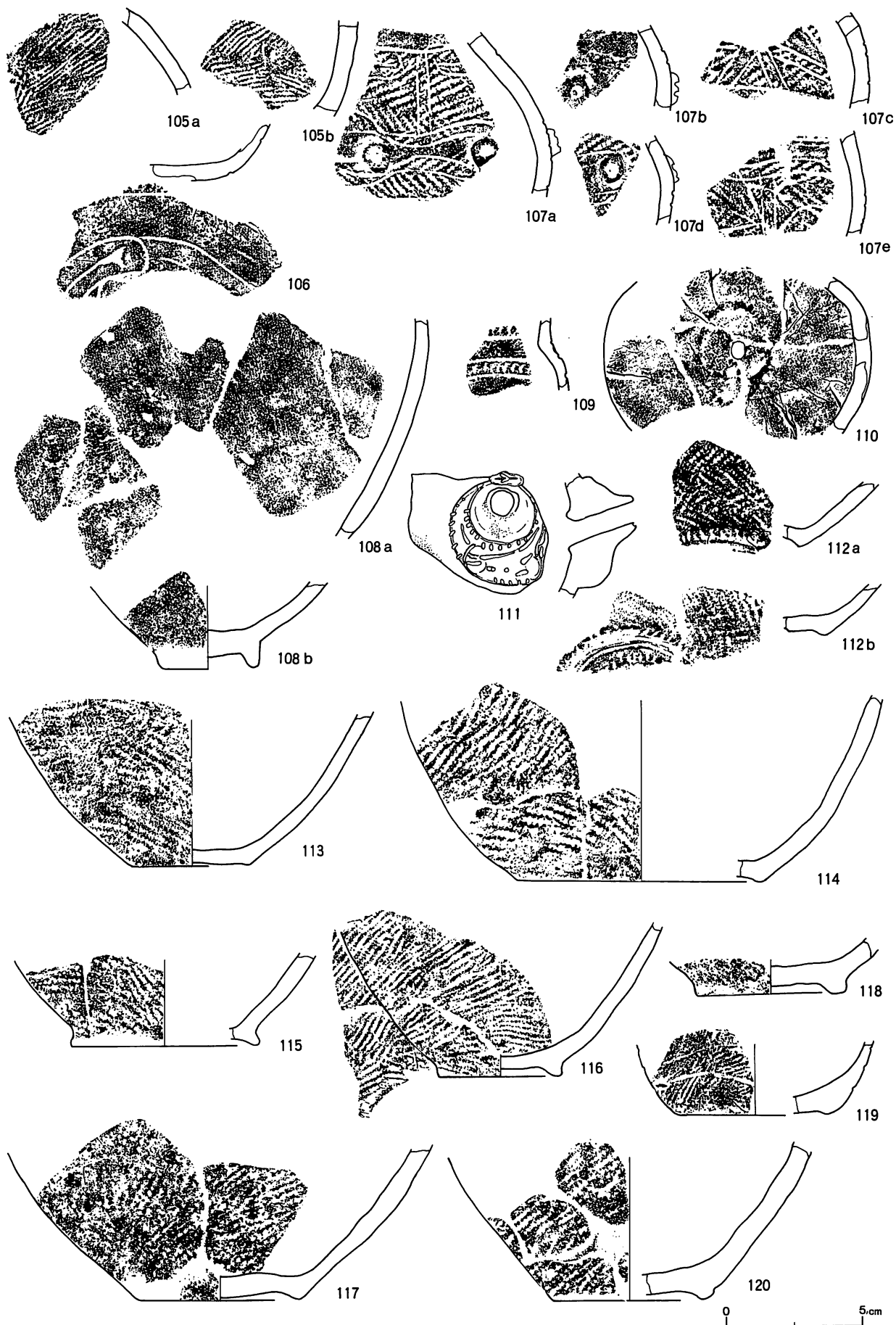
図IV-120 II-A層出土のIV群c類土器(6)



図IV-121 II-A層出土のIV群c類土器(7)



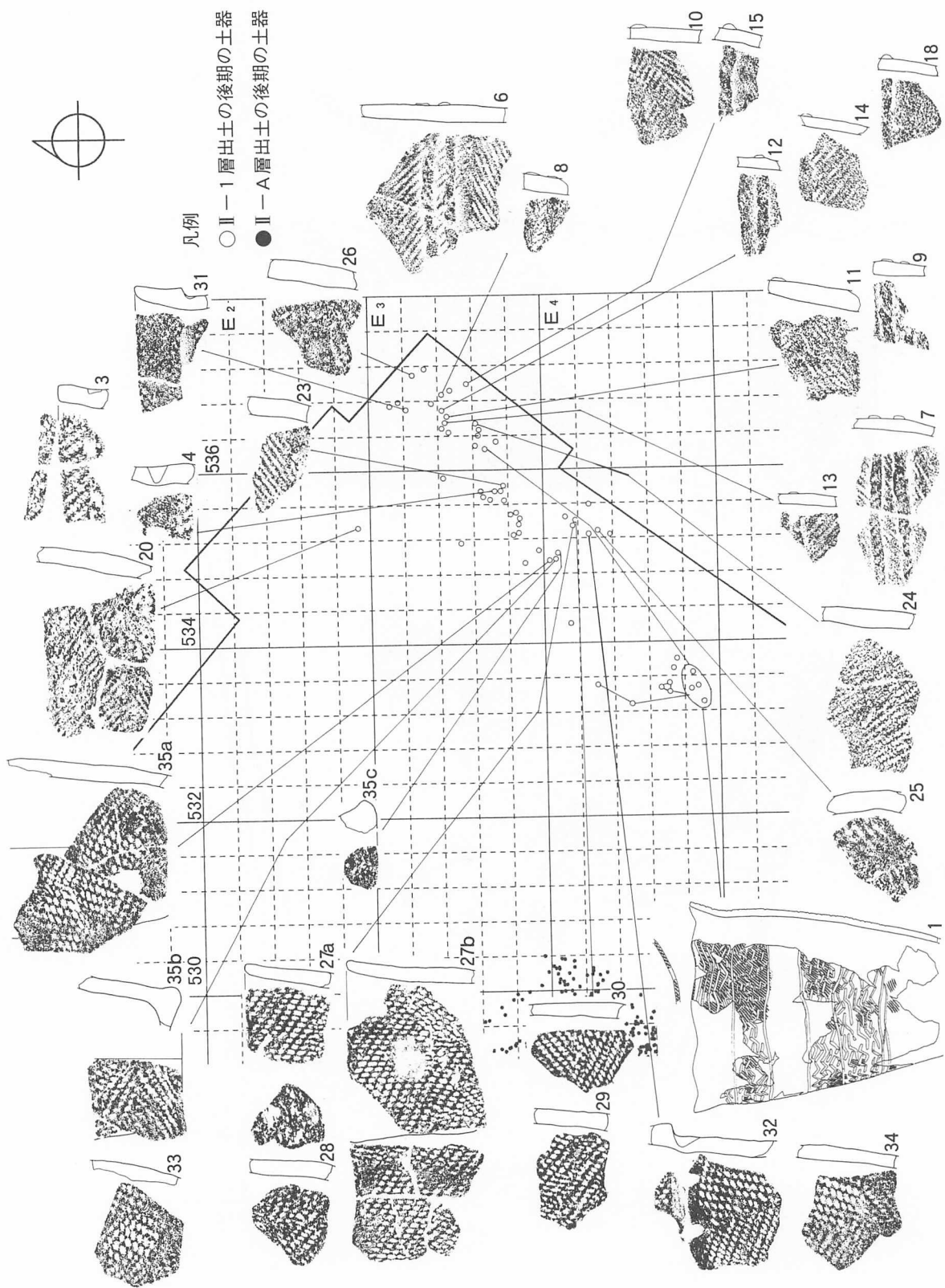
図IV-122 II-A層出土のIV群c類土器(8)



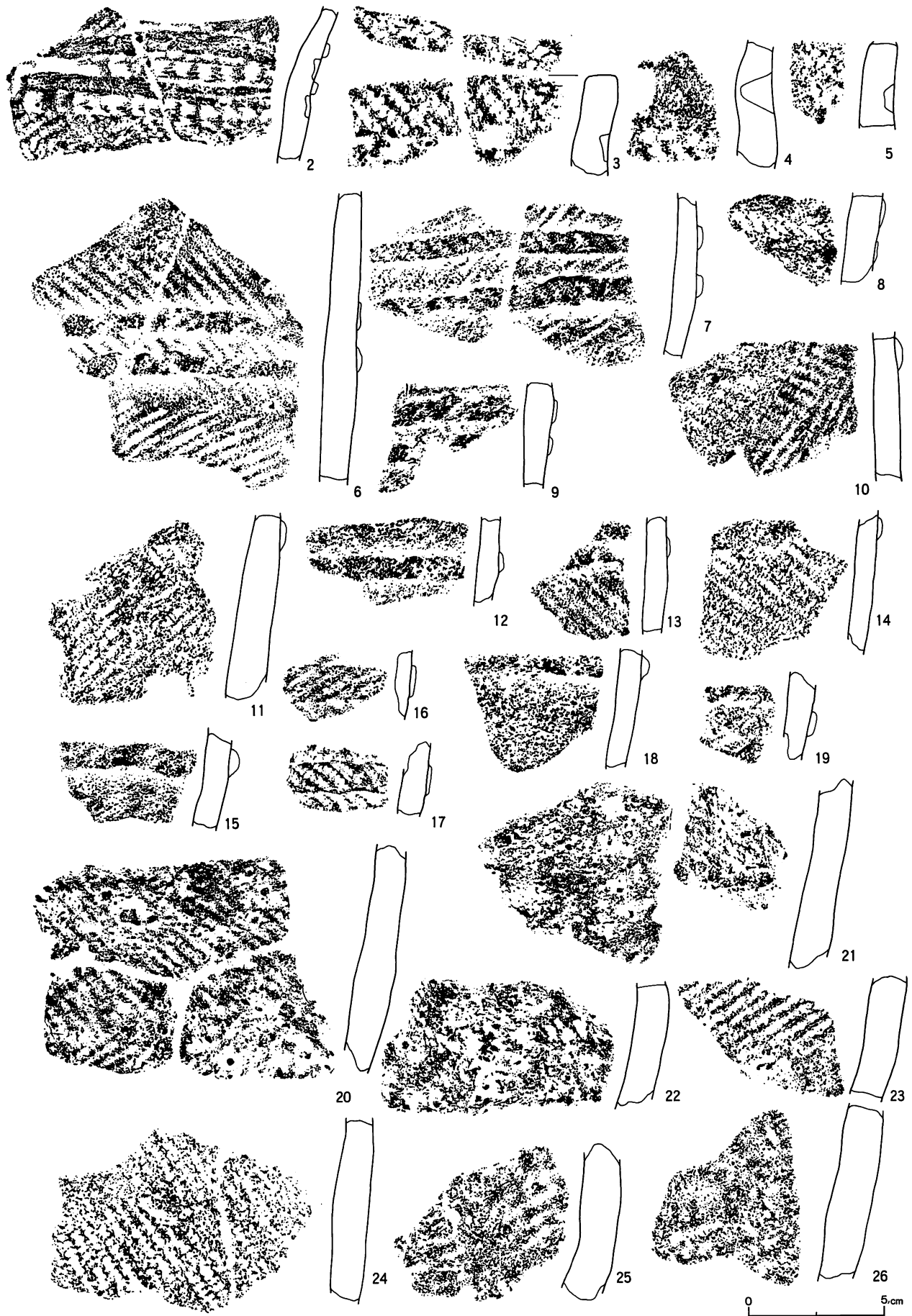
図IV-123 II-A層出土のⅣ群c類土器(9)



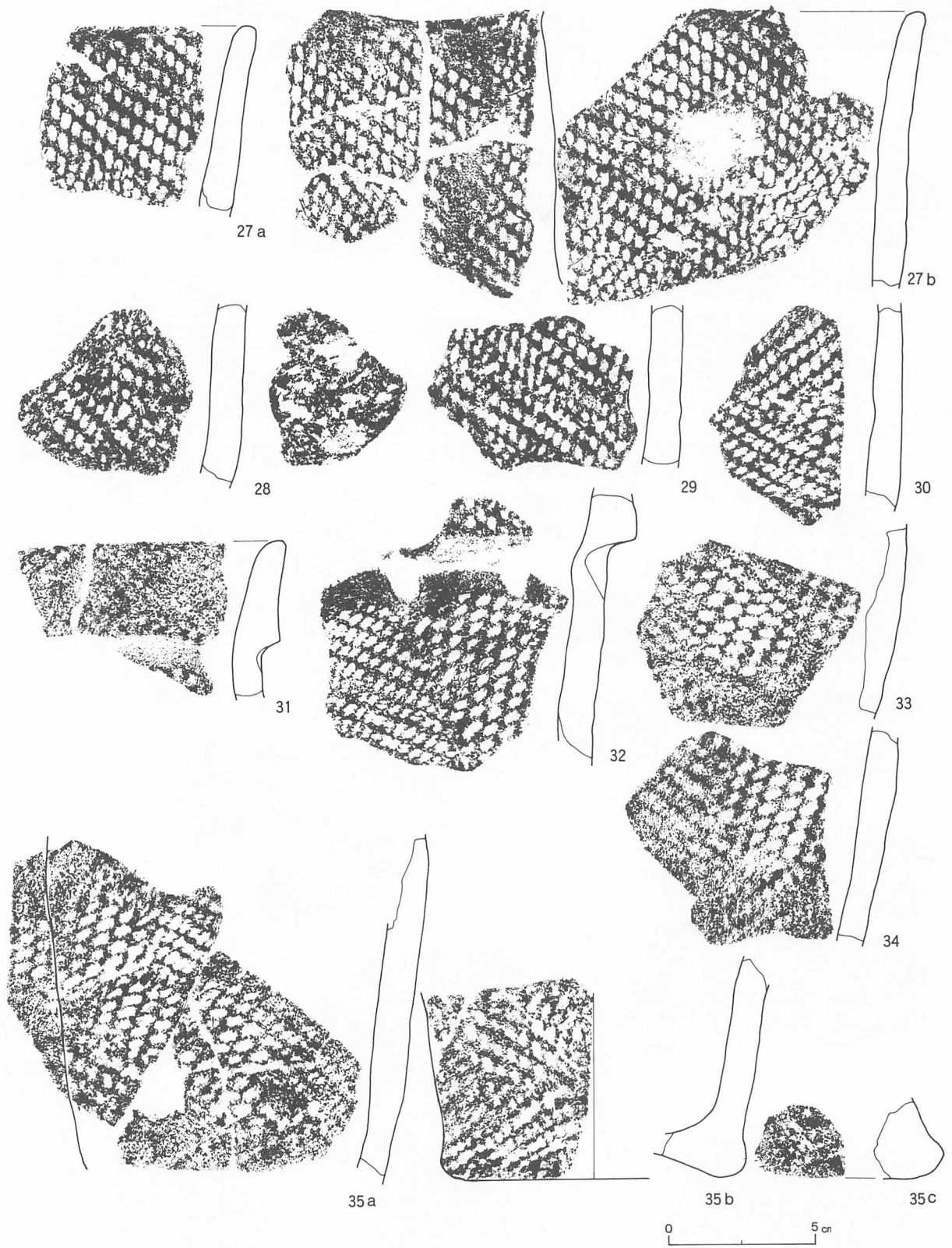
図IV-124 II-1層出土のIV群a類土器



図IV-125 調査区東端II-1層出土の土器分布



図IV-126 II-1層出土のⅢ群・Ⅳ群土器



図IV-127 II-1層出土のIV群土器

V群土器 (図IV-130~149・図版IV-82~97)

2か年の調査で出土したV群・VI群土器は90,866点である。摩耗がはげしいものや小破片が多く、文様が判別できないものが多かった。縄文のみが施文された胴部破片についてはV群・VI群土器の区別が困難であったため便宜的にすべてV群土器として集計した。

V群土器はV群a類とV群b類が少なく、ほとんどがV群c類土器である。

V群a類土器 (図IV-130-1・図IV-136・137-18~60、図版82・84・85)

器形は深鉢、浅鉢形がみられる。文様は内面からの突き瘤文、爪形文、刺突文などが施される。刺突文はすべて斜めに刺突され、爪形を模している。口縁は小波状となるものが多くみられる。V群a類土器はV群c類土器に比して焼きが良く、薄いものが多い。胎土には砂粒や白い粒が特徴的にみられる。

これらは御殿山式、上ノ国式に相当するものと考えられる。

復元土器 (1)

1はⅡ-1層直下の砂層中よりまとまって出土した。口径35cm、器高は復元された部分で35cmの深鉢形土器である。器厚は全体に薄く、器形は口縁部から底部へかけて緩やかにすぼまる。胴部はやや膨らむ。口縁は4カ所に突起があり、口唇部には棒状の工具により刻みが入れられる。口唇部直下4cm程には無文帯が設けられ、そこに半截竹管状工具により、半月様に刺突文が施される。胎土には白い小礫、粒が混じる。内面は磨かれている。

拓本土器 (18~60)**深鉢形土器** (18~33、38~49)

18~20・23は内面から突き瘤が施されるもの。18は内面から斜めに刺突される。口唇部は棒状の工具で刻みを入れ、小波状口縁となる。19・20・23はともに口縁は薄く尖る。19・20の口唇部は棒状の工具で刻まれる。19は突き瘤下が指ですられる。24は無文地と縄文地の境目に瘤状の貼り付けが付けられる。焼きが良く、内面は磨かれている。

21・22・25~39は爪形文が施されるもの。21・22は同一個体である。口唇部形状は丸く、口唇には2個対の斜位の刻みが入れられる。口唇部直下には5cm程の間隔で瘤状の貼り付けが付き、その間を平行沈線文が1条もしくは2条巡る。また貼り付けの上下端にも沈線が入れられる。胎土は焼きが良く、砂粒が混じる。また21には貫通しないが、焼成後に孔が穿たれている。25~33・35は口縁は小波状となるもので、33以外は棒状工具によるきざみにより作り出される。25・26・28・29は地文の縄文上から爪形文が施されるもの。27・30~33・35は無文地に爪形文が施されるものである。33は口唇部に指頭による小波状がほどこされる。文様は3段に爪形文が施されるが、上から1段目はつまみ上げ、2段目は指頭による圧痕文である。38・39は小型の爪形文が施されるもの。38は口縁がやや開く。

40~49は刺突文が施されるもの。竹管状の工具で斜めに刺突される。44は中空の施文具が使われている。48・49は幅広の沈線が施される。三叉様の沈線もみられる。縄文は節が扁平となる。

浅鉢形土器 (35~37、50~54)

34・36・37は沈線と爪形文が施されるもので、50~52・54は爪形文が施されるものである。50・51は強くめくれあがる爪形文が口縁部の無文地に施文される。53は竹管状の工具により刺突されてい

る。54は口縁部が内傾する。

底部 (55~60)

ともに爪形文が底部側面に施される。55・56は深鉢形土器、57~60は浅鉢形土器の底部。56は底面と底部側面に爪で軽く施文している。60は底面に爪形が施される。

V群b類 (図IV-135-14~16、図版-83)

14~16は大洞C2式に相当する壺形土器。赤色顔料の付着がみられる。同一個体の可能性がある。

V群c類 (図IV-135-17・図IV-138~149-61~177、図版83~97)

本遺跡でもっとも多く出土した。分布は遺跡全体に広がるが、調査区北東側にやや濃く分布する傾向にある。器形は深鉢、浅鉢、鉢、胴部に張り出しがある鉢形土器などがみられる。文様は縄線文、沈線文、刺突文、縄文などがみられ、地文の縄文はLRが多い。また口唇部上面に縄線文や刺突文、縄文が施されるものも多くみられる。胎土には石英や長石、砂粒などを含む。

張り出しがある鉢形土器にはほとんどすべてに沈線文、貼り付けがみられる。いわゆる舟形土器と関係がありそうである。土壌から出土するものも多い。今回は異形土器として取り扱った。

浅鉢形土器などには非常に細い沈線文、縄線文が施される一群がある。いわゆるヌサマイ式に相当する土器の可能性がある。

復元土器 (図IV-130~133-2~13、図版82・83)

2は口径24.8cm、器高22.2cmの鉢形土器である。底部から緩やかに立ち上がり、口縁部付近で直立する。底部は段をもつ丸底である。縄文地に平行縄線文が施される。3は口径24cm、器高21.5cmの鉢形土器。2と器形、文様構成とも相似するが、平行縄線文が口縁部直下の無文帯に施される。4は口径28cm、器高は復元された部分で29cmである。器形は底部から口縁部に向けて直線的に開き、底部は丸底になるようである。口縁部には7条の沈線文が巡る。口唇断面は切り出し状となり、口唇には縄による刻みが入れられる。輪積み痕の段が比較的明瞭に残る。5は口径31cmの深鉢形土器。口唇断面は尖り、開き気味となる。摩耗がはげしく文様はあまりはっきりしないが、横位、斜位の沈線を施した後、縦位にも沈線が施文されるようである。地文の縄文は基本的には縦走する。内面は輪積み痕をよく残し、指頭により調整されている。6は口径31cm、器高は34cmの深鉢型土器である。器形は底部から胴部まで直線的に開き、胴部からやや直立する。口径に対し底部が小さい。底部は段をもつ丸底である。口唇断面は丸型で、口唇上面には棒状工具により刻みが入れられ、小波状口縁となる。口縁は4カ所で緩やかに波打っている。文様は沈線により弧線文が描かれる。内面には輪積みの痕が残る。焼きは良く、胎土には砂粒が混じる。7は3分の1ほどの土器から器形を復元した。口径35.5cm、器高27cm程の鉢形土器。口縁部は小波状口縁となり、非常に小さな突起がみられる。表面には輪積み痕の段が残る。8は口径13cm、最大器高8cmの浅鉢である。器厚は非常に薄い。摩耗がはげしいが、文様は縄文のみである。口縁部は1カ所のみ突起があり、突起部上面には棒状工具で刻みが入れられる。それ以外の口唇部は、断面がとがり気味になる。底部は中央が押し上げられる。胎土には赤褐色の砂粒が混じる。9は口径33cm、器高12.5cmのボウル状の浅鉢である。非常に摩耗しているが、文様は縄文が縦行する。口縁部には頂部に刻みの入る山形の小突起がある。口唇断面は角型で、口唇には細い縄線文が2条1セットで施文される。さらに大きな突起部が存在すると思われる。10は口径20.5cm、残存部の器高7cmの異形の浅鉢形土器である。口縁は水平とならず、斜めに傾く。口縁内面には

1条の縄線が巡る。底部には段があり、やや楕円となるようである。11は口径14.5cm、器高7cmの浅鉢形土器。体部は無文でよく調整されている。底部にのみ縄文が施される。12は口径14.5cm、器高7cmの浅鉢形土器。無文である。口縁部は棒状工具による刻みにより小波状口縁となる。13は口径15cm、器高13.4cmの胴部に段をもつ鉢形土器である。馬蹄形の貼り付けが付く小突起が対になり、それぞれ貼り付け下に孔が穿たれる。対になる突起の間には左右2カ所づつに突起があるものと考えられ、計6カ所の小波状突起が推定される。文様は沈線により弧線文が描かれる。胴部にある張り出しは、張り出し上部が棒状の工具でなでられることによって強くめくれ上がる。口唇断面は角型で、口唇上面には縄文が転がされる。内面ははけ状の工具で磨かれる。胎土には砂粒が含まれる。

拓本土器 (図IV-135-17・図IV-138~149-61~177、図版-83・86~97)

壺形土器 (17)

17は壺形土器の頸部である。平行、縦位の沈線と、弧線状の沈線が引かれる。節の偏平な縄文がみられる。

深鉢あるいは鉢形土器 (61~102)

61~73は縄線文がみられるものである。61・62は無文地に縄線文が施されるもの。いずれも口唇断面は角型である。63~65は縄文地に縄線文が施されるもの。65は薄く、口唇が尖り気味になる。66は縄線文直下に段をもつ。口唇断面は角型である。67は組紐が押圧される。68・69は縄線文下に刺突がみられるもの。68は縄線文下の張り出し部に、竹管状の工具で刺突が巡る。69は縄線文下に鋸歯状文を縄線により施し、鋸歯間に下方から刺突文が施文される。70は無文地に縄線文が施される。縄線文は全周しない。口唇上面には竹管により刺突がなされる。焼きが良い。71・73は縦位と横位の縄線文が施されるもの、72は斜位と横位の縄線文が施されるものである。

74は縄線文と沈線文が交互に施文されるもの。口唇部は指頭により小波状口縁となり、これにより口唇部直下に施された縄線が、つぶれて隠れる。75・76は74と同一個体の胴部である。張り出し部に指頭により施文がなされている。

77~95は沈線文がみられるものである。沈線文はすべて縄文地に施文される。

77~80は細い沈線文が施されるもの。77は細い平行沈線文が施される。78は平行沈線文と縦位に蛇行沈線が引かれる。79は斜行沈線により斜格子状に文様構成される。80は口唇部直下に3条の平行縄線文が施され、その下に3条の平行沈線文が施される。口縁は突起をもち突起部口唇上面には細い縄線により、きざみや円形文が施される。81は平行沈線文と下方から半載竹管の刺突文が施されるもの。83~86は変形工字文が崩れた文様が施文される。83は沈線で横長に区画された内部に平行縄線文が施される。84は口唇断面がとがる。炭化物が内面に付着している。86は口縁部やや開く。

82・87・88・90は平行沈線と曲線文が組み合わされたもの。88は口縁に指頭による調整がはいる小突起がある。口唇断面は角形で、口唇には縄文が施文される。90は口縁に棒状工具と縄線による刻みが入れられる。

89は縄文地に沈線で曲線文が描かれるもの。

91~95は沈線で弧線文が施されたもの。口唇断面は切り出し気味となる。器厚は薄い。91・92は口唇内面に沈線による刻みが、93は縄により刻みが入れられる。94は口唇内面に縄文が施文される。95は口縁直下に半載竹管状の工具で半月状の刺突がなされる。

4 包含層の遺物

96は刺突文が多用され、文様帯は波状になるようである。

97～100は縄文のみのもの。98は口唇部に縄文が施される。

101～104は底部である。すべて底面にも縄文が施される。103・104は焼成後、底部に穿孔されるもの。103は2カ所に穿孔がある。焼きは良い。

浅鉢形土器（105～154）

浅鉢形土器は口唇や貼り付けに細い縄線で、横位、縦位、円形、渦巻き形、U字形に細い縄線で文様が施されるものが多い。また口縁部に穿孔されるものも比較的多い。

105～113は沈線文がみられるもの。105・106は口縁直下に沈線で弧線文が施され、その下に3条の平行沈線文が施文される。107～109・112は平行沈線文が施文されるもの。108は口唇上面に細い縄線文が施される。109は上面観が四角形となる異形の浅鉢形土器。それぞれ角部に貼り付けが施される。110は細い縄線で曲線文が施文される。縄線文の上下には竹管状工具で刺突文が加えられる。112は口唇断面は角形で、口唇上面には横位、縦位、渦巻き状に縄線文が施される。113は平行沈線施文後、太い縦位の沈線が引かれる。その下部は指頭により撫でられる。太い沈線の周囲には竹管状工具による刺突文が巡る。口唇上面には細い平行縄線文が施される。

114～117は体部、口唇、貼り付け上面に細い縄線文がみられるもの。平行、縦位、渦巻き状に縄線文がみられる。

117～124は浅鉢の装飾部である。117は胴部から口縁にむけて把っ手状の貼り付けが付くもの。119は異形の浅鉢形土器。先細りする器形の先端に菱形の貼り付けが付けられる。その後で、貼り付け中央と両脇に穿孔される。118・120～124は貼り付けや口唇に細い縄線文が施文される。

125～133・144・145・147は縄文のみのもの。125は口唇断面が角形を呈する部分と尖り気味となる部分がある。口唇上面には棒状工具、縄線により刻みが付けられる。126～132は口縁に貼り付けが付けられ、その上面に縄線文が施文されるもの。129は貼り付け上面に竹管状工具による刺突が2つ施文される。133は口唇に沈線による刻みがいれられる。

134～136は縄文地に縄線文がみられるもの。

137・138・146は刺突、縄端による圧痕が施文されるもの。137は縄端圧痕文で、口縁部はやや内傾する。138は底部に棒状工具により刺突文が施される。146は縄端圧痕文が底部側面に巡る。

141～143は内面に文様のみられるもの。141・143は内面に縄線文が、142は内面に平行沈線文がそれぞれ施される。

144・145は口唇部に貼り付けがなされ、上面に指頭などにより沈線が引かれる。

148～150は底部直上に段がみられるもの。

151は袖珍土器。

152～154は底部。152は底部とその側面に縦位、横位の沈線が施される。153は底部側面に刺突文がみられる。154は底部側面に縄線文と縄端圧痕文が施される。

鉢形土器（155～161）

155・156・158・160は沈線文がみられるもの。157は縄線文が施されるもの。口径は38cmほどである。159・161は縄文のみのもの。

異形土器（胴部に張り出しがある鉢形土器）（162～177）

162～168は沈線で弧線文が描かれるもの。162は円形の貼り付けが波状口縁部に貼付され、その後孔が穿たれている。口唇断面は丸みを帯びる。胎土には砂粒が含まれ、焼きは良い。163の器形は胴部の張り出しから口縁にむけて内側にすぼまる。口縁は緩やかな波状口縁となる。164・165は垂下する貼り付けをもつもの。166は太い沈線が施文された後、細い沈線が張り出しより上部全体に施される。赤色顔料が付着する。167の口唇部断面は尖り気味となる。胎土には小礫が混じる。168は比較的大型のもの。口縁はやや内径する。169～172はミニチュア土器。口縁部には1条の沈線と多数の刺突文がほどこされる。

173は施文具を押し引き様で移動している。口唇断面は角型である。

174～177は縦位、横位、斜位の沈線文により文様構成されるもの。174・176・177は菱形様の文様が連続して施される。174は縦位と斜位の沈線を施した後、斜位の沈線に沿って、刺突がされる。刺突には竹管状の工具が使われる。口縁部はやや開く。176は摩耗がはげしく、文様がよくわからない。張り出し部の直上は、すり消し帯が巡る。口唇断面は尖り、やや開く。177の口唇断面は角型で、口縁部はやや開く。2～3条が単位となった斜位の沈線を縦位の短い沈線2条で区切る。175は幅広の工具により横位沈線が、口縁部から張り出し部まで8条施された後、同じ工具で曲線文1条と、縦位に口唇部直下から沈線が引かれる。口唇上面には棒状工具により刻みがいいる。

VI群土器（図IV-150～155、図版-98～102）

VI群土器の分布は調査区北東部の旧河川沿いと中央より南側とに比較的多くみられる。器形は深鉢形土器、鉢形土器、壺形土器である。深鉢形、鉢形土器は口縁が開き気味となり、胴部がふくらむ、底部は上げ底となるものが多い。胎土は石英、長石を含むもの、砂粒を含むものなど様ではない。

復元土器（図IV-150-1～5、図版-98）

1は口径15.5cm、器高13.2cmの鉢形土器。胴部がややふくらむ。底部は上げ底となっている。口縁には二つの波状突起が対になっており、その頂部は指により潰されている。波頂部直下には穿孔がなされる。口縁部には縄線文が4条施され、その下には縄端が横に等間隔に押圧される。口唇部断面は角形。地文の縄文はRLである。2は口径11cm、器高8.7cm小形の鉢形土器である。器形は胴部がふくらみ、口縁へ向かって開く。底部は上げ底である。口縁は小波状口縁となる。全面に縦走する縄文が施される。胎土には石英、長石を含む。3は口径11.8cm、器高11.3cmの小形の鉢形土器である。無文で口縁は非常に緩やかな波状となる。口唇断面は角形になる部分と尖って開き気味となる部分がある。胎土は石英、長石をほとんど含まず、1と似ている。4は口径9.5cm、器高9.4cmの小形の鉢形土器。器形は底部から胴部にかけてふくらみ、口縁に向け、やや内傾気味に直立する。底部は六角形を呈すようで、上げ底である。上げ底は底部周囲に貼り付けを施し、形成されている。口縁部には2条の貼り付けが巡り、貼り付け間には沈線が引かれる。5は最大口径25.5cm、器高15.3cmの異形の鉢形土器。上面観は卵形。器形は底部より直線的に開くもので、底部は揚げ底で、菱形となる。口縁には両端に2個体、その中間部に小突起が1個ある。両端部の小突起下には穿孔がそれぞれなされる。口唇断面は切り出し形で、縄線による刻みが入られる。文様は縄文地に2個1単位の縄端圧痕で、長方形の区画を描き、長軸両端には口縁部から底部まで縄端圧痕が施文される。縄文地は口縁から胴部にかけては縦走しているが、胴部から底部にかけては斜行、もしくは横走する。縄文は底部にも施される。

拓本土器 (図Ⅳ-151~155-6~56、図版-99~102)

壺形土器 (6~8)

いずれも縦行縄文である。6は無文地に平行沈線が施される。7は平行沈線文と鋸歯状沈線文が施される。8は縄線文が施されるもの。

浅鉢もしくは鉢形土器 (9~13)

いずれも縄文地は縦走する。9・10・12は平行沈線文がみられるもので焼きが良い。道南部の土器の影響が想定される。11・13は縄線文がみられるものである。胎土には石英、長石がみられる。

9は小形の浅鉢形土器。縄線文直下に縦位と鋸歯状の沈線文が施される。縄線文と鋸歯状沈線の間には棒状工具による刺突がなされる。口唇には一部縄線による刻みがみられる。10は胴部から口縁へ直立気味となる。口縁部の無文地に平行沈線文が施される。12は非常に雑な平行沈線が無文地に巡る。口縁には頂部に刻みの入る小突起がみられる。口唇断面は角形で、口唇は撫でられている。11は横位と斜位の縄線文が施される。口唇には縄線文と棒状工具による刺突文がみられる。13は2条並列した縄線文が施された後、下部2条の縄線文上には横長の貼り付けがされる。貼り付けは断面三角で、上下には縦位に短い縄線が施文される。

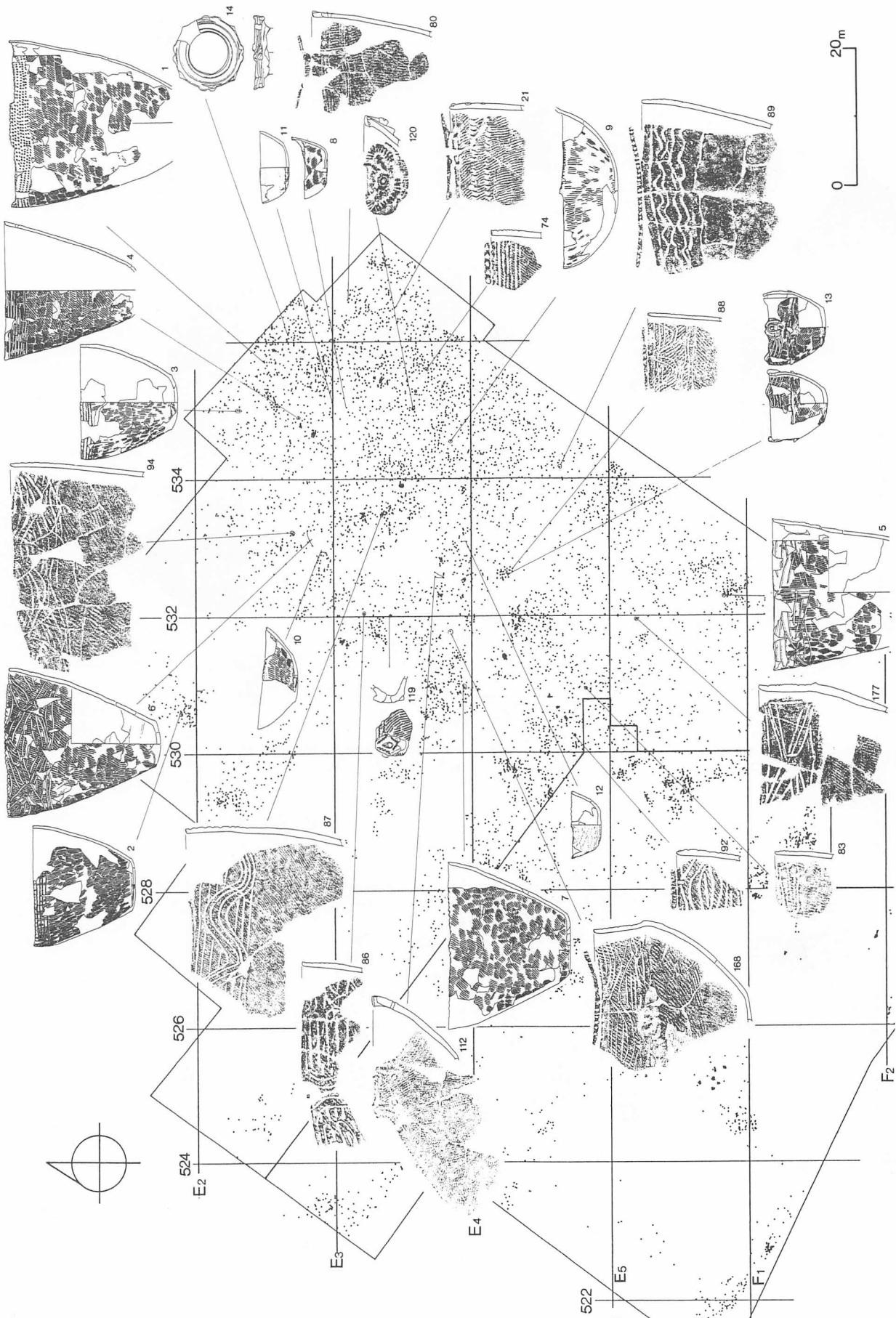
深鉢形土器 (14~45・47)

14~26は縄線文がみられるものである。14は弧線文が施文されるもの。口縁は2つの波頂部をもつものと考えられる。口唇断面は切り出し形で、口唇には縄線が刻まれる。15~18は平行縄線文がみられるもの。15は胎土に、砂粒、小礫がまじる。16は口縁波頂部に貼り付けがなされ、貼り付け上面を棒状工具により凹ませている。17は口縁が外反する。18は縄文地に平行縄線文が施された後、細い沈線が口唇直下から放射状に引かれる。口唇断面は尖り、開き気味になる。口縁は指頭による刻みで小波状となり、口唇内部には縄文が施されている。19~26は平行縄線文と、縦位、斜位の縄線文、刺突文が組み合わされるものである。19は無文地の口縁部に横位、縦位に縄線文が施され、その下に鋸歯状に縄線文が施文される。口唇断面は切り出し形で、口唇には縄線が比較的深く圧痕される。20~22は横位の縄線文と斜位の縄線文がみられるもの。20は口唇断面は角形で、口唇には縄文が施される。21は口縁直下に縄線が強く押圧され、口縁が外反したようになる。口唇には縄文が施される。20・21は胎土には石英や小礫が混じる。23は口唇と、口縁の縄線文上に半載竹管状の工具で刺突文がほどこされる。24は口唇上面に半載竹管状工具による刺突がみられる。25は比較的細い縄線文が施されるもので、縦位には縄端が押圧される。口唇断面は切り出し状となり、口唇には細い縄線が刻まれる。26は縄線文間に棒状工具により刺突文が施される。

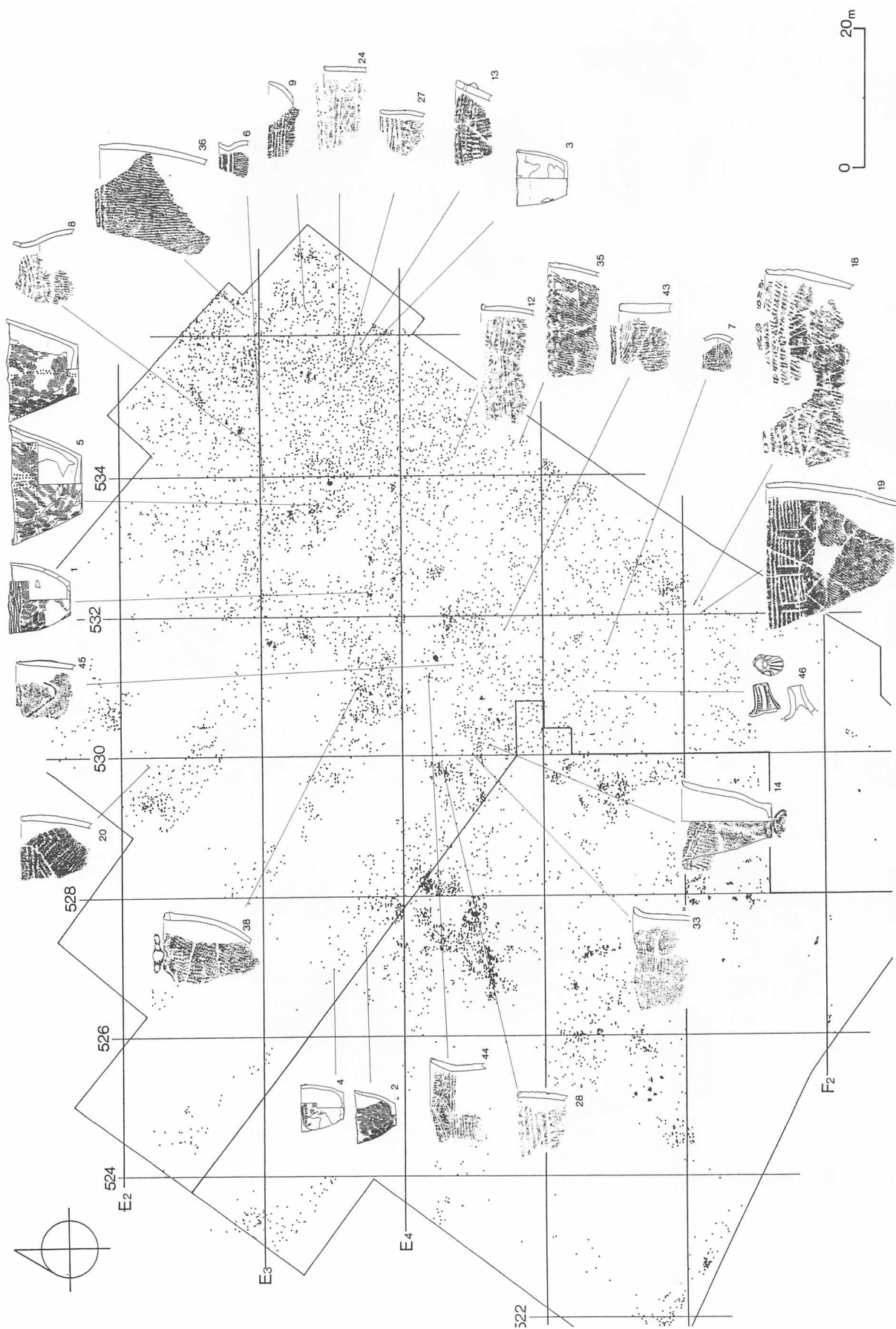
27~34は沈線文がみられるもの。31を除き、刺突文、縄端圧痕文と組み合わされる。27・28は比較的太い沈線文下に縄端圧痕文が施される。28は口唇断面が角形で、口唇外側には縄による刻みが入れられる。29・30・32は沈線文下に棒状工具による刺突文がみられるもの。29・30は同一個体の可能性が高い。31は縦走する縄文地上に細い平行沈線文が施される。33・34は同一個体。口縁は波状となり、その頂部には縄端圧痕がみられ、口唇には2条の縄線が巡る。口縁部には細い平行沈線文が施され、同じ工具で、縦位、横位に刺突文が施文される。

35は縦走するRLの縄文地に縄端圧痕が施されるもの。2カ所に穿孔がみられる。

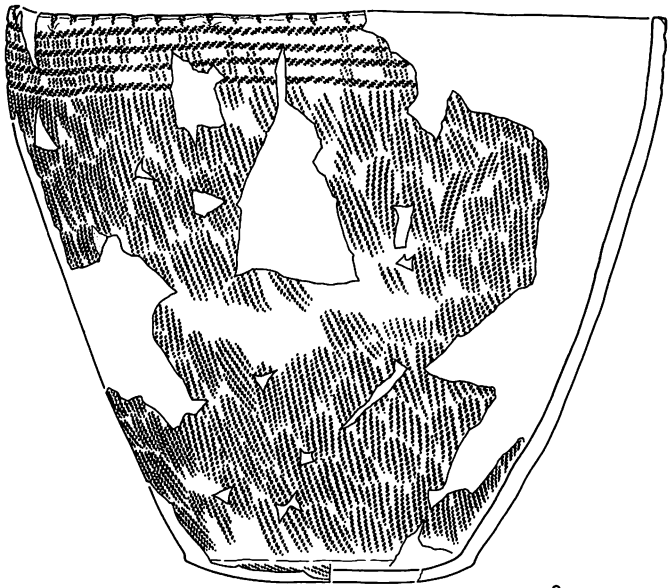
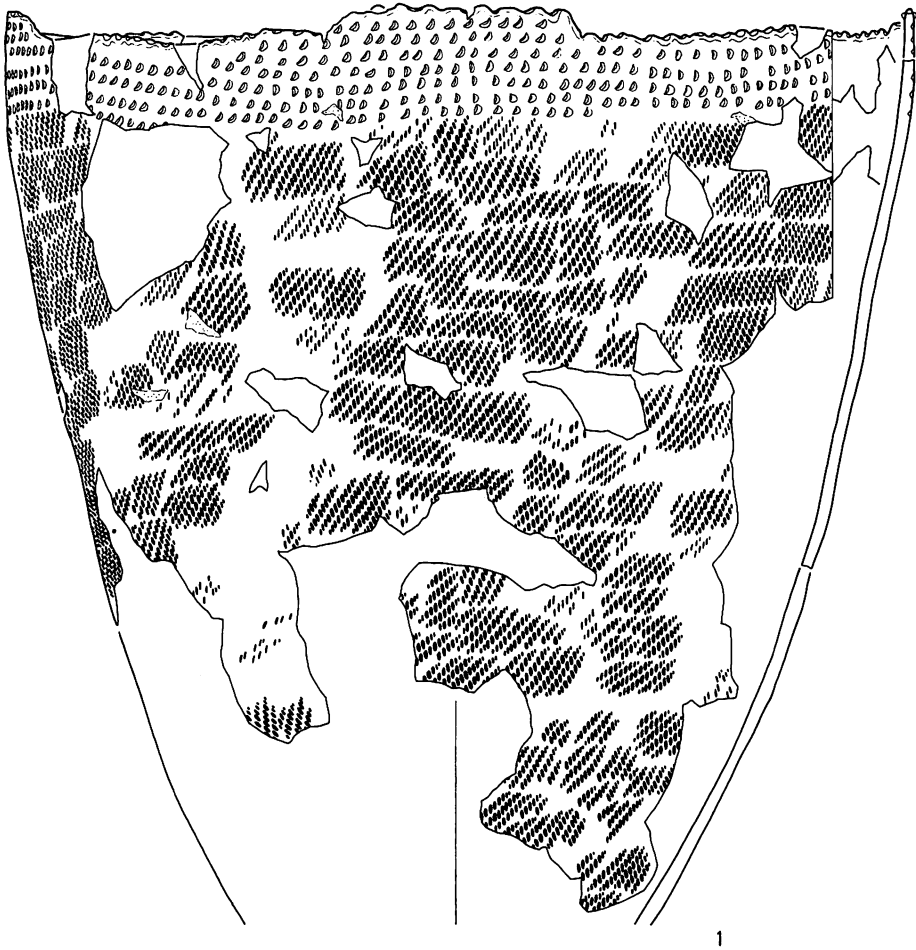
36~39は縄文のみがみられるもの。いずれも縄文が縦走する。36は口唇に縄文が施され、口縁がや



図IV-128 V群土器分布



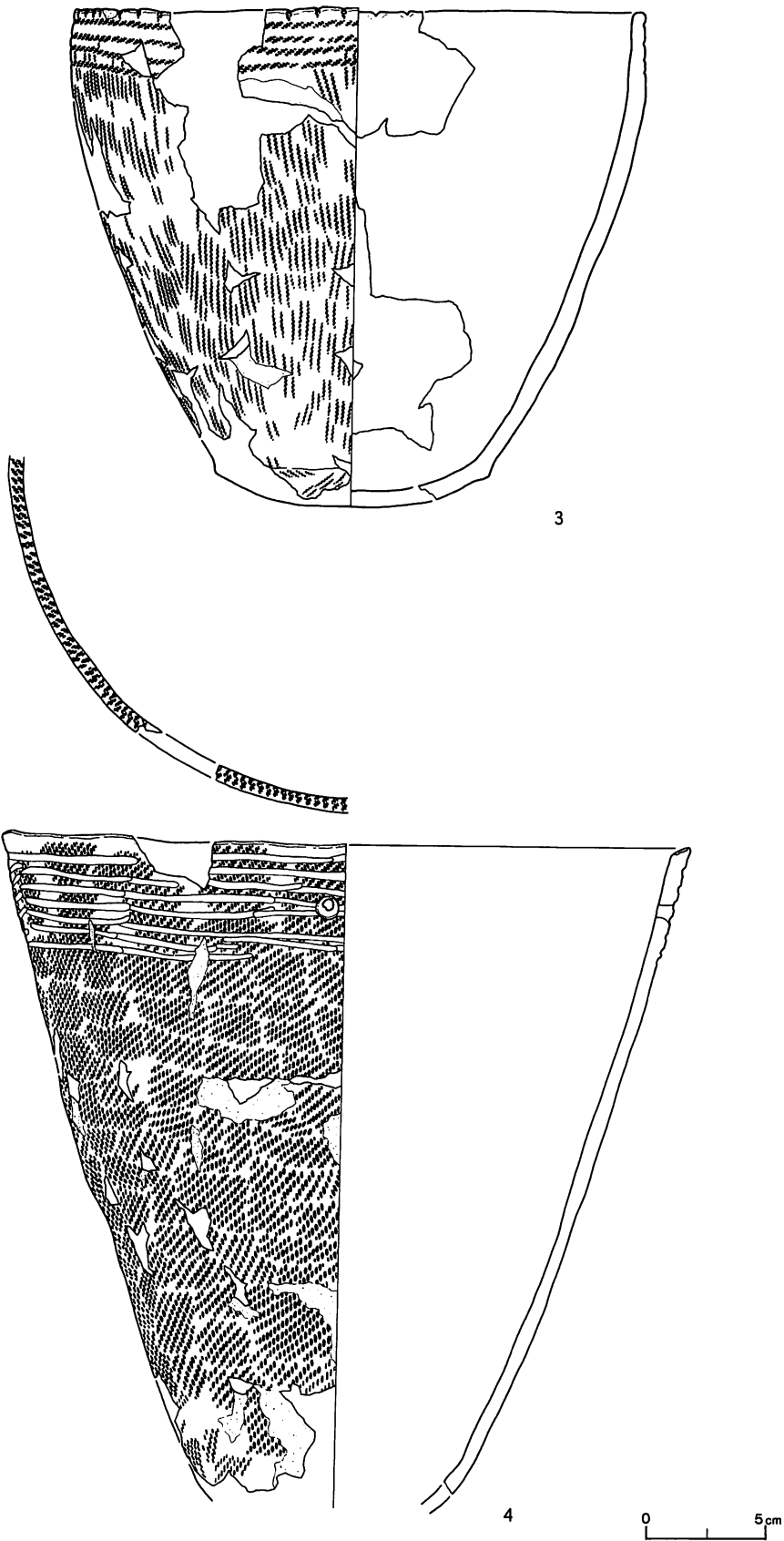
図IV-129 VI群土器分布



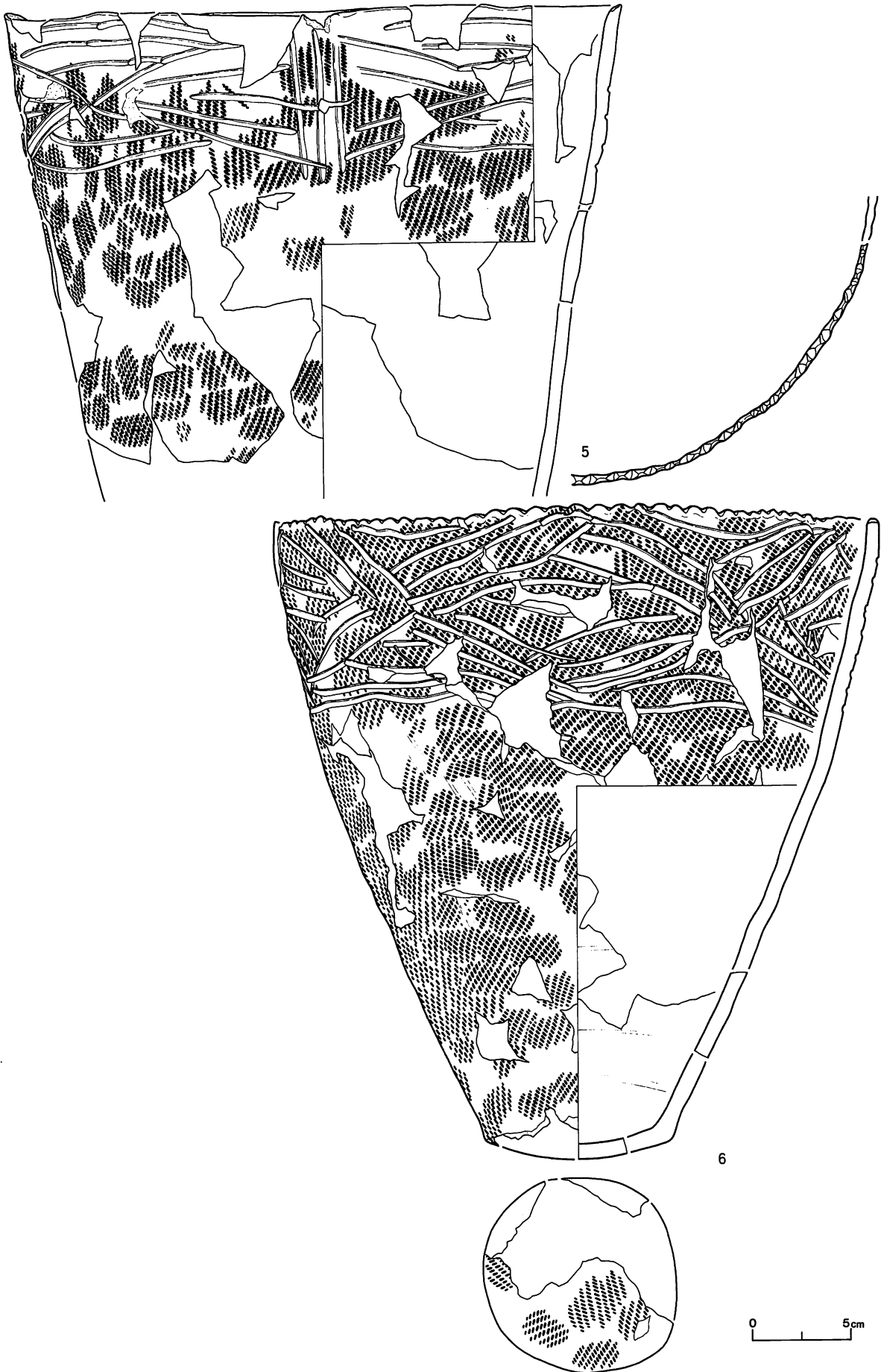
2

0 5cm

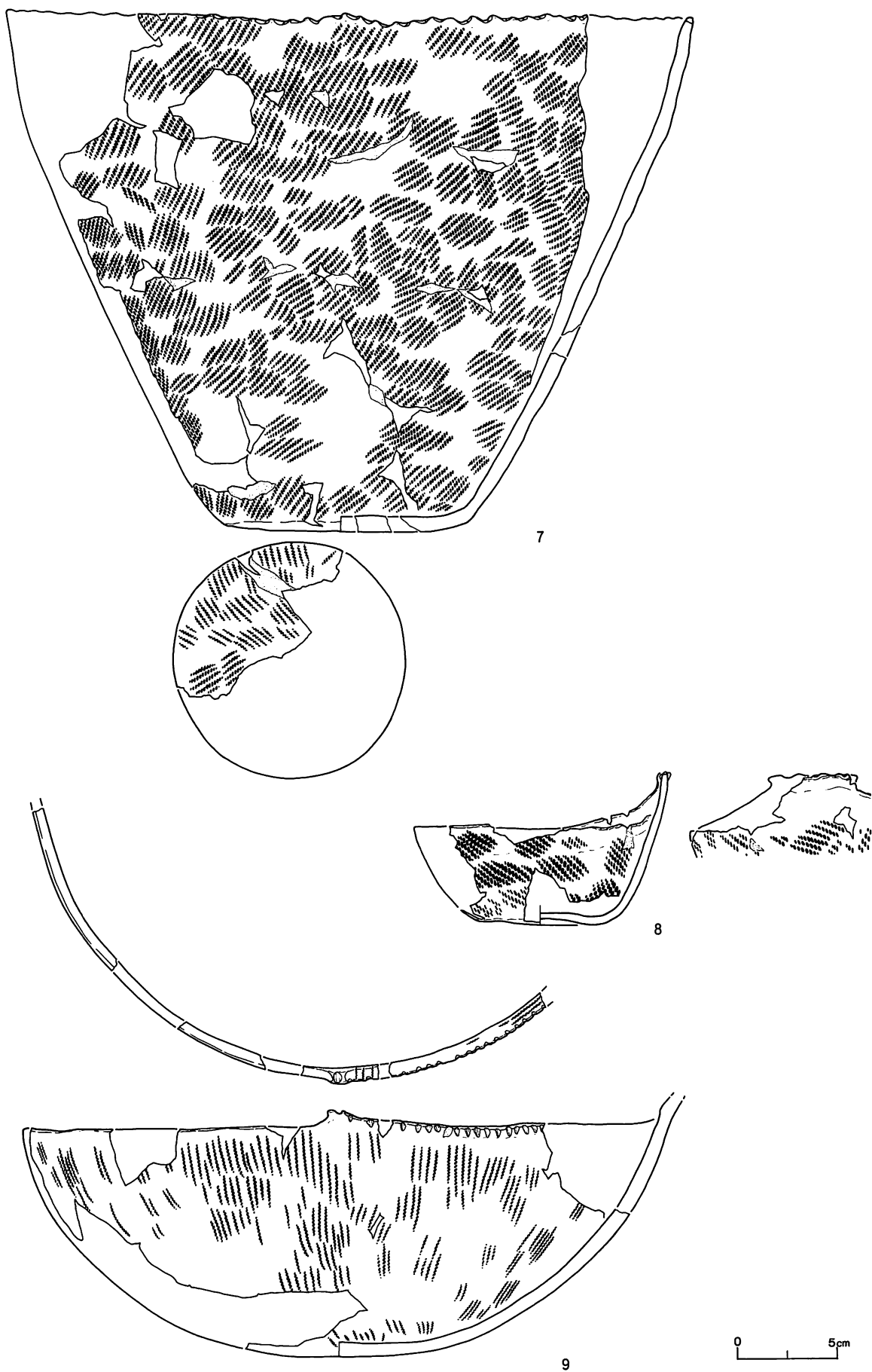
図IV-130 II-1層出土のV群土器(1)



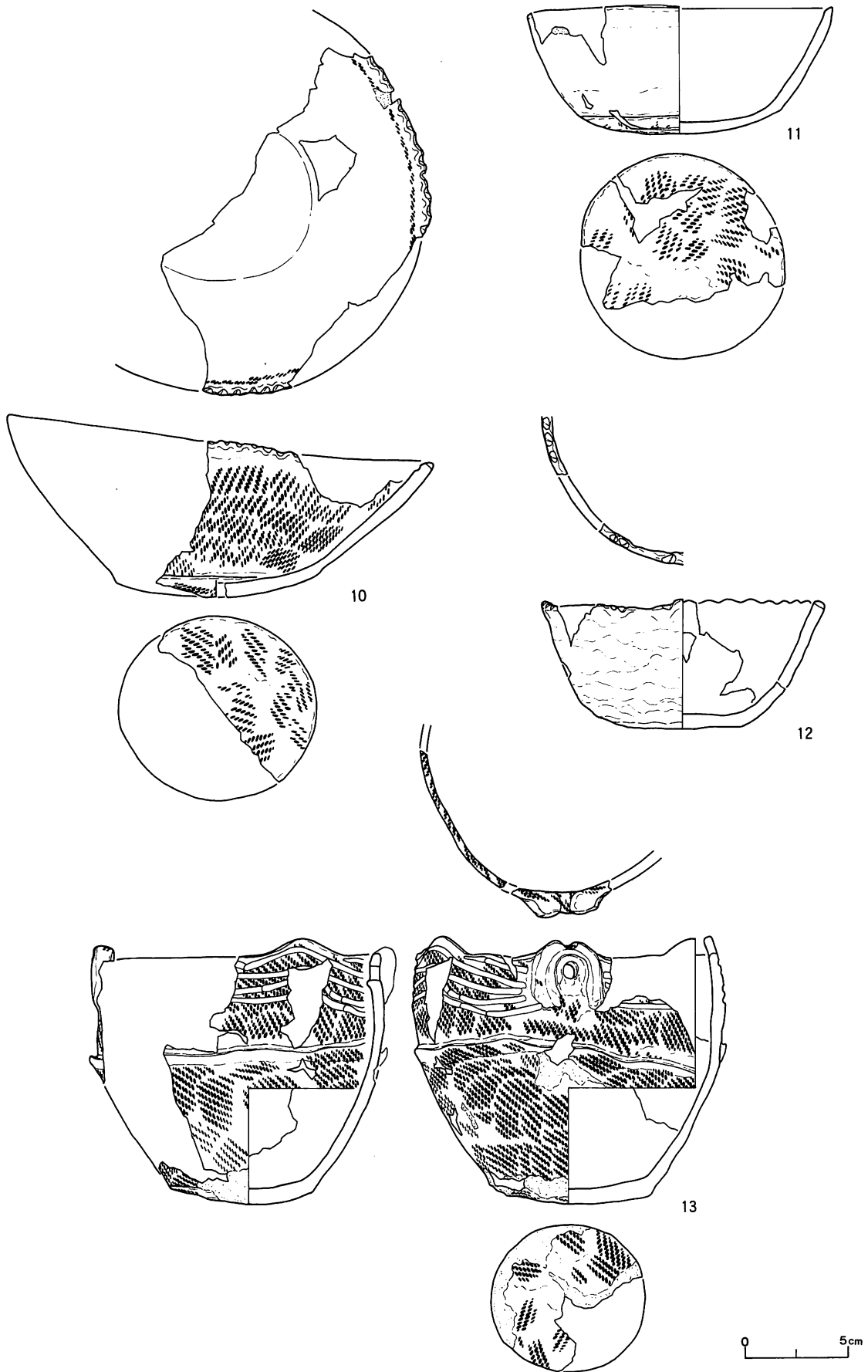
図IV-131 II-1層出土のV群土器(2)



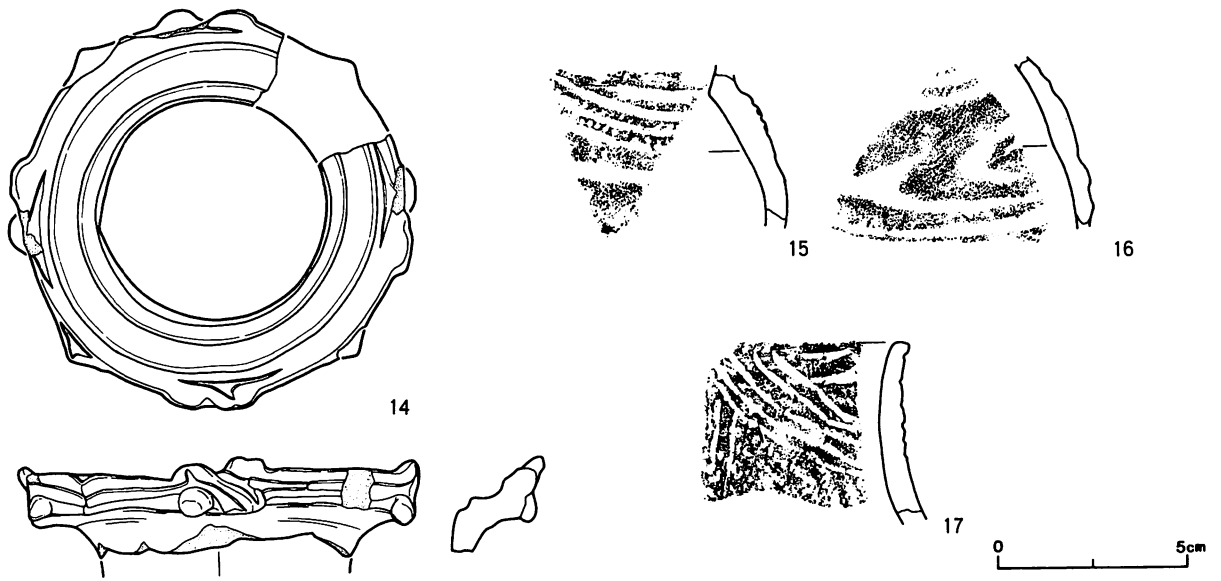
図IV-132 II-1層出土のV群土器(3)



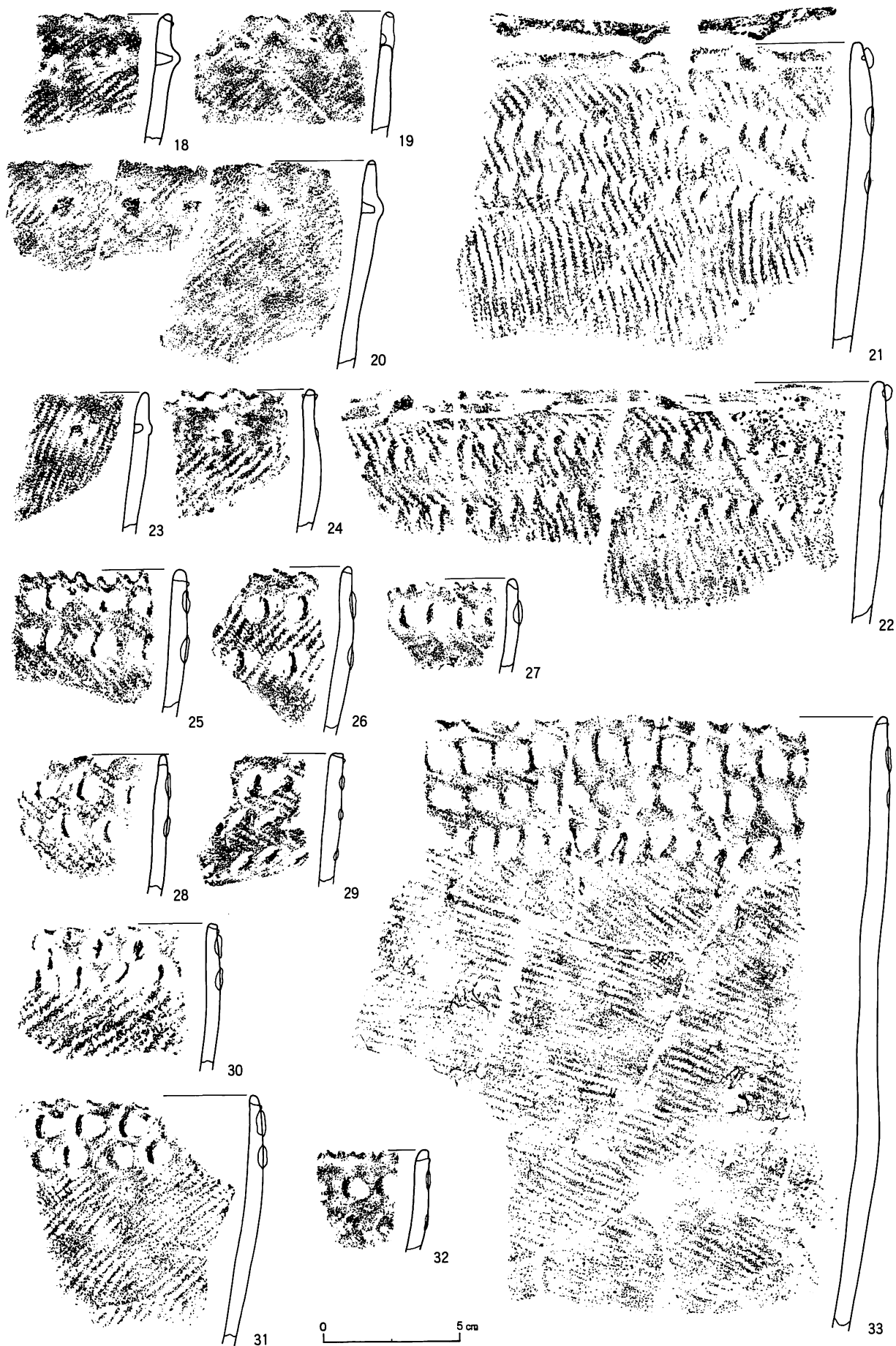
図IV-133 II-1層出土のV群土器(4)



図IV-134 II-1層出土のV群土器(5)

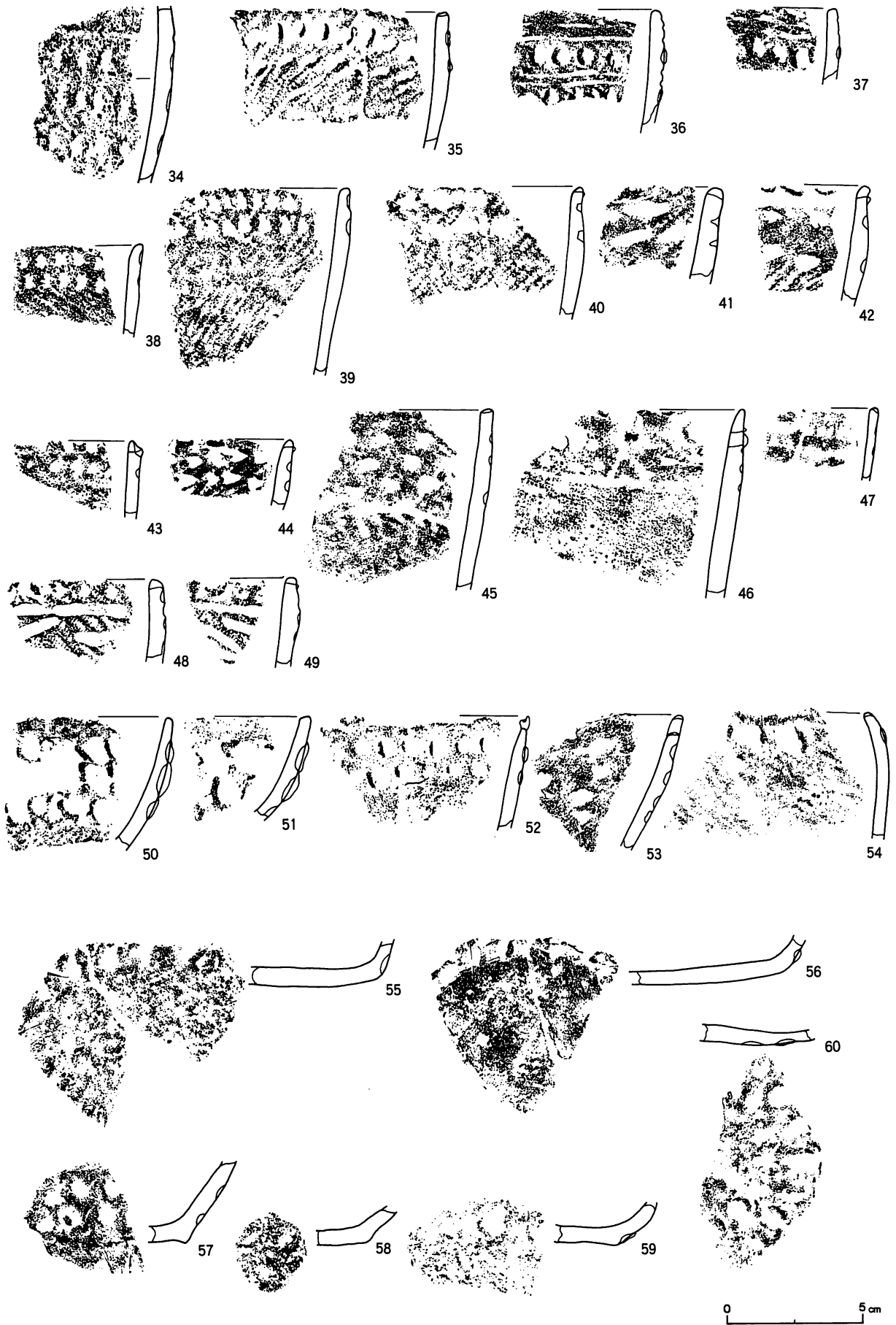


図Ⅳ-135 Ⅱ-1層出土のV群土器(6)

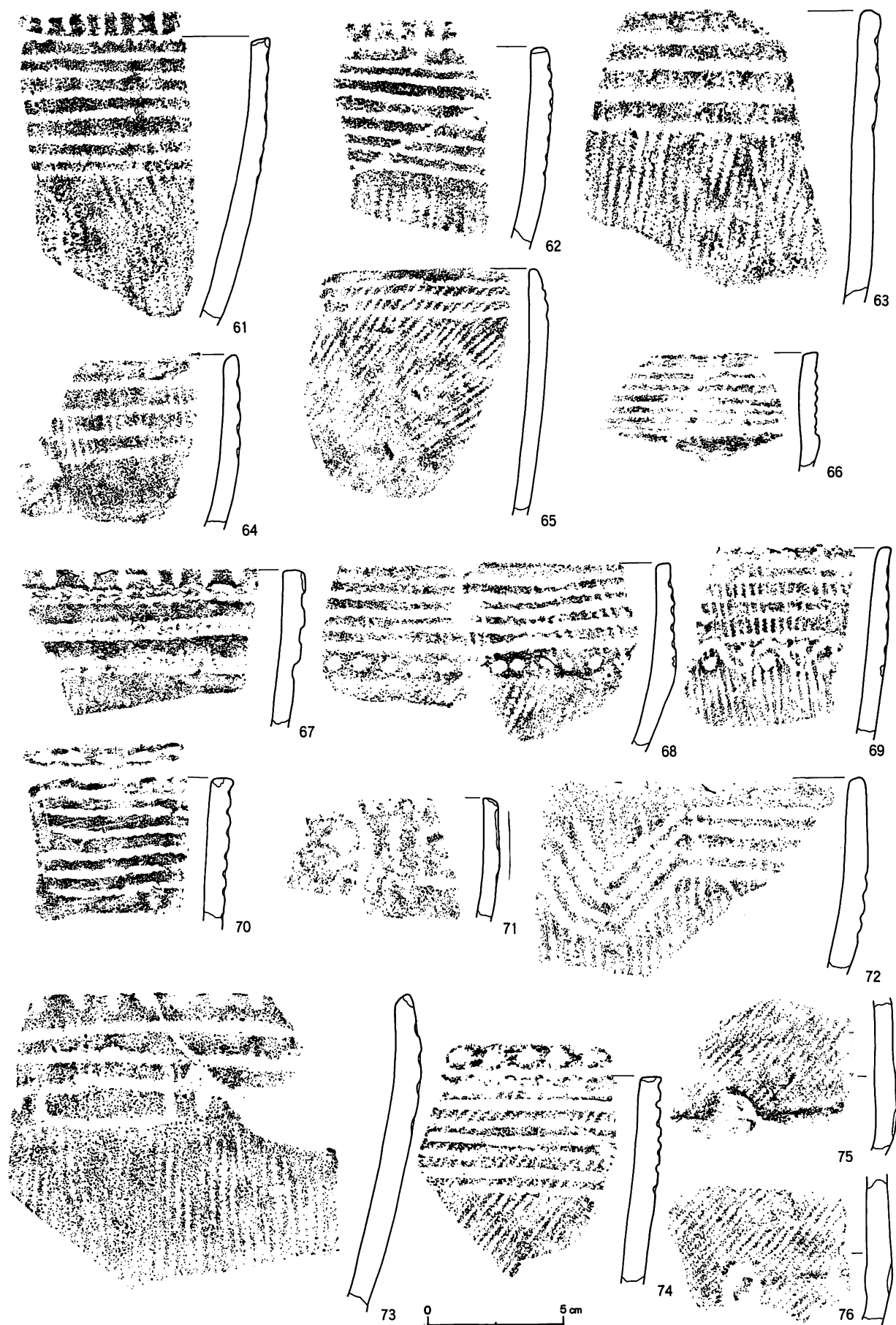


図IV-136 II-1層出土のV群土器(7)

4 包含層の遺物



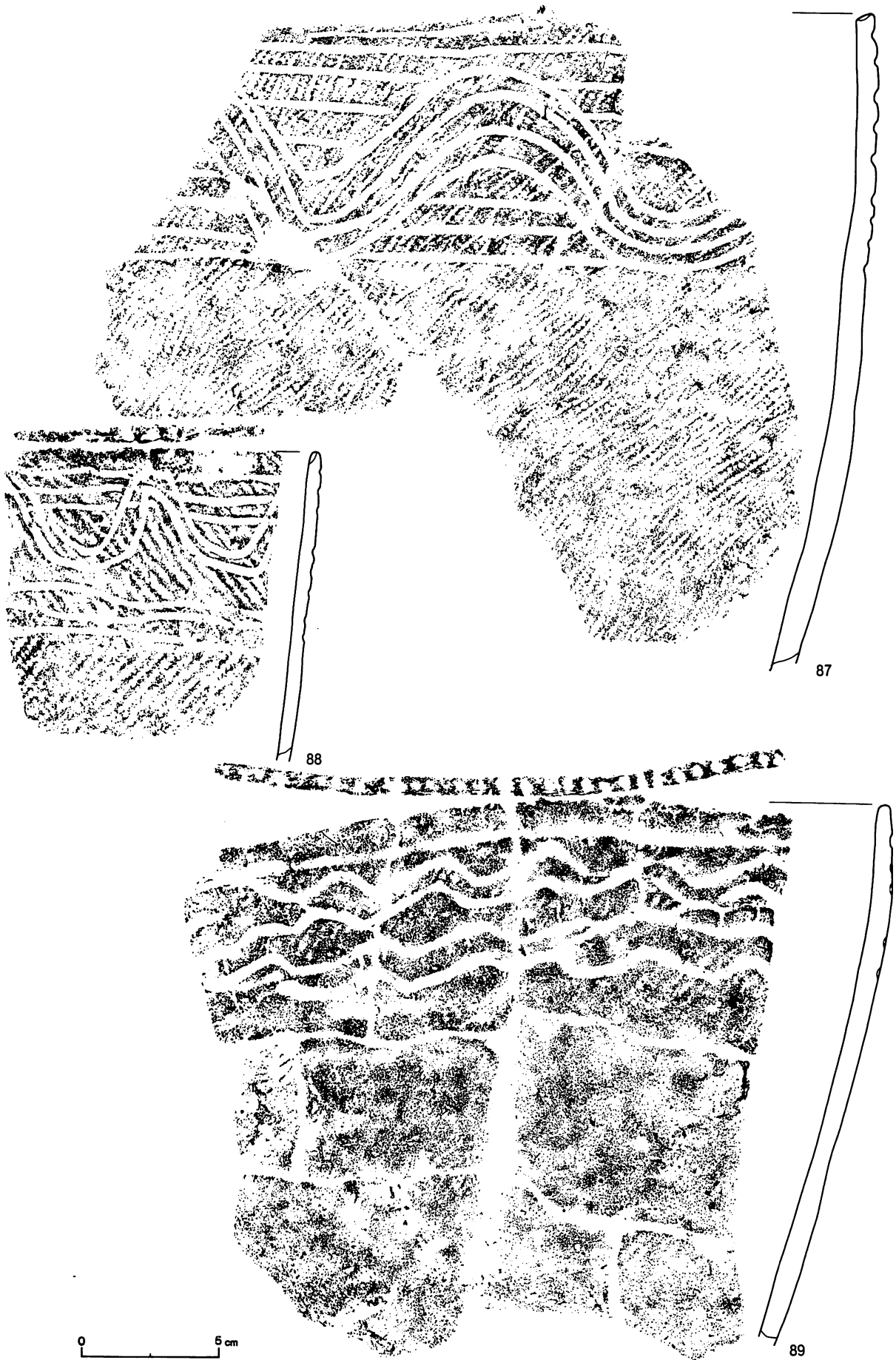
図Ⅳ-137 II-1層出土のV群土器(8)



図IV-138 II-1層出土のV群土器(9)



図IV-139 II-1層出土のV群土器(10)

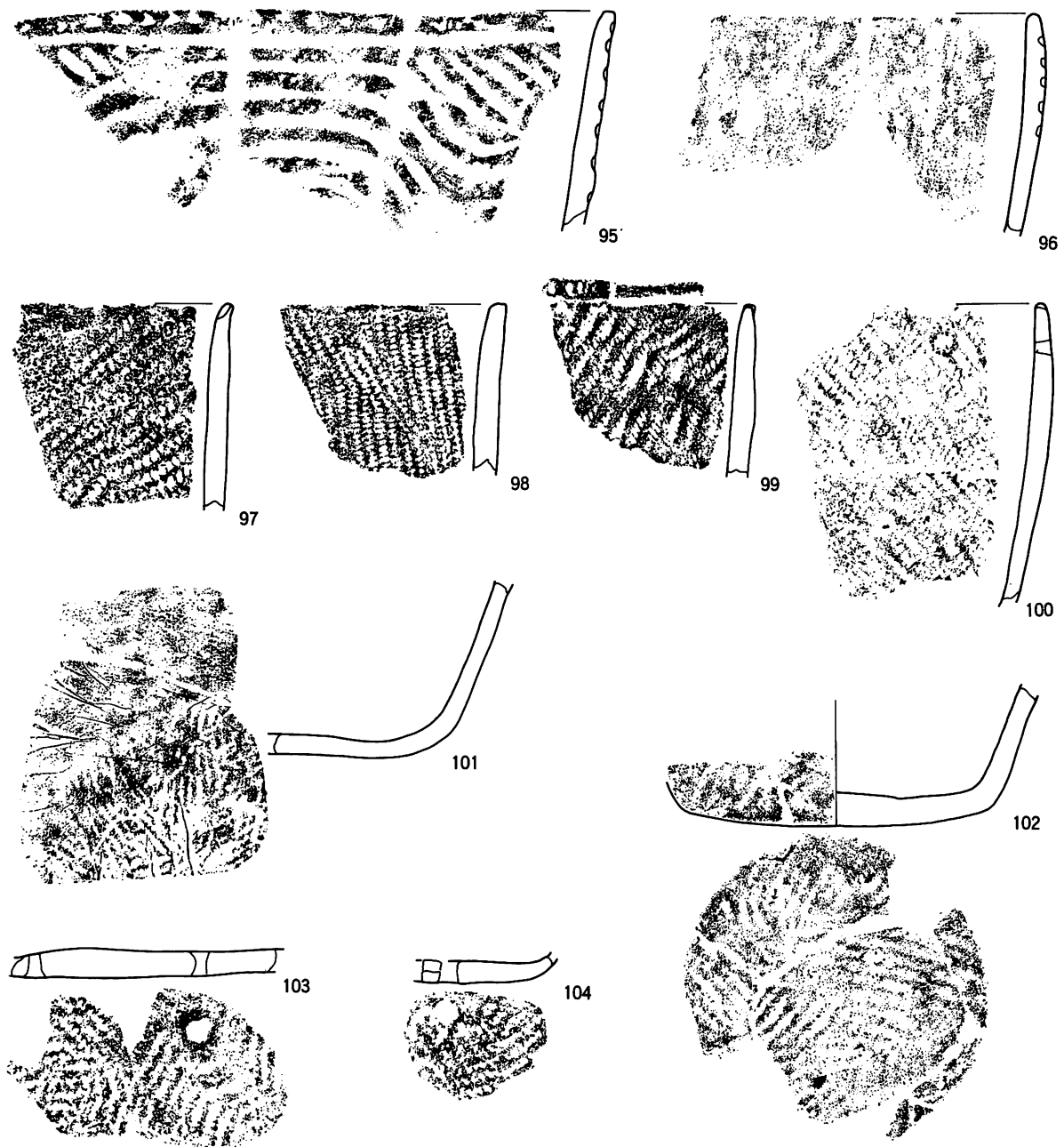


図IV-140 II-1層出土のV群土器(1)

4 包含層の遺物



図IV-141 II-1層出土のV群土器(12)

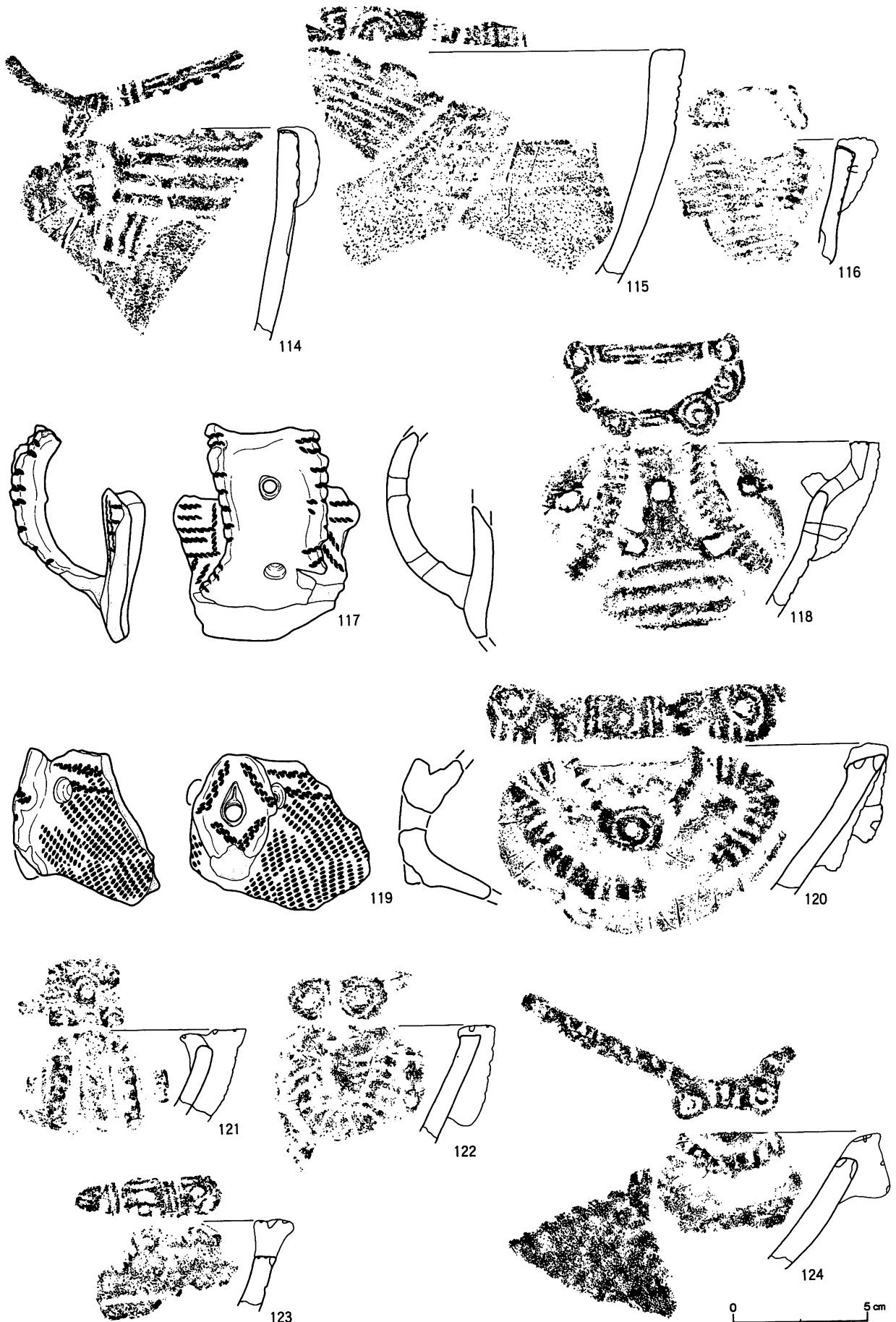


図IV-142 II-1層出土のV群土器(13)

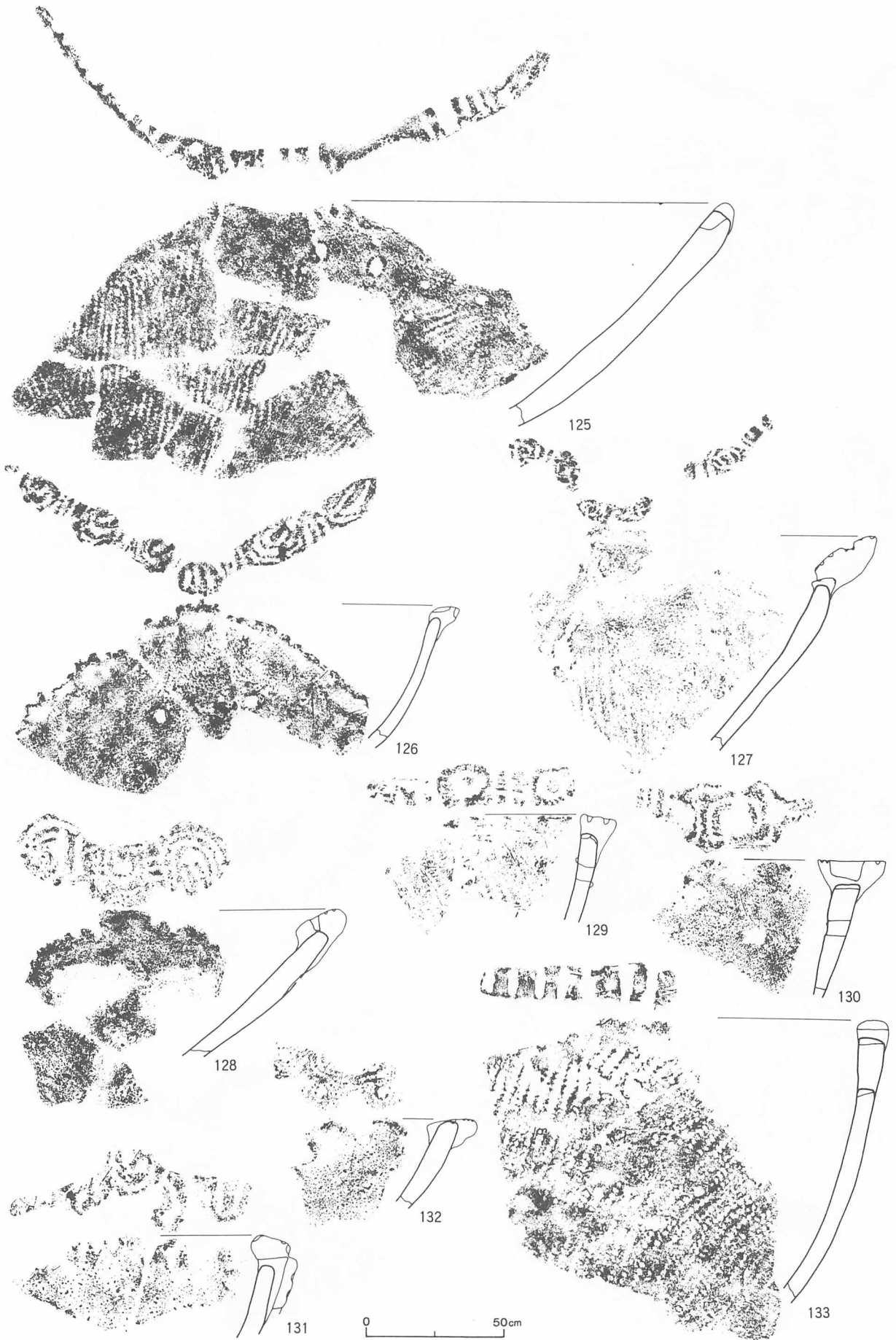
4 包含層の遺物



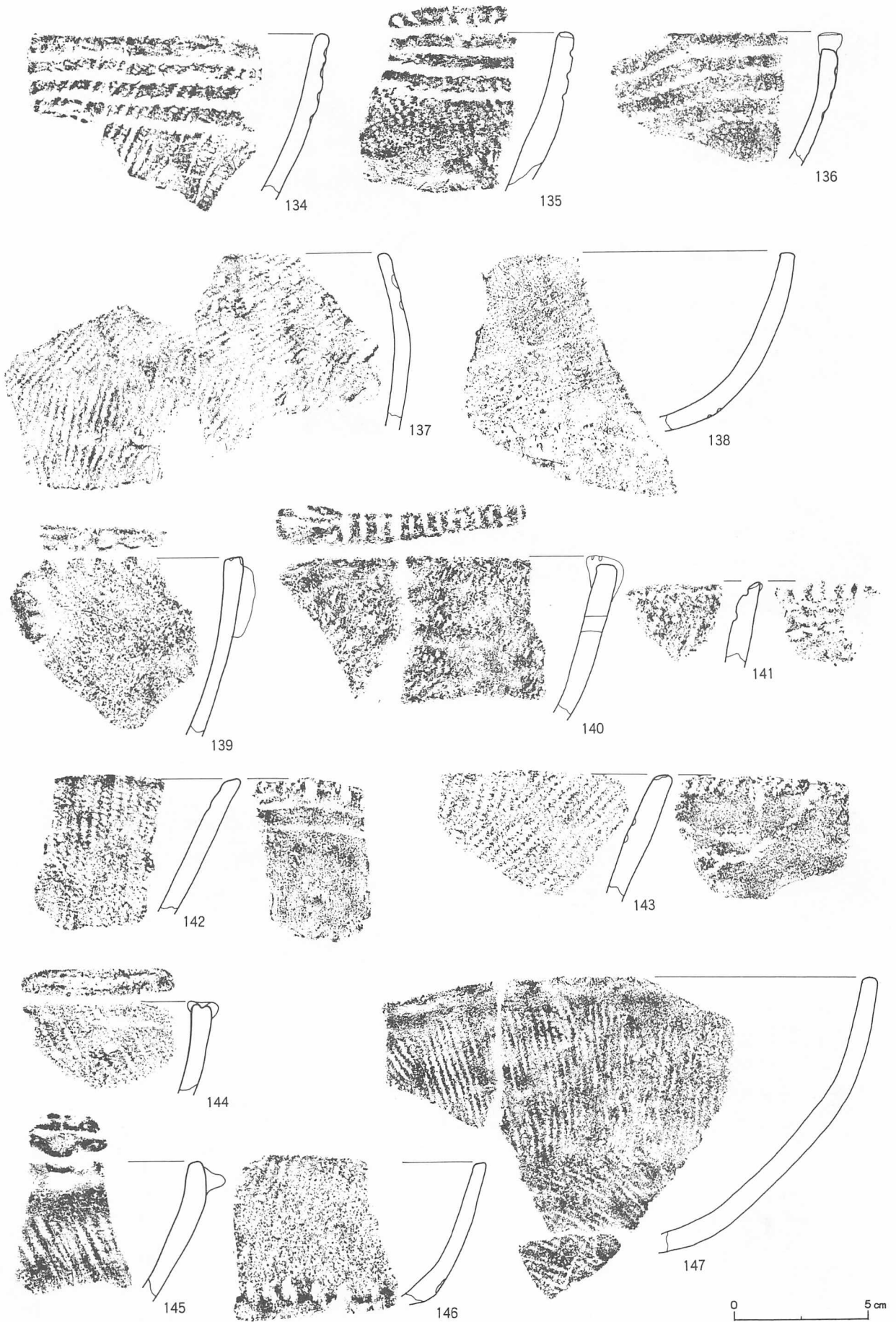
図IV-143 II-1層出土のV群土器(14)



図IV-144 II-1層出土のV群土器(15)

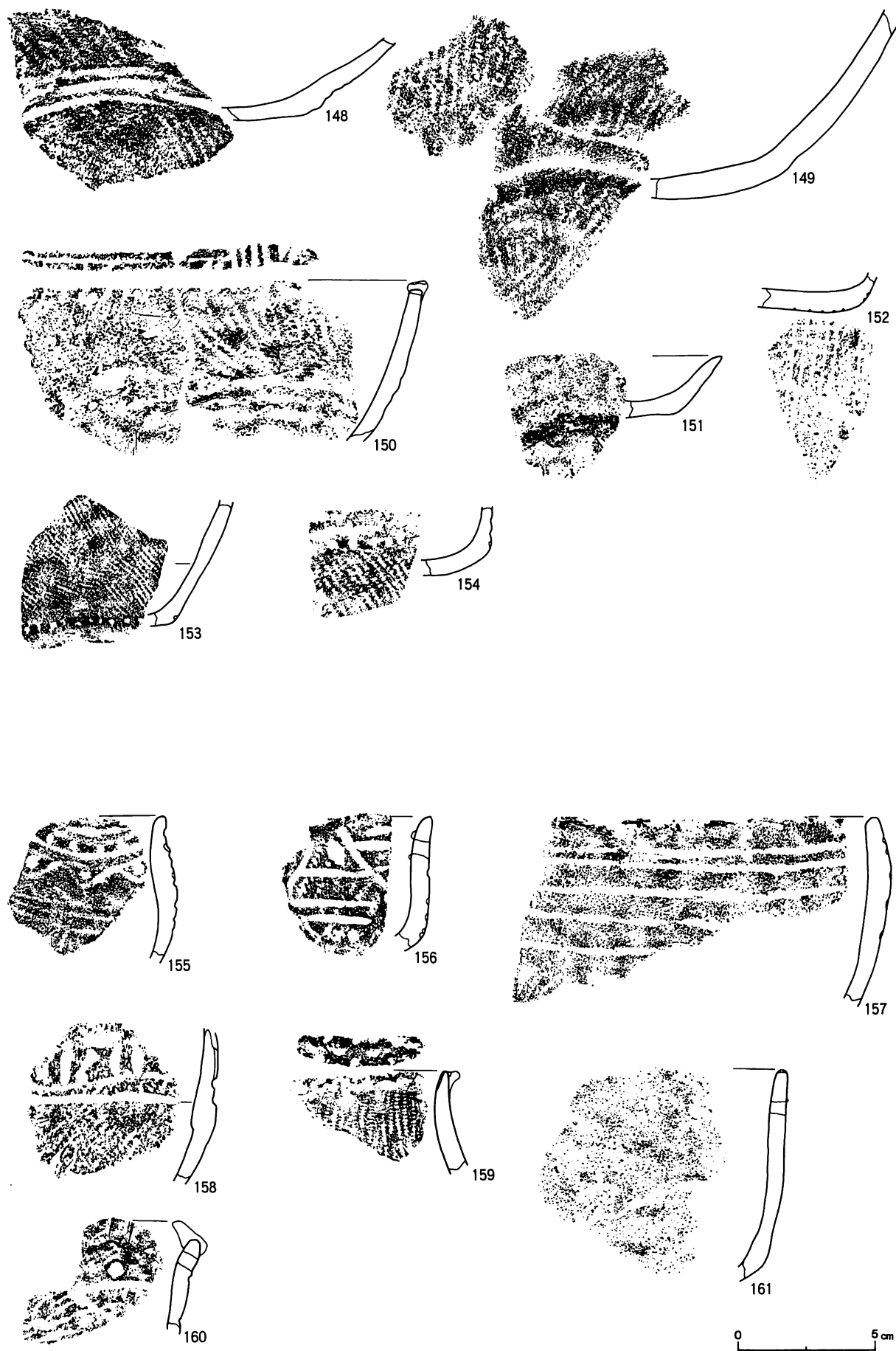


図IV-145 II-1層出土のV群土器(16)

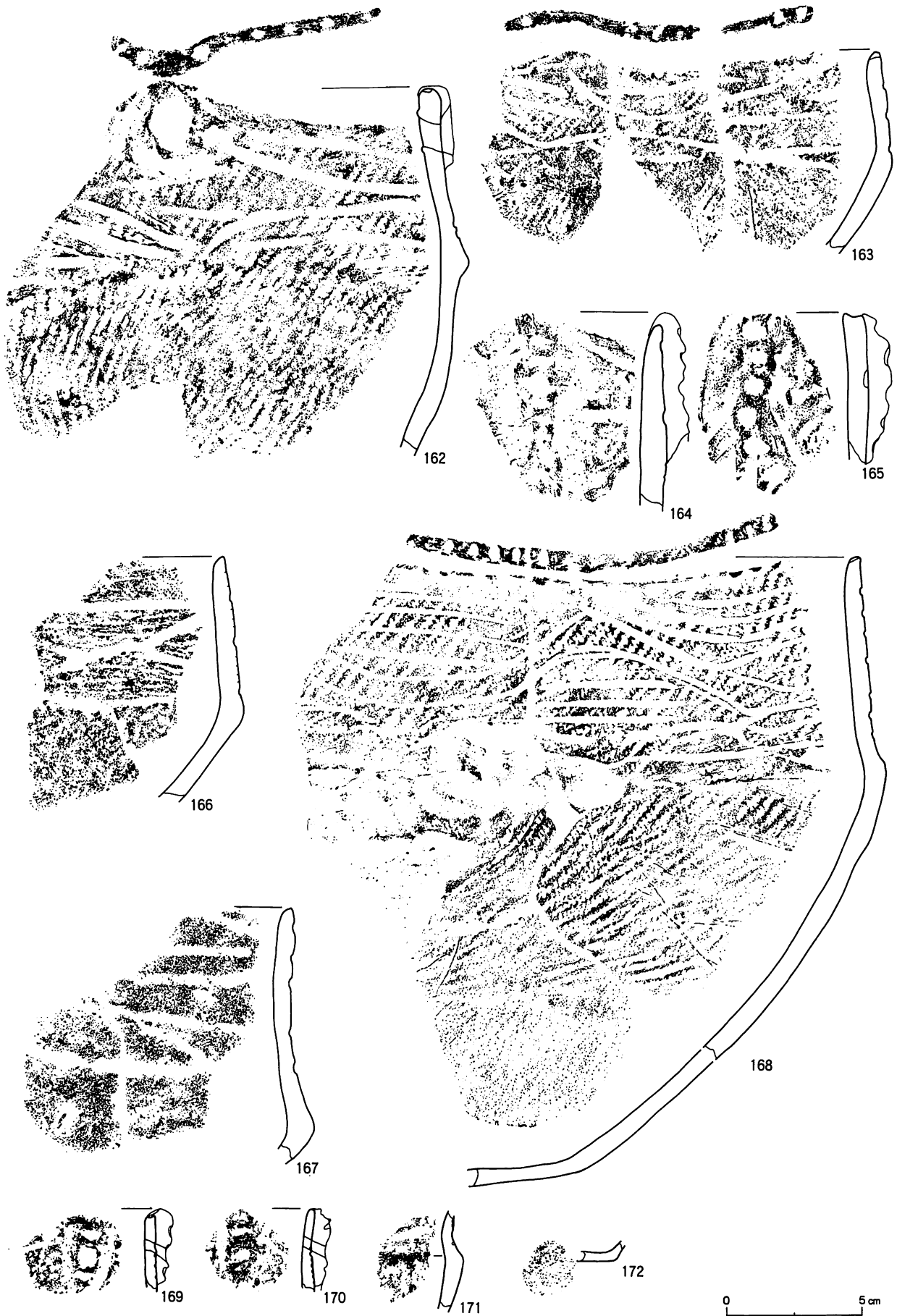


図IV-146 II-1層出土のV群土器(17)

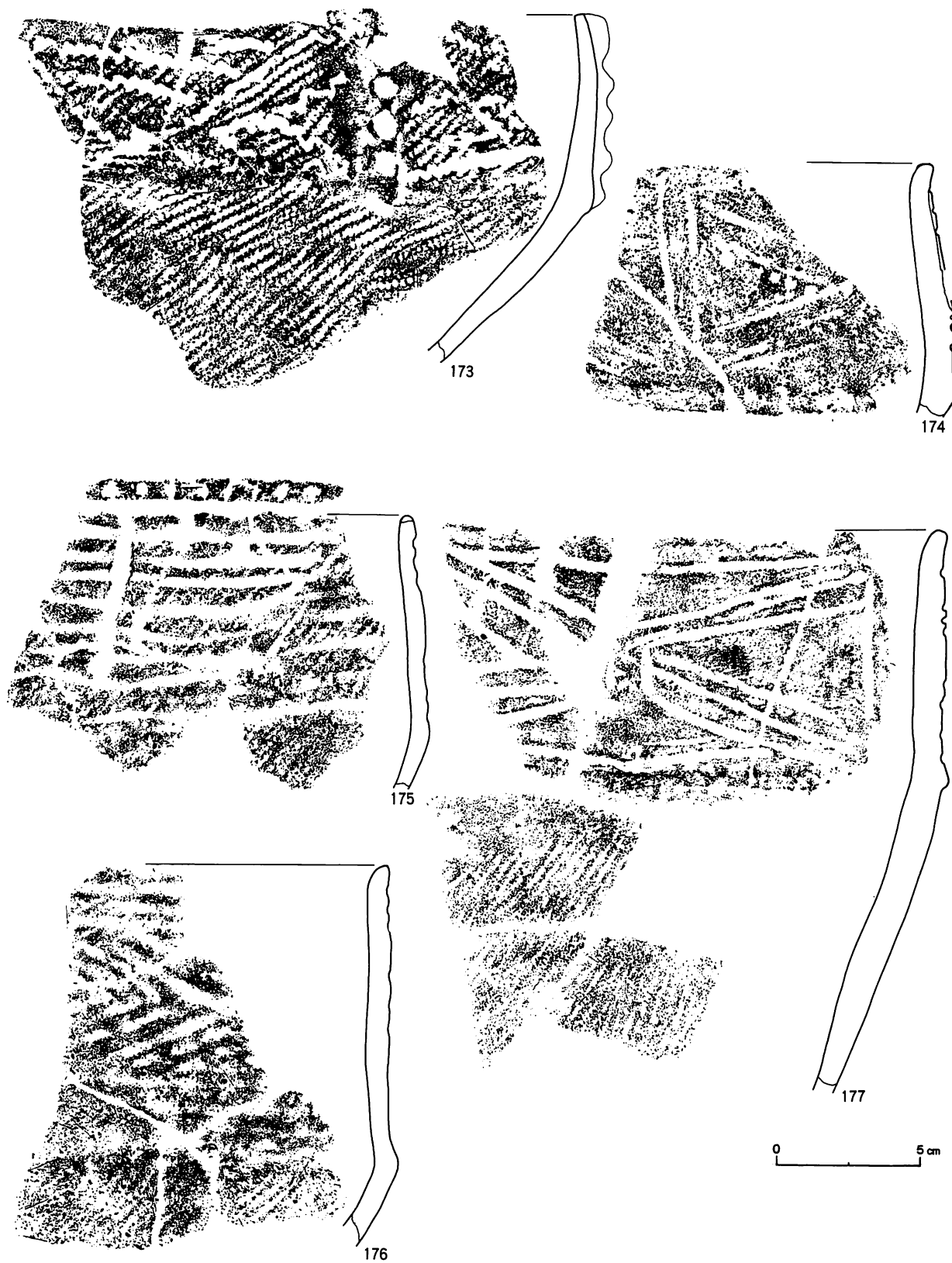
4 包含層の遺物



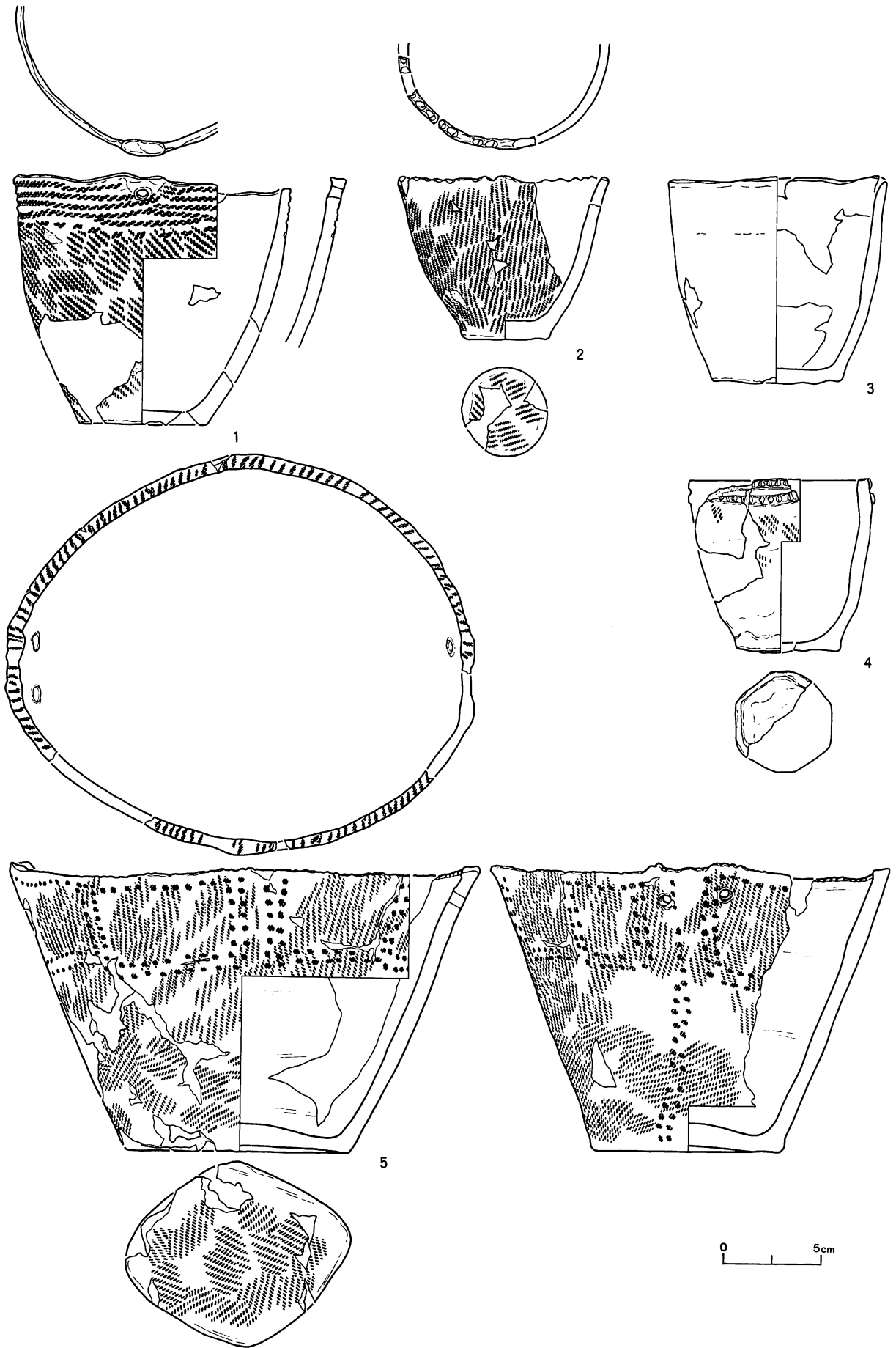
図IV-147 II-1層出土のV群土器(18)



図IV-148 II-1層出土のV群土器(19)

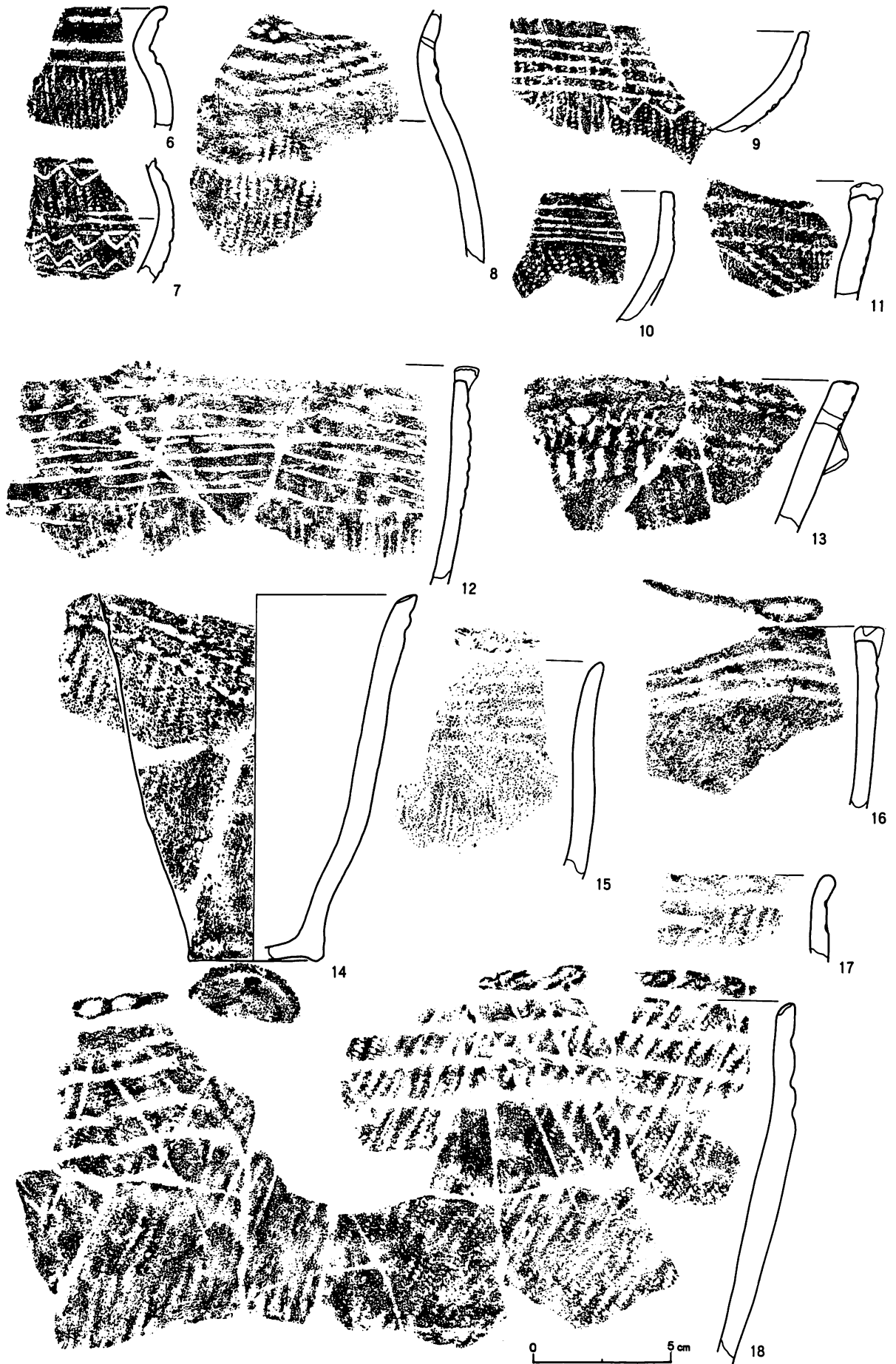


図IV-149 II-1層出土のV群土器(20)

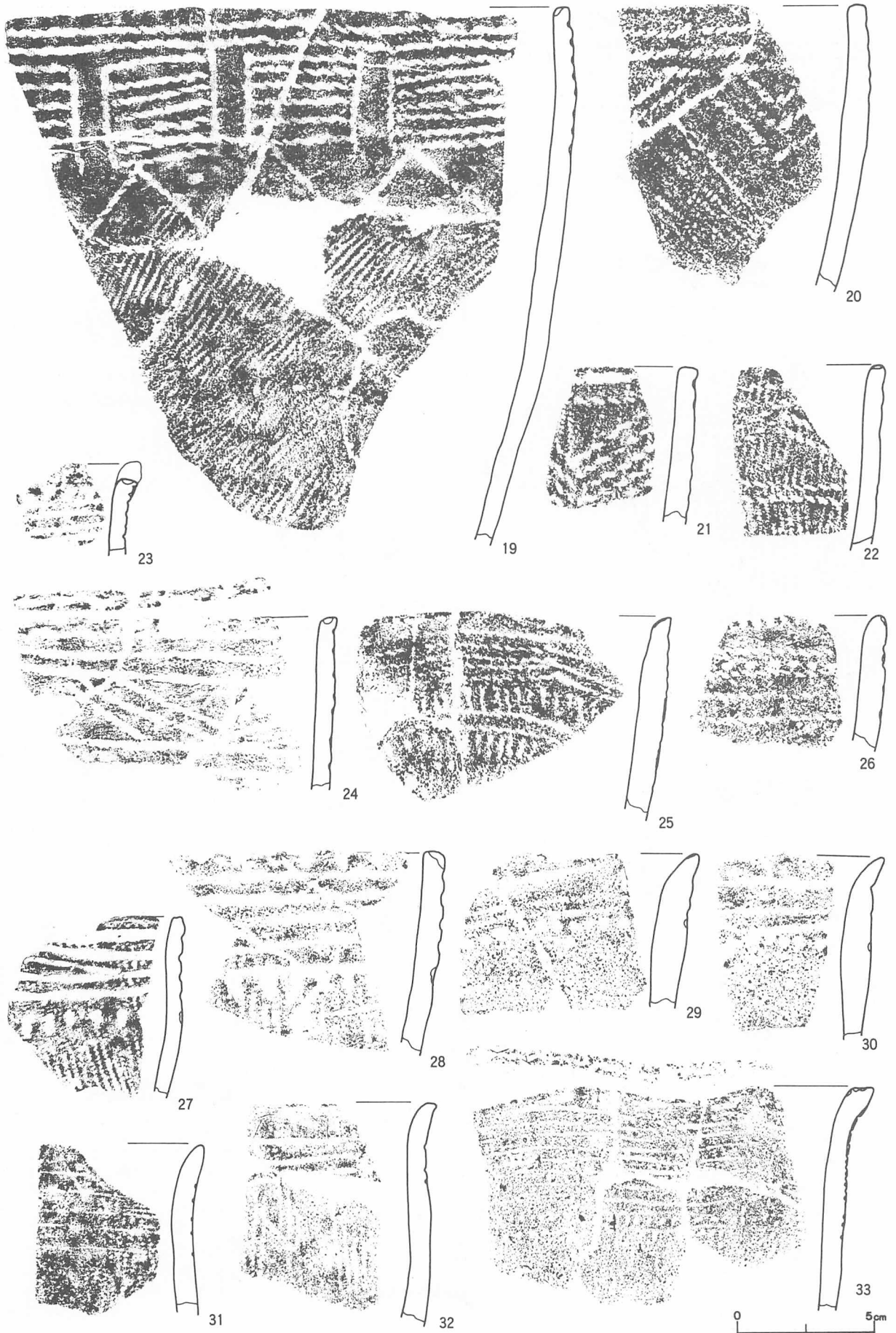


図IV-150 II-1層出土のVI群土器(1)

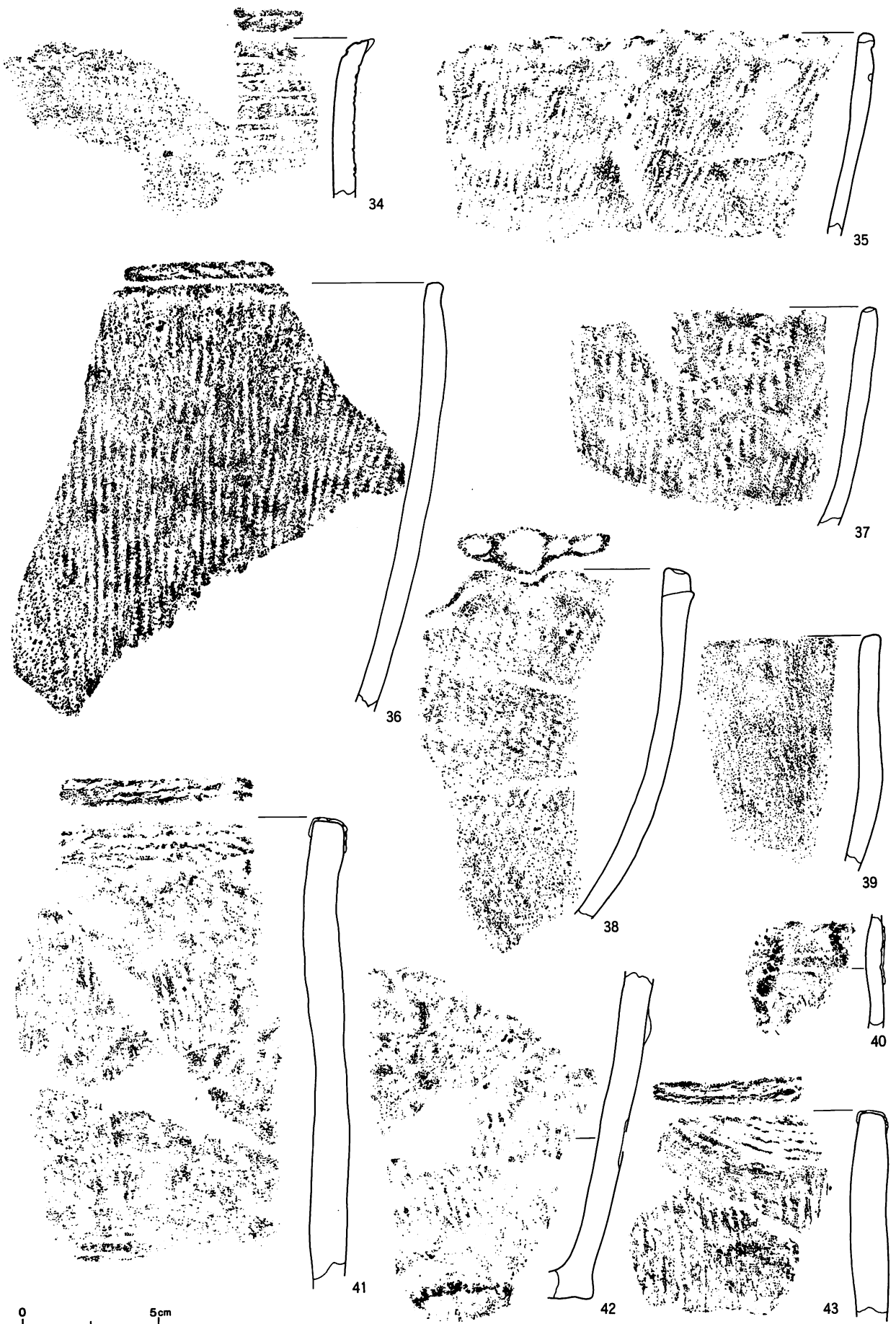
4 包含層の遺物



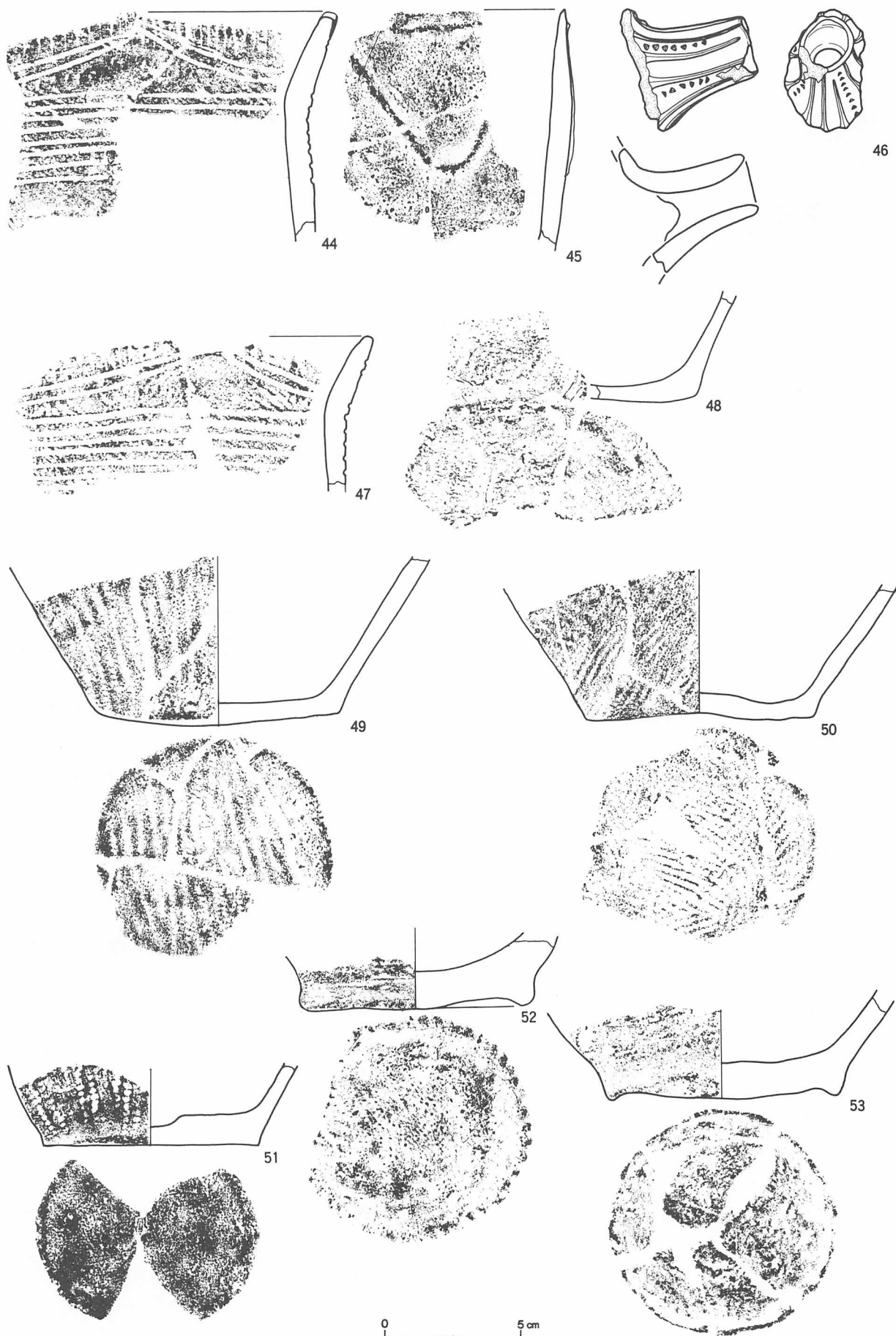
図IV-151 II-1層出土のVI群土器(2)



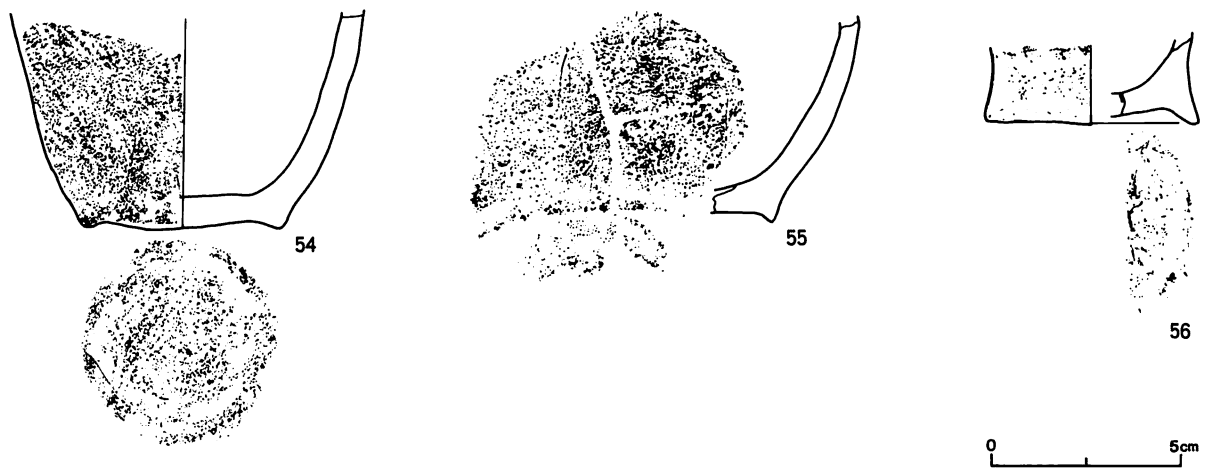
図IV-152 II-1層出土のVI群土器(3)



図IV-153 II-1層出土のVI群土器(4)



図IV-154 II-1層出土のVI群土器(5)



図Ⅳ-155 Ⅱ-1層出土のⅥ群土器(6)

や開き気味になる。38は口縁部が指頭により調整され小波状となる。浅鉢の可能性はある。

40は口縁から斜めに垂下するひも状の貼り付けがみられるもの。貼り付けには半載竹管状の工具で下から刺突が施される。

41~43は厚手で、撚糸文がみられるもの。胎土には、メノウ質の小礫、繊維などが混じる。41は口縁を包み込むように薄い貼り付けを施され、口唇直下と上面に撚糸文が施文される。撚糸は口縁部から胴部までは縦位に、胴部では横位に施される。42では瘤状の突起がみられるように図示したが、胎土中に小礫が混ざって瘤状になっている可能性が高い。43は41の同一個体の可能性がある。撚糸文が施された後、器面を指で撫でられ、節がつぶれている。

45は宇津内Ⅱ群b類土器。内面は刷毛状のもので磨かれている。口縁部内面には一部平行縄線文がみられる。胎土には石英、長石が混じる。

甕形土器 (44・47)

44・47は恵山式土器。同一個体である。

注口土器 (46)

46は注口部。後北C₂-D式土器である。胎土には石英、長石が含まれる。図中央の微隆起線間は黒色となっている。

底部 (48~56)

48~50は浅鉢もしくは鉢形土器の底部である。いずれも底部にも縄文が施される。51~56は深鉢形土器の底部である。52は底部縁に縄線による刻みがみられる。53は体部と底部に撚り糸文が施される。54は底部側面に縄端圧痕文が施文される。 (愛場和人)

2) 石器等

平成9年度調査地区の石器等は石器・石製品1,969点、フレイクチップなど35,340点、総計37,309点である。このうち、剥片石器類は1,336点、礫石器類は572点、石核・原石・石製品は61点である。特徴としては、台石・石皿といった礫石器類が非常に多く出土していることがあげられる。各掲載石器の細分類に関しては表に掲載し、必要に応じて文中に記した。

i) II-B層出土の石器(図IV-160・161、図版IV-103・104)

II-B層の石器等は剥片石器類61点、礫石器類100点、石製品1点、フレイク・チップなど464点、総計626点である。

石鏃(1~4)

14点出土している。三角鏃が8点で最も多い。1は平基、2は凹基である。1は表面に原石面を残している。3は有茎鏃である。石鏃としては厚みがあるもので重い。4は木葉鏃である。石材はすべて黒曜石であるが、4は濁った透明感のない黒曜石を使用している。

石槍(5・6)

5点出土している。柄のついたものが4点と破片が1点である。5・6は柄のついたものであり、柄部の先端には原石面が残る。

5は柄の先端部の両側縁にえぐり込みがある。6はかえしの位置が左右で異なる。石材はすべて黒曜石である。

つまみ付きナイフ(7)

2点出土している。7は縦形で両面調整されたものである。周縁のみを両面加工によって刃部を作成している。頁岩製である。

スクレイパー(8~10)

29点出土している。石材は主に黒曜石を使用している。素材の形状を大きくかえないもの(ⅢC7)が12点で最も多い。8は側縁に刃部があるもの、9は下端部に刃部があるもの、10はⅢC7である。8・9は黒曜石、10は頁岩である。

8は両側縁に直線的な刃部を作成している。10は剥片の周縁を利用して刃部を作成している。

石斧(11・12)

40点出土している。短冊形が10点で最も多い。また、刃部を作っていない原材(未製品)も16点出土している。11・12は短冊形のものである。

11・12は打ち欠きによって整形した後、全面を研磨している。刃部は円刃である。石材は11が緑色泥岩、12が片岩である。

石のみ(13)

2点出土している。13は上部と刃部の先端を欠損している。全面を研磨によって整形されている。鏃は明瞭である。石材は片岩である

たたき石(14~16)

6点出土している。14は礫の端部と側面にたたき痕があるもの。15は礫の端部にたたき痕があるもの、16は礫の腹・背面にたたき痕のあるものである。

16は礫の先端付近の腹の部分を広範囲に使用している。石材はすべて砂岩である。

すり石(17・18)

9点出土している。北海道式石冠と称されるものが6点で最も多い。17は断面三角形の礫の稜線ですったものである。18は北海道式石冠である。

4 包含層の遺物

17は左側が欠損している。すり面は幅1cmほどである。18は全面を敲打によって整形し、把握部を作出している。すり面にも敲打痕が残っている。石材は砂岩である。

砥石 (19)

2点出土している。19は研磨面に細い数条の溝があるものである。溝は2～4mmほどの幅で直線的である。かなりの数が表裏両面に観察できる。石材は砂岩である。

石皿 (20・21)

3点出土している。20は使用面が明瞭に凹んでいるものである。21は使用面が平坦なものである。20は右側が欠損しているが、礫の周縁を打ち欠いて楕円形に整形している。すり面は2面確認できる。使用面の周縁には敲打痕があることから敲打によってすり面を作出した後に使用したと考えられる。また、使用面のほぼ中央に深い溝状の刻みを作っていることが特徴である。21は周縁を打ち欠いて楕円形に整形している。左側には平坦なすり面があり、右側には敲打による調整がある。20の特徴から右側をすり面として使用する前に廃棄されたものと考えられる。

ii) II-A層出土の石器 (図IV-162・163、図版IV-105・106)

II-A層出土の石器は剥片石器類167点、礫石器類195点、石核・原石・石製品8点、フレイクチップなど1,494点、総計1,864点である。II-A層の石器の特徴はすり石・石皿が多いことである。

石鏃 (1～7)

40点出土している。有茎鏃が14点で最も多い。石材はすべて黒曜石である。1・2三角鏃である。3～5は有茎鏃で、3・4は平基、5は凸基である。6は正菱の菱形鏃、7は円基の木葉鏃である。

1・2は周辺のみを加工し、薄く作っている。5は花十勝と呼ばれるものの赤い部分のみを使用している。6は周辺のみを加工し、粗雑な作りである。

石槍 (8～11)

36点出土している。分類による片寄りはない。8・9は有茎もの、10は菱形、11は木葉形のものである。石材は黒曜石を主に使用している。

9はかえしの部分が小さく、柄部が太い。9は頁岩製でその他は黒曜石製である。

石錐 (12)

石錐は3点出土している。石材はすべて黒曜石である。12は素材の一部に機能部を作出したものである。片面調整によって機能部を作出している。

つまみ付きナイフ (13～15)

つまみ付きナイフは14点出土している。すべて縦形で片面加工のものである。石材は頁岩10点、黒曜石4点であり剥片石器類の中では珍しく頁岩の割合が非常に高い。

13は周縁のみを加工し、黒曜石製である。14は片面を全面加工している。15は片面の周縁のみを加工している。左側の刃部は円弧状になっている。14・15は頁岩製である。

ナイフ類 (16)

ナイフ類は8点出土している。石材はすべて黒曜石である。柄のないものが4点で半数を占める。16は柄のあるものである。ナイフとしては厚みがあるが、刃部の先端が丸くなっていることからナイフ類とした。

スクレイパー (17～22)

スクレイパーは57点出土している。素材の形状を変えていないものが23点で最も多い。17は周縁に刃部のあるもの、19・21は両側縁に刃部を作出しているもの、20は下端に尖る部分のあるもの、22はえぐり込みのあるもの、18は素材の形状を変えていないものである。

18は剥片の周囲に刃部を作出している。表面からは大きく剥片を取られている。19は先端にかけて若干広がる。形状としては先端の丸い石錐のようになっている。石材はすべて黒曜石である。

石斧 (23~25)

石斧は76点出土している。欠損品や原材となるものが最も多いが、短冊形が18点出土している。石材は片岩が約8割、泥岩が約2割である。24・25が撥形、23は短冊形である。

23・25は打ち欠きによる整形の後全面を研磨し、刃部を作出している。25は刃部が円刃になっている。24は打ち欠きによる整形の後、刃部のみを研磨によって作出している。鑄が明瞭に観察される。石材は23・24が片岩、25が緑色泥岩である。

すり石 (27・28)

すり石は14点出土している。北海道式石冠が9点で最も多く、破片3点も北海道式石冠のものである。石材はすべて砂岩である。27は断面三角形の礫の稜をすったもの、28は北海道式石冠である。

27はすり面の幅が2~3cmである。28は全面を敲打によって整形され、把握部も敲打によって作出されている。

石皿

石皿は図を掲載しなかったが28点出土している。石材はトロニエム岩がほとんどである。周縁部を打ち欠きによって整形するものやすり面を敲打によって作出した後使用するもの、すり面の中央に深い溝状の刻みをつけるものがある。

たたき石 (29・30)

たたき石は17点出土している。腹・背面にたたき痕のあるものが5点で最も多い。石材はすべて砂岩である。

29は下半部を欠損している。上端部と腹・背面に明確なたたき痕が5カ所観察される。30は腹の部分に長さ4cm、幅2cmほどの楕円形の明確なたたき痕が観察される。

砥石 (31・32)

砥石は5点出土している。31は角柱状のもの、32は板状のものである。

31は4面を使用している。32は上下両端を欠損しているが、両面に幅6~7cmの深い研磨面と何条もの細く浅い筋状の溝が観察できる。石斧の砥石と考えられる。石材は砂岩であるが、32の方が粒子が細かい。

台石 (33・34)

台石は28点出土している。石材はトロニエム岩が大半を占める。33・34は礫の表面に使用痕のあるものである。

34は礫の周縁を打ち欠いて楕円形に整形している。すり面の平坦な石皿として使用した後に台石に転用したものと考えられる。石皿として使用している際にすり面が被熱している。33・34ともにトロニエム岩製である。

石製品 (26)

オロシガネ状石製品(3点接合)が滝里遺跡群で初めて出土している。右側が欠損している。石材はスコリアである。形状は楕円形の板状であり、表面がわずかにくぼみ、裏面がふくらんでいる。上端が内側にえぐられており、角状の突起の作り出しがある。使用した形跡を確認することはできなかった。長さが18.1cmあり、オロシガネ状石製品としては大きいものである。

iii) II-1層出土の石器 (図IV-164~166、図版IV-107~109)

II-1層出土の石器は剥片石器類1,072点、礫石器類267点、石核・原石・石製品50点、フレイク・

4 包含層の遺物

チップなど33,115点、総計34,504点である。

石鏃（1～13）

石鏃は317点出土している。有茎鏃が113点で最も多く、三角鏃が89点で続く。石材はすべて黒曜石である。1～5は三角鏃で1・2は平基、3～5は凹基である。6～10は有茎鏃で6～8は平基、9・10は凸基である。11・12は菱形鏃で、11は正菱、12は偏菱、13は尖基の木葉鏃である。

5は右の刃部に2カ所の抉り込みがある。8は表面に原石面と主剥離面を残す。刃部側縁が外湾する。11は火熱の影響を受け、表面が発泡している。13は裏面に主剥離面が残り、周縁のみの加工である。

石槍（14～18）

石槍は23点出土している。石材はすべて黒曜石である。15・16は有茎のものである。17は菱形、18は木葉形、19は刃部のふくらむ三角形のものである。

15は茎部の下部を欠損している。16は剥離の状態から再調整品と見られるので水和層年代測定を依頼している。17は下端部に原石面を残す。18は三角形の下半部が茎部となる可能性がある。

石錐（19～21）

石錐は11点出土している。19・20は全体に2次加工の施されたもので頁岩製、21は素材の一部に機能部を作出したもので黒曜石製である。

19・20は機能部の両面を2次加工によって作出している。19は先端部を丸く作出している。20は先端部が尖るように作出されている。この2つでは使用の目的に違いがあるものと考えられる。21は片面のみの加工で機能部を作出している。

つまみ付きナイフ（22～24）

つまみ付きナイフは16点出土している。縦形で片面加工のものが13点である。石材は黒曜石がやや多い。22・23は縦形で片面加工のもの、24は横形のものである。石材は22が頁岩、23・24は黒曜石である。

22～24は周縁のみの加工である。22は左側縁に円弧状の刃部を作出している。

ナイフ類（25～27）

ナイフ類は96点出土している。破片57点と非常に多い。石材はほとんどが黒曜石であるが頁岩や安山岩も見られる。25・26は柄のあるもの、27は柄のないものである。

25は左側縁が円弧状の刃部になっているが、使用による再調整によってこのようになったと考えられる。26は主剥離面が多く残っていることから、素材の形状をあまり変えずに作成されたものと考えられる。

スクレイパー（28～36）

スクレイパーは549点出土している。素材の形状を変えないものが243点で最も多い。石材は黒曜石がほとんどであるが、安山岩を粗く割ったものや頁岩も見られる。28・29は周縁に刃部が設けられたものである。30は下端部に刃部のあるもの、31・32は側縁に刃部のあるもの、33は下端に尖る部分のあるもの、34・35は抉り込みのあるもの、36は素材の形状を変えないものである。

29は三角形の各辺に刃部が作られている。2辺が表面に、1辺が裏面に作出されている。32は黒曜石の細長い剥片の両側縁を利用して直線的な刃部を作出したものである。下端部に原石面が残る。34・35は抉りの部分に使用した磨滅が見られる。36は剥片の形状を生かして左側に尖る部分を作出している。33は頁岩製、その他は黒曜石製である。

石斧 (37~40)

石斧は120点出土している。短冊形が31点で最も多い。37・38は撥形で泥岩製である。39は撥形、40は乳棒状のもので砂岩製である。38・40は上部を欠損している。

37は打ち欠きによって整形し刃部のみを研磨によって作出している。38・39は全面を研磨して整形している。38は円刃である。39は鎬が明瞭に観察される。40は敲打によって整形された後、刃部を研磨によって作出している。

たたき石 (41~45)

たたき石は47点出土している。石材はほとんどが砂岩の棒状礫を使用している。

41は端部にたたき痕があるもの、44は腹・背部にたたき痕があるもの、43は垂円礫を素材とするものである。42は石斧の刃部を破損したものからの転用品である。端部と背・腹部にたたき痕がある。片岩製である。45は棒状礫の端部と側縁にたたき痕のあるものである。

すり石 (46)

すり石は2点出土している。46は断面三角形の礫の稜をすったものである。すり面は幅1cmほどである。石材は砂岩である。

砥石 (47)

砥石は9点出土している。スコリア製のものが6点出土している。47はスコリア製のもので溝のあるものである。4面が使用され、1面は幅5~15mmの数条の細い溝がある。他の3面は面全体を広く使用している。

石皿 (48・49)

石皿は9点出土している。使用面が平坦なものが7点である。48は使用面がくぼんでいるもので表面と側面には敲打によるすり面の調整の後、使用された面があり、裏面には敲打痕がある。石皿と台石のいずれにも使用されていた時期があるようである。すり面には深くほみがある。49は使用面が平坦である。敲打によるすり面の作出の後、使用されている。石材はともにトロニウム岩である。

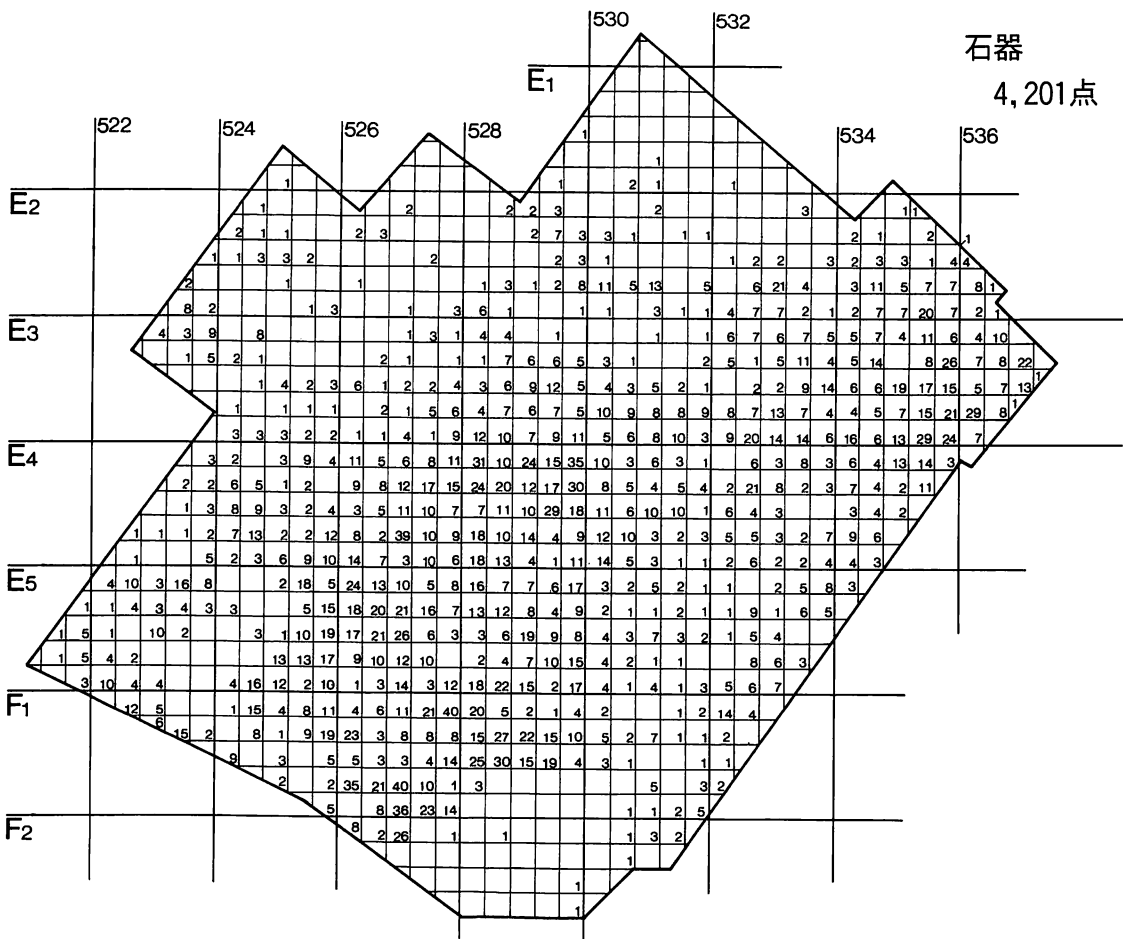
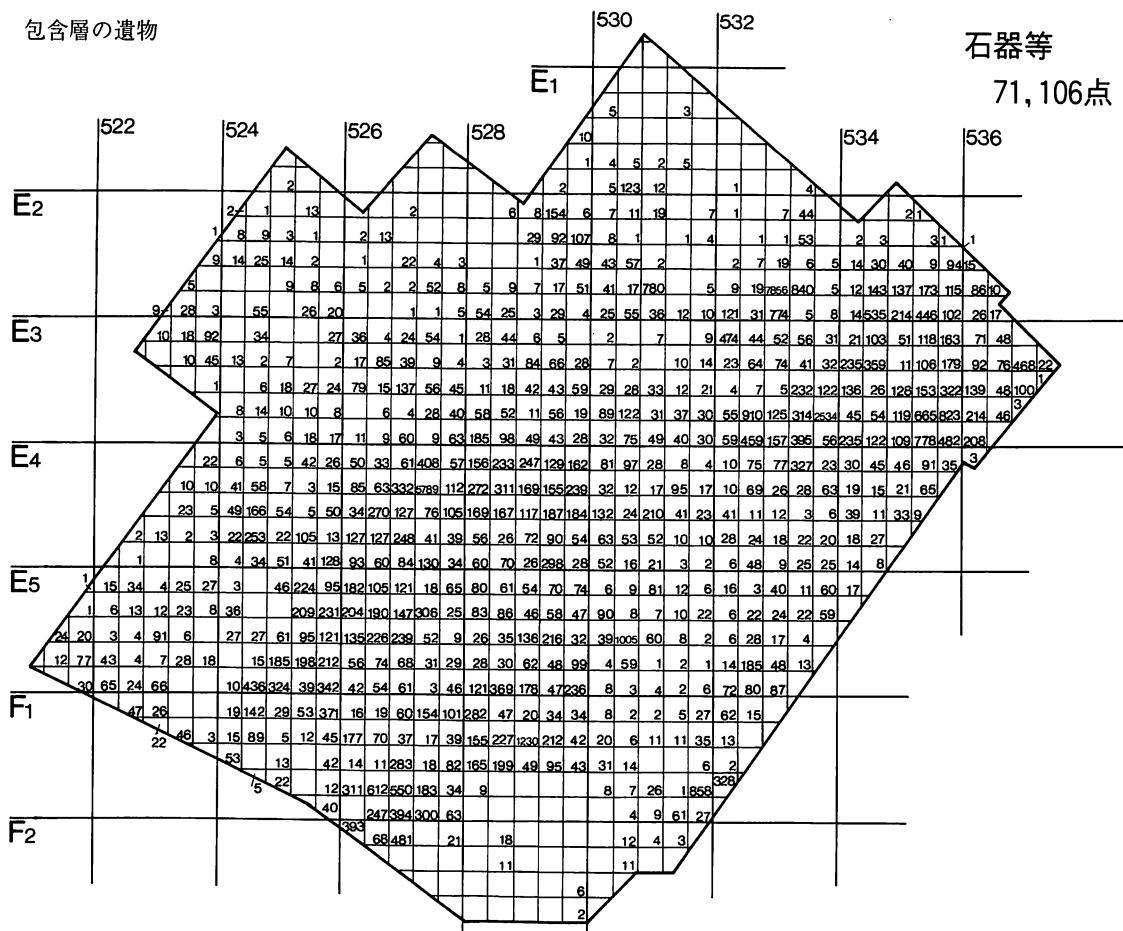
石斧類集中 (図IV-167-1~5、図IV-168-6~12、図版IV-31-1)

E₂-532-18でII-1層調査中、石斧とその未製品が1カ所にまとまった状態で出土した。それは袋にはいっていたものをそのまま廃棄したような状態であった。12点のうち刃部のあるものは3点のみで残りの9点は打ち欠きによる整形のみの未製品である。1・2は撥形、3は短冊形、4~12は未製品である。2・4・11が泥岩でほかは片岩である。

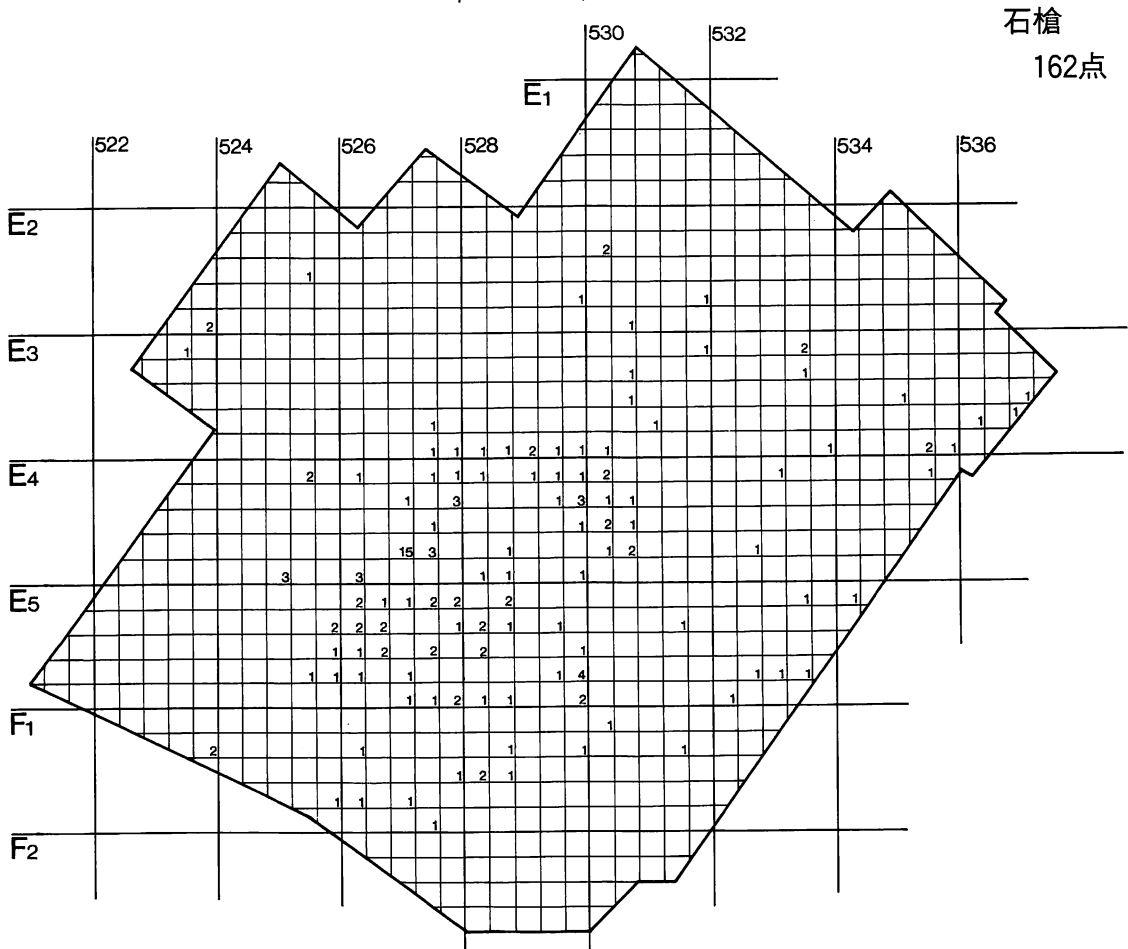
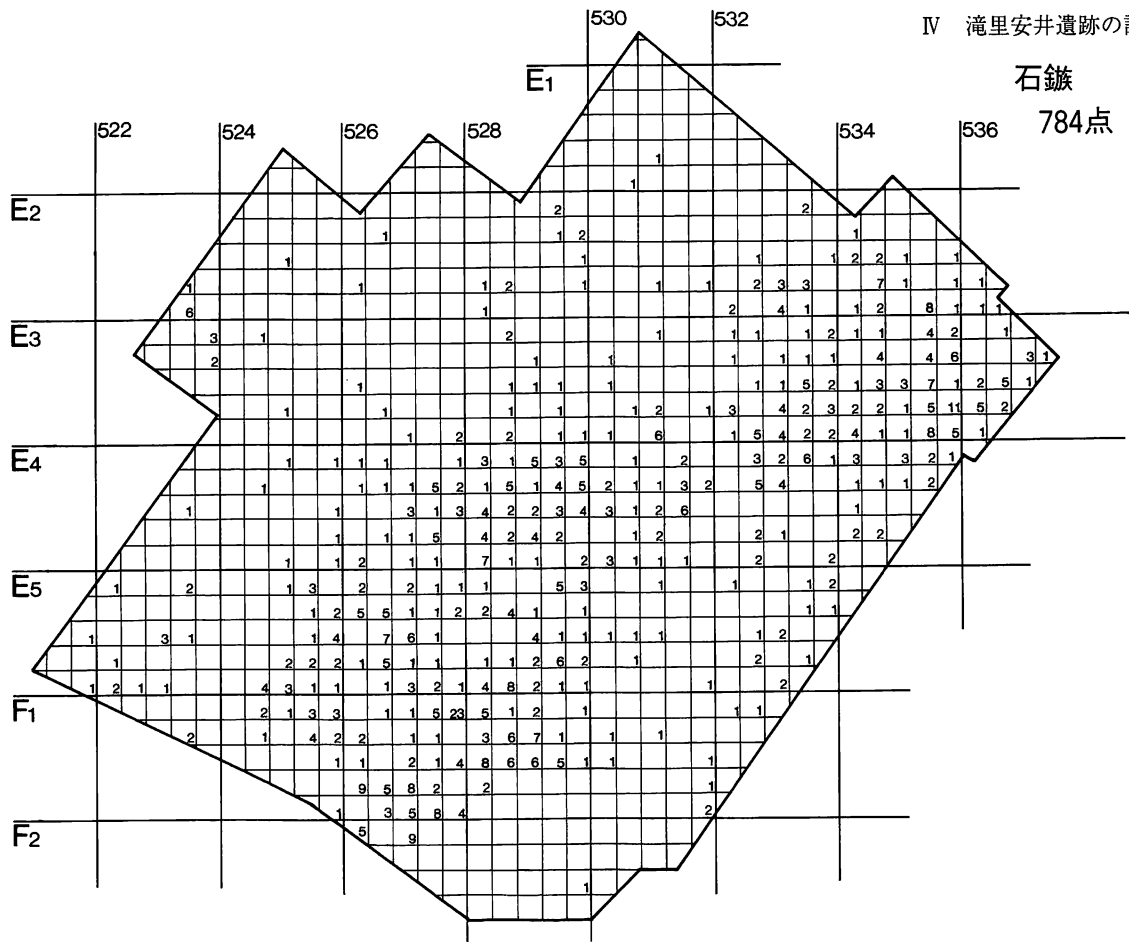
1は基部の上部が欠損している。鎬が明瞭であり、刃部には横方向の擦痕が観察される。研磨されているのは刃部と側縁のみである。2・3は打ち欠きによって整形され、刃部のみを研磨によって作出している。3は鎬が明瞭である。

(酒井秀治)

4 包含層の遺物

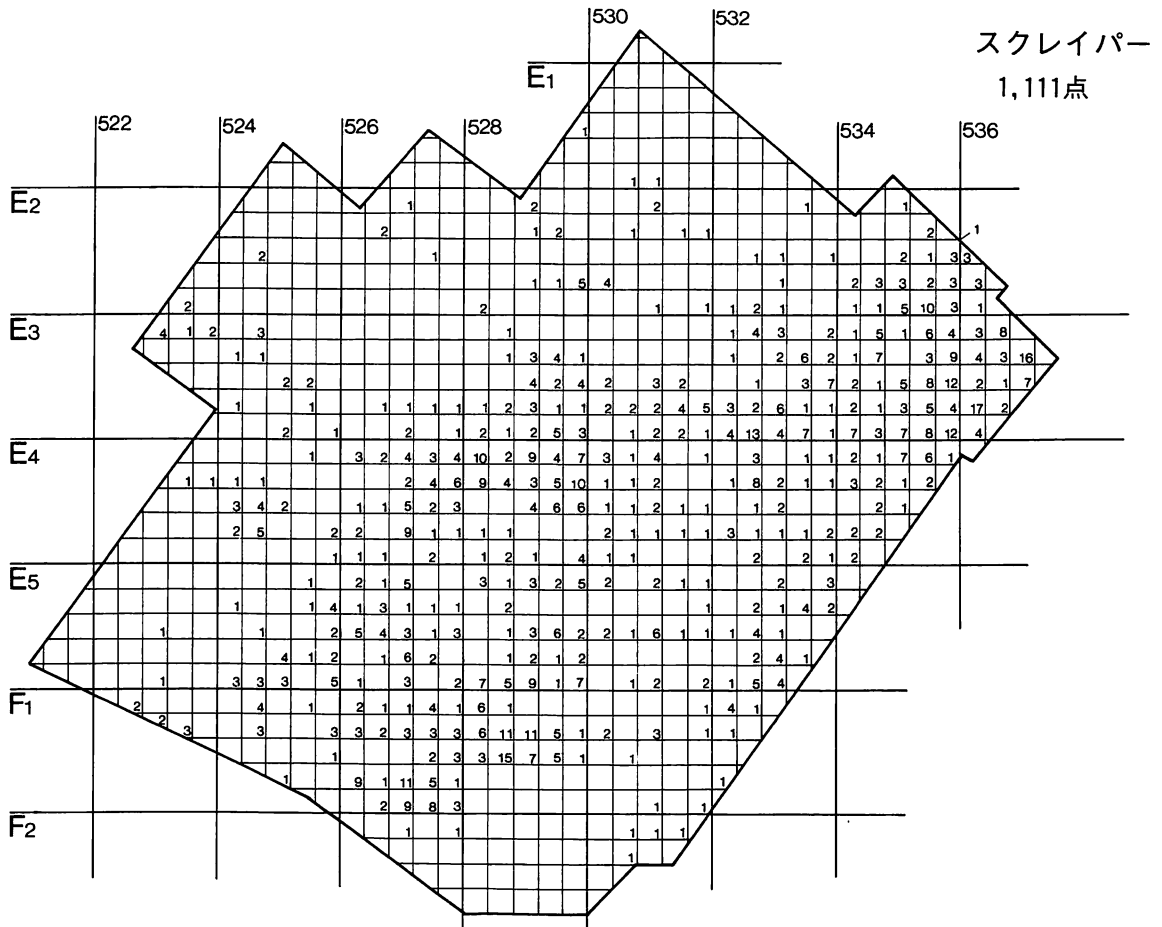
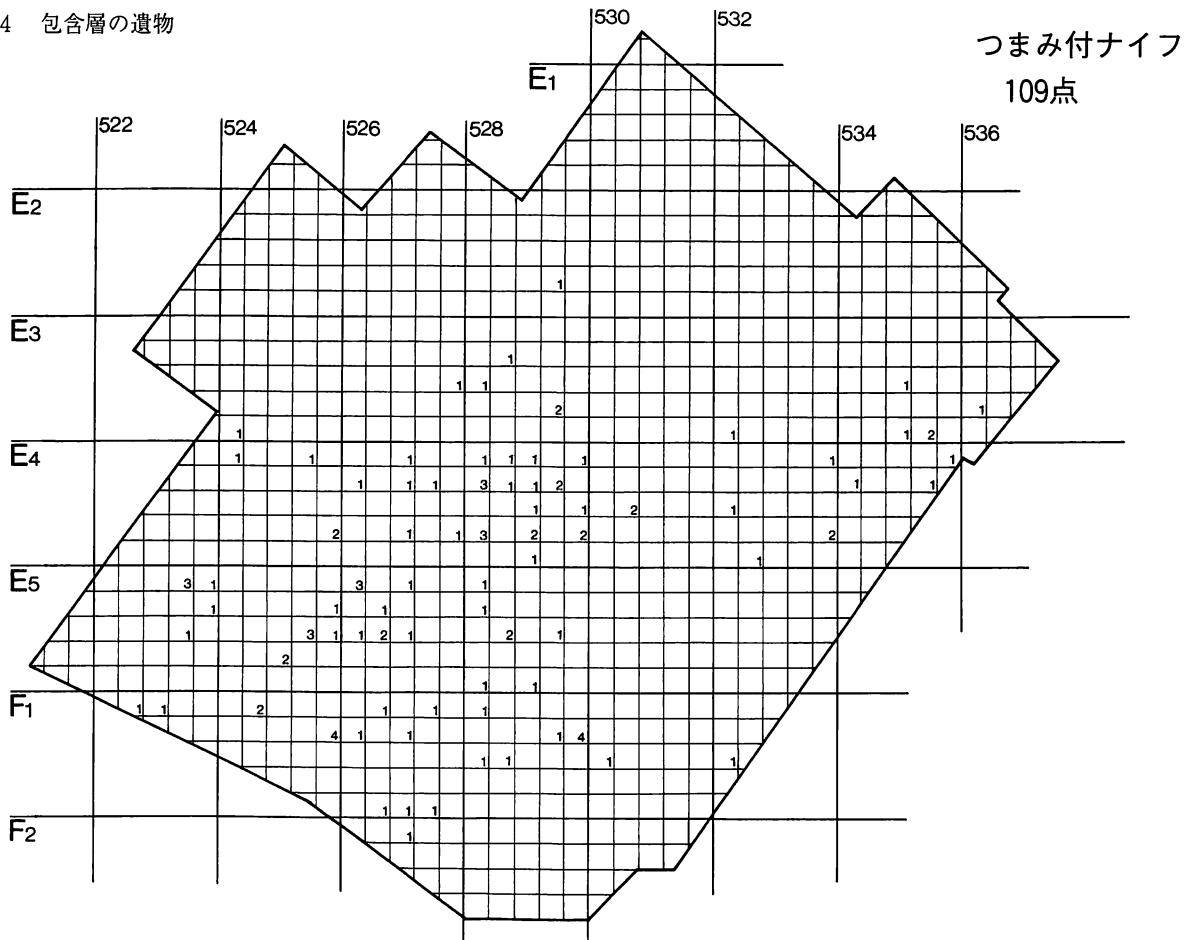


図IV-156 包含層の石器分布(1)

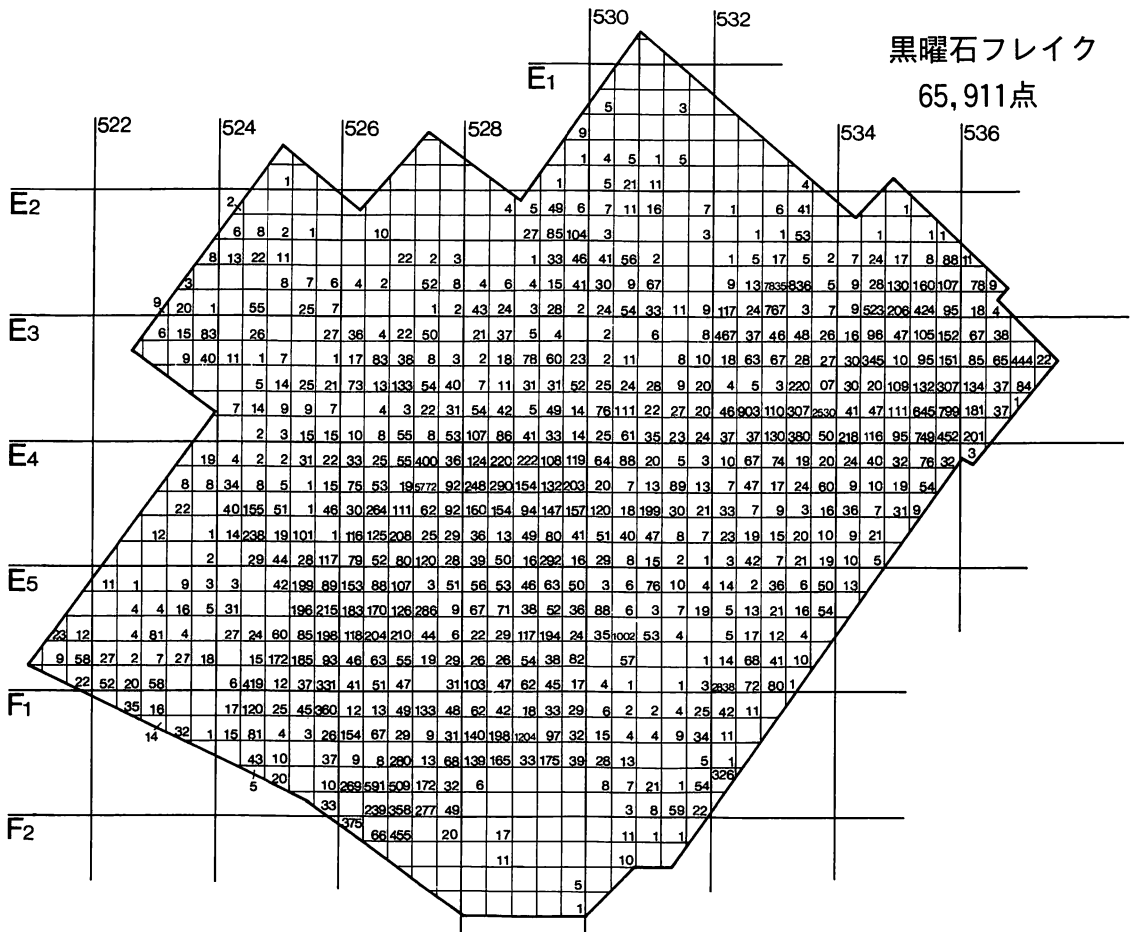
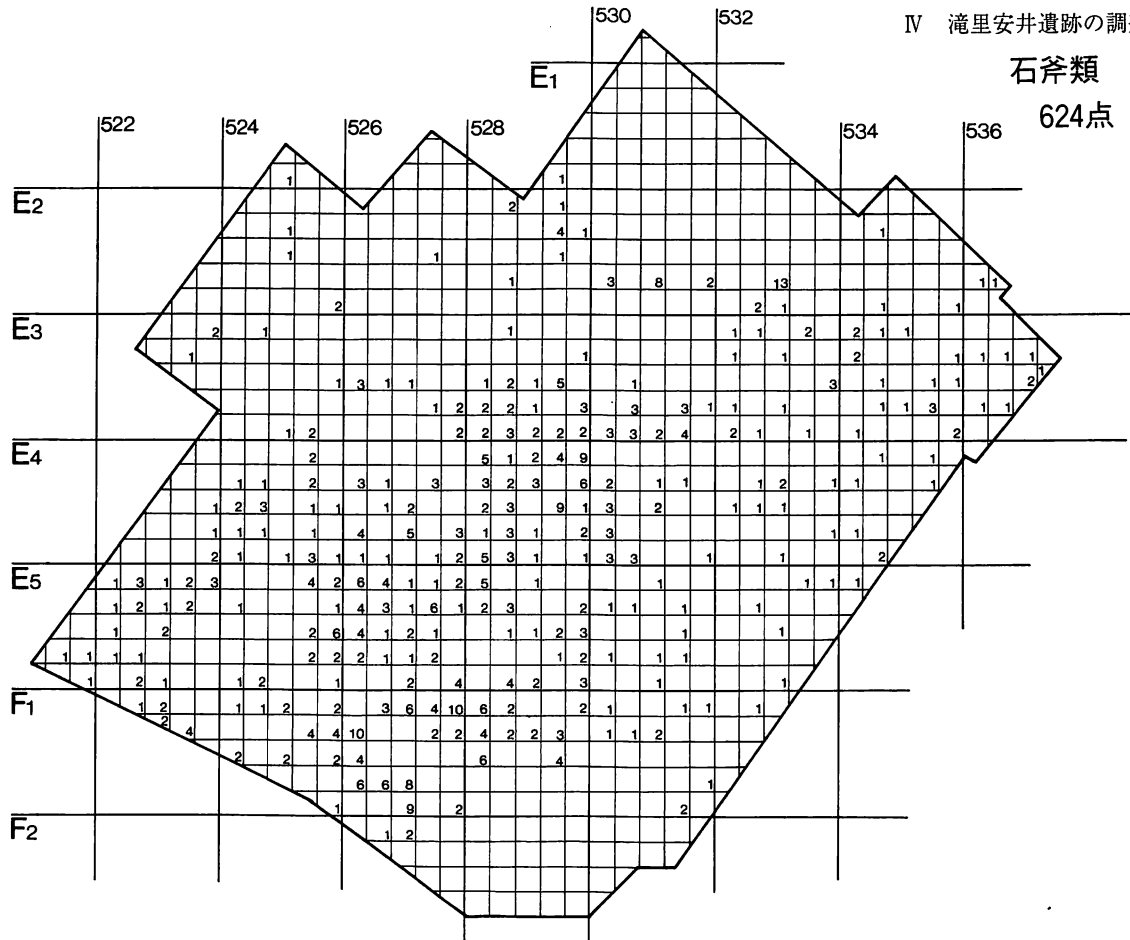


図IV-157 包含層の石器分布(2)

4 包含層の遺物

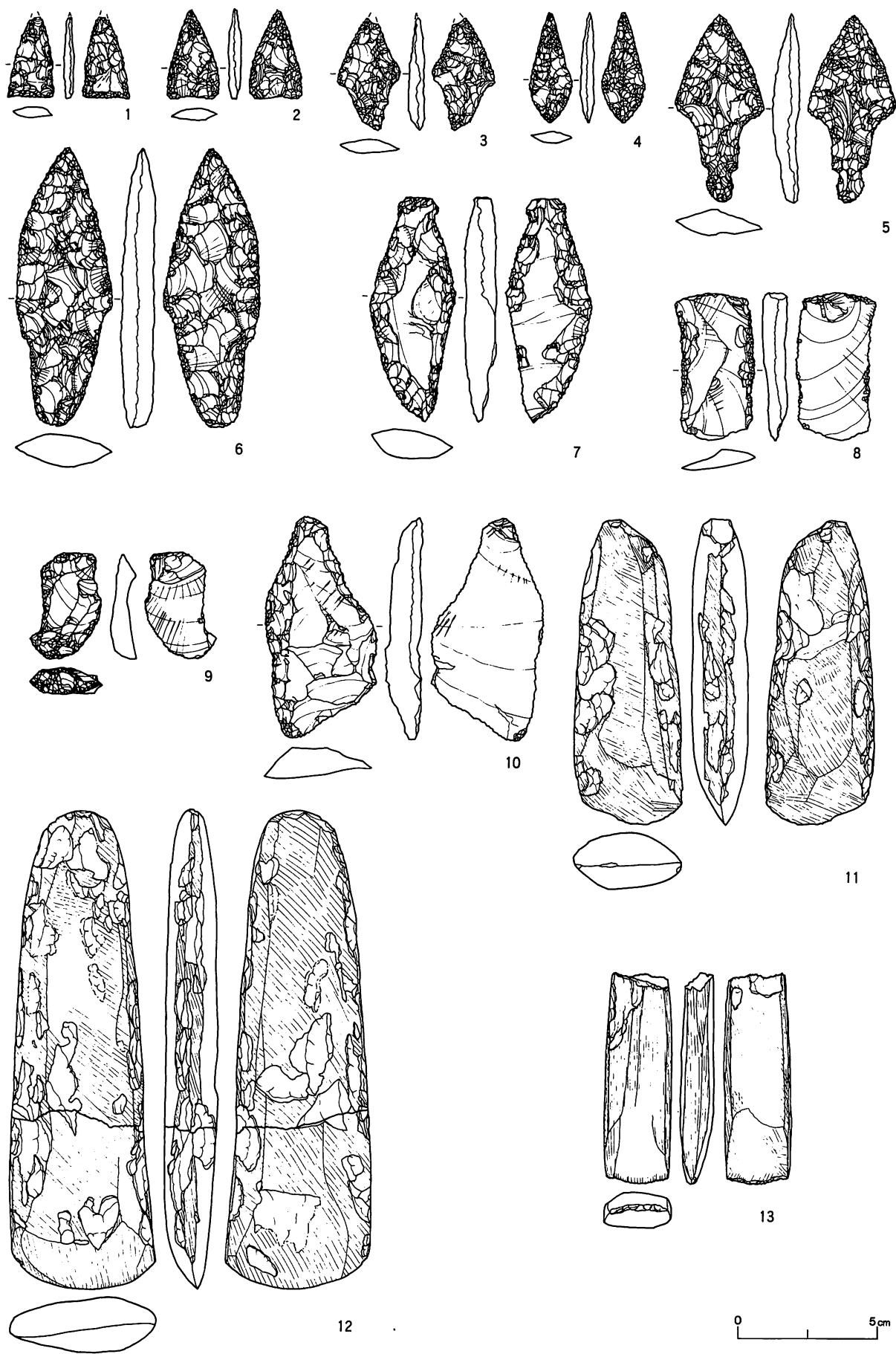


図IV-158 包含層の石器分布(3)

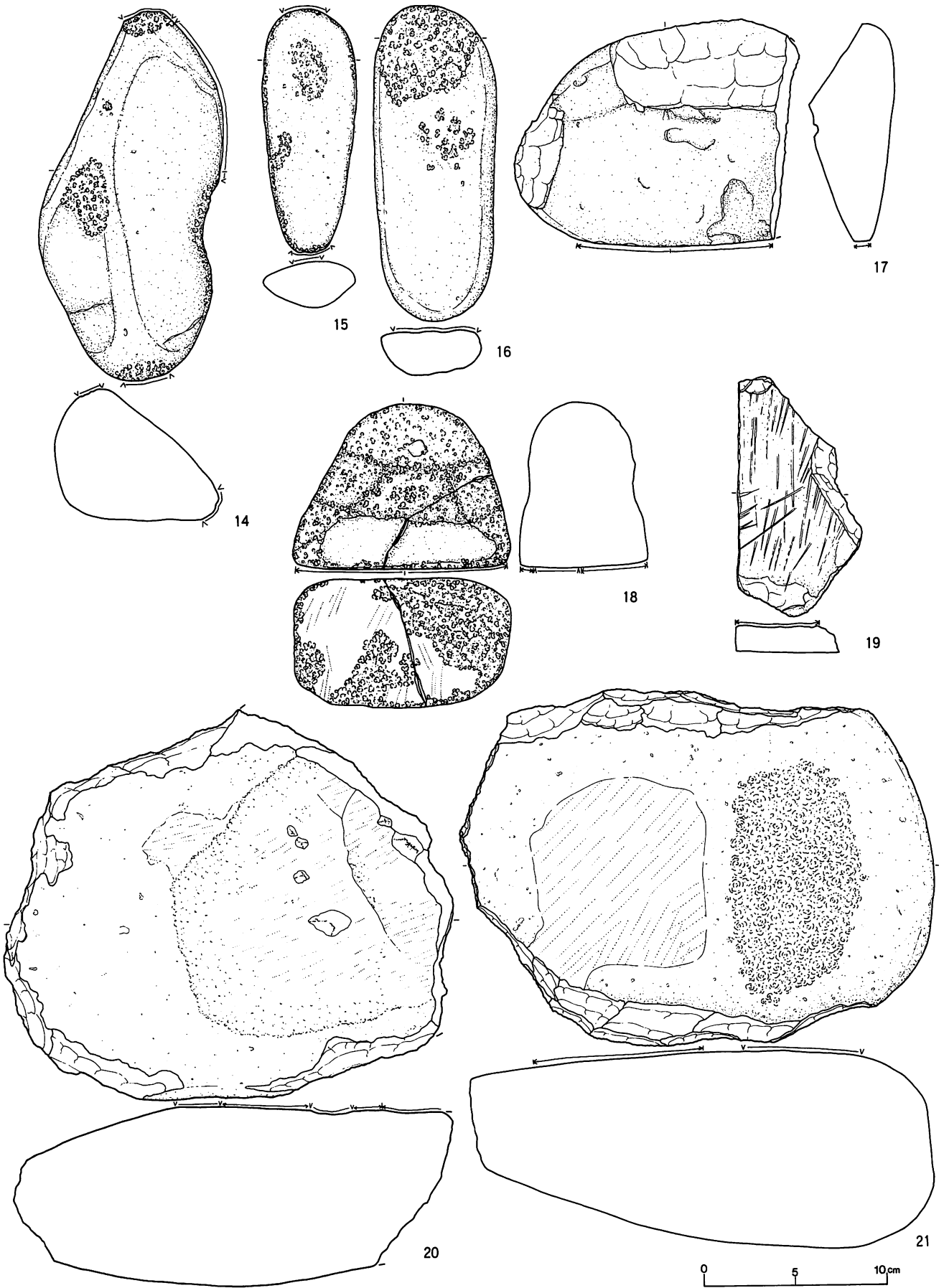


図IV-159 包含層の石器分布(4)

4 包含層の遺物

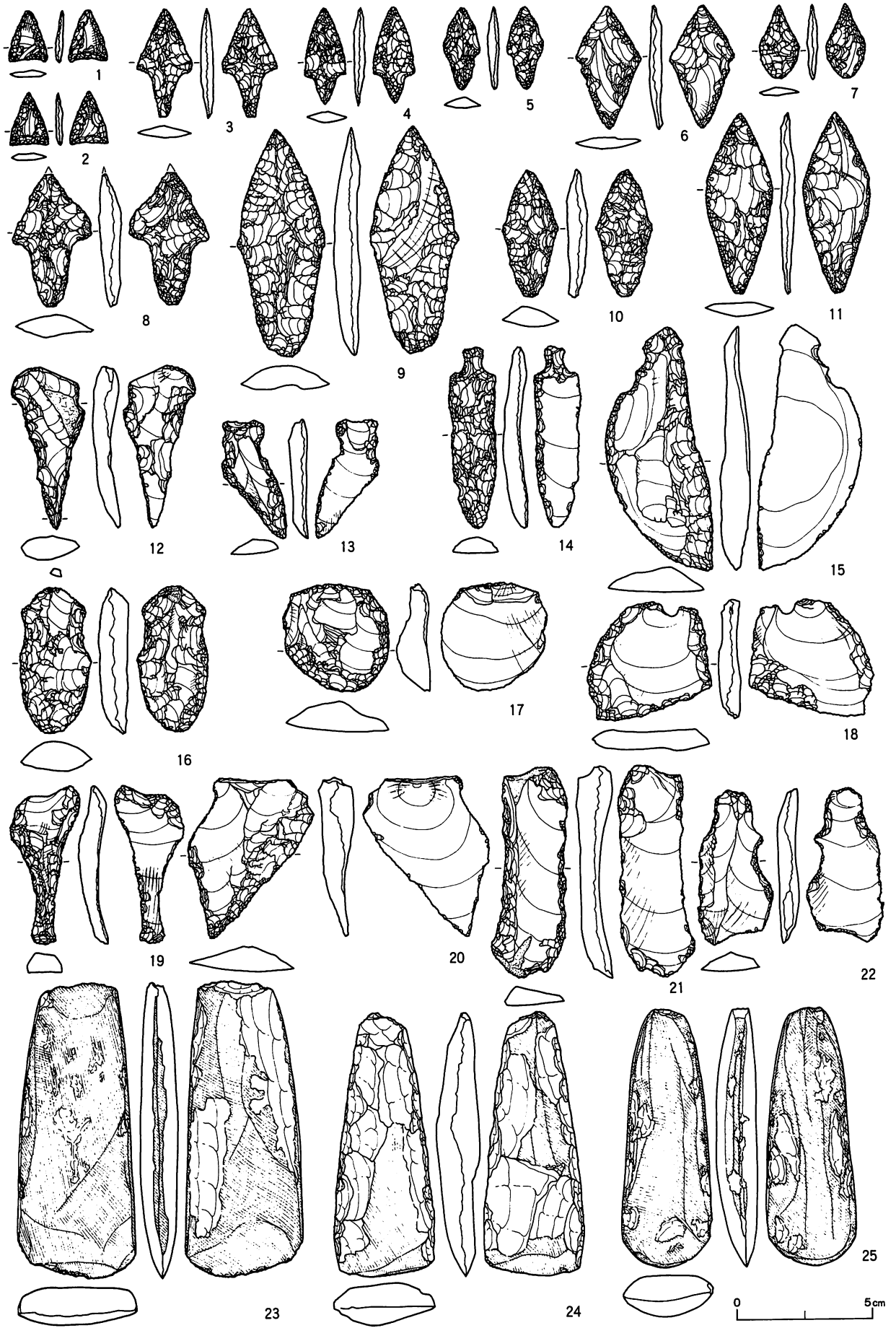


図IV-160 II-B層出土の石器(1)

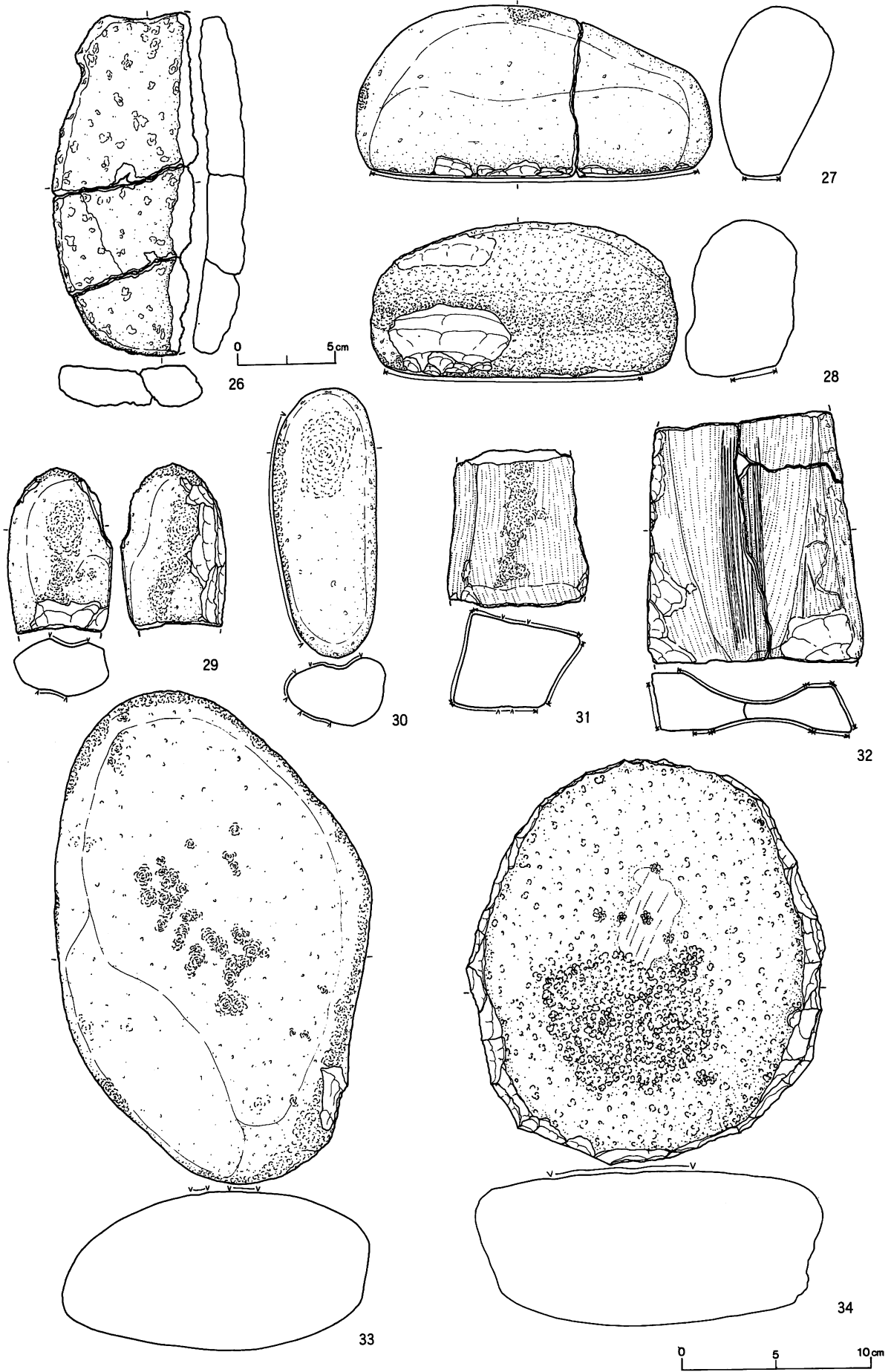


図IV-161 II-B層出土の石器(2)

4 包含層の遺物

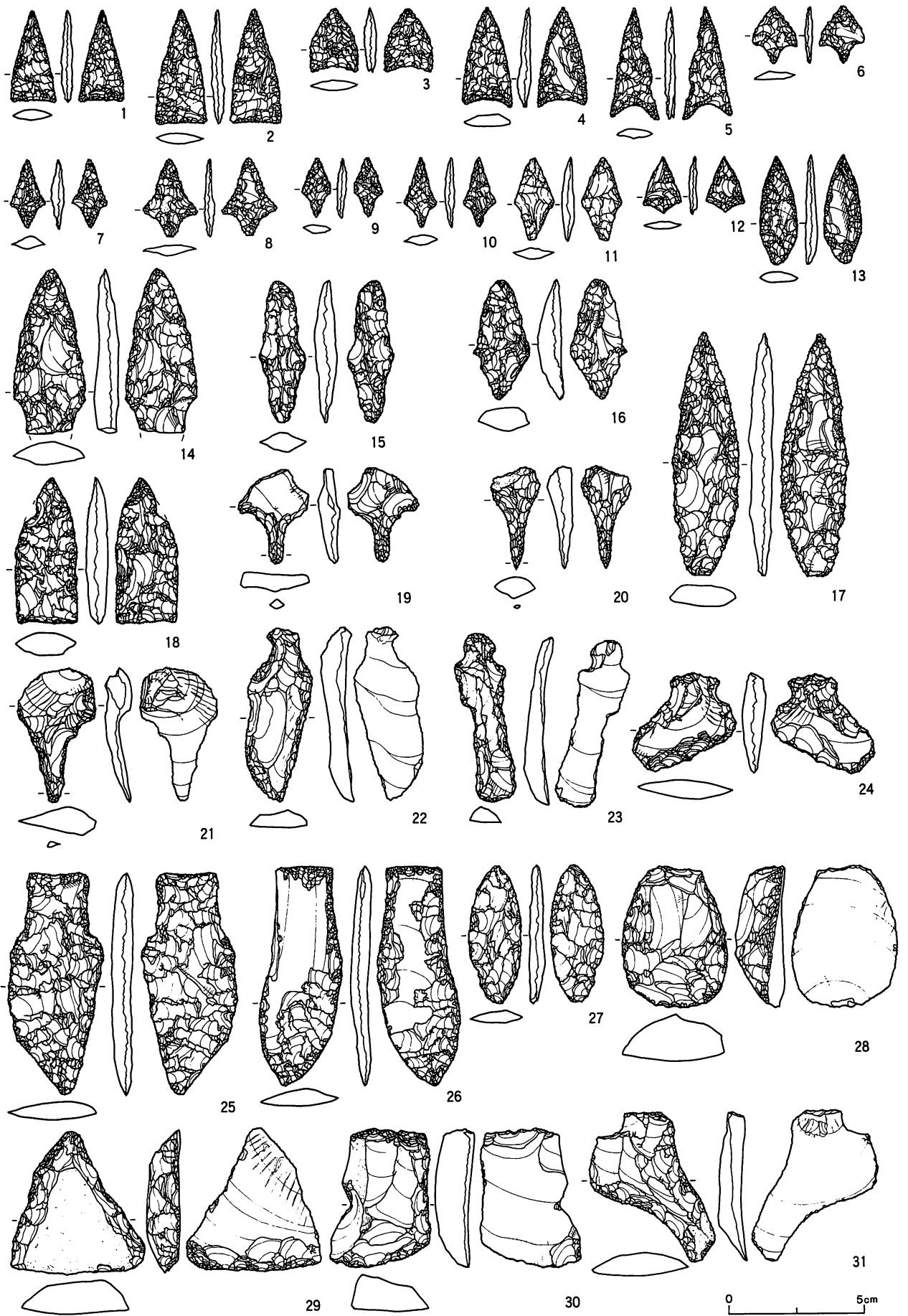


図IV-162 II-A層出土の石器(1)

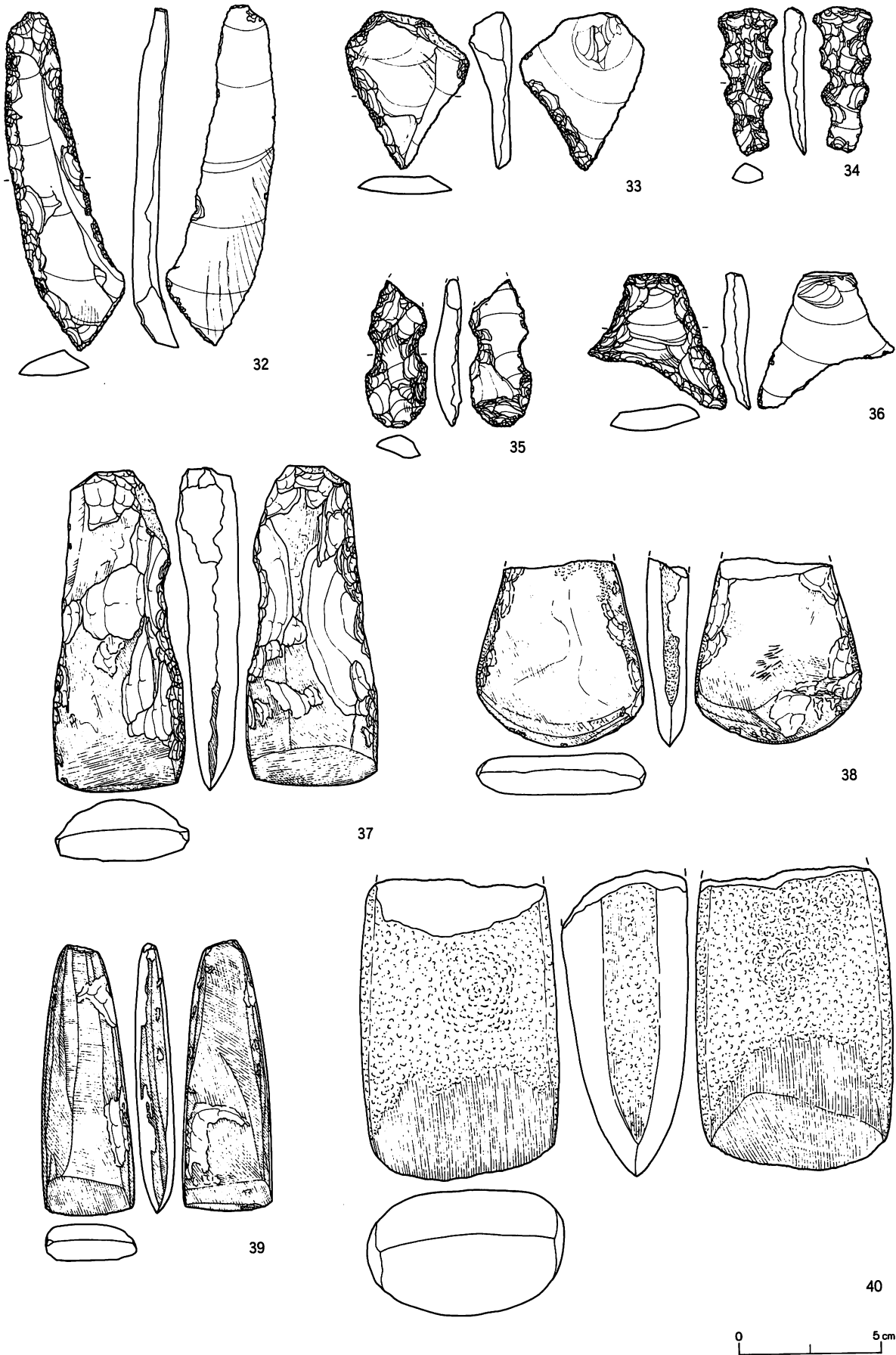


図IV-163 II-A層出土の石器等(2)

4 包含層の遺物

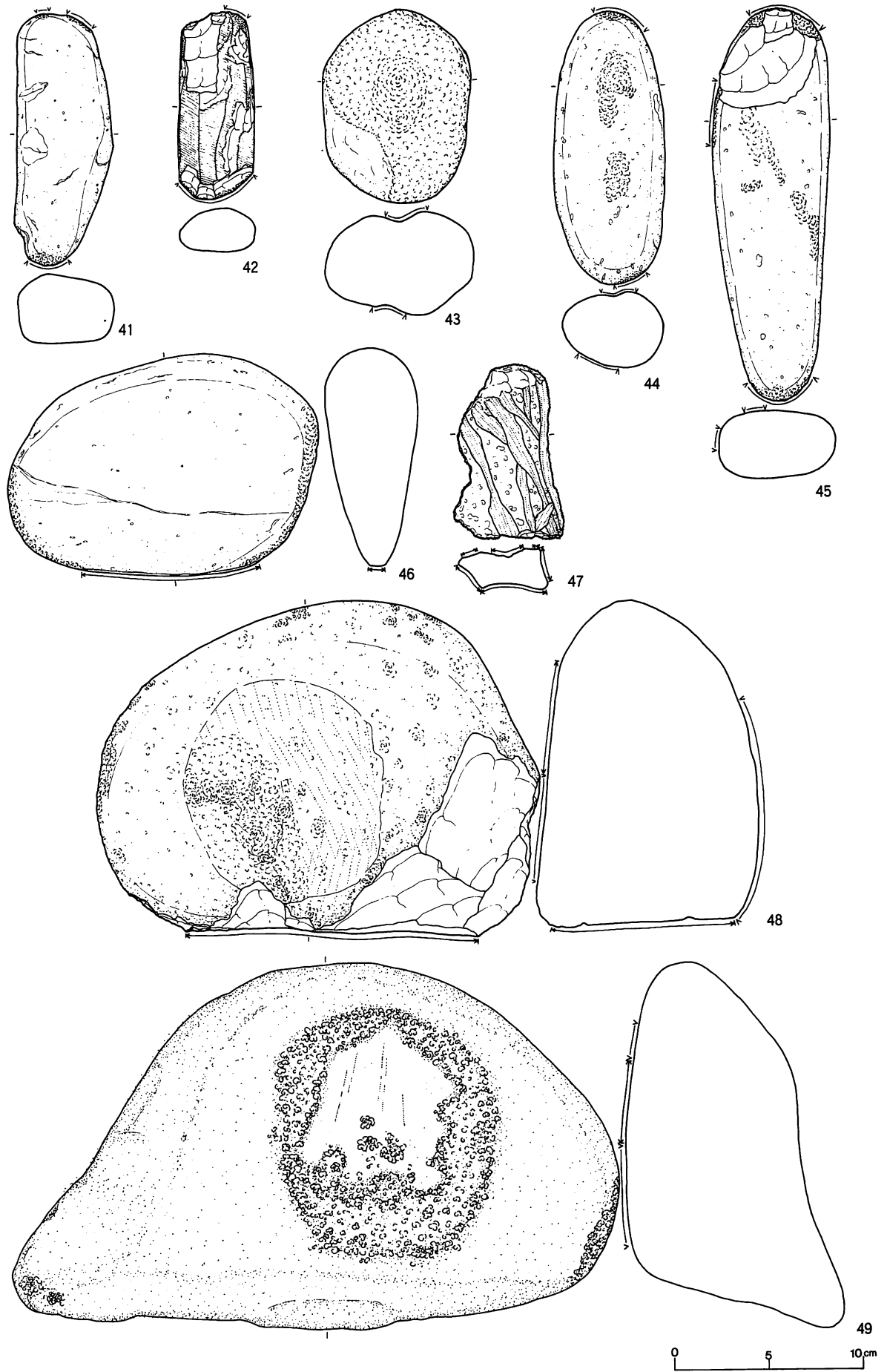


図IV-164 II-1層出土の石器(1)

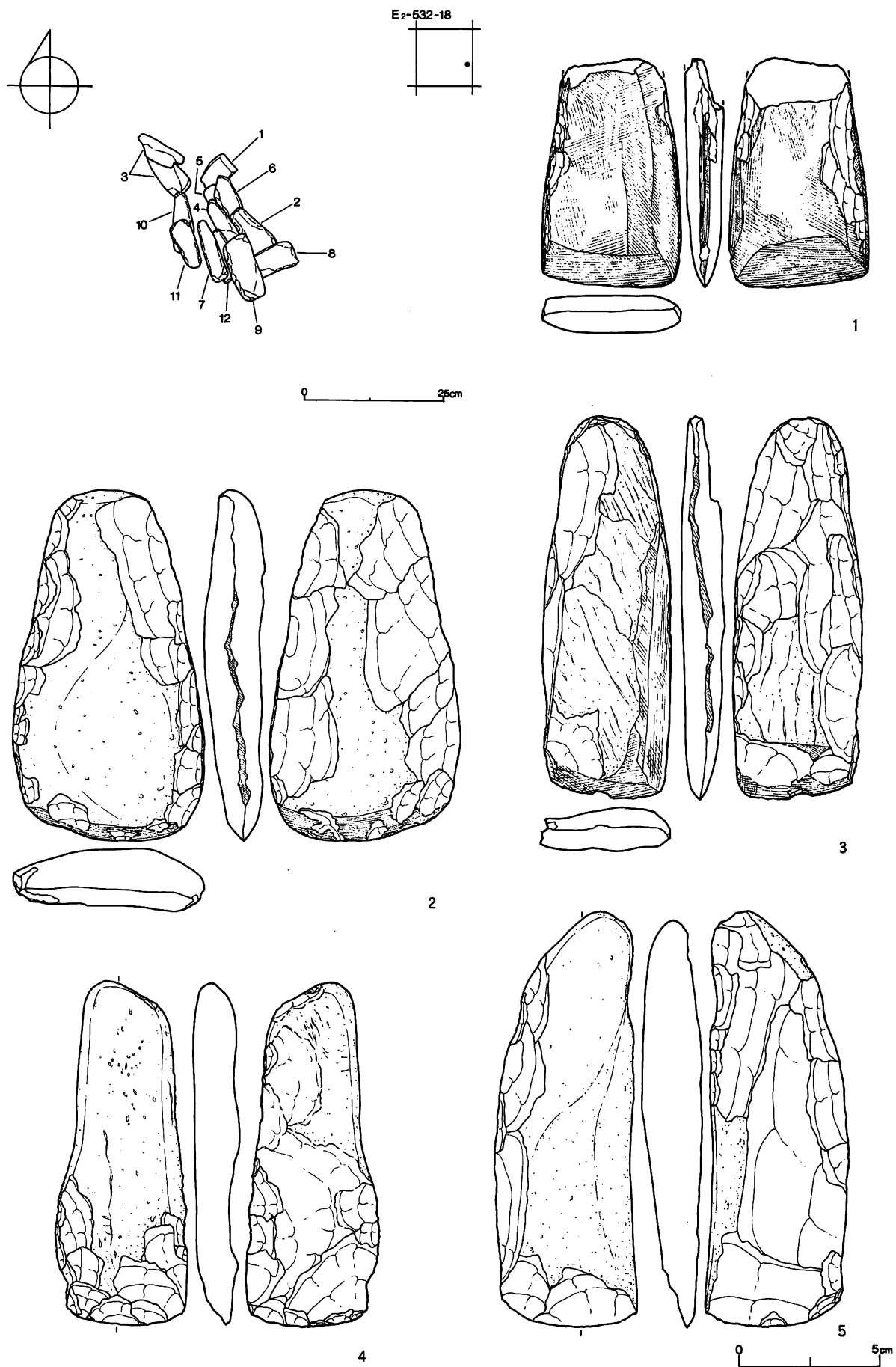


図IV-165 II-1層出土の石器(2)

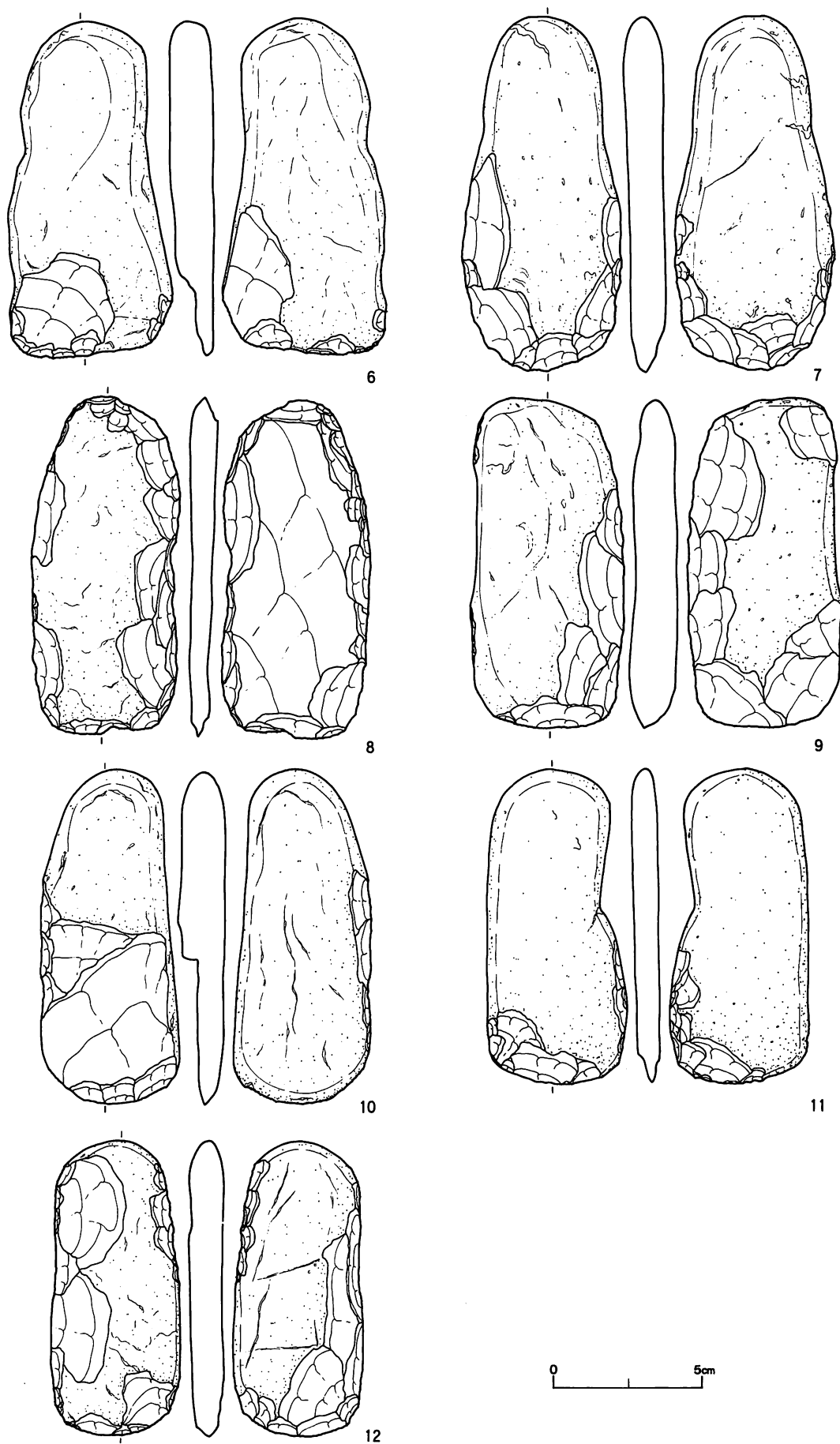
4 包含層の遺物



図IV-166 II-1層出土の石器(3)



図IV-167 II-1層の石斧類集中と出土遺物(1)



図IV-168 II-1層の石斧類集中出土遺物(2)

表Ⅳ-2 II-B層の遺構規模一覧

遺構名	位置	規模(長軸×短軸/深さ) m	確認面の標高(m)
S-3	E ₄ -528-4・5・9・10	4.25×2.54/—	137.20
F-1	E ₄ -528-22	0.47×0.38/0.04	136.64
F-2	E ₅ -528-8	0.41×0.28/0.03	135.45
F-3	E ₄ -526-18	0.48×0.35/0.06	136.90
F-4	E ₅ -526-3	0.19×0.15/0.04	136.40
F-5	E ₅ -526-3	0.26×0.19/0.05	136.40
F-6	E ₄ -528-11	0.27×0.25/0.05	136.90
F-7	E ₄ -528-16	0.39×0.30/0.07	136.90
F-8	E ₄ -526-17	0.46×0.33/0.01	136.55
F-9	E ₄ -526-16	0.46×0.39/0.08	136.58
F-10	E ₄ -526-16	0.27×0.19/0.07	136.61
F-13	E ₄ -528-5・10	0.59×0.35/0.06	137.23
F-14	E ₂ -528-22	0.64×0.33/0.13	137.15
F-15	E ₃ -528-21	0.42×0.40/0.03	136.98

表Ⅳ-3 II-A層の遺構規模一覧(1) 焼土・集石

遺構名	位置	規模(長軸×短軸/深さ) m	確認面の標高(m)
S-1	E ₃ -526-11	0.80×0.48/—	136.80
S-2	F ₂ -530-3	0.71×0.64/—	134.46
S-4	E ₃ -526-4	0.97×0.54/—	137.49
F-12	E ₃ -528-22	0.56×0.48/0.07	137.06
灰集中	E ₃ -528-18	0.48×0.38/0.09	137.60

表Ⅳ-4 II-A層の遺構規模一覧(2) 小柱穴

遺構名	直径×深さ(mm)	遺構名	直径×深さ(mm)	遺構名	直径×深さ(mm)
HP-1	320×220	HP-37	170×120	HP-88	180×160
HP-2	200×180	HP-38	200×100	HP-91	260×160
HP-3	170×80	HP-39	180×140	HP-94	160×160
HP-4	270×120	HP-41	180×180	HP-95	170×200
HP-7	110×140	HP-42	180×150	HP-96	130×120
HP-8	150×160	HP-45	80×130	HP-98	160×110
HP-10	190×200	HP-51	200×200	HP-99	170×130
HP-11	140×70	HP-52	240×140	HP-100	170×160
HP-12	180×140	HP-53	230×250	HP-102	220×100
HP-14	70×60	HP-54	200×90	HP-103	210×180
HP-15	210×180	HP-55	280×170	HP-104	150×160
HP-18	150×80	HP-56	200×110	HP-105	220×120
HP-19	140×210	HP-58	170×80	HP-106	100×80
HP-20	220×120	HP-59	80×180	HP-107	180×170
HP-25	140×200	HP-62	95×105	HP-110	170×130
HP-28	120×100	HP-63	160×120	HP-112	220×120
HP-29	200×200	HP-64	260×180	HP-116	170×130
HP-30	260×180	HP-77	150×50	HP-117	180×140
HP-31	260×280	HP-78	200×140	HP-118	160×140
HP-32	260×230	HP-79	170×240	HP-121	160×140
HP-33	240×180	HP-83	120×180	HP-122	180×190
HP-34	270×190	HP-84	130×160	HP-123	180×200
HP-35	160×240	HP-86	140×110	HP-124	160×80

表Ⅳ-5 II-1層遺構規模一覧(1) 土坑

遺構名	位置	規模(坑口部:長軸×短軸/坑底部:長軸×短軸/深さ) m	平面形	長軸方向	確認面の標高(m)
P-1	E ₅ -522-21	1.26×1.04/1.21×0.97/0.24	楕円形	N-19°-W	135.12
P-2	F ₁ -526-25	0.84×0.68/0.48×0.48/0.15	ほぼ円形	—	135.14
P-3	E ₅ -524-18	0.65×0.63/0.60×0.60/0.08	円形	—	135.97
P-4	E ₅ -524-18	0.80×0.74/0.68×0.64/0.23	円形	—	135.98
P-5	E ₅ -524-18	0.67×0.65/0.61×0.62/0.30	円形	—	135.90

4 包含層の遺物

遺構名	位置	規模(壙口部:長軸×短軸/壙底部:長軸×短軸/深さ) m	平面形	長軸方向	確認面の標高(m)
P-6	E ₃ -524-24	0.70 × 0.70 / 0.51 × 0.51 / 0.26	円形	—	135.95
P-7	E ₃ -524-19	0.71 × 0.69 / 0.66 × 0.64 / 0.38	円形	—	136.00
P-8	E ₃ -524-18・19	0.75 × 0.67 / 0.53 × 0.49 / 0.43	円形	—	135.96
P-9	F ₁ -526-10	0.62 × 0.57 / 0.48 × 0.40 / 0.11	円形	—	136.16
P-10	F ₁ -526-5	1.32 × 1.02 / 1.04 × 0.78 / 0.65	楕円形	N-53.5°-W	136.15
P-11	E ₃ -528-16	0.69 × 0.69 / 0.62 × 0.60 / 0.16	円形	—	136.30
P-12	E ₃ -524-11	0.94 × 0.94 / 0.71 × 0.65 / 0.28	ほぼ円形	—	135.49
P-13	F ₁ -528-2	0.94 × 0.73 / 0.87 × 0.72 / 0.22	円形	—	136.31
P-14	E ₃ -528-22	— × 0.91 / — × 0.73 / 0.11	(楕円形)	—	136.35
P-15	E ₃ -528-23	1.07 × 0.94 / 0.80 × 0.71 / 0.51	楕円形	N-78°-W	136.36
P-16	F ₁ -528-3	0.76 × 0.62 / 0.57 × 0.42 / 0.34	楕円形	N-63°-E	136.38
P-17	E ₃ -528-22	0.65 × 0.62 / 0.34 × 0.35 / 0.45	ほぼ円形	—	136.38
P-18	F ₁ -528-6	1.12 × 0.74 / 0.99 × 0.53 / 0.34	楕円形	N-64°-W	136.07
P-19	F ₁ -528-4	1.14 × 1.04 / 0.91 × 0.82 / 0.40	ほぼ円形	—	136.32
P-20	E ₃ -528-24	0.97 × 0.81 / 0.69 × 0.50 / 0.12	楕円形	N-2°-W	136.42
P-21	F ₁ -526-4	(0.85) × (0.73) / (0.75) × (0.60) / 0.30	楕円形	N-43°-W	136.10
P-22	E ₄ -524-10	1.03 × 0.75 / 0.83 × 0.58 / 0.16	楕円形	N-73°-W	136.40
P-23	F ₁ -526-15	0.69 × 0.58 / 0.60 × 0.55 / 0.30	円形	—	135.92
P-24	F ₁ -526-15	— / — / 0.35	—	—	136.03
P-25	F ₁ -528-9・10	1.12 × 1.02 / 0.95 × 0.89 / 0.43	楕円形	N-24°-W	136.23
P-26	E ₃ -523-17・18・22・23	0.80 × 0.74 / 0.61 × 0.59 / 0.21	円形	—	135.75
P-27	E ₃ -530-18	1.03 × 0.73 / 0.92 × 0.61 / 0.20	楕円形	N-51°-E	138.48
P-28	E ₃ -530-23	0.75 × 0.70 / 0.67 × 0.60 / 0.14	円形	—	137.80
P-29	E ₄ -530-9	1.1 × 0.85 / 0.98 × 0.75 / 0.24	楕円形	N-48°-E	137.80
P-30	E ₃ -532-21	0.73 × 0.73 / 0.62 × 0.67 / 0.11	円形	—	138.60
P-31	E ₄ -530-13	1.04 × 0.90 / 0.94 × 0.80 / 0.19	楕円形	N-47°-E	137.51
P-32	E ₄ -530-8	0.62 × 0.44 / 0.44 × 0.34 / 0.17	楕円形	N-56°-W	137.71
P-33	E ₄ -530-13	0.90 × 0.80 / 0.68 × 0.53 / 0.23	楕円形	N-10°-E	137.40
P-34	E ₃ -534-12	0.68 × 0.68 / — / 0.16	円形	—	139.13
P-35	E ₃ -532-17・18	1.03 × 0.60 / 0.92 × 0.48 / 0.28	隅丸長方形	N-77°-E	138.60
P-36	E ₃ -532-22	0.88 × 0.66 / 0.72 × 0.48 / 0.14	楕円形	N-79°-W	138.43
P-37	E ₃ -532-16	0.8 × 0.69 / 0.70 × 0.60 / 0.14	不整形円形	—	138.40

表Ⅳ-6 II-1層の遺構規模一覧(2) 石囲い炉・集石・焼土

遺構名	位置	規模(長軸×短軸/深さ) m	確認面の標高(m)
石囲い炉-1	E ₃ -532-24	0.50×0.37/0.11	137.60
石囲い炉-2	E ₃ -532-14	0.64×0.53/1.13	139.20
石囲い炉-3	E ₃ -532-14	0.59×0.49/0.12	139.17
石囲い炉-4	E ₃ -534-21	0.59×0.51/0.12	138.50
石囲い炉-5	E ₃ -532-15	0.57×0.49/0.08	138.90
石囲い炉-6	E ₃ -532-24	0.47×0.44/0.75	138.60
石囲い炉-7	E ₃ -532-22	0.53×0.42/0.10	138.44
S-5	E ₃ -536-11	1.03×0.64	139.25
S-6	E ₂ -536-16	0.43×0.32	140.00
F-11	E ₃ -532-24	0.52×0.43/0.05	138.33
F-16	E ₂ -534-17	0.70×0.56/0.06	139.90
F-17	E ₃ -534-12	0.65×0.62/0.08	139.07
F-18	E ₃ -532-10・15	0.57×0.51/0.11	139.02
F-19	E ₂ -534-22	0.72×0.60/0.09	139.72
F-20	E ₃ -534-14	0.49×0.25/0.04	139.19
F-21	E ₃ -534-24	0.65×0.57/0.08	138.62
F-22	E ₃ -532-9	0.40×0.27/0.04	138.21
F-23	E ₃ -534-6	0.48×0.46/0.08	139.20
F-24	E ₂ -534-17	1.88×1.11/0.07	139.90
F-25	E ₃ -534-14	0.61×0.49/0.08	139.18

遺構名	位置	規模(長軸×短軸/深さ) m	確認面の標高(m)
F-26	E ₃ -534-14	0.99×0.48/0.06	139.18
F-27	E ₂ -534-24	0.45×(0.22)/0.09	138.86
F-28	E ₃ -534-7	0.36×0.29/0.02	139.23
F-29	E ₃ -532-18	0.86×0.56/0.05	138.74
F-30	E ₃ -532-21	0.53×0.40/0.07	138.47
F-31	E ₃ -532-3	0.72×0.61/0.04	139.27
F-32	E ₃ -532-4	0.56×0.40/0.05	139.15
F-33	E ₄ -528-12	0.40×(0.30)/0.08	137.66
F-34	E ₃ -532-9	0.92×(0.78)/0.12	139.27
F-35	E ₃ -532-9	0.62×0.43/0.08	139.28
F-36	E ₃ -532-3	0.52×0.39/0.05	139.26
F-37	E ₂ -534-17	0.32×0.21/0.06	139.90
F-38	E ₃ -534-5	0.53×0.48/0.08	139.60
F-39	E ₃ -534-5	1.16×0.55/0.07	139.60
F-40	E ₂ -534-22	0.64×0.46/0.06	139.84
F-41	E ₂ -534-17	0.43×0.40/0.07	139.90
F-42	E ₃ -532-4	0.20×0.14/0.02	139.24
F-43	E ₂ -534-17	0.49×0.61/0.06	139.90
F-44	E ₂ -534-17	0.47×0.38/0.05	139.90
F-45	E ₂ -534-17	0.65×0.40/0.08	139.90
F-46	E ₂ -534-17	0.69×0.51/0.06	139.90
F-47	E ₂ -534-17	0.80×0.50/0.03	139.90
F-48	E ₂ -534-12	0.63×0.52/0.07	139.90
F-49	E ₂ -534-7	0.25×0.22/0.08	140.00
F-50	E ₂ -532-14	0.51×0.44/0.06	139.90

表IV-7 II-B層の遺構出土遺物一覧

器種 遺構	器種																合計				
	土器	石鏃	石槍	石錘	ナイフ類	スクレイパー	石斧	たたき石	台石	すり石	石皿	石鋸	砥石	石核	Rフレイク	加工痕のある礫		フレイク	礫片	琥珀平玉	玉
S-3							16	11	6	19	1	1			2			166			222
F-14										1											1
F-15									3			10					4	66			83
合計							16	11	9	20	1	11			2		4	232			306

表IV-8 II-A層の遺構出土遺物一覧

器種 遺構	器種																合計				
	土器	石鏃	石槍	石錘	ナイフ類	スクレイパー	石斧	たたき石	台石	すり石	石皿	石鋸	砥石	石核	Rフレイク	加工痕のある礫		フレイク	礫片	琥珀平玉	玉
S-4										2					1	1		33			38
合計										2					1	1	1	33			38

表IV-9 II-1層の遺構出土遺物一覧

器種 遺構	器種																合計				
	土器	石鏃	石槍	石錘	ナイフ類	スクレイパー	石斧	たたき石	台石	すり石	石皿	石鋸	砥石	石核	Rフレイク	加工痕のある礫		フレイク	礫片	琥珀平玉	玉
P-1	5				1	7							3	2	2	1	60	1			82
P-2																	44				44
P-3	6	1															64				71
P-4	19																30	1			50
P-5	15					4									2		108	4			133
P-6	12																4	6			22
P-7	8								4								16	17			45
P-8	21								1						1		24	18			65
P-9	5																				5
P-10	58	3					3								1	1	127				193
P-11	4																1				5
P-13																		1			1
P-15	1	130			4		5										16	13			169
P-17					1																1

4 包含層の遺物

器種 遺構	土器	石鉄	石槍	石錘	ナイフ 類	スレイ パー	石斧	たた き石	台石	すり 石	石皿	石鋸	砥石	石核	Rフレ イク	加工痕の ある礫	フレ イク	礫 片	琥珀 平玉	玉	合計
P-18																	1				1
P-19	24	1							3									14			42
P-20	1								1									3			5
P-21	1				1	1					1						29				33
P-22	2						1										2		3235 (完形)		3240
P-23	79	1				1										2	30	1			114
P-24	86					1		1									1				89
P-25	15	2									2						8		27 (完形)	10	64
P-26	2								3									11			16
P-27	8								1				1								10
P-28																		2			2
P-29	35								1				1				2	10			49
P-30	12	1			1	3											2	3			22
P-31	1				1												4	4			10
P-32																	1				1
P-33	15																27	1			43
P-34	4								1									1			6
P-35	19					1							1				5	2			28
P-36	24					3		1									3	1			32
P-37	3																	1			4
石皿いゆ1				1							1						1	13			16
石皿いゆ2									1								4	7			12
石皿いゆ3	9					1					1						1	6			18
石皿いゆ4																		5			5
石皿いゆ5	4								1								3	3			11
石皿いゆ6								1										4			5
石皿いゆ7																		3			3
S-5									1									16			17
S-6																		13			13
F-11																		10			10
F-17																		1			1
F-18	99								1									3			103
F-21	7																				7
F-24	7																2	1			10
F-34	21																8	1			30
F-35	4																				4
F-40	22																8	2			32
F-43																		3			3
F-44	5																				5
F-47	1																1				2
合計	664	139	0	1	9	25	6	3	19	0	5	0	6	2	6	4	637	206	3262	10	5004

表Ⅳ-10 II-B層の遺構出土掲載石器一覧

挿図番号	遺構名	遺物番号	層位	器種名	分類番号	長さ(mm)×幅(mm)×厚さ(mm)	重量(g)	石材	図版番号	備考
Ⅳ-11-1	S-3	63	Ⅱ-B	すり石	ⅣA 1	78.0×122.0×47.0	410.0	砂岩	Ⅳ-26-2	
-2	〃	79	〃	〃	〃	61.0×113.0×28.0	220.0	〃	〃	被熱
-3	〃	26	〃	〃	ⅣA 4	97.0×80.0×48.0	325.0	〃	〃	北海道式石冠
-4	〃	16	〃	たたき石	ⅤA 2	130.0×68.0×46.0	510.0	〃	〃	
-5	〃	10	〃	〃	〃	270.0×121.0×48.0	1389	〃	〃	
-6	〃	21	〃	〃	ⅤA 3	111.0×88.0×30.0	390.0	閃緑岩	〃	
-7	〃	171	〃	加工痕のある礫	X B	150.0×56.0×47.0	495.0	緑色泥岩	〃	
-8	〃	162	〃	たたき石	ⅤA 1	76.0×57.0×31.0	200.0	安山岩	〃	
-9	〃	174	〃	砥石	ⅦB 2	148.0×129.0×34.0	920.0	砂岩	〃	被熱
-10	〃	68	〃	石のこ	ⅦA	95.0×73.0×9.0	80.0	〃	〃	
-11	〃	24	〃	石皿	ⅥB 2	346.0×205.0×108.0	1800	トロニエム岩	〃	
Ⅳ-12-1	F-15	8 A	Ⅱ-B	砥石	ⅦB 2	58.1×56.5×19.2	51.5	砂岩	Ⅳ-27-6	
-2	〃	8 B	〃	〃	〃	68.1×56.9×14.8	72.9	〃	〃	

表IV-11 II-A層の遺構出土掲載石器一覧

挿図番号	遺構名	遺物番号	層位	器種名	分類番号	長さ(mm)×幅(mm)×厚さ(mm)	重量(g)	石材	図版番号	備考
IV-14-1	S-4	32	II-A	加工痕ある礫	XB	(109.2)×(53.8)×(37.4)	(351.0)	片岩		図版未掲載

表IV-12 II-1層の遺構出土掲載土器一覧

図番号	遺構番号	遺物番号	出土層位	分類	図版番号	備考	図番号	遺構番号	遺物番号	出土層位	分類	図版番号	備考
IV-19-1	P-1	65	覆土2	Vc	IV-6-3		-12	P-24	29	覆土1	Vc	IV-19-5	
IV-21-1	P-22	1	覆土1	VI	IV-7	カラー図版	-13	〃	24	〃	〃	〃	接合(3点)
IV-24-1	P-5	3	覆土1	Vc	IV-9		IV-45-1	P-25	41	底面	VI	IV-20-4	
IV-24-1	P-6	3	覆土1	VI	〃		IV-48-1	P-27	3	覆土1	Va	IV-21	
-2	〃	18	〃	〃	〃		-2	〃	8	〃	〃	〃	
IV-25-1	P-8	35	覆土1	Vc	〃		IV-49-1	P-29	27	覆土1	Va	〃	
-2	〃	30	〃	〃	〃		-2	〃	9	〃	Vc	〃	
-3	〃	12	〃	〃	〃		-3	〃	20	〃	〃	〃	
IV-28-1	P-9	2	覆土2	Vc			-4	〃	23	〃	〃	〃	
-2	〃	5	〃	Vc			-5	〃	34	〃	〃	〃	
IV-29-1	P-10	11・13	覆土1	Vc	IV-9		IV-50-1	P-30	12	覆土1	Vc	IV-22	
IV-31-1	P-11	1	覆土1	Vc			IV-50-1	P-31	3	覆土1	Vc	IV-22-5	
IV-40-1	P-19	11	覆土1	V	IV-17-3		IV-50-1	P-33	9	覆土1	Vc	IV-23-3	
IV-41-1	P-20	3	覆土1	IIb	IV-18-3		IV-51-1	P-34	1	覆土1	Vc	IV-23-6	
IV-43-1	P-23	1	覆土1	VI	IV-19-2	接合(5点)	IV-51-1	P-35	9	覆土1	Vc	IV-24	
-2	〃	1・3	〃	〃	〃	接合(3点+3点)	-2	〃	11	覆土1	〃	〃	赤色顔料付着
-3	〃	3	〃	〃	〃		-3	E ₃ -532-18		II-1	〃	〃	遺構上面出土
-4	〃	3	〃	〃	〃		IV-52-1	P-36	17	覆土1	Vc	IV-24-36	
IV-43-1	P-24	17	覆土1	Vc	IV-19-5		-2	〃	19	〃	〃	〃	
-2	〃	3	〃	〃	〃		-3	〃	12	〃	〃	〃	接合
-3	〃	19	〃	〃	〃		E ₃ -532-21	11	II-1	〃	〃	〃	
-4	〃	17	〃	〃	〃	接合(2点)	IV-52-1	P-37	2	覆土1	Vc	IV-25	
-5	〃	17	〃	〃	〃	接合(2点)	IV-53-1	石囲い炉3	8	覆土1上面	VI	IV-29	
-6	〃	11	〃	〃	〃		-2	〃	2	〃	〃	〃	
-7	〃	20	〃	〃	〃	接合(3点)	IV-56-1	F-18	46・66	覆土1	Vc	IV-30	
IV-44-8	〃	27	〃	〃	〃	接合(2点)	-2	〃	5・11	〃	〃	〃	
-9	〃	13	〃	〃	〃		-3	〃	55	〃	〃	〃	
-10	〃	8	〃	〃	〃	接合(2点)	-4	〃	1	〃	〃	〃	
-11	〃	18	〃	〃	〃	接合(2点)	-5	〃	2	〃	〃	〃	

表IV-13 II-1層の遺構出土掲載石器等一覧

挿図番号	遺構名	遺物番号	層位	器種名	分類番号	長さ(mm)×幅(mm)×厚さ(mm)	重量(g)	石材	図版番号	備考
IV-19-2	P-1	39	覆土2	ナイフ	III B 2	129.8×42.9×18.5	91.6	黒曜石	IV-6-3	接合
〃	〃	54	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
-3	〃	47	〃	スクレイパー	III C 7	50.0×32.9×8.5	15.6	〃	〃	〃
-4	〃	57	〃	〃	〃	47.0×29.2×12.0	16.9	〃	〃	〃
-5	〃	43	〃	〃	〃	50.0×30.8×10.8	16.9	〃	〃	〃
-6	〃	64	〃	〃	〃	45.0×29.5×12.5	11.8	〃	〃	〃
-7	〃	63	〃	〃	〃	61.2×62.0×19.5	62.1	〃	〃	〃
-8	〃	59	〃	〃	〃	51.0×40.5×12.0	26.4	〃	〃	〃
-9	〃	2	〃	〃	〃	72.2×72.5×15.5	61.9	〃	〃	〃
IV-20-10	〃	1	〃	石核	IX A 1	69.8×63.2×34.2	117.6	〃	〃	〃
-11	〃	22	〃	〃	〃	62.6×31.0×25.6	36.0	〃	〃	〃
-12	〃	52	〃	Rフレイク	XA 1	33.2×31.1×11.1	8.2	〃	〃	〃
-13	〃	56	〃	〃	〃	57.0×24.0×12.0	16.8	〃	〃	〃
-14	〃	58	〃	フレイク	IX B	55.0×36.0×17.5	25.7	〃	〃	〃
-15	〃	48	〃	〃	〃	79.0×50.0×10.2	35.1	〃	〃	〃
-16	〃	55	〃	〃	〃	66.5×49.2×14.0	39.2	〃	〃	〃
-17	〃	21A	〃	砥石	VII B 2	42.0×39.0×8.5	57.0	砂岩	〃	〃
-18	〃	21C	〃	〃	〃	63.4×53.5×11.8	50.2	〃	〃	〃
-19	〃	13	〃	加工痕のある礫	XB 2	108.2×30.0×16.8	78.9	片岩	〃	〃

4 包含層の遺物

挿図番号	遺構名	遺物番号	層位	器種名	分類番号	長さ(mm)×幅(mm)×厚さ(mm)	重量(g)	石材	図版番号	備考
IV-21-2	P-22	3	覆土1	石斧	IV A 2	133.0×69.0×33.0	445.8	片岩	IV-7-4	カ7-図1
IV-22-3	P-22	72-①-1	〃	琥珀製平玉		0.55×0.20	0.05		IV-7-3	〃
-4	〃	-2	〃	〃		0.55×0.21	0.06		〃	〃
-5	〃	-3	〃	〃		0.52×0.24	0.06		〃	〃
-6	〃	-4	〃	〃		0.54×0.21	0.05		〃	〃
-7	〃	-5	〃	〃		0.57×0.33	0.08		〃	〃
-8	〃	-6	〃	〃		0.54×0.22	0.06		〃	〃
-9	〃	-7	〃	〃		0.55×0.32	0.08		〃	〃
-10	〃	-8	〃	〃		0.57×0.26	0.07		〃	〃
-11	〃	-9	〃	〃		0.56×0.32	0.09		〃	〃
-12	〃	-10	〃	〃		0.58×0.35	0.10		〃	〃
-13	〃	-11	〃	〃		0.69×0.22	0.08		〃	〃
-14	〃	-12	〃	〃		0.70×0.22	0.10		〃	〃
-15	〃	-13	〃	〃		0.71×0.19	0.09		〃	〃
-16	〃	-14	〃	〃		0.74×0.16	0.06		〃	〃
-17	〃	-15	〃	〃		0.73×0.16	0.08		〃	〃
-18	〃	-16	〃	〃		0.67×0.20	0.09		〃	〃
-19	〃	-17	〃	〃		0.72×0.22	0.10		〃	〃
-20	〃	-18	〃	〃		0.71×0.24	0.11		〃	〃
-21	〃	-19	〃	〃		0.74×0.21	0.10		〃	〃
-22	〃	-20	〃	〃		0.71×0.20	0.09		〃	〃
-23	〃	-22	〃	〃		0.84×0.20	0.14		〃	〃
-24	〃	-23	〃	〃		0.80×0.23	0.14		〃	〃
-25	〃	-24	〃	〃		0.85×0.21	0.14		〃	〃
-26	〃	-25	〃	〃		0.84×0.25	0.16		〃	〃
-27	〃	-26	〃	〃		0.87×0.31	0.19		〃	〃
-28	〃	-27	〃	〃		0.87×0.29	0.17		〃	〃
-29	〃	-28	〃	〃		0.86×0.29	0.18		〃	〃
-30	〃	-29	〃	〃		0.86×0.27	0.18		〃	〃
-31	〃	-30	〃	〃		0.82×0.27	0.17		〃	〃
-32	〃	-31	〃	〃		0.82×0.22	0.13		〃	〃
-33	〃	-32	〃	〃		0.79×0.29	0.16		〃	〃
-34	〃	-33	〃	〃		0.82×0.33	0.18		〃	〃
-35	〃	-34	〃	〃		0.86×0.25	0.16		〃	〃
-36	〃	-35	〃	〃		0.86×0.30	0.18		〃	〃
-37	〃	-36	〃	〃		0.87×0.27	0.18		〃	〃
-38	〃	-37	〃	〃		0.69×0.17	0.07		〃	〃
-39	〃	10-1	〃	〃		0.81×0.14	0.07		〃	保存処理後の計測値
-40	〃	9-1	〃	〃		0.73×0.20	0.09		〃	〃
-41	〃	4-1	〃	〃		0.72×0.23	0.09		〃	〃
-42	〃	実②-2	〃	〃		0.83×0.24	0.14		〃	〃
-41	〃	4-1	〃	〃		0.72×0.23	0.09		〃	〃
IV-24-1	P-3	28	覆土1	石鏃	IA 4 b	25.5 × 16.4 × 5.3	2.0	黒曜石	IV-9-5	被熱
IV-24-2	P-5	34	覆土1	スクレイパー	III C 4	38.0 × 26.8 × 9.9	8.6	黒曜石	〃	〃
-3	〃	40	〃	〃	III C 3	27.6 × 30.7 × 9.0	8.7	〃	〃	〃
IV-25-1	P-7	17	覆土1	台石	VB 1	287.0 × 225.0 × 118.0	11,000	トロンエム岩		〃
IV-29-2	P-10	1	覆土1	石鏃	IA 4 b	37.5 × 19.1 × 5.5	2.9	黒曜岩	IV-11-5	
-3	〃	2	〃	〃	〃	36.0 × 15.2 × 4.4	1.6	〃	〃	
-4	〃	9	〃	〃	〃	(30.2) × 18.5 × 4.0	(2.1)	〃	〃	
-5	〃	6	〃	スクレイパー	III C 7	38.0 × 34.0 × 13.0	12.2	〃	〃	
-6	〃	120	覆土4	〃	〃	50.8 × 32.5 × 7.2	11.1	〃	〃	
-7	〃	74	〃	〃	〃	49.2 × 36.0 × 12.5	19.9	〃	〃	
-8	〃	17	〃	R フレイク	XA 1	124.5 × 40.0 × 12.9	55.5	〃	〃	
IV-30-9	〃	19	〃	加工痕のある碟	XB	76.8 × 44.2 × 12.5	50.4	片岩	IV-12-1	
-10	〃	73	〃	フレイク	IX B	64.5 × 64.0 × 11.5	30.7	黒曜石	〃	
-11	〃	12	〃	〃	〃	80.0 × 63.2 × 13.5	63.0	〃	〃	
-12	〃	87	〃	〃	〃	80.0 × 53.0 × 15.0	54.8	〃	〃	
-13	〃	56	〃	〃	〃	63.2 × 71.0 × 12.0	47.7	〃	〃	

挿図番号	遺構名	遺物番号	層位	器種名	分類番号	長さ(mm)×幅(mm)×厚さ(mm)	重量(g)	石材	図版番号	備考
IV-30-14	P-10	47	覆土4	フレイク	IX B	72.5 × 60.8 × 11.0	45.6	黒曜石	IV-12-1	
-15	〃	71	〃	〃	〃	72.0 × 60.2 × 10.5	44.1	〃	〃	
-16	〃	77	〃	〃	〃	49.2 × 76.0 × 10.2	39.1	〃	〃	
-17	〃	80	〃	〃	〃	46.9 × 58.1 × 12.0	22.1	〃	〃	
-18	〃	82	〃	〃	〃	56.2 × 57.5 × 12.1	38.0	〃	〃	
IV-33-1	P-15	24	覆土1	石 鏃	IA 4 a	29.0 × 13.5 × 3.0	0.9	黒曜石	IV-14-1	
-2	〃	78	壁	〃	〃	29.0 × (20.0) × 5.0	(2.0)	〃	〃	
-3	〃	61	〃	〃	〃	30.0 × 16.0 × 4.0	1.7	〃	〃	
-4	〃	53	〃	〃	〃	30.5 × 15.0 × 3.0	1.3	〃	〃	
-5	〃	18	覆土1	〃	〃	31.0 × 17.5 × 4.5	1.9	〃	〃	
-6	〃	137	壁	〃	〃	31.0 × 19.0 × 4.2	2.5	〃	〃	
-7	〃	52	〃	〃	〃	32.0 × 16.0 × 3.2	1.6	〃	〃	
-8	〃	92	〃	〃	〃	32.0 × 17.0 × 2.0	1.5	〃	〃	
-9	〃	123	〃	〃	〃	32.0 × 18.5 × 4.0	2.5	〃	〃	
-10	〃	11	覆土1	〃	〃	33.0 × 15.0 × 4.0	1.8	〃	〃	
-11	〃	60	壁	〃	〃	33.0 × 15.5 × 3.5	1.6	〃	〃	
-12	〃	132	〃	〃	〃	33.0 × 16.5 × 3.5	1.9	〃	〃	
-13	〃	114	〃	〃	〃	(33.0) × 16.5 × 4.0	(1.8)	〃	〃	
-14	〃	139	〃	〃	〃	33.0 × 17.0 × 3.5	1.9	〃	〃	
-15	〃	122	〃	〃	〃	(33.0) × 17.0 × 4.0	(1.8)	〃	〃	
-16	〃	82	〃	〃	〃	33.0 × 17.5 × 4.5	2.4	〃	〃	
-17	〃	124	〃	〃	〃	33.0 × 18.0 × 3.0	1.6	〃	〃	
-18	〃	121	〃	〃	〃	34.0 × 17.0 × 4.0	2.1	〃	〃	
-19	〃	39	〃	〃	〃	(3.4) × 17.5 × 3.5	(1.9)	〃	〃	
-20	〃	44	〃	〃	〃	(3.5) × 16.0 × 3.5	(2.0)	〃	〃	
-21	〃	59	〃	〃	〃	35.0 × 16.0 × 4.0	(2.0)	〃	〃	
-22	〃	157	〃	〃	〃	35.0 × 17.0 × 4.2	2.1	〃	〃	
-23	〃	86	〃	〃	〃	35.0 × 17.5 × 4.0	2.4	〃	〃	
-24	〃	145	〃	〃	〃	(35.5) × 16.0 × 4.0	(2.1)	〃	〃	
-25	〃	70	〃	〃	〃	36.0 × 16.0 × 4.0	2.2	〃	〃	
-26	〃	148	〃	〃	〃	36.0 × 16.0 × 4.2	2.2	〃	〃	
-27	〃	155	〃	〃	〃	36.0 × 16.5 × 3.5	1.8	〃	〃	
-28	〃	106	〃	〃	〃	36.0 × 18.0 × 3.2	1.9	〃	〃	
-29	〃	153	〃	〃	〃	36.0 × 18.0 × 4.0	(2.3)	〃	〃	
-30	〃	110	〃	〃	〃	36.0 × 18.0 × 4.0	2.4	〃	〃	
-31	〃	55	〃	〃	〃	(36.0) × 18.0 × 4.0	(2.5)	〃	〃	
-32	〃	54	〃	〃	〃	36.0 × 18.0 × 4.5	2.6	〃	〃	
-33	〃	151	〃	〃	〃	36.0 × 19.0 × 3.8	2.3	〃	〃	
-34	〃	33	覆土1	〃	〃	36.0 × 19.0 × 5.0	2.6	〃	〃	
-35	〃	135	壁	〃	〃	36.5 × 18.0 × 3.0	2.0	〃	〃	
-36	〃	65	〃	〃	〃	37.0 × 17.0 × 3.5	2.1	〃	〃	
-37	〃	97	〃	〃	〃	37.0 × 17.0 × 4.0	2.3	〃	〃	
-38	〃	96	〃	〃	〃	37.0 × 18.5 × 3.5	2.2	〃	〃	
-39	〃	84	〃	〃	〃	38.0 × 14.0 × 3.0	1.2	〃	〃	
-40	〃	35	覆土1	〃	〃	38.0 × 16.0 × 3.5	2.0	〃	〃	
-41	〃	67	壁	〃	〃	38.0 × 16.5 × 4.0	2.1	〃	〃	
-42	〃	112	〃	〃	〃	38.0 × 17.0 × 4.0	2.2	〃	〃	
IV-34-43	〃	37	覆土1	〃	〃	38.0 × 17.5 × 4.0	2.1	〃	〃	
-44	〃	111	壁	〃	〃	38.0 × 17.5 × 4.5	2.5	〃	〃	
-45	〃	115	〃	〃	〃	38.0 × 18.0 × 5.5	3.1	〃	〃	
-46	〃	144	〃	〃	〃	38.0 × 20.5 × 4.5	2.9	〃	〃	
-47	〃	128	〃	〃	〃	38.5 × 16.0 × 3.2	2.0	〃	〃	
-48	〃	138	〃	〃	〃	38.5 × 17.0 × 4.0	2.2	〃	〃	
-49	〃	63	〃	〃	〃	39.0 × 16.5 × 3.5	2.2	〃	〃	
-50	〃	100	〃	〃	〃	(39.0) × 16.5 × 4.0	(2.3)	〃	〃	
-51	〃	62	〃	〃	〃	39.0 × 16.5 × 4.2	2.2	〃	〃	
-52	〃	127	〃	〃	〃	39.0 × 17.0 × 4.0	2.3	〃	〃	
-53	〃	41	〃	〃	〃	39.0 × 17.0 × 4.0	2.4	〃	〃	

4 包含層の遺物

挿図番号	遺構名	遺物番号	層位	器種名	分類番号	長さ(mm)×幅(mm)×高さ(mm)	重量(g)	石材	図版番号	備考
IV-34-54	P-15	42	覆土1	石 鏃	IA4a	39.0×17.0×4.0	2.4	黒曜石	IV-14-1	
-55	〃	51	〃	〃	〃	39.0×17.5×4.0	2.5	〃	〃	
-56	〃	101	〃	〃	〃	39.0×17.0×4.0	2.5	〃	〃	
-57	〃	23	〃	〃	〃	39.0×17.0×5.0	2.4	〃	〃	
-58	〃	133	壁	〃	〃	39.0×17.5×4.0	2.5	〃	〃	
-59	〃	159	〃	〃	〃	39.0×18.0×4.0	2.7	〃	〃	
-60	〃	57	〃	〃	〃	39.0×18.0×4.2	2.8	〃	〃	
-61	〃	142	〃	〃	〃	(39.0)×18.0×4.2	(2.9)	〃	〃	
-62	〃	136	〃	〃	〃	39.0×19.0×4.0	2.3	〃	〃	
-63	〃	156	〃	〃	〃	39.0×19.0×4.0	2.4	〃	〃	
-64	〃	48	〃	〃	〃	40.0×15.0×4.0	2.1	〃	〃	
-65	〃	147	〃	〃	〃	40.0×16.0×4.0	2.3	〃	〃	
-66	〃	93	〃	〃	〃	40.0×16.5×4.0	2.1	〃	〃	
-67	〃	140	〃	〃	〃	(40.0)×17.0×3.0	(1.8)	〃	〃	
-68	〃	152	〃	〃	〃	40.0×17.0×4.0	2.2	〃	〃	
-69	〃	150	〃	〃	〃	40.0×17.0×4.0	2.3	〃	〃	
-70	〃	126	〃	〃	〃	40.0×17.0×4.0	2.4	〃	〃	
-71	〃	158	〃	〃	〃	40.0×17.0×4.0	2.4	〃	〃	
-72	〃	47	〃	〃	〃	40.0×17.0×4.5	2.6	〃	〃	
-73	〃	146	〃	〃	〃	(40.0)×17.0×4.8	(2.6)	〃	〃	
-74	〃	113	〃	〃	〃	40.0×17.5×4.0	2.3	〃	〃	
-75	〃	105	〃	〃	〃	40.0×18.0×3.5	2.6	〃	〃	
-76	〃	79	〃	〃	〃	40.0×18.0×4.0	2.5	〃	〃	
-77	〃	143	〃	〃	〃	40.0×18.0×4.0	2.7	〃	〃	
-78	〃	32	覆土1	〃	〃	40.0×18.0×4.5	2.5	〃	〃	
-79	〃	116	壁	〃	〃	41.0×17.5×4.0	(2.6)	〃	〃	
-80	〃	68	〃	〃	〃	41.0×17.5×6.5	3.0	〃	〃	
-81	〃	91	〃	〃	〃	42.0×16.0×3.0	1.6	〃	〃	
-82	〃	83	〃	〃	〃	42.0×16.5×4.0	2.5	〃	〃	
-83	〃	85	〃	〃	〃	42.0×17.0×3.5	2.2	〃	〃	
-84	〃	64	〃	〃	〃	42.0×17.0×4.0	2.3	〃	〃	
IV-35-85	〃	58	〃	〃	〃	42.0×17.0×4.2	2.8	〃	〃	
-86	〃	69	〃	〃	〃	(42.0)×(17.0)×5.0	(3.3)	〃	〃	
-87	〃	109	〃	〃	〃	(42.0)×18.0×4.2	(2.9)	〃	〃	
-88	〃	125	〃	〃	〃	42.0×19.0×3.0	2.4	〃	〃	
-89	〃	77	〃	〃	〃	43.0×17.0×3.0	2.6	〃	〃	
-90	〃	131	〃	〃	〃	43.0×18.0×4.5	2.5	〃	〃	
-91	〃	66	〃	〃	〃	43.0×18.0×5.0	3.1	〃	〃	
-92	〃	31	覆土1	〃	〃	43.0×18.0×5.0	3.2	〃	〃	
-93	〃	130	壁	〃	〃	43.0×19.2×3.5	2.7	〃	〃	
-94	〃	43	〃	〃	〃	44.0×15.5×5.0	2.6	〃	〃	
-95	〃	56	〃	〃	〃	44.0×16.2×4.2	2.8	〃	〃	
-96	〃	94	〃	〃	〃	44.0×16.5×4.0	2.5	〃	〃	
-97	〃	129	〃	〃	〃	44.0×17.0×3.5	2.5	〃	〃	
-98	〃	75	〃	〃	〃	44.0×17.0×5.0	2.9	〃	〃	
-99	〃	81	〃	〃	〃	(44.0)×17.5×4.0	(2.4)	〃	〃	
-100	〃	38	〃	〃	〃	44.0×18.0×4.5	3.4	〃	〃	
-101	〃	108	〃	〃	〃	44.0×18.0×4.8	2.9	〃	〃	
-102	〃	50	〃	〃	〃	44.0×18.0×5.0	3.6	〃	〃	
-103	〃	74	〃	〃	〃	45.0×14.5×4.0	2.6	〃	〃	
-104	〃	80	〃	〃	〃	45.0×16.0×4.2	2.4	〃	〃	
-105	〃	99	〃	〃	〃	45.0×17.0×4.2	3.2	〃	〃	
-106	〃	45	〃	〃	〃	45.0×17.5×4.0	2.6	〃	〃	
-107	〃	34	覆土1	〃	〃	45.0×(19.0)×4.0	(2.7)	〃	〃	
-108	〃	95	壁	〃	〃	46.0×17.5×4.0	3.0	〃	〃	
-109	〃	119	〃	〃	〃	46.0×18.0×4.0	3.1	〃	〃	
-110	〃	98	〃	〃	〃	47.0×17.0×4.5	3.0	〃	〃	
-111	〃	154	〃	〃	〃	47.5×19.2×4.5	4.0	〃	〃	

Ⅳ 滝里安井遺跡の調査

挿図番号	遺構名	遺物番号	層位	器種名	分類番号	長さ(mm)×幅(mm)×高さ(mm)	重量(g)	石材	図版番号	備考
Ⅳ-35-112	P-15	107	壁	石 鏃	ⅠA4a	48.0×(15.5)×4.8	(2.7)	黒曜石	Ⅳ-14-1	
-113	〃	102	〃	〃	〃	48.0×16.0×3.5	2.5	〃	〃	
-114	〃	46	〃	〃	〃	48.0×17.0×4.5	3.3	〃	〃	
-115	〃	40	〃	〃	〃	49.0×18.5×5.0	4.3	〃	〃	
-116	〃	117	〃	〃	〃	50.0×17.0×4.2	(3.2)	〃	〃	
-117	〃	118	〃	〃	〃	(20.0)×18.0×4.0	(2.1)	〃	〃	
-118	〃	104	〃	石鏃未製品	ⅠA8	32.0×20.0×4.5	2.5	〃	〃	
-119	〃	36	覆土1	〃	〃	(22.5)×15.0×3.0	(0.7)	〃	〃	
-120	〃	73	壁	石 鏃	ⅠA7a	31.0×16.0×2.5	0.7	〃	〃	
-121	〃	134	〃	〃	〃	(32.0)×16.0×3.5	(1.4)	〃	〃	
-122	〃	76	〃	〃	〃	36.0×16.5×3.0	1.6	〃	〃	
-123	〃	149	〃	〃	〃	38.0×17.5×3.5	1.8	〃	〃	
-124	〃	71	〃	〃	〃	41.0×18.0×4.5	2.7	〃	〃	
-125	〃	103	〃	〃	〃	42.0×17.5×4.2	2.6	〃	〃	
-126	〃	120	〃	〃	〃	46.0×17.5×5.2	3.3	〃	〃	
Ⅳ-36-127	〃	89	〃	ナイフ類	ⅢB2	74.0×40.0×6.0	13.1	〃	〃	
-128	〃	88	〃	〃	〃	73.0×40.0×7.0	24.0	〃	〃	
-129	〃	17	覆土1	〃	ⅢB8	108.0×88.0×17.0	153.7	〃	Ⅳ-15-1	
-130	〃	3	〃	石 斧	ⅣA2	108.0×44.0×12.0	97.3	泥 岩	〃	
-131	〃	8	〃	〃	ⅣA1	146.0×59.5×12.0	140.3	片 岩	〃	
-132	〃	5	〃	〃	ⅣA2	127.0×45.0×15.0	110.0	〃	〃	
-133	〃	1	〃	〃	〃	128.0×43.0×12.0	118.5	〃	〃	
Ⅳ-37-134	〃	2	〃	〃	〃	143.0×50.0×23.0	256.1	〃	〃	
-135	〃	15	〃	フレイク	ⅨB	58.0×49.0×15.0	23.8	黒曜石	〃	
-136	〃	9	〃	〃	〃	81.0×62.0×11.0	42.3	〃	〃	
-137	〃	6	〃	〃	〃	108.0×86.0×17.5	114.2	〃	〃	
Ⅳ-38-138	〃	87	壁	〃	〃	108.0×53.0×11.0	27.4	〃	〃	
-139	〃	12	覆土1	原 石	ⅨA2	91.5×17.0×10.5	67.8	〃	〃	
-140	〃	4	〃	〃	〃	149.0×89.0×15.5	198.1	〃	〃	
-141	〃	7 22	覆土1 〃	棒状原石 〃	ⅨA2 〃	182.0×39.0×14.0	46.5	〃	〃	接合
Ⅳ-39-1	P-17	1	壁	ナイフ	ⅢB2	158.0×49.0×10.0	85.3	黒曜石	Ⅳ-16-3	
Ⅳ-40-2	P-19	10	覆土1	石 鏃	ⅠA5a	23.0×13.0×4.0	0.7	黒曜石	Ⅳ-17-4	
-3	〃	4	〃	台 石	ⅣB1	292.0×230.0×161.0	12,400	トロエム岩	〃	
-4	〃	2	〃	〃	〃	271.0×274.0×94.0	10,500	〃	〃	
-5	〃	1	〃	〃	〃	304.0×214.0×124.0	10,500	〃	〃	
Ⅳ-41-2	P-20	1	覆土1	台 石	ⅤB1	315.0×181.0×150.0	14,500	安山岩	Ⅳ-18-3	
Ⅳ-42-1	P-21	4	覆土1	スクレイパー	ⅢC4	101.4×26.3×10.9	24.4	黒曜石	Ⅳ-18-6	
-2	〃	1	〃	ナイフ	ⅢB2	188.0×100.0×24.6	406.2	〃	〃	粗い両面調整
Ⅳ-43-5	P-23	12	覆土1	石 鏃	ⅠA4b	(26.0)×15.0×3.5	(0.9)	黒曜石	Ⅳ-19-2	
-6	〃	16	〃	スクレイパー	ⅢC8	(164.0)×(30.5)×13.0	(21.8)	〃	〃	
Ⅳ-44-14	P-24	9A	覆土1	スクレイパー	ⅢC8	(38.0)×(43.0)×(10.0)	(15.7)	黒曜石	Ⅳ-19-5	
-15	〃	2	〃	たたき石	ⅤA2	101.0×78.5×39.2	396.7	砂 岩	〃	
Ⅳ-45-2	P-25	38	墳 底	石 鏃	ⅠA4b	21.0×11.5×2.9	0.5	黒曜石	Ⅳ-20-4	
-3	〃	39	〃	〃	〃	(11.2)×12.8×2.5	(0.3)	〃	〃	
-4	〃	28	〃	玉 類		15.5×11.5	3.4	カンラン岩	Ⅳ-20-5	カラー図版2-5
-5	〃	29	〃	〃		14.0×13.0	2.6	〃	〃	〃
-6	〃	30	〃	〃		14.5×17.2	4.1	〃	〃	〃
-7	〃	31	〃	〃		15.5×15.5	4.4	〃	〃	〃
-8	〃	32	〃	〃		15.0×14.0	3.5	〃	〃	〃
-9	〃	33	〃	〃		15.0×11.2	3.2	〃	〃	〃
-10	〃	34	〃	〃		14.5×13.7	3.2	〃	〃	〃
-11	〃	35	〃	〃		14.7×13.5	3.3	〃	〃	〃
-12	〃	36	〃	〃		15.0×11.0	2.7	〃	〃	〃
-13	〃	37	〃	〃		15.2×14.0	3.3	〃	〃	〃
-14	〃	27	〃	琥珀玉		9.6×4.9	0.20	〃	〃	保存処理後
-15	〃	25	〃	〃		7.2×12.2	0.35	〃	〃	〃
-16	〃	24	〃	〃		7.4×9.6	0.28	〃	〃	〃

4 包含層の遺物

挿図番号	遺構名	遺物番号	層位	器種名	分類番号	長さ(mm)×幅(mm)×厚さ(mm)	重量(g)	石材	図版番号	備考
IV-45-17	P-25	44-12	覆土中	琥珀玉		5.0×5.2	0.08		IV-20-6	保存処理後
-18	〃	28	塘底	〃		6.0×5.0	0.09		〃	〃
-19	〃	26	〃	〃		5.0×4.2	0.06		〃	〃
-20	〃	23	〃	〃		4.4×3.2	0.01		〃	〃
-21	〃	44-8	覆土中	〃		4.1×2.1	0.01		〃	〃
-22	〃	44-7	〃	〃		3.8×2.5	0.01		〃	〃
-23	〃	19	塘底	〃		5.9×3.3	0.09		〃	〃
-24	〃	44-6	覆土中	〃		4.9×2.0	0.01		〃	〃
-25	〃	20	〃	〃		4.7×4.1	0.01		〃	〃
-26	〃	21	〃	〃		5.2×3.2	0.06		〃	〃
-27	〃	22	〃	〃		4.0×2.2	0.01		〃	〃
-28	〃	44-13	覆土中	〃		5.1×2.0	0.03		〃	〃
-29	〃	44-11	〃	〃		5.8×3.1	0.07		〃	〃
-30	〃	44-9	〃	〃		5.0×2.8	0.05		〃	〃
-31	〃	44-5	〃	〃		5.1×3.9	0.02		〃	〃
-32	〃	44-3	〃	〃		5.7×2.9	0.05		〃	〃
-33	〃	44-2	〃	〃		4.8×2.0	0.05		〃	〃
-34	〃	44-10	〃	〃		4.9×2.9	0.04		〃	〃
-35	〃	44-1	〃	〃		5.9×4.0	0.07		〃	〃
-36	〃	44-4	〃	〃		5.1×3.1	0.05		〃	〃
IV-48-3	P-27	1	覆土1	矢柄研磨器	VII B 1	76.0×39.0×16.0	27.7	スコリア	IV-21-2	両面使用
IV-49-6	P-29	37	塘底	砥石	VII B 2	135.0×132.0×24.0	510.0	砂岩	IV-21-7	被熱
IV-50-2	P-30	8	覆土1	石鎌	IA 5 C	31.3×14.5×3.2	1.3	黒曜石	IV-22-2	
-3	〃	1	〃	ナイフ	III B 2	(38.2)×(27.5)×9.8	(8.4)	〃	〃	花十勝
-4	〃	19	〃	スクレイパー	III C 4	49.6×26.1×5.6	7.2	〃	〃	
-5	〃	14	〃	〃	III C 8	(30.9)×(25.6)×(7.0)	(3.8)	〃	〃	
IV-50-2	P-31	8	覆土1	スクレイパー	III C 7	75.8×35.0×12.5	21.5	黒曜石	IV-22-5	
IV-51-4	P-35	19	覆土1	スクレイパー	III C 2	47.8×37.8×12.4	19.1	頁岩	IV-24-3	被熱
-5	〃		〃	砥石	VII B 2	121.7×90.4×20.1	395.0	砂岩	〃	〃
IV-52-4	P-36	30	覆土1	スクレイパー	III C 3	42.0×33.0×11.0	13.6	黒曜石	IV-24-6	
-5	〃	35	〃	〃	〃	46.1×25.3×11.0	12.4	〃	〃	
-6	〃	2	〃	〃	III C 4	79.0×25.0×10.5	17.3	〃	〃	
-7	〃	6	〃	棒状原石	IX A 2	103.2×10.5×11.7	14.3	〃	〃	
-8	〃	5	〃	〃	〃	98.0×10.9×7.5	7.9	〃	〃	
-9	〃	4	〃	〃	〃	107.5×14.0×10.1	12.7	〃	〃	
-10	〃	3	〃	たたき石	VA 2	100.5×54.0×22.5	249.5	安山岩	〃	
IV-53-1	石囲い炉1	2	覆土1	石錐	II A 2	54.0×27.0×10.6	13.9	メノウ質頁岩	IV-28-3	
IV-53-3	石囲い炉3	1	覆土1	スクレイパー	III C 4	64.6×20.9×9.9	12.6	黒曜石	IV-29-4	

表IV-14 包含層出土の土器一覧

出土層位	時期・分類					不	明	合計
	早	期	前	中	後			
II - B 層	I 群	2	II 群	894	710	50	74	1,730
II - A 層			40	1,516	6,596	1,506	9	9,658
II - 1 層				74	588	63,066		63,747
II 層			349	365	340	6,647	17	7,718
II-B-1 層			46	21			6	73
砂層				13	47	455		515
I 層			334	156	41	19,192	5	19,728
小計		2	1,663	2,855	7,662	90,866	111	103,159
遺構			1		15	648		664
合計		2	1,664	2,855	7,677	91,514	111	103,823

表IV-15 包含層出土の石器等一覧

器種名	分類記号	点数	器種名	分類記号	点数	器種名	分類記号	点数
石鏃	IA 2	1	ナイフ	III B 3	173	台岩	VI B 8	19
	IA 4 a	135	スクレイパー	III C 1	1	すり石	VI A 1	8
	4 b	154		2	75		2	4
	5 a	160		3	34		4	53
	5 c	42		4	217		8	12
	6 a	30		5	69	石皿	VI B 1	17
	6 b	14		6	7		2	28
	7 a	16		7	459		8	8
	7 b	29		8	249	石鋸	VII A 1	1
	8	203	石斧	IV A 1	63	砥石	VII B 1	9
石槍	IB 1	53		2	186		2	15
	2	31		3	3		3	2
	3	29		8	143		8	11
	8	49	石のみ	IV B	16	石核	IX A 1	63
石錘	II A 1	4	石斧製作に関するもの	IV C 1	2	原石	IX A 2	28
	2	16		2	206	フレイク	IX B	65,911
	3	11		3	5	R フレイク	X A 1	277
	8	2	たたき石	VI A 1	34	加工痕ある礫	X B	240
つまみ付ナイフ	III A 1	75		2	29	土製品		2
	2	14		3	32	石製品等		18
	3	9		4	9	焼成粘土塊		10
	8	11		5	13	礫・礫片		994
ナイフ	III B 1	31		8	49			
	2	109	台石	VI B 1	74	合計		71,106

表IV-16 平成8年度調査地区II-B層出土の掲載土器一覧

図番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	図版番号	備考	図番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	図版番号	備考
IV-70-1	E ₅ -528-11	7・8・9 ・13・21 -21	II-B	II b	IV-37	繊維混入	IV-71-12	E ₄ -528-14 -18 -13	46・59 48 65	II-B	III a	IV-37	
-2	E ₄ -528-18	61	〃	〃	〃	〃	-13	E ₄ -528-19	27・30	〃	〃	〃	
-3	E ₄ -528-14	57A	〃	〃	〃	〃	-14	E ₄ -528-13	63・65・74	〃	〃	〃	
-4	E ₄ -526-7	24	〃	〃	〃	〃	-14	59・75A		〃	〃	〃	
-5	E ₄ -526-1	35・22・24	〃	〃	〃	〃	IV-72-15	E ₄ -528-17	11・25	〃	II b	IV-39	
-6	E ₅ -526-25	17	〃	〃	〃	〃	-16	E ₄ -528-22	18A	〃	〃	〃	
-7	E ₅ -526-10	22	〃	〃	〃	〃	-17	E ₄ -528-22	21・28A	〃	〃	〃	
-8	E ₅ -526-10	22	〃	〃	〃	〃	18	E ₄ -528-17	11・12	〃	〃	〃	
-9	E ₅ -526-10	22	〃	〃	〃	〃	-13	20		II-A	〃	〃	
-10	E ₄ -526		〃	〃	〃	滑石混入	-19	E ₄ -526-10	16	II-B	III a	〃	
IV-71-11	E ₅ -522-4	14	II-B-1	〃	IV-38		-20	E ₄ -528-19	15	〃	〃	〃	
-5	12	〃	〃	〃	〃		-21	E ₄ -528-19	18	〃	〃	〃	

表IV-17 平成8年度調査地区II-A層出土の掲載土器一覧

図番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	図版番号	備考	図番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	図版番号	備考
IV-72-1	E ₄ -528-17	12	II-A	III a	IV-39		IV-73-11	E ₄ -528-6	129	II-A	IV a	IV-40	
-2	E ₄ -528-12	49	〃	〃	〃		-12	E ₃ -530		〃	〃	〃	
-3	E ₅ -528-8	14	〃	〃	〃		-13	F ₁ -528-9	31	〃	〃	〃	
IV-73-4	E ₄ -528-23	4	〃	〃	IV-40		-14	E ₄ -524-23	12	〃	〃	〃	
-5	E ₄ -528-23	1	〃	〃	〃		-15	E ₄ -528-11	22	〃	〃	〃	
-6	E ₄ -530-3	40	〃	〃	〃		-16	E ₄ -526-6	143	〃	〃	〃	
-7	E ₃ -530-20	33	〃	〃	〃		-17	E ₅ -528-4	20	〃	〃	〃	
-8	E ₄ -528-7	19・31・44 50・67・71 81	〃	IV a	〃		-18	E ₄ -526-5	87	〃	〃	〃	
-9	E ₃ -530-22	70・58	〃	〃	〃		-19	E ₄ -528-7	4	〃	〃	〃	
-10	E ₄ -528-7	10・12	〃	〃	〃		-20	E ₄ -528-20	4	〃	IV c	〃	
							-21	E ₄ -528-4	99	〃	〃	〃	

4 包含層の遺物

表Ⅳ-18 平成8年度調査地区Ⅰ・Ⅱ層出土の掲載土器一覧(1) Ⅱ群・Ⅲ群・Ⅳ群

図番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	図版番号	備考	図番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	図版番号	備考
Ⅳ-74-1	E ₅ -526-1	10・35・37	Ⅱ	Ⅱb	Ⅳ-37	繊維混入	Ⅳ-76-32	F ₁ -524-5	17	Ⅰ	Ⅱb	Ⅳ-42	
-2	E ₅ -526-1	10	〃	〃	Ⅳ-41	〃	-33	F ₁ -524-5	17	〃	〃	〃	
-3	E ₅ -526-1	8・9	〃	〃	〃	〃	-34	E ₅ -528-14	47	Ⅱ	〃	〃	
-4	E ₅ -528-11	6・7	〃	〃	〃	〃	-35	E ₅ -528-19	25	Ⅰ	〃	〃	
-5	E ₅ -528-11	11	〃	〃	〃	〃	-36	E ₅ -528-19	23A	Ⅱ	〃	〃	
-6	F ₁ -526-7	1	Ⅰ	〃	〃	〃	Ⅳ-76-37	E ₅ -528-19	20A・46	Ⅱ	〃	〃	
-7	F ₁ -530-11	4A	Ⅱ	〃	〃	〃	-38	E ₅ -528-19	8・25・34	〃	〃	〃	
-8	E ₅ -526-5	6	〃	〃	〃	〃	-39	E ₅ -528-4	25	Ⅰ	Ⅲa	Ⅳ-43	
-9	E ₄ -524-24	13	Ⅰ	〃	〃	〃		E ₄ -528-24	7	Ⅱ	〃	〃	
-10	F ₁ -526-10	1	Ⅱ	〃	〃	〃	-40	E ₅ -528-15	91	〃	Ⅲb	〃	
-11	F ₁ -526-9	1	〃	〃	〃	〃	-41	F ₁ -522-3	24	〃	〃	〃	
Ⅳ-75-12	F ₁ -526-9	11	〃	〃	〃	〃	-42	E ₅ -526-12	85	〃	〃	〃	
-13	E ₅ -526-1	9	Ⅱ	〃	〃	〃	-43	F ₁ -528-11	42	Ⅰ	〃	〃	
-14	E ₃ -536-1	8	〃	〃	〃	〃	-44	F ₁ -528-11	43	〃	〃	〃	
-15	E ₅ -526-13	27	〃	〃	〃	〃	-45	E ₅ -528-1	18A	Ⅱ	〃	〃	
-16	E ₅ -526-3	17	〃	〃	〃	〃	-46	E ₅ -528-7	47	〃	〃	〃	
-17	E ₅ -530-23	4	〃	〃	〃	〃	-47	E ₅ -528-7	47	〃	〃	〃	
-18	E ₅ -528-11	11・14	〃	〃	Ⅳ-42	〃	-48	E ₃ -534-24	65・63	〃	Ⅳa	〃	
-19	E ₅ -526-1	4	〃	〃	〃	〃	-49	E ₅ -526-19	12	Ⅰ	〃	〃	
-20	E ₅ -528-7	52	〃	〃	〃	滑石混入	-50	E ₅ -526-25	18	Ⅱ	〃	〃	
-21	E ₅ -528-13	28	〃	〃	〃	〃	-51	E ₅ -528-21	24	Ⅰ	〃	〃	
-22	E ₅ -524-9	49	〃	〃	〃	〃	-52	E ₅ -528-12	4	Ⅳ	〃	〃	
-23	E ₅ -524-23	13	〃	〃	〃	〃	Ⅳ-77-53	E ₄ -528-6	143	〃	〃	〃	
-24	E ₅ -526-1	39	〃	〃	〃	〃	-54	E ₅ -528-7		〃	〃	〃	
-25	F ₁ -522-11	1	Ⅰ	〃	〃	〃	-55	E ₄ -528-12	1	Ⅱ	〃	〃	
-26	E ₅ -526-1	42	Ⅱ	〃	〃	〃	-56	E ₄ -526-8	110	〃	〃	〃	
-27	F ₁ -526-6	1	〃	〃	〃	〃	-57	E ₅ -526-14	50	〃	〃	〃	
-28	F ₁ -526		〃	〃	〃	〃	-58	E ₅ -526-19	2	〃	〃	〃	
-29	F ₁ -524-6	1	Ⅰ	〃	〃	〃	-59	E ₄ -528-16	6	〃	〃	〃	
-30	F ₁ -524-5	17	〃	〃	〃	〃	-60	E ₅ -526-14	62	Ⅰ	〃	〃	
-31	F ₁ -524-5	17	〃	〃	〃	〃	-61	E ₃ -536-14	68	〃	〃	〃	
Ⅳ-76-32	F ₁ -524-4	1	〃	〃	〃	〃	-62	E ₅ -526-14	68	〃	〃	〃	

表IV-19 平成8年度調査地区I・II層出土の掲載土器一覧(2) V群・VI群

挿図番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	図版番号	備考	挿図番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	図版番号	備考	
IV-80-1	E _s -528-13	34	II	Vc	IV-44-1		IV-83-49	E _s -526-15	1	II	Vc	IV-47		
	E _s -528-22	17	〃	〃	〃			-50	E _s -528-18	62	I	〃	〃	
	〃	29	I	〃	〃			-51	F ₁ -528-12	15/24	II	〃	〃	
-2	F ₁ -528-8	41	〃	〃	-2			F ₁ -528-13	27	〃	〃	〃		
	〃	24B	II	〃	〃		-52	E _s -528-22	33	I	〃	〃		
-3	E _s -528-14	53	〃	〃	-3			E _s -528-21	26	〃	〃	〃		
	E _s -528-15	36	〃	〃	〃		-53	E _s -528-22	33	〃	〃	〃		
	〃	38	〃	〃	〃		IV-84-54	E _s -528-7	65	〃	〃	IV-48		
	〃	40	〃	〃	〃			E _s -528-8	28	〃	〃	〃		
-4	F ₁ -528-9	51	〃	〃	-4		-55	E _s -528-13	48	〃	〃	〃		
	〃	52	〃	〃	〃		IV-84-56	F ₂ -526-3	1	I	Vc	〃		
	〃	53	〃	〃	〃			-57	E _s -528-20	36	II	〃	〃	
	〃	57	〃	〃	〃		-58	F ₁ -528-6	18/20	〃	〃	〃		
-5	E _s -526-10	22	I	〃	-5		-59	E _s -528-25	4	II-1	〃	〃		
-6	F ₁ -526-23	9	II	〃	-6		-60	E _s -526-10	23	I	〃	〃		
-7	E _s -528-16	8	II-1	〃	-7			E _s -526-18	170	〃	〃	〃		
IV-81-8	E _s -526-15	21	II	Va	IV-45		-61	E _s -526-20	23	〃	〃	〃		
-9	E _s -526-15	14	〃	〃	〃		-62	E _s -526-18	170	〃	〃	〃		
-10	E _s -526-8	16	〃	〃	〃		-63	E _s -526-3	30	〃	〃	〃		
IV-81-11	E _s -526-15	74	II	Va	〃		-64	E _s -526-10	23	〃	〃	〃		
-12	E _s -526-14	42A	〃	〃	〃		-65	F ₁ -528-15	9	〃	〃	〃		
-13	E _s -526-3	2	〃	〃	〃		-66	E _s -528-19	27	〃	〃	〃		
-14	F ₁ -526-23	33	I	〃	〃		-67	F ₁ -526-6	73	〃	〃	〃		
-15	E _s -528-20	32A	II	〃	〃		-68	F ₁ -528-7	24	II	〃	〃		
-16	E _s -526-8	73	I	〃	〃		-69	F ₁ -528-13	148	〃	〃	〃		
-17	F ₁ -526-25	13	〃	〃	〃		IV-85-70	E _s -526-13	130	I	〃	IV-49		
-18	E _s -526-19	2	II	〃	〃			〃	49	II	〃	〃		
-19	F ₁ -526-14	1	I	〃	〃			E _s -526-13	71/72	II	Vc	〃		
-20	E _s -528-19	45	〃	〃	〃			E _s -526-18	50/51	〃	〃	〃		
-21	E _s -528-15	103	II-1	〃	〃		-71	E _s -526-9	11	〃	〃	〃		
-22	F ₁ -526-18	2	I	〃	〃		-72	E _s -524-23	14	II-A	〃	〃		
-23	E _s -528-25	46B	II-1	〃	〃		-73	E _s -528-19	20/13	II	〃	〃		
-24	F ₁ -526-20	2	I	〃	〃		〃	27	I	〃	〃			
-25	E _s -528-23	40A	II-1	〃	〃		-74	E _s -528-22	33	〃	〃	〃		
-25	E _s -528-25	45A	〃	〃	〃			E _s -528-23	28	〃	〃	〃		
IV-81-26	E _s -526-20	7	I	Va	〃		-75	E _s -526-9	41	II	〃	〃		
-27	E _s -526-14	55	II	〃	〃		-76	E _s -528-20	25	〃	〃	〃		
-28	E _s -526-15	18	〃	〃	〃		-77	E _s -524-5	7	I	〃	〃		
IV-82-29	E _s -524-15	53	I	Vc	IV-46		-78	E _s -524-11	20	〃	〃	〃		
-30	E _s -524-16	16	〃	〃	〃		IV-86-79	E _s -528-9	57	〃	〃	IV-50		
-31	E _s -528-15	101	II-1	〃	〃		-80	E _s -526-11	37	〃	〃	〃		
-32	E _s -528-6	77	I	〃	〃		-81	E _s -528-22	33	〃	〃	〃		
-33	E _s -524-10	1	IIA	〃	〃		IV-86-82	E _s -528-20	22B	II	Vc	〃		
-34	E _s -524-12	26	II	〃	〃		-83	E _s -528-22	33	I	〃	〃		
-35	E _s -528-11	50	I	〃	〃		-84	E _s -528-1	167	〃	〃	〃		
-36	E _s -526-7	86	〃	〃	〃		-85	E _s -528-14	79A	II	〃	〃		
-37	E _s -526-14	28/30	II	〃	〃			E _s -528-19	27	I	〃	〃		
-38	E _s -526-14	4	〃	〃	〃		-86	E _s -528-15	95/96	II-1	〃	〃		
-39	E _s -524-20	58/87	〃	〃	〃		-87	E _s -528-13	38	II	〃	〃		
-40	E _s -526-3	30	I	〃	〃		-88	E _s -528-1	167	I	〃	〃		
IV-82-41	E _s -528-20	14	II	Vc	〃		-89	F ₁ -524-6	2	〃	〃	〃		
-42	E _s -528-22	31	I	〃	〃		-90	E _s -528-20	13	II	〃	〃		
	E _s -528-11	50	〃	〃	〃		-91	F ₂ -526-3		II-1	〃	〃		
	E _s -528-18	62	〃	〃	〃		-92	E _s -526-13	26	II	〃	〃		
-43	E _s -528-18	62	〃	〃	〃		IV-87-93	F ₁ -526-16	4	I	〃	IV-51		
	E _s -528-11	50	〃	〃	〃		-94	E _s -526-9	12	II	〃	〃		
IV-83-44	F ₁ -526-5	78	〃	〃	IV-47		-95	E _s -528-6	181	I	〃	〃		
-45	E _s -526-10	23	〃	〃	〃		-96	E _s -526-10	23	〃	〃	〃		
-46	E _s -526-2	34	〃	〃	〃		IV-87-97	E _s -528-3	23	I	Vc	〃		
-47	E _s -524-11	3	II	〃	〃									
-48	E _s -524-16	8	I	〃	〃									

4 包含層の遺物

挿図番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	図版番号	備考	挿図番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	図版番号	備考
IV-87-98	E ₄ -528-19	42	I	Vc	IV-51		IV-94-16	E ₄ -526-4	80	I	VI	IV-55	
-99	F ₁ -526-16	3	〃	〃	〃		-17	E ₄ -526-8	19	〃	〃	〃	
-100	F ₁ -526-16	3	〃	〃	〃		-18	E ₄ -526-13	129	〃	〃	〃	
-101	E ₅ -528-3	23	〃	〃	〃		-19	E ₄ -526-13	41	II	〃	〃	
-102	E ₅ -526-2	34	〃	〃	〃			E ₄ -526-13	129	I	〃	〃	
-103	E ₅ -528-19	27	〃	〃	〃		-20	E ₅ -526-13	81	〃	〃	〃	
-104	E ₅ -528-13	48	〃	〃	〃		-21	E ₄ -524-15	1	〃	〃	〃	
-105	E ₅ -528-25	41	II-1	〃	〃		IV-94-22	E ₅ -520-25	30	I	VI	〃	
-106	F ₂ -526-3	1	I	〃	〃		IV-95-23	E ₄ -526-10	22	〃	〃	IV-56	
-107	E ₃ -528-15	15	II-1	〃	〃			E ₄ -526-14	138	〃	〃	〃	
IV-88-108	E ₅ -528-5	36 33	〃	〃	IV-52			E ₄ -526-15	169	〃	〃	〃	
-109	F ₁ -526-5	78	I	〃	〃		-24	E ₄ -526-10	22	〃	〃	〃	
-110	E ₅ -522-4	14	〃	〃	〃		-25	E ₅ -526-2	34	〃	〃	〃	
-111	E ₅ -528-7	65	〃	〃	〃		-26	E ₅ -524-6	2	〃	〃	〃	
IV-88-112	E ₅ -528-1	43	I	Vc	〃		-27	F ₁ -526-16	3	〃	〃	〃	
-113	E ₅ -528-22	33	〃	〃	〃		-28	E ₄ -528-7	126	〃	〃	〃	
-114	E ₅ -528-22	33	〃	〃	〃		-29	E ₅ -528-14	79A	II	〃	〃	
-115	E ₅ -528-16	5	II	〃	〃		-30	E ₄ -528-24	21	I	〃	〃	
	E ₅ -528-21	40	I	〃	〃		-31	E ₄ -528-19	42	〃	〃	〃	
-116	F ₁ -526-25	15	〃	〃	〃			E ₄ -528-24	21	〃	〃	〃	
-117	F ₂ -526-1	17	〃	〃	〃		-32	E ₄ -528-24	21	〃	〃	〃	
-118	E ₅ -528-22	33	〃	〃	〃		IV-96-33	E ₅ -528-9	24A	II-1	〃	IV-57	
IV-92-1	E ₄ -528-19	19	II	VI	IV-53-1			E ₅ -528-14	64	II	〃	〃	
	E ₄ -528-20	11	〃	〃	〃		-34	E ₅ -528-9	24A	II-1	〃	〃	
	E ₅ -528-14	45 76	〃	〃	〃			E ₅ -528-14	66	II	〃	〃	
	〃	78A 79A	〃	〃	〃		-35	F ₁ -526-25	1	I	〃	〃	
	〃	82A	〃	〃	〃		-36	E ₄ -526-18	96	II	〃	〃	
	〃	100	I	〃	〃		IV-96-37	F ₁ -526-24	4A	〃	〃	〃	
	E ₅ -528-15	23 62	II	〃	〃		-38	E ₄ -526-13	29 31	〃	〃	〃	
	〃	64 72	〃	〃	〃		-39	試掘C	—	—	〃	〃	
IV-92-2	E ₄ -528-24	21	I	〃	IV-53-2		-40	E ₄ -528-12	4	II	〃	〃	
IV-92-3	E ₄ -528-8	32	〃	〃	IV-53-3		IV-97-41	E ₄ -528-14	83A	II	〃	IV-58	
IV-92-4	F ₁ -528-7	57 58 60 63	II	〃	IV-53-4		-42	E ₄ -528-6	70 80	II-1	〃	〃	
	〃	〃	〃	〃	〃		-43	E ₄ -526-10	22	I	〃	〃	
IV-93-5	E ₄ -526-5	4 19 20 23 24 25 26 28 29 30 34 42 43 45 47 48 49 50 55	II	VI	IV-53-5		-44	F ₁ -526-6	5	〃	〃	〃	
	〃	〃	II-1	〃	〃		IV-97-45	F ₁ -526-23	4	II	VI	〃	
	〃	〃	〃	〃	〃		-46	E ₅ -528-9	57	I	〃	〃	
	〃	〃	〃	〃	〃		-47	F ₁ -526-6	5	〃	〃	〃	
	〃	〃	〃	〃	〃		-48	E ₅ -526-25	3	II	〃	〃	
	〃	〃	〃	〃	〃		-49	E ₅ -528-14	82A	〃	〃	〃	
	〃	〃	〃	〃	〃		IV-98-50	E ₅ -526-7	49	II-B	〃	IV-59	
	〃	〃	〃	〃	〃		-51	F ₁ -524-20	1	I	〃	〃	
	〃	〃	〃	〃	〃		IV-98-52	E ₄ -526-8	19	I	VI	〃	
	E ₄ -526-10	107 22	II-1	〃	〃		-53	E ₄ -526-10	22	〃	〃	〃	
IV-93-6	E ₄ -526-4	8	II-1	〃	IV-53-6		-54	E ₅ -528-4	27	〃	〃	〃	
	E ₄ -526-5	33	〃	〃	〃		-55	E ₄ -526-24	30	〃	〃	〃	
	〃	51 52	〃	〃	〃		-56	E ₅ -526-2	54	〃	〃	〃	
	〃	53	〃	〃	〃		-57	E ₄ -526-12	11	II-1	〃	〃	
	E ₄ -526-10	22	I	〃	〃		-58	E ₅ -526-11	36	I	〃	〃	
IV-93-7	F ₁ -526-25	1	〃	〃	IV-53-7		-59	E ₄ -526-20	7	〃	〃	〃	
IV-93-8	F ₁ -528-8	24B	II	VI	IV-54-8		-60	E ₅ -526-7	86	〃	〃	〃	
	〃	41	I	〃	〃		-61	E ₄ -526-24	4	II	〃	〃	
	F ₁ -528-12	23	II	〃	〃		-62	E ₅ -528-4	27	I	〃	〃	
	F ₁ -528	—	—	〃	〃		-63	E ₅ -528	28	〃	〃	〃	
IV-93-9	F ₁ -528-25	11	I	〃	IV-54-9		-64	E ₅ -524-10	13	II	〃	〃	
IV-94-10	E ₄ -526-10	20	〃	〃	IV-55		-65	試掘D	—	—	〃	〃	
-11	E ₄ -526-10	20 22	〃	〃	〃			試掘B	—	—	〃	〃	
-12	E ₅ -528-14	82A	II	〃	〃		-66	E ₄ -526-10	23	I	〃	〃	
-13	F ₁ -526-2	52	I	〃	〃		IV-98-67	E ₄ -526-15	110	II-1	VI	〃	
-14	E ₄ -528-19	43	〃	〃	〃		-68	E ₄ -528-1	42	II-1	〃	〃	
-15	E ₄ -528-8	19 29	〃	〃	〃								

表IV-20 平成8年度調査地区出土掲載石器等一覧

挿図番号	発掘区	遺物番号	層位	器種名	分類番号	長さ(mm)×幅(mm)×厚さ(mm)	重量(g)	石材	図版番号	備考
IV-99-1	E ₄ -528-1	127	II	石 鏃	IA3a	35.0×8.0×3.2	0.95	黒曜石	IV-60	
-2	E ₅ -526-1	21A	〃	〃	IA4a	31.0×16.5×3.2	1.47	〃	〃	
-3	F ₁ -528-12	44A	〃	〃	〃	31.0×17.0×4.0	1.86	〃	〃	
-4	E ₄ -526-19	35A	II-B	〃	IA4b	19.0×14.0×2.2	0.38	〃	〃	
-5	E ₅ -522-4	16	〃	〃	〃	23.0×17.0×3.2	0.69	〃	〃	
-6	E ₄ -530-21	19A	II-1	〃	〃	29.0×17.0×2.6	0.95	〃	〃	
-7	E ₂ -522-24	6	II-A	〃	〃	33.0×13.3×9.0	1.32	〃	〃	
-8	F ₁ -526-5	8	II	〃	〃	33.6×17.0×3.0	1.34	〃	〃	
-9	F ₁ -526-5	46	〃	〃	〃	35.0×16.0×3.0	1.45	〃	〃	
-10	E ₄ -526-9	42A	〃	〃	〃	38.0×16.0×4.0	1.89	〃	〃	
-11	F ₁ -526-5	45	〃	〃	〃	39.0×17.5×3.0	1.99	〃	〃	
-12	F ₁ -526-5	22	〃	〃	〃	40.2×19.0×4.7	2.24	〃	〃	
-13	F ₁ -526-5	43	〃	〃	〃	44.0×19.0×9.0	2.28	〃	〃	
-14	F ₁ -528-8	13A ⁸	〃	〃	〃	46.0×15.0×3.0	1.82	〃	〃	
-15	E ₅ -528-5	51	II-1	〃	IA5a	22.0×14.0×3.0	0.63	〃	〃	
-16	F ₁ -526-15	13	II	〃	〃	28.0×14.0×4.0	0.88	〃	〃	
-17	E ₂ -522-24	37	II-A	〃	〃	28.8×14.0×3.0	0.84	〃	〃	
-18	E ₂ -522-24	13	〃	〃	〃	32.0×14.0×4.0	0.95	〃	〃	
-19	E ₄ -528-18	38	〃	〃	〃	32.5×21.0×4.0	1.92	〃	〃	
-20	E ₄ -528-18	28	〃	〃	〃	39.0×17.0×4.1	1.85	〃	〃	
-21	E ₄ -528-12	73A	II	〃	IA7a	36.0×16.0×3.3	1.61	〃	〃	
-22	E ₅ -526-6	70A	II-B	〃	IA7b	29.0×12.0×3.8	0.85	〃	〃	
-23	E ₄ -526-9	164A	〃	〃	〃	38.0×19.0×3.5	1.74	〃	〃	
-24	F ₁ -528-11	10A	II	〃	〃	46.0×19.0×4.0	2.69	〃	〃	
-25	E ₅ -524-10	57	〃	〃	〃	54.5×21.0×3.4	3.49	〃	〃	
-26	E ₅ -526-17	2	〃	〃	〃	51.0×18.0×3.2	2.35	〃	〃	
-27	E ₅ -526-25	21	I	石 槍	IB1	53.5×36.0×9.0	12.74	〃	〃	
-28	F ₁ -522-10	3	〃	〃	〃	61.0×35.0×9.7	14.83	〃	〃	
-29	E ₅ -526-6	72	II-B	〃	〃	59.0×31.0×10.0	14.76	〃	〃	
-30	E ₅ -526-7	64	〃	〃	〃	(63.0)×26.5×9.0	(11.36)	〃	〃	
-31	E ₅ -526-5	12	II	〃	〃	65.0×33.0×7.8	13.59	〃	〃	
-32	E ₅ -524-10	55	〃	〃	〃	71.5×29.0×9.4	14.68	〃	〃	
-33	E ₄ -528-21	8	I	〃	〃	74.0×30.0×10.0	13.01	〃	〃	
-34	E ₄ -524-23	5	II-A	〃	〃	75.0×35.0×9.8	16.22	〃	〃	
-35	E ₄ -524-4	11	II-B	〃	〃	109.8×32.0×10.0	30.23	〃	〃	
-36	E ₅ -526-24	8	II-A	〃	IB2	58.0×21.0×6.0	5.81	〃	〃	
-37	E ₄ -526-18	143	II-B	〃	〃	57.0×23.0×8.0	8.33	〃	〃	
IV-100-38	E ₅ -526-4	6	II	〃	〃	71.5×31.0×9.3	18.69	〃	〃	
-39	E ₂ -522-25	1A	II-A	〃	〃	(94.0)×41.0×12.0	(38.46)	〃	〃	
-40	E ₅ -528-2	7	II	〃	IB3	132.5×36.0×15.2	55.18	頁 岩	〃	
-41	E ₄ -524-4	12	II-B	〃	IB	(167.5)×45.0×12.9	(93.02)	黒曜石	〃	両頭石器
-42	E ₄ -526-22	5	II	石 鏃	IIA2	22.0×11.0×6.0	1.28	〃	〃	
-43	E ₅ -528-21	9	〃	〃	〃	43.5×13.5×12.7	5.99	頁 岩	〃	
-44	E ₅ -526-13	74	I	〃	IIA3	33.0×19.0×5.6	3.56	黒曜石	〃	
-45	E ₄ -524-20	12	〃	つまみ付ナイフ	IIIA1	60.0×23.0×8.0	10.64	頁 岩	〃	
-46	F ₁ -528-10	4	II	〃	〃	70.3×22.0×7.0	11.21	〃	〃	
-47	F ₁ -524-2	1	I	〃	〃	79.0×23.0×11.4	16.07	〃	〃	
-48	E ₄ -528-16	13	II-A	〃	〃	95.0×37.0×19.0	47.53	〃	〃	
-49	E ₅ -528-12	8	I	〃	IIIA2	55.0×21.0×9.0	7.94	黒曜石	〃	
-50	E ₄ -524-25	8	II	ナイフ類	IIIB1	69.3×36.0×10.0	24.31	〃	〃	
-51	E ₅ -526-12	101	I	〃	〃	68.0×41.0×12.0	15.29	〃	〃	
-52	E ₅ -528-5	22	II-1	〃	〃	77.0×30.0×9.4	19.90	〃	〃	
-53	E ₄ -526-18	151	II-B	〃	IIIB2	62.0×24.0×11.0	11.68	〃	〃	
-54	E ₅ -528-13	57	I	〃	〃	70.0×27.0×9.0	15.67	〃	〃	

4 包含層の遺物

挿図番号	発掘区	遺物番号	層位	器種名	分類番号	長さ(mm)×幅(mm)×厚さ(mm)	重量(g)	石材	図版番号	備考
IV-101-55	E ₃ -526-13	87	I	ナイフ類	ⅢB2	70.0×25.0×7.0	14.10	黒曜石	IV-60	
-56	E ₃ -528-1	6	Ⅱ	〃	〃	73.3×29.0×9.0	18.82	〃	〃	
-57	E ₃ -526-13	42	〃	〃	〃	74.0×41.0×11.7	35.20	〃	〃	
-58	E ₃ -524-20	11	I	〃	〃	95.5×37.0×8.0	30.73	〃	〃	
-59	E ₃ -522-3 E ₃ -526-23	3 12	Ⅱ ^{B-1} I	〃	〃	141.0×31.5×10.0	44.44	玄武岩	〃	
-60	E ₁ -524-20	10	I	スクレイパー	ⅢC2	34.0×30.5×9.0	9.44	黒曜石	IV-61	
-61	E ₁ -526-24	37	〃	〃	〃	39.0×29.0×6.0	6.63	〃	〃	
-62	F ₁ -526-16	23	〃	〃	〃	41.0×35.5×13.0	17.88	〃	〃	
-63	E ₃ -528-21	19	Ⅱ	〃	〃	41.5×22.0×7.0	7.40	〃	〃	
-64	E ₃ -524-22	52A	〃	〃	ⅢC3	45.0×39.0×15.0	22.93	〃	〃	
-65	F ₁ -528-1	38	〃	〃	ⅢC4	57.0×28.0×9.0	14.10	〃	〃	
-66	F ₁ -528-8	22	〃	〃	〃	63.5×18.8×11.0	13.98	〃	〃	
-67	E ₃ -522-5	4	I	〃	〃	71.0×23.2×8.5	14.37	〃	〃	
-68	E ₁ -526-18	144	Ⅱ-B	〃	〃	69.0×24.2×9.9	12.90	〃	〃	
-69	E ₁ -524-13	4	I	〃	〃	74.2×42.1×11.0	43.59	玄武岩	〃	
-70	E ₃ -528-5	83	Ⅱ-A	〃	〃	109.1×29.0×12.9	40.26	黒曜石	〃	
-71	E ₃ -524-25	14	I	〃	ⅢC5	43.5×31.0×8.2	10.62	〃	〃	
-72	E ₁ -524-12	18A	Ⅱ	〃	〃	48.1×26.5×11.5	12.65	〃	〃	
IV-102-73	E ₃ -528-3	25	I	〃	〃	58.1×29.8×12.4	19.42	〃	〃	
-74	F ₁ -528-7	39A	Ⅱ	〃	〃	72.0×29.2×12.0	22.11	〃	〃	
IV-102-75	E ₁ -526-18	131	Ⅱ-B	〃	ⅢC7	31.0×48.5×11.9	9.45	〃	〃	
-76	E ₃ -528-25	42A	Ⅱ-1	〃	〃	44.0×35.0×9.1	16.27	〃	〃	
-77	E ₃ -526-3	28	I	〃	〃	55.0×38.0×13.0	25.97	〃	〃	
-78	F ₁ -526-18	33	〃	〃	〃	50.0×44.0×13.1	27.85	〃	〃	
-79	F ₁ -524-2	55	〃	〃	〃	53.6×34.2×14.1	27.66	〃	〃	
-80	E ₁ -526-5	91	Ⅱ-B	〃	〃	102.0×44.0×18.9	83.85	頁岩	〃	
-81	E ₁ -528-13	14	Ⅱ-A	〃	〃	109.0×81.0×26.2	220.00	珪質頁岩	IV-61	
-82	E ₁ -524-11	21	I	〃	ⅢC8	28.5×30.5×8.6	73.50	黒曜石	〃	
-83	E ₃ -524-5	13A	Ⅱ-A	石製品	—	36.0×17.2×4.4	2.44	〃	〃	
-84	F ₁ -528-7	55A	Ⅱ	〃	—	38.4×16.9×4.0	1.79	〃	〃	
-85	E ₁ -526-9	63	〃	〃	—	19.0×20.0×5.0	3.37	片岩	〃	玉類
-86	E ₁ -526-13	131	I	〃	—	36.8×16.5×10.0	8.73	カンラン岩	〃	〃
-87	E ₁ -524-15	5	〃	石斧	ⅣA1	33.0×53.0×16.0	120.00	泥岩	〃	
-88	E ₃ -528-22	47	〃	〃	〃	87.0×70.0×12.6	117.47	片岩	〃	
IV-103-89	F ₁ -526-3	15	〃	〃	〃	100.0×34.0×12.4	63.99	〃	〃	
-90	F ₁ -526-17	20	〃	〃	〃	100.0×47.0×8.9	59.35	〃	〃	
-91	E ₃ -526-4	8	Ⅱ-B	〃	〃	105.0×36.0×13.6	80.36	〃	IV-62	
-92	E ₃ -528-12	5	Ⅱ	〃	〃	127.0×38.0×11.4	87.77	泥岩	〃	
-93	E ₁ -526-9	159	Ⅱ-B	〃	〃	143.0×50.0×17.6	195.00	〃	〃	
-94	E ₃ -522-13	10	I	〃	〃	214.0×67.0×25.4	568.00	〃	〃	
IV-104-95	E ₃ -528-10	30 26	Ⅱ-A I	〃	ⅣA2	103.0×37.0×16.0	96.30	〃	〃	
-96	E ₃ -528-22	10	Ⅱ	〃	〃	121.0×35.0×9.5	86.35	片岩	〃	
-97	F ₁ -524-10	3	〃	〃	〃	133.0×36.0×14.8	125.00	〃	〃	
-98	E ₃ -526-12	7	Ⅱ-1	〃	〃	149.0×42.0×16.8	146.00	泥岩	〃	
-99	F ₁ -528-1	70	Ⅱ-B	〃	〃	142.0×40.0×24.8	240.00	片岩	〃	
-100	F ₁ -524-13	4	I	〃	〃	243.0×53.0×33.8	688.00	〃	〃	
IV-105-101	E ₃ -526-1	56	Ⅱ	石のみ	ⅣB	87.0×22.0×7.0	25.32	〃	〃	
-102	E ₃ -526-1	1	〃	〃	〃	131.0×21.0×12.8	60.06	泥岩	〃	
-103	E ₃ -530-2	14	Ⅱ-A	たたき石	ⅣA1	114.0×65.0×44.0	420.00	砂岩	IV-63	
-104	E ₁ -526-5	102	Ⅱ-B	〃	ⅣA2	121.0×86.0×30.2	445.00	トロニウム岩	〃	
-105	F ₁ -530-11	2	Ⅱ	〃	ⅣA3	94.0×41.5×21.6	140.00	砂岩	〃	
-106	E ₃ -522-4	17	Ⅱ-A	〃	〃	66.0×70.0×22.2	126.00	〃	〃	
-107	F ₁ -528-13	17C	Ⅱ	〃	ⅣA4	80.0×65.0×46.0	282.00	安山岩	〃	
-108	E ₃ -526-13	3	Ⅱ-1	〃	〃	110.0×84.0×38.9	460.00	砂岩	〃	
-109	E ₃ -524-18	8	Ⅱ	〃	ⅣA5	141.0×55.0×27.2	285.00	〃	〃	

挿図番号	発掘区	遺物番号	層位	器種名	分類番号	長さ(mm)×幅(mm)×厚さ(mm)	重量(g)	石材	図版番号	備考
IV-105-110	E ₃ -530-18	49	II-1	たたき石	VA5	165.0×63.5×31.4	385.00	砂岩	IV-63	
-111	E ₅ -526-7	63	II-B	〃	〃	183.0×67.2×27.0	465.00	〃	〃	
-112	E ₁ -530-1	27	〃	すり石	VI A 1	104.0×142.0×61.5	1150.00	〃	〃	
-113	E ₄ -528-18	67	II	〃	〃	95.0×164.0×52.8	1180.00	安山岩	IV-64	
-114	E ₄ -526-5	96	II-B	〃	VI A 2	74.0×105.0×31.5	320.00	砂岩	〃	
-115	E ₅ -522-23	8	I	〃	VI A 4	98.0×152.0×76.5	1420.00	〃	〃	
IV-106-116	F ₁ -526-7	6	〃	〃	〃	96.0×136.0×65.8	1250.00	〃	〃	
-117	E ₅ -528-23	29	〃	〃	〃	89.0×148.0×71.0	1040.00	〃	〃	
-118	E ₄ -528-21	46	II	〃	〃	87.8×115.0×75.2	1080.00	〃	〃	
-119	E ₁ -528-22	44	〃	〃	〃	100.0×143.0×69.0	1400.00	トロニエム岩	〃	
-120	E ₃ -526-21	2	II-B	〃	〃	91.0×140.0×67.2	940.00	砂岩	〃	
-121	E ₅ -524-9	71	II-B-1	〃	〃	86.0×123.0×56.8	820.00	〃	IV-65	
-122	E ₅ -522-2	16 17	〃	〃	〃	98.0×133.0×66.2	1065.00	〃	〃	
-123	E ₄ -526-1	42	II-B	〃	〃	130.0×172.0×46.2	1460.00	〃	〃	
IV-107-124	E ₃ -528-14	2A	II-1	砥石	VII B 2	98.0×99.0×13.9	160.00	〃	〃	
-125	E ₃ -530-17	51	〃	〃	〃	135.0×127.0×25.0	520.00	〃	〃	
-126	E ₅ -522-10	1	II-B-1	〃	〃	156.0×100.0×52.8	520.00	〃	〃	
-127	E ₅ -528-1	30	II-B	〃	VII B 4	90.0×137.0×4.9	580.00	〃	IV-66	
-128	E ₅ -520-20	60	II	〃	〃	180.0×148.0×54.0	1140.00	〃	〃	
-129	E ₄ -528-14	163	〃	〃	〃	310.0×176.0×68.0	4220.00	〃	〃	
IV-107-130	F ₁ -522-2	31B	〃	加工痕のある礫	XB	164.0×128.0×18.2	545.00	カンラン岩?	〃	
IV-108-131	E ₄ -526-14	148	〃	石皿	VI B 2	191.0×352.0×233.0	19600.00	トロニエム岩	IV-67	
-132	E ₄ -528-22	45	〃	〃	〃	338.0×268.0×134.0	18400.00	〃	〃	
-133	E ₅ -524-20	111	〃	〃	〃	299.0×368.0×152.3	24000.00	〃	IV-68	
-134	F ₁ -526-3	6	I	原石	IX A 2	56.0×7.0×3.9	2.19	黒曜石	〃	
-135	F ₁ -522-11	14	〃	〃	〃	76.0×14.0×6.5	8.56	〃	〃	
-136	E ₄ -528-15	49	〃	〃	〃	125.0×33.0×11.0	38.70	〃	〃	
-137	E ₅ -524-22	95A	II	土製品	—	(18.0)×(21.0)×(7.0)	3.01	—	〃	
-138	E ₄ -526-24	18	〃	〃	—	(41.0)×(37.0)×(13.0)	(10.90)	—	〃	滑車型耳栓
-139	F ₁ -526-13	7	I	原石	IX A 2	39.5×28.0×23.0	23.30	メノウ	〃	
IV-109-1	E ₅ -526-8	43	II	ナイフ類	III B 2	82.8×48.1×15.0	42.30	黒曜石	IV-32-2	
-2	〃	48	〃	〃	〃	57.9×39.5×9.9	18.80	〃	〃	
-3	〃	44	〃	〃	〃	61.5×34.0×8.5	15.60	〃	〃	
-4	〃	47	〃	〃	〃	57.8×40.0×10.5	19.10	〃	〃	
-5	〃	55	〃	〃	〃	56.2×40.5×9.2	17.70	〃	〃	
-6	〃	45	〃	〃	〃	68.0×36.5×9.0	21.30	〃	〃	
-7	〃	46	〃	〃	〃	66.0×41.0×10.0	20.80	〃	〃	
-8	〃	69	〃	原石	IX A 2	47.0×32.5×14.2	23.80	〃	〃	
-9	〃	41	〃	〃	〃	63.0×44.1×19.5	61.30	〃	〃	
-10	〃	42	〃	〃	〃	44.0×36.0×14.5	28.40	〃	〃	
-11	〃	50	〃	すり石片	VI A 4	(98.5)×(71.0)×(59.0)	(489.30)	砂岩	〃	

表IV-21 平成9年度調査地区II-B層出土の掲載土器一覧

図番号	発掘区	遺物番号	出土層位	分類	図版番号	備考	図番号	発掘区	遺物番号	出土層位	分類	図版番号	備考
IV-110-1	E ₄ -528-14	142A	II-B	I b	IV-72		IV-110-10	E ₄ -528-9	80A	II-B	II b	IV-72	繊維混入
-2	E ₄ -528-4	21	〃	〃	〃		-11	E ₄ -528-3	57	〃	〃	〃	〃
-3	E ₄ -528-5	105	〃	〃	〃		-12	E ₄ -528-5	80	〃	〃	〃	〃
-4	E ₄ -528-3	65	〃	II b	〃	繊維混入	-13	E ₃ -528-23	40	〃	〃	〃	〃
-5	〃	〃	〃	〃	〃	〃	-14	E ₄ -530-6	26	〃	〃	〃	〃
-6	E ₄ -528-10	121A	〃	〃	〃	〃	-15	E ₄ -528-3	65	〃	〃	〃	〃
-7	E ₄ -528-3	65	〃	〃	〃	〃	-16	E ₄ -528-14	134	〃	〃	〃	〃
-8	〃	〃	〃	〃	〃	〃	-17	E ₄ -528-3	65	〃	〃	〃	〃
-9	E ₄ -530-1	64	〃	〃	〃	〃							

4 包含層の遺物

表Ⅳ-22 平成9年度調査地区Ⅱ-A層出土の掲載土器一覧

図番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	図版番号	備考	図番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	図版番号	備考
Ⅳ-111- 1 a	E ₃ -526-4	21	Ⅱ-A下	Ⅲ a	Ⅳ-69		- 40	E ₃ -528-25 E ₁ -530-2	12・32・36 26・27・29	Ⅱ-A	Ⅳ c	Ⅳ-70	
- 16	E ₃ -526-4	21	◇	◇	◇			-25 12		◇			
- 2	E ₂ -532-23	33	Ⅱ-A	Ⅳ a	◇		Ⅳ-116- 41	E ₂ -528-25	1	◇	◇	◇	
- 3	E ₁ -532-20	19・20	◇	◇	◇		Ⅳ-116- 41	E ₃ -528-20	8	Ⅱ-A	◇	◇	
- 4	E ₁ -530-18 - 2	41 41	◇	◇	◇		- 42	E ₁ -530-1 E ₁ -528-5	52・57 40	◇	◇	◇	
Ⅳ-112- 5 a	E ₁ -528-7 E ₃ -528-11	90・91 4	◇	Ⅲ a	Ⅳ-73		- 43	E ₁ -530-8	31	◇	◇	◇	
- 5 b	E ₁ -536-13 E ₁ -528-7 -12	9 A 89 37	Ⅱ Ⅱ-A ◇	◇	◇		- 44	E ₁ -530-8	31	◇	◇	◇	
- 5 c	E ₁ -528-7	87	◇	◇	◇		- 45	E ₁ -528-8 - 9	21 27・28・40A	◇	◇	◇	
- 6 a	E ₃ -530-22	72	◇	◇	◇			45 E ₁ -530-16	43	◇	◇	◇	
- 6 b	E ₃ -530-22	72	◇	◇	◇		Ⅳ-117- 46	E ₃ -528-9	35	◇	◇	◇	
- 7 a	E ₁ -528-5	77	◇	◇	◇			-15 14	36 23・26	◇	◇	◇	
- 7 b	E ₁ -528-5	77	◇	◇	◇			16 36	36	◇	◇	◇	
- 7 c	E ₃ -530-21	34	◇	◇	◇			E ₁ -528-9	30・46・31 34・28・61	◇	◇	◇	
- 8 a	E ₃ -528-5	96	Ⅱ	Ⅲ b	◇			- 7	52・20	◇	◇	◇	
- 8 b	E ₁ -528-6	36A	Ⅱ-A	◇	◇			-15	12・13	◇	◇	◇	
- 9	E ₁ -530-8	1	◇	Ⅳ a	◇			E ₃ -528-15	36	◇	◇	◇	
- 10	E ₁ -528-7	142	◇	◇	◇			-36		◇	◇	◇	
- 11	E ₃ -530-22	73	◇	◇	◇			E ₁ -528-34		◇	◇	◇	
- 12	E ₃ -530-19	60	◇	◇	◇					◇	◇	◇	
- 13	E ₂ -530-8	1	◇	◇	◇					◇	◇	◇	
- 14	E ₃ -526-25	107	◇	◇	◇					◇	◇	◇	
- 15	E ₁ -530-18	34	◇	◇	◇					◇	◇	◇	
- 16	E ₂ -530-20	9	◇	◇	◇					◇	◇	◇	
Ⅳ-113- 17	E ₂ -530-8	1	◇	◇	Ⅳ-74		- 47	E ₁ -528-19	22・21	Ⅱ-B	◇	◇	
- 18	E ₁ -530-2	23A	◇	◇	◇			-19	45	I	◇	◇	
- 19	E ₂ -532-23	33	◇	◇	◇			-14	115・112・129	Ⅱ-A	◇	◇	
- 20	E ₂ -532-23	33	◇	◇	◇				120・102	◇	◇	◇	
- 21	E ₃ -528-5	79	◇	◇	◇				64・65	◇	◇	◇	
- 22	E ₁ -528-11	29	◇	◇	◇				-18	41	◇	◇	
Ⅳ-113- 23	E ₃ -528-23	17	◇	◇	◇				-19	1	Ⅱ	◇	
- 24	E ₃ -528-23	17	◇	◇	◇				E ₃ -528-19	I	◇	◇	
- 25	E ₃ -528-23	17	◇	◇	◇				27・29・20	◇	◇	◇	
- 26	E ₃ -528-23	17	◇	◇	◇				22	◇	◇	◇	
- 27	E ₃ -526-20	26	◇	◇	◇		Ⅳ-118- 48	E ₁ -530-3	43・44・49	Ⅱ-A	◇	Ⅳ-71	
- 28	E ₂ -532-1	31	◇	◇	◇			- 8	29	◇	◇	◇	
- 29	E ₁ -530-2	50	◇	◇	◇			- 9	20	◇	◇	◇	
- 30	E ₁ -530-18	40	◇	◇	◇			-20	17	◇	◇	◇	
- 31	E ₃ -530-23	67	◇	◇	◇		Ⅳ-119- 49	E ₃ -530-16	31	砂層	Ⅳ b	Ⅳ-75	
- 32	E ₃ -532-6	23	◇	◇	◇			- 50	E ₃ -528-17	21	Ⅱ-A	◇	◇
- 33	E ₃ -532-20	20	◇	◇	◇			- 51	E ₁ -530-3	24	砂層	◇	◇
- 34	E ₁ -530-2	50	◇	◇	◇			- 52	E ₃ -526-15	7	Ⅱ-A	◇	◇
- 35	E ₃ -528-9	40	◇	◇	◇			- 53	E ₁ -530-1	52	◇	◇	◇
Ⅳ-115- 36	E ₃ -530-13	9	◇	Ⅳ c	Ⅳ-69			- 54	E ₃ -528-7	4・6	Ⅳ c	◇	◇
- 18	59		◇	◇	◇			- 55	E ₃ -528-23	33	◇	◇	◇
- 37	E ₃ -530-5	20	◇	◇	◇			- 56	E ₃ -526-10	15	◇	◇	◇
	-21	17・36・27B	◇	◇	◇			- 57	E ₃ -528-16	13	◇	◇	◇
	-22	61・62・78	◇	◇	◇			- 58	E ₃ -528-12	10	◇	◇	◇
		59	◇	◇	◇			- 59	E ₃ -528-23	33	◇	◇	◇
	-25	5・6	◇	◇	◇			- 60 a	E ₂ -530-16	33	◇	◇	◇
	-23	6	◇	◇	◇			- 60 b	◇	◇	◇	◇	
	-6		◇	◇	◇			- 61 a	E ₂ -528-23	17・20・32	◇	◇	◇
	-25	7	Ⅱ-1	◇	◇			- 61 b	E ₂ -528-23	21	◇	◇	◇
	E ₁ -528-5		Ⅱ-A	◇	◇			Ⅳ-120- 62	E ₁ -530-1	44	◇	◇	Ⅳ-76
- 38	E ₃ -528-5	4	◇	◇	◇			- 63	E ₁ -530-1	13	◇	◇	◇
	14		◇	◇	◇			- 64	E ₃ -528-10	17	◇	◇	◇
	E ₃ -530-12	23	◇	◇	◇			- 65	E ₃ -528-1	19	◇	◇	◇
	-21	17・30・36	◇	◇	◇			- 66	E ₂ -528-9	62	◇	◇	◇
	-22	61	◇	◇	◇				-24	27	◇	◇	◇
	E ₁ -528-15	56	◇	◇	◇				E ₃ -528-13	52	◇	◇	◇
	E ₁ -530-1	52	◇	◇	◇				-16	25	◇	◇	◇
	- 2	37	◇	◇	◇						◇	◇	◇
- 39	E ₃ -530-21	22・27B	◇	◇	◇			- 67	E ₃ -528-13	55	◇	◇	◇
			◇	◇	◇			- 68	E ₂ -528-25	4	◇	◇	◇
			◇	◇	◇			- 69	E ₃ -528-13	27	◇	◇	◇
			◇	◇	◇			- 70	E ₃ -528-21	41	◇	◇	◇
			◇	◇	◇			- 71	E ₂ -528-23	24	◇	◇	◇

図番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	図版番号	備考	図番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	図版番号	備考
IV-120-72	E ₃ -528-3	13	II-A	IVc	IV-76		-90	E ₃ -528-19	1	II-A	IVc	IV-78	
-73	E ₃ -530-24	57	〃	〃	〃		-91	E ₃ -528-7	20	〃	〃	〃	
-74a	E ₂ -528-23	24	〃	〃	〃		-92	E ₃ -528-7	21	〃	〃	〃	
-74b	E ₂ -528-23	27	〃	〃	〃		-93	E ₃ -528-7	21	〃	〃	〃	
-75	E ₃ -528-21	42	〃	〃	〃		-94	E ₁ -530-1	13	〃	〃	〃	
	E ₃ -528-22	17A	〃	〃	〃		-95	E ₁ -528-15	57	〃	〃	〃	
-76	E ₂ -528-24	5	〃	〃	〃		-96	E ₂ -530-21	7	〃	〃	〃	
-77	E ₃ -528-3	10	〃	〃	〃		-97	E ₂ -530-21	7	〃	〃	〃	
-78a	E ₃ -528-4	10	〃	〃	〃		-98	E ₁ -528-5	46	〃	〃	〃	
-78b	E ₃ -528-4	8	〃	〃	〃		-99	E ₁ -528-5	40	〃	〃	〃	
-78c	E ₃ -528-4	17	〃	〃	〃		-100a	E ₂ -530-21	9・13	〃	〃	〃	
-78d	E ₂ -528-24	5	〃	〃	〃		-100b	E ₂ -528-20	22	〃	〃	〃	
IV-121-78e	E ₂ -528-24	23	〃	〃	IV-77		-101	E ₃ -530-25	15	〃	〃	〃	
-78f	E ₂ -528-24	17	〃	〃	〃		-102	E ₂ -530-3	42A	〃	〃	〃	
-79	E ₄ -528-1	171・177・185 ・191	〃	〃	〃		-103	E ₃ -530-25	13	〃	〃	〃	
-80	E ₃ -528-11	1	〃	〃	〃		-104	E ₁ -528-5	24・64	〃	〃	〃	
-81	E ₃ -528		〃	〃	〃			E ₁ -530-11	67	〃	〃	〃	
-82	E ₁ -530-16	43	〃	〃	〃		IV-123-105a	E ₃ -530-13	19A	〃	〃	IV-79	
-83	E ₁ -528-2	35	〃	〃	〃		-105b	E ₃ -530-13	15	〃	〃	〃	
-84a	E ₁ -528-15	64	〃	〃	〃		-106	E ₃ -530-21	38	〃	〃	〃	
-84b	E ₁ -528-14	109	〃	〃	〃		-107	E ₃ -528-7	17	〃	〃	〃	
-85a	E ₁ -526-19	10	〃	〃	〃		-108a	E ₃ -530-21	20	〃	〃	〃	
-85b	E ₁ -526-14	99	〃	〃	〃		-108b	E ₃ -530-21	12・15	〃	〃	〃	
-86a	E ₃ -528-8	17	〃	〃	〃		-109	E ₃ -528		〃	〃	〃	
	-13	38	〃	〃	〃		-110	E ₁ -528-20	22	〃	〃	〃	
-86b	E ₃ -528-8	24・34	〃	〃	〃		-111	E ₁ -528-5	40	〃	〃	〃	
-86c	E ₃ -528-13	30	〃	〃	〃		-112a	E ₁ -528-1	181	〃	〃	〃	
	-21	35	〃	〃	〃		-112b	E ₃ -528-13	30・45	〃	〃	〃	
-86d	E ₃ -528-3	4・17・18	〃	〃	〃		-113	E ₃ -526-9	14	〃	〃	〃	
	-13	33・43	〃	〃	〃		-114	E ₁ -530-3	31・32	〃	〃	〃	
	-15	37	〃	〃	〃		-115	E ₁ -528-10	114	〃	〃	〃	
	-16	19	〃	〃	〃		-116	E ₁ -528-5	43	〃	〃	〃	
IV-122-87	E ₁ -530-2	34	〃	〃	IV-78		-117	E ₁ -528-5	35	〃	〃	〃	
-88	E ₃ -528-21	46	〃	〃	〃		-118	E ₁ -528-15	60	〃	〃	〃	
-89	E ₃ -530-23	66・74・75	〃	〃	〃		-119	E ₂ -528-21	15	〃	〃	〃	
			〃	〃	〃		-120	E ₁ -530-2	42	〃	〃	〃	

表IV-23 平成9年度調査地区II-1層出土の掲載土器一覧(1) III群・IV群

図番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	図版番号	備考	図番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	図版番号	備考
IV-124-1	E ₃ -536-16	66	II-1	IVa	IV-71		IV-126-16	E ₃ -526-6	2	II-1	IVa	IV-80	
	13		〃	〃	〃		-17	E ₁ -530-8	5	〃	〃	〃	
	E ₁ -532-9	12	〃	〃	〃		-18	E ₃ -536-12	43	〃	〃	〃	
	13	12	〃	〃	〃		-19	E ₂ -530-23	4	〃	〃	〃	
	14	12	〃	〃	〃		-20	E ₃ -534-24	76	〃	〃	〃	滑石混入
	19	12・14・19	〃	〃	〃		-21	〃	75・76	〃	〃	〃	〃
	20	17・25	〃	〃	〃		-22	〃	75	〃	〃	〃	〃
IV-126-2	E ₂ -528-19	9	II-1	III	IV-80		-23	〃	〃	〃	〃	〃	〃
	E ₂ -530-6	2	〃	〃	〃		-24	E ₃ -536-17	14A	〃	〃	〃	〃
-3	E ₃ -534-20	41	〃	IVa	〃		-25	E ₁ -534-9	18A	〃	〃	〃	〃
-4	〃	〃	〃	〃	〃		-26	E ₃ -536-8	51A	〃	〃	〃	〃
-5	〃	〃	〃	〃	〃		IV-127-27a	E ₁ -534-4	12A	〃	〃	IV-81	
-6	E ₃ -536-13	9A	〃	〃	〃		-27b	〃	12A・15A	〃	〃	〃	
-7	E ₃ -536-7	49	〃	〃	〃		-28	〃	12A	〃	〃	〃	
	12	14	〃	〃	〃		IV-127-29	E ₁ -534-4	15A	II-1	〃	〃	
-8	E ₃ -536-13	39	〃	〃	〃		-30	〃	〃	〃	〃	〃	
-9	E ₃ -536-12	41	〃	〃	〃		-31	E ₃ -536-7	51	〃	〃	〃	
-10	E ₃ -536-13	15A・39	〃	〃	〃		-32	E ₁ -534-9	23A	〃	〃	〃	
-11	E ₃ -536-12	15A	〃	〃	〃		-33	E ₁ -534-3	17	〃	〃	〃	
-12	〃	43	〃	〃	〃		-34	E ₁ -534-9	23A	〃	〃	〃	
-13	〃	41	〃	〃	〃		-35a	E ₁ -534-3	15A	〃	〃	〃	
-14	E ₃ -536-13	37	〃	〃	〃		-35b	〃	17・20	〃	〃	〃	
-15	〃	15A	〃	〃	〃		-35c	〃	20	〃	〃	〃	

4 包含層の遺物

表Ⅳ-24 平成9年度調査地区Ⅱ-1層出土の掲載土器一覽(2) V群・Ⅵ群

図番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	図版番号	備考	図番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	図版番号	備考			
Ⅳ-130-1	E ₂ -534-14	8B・9・11・23	Ⅱ-1 砂	Va	Ⅳ-82		Ⅳ-137-36	E ₃ -530-24	24	Ⅱ-1	Va	Ⅳ-85				
		47・48・49・50・63					E ₄ -532-8	7	Ⅱ-1					Ⅱ	Ⅱ	
Ⅱ-2	E ₁ -530-16 -17 -22	4	Ⅱ-1	Vc	Ⅳ-82		Ⅱ-38	F ₁ -530-7	14	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
		8					E ₁ -530-23	33	Ⅱ-1					Ⅱ	Ⅱ	
		16・43					E ₃ -534-16	13	Ⅱ-1					Ⅱ	Ⅱ	
Ⅳ-131-3	E ₂ -534-8	16	Ⅱ-1	Vc	Ⅳ-82		Ⅱ-41	E ₃ -534-17	3A	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
Ⅱ-4	E ₂ -534-11 -18 -23 E ₃ -532-12 E ₃ -534-11	13	Ⅱ-1	Vc	Ⅳ-82		Ⅱ-42	E ₁ -530-18	2	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
		6					E ₁ -534-5	5	Ⅱ-1					Ⅱ	Ⅱ	
		22					E ₃ -530-24	53	Ⅱ-1					Ⅱ	Ⅱ	
		2					E ₃ -530-20	20	Ⅱ-1					Ⅱ	Ⅱ	
Ⅳ-132-5	E ₅ -532-21	69	Ⅱ-1	Vc	Ⅳ-82		Ⅱ-46	E ₄ -534-9	14	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
Ⅱ-6	E ₂ -532-18 -19	17・28・39	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅳ-82		Ⅱ-47	E ₂ -532-9	13・19A	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
		3・4					E ₃ -534-7	25	Ⅱ-1					Ⅱ	Ⅱ	
Ⅳ-133-7	E ₃ -530-23	11A・56	Ⅱ-1	Vc	Ⅳ-83		Ⅱ-49	E ₃ -534-7	24	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
Ⅱ-8	E ₃ -534-3	12・13	Ⅱ-1	Vc	Ⅳ-83		Ⅱ-50	E ₃ -532-11	3	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
Ⅱ-9	E ₃ -534-13 -22	39	Ⅱ-1	Vc	Ⅳ-83		Ⅱ-52	E ₃ -530-24	24	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
		22					E ₃ -534-19	15	Ⅱ-1					Ⅱ	Ⅱ	
Ⅳ-134-10	E ₂ -532-23	13・14	Ⅱ-1	Vc	Ⅳ-83		Ⅱ-54	E ₄ -530-3	3	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
Ⅱ-11	E ₂ -534-23 -24 -25 -26	3・14	Ⅱ-1	Vc	Ⅳ-83		Ⅱ-55	E ₂ -534-9	4	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
		10・18・19					E ₃ -534-19	48	Ⅱ-1					Ⅱ	Ⅱ	
		7					E ₃ -530-24	21A	Ⅱ-1					Ⅱ	Ⅱ	
		2					E ₅ -530-3	8	Ⅱ-1					Ⅱ	Ⅱ	
Ⅱ-12	E ₃ -532-23	37	Ⅱ-1	Vc	Ⅳ-83		Ⅱ-59	E ₁ -532-24	4	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
Ⅱ-13	E ₃ -532-7 E ₄ -526-7 E ₁ -532-7 73 -9 -23	12	Ⅱ-1	Vc	Ⅳ-83		Ⅱ-60	E ₂ -532-9	8	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
		36					Ⅳ-138-61	E ₃ -532-23	11					Ⅱ-1	Vc	Ⅳ-86
		36・43・45・73					Ⅱ-62	E ₄ -530-14	21					Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ
		73					-19	19	Ⅱ					Ⅱ	Ⅱ	
		10					E ₁ -530-22	56	Ⅱ-1					Ⅱ	Ⅱ	
Ⅳ-135-14	E ₂ -534-15 -22 E ₂ -536-16	22A 21B 27A・43	Ⅱ-1	V	Ⅳ-83	赤色顔料	Ⅱ-63	E ₂ -536-16	26	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
Ⅱ-15	E ₂ -534-15	22A	Ⅱ-1	V	Ⅳ-83		Ⅱ-64	E ₃ -534-5	4	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
Ⅱ-16	E ₃ -534-4	12A	Ⅱ-1	V	Ⅳ-83		Ⅱ-65	E ₃ -534-17	6・42	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
Ⅱ-17	E ₂ -530-25	13	Ⅱ-1	Vc	Ⅳ-83		Ⅱ-67	E ₂ -534-19	36	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
Ⅳ-136-18	E ₂ -534-22	39	Ⅱ-1	Va	Ⅳ-84		Ⅱ-68	E ₃ -536-7	16・36B	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
Ⅱ-19	E ₂ -534-13	18	Ⅱ-1	Va	Ⅳ-84		Ⅱ-69	E ₂ -536-11	32	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
Ⅱ-20	E ₃ -534-6	45	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ-70	E ₃ -534-14	37	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
Ⅱ-21	E ₃ -536-12	27	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ-71	E ₃ -534-13	17・27	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
Ⅱ-22	E ₃ -536-12	23A	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ-72	E ₃ -526-15	2	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
Ⅱ-23	E ₄ -534-4	26	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ-73	E ₄ -528-9	5	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ				
Ⅱ-24	E ₄ -532-5	4A	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ-74	E ₃ -534-13	39	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
Ⅱ-25	E ₃ -534-16	16	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ-75	E ₃ -534-19	8	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
Ⅱ-26	E ₄ -532-16	16	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ-76	E ₃ -534-19	8・11	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
Ⅱ-27	E ₃ -530-17	5A	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ-77	E ₃ -534-9	8	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
Ⅱ-28	E ₁ -532-24	4	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ		Ⅳ-139-77	E ₃ -534-14	1	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅳ-87				
Ⅱ-29	E ₅ -532-16	4	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ-78	E ₂ -532-10	2	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
Ⅱ-30	E ₂ -534-22	23A	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ-79	E ₃ -536-2	18・19	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
Ⅱ-31	E ₃ -530-16	19	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ-80	E ₃ -536-2	8・19・21A 25・30A・31A	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
Ⅱ-32	E ₄ -532-19	20	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ-81	E ₃ -534-25	32	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
Ⅱ-33	F ₁ -530-6	3	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ-82	E ₃ -534-11	26	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
Ⅳ-137-34	E ₄ -530-4	9	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅳ-85		Ⅱ-83	E ₄ -530-23	30	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
Ⅱ-35	E ₄ -530-13	16	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ		Ⅱ-84	E ₃ -532-6	12・14	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
							Ⅱ-85	F ₁ -530-11	19	I	Ⅱ	Ⅱ				
							Ⅱ-86	E ₃ -532-6	14	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅱ				
							Ⅳ-140-87	E ₃ -532-9	44・65	Ⅱ-1	Ⅱ	Ⅳ-88				

IV 滝里安井遺跡の調査

図番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	図版番号	備考	図番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	図版番号	備考
IV-140-88	E ₁ -532-7	44	II-1	Vc	IV-88		IV-146-134	E ₃ -534-22	5・22	II-1	Vc	IV-94	
〃 - 89	E ₁ -536-16	17・21	II-1	〃	〃		〃 - 135	E ₃ -536-11	9	II-1	〃	〃	
IV-141-90	E ₃ -532-5	27	II-1	〃	IV-89		〃 - 136	E ₃ -532-7	19	II-1	〃	〃	
〃 - 91	E ₁ -530-10	32	II-1	〃	〃		〃 - 137	E ₁ -534-4	16	II-1	〃	〃	
〃 - 92	E ₁ -530-17	51	II-1	〃	〃		〃 - 138	E ₃ -534-8	19	II-1	〃	〃	
〃 - 93	E ₃ -530-17	39・52・53A 53B	II-1	〃	〃		〃 - 139	E ₃ -532-17	17	II-1	〃	〃	
〃 - 94	E ₂ -532-13 -18	1・18・21 23・24 4・6・7 8・10・12 33	II-1 〃 〃 〃 〃	〃	〃		〃 - 140	E ₃ -534-9	7	II-1	〃	〃	
IV-142-95	E ₃ -536-2	19・22	II-1	〃	IV-90		〃 - 141	E ₁ -532-4	2	II-1	〃	〃	
〃 - 96	E ₃ -534-19	55A	II-1	〃	〃		〃 - 142	E ₃ -534-21	67	II-1	〃	〃	
〃 - 97	E ₃ -532-18	12	II-1	〃	〃		〃 - 143	E ₃ -532-24	26	II-1	〃	〃	
〃 - 98	E ₃ -532-21	37B	II-1	〃	〃		〃 - 144	E ₃ -534-17	22B	II-1	〃	〃	
〃 - 99	E ₁ -532-17	1	II-1	〃	〃		〃 - 145	E ₃ -534-15	30A	II-1	〃	〃	
〃 - 100	E ₁ -530-3	8	II-1	〃	〃		〃 - 146	E ₁ -534-7	6	II-1	〃	〃	
〃 - 101	E ₁ -536-25	29	II-1	〃	〃		〃 - 147	E ₂ -528-4	19	II-1	〃	〃	
〃 - 102	E ₂ -534-14	44	砂	〃	〃		IV-147-148	E ₅ -532-2	5	II-1	〃	IV-95	
〃 - 103	E ₁ -528-14	158	I	〃	〃		〃 - 149	E ₃ -534-9	46・47	II-1	〃	〃	
〃 - 104	E ₃ -530-17	66B	II-1	〃	〃		〃 - 150	E ₅ -532-2	5	II-1	〃	〃	
IV-143-105	E ₁ -532-25	15A	II-1	〃	IV-91		〃 - 151	E ₃ -530-24	25A	II-1	〃	〃	
〃 - 106	E ₁ -532-20	10A	II-1	〃	〃		〃 - 152	E ₃ -530-23	16・19	II-1	〃	〃	
〃 - 107	E ₃ -528-1	5A	II-1	〃	〃		〃 - 153	E ₃ -534-19	4	II-1	〃	〃	
〃 - 108	E ₂ -534-15	27	II-1	〃	〃		〃 - 154	E ₂ -536-16	49	II-1	〃	〃	
〃 - 109	E ₂ -534-25	37	II	〃	〃		〃 - 155	E ₃ -536-17	8	II-1	〃	〃	
〃 - 110	E ₃ -534-21	11	II-1	〃	〃		〃 - 156	E ₃ -530-24	21A	II-1	〃	〃	
〃 - 111	E ₃ -534-9	45	II-1	〃	〃		〃 - 157	E ₃ -534-9	35	II-1	〃	〃	
〃 - 112	E ₃ -532-17	14 15 17	II-1 〃 〃	〃	〃		〃 - 158	E ₃ -532-22	28	II-1	〃	〃	
〃 - 113	E ₁ -530-19	8・8	II-1	〃	〃		〃 - 159	E ₂ -534-22	7	II-1	〃	〃	
IV-144-114	E ₃ -534-5	48	II-1	〃	IV-92		〃 - 160	E ₃ -530-25	5	II-1	〃	〃	
〃 - 115	E ₃ -534-4 -9	15・24 9	II-1 〃	〃	〃		〃 - 161	E ₁ -534-1	18	II-1	〃	〃	
〃 - 116	E ₃ -534-19	40	II-1	〃	〃		IV-148-162	E ₃ -532-15	12	II-1	〃	IV-96	
〃 - 117	E ₃ -534-13	42A	II-1	〃	〃		〃 - 163	E ₁ -530-3 -18	10・17 1	II-1 〃	〃	〃	
〃 - 118	E ₂ -534-18	9	II-1	〃	〃		〃 - 164	E ₁ -534-9	26	II-1	〃	〃	
〃 - 119	E ₃ -532-11	18	II-1	〃	〃		〃 - 165	E ₁ -530-13	16	II-1	〃	〃	
〃 - 120	E ₃ -534-18	32・35	II-1	〃	〃		〃 - 166	E ₂ -532-15	11	II-1	〃	〃	
〃 - 121	E ₃ -532-10	16	II-1	〃	〃		〃 - 167	E ₁ -530-18	21・22	II-1	〃	〃	
〃 - 122	E ₃ -534-9	7	II-1	〃	〃		〃 - 168	E ₃ -530-20 -24	14 46	II-1 〃	〃	〃	
〃 - 123	E ₃ -534-11	25	II-1	〃	〃		E ₁ -530-17	52	〃	〃	〃		
〃 - 124	E ₁ -528-10	155	I	〃	〃		〃 - 169	E ₁ -532-3	1	II-1	〃	〃	ミニチュア 土器
IV-145-125	E ₃ -534-9	46・47	II-1	〃	IV-93		〃 - 170	E ₁ -532-3	5	II-1	〃	〃	〃
〃 - 126	E ₃ -532-2 -7	5 13	II-1 〃	〃	〃		〃 - 171	E ₁ -532-23	1	II-1	〃	〃	〃
〃 - 127	E ₃ -534-2	6	II-1	〃	〃		〃 - 172	E ₁ -532-23	1	II-1	〃	〃	〃
〃 - 128	E ₃ -534-19	17	II-1	〃	〃		IV-149-173	E ₃ -530-22	1・66	II-1	〃	IV-97	
〃 - 129	E ₁ -528-1	38・45	II-1	〃	〃		〃 - 174	E ₃ -532-6	9	II-1	〃	〃	
〃 - 130	E ₁ -532-9	1	II-1	〃	〃		〃 - 175	E ₃ -530-20	31	II-1	〃	〃	
〃 - 131	E ₃ -534-8	6	II-1	〃	〃		〃 - 176	E ₁ -532-6	3・9・27	II-1	〃	〃	
〃 - 132	E ₃ -532-22	4	II-1	〃	〃		〃 - 177	E ₃ -532-6	14	II-1	〃	〃	
〃 - 133	E ₃ -534-17	20	II-1	〃	〃		IV-150-1	E ₃ -532-16	32	II-1	IV	IV-98	
							〃 - 2	E ₃ -526-19	9	II-1	〃	〃	
							〃 - 3	E ₃ -534-14 -19	23・29 49・50	II-1 〃	〃	〃	
							〃 - 4	E ₃ -526-13	8	II-1	〃	〃	
							〃 - 5	E ₃ -532-9	19B -10 -15	II-1 〃 〃	〃 〃 〃	〃 〃 〃	

4 包含層の遺物

図番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	図版番号	備考	図番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	図版番号	備考
IV-151-6	E ₃ -534-5	56	II-1	IV	IV-99		IV-153-34	E ₄ -528-15	20	II-1	VI	IV-101	
〃-7	E ₅ -530-14	12	II-1	〃	〃			E ₄ -530-11	11B	〃	〃	〃	
〃-8	E ₂ -534-22	36A・42	II-1	〃	〃		〃-35	E ₄ -534-22	12A	II-1	〃	〃	
〃-9	E ₃ -536-12	2・3	II-1	〃	〃		〃-36	E ₂ -536-21	7	II-1	〃	〃	
〃-10	E ₃ -536-2	19・22	II-1	〃	〃		〃-37	E ₃ -530-22	18	II-1	〃	〃	
〃-11	E ₂ -526-20	1	I	〃	〃		〃-38	E ₃ -530-18	14	II-1	〃	〃	
〃-12	E ₄ -534-6	31・32	II-1	〃	〃		〃-39	E ₃ -534-21	44	II-1	〃	〃	
	-11	22	〃	〃	〃		〃-40	E ₅ -532-2	3	II-1	〃	〃	
〃-13	E ₃ -534-20	10・18	II-1	〃	〃		〃-41	E ₄ -530-11	35	II-1	〃	〃	
〃-14	E ₄ -530-16	22	II-1	〃	〃			-15	4・40	〃	〃	〃	
〃-15	E ₄ -530-22	2	II-1	〃	〃			E ₄ -532-11	29	〃	〃	〃	
〃-16	E ₃ -534-5	5	II-1	〃	〃		〃-42	E ₄ -528-1	108	II-1	〃	〃	
〃-17	E ₂ -532-18	20	II-1	〃	〃			-6	22	〃	〃	〃	
〃-18	E ₃ -526-25	76A・78・79 80・90	II-1	〃	〃		〃-43	E ₄ -530-20	9	II-1	〃	〃	
								E ₅ -528-15	31	II	〃	〃	
IV-152-19	F ₁ -532-1	5	II-1	〃	IV-100		IV-154-44	E ₄ -528-3	3・72	II-1	〃	IV-102	
〃-20	E ₂ -528-10	3・8	II-1	〃	〃		〃-45	E ₄ -528-14	90-1	II-1	〃	〃	
〃-21	E ₅ -532-5	14	II-1	〃	〃		〃-46	E ₅ -530-8	10	II-1	〃	〃	
〃-22	E ₃ -536-13	18	II-1	〃	〃		〃-47	E ₂ -526-19	6	II-1	〃	〃	
〃-23	E ₄ -532-22	17	II-1	〃	〃			E ₄ -528-3	3	〃	〃	〃	
〃-24	E ₃ -536-11	32	II-1	〃	〃		〃-48	E ₅ -532-12	18	II-1	〃	〃	
〃-25	E ₃ -534-19	14	II-1	〃	〃		〃-49	E ₃ -528-21	15	II-1	〃	〃	
〃-26	E ₄ -530-24	8	II-1	〃	〃		〃-50	F ₁ -530-11	10・12・19	II-1	〃	〃	
〃-27	E ₃ -534-20	5A	II-1	〃	〃		〃-51	E ₃ -536-6	1A	II-1	〃	〃	
〃-28	E ₄ -528-10	16・22・25 34	II-1	〃	〃			-7	19	〃	〃	〃	
〃-29	E ₂ -524-19	2	I	〃	〃		〃-52	E ₂ -528-10	1	II-1	〃	〃	
〃-30	E ₂ -524-12	31	I	〃	〃		〃-53	E ₄ -530-15	4・23	II-1	〃	〃	
〃-31	E ₅ -528-14	158	I	〃	〃		IV-155-54	E ₃ -536-11	5	II-1	〃	〃	
〃-32	E ₃ -528-15	23	II-1	〃	〃		〃-55	E ₄ -530-21	1・3	II-1	〃	〃	
〃-33	E ₄ -530-11	50・51・53	II-1	〃	〃		〃-56	E ₂ -528-16	2	II-1	〃	〃	

表IV-25 平成9年度調査地区II-B層出土の掲載石器一覧

挿図番号	発掘区	遺物番号	層位	器種名	分類番号	長さ(mm)×幅(mm)×厚さ(mm)	重量(g)	石材	図版番号	備考
IV-160-1	E ₄ -528-14	144	II-B	石 鎌	IA4a	28.5×14.2×3.6	1.26	黒曜石	IV-103-1	
-2	E ₄ -528-9	69	〃	〃	IA4b	31.2×18.5×4.2	2.07	〃	〃	
-3	E ₄ -528-13	85	〃	〃	IA5a	39.5×22.0×5.9	3.30	〃	〃	
-4	E ₄ -528-5	95	〃	〃	IA7a	38.8×15.0×5.0	1.79	〃	〃	
-5	E ₄ -528-9	76	〃	石 槍	IB1	66.2×31.0×9.5	11.08	〃	〃	
-6	E ₃ -528-24	23	〃	〃	〃	93.0×39.5×12.0	32.60	〃	〃	
-7	E ₄ -528-10	144	〃	つまみ付ナイフ	IIIA2	79.8×30.0×11.0	23.52	頁岩	〃	
-8	E ₃ -528-14	31	〃	スクレイパー	IIIC4	52.0×26.0×9.0	10.57	黒曜石	〃	
-9	E ₃ -528-24	22A	〃	〃	IIIC3	37.8×21.0×7.5	6.46	〃	〃	
-10	E ₄ -530-6	24	〃	〃	IIIC7	78.5×39.0×12.0	32.99	メノウ質頁岩	〃	
-11	E ₄ -530-6	27	〃	石 斧	IVA2	107.9×38.0×20.0	121.00	緑色泥岩	〃	
-12	E ₄ -528-4	28	〃	〃	IVA2	170.0×51.0×19.0	276.00	片岩	〃	接合
	E ₄ -528-5	85	〃	〃	〃			〃	〃	
-13	E ₃ -526-15	23	〃	石のみ	IVB	75.0×23.5×12.0	40.02	片岩	〃	
IV-161-14	E ₃ -528-21	66	〃	たたき石	VA5	202.5×91.5×2.5	1625.00	砂岩	〃	
-15	E ₄ -528-10	141	〃	〃	VA1	133.0×52.0×4.1	226.00	〃	〃	
-16	F ₁ -530-18	3	〃	〃	VA3	173.0×68.0×6.8	641.00	〃	〃	
-17	E ₃ -528-14	36	〃	すり石片	VI A 1	123.0×(149.0)×(4.6)	(1110.00)	〃	〃	
-18	E ₂ -524-25	2	〃	すり石	VI A 4	90.5×120.0×71.0	1070.00	〃	〃	
-19	E ₃ -528-21	70A	〃	砥石	VI B 1	(131.0)×(68.0)×(15.0)	(163.00)	〃	〃	
-20	F ₁ -530-18	8	〃	石 皿	VI B 1	296.2×322.2×132.4	18200.00	トロニエム岩	IV-104-1	
-21	E ₃ -528-1	22	〃	〃	VI B 2	264.2×345.9×128.8	18800.00	〃	〃-2	

表IV-26 平成9年度調査地区II-A層出土の掲載石器等一覧

挿図番号	発掘区	遺物番号	層位	器種名	分類番号	長さ(mm)×幅(mm)×厚さ(mm)	重量(g)	石材	図版番号	備考
IV-162-1	E ₄ -528-3	55	II-A	石 鎌	IA4a	19.2×14.0×2.5	0.49	黒曜石	IV-105-1	
-2	E ₃ -528-22	60C	〃	〃	IA4b	18.0×14.0×3.0	0.52	〃	〃	
-3	E ₄ -530-7	10	〃	〃	IA5a	39.2×19.6×4.8	2.07	〃	〃	
-4	E ₄ -528-9	43	〃	〃	〃	34.6×15.3×4.0	1.61	〃	〃	
-5	E ₂ -528-20	23	〃	〃	IA5c	29.4×13.5×4.0	1.07	〃	〃	花十勝
-6	E ₄ -530-12	30	〃	〃	IA6a	44.3×23.5×4.5	3.47	〃	〃	
-7	E ₄ -528-15	87	〃	〃	IA7b	26.3×14.2×3.9	1.06	〃	〃	
-8	E ₃ -530-7	4	〃	石 槍	IB1	48.0×27.0×8.5	6.59	〃	〃	
-9	F ₁ -530-1	14	〃	〃	〃	83.0×32.0×9.5	20.11	頁 岩	〃	
-10	E ₄ -530-1	27A	〃	〃	IB2	46.2×20.0×7.0	5.71	〃	〃	
-11	E ₃ -528-20	46	〃	〃	IB3	65.8×24.0×5.0	7.08	〃	〃	
-12	E ₄ -530-17	78	〃	石 錐	IIA3	58.0×24.1×9.2	9.10	〃	〃	
-13	E ₄ -528-2	60A	〃	つまみ付ナイフ	III A1	43.0×18.0×7.0	4.01	〃	〃	
-14	E ₄ -528-8	34	〃	〃	〃	66.0×16.2×7.0	8.06	〃	〃	
-15	E ₄ -528-9	55	〃	〃	〃	89.0×3.5×10.8	24.23	〃	〃	
-16	E ₄ -528-20	26	〃	ナイフ類	III B1	52.6×26.0×15.5	15.23	黒曜石	〃	
-17	E ₄ -530-16	46	〃	スクレイパー	III C2	39.4×33.0×11.0	15.10	〃	〃	
-18	E ₃ -528-25	25	〃	〃	III C7	43.0×45.5×7.9	14.87	〃	〃	
-19	E ₃ -528-8	30	〃	〃	III C4	57.8×23.0×7.0	8.38	〃	〃	
-20	E ₃ -530-13	22A	〃	〃	III C5	58.5×39.5×12.2	19.43	〃	〃	
-21	E ₄ -528-4	10	〃	スクレイパー	III C4	77.0×23.5×12.5	20.32	〃	〃	
-22	E ₃ -532-6	26	〃	〃	III C6	56.0×27.0×7.0	9.71	〃	〃	
-23	E ₃ -526-25	103	〃	石 斧	IVA2	108.5×42.9×14.0	101.94	片 岩	〃	
-24	E ₄ -528-8	36	〃	〃	IVA1	97.0×37.0×11.0	65.71	〃	〃	
-25	E ₄ -532-12	9	〃	〃	IVA2	95.0×32.5×15.0	66.03	緑色泥岩	〃	
IV-163-26	E ₄ -528-5	45	〃	石 製品		181.0×(76.0)×21.0	52.83	スコリア	IV-105-2	オロシガネ状
	〃	47	〃	〃			119.65	〃	〃	接 合
	〃	14B	〃	〃			86.39	〃	〃	
-27	E ₄ -528-8	37	〃	すり石	VI A1	91.0×190.0×59.0	1422.00	砂 岩	〃	接 合
	E ₄ -530-16	38	〃	〃	〃			〃	〃	
-28	E ₃ -530-6	13	〃	〃	IVA4	82.0×164.2×(63.0)	(1199.0)	〃	〃	
-29	E ₄ -528-8	23	〃	たたき石	VA5	(86.8)×(55.2)×(24.0)	(176.0)	〃	〃	
-30	E ₃ -530-18	61	〃	〃	VA3	143.0×55.0×32.0	329.00	〃	〃	
-31	E ₃ -526-4	11	〃	砥 石	VII B3	(83.0)×(75.0)×53.0	(437.5)	〃	〃	
-32	E ₄ -532-16	31	〃	〃	VII B2	(132.5)×115.2×30.0	(564.0)	泥 岩	〃	
-33	F ₂ -530-3	1	〃	台 石	VB1	353.0×225.9×103.2	11400.00	トロニエム岩		図版未掲載
-34	E ₃ -528-12	36	〃	〃	〃	290.0×253.2×110.0	12200.00	〃	IV-106-1	

表IV-27 平成9年度調査地区II-1層出土の掲載石器等一覧

挿図番号	発掘区	遺物番号	層位	器種名	分類番号	長さ(mm)×幅(mm)×厚さ(mm)	重量(g)	石材	図版番号	備考
IV-164-1	E ₃ -532-15	4	II-1	石 鎌	IA4a	33.0×16.8×4.0	1.63	黒曜石	IV-107-1	
-2	E ₄ -532-2	25	〃	〃	〃	42.0×18.5×4.0	2.65	〃	〃	
-3	E ₃ -530-3	11A	〃	〃	IA4b	23.0×17.5×4.0	1.43	〃	〃	
-4	E ₃ -532-16	14A	〃	〃	〃	36.0×18.1×5.0	2.38	〃	〃	
-5	E ₃ -532-8	6	〃	〃	〃	41.0×18.1×3.6	1.58	〃	〃	
-6	E ₃ -534-24	34	〃	〃	IA5a	20.5×16.2×3.0	0.59	〃	〃	
-7	E ₃ -534-10	23A	〃	〃	〃	25.0×13.0×4.9	0.74	〃	〃	
-8	E ₃ -536-8	39A	〃	〃	〃	28.5×2.0×3.5	1.08	〃	〃	
-9	E ₂ -532-24	11A	〃	〃	IA5c	21.2×1.0×3.1	0.49	〃	〃	
-10	E ₃ -536-11	34A	〃	〃	〃	25.1×12.0×3.5	0.69	〃	〃	
-11	E ₃ -536-8	44	〃	〃	IA6a	30.1×14.9×4.2	1.23	〃	〃	
-12	E ₃ -534-25	36B	〃	〃	IA6b	20.9×14.5×2.6	0.54	〃	〃	
-13	E ₃ -530-25	10	〃	〃	IA7a	39.9×13.0×4.0	1.78	〃	〃	
-14	E ₃ -536-18	3	〃	石 槍 片	IB1	(60.0)×26.0×9.0	(11.98)	〃	〃	
-15	E ₃ -536-16	7A	〃	石 槍	IB1	52.5×17.2×8.2		〃	〃	水和層年代測定
-16	E ₃ -532-4	1	〃	〃	IB2	43.5×21.0×8.5	5.22	〃	〃	
-17	E ₃ -532-4	43	〃	〃	IB3	89.1×24.0×8.9	16.97	〃	〃	
-18	E ₄ -532-3	6B	〃	〃	IB	53.1×23.0×8.0	9.97	〃	〃	
-19	E ₃ -534-10	7	〃	石 錐	IIA2	34.1×25.2×7.5	3.34	頁 岩	〃	
-20	E ₃ -534-24	23A	〃	〃	〃	37.8×18.0×9.0	3.42	〃	〃	

4 包含層の遺物

挿図番号	発掘区	遺物番号	層位	器種名	分類番号	長さ(mm)×幅(mm)×厚さ(mm)	重量(g)	石 材	図版番号	備考
-21	E ₁ -530-20	13B	II-1	石 錘	II A 3	50.0 × 28.2 × 9.6	7.01	黒 曜 石	IV-107-1	
-22	E ₂ -528-19	5	〃	つまみ付ナイフ	III A 1	63.0 × 23.0 × 9.8	12.43	頁 岩	〃	
-23	E ₁ -532-22	23A	〃	〃	〃	61.1 × 19.0 × 7.8	6.82	黒 曜 石	〃	
-24	E ₁ -534-5	4 A	〃	〃	III A 3	36.5 × 30.9 × 8.1	7.34	〃	〃	
-25	E ₁ -530-20	4	〃	ナイフ類	III B 1	81.5 × 33.5 × 8.0	19.57	〃	〃	
-26	E ₁ -532-7	19	〃	〃	〃	80.0 × 28.0 × 6.5	15.78	〃	〃	
-27	E ₃ -536-17	2	〃	〃	III B 2	50.5 × 19.0 × 5.7	4.82	〃	〃	
-28	E ₃ -532-23	47A	〃	スクレイパー	III C 2	52.0 × 38.5 × 18.0	35.32	〃	〃	
-29	E ₁ -532-7	7 A	〃	〃	〃	52.5 × 49.0 × 13.0	25.74	〃	〃	
-30	E ₃ -534-2	10A	〃	〃	III C 3	51.0 × 36.6 × 12.5	25.80	〃	〃	
-31	E ₃ -536-8	14A	〃	〃	III C 4	55.0 × 34.5 × 9.0	14.09	〃	〃	
IV-165-32	E ₃ -534-15	18A	〃	〃	〃	118.0 × 31.2 × 10.8	30.47	〃	〃	
-33	E ₁ -530-18	28	〃	〃	III C 5	54.9 × 42.5 × 15.0	19.20	頁 岩	〃	
-34	E ₃ -536-16	32	〃	〃	III C 6	51.0 × 20.0 × 7.5	5.57	黒 曜 石	〃	
-35	E ₅ -532-10	26A	〃	〃	〃	51.0 × 20.9 × 8.0	8.43	〃	〃	
-36	E ₃ -536-11	31A	〃	〃	III C 7	47.2 × 42.0 × 8.2	11.36	〃	〃	
-37	E ₁ -532-7	30	〃	石 斧	IV A 2	112.0 × 43.5 × 22.0	135.00	緑 色 泥 岩	IV-108-1	
-38	E ₃ -534-10	22B	〃	〃	IV A 2	94.2 × 30.5 × 12.2	68.06	片 岩	〃	
-39	E ₁ -534-2	19	〃	〃	IV A 1	(65.0) × 58.0 × 14.5	(83.53)	緑 色 泥 岩	〃	
-40	E ₃ -532-6	16	〃	〃	IV A 3	(106.0) × 68.8 × 44.0	(525.00)	緑 色 泥 岩	〃	
IV-166-41	E ₃ -534-18	36	〃	た た き 石	VA 1	133.0 × 52.0 × 41.0	431.00	砂 岩	〃	
-42	E ₃ -534-24	19A	〃	〃	VA 5	99.5 × 40.8 × 23.0	168.00	片 岩	〃	
-43	E ₃ -532-10	25	〃	〃	VA 4	102.2 × 79.0 × 56.0	600.00	砂 岩	〃	
-44	E ₃ -534-24	81	〃	〃	VA 3	143.8 × 59.9 × 39.0	464.00	〃	〃	
-45	E ₅ -532-5	13	〃	〃	VA 5	208.9 × 62.0 × 35.0	670.00	〃	〃	
-46	E ₁ -528-2	33	〃	す り 石	VIA 2	116.5 × 164.1 × 49.0	1330.00	〃	〃	
-47	E ₁ -534-21	1	〃	砥 石	VII B 1	92.0 × 58.5 × 22.0	74.40	ス コ リ ア	〃	
-48	E ₃ -530-25	18B	〃	石 皿	VIB 1	235.2 × 319.0 × 157.0	17400.00	トロニエム岩	IV-109-1	
-49	E ₂ -534-4	3	〃	〃	VIB 2	261.0 × 415.0 × 134.8	19600.00	トロニエム岩	〃 - 2	
IV-167-1	E ₂ -532-18	27A	〃	石 斧	IV A 1	80.8 × 49.0 × 13.1	89.10	片 岩	IV-34-1	石斧類 採中
-2	E ₂ -532-18	27B	〃	〃	〃	123.5 × 67.8 × 20.6	220.00	泥 岩	〃	〃
-3	E ₂ -532-18	27C	〃	〃	IV A 2	13.5 × 45.9 × 15.0	132.00	片 岩	〃	〃
-4	E ₂ -532-18	27D	〃	石斧未製品	IV C 2	122.0 × 46.5 × 11.2	141.00	泥 岩	〃	〃
-5	E ₂ -532-18	27F	〃	〃	〃	147.2 × 43.5 × 21.0	214.00	片 岩	〃	〃
IV-168-6	E ₂ -532-18	27E	〃	〃	〃	112.5 × 53.5 × 14.5	144.00	〃	〃	〃
-7	E ₂ -532-18	27G	〃	〃	〃	118.0 × 53.5 × 13.5	132.00	〃	〃	〃
-8	E ₂ -532-18	27H	〃	〃	〃	112.9 × 48.0 × 9.2	79.80	〃	〃	〃
-9	E ₂ -532-18	27I	〃	〃	〃	110.0 × 51.0 × 16.0	150.00	〃	〃	〃
-10	E ₂ -532-18	27J	〃	〃	〃	112.0 × 46.0 × 15.5	122.00	〃	〃	〃
-11	E ₂ -532-18	27L	〃	〃	〃	105.0 × 47.0 × 8.2	76.40	泥 岩	〃	〃
-12	E ₂ -532-18	27K	〃	〃	〃	99.0 × 43.2 × 11.1	85.46	片 岩	〃	〃

たき さと
滝里遺跡群Ⅷ

芦別市滝里安井遺跡・滝里4遺跡(3)

——石狩川水系滝里ダム建設事業用地内埋蔵文化財発掘調査——

平成8・9年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

写 真 图 版



1. 遺跡遠景 (N—S)



2. 遺跡遠景 (W—E)

図版Ⅳ－2 完掘状況



1. 平成8年度調査区 (N-S)



2. 平成9年度調査区 (NE-SW)



1. 南北セクション (S-N)



2. 東西セクション (SW-NE)

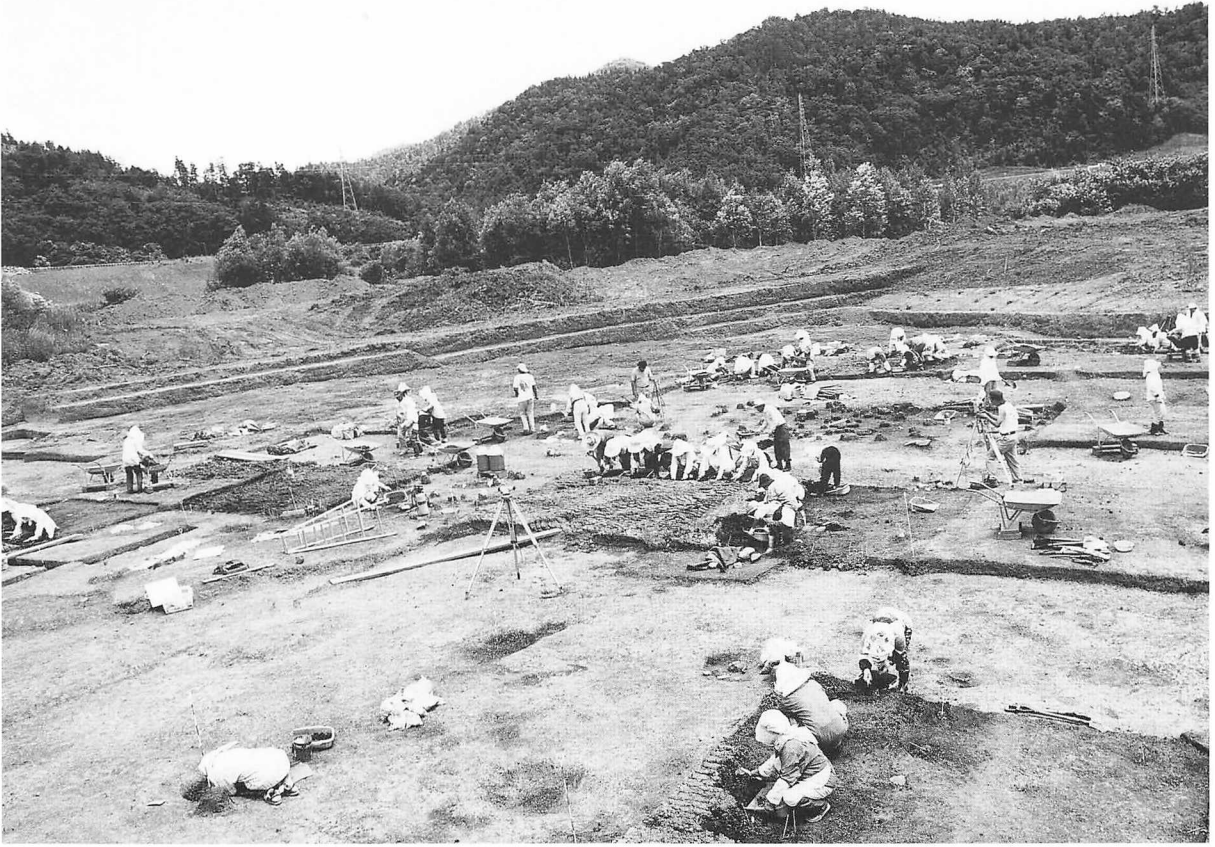
図版Ⅳ－4 東地区調査状況



1. 完掘状況 (N-S)



2. 基本土層 (SE-NW)



1. 調査風景 (SW—NE)

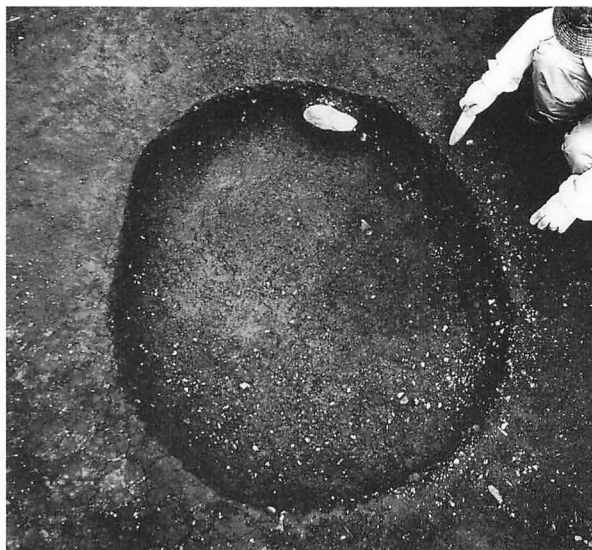


2. 調査風景 (NW—SE)

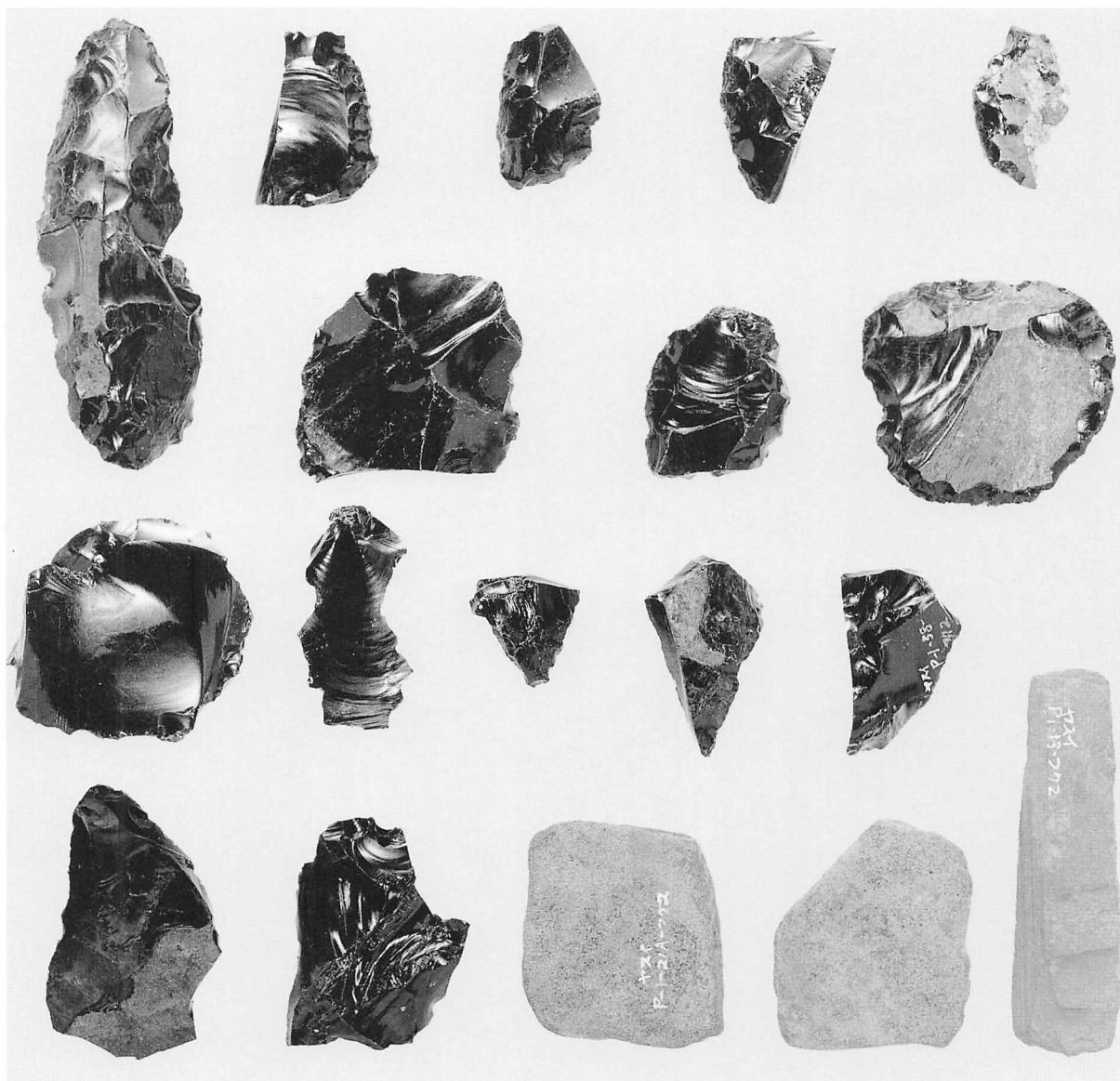
図版Ⅳ-6 P-1の調査



1. P-1の遺物出土状況 (S-N)



2. P-1の完掘 (S-N)



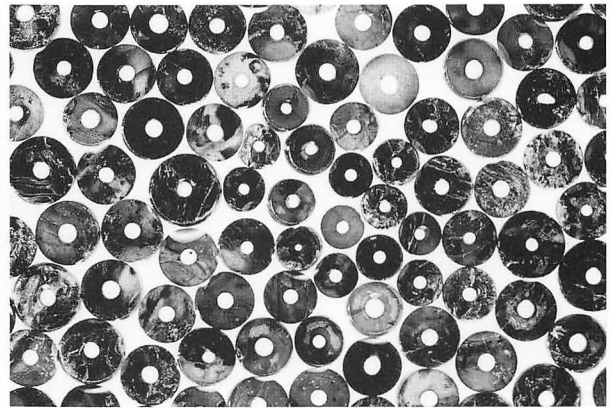
3. P-1の遺物



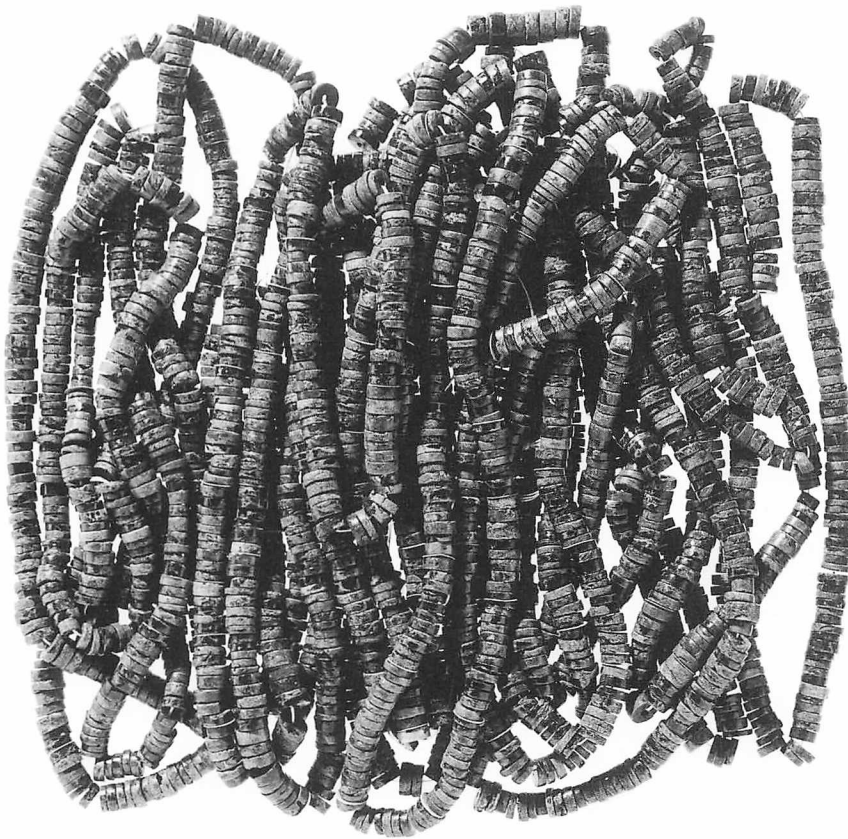
1. P-22の遺物出土状況 (E-W)



2. P-22の琥珀玉出土状況



3. P-22の琥珀製平玉



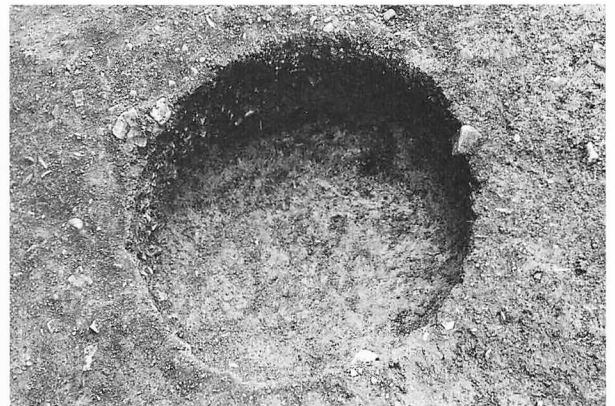
4. P-22の遺物



1. I 群土壇群 (E-W)



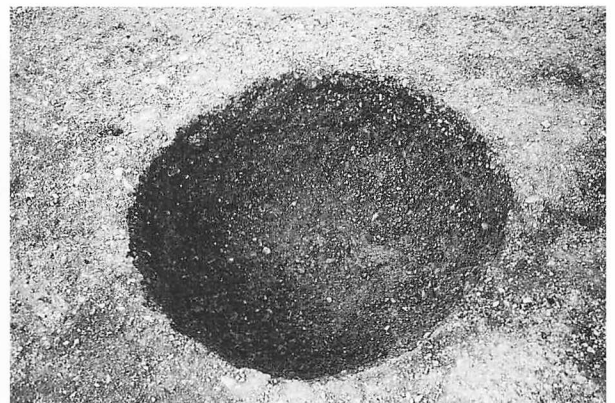
2. P-3の完掘 (S-N)



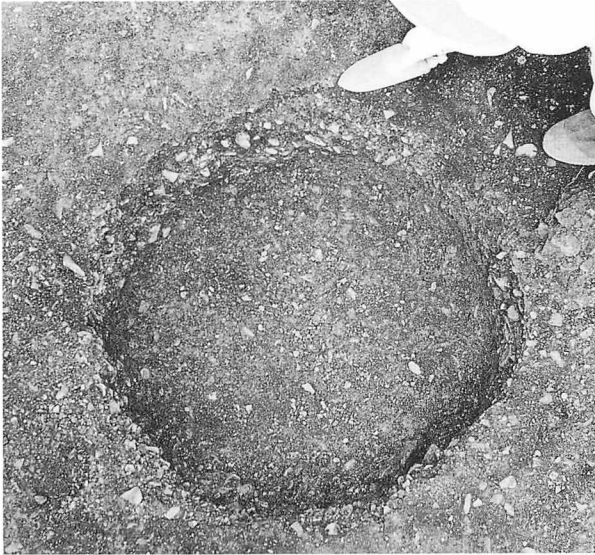
3. P-5の完掘 (W-E)



4. P-8の完掘 (S-N)



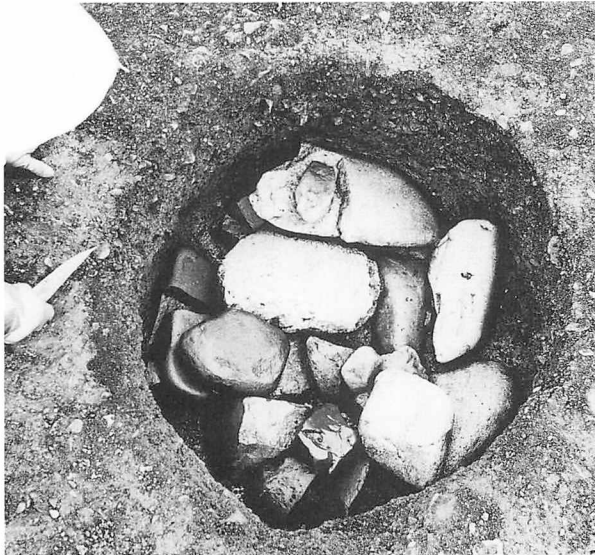
5. P-12の完掘 (S-N)



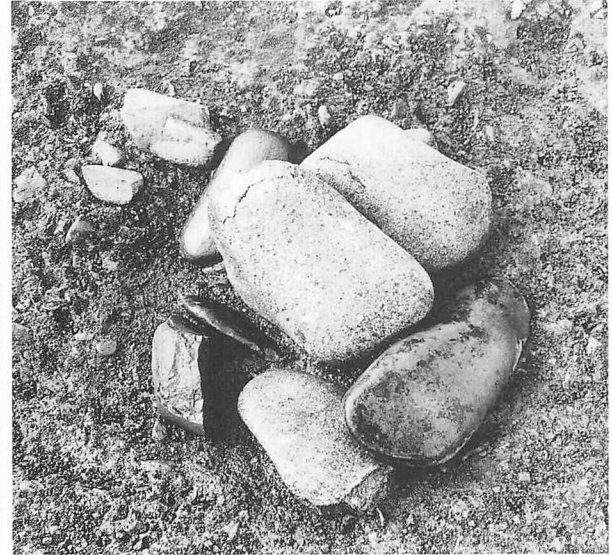
1. P-4の完掘(S-N)



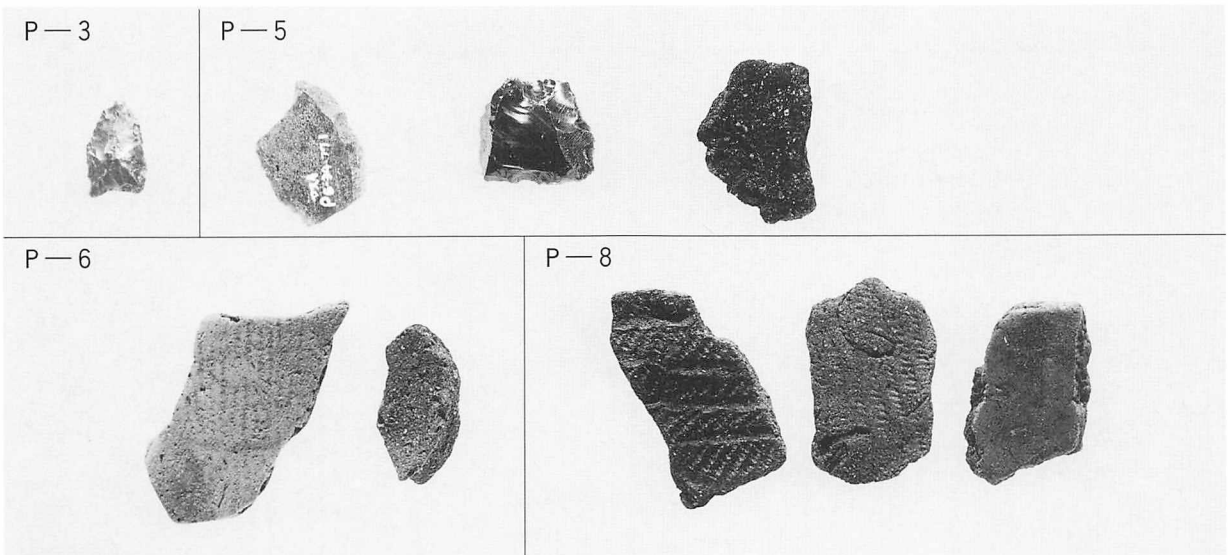
2. P-6の遺物出土状況(S-N)



3. P-7の遺物出土状況(E-W)



4. P-26の遺物出土状況(SE-NW)

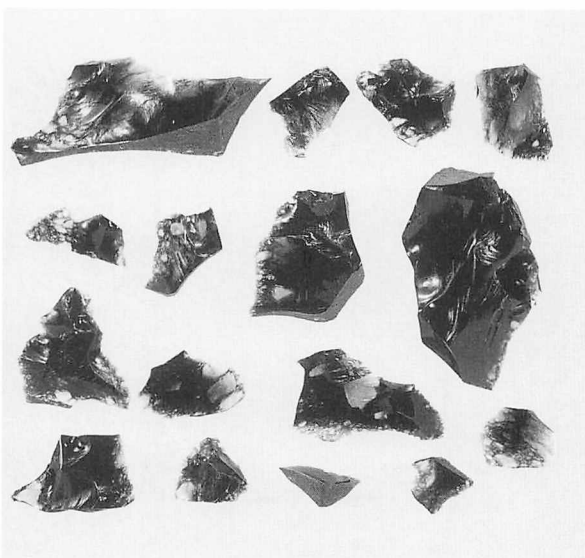


5. P-3・5・6・8の遺物

図版Ⅳ-10 II 群土坑群の調査(1)



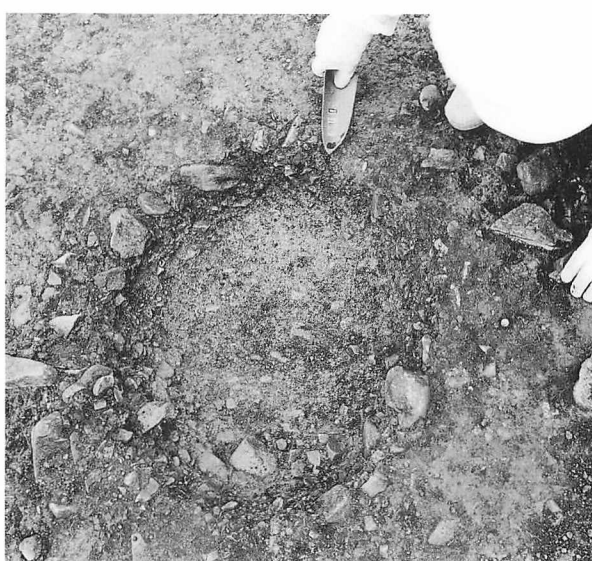
1. P-2の遺物出土状況 (S-N)



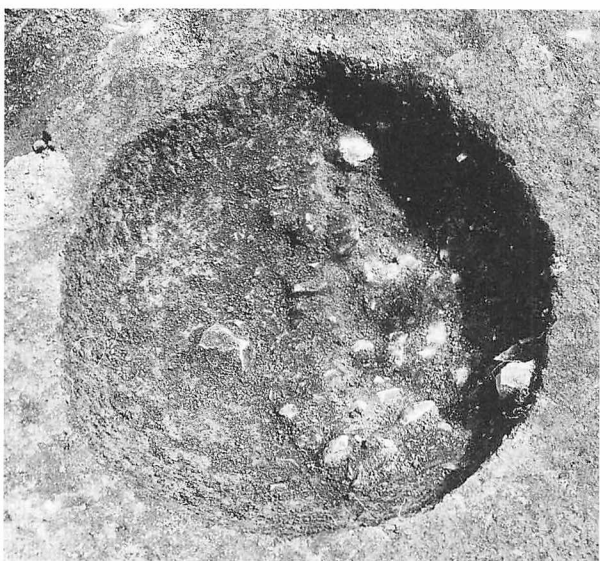
2. P-2の遺物



3. P-9の完掘 (N-S)



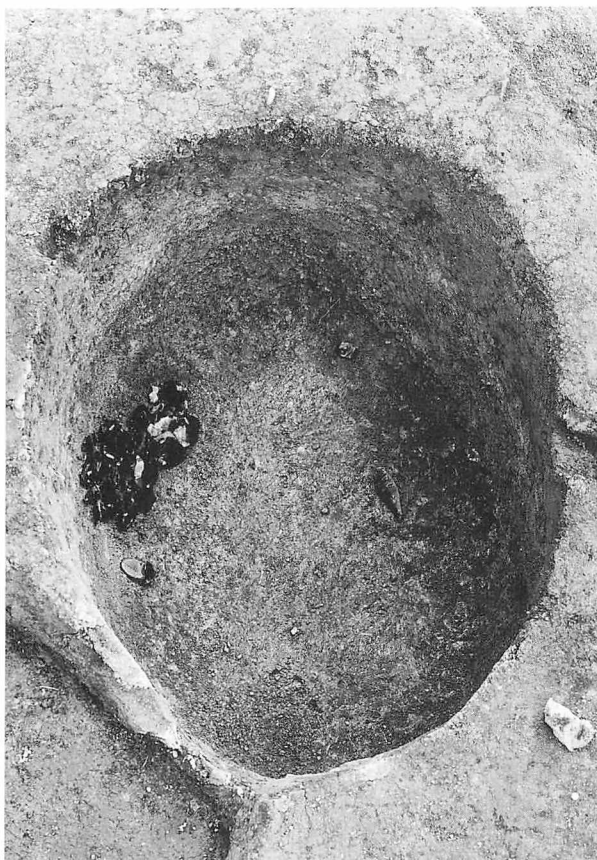
4. P-11の完掘 (E-W)



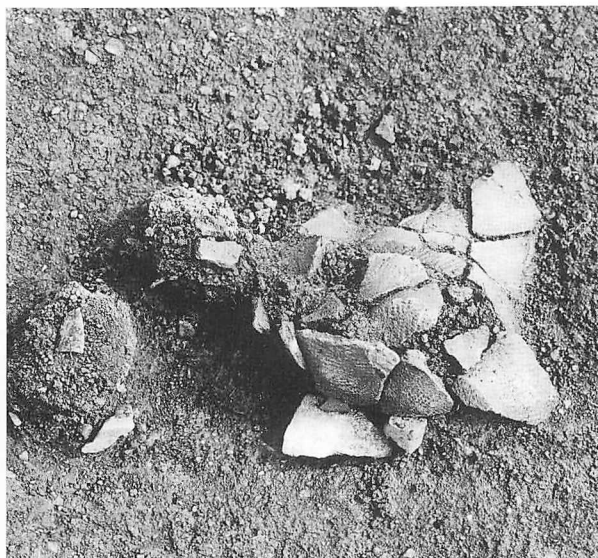
5. P-13の完掘 (W-E)



6. P-14の完掘 (S-N)



1. P-10の遺物出土状況 (NW-S E)



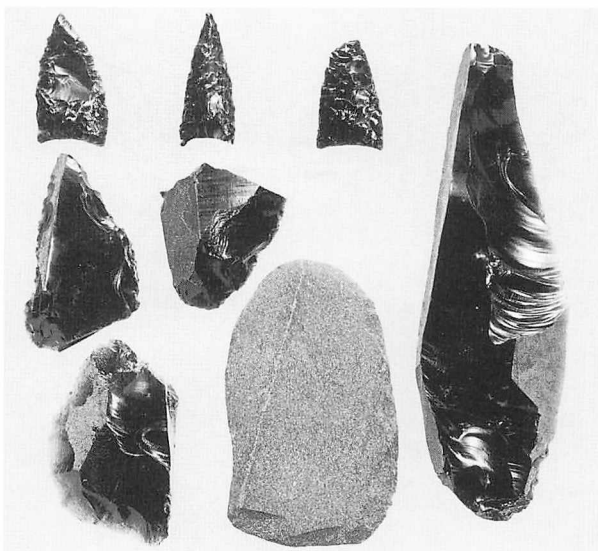
2. P-10の土器出土状況 (N-S)



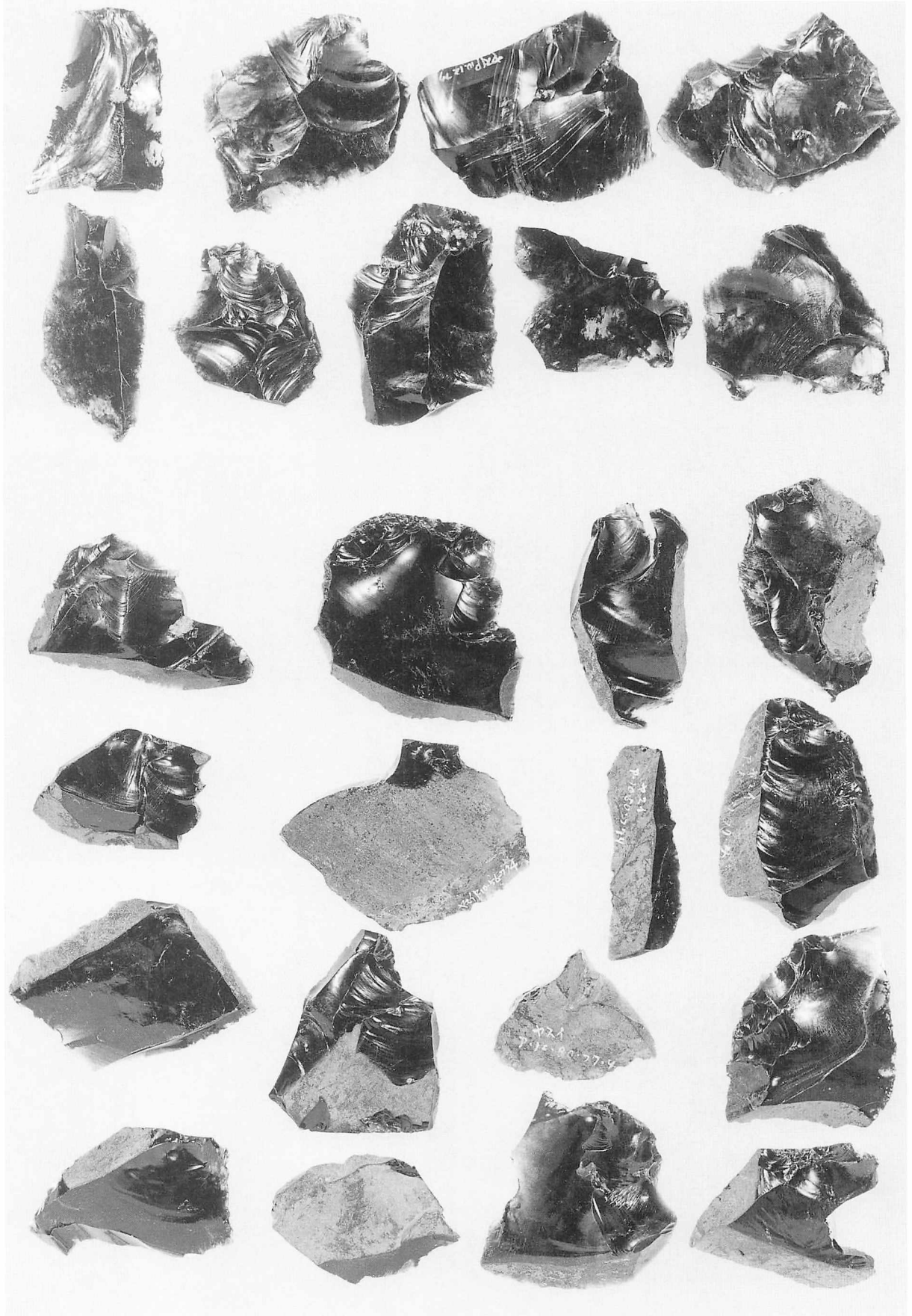
3. P-10の黒曜石フレイク集中出土状況 (W-E)



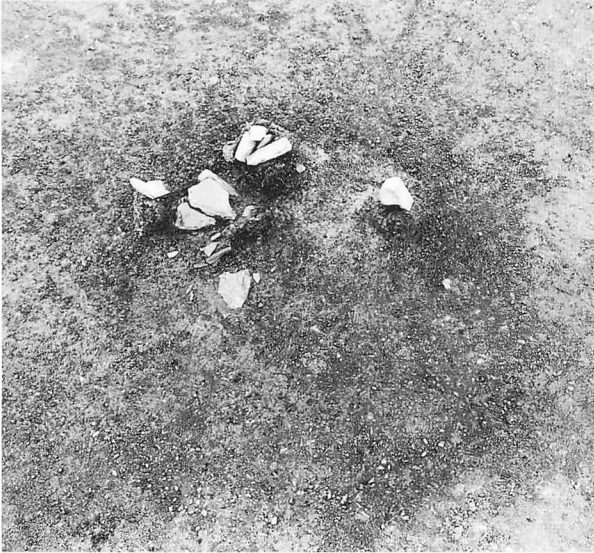
4. P-10の復元土器 (図Ⅳ-29-1)



5. P-10の石器



1. P-10の黒曜石フレイク



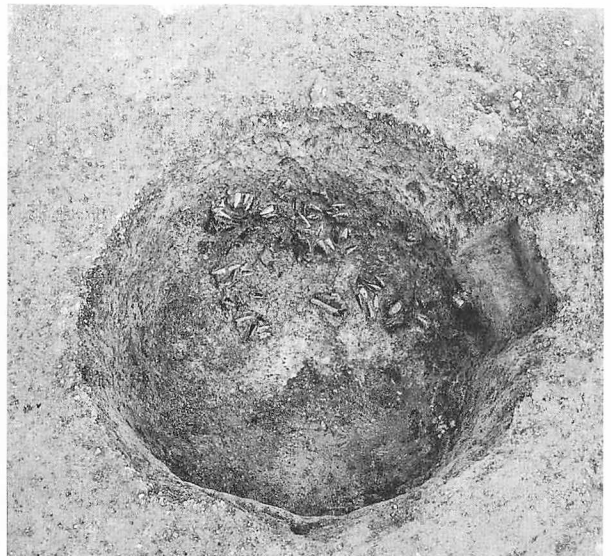
1. P-15の検出状況 (S-N)



2. P-15の検出面遺物出土状況 (S-N)



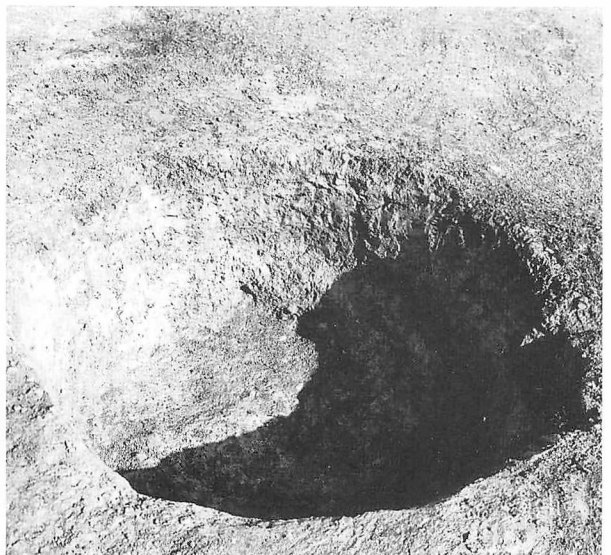
3. P-15のセクション (S-N)



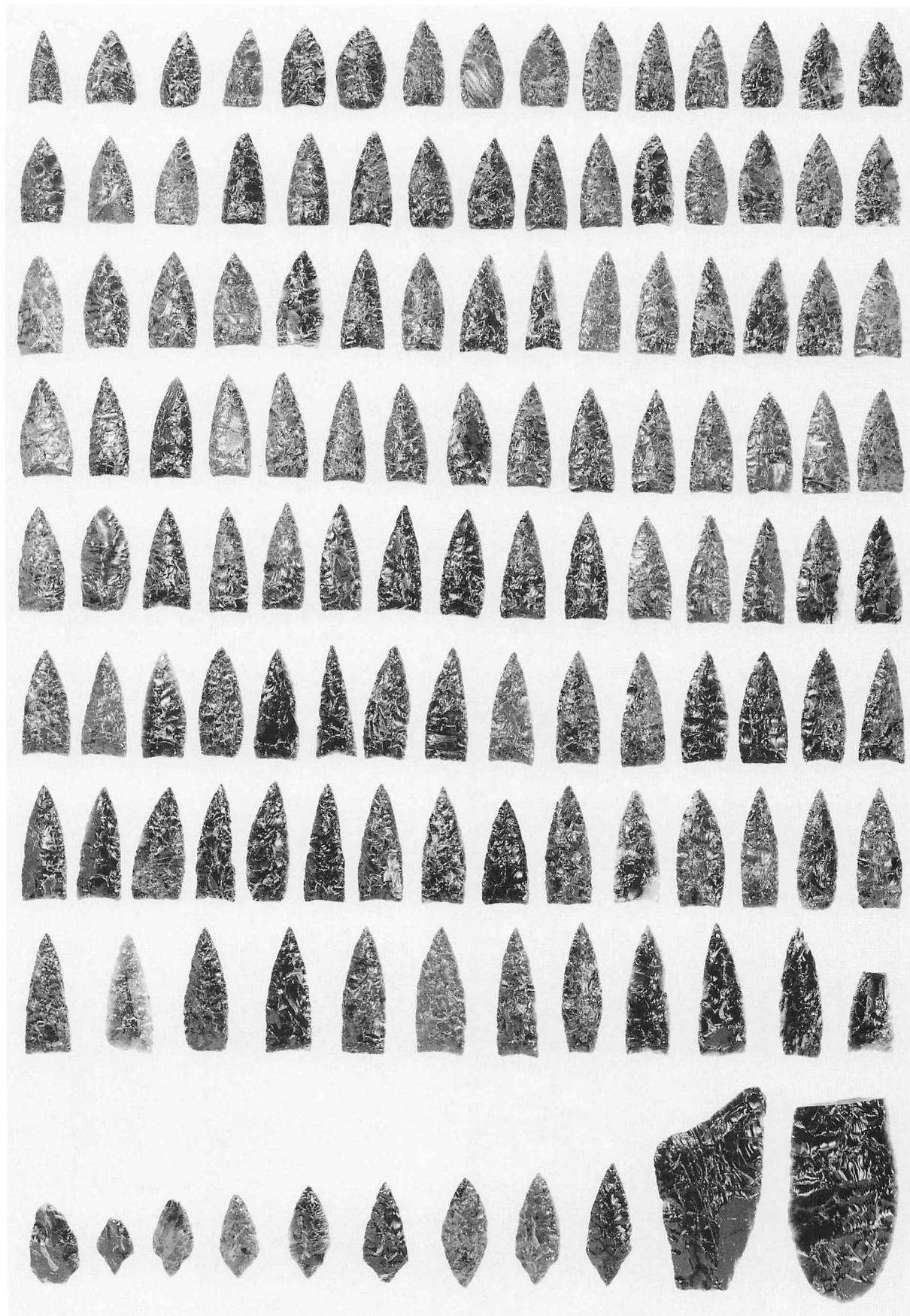
4. P-15の壁面遺物出土状況 (SE-NW)



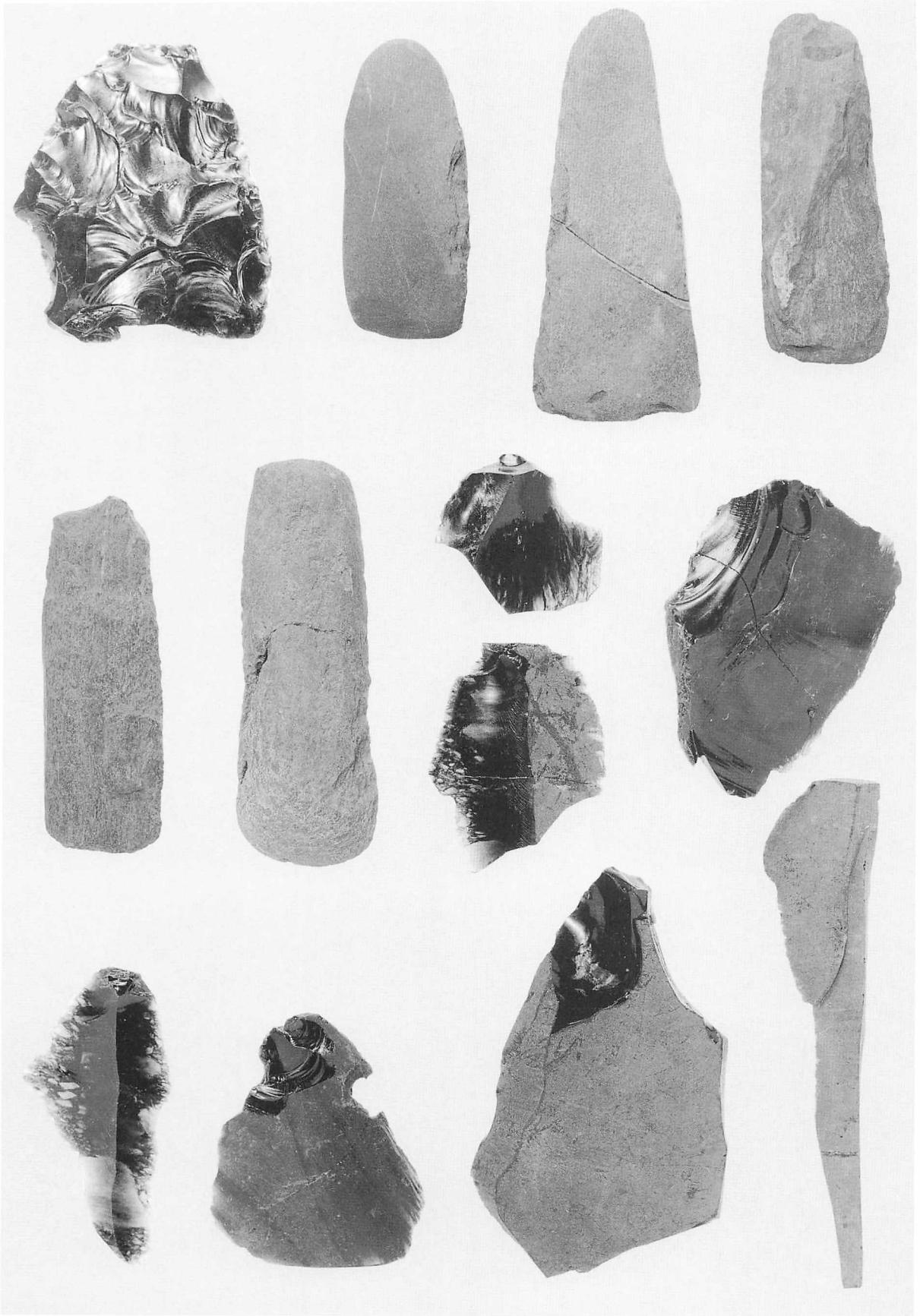
5. P-15の壁面遺物出土状況 (SE-NW)



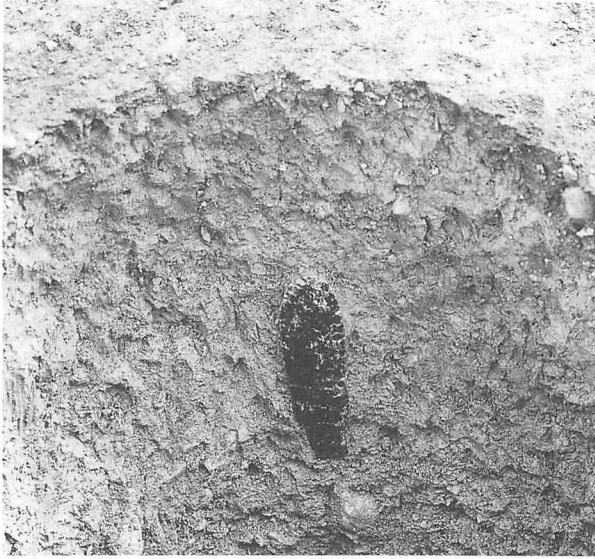
6. P-15の完掘 (S-N)



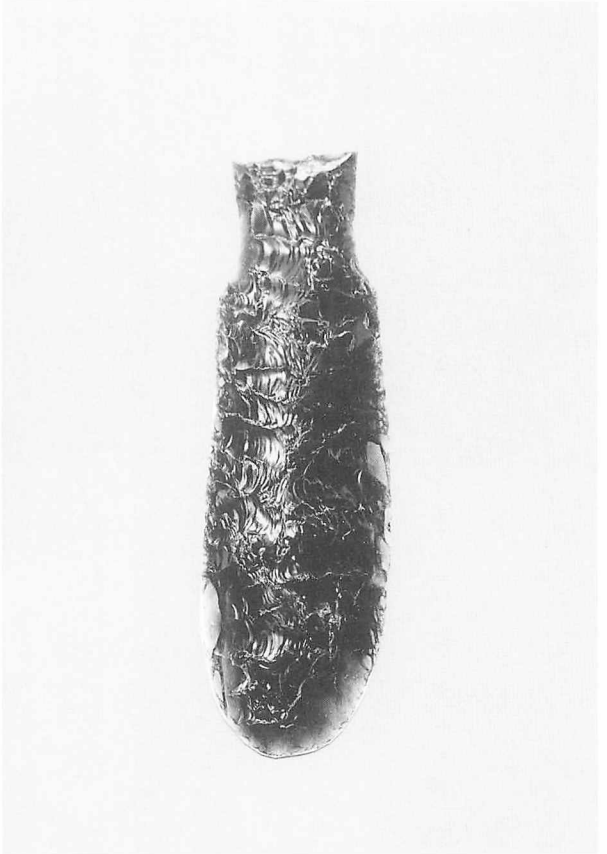
1. P-15の遺物(1)



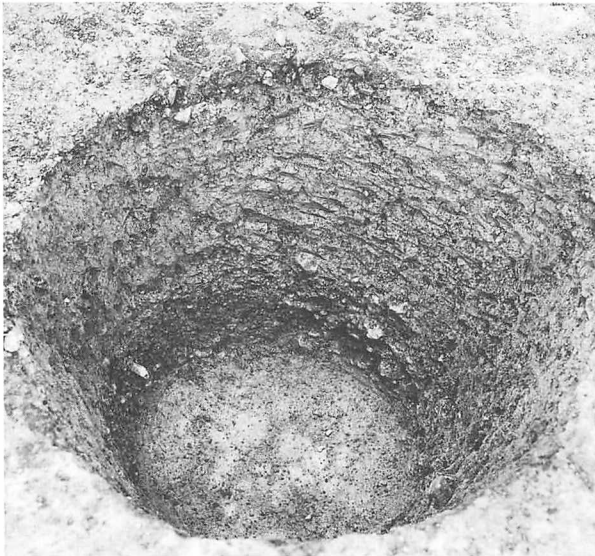
1. P-15の遺物(2)



1. P-17の遺物出土状況 (N-S)



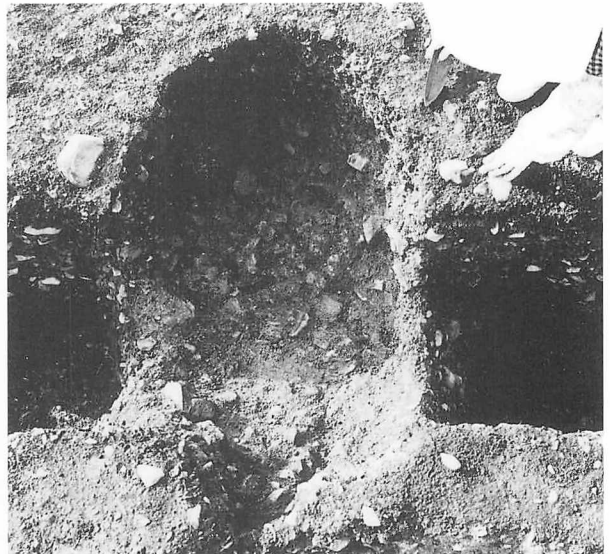
3. P-17の遺物



2. P-17の完掘 (S-N)



4. P-16の完掘 (S-N)



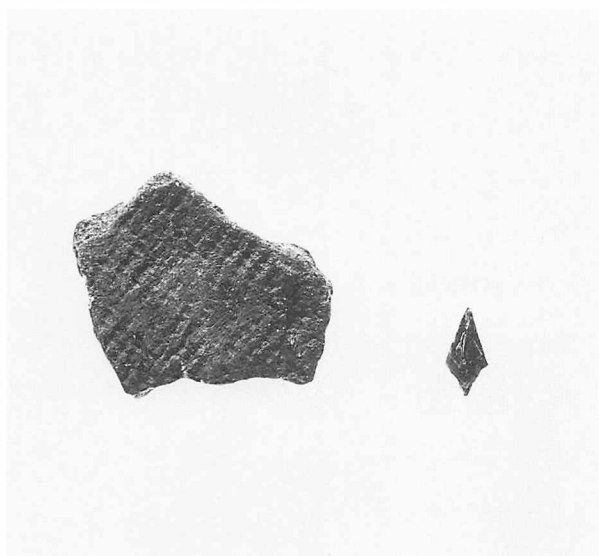
5. P-18の完掘 (S E-NW)



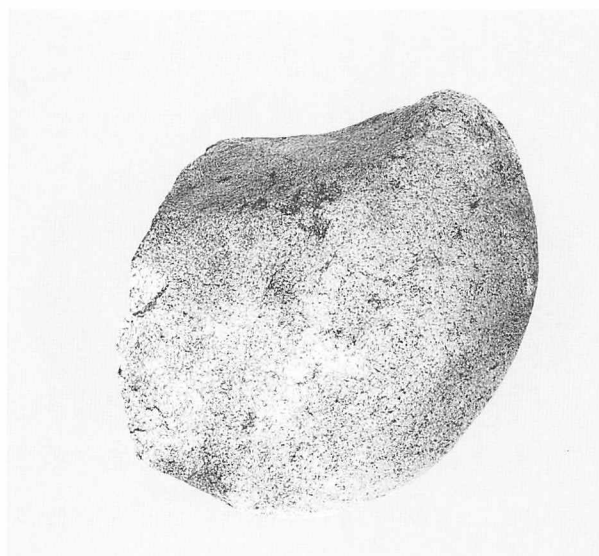
1. P-19の検出状況 (E-W)



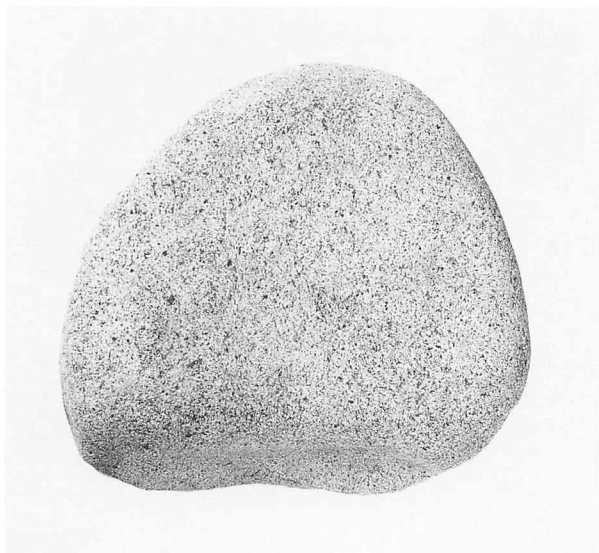
2. P-19の完掘 (W-E)



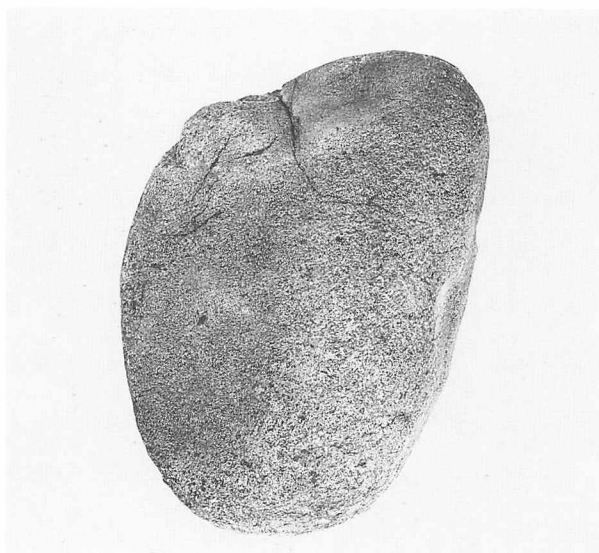
3. P-19の土器・石器 (石鏟)



4. P-19の石器 (台石)



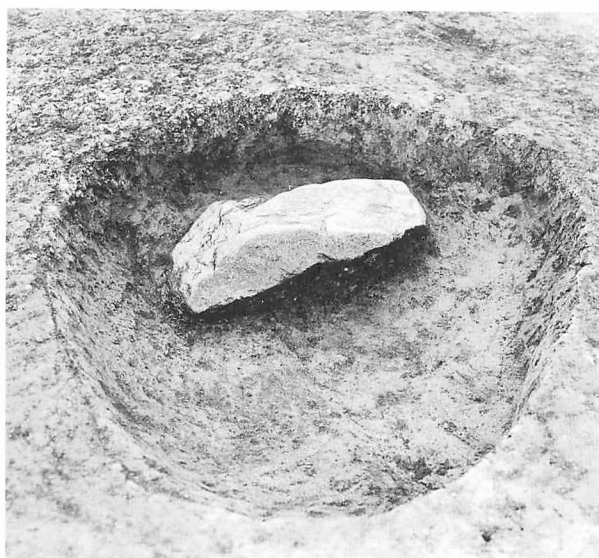
5. P-19の石器 (台石)



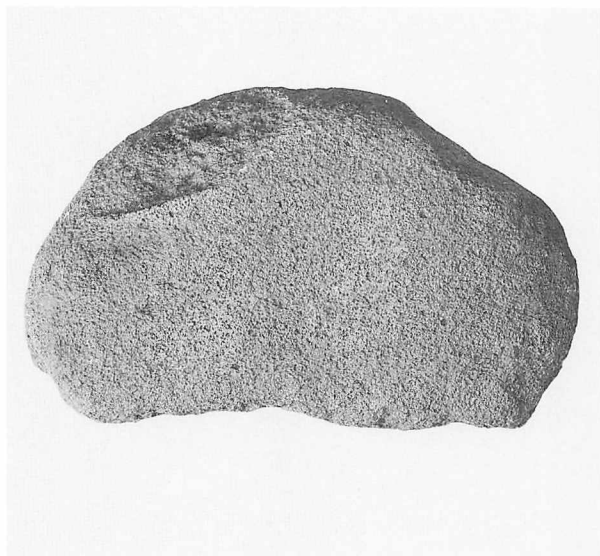
6. P-19の石器 (台石)



1. P-20の検出状況 (E-W)



2. P-20の完掘 (S-N)



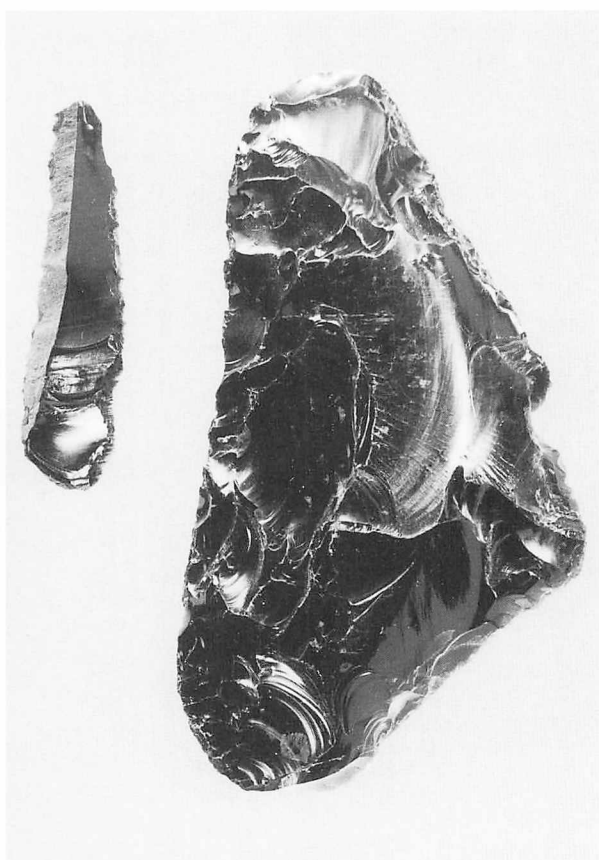
3. P-20の石器 (台石)



4. P-20の土器



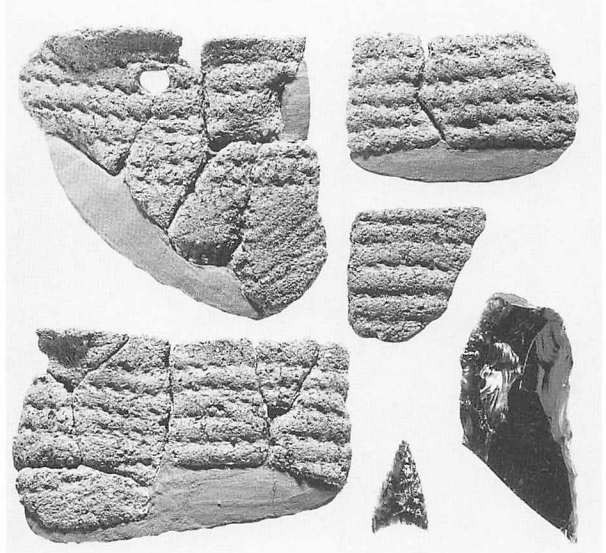
5. P-21の遺物出土状況 (E-W)



6. P-21の遺物



1. P-23の完掘 (S-N)



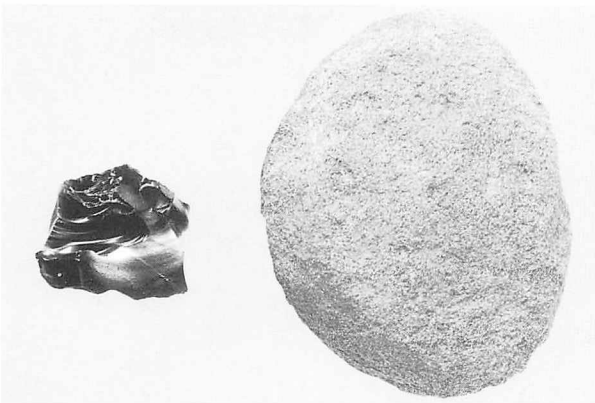
2. P-23の遺物



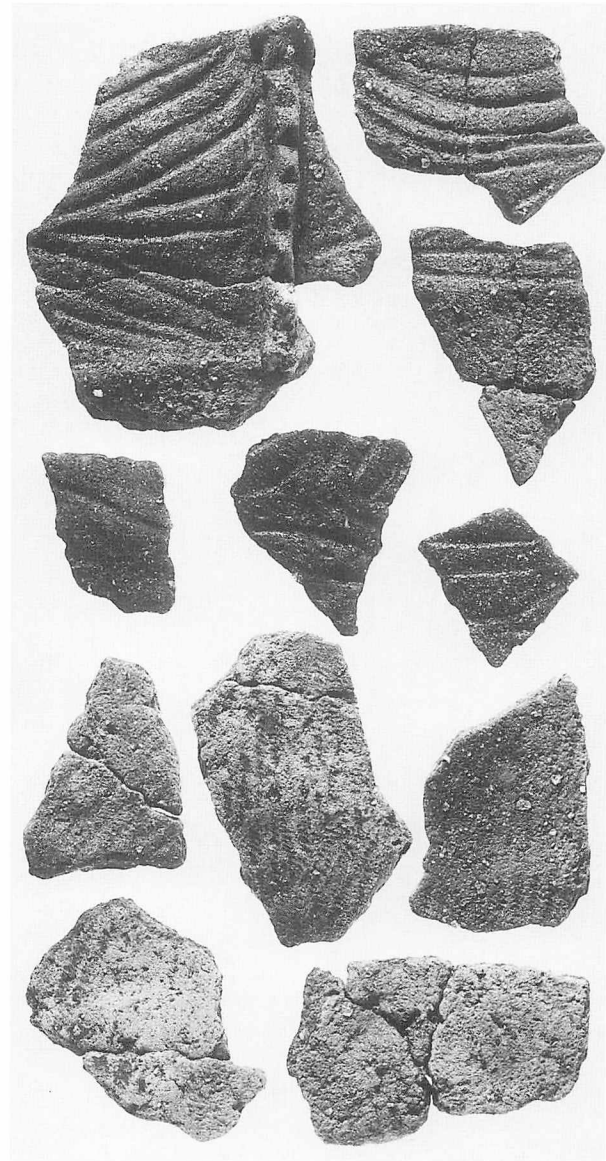
3. P-24の遺物出土状況 (SE-NW)



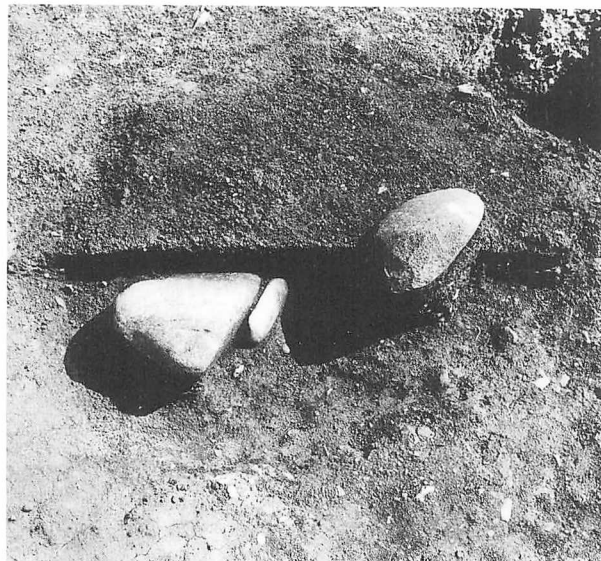
4. P-24の完掘 (SE-NW)



5. P-24の石器



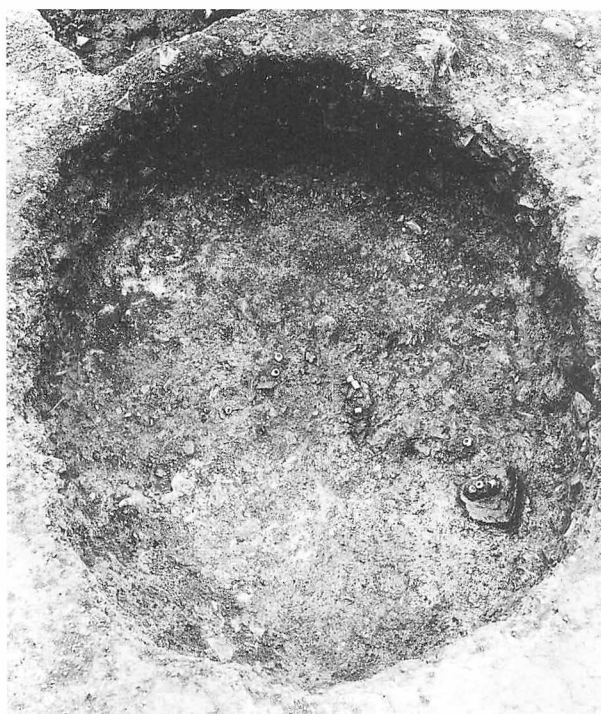
6. P-24の土器



1. P-25の検出状況 (NW-S E)



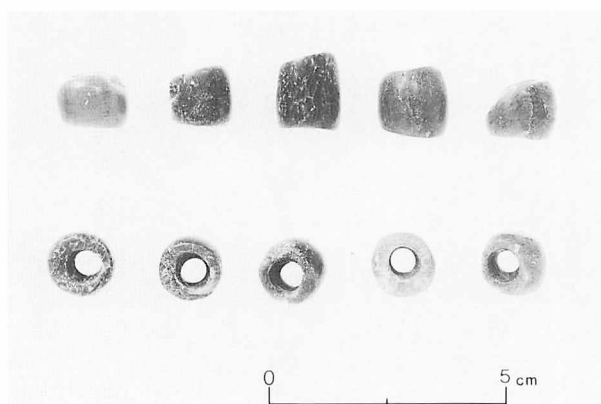
3. P-25の遺物出土状況 (S-N)



2. P-25の遺物出土状況 (NW-S E)



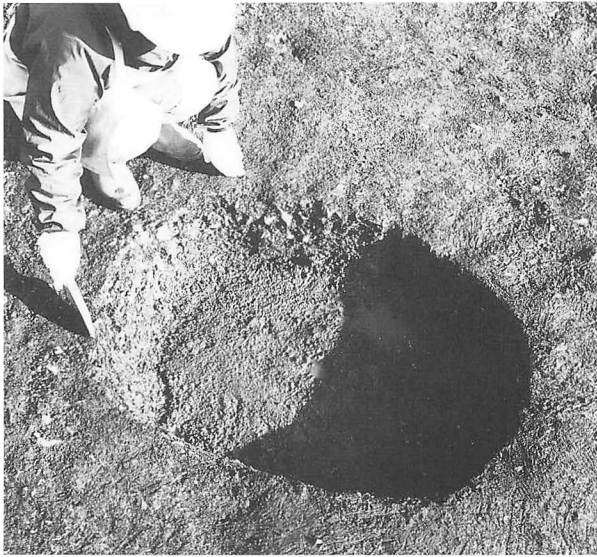
4. P-25の土器



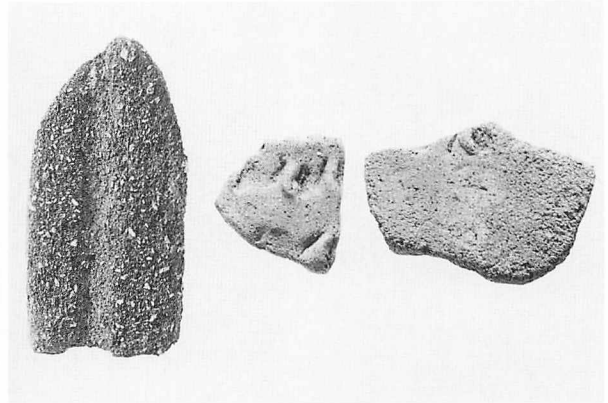
5. P-25のカンラン岩製玉



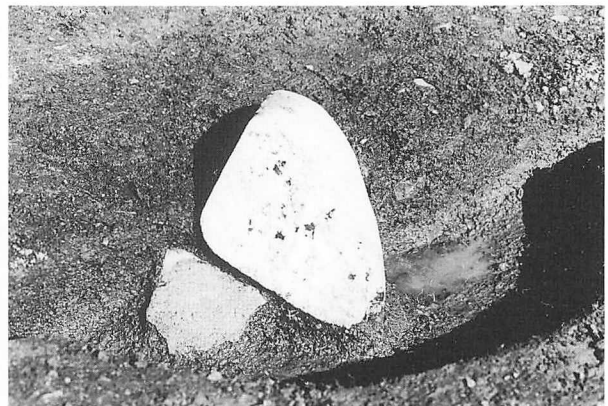
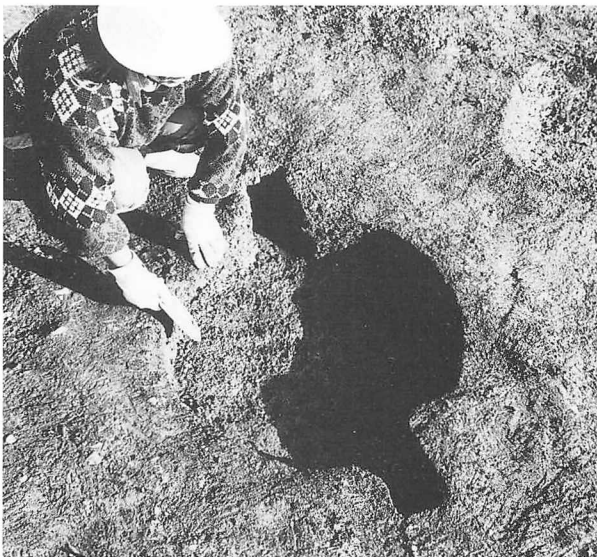
6. P-25の琥珀製玉



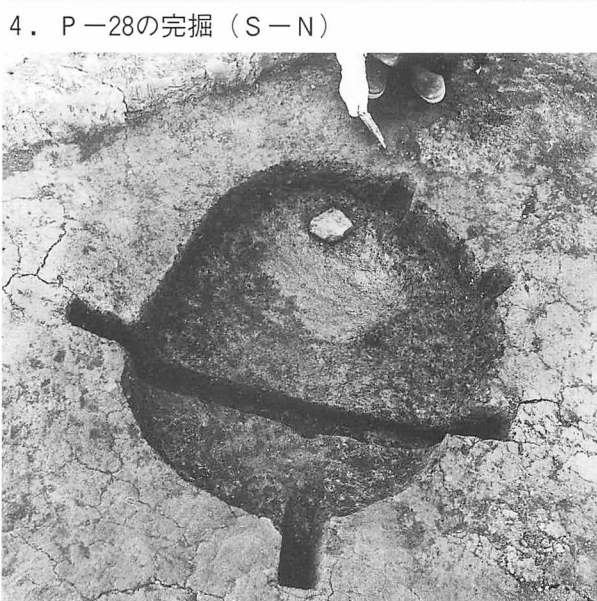
1. P-27の完掘 (S-N)



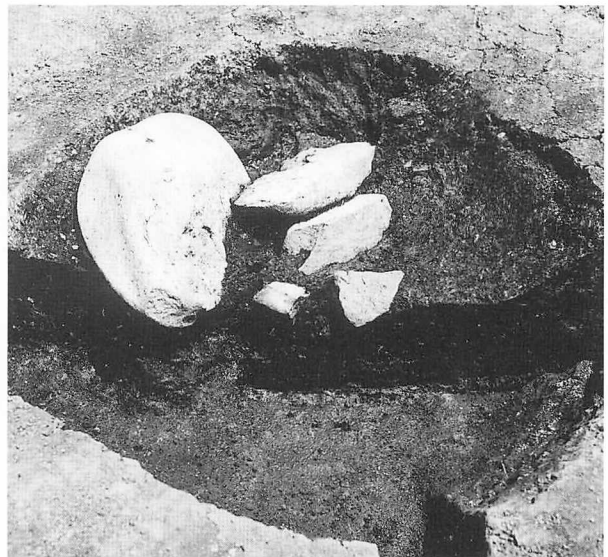
2. P-27の遺物



3. P-28の遺物出土状況 (S-N)



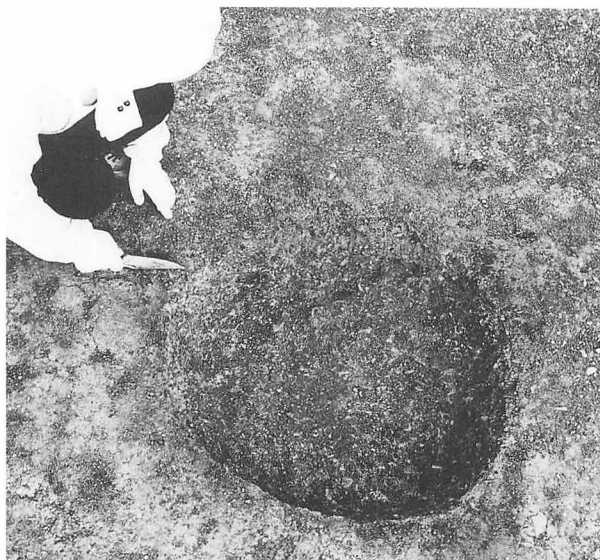
4. P-28の完掘 (S-N)



5. P-29の遺物出土状況 (S-N)

6. P-29の完掘 (S-N)

7. P-29の遺物



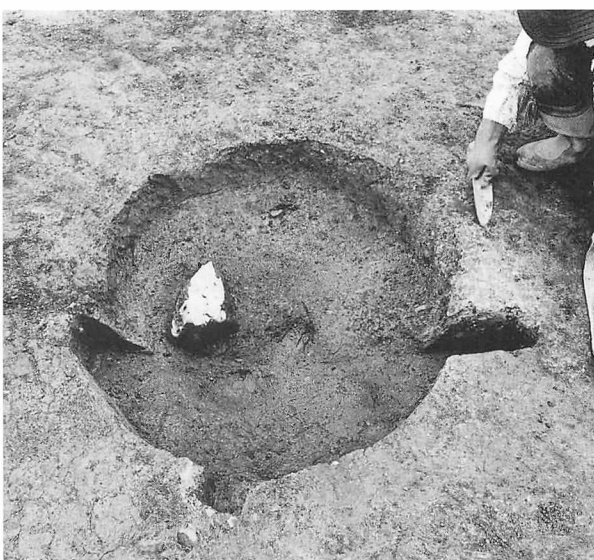
1. P-30の完掘 (W-E)



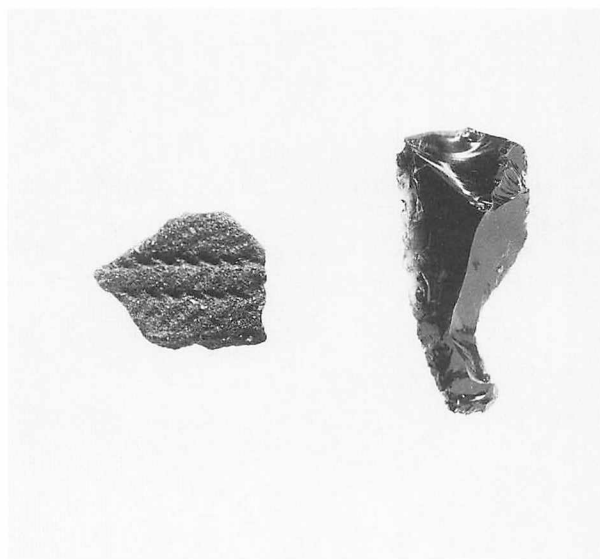
2. P-30の遺物



3. P-31の検出状況 (E-W)



4. P-31の完掘 (E-W)



5. P-31の遺物



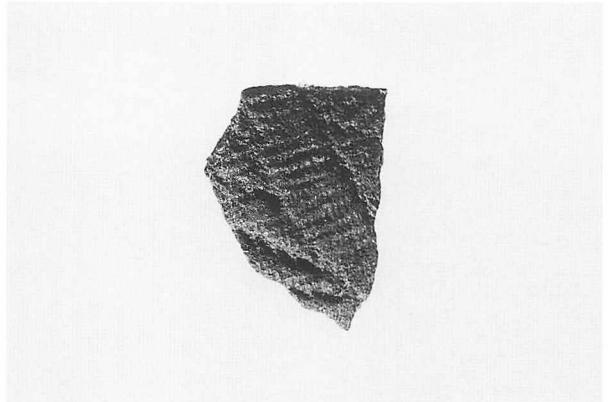
6. P-32の完掘 (S-N)



1. P-31~33の位置関係 (NE-SW)



2. P-33の完掘 (E-W)



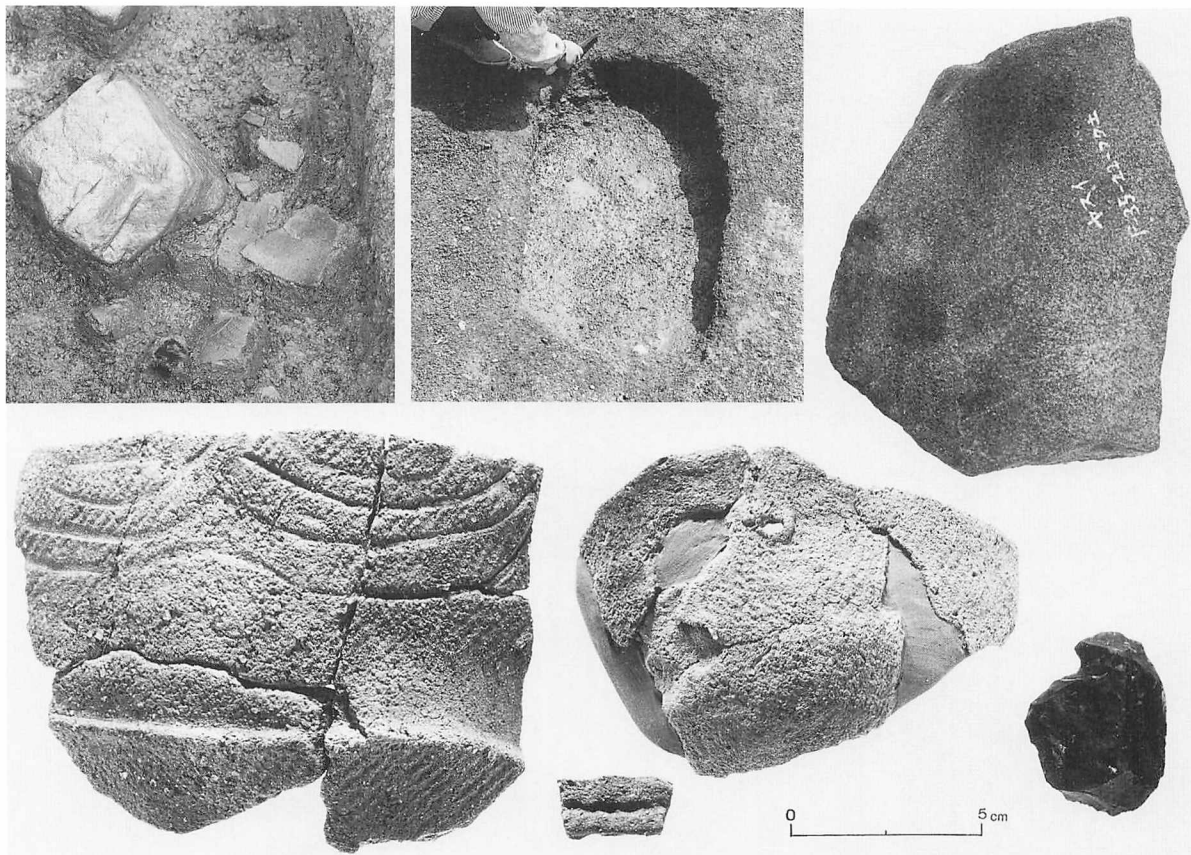
3. P-33の遺物



4. P-34の完掘 (S-N)



5. P-34の遺物



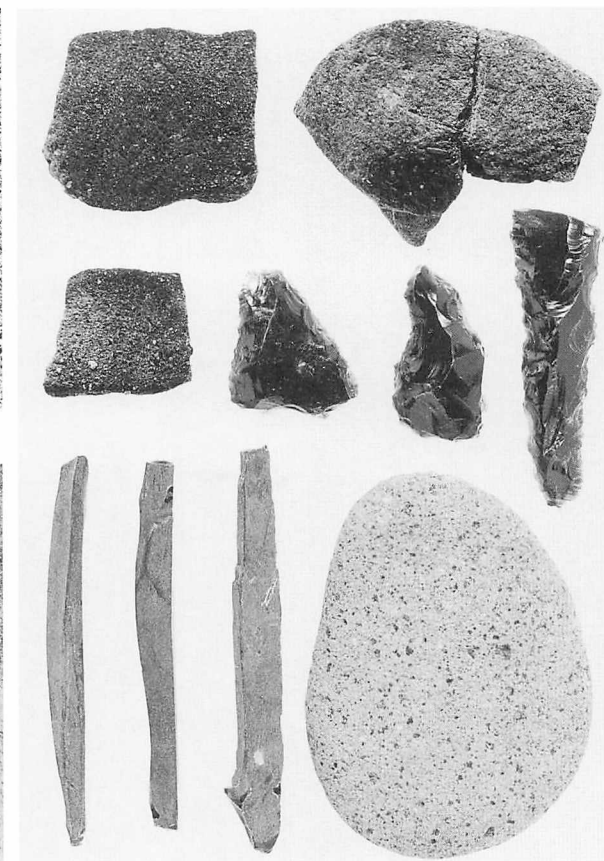
1. P-35と出土遺物 (W-E)



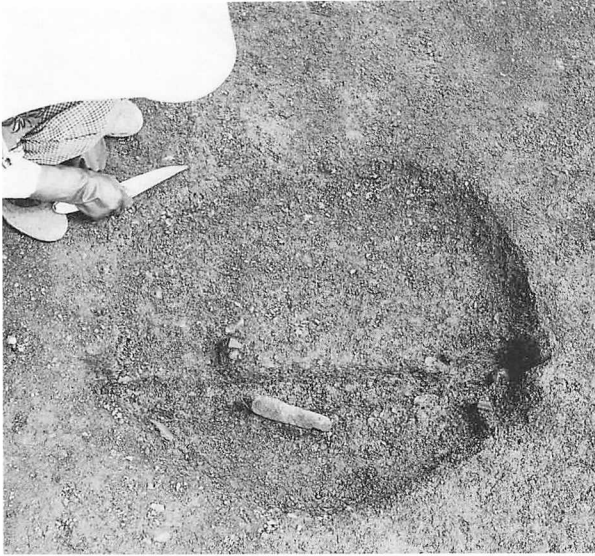
2. P-36の検出状況 (W-E)



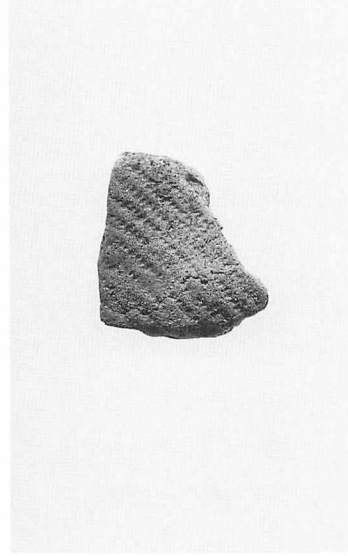
3. P-36の完掘 (W-E)



4. P-36の遺物



1. P-37の完掘 (S-N)



2. P-37の遺物



3. S-1の検出状況 (W-E)



4. S-1の検出状況 (W-E)



5. S-2の検出状況 (SW-NE)



6. S-4の検出状況 (S-N)



1. S-3の検出状況 (S-N)



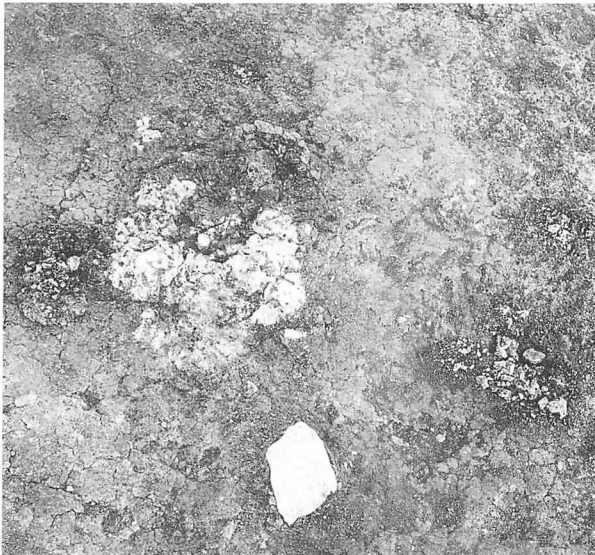
2. S-3の遺物



1. S-5の検出状況 (S-N)



2. S-6の検出状況 (W-E)



3. 灰集中の検出状況 (W-E)



4. 灰集中のセクション (W-E)



5. 炭化材の出土状況 (NE-SW)



6. F-15の遺物



1. 石囲い炉1・6・4の位置関係 (W-E)



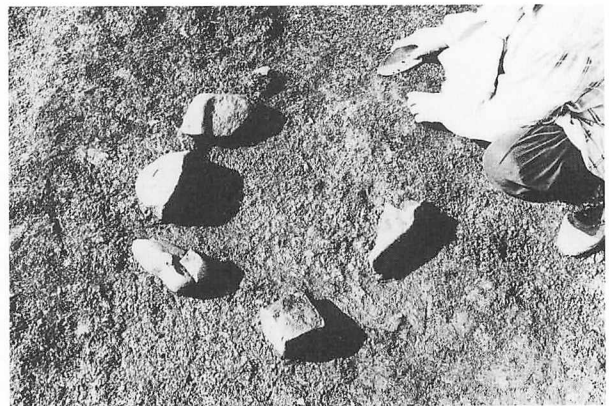
2. 石囲い炉1の検出状況 (E-W)



3. 石囲い炉1の遺物



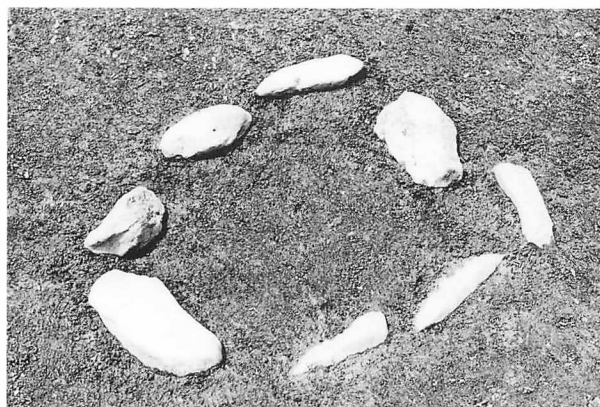
4. 石囲い炉4の検出状況 (SW-NE)



5. 石囲い炉6の検出状況 (S-N)



1. 石囲い炉3・2・5の位置関係(W-E)



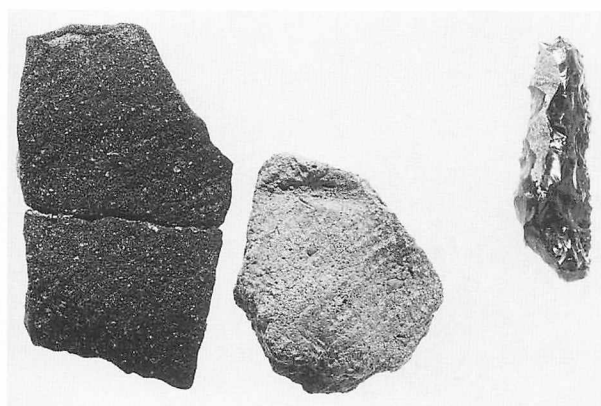
2. 石囲い炉2の検出状況(N-S)



3. 石囲い炉3の検出状況(S-N)



4. 石囲い炉5の検出状況(S-N)



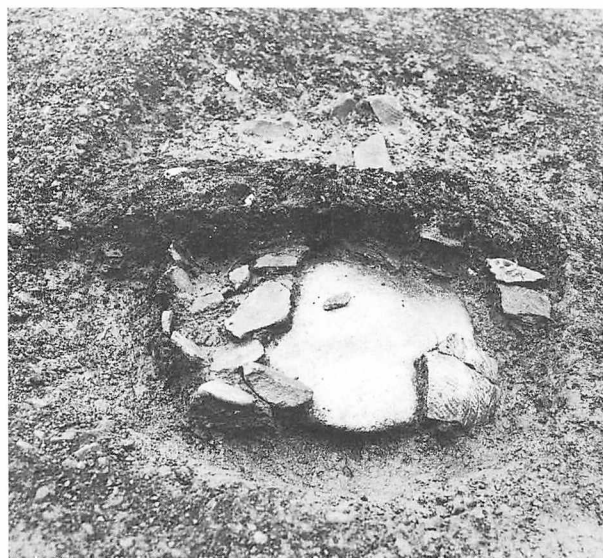
5. 石囲い炉3の遺物



1. 石囲い炉7の検出状況 (S-N)



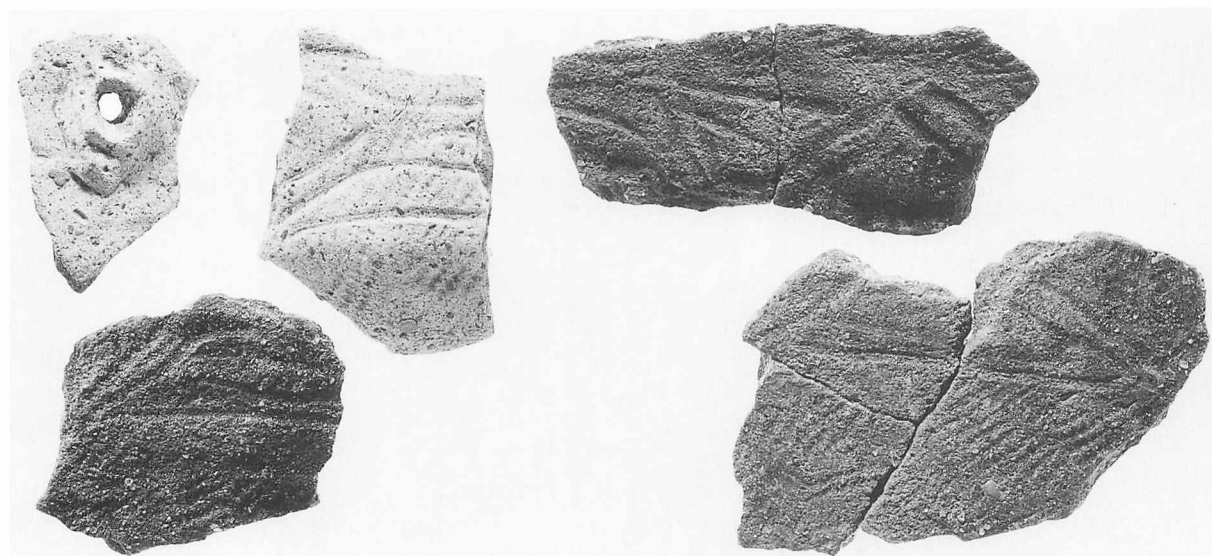
2. F-11の検出状況 (S-N)



3. F-18のセクション (S-N)



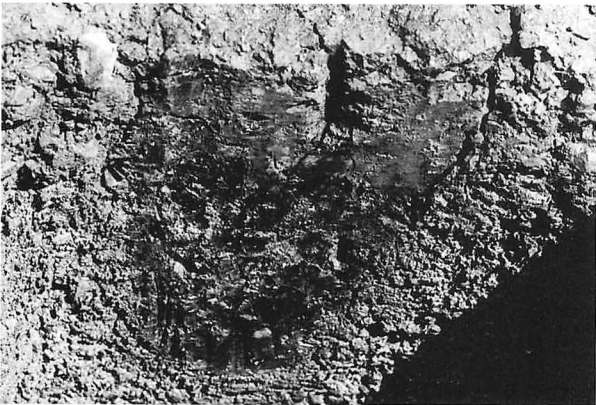
4. F-18の遺物出土状況 (S-N)



5. F-18の遺物



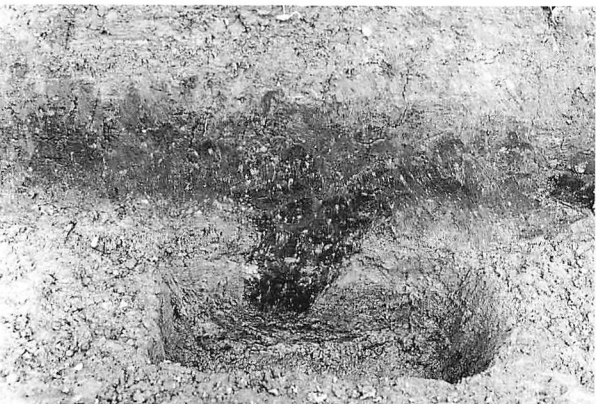
1. 小柱穴群 (NW-S E)



2. HP-32のセクション (S-N)



3. HP-34のセクション (S-N)



4. HP-62のセクション (S-N)



5. HP-79のセクション (S-N)

図版Ⅳ-32 遺物出土状況(1)



1. ナイフ類等集中の出土状況 (N-S)



2. ナイフ類等集中の遺物



1. 土器の出土状況 (S-N)



2. 石斧類集中の出土状況 (W-E)



1. 石斧類集中の遺物



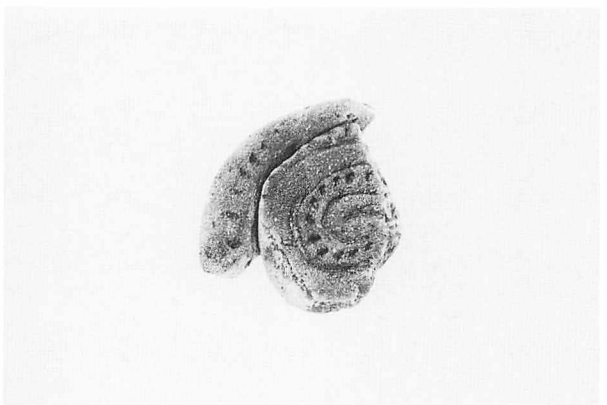
1. 舟形土器の出土状況 (SW-NE)



2. 舟形土器の復元 (図Ⅳ-80-1)



3. 耳栓出土状況 (SW-NE)



4. 耳栓 (図Ⅳ-108-138)



1. 木製品出土状況 (W-E)



2. 自然木(木根)の検出状況 (SW-NE)

報告書抄録

ふりがな	たきさといせきぐんⅧ あしべつし たきさとやすいいせき・たきさと4いせき(3)							
書名	滝里遺跡群Ⅷ 芦別市滝里安井遺跡・滝里4遺跡(3)							
副書名	石狩川水系滝里ダム建設事業用地内埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第123集							
編著者名	遠藤香澄・村田 大・愛場和人・影浦 覚・酒井秀治							
編集機関	(財)北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒064-0926 北海道札幌市中央区南26条西11丁目				TEL011-561-3131			
発行年月日	西暦1998年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たきさとやす い 滝里安井	ほっかいどうあしべつし 北海道芦別市 たきさとちよう 滝里町 277-8	01216	E-04-11	43度 26分 47秒	142度 18分 56秒	19960506 ~19961026 19970506 ~19971027	4,820㎡ 8,330㎡	ダム建設に伴 う事前調査
たきさと 滝里4	ほっかいどうあしべつし 北海道芦別市 たきさとちよう 滝里町 337-1	01216	E-04-06	43度 25分 36秒	142度 19分 19秒	19970506 ~19971027	6,768㎡	ダム建設に伴 う事前調査
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
滝里安井	墓 散布地	縄文時代 前期 中期 後期 晩期 統縄文	土壙 焼土 石囲い炉 集石 柱穴状小ピット 灰集中	37 50 7 6 69 1	縄文・統縄文土器 約104,000点 石器等 約76,000点 (フレイク95%) 琥珀・カンラン岩製玉 (完形品) 3,262点	・晩期末から 統縄文期の豊 富な副葬品を 持つ土壙墓 ・3,200点を 超える琥珀玉 が一つの土壙 から出土		
滝里4	墓 散布地	縄文時代 早期 中期 晩期 統縄文	土壙墓 土壙 Tピット 焼土 集石	2 8 6 3 1	縄文・統縄文土器 約18,000点 石器等 約14,000点 石製品 (琥珀製玉含) 約3,500点 (フレイク90%)	・統縄文期の 豊富な副葬品 を持つ大型土 壙墓		

(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第123集

滝里遺跡群Ⅷ

芦別市滝里安井遺跡・滝里4遺跡(3)

—石狩川水系滝里ダム建設事業用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成10年3月25日

編集・発行 財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒064-0926 札幌市中央区南26条西11丁目
☎011(561)3131
印刷 株式会社 北海道機関紙印刷所
〒060-0806 札幌市北区北6条西7丁目
☎011(716)6141
